

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	現代住宅作品における慣習的な要素による構成の修辞
Title(English)	A RHETORIC OF THE COMPOSITION OF CONVENTIONAL ELEMENTS IN CONTEMPORARY HOUSES
著者(和文)	能作文徳
Author(English)	Fuminori Nousaku
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第8604号, 授与年月日:2012年1月31日, 学位の種別:課程博士, 審査員:塚本 由晴
Citation(English)	Degree:Doctor of Engineering, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第8604号, Conferred date:2012/1/31, Degree Type:Course doctor, Examiner:
学位種別(和文)	博士論文
Type(English)	Doctoral Thesis

論文題目

現代住宅作品における慣習的な要素による構成の修辞

指導教員：塚本由晴 准教授

論文提出者：能作文徳

まえがき

建築を学び始めた2001年は、せんだいメディアテークがオープンし、表参道のフラッグショップ、六本木ヒルズが建ち始めていた頃であり、建築の業界がとても華やかに見えた時期でした。しかし、この博士論文をまとめている現在（2011年）は、リーマンショック、東日本大震災の直後という、思い返せば、数年前の華やかさとは異なった深刻な状況になっていました。そうした状況に直面して、建築のあり方がどのようにして社会性を獲得しえるのかが、ますます重要になってきたように思えます。この論文は「慣習的」という地味なテーマに一見みえますが、建築の社会性や普遍性を考える上で欠かせないテーマであったと感じています。「慣習的」という言葉に託していたのは、人間が生きてきた歴史や時間を含めた建築のあり方、建築が実際の状況に対応することで生じる実践的なあり方でした。また「修辞」という概念についても、この論文を通して理解が深まったと感じています。修辞の土台には既存のコンテキストが存在しているということ、またコンテキストを異化することによって修辞が成立すること、を意識的に思考できるようになりました。そして現実の物事のなかには常に、ありきたりな部分とヴィヴィッドな感覚を与えてくれる部分の2つの側面が同時に存在しているのだと考えるようになりました。そして建築における「慣習」と「修辞」の2つの側面を構成的な視点から捉えられる範囲でまとめたのがこの論文です。ここでの成果がこれからの建築の創作や批評のヒントを与えるものとなれば幸いです。

本論文をまとめるにあたり、多くの方々の御指導、御助力、御協力を頂きました。恩師である塚本由晴先生には、研究テーマの構想から本論文の展開に至るまで多くの御助言と御指導をいただきました。またそれらは、先生の建築作品、批評、発言の多くに立脚しているものです。そして本論文の前提となった「構成の修辞」という概念は塚本先生の博士論文のテーマであり、本論文はそれを引き継ぎつつ、別の展開を求めることになりました。また塚本研究室での建築設計や研究活動、さらに実施設計、監理に携わることで得られた経験は、実体の構成を扱うこの論文を進め

る上での判断基準となるばかりか、まだ未熟な私の建築的な思考や認識に確固たる礎を与えるものでありました。先生の多大な御力添えに心から感謝致します。

さらに塚本研究室の多くの諸先輩後輩の方々にも御協力を頂きました。特に吉村英孝氏、藤村龍至氏には、本論文の2章、5章にあたる私の修士論文および卒業論文の内容について、論文の展開からそのまとめ方まで幾度となく御意見、御助力を頂きました。また学部生の頃からお互いに切磋琢磨し、研究室の建築設計や調査研究をともに行ってきた同級生である金野千恵氏には、本論文の内容について御意見を頂いたのみならず、建築に対する高いモチベーションと刺激を常に与えていただきました。さらに本論文の3章、4章の内容は、森中康彰氏、坂根みなほ氏の卒業論文の成果に多くを負うものです。両氏に深く感謝の意を表します。

最後になりましたが、これまで支えていただいた研究室の皆様、家族の皆様に、心から感謝致します。

平成24年3月 能作文徳

目次

第1章 序論	1
第1節 研究の背景、意義と目的	2
第2節 研究の資料と方法	6
第3節 従来の研究との比較	11
第4節 論文の構成及び概要	14
第2章 窓の参照関係による構成の修辞	26
第1節 本章の目的と概要	27
第2節 窓の種類と位置	29
第3節 窓の種類による差異と窓の位置による重みづけ	30
第4節 窓の参照関係による構成パターン	32
第5節 窓の参照関係による構成の修辞	34
第6節 小結	36
第3章 屋根の変形による構成の修辞	44
第1節 本章の目的と概要	45
第2節 資料作品の年代的傾向	47
第3節 屋根における軒、棟、頂点、勾配の関係	48
第4節 屋根の定形と変形	49
第5節 屋根の変形による構成の修辞	52
第6節 小結	54
第4章 寝室の開放による構成の修辞	60
第1節 本章の目的と概要	61
第2節 開放型寝室の形式と性格	63
第3節 寝室の開放による構成パターン	65
第4節 寝室の開放による構成の修辞	67
第5節 小結	69
第5章 収納の集約による構成の修辞	76
第1節 本章の目的と概要	77
第2節 集約された収納の空間的特徴	78
第3節 収納の集約による構成パターン	80
第4節 収納の集約による構成の修辞	82
第5節 小結	84
第6章 結論	91
付録関連論文目録	96
付章 複数の慣習的な要素の組み合わせに関する考察	97
資料編	

第1章 序論

第1節 研究の背景、意義と目的

第2節 研究の資料と方法

第3節 従来の研究との比較

第4節 論文の構成及び概要

第1節 研究の背景、意義と目的

建築の慣習

私たちは自然に対する抵抗を通して、自らの生活する場を獲得し、その緊張関係のなかで建築をかたちづくってきた。そのような建築が社会に定着し、共有されることによって建築の「慣習」が培われてきた。建築の「慣習」は、気候風土や文化などのある条件のなかで、人間が社会生活を営むことで生み出された知性であり、人間の生活を豊かにするものであった。つまり、「慣習」は、決して気ままなものではなく、さまざまな要因が均衡した状態なのである。しかし同時に、建築の「慣習」は各時代、各社会の建築観や生活観が固定化され、惰性化した場合、「因襲」となるのである。現代において、建築を創作する際には、このような「慣習」は建築家の「自由」を阻むものであると捉えられがちであった。たしかに惰性化した「慣習」＝「因襲」を打破しようとする建築家の意志は、建築創作の大きなエネルギーとなり、各時代によってさまざまな展開を遂げてきた。しかし「慣習」への抵抗だけが目的化した場合、建築は「慣習」のもっていた知性を失い、現実と遊離した不合理な存在となってしまう。個人の表現の自由は民主主義の大きな成果であったが、その自由を追求するあまり、建築がもっている社会性と接続できないまま、建築が構築してきた共通世界を少しずつ破壊してきたのではないだろうか。このような批評を乗り越えるためには、建築の創作を、「慣習」という共通の基盤に位置づけることによって、現代という私たちの生きる時代を、これまで綿々と連なってきた人間の歴史や文化へ接続することが重要であると考えられる。

慣習的な要素の共有可能性

現代のグローバリゼーションによって場所の均質化やコンテキストの不在といった状況が指摘されている。移動や交換、コミュニケーションが容易になったことや、資本の分配や再分配が国際規模でなされており、それによって場所の固有性が失われたと考えられている^{注1)}。こうした状況に対して、建築には共通の基盤や規範が求

められている。このような問題意識から、人間が生活する上で形成してきた習慣について、A・ネグリ、M・ハートは、『マルチチュード』のなかで、習慣の創造的役割と題して、以下のように述べている^{注2)}。

習慣とは実践状態にある<共>、すなわち私たちが連続的に生み出すと同時に私たちの行動の基盤なる<共>である。したがって習慣は、固定した自然法則と自由な主体的行動の中間に位置するものだ。～習慣は創造にとっての障害であるどころか、その反対に、あらゆる創造がなされる共通の基盤にほかならないのだ。

本論文が着目している慣習的な要素は、気候風土や生活習慣などと結びつきながら成立してきたものであり、建築を建てるときの共通の基盤となりうる。建築家は個人の思いつきや発見だけを拠り所にして建築を創作しては、その建築は歴史や時間に耐えうるような力強さを持ってない。建築家は文化的、社会的特徴を反映した慣習的な要素を用いることによって、個人という限定された主体だけでなく、より大きな集团的、文化的主体にアプローチすることができると考えられる。

慣習的な要素の構成の修辞

慣習的な要素は、一般的でありきたりであるために、見過ごされてしまうものであるが、その構成によっては、慣習的な要素の独自性が発揮され、新しい意味が産み出される可能性をもっているといえる。例えば、R・ヴェンチャーリは『建築の多様性と対立性』のなかで以下のように述べている^{注3)}。

建築家は慣習を用い、それに生氣をもたらすべきだと思う。慣習を、慣習とは異なる具合に用いるのだ。ここで私のいう慣習とは建物の部品と建物の構成法の双方に関わるものである。

ゲシュタルト心理学によれば、文脈が部分に意味を与え、文脈上の変化が意味上の変化の因をなすという。それに従えば、建築家は部分を組織することにより、意味を発生する母体としての文脈を作り出すのだ。慣習的な部分を慣習にはずれて組み合わせることによって、新しい意味を産み出すことも可能である。

また、多木浩二は『生きられた家』で以下のように述べている^{注4)}。

生きられる家は一面では世俗の世界に属している。現実を超えようとする自由な意志を示すのではなくて、現実そのものを構成している。それは大体において紋切型である。

建築家の作品と生きられた家のちがいは、現代建築がヴァナキュラー（土着的）なものに特別な関心をよせるときにかえっていつそうはつきりする。ヴァナキュラリズムは、たしかに建築に具体的な輝きを求め、「偉大な作品」から離脱しようとする傾向のあらわれである。それは生きられた家の時間と空間に、従来の建築を非聖化し、生き生きさせるためのヴォキャブラリーを求める。あるいは生きられた家になりたつ文脈と家との関係に、修辭的範型を探すこともある。しかしそのときでも（いやそのときこそ）「建築」は充分普遍化された概念がなければ成り立たない。～だからヴァナキュラリズムを標榜しても、建築家の作品は生きられた家のなまなましさのかなたに、生きられた家々が気づかないでいる「建築性」という概念-自己自身に言及する概念をそこからひきだして成り立つのである。

慣習は放置されてしまえば、紋切型となってしまう、それがもっていた知性やそこに埋め込まれていた豊かさを発揮することがない。建築家に求められているのは、「建築」という抽象的な概念（本論文では構成的な概念）を通して、慣習的な要素がもつ知性や豊かさを活性化し、新たな意味を生み出すことであると考えられる。例えば、坂本一成は『建築に内在する言葉』で、以下のように述べている^{注5)}。

さまざまな時代や状況、そして地域を超えて建築に関わる形態や思考の最大公約数的に存在する<建築の概念>、あるいはそのことによって構成される、個人を超えて、しかもそのことを知ればどの人間にも存在するであろう建築の客観的形式、そのような建築の固有性の定着と、そこからの違犯、侵略、冒険といった図式の内に、もうひとつの象徴作用をもたらす枠組みが形成されていると思われるのではない。（建築での象徴作用とその図式-両義的なことの内に）

たとえば建築の部位の扱いや、建築の統辭的な構成法において変形が生じることで、既存の構成との対立関係が形成され、その構成によって枠づけられていた制度による意味に違反することとなり、そこに付帯していた意味を中性化し、宙吊りにします。つまりこの違反はそれまでの意味内容を完全に消去し無化するのではなく、そのものの意味を残しながらずらすことによって、固定化して日常に埋没していた詩的レベルを覚醒させ、生き生きしたもうひとつの日常を復活させると考えます。（自由で解放的な、そしてニュートラルな建築の空間）

このように建築がもっている固有な形式に対して、それをずらしたり、変形させたりすることによって、つまり異化することによって、そのものがもっている既成の意味ではない新たな意味が獲得される^{注6)、注7)}。そのような意味を発生させる構成的な表現を本論文では構成の修辭^{注8)}と呼ぶことにする。具体的には、何らかの単

位を前提にした建築実体の構成による表現を指し、実体を構成する単位を性格の異なるものの選択可能性（範列関係）とそれらの結合関係（統辞関係）としてみたときの建築の構成的な表現をいう^{注9)}。

たとえば、これらの慣習的な要素に対して近代主義建築の卓越した事例であるミース・ファン・デル・ローエのファンズワース邸には勾配屋根や壁に穿たれた窓がなく、そのかわりにフラットルーフやガラスのカーテンウォールが用いられており、慣習的な要素を廃棄してしまうことに表現的な傾向をもっていた。また、近年のコンピュータグラフィックの情報技術の発展によって、床、壁、天井という分節がなく、3次元の曲面が連続して建築を形成する建築作品がみられる。これらは、人々がこれまでつくってきた構法や生活から導かれた民家や伝統的な建築のような自然発生的な建築言語とは異なり、形式的な発想によって導かれた人工的な建築言語に基づいている。しかし依然として大多数の建物は床、壁、天井、屋根、窓などの基本的な要素によって構成されている。もし日常のなかにおいて批評的な立場を取ろうとするならば、日常的に用いられる建築の言語のうちにとどまりながら、それを新たな関係性のなか位置づけることが必要であると考えられる。つまり要素を変えずに、要素が置かれている関係をずらすことによって、要素のもつ意味が更新されるのである。

このように、近代主義建築や近年のコンピュータグラフィックを用いた建築は、慣習的な要素を否定することを原動力にオリジナリティを見出していたと考えられる。これに対し、本論文で取り上げた慣習的な要素は、オリジナリティを獲得するという文脈では否定的に扱われてきたのに対し、慣習的な要素に定着している部分と全体の関係を組み替えによる新たな緊張関係をもたらす建築表現の可能性があると考えられる。

本論文は、以上で述べた背景や意義のもと、現代住宅作品について慣習的な要素を構成的な側面から論じるものであり、慣習的な要素を固定した関係からずらし、新たな関係に置くことによって、要素のもつ意味を更新するという構成の修辞を明らかにすることを目的とする。

第2節 研究の資料と方法

慣習的な要素 用語の意味

「慣習的な要素」とは、反復して用いられることによって建築において形式化した建築の要素であり、近代以降の建築だけでなく伝統的な建築や民家にもみられ、建築にとって一般的に使われているありきたりな要素である。実際に生活する空間として実践しようとするなら、これらの要素を考慮しなければ建物の持続性が損なわれてしまうような不可避な建築の要素であるため、広く共有されているものである。

この「慣習的な要素」という言葉は、R・ヴェンチュリー著『建築の多様性と対立性』のなかで用いられており、原文では Conventional Element とある。これを本論文で用いることにする^{注3)}。

「慣習的」に類した言葉には、B・ルドフスキー著『建築家なしの建築』のなかで、「風土的、無名の、自然発生的、土着的、田園的」とあり^{注10)}、また C・アレグザンダー著『パターン・ランゲージ』や『時を超えた建設の道』のなかで、環境形成のなかであらわれる各々の具体的な実体の良好な状態を「無名の質」と名付けている^{注11)、注12)}。これらは主に、建築家以外によってつくられた民家や伝統的建築のもつ空間の豊かさを表現した言葉であるといえる。ルイス・カーンは『ルイス・カーン建築論集』のなかで、「インスティチューション」^{注13)}という言葉によって人間の共同性のあり方や共通感覚^{注14)}に基づいた建築のあり方を論じている。古典主義建築の規範や慣習について論じた、A・ツォニス、R・ルフェーブル著『古典主義建築 - オーダーの詩学』のなかで、古典主義建築の規範の体系を「配列、種、均衡」にあるとしており、特に要素の場合、オーダー（著書のなかでは「種」）は古典主義建築の規範を示している^{注15)}。

また、「慣習的」の訳語として「conventional」という語を使用している。「conventional」の類語を調べると^{注16)}、「custom」「habit」「ordinary」「usual」

「common」があり、「custom」は主に人々の社会的な習慣的な行為をさし、「habit」はより個人的な習慣や癖のことをさす。「ordinary」は日常という意味であるが、これは特別でないという意味をさし、「usual」は普通の平凡なという意味をさす。「common」は共有の、共通の、共同の、一般的などという意味で用いられる。これらに対し「conventional」という語は、慣習的という意味合いのなかに、型にはまった、紋切型の、という意味が含まれている。本論文で問題にしている建築の慣習とは、類型化された形式をさしているため、「conventional」の語を用いている。

以上より、慣習的「conventional」は、既存の枠組みによって固定化し、類型化した、という意味を含んだ言葉である。

研究の資料

建築における要素を大別すると、内外の境界に位置する「外部の要素」と、内部空間に位置する「内部の要素」がある。建物の全体を示す外部の要素として建物の覆いである「屋根」と建物の壁面に穿たれた開口である「窓」を取り上げる。たとえば、絵本のなかの「家」や、記憶のなかの「家」、子供が描く「家」にあらわれる「家」のイメージは躯体を示す四角形の上に屋根を示す三角形がのった図形のなかに、窓を示す四角形が内包されたかたちであり、家の外観を単純化、抽象化してもなお、屋根や窓の要素が残っている^{注17)}。

また、建物の全体を示す内部の要素として、寝ることに関わる「寝室」、生活のための物を置いたり、納めたりする「収納」を取り上げる。たとえばnLDK型の住宅やマンションの住戸は、LDKと寝室の数によってその特徴が示されおり、寝室の位置づけに住宅の内部空間の全体が投影されているといえる。また生活のしかたや使い方は、様々な日用品や趣味の物にあらわれており、蓄積された物をしまっておく押し入れやタンスなどの収納の構成に物の配列による全体が反映されているといえる^{注18)}。

研究の方法

本論文は、現代住宅作品を対象に多数の資料を収集し、それぞれの慣習的な要素を構成的な側面から分析することで共通する特徴から構成パターンを抽出し、それらを比較することから構成の修辞を導くという方法をとっている。

類型学（類型論）は、ある範囲のなかで多数の資料を抽出し、個々を比較することで得られた共通の特徴を「型」として抽出することによって、事物の本質に迫ろうとするものである^{注19), 注20)}。特に建築を「型」として捉える際には、用途や使用の水準を根拠にした分類、伝統的建築などにみられる地域や時代を根拠にした分類が行われる。これらに対し、空間構成論は建築に内在する分節構造から建築を捉えるものである^{注21), 注22)}。これまでの空間構成論は、床、壁、天井が組み合わさった室、柱や梁といった架構、外形ボリュームを単位として設定し、それらの位相関係から捉えるものであり、これらの空間単位による建築の部分と、それが集合した建築全体との関係を軸にすることによって、全体を統合する秩序が構成の問題として先鋭化された。そのことによって使用・用途中心の建築空間の考え方を相対化し、空間構成から建築空間を捉える基本的な考え方を示したといえる^{注23)}。

これに対し本論文は、建物の部分に着目するものである。これは建築の慣習というものが、建築の要素に色濃く反映されていると考えられるためである。建物(全体)と要素(部分)の関係には、部分を加算して全体になり、全体を分割して部分になるという隣接関係による全体性と、概念や意味に関わり、「雪」と「白」というような意味の大小による包含関係による全体性がある。本論文は後者の全体性を扱っており、建物(全体)の集合に含まれる要素(部分)による概念の包含関係から論じることで、建物の全体を堤喻的に描き出すものである^{注24)}。

また本論文で指し示している慣習には、窓や屋根といった要素自体、およびその要素どうしの関係や部分と全体との関係といった2つの水準(要素/関係)が含まれている。慣習的な要素を新たな関係に置くことによって、要素の意味を更新することを示すことに本論文の特徴がある。

本論文は、慣習的な要素を分析するにあたり、部分どうしの関係に着目している。

第2章は、窓を題材にしている。窓には、壁に穿たれた開口、ガラスのカーテンウォールや柱間に設けられた開口、建具などが含まれるが、本論文では、構造に制限されないかぎり自由に配置できる壁に穿たれた窓を分析の対象としており、採光、通風、眺望などの個別の窓の特徴ではなく、その反復する特徴から窓どうしの関係に着目している。

第3章は、屋根を題材にしている。屋根には、主に木造などの軸組造をもとにした片流、切妻、寄棟、方形の形式、組石造をもとに発達したドームやヴォールト、シェルなどの不定形なものがあるが、本論文では、それらの屋根のなかでも木造の基本的な屋根形式である片流、切妻、寄棟、方形の変形を分析の対象としており、軒の出や勾配などの定量的な特徴ではなく、軒、棟、頂点などの部材どうしの関係に着目している。

第4章は、寝室を題材にしている。寝室には、プライバシーが求められるため間仕切などによって個室として閉じられるのが一般的であるが、空間の連続性を確保するために、開放された寝室を設けるものがある。本論文では、この開放された寝室を分析の対象としており、寝室部分と共有部分との関係に着目している。

第5章は、収納を題材にしている。収納には、タンスや戸棚などの置き家具や、押し入れなどの部屋に造り付けられるものなどがあり、収納はそれぞれの部屋に対応して設けられるのが一般的であるが、集約した造り付け収納によって物の場所と人の居場所という2つの領域に整理するものがある。本論文では、この集約された造り付け収納を分析の対象としており、そこで生じた物の領域と人の領域との関係に着目している。

以上のように本論文の方法は、それぞれの慣習的な要素の部分どうしの関係に着目して構成の修辞を導くというものである。

第3節 従来の研究との比較

本研究は、現代住宅作品における慣習的な要素、つまり窓や屋根、寝室、収納の構成を検討することで、その構成的修辭を明らかにするものである。それぞれの慣習的な要素や空間構成を題材とした研究はこれまで多くなされており、これらを整理し、本論文との関係を述べる。

現代建築作品の空間構成や構成の修辭を題材とする研究

これまでの空間構成論が問題としてきた建築の空間的な単位は床、壁、天井といったものやそれらが組み合わさった室や、柱や梁といった架構である。これらは建築を構成する原初的な空間単位をもとに分析したものである。またこれらの構成論における部分と全体の関係をみてみると、部分が加算されると全体になるといった隣接関係のなかで、部分どうしの位相関係が問題にされてきた^{注22)}。これに対し、本研究は慣習的な要素を対象に、堤喩としての部分と全体の関係をもとに構成の修辭を論じるものである。

窓の構成に関する研究（第2章に対応）

本研究と同様に、窓や開口を性能の問題としてではなく、構成の問題として捉えた研究には、伝統的農家住宅の開口の配置と寸法を気候と方位から分析したものがあげられるが^{注25)}、地域や時代を根拠に論じられたものである。特定の建築家による作品を立面の構成から分析したもの^{注26)}、本研究のようにさまざまな設計者による住宅作品を扱った既往の研究には、近代住宅作品を対象にある視点から水平視線を遮るものまでの距離から空間を記述・評価するもの^{注27)}、住宅作品の内部および外部の領域性を開口部周辺の要素から分析したものがあげられる^{注28)}。これらは窓や開口部を他の要素との関係から論じたものである。これらに対し、本論文2章はさまざまな設計者による現代の住宅作品を対象とし、窓の参照関係を検討することから集合としての窓による構成の修辭を捉えるものである。

屋根の構成に関する研究（第3章に対応）

建築意匠の分野における屋根に関する研究には、日本の伝統的民家を対象にその架構形式を分析し、架構配置をもとに類型化することから、架構法を系統的に位置づけるもの^{注29)}、地域的な分布を明らかにするものがある^{注30)}。また、民家再生における居間を中心とした主空間を対象にその架構の見えがかりを分析することから、民家再生の意匠的特徴を明らかにするものがある^{注31)}。さらに伝統的民家を対象に屋根の方向や妻入り平入りといった形態的特徴と積雪の関係を分析することから、気候風土に対する住宅の形態的な合理性を明らかにするものがある^{注32)}。これらの研究は伝統的な建築を資料対象にしており地域や時代を根拠に論じられたものである。また住宅作品に加え、商品化住宅も含めた資料を用いて、住宅の外形におけるイメージをアンケート調査から、明らかにするものがある^{注33)}、^{注34)}、^{注35)}が、これらの研究は建物の形態がどのように社会的に認識されているかを問題にしており、屋根形態の構成の問題を扱ったものではない。これらに対し、本論文3章は屋根を部分どうしの関係として捉え、屋根の変形による構成の修辞を示すものである。

寝室の構成および空間の連続性に関する研究（第4章に対応）

寝室を題材とした既往研究の多くは、集合住宅を対象とし、アンケートによる住まい方の調査によって、平面計画や居室の設えおよび家族構成や年齢との関係を明らかにするものが多く見られた。ライフステージによる寝室の使われ方の変化を、住戸の平面と就寝分解、分離の時期から論じるもの^{注36)}、寝室の位置関係から論じるもの^{注37)}があげられるが、住宅作品を対象にしたものではない。住宅作品を対象に空間の連続性や開放性を論じる研究には、都市型住宅作品を視線や動線に関する連続性から分析し、内外の構成的な関係を論じるもの^{注38)}、南カリフォルニアの近代住宅作品を内部空間どうしの連続性および外部空間への連続性から分析し、開放方向に基づいた空間構成を論じるもの^{注39)}、近代住宅作品を外形と動線、空間構成から分析し、平面計画の変遷について論じるもの^{注40)}、ケース・スタディ・ハウスを対象に、住宅の内外の関係を建築家の言説と住宅作品の空間構成を眺望や床、壁、

屋根の部位から分析し、空間の広がりについて論じるもの^{注41)}、ワンルーム型の住宅作品を床や間仕切りといった部位による分節から分析し、領域構成を明らかにするもの^{注42)}があげられるが、住宅作品において寝室が意匠的な研究の題材として取り上げられることがなかった。これらに対し、本論文4章は開放型寝室をもつ現代日本の住宅作品を対象に共有部分と寝室部分との空間の連続性による構成の修辞を明らかにするものである。

収納の構成および空間の領域に関する研究（第5章に対応）

これまで現代建築作品を対象に、空間の領域や分節を扱った意匠的研究には、建物や要素の配置、外形、外部ヴォイドなどから、その領域的な性格による構成形式を論じる研究^{注43)}があげられる。また住宅作品を対象に、家具や内部空間の構成要素を扱った意匠的研究には、主室の形状と開口や家具などの要素の配列からその構成的特徴を論じるもの^{注44)}、家具の色や素材とそれらの配列から空間的特徴を論じるもの^{注45)}、建築の壁面などに造り付けられた家具の配置から、家具と構造材の複合による構成的特徴を論じるもの^{注46)}があげられるが、これらの研究は収納に着目するものではなかった。収納などの家具や生活に伴う物品を題材にした既往研究には、統計調査をもとに家具の占有面積を、家具の種類、住宅規模、居住地域、経済的条件、家族構成との関係、公営住宅を対象に家具の占有状況を壁面と開口の分布、各部屋の機能から論じるもの^{注47)}があげられる。また分譲住宅の居住者を対象に生活用品の保有実態、居住者の生活観、家族構成の関係を論じるもの^{注48)}があげられる。さらにアンケート調査から住宅室内の置かれた家具の視覚的效果について論じるもの^{注49)}があげられるが、建築作品を対象にした領域の構成を問題にした研究ではない。これらに対し、本論文5章は現代住宅作品を対象に、物の領域と人の領域による空間的特徴を構成の修辞として明らかにするものである。

以上より、本研究の題材、方法、目的は、既往の研究にはない独自性を有するものであるといえる。

第4節 論文の構成及び概要

本論文は「現代住宅作品における慣習的な要素による構成の修辞」と題し、以下の6章から構成されている。

第1章「序論」では、研究の背景と目的、研究の資料と方法、従来の研究との関係、及び論文の構成と概要について述べている。本章では、建築の慣習的な要素を、外部の要素、内部の要素の2つから捉え、外部の要素として窓や屋根、内部の要素として寝室や収納を取り上げることを述べる。これらの要素は、建築にとってありきたりであるため、他の建築と特徴を共有するという意味で、建築する際の共通の基盤となることを述べ、慣習的な要素を固定した関係からずらし新たな関係に置くことで、要素の意味が更新されることから、その構成の修辞を明らかにするという目的を述べている。また本論文に関連する既往研究や建築論に関する文献を比較、整理することから、本論文の独自性について述べている。

第2章「窓の参照関係による構成の修辞」では、採光、通風、眺望を得るという役割をもち、部屋に対応して開けられるという個別の窓の特徴に対し、ひとつの建物の中に複数存在するという集合としての窓の特徴に着目する。まず反復の中で生じる窓どうしの違いを窓の種類と窓の位置から検討し、次にそれらの組み合わせから、窓どうしの参照関係による構成パターンを抽出、比較する。その結果、窓どうしの参照関係で生じた同一と差異に基づく構成の修辞を明らかにしている。

第3章「屋根の変形による構成の修辞」では、片流、切妻、寄棟、方形といった基本的な形式の中で、定められた形をもつ屋根の特徴に対し、軒、棟、頂点および勾配の部分どうしが敷地形状や使用用途などによる不規則な部分の歪みを統合する屋根の変形に着目する。まず定形から逸脱する特徴をもつものを屋根形の変形として位置づけ、次に、軒、棟、頂点、勾配についての各項目の組み合わせから屋根形の変形による構成パターンを抽出、比較する。その結果、定形の特徴が維持される固定された部分と定形から逸脱する解放された部分との対比に基づく構成の修辞を明らかにしている。

第4章「寝室の開放による構成の修辞」では、個室として閉じられるという一般的な寝室の特徴に対し、空間の連続性とプライバシーの両方を確保するという矛盾を含む寝室の開放に着目する。まず開放型寝室の分節の形式、視線による性格、動線による性格、開放型寝室と建築部位との関係を検討し、次にそれらの組み合わせから寝室の開放による構成パターンを抽出、比較する。その結果、共有部分と寝室部分における空間的な対比に基づく構成の修辞を明らかにしている。

第5章「収納の集約による構成の修辞」では、物を納める役割をもつ収納の特徴に対し、物と人の領域を分節し関係づける収納の集約に着目する。まず収納の種類および位置を検討し、次にそれらの組み合わせから収納の集約による構成パターンを抽出、比較する。その結果、収納と外壁、間仕切との融合、および物の領域と人の領域に基づく構成の修辞を明らかにしている。

第6章「結論」では、第2章から第5章までで得られた結果をまとめ、慣習的な要素を新しい関係性に置くことによって、固定した意味を相対化し、要素の意味を更新する構成の修辞を総括している。

第1章

序論

- 第1節 研究の背景、意義と目的
- 第2節 研究の資料と方法
- 第3節 従来の研究との比較
- 第4節 論文の構成及び概要

外部の要素

内部の要素

第2章

窓の参照関係による構成の修辞

- 第1節 本章の目的と概要
- 第2節 窓の種類と位置
- 第3節 窓の種類による差異と窓の位置による重みづけ
- 第4節 窓の参照関係による構成パターン
- 第5節 窓の参照関係による構成の修辞
- 第6節 小結

第3章

屋根の変形による構成の修辞

- 第1節 本章の目的と概要
- 第2節 資料作品の年代的傾向
- 第3節 屋根における軒、棟、頂点、勾配の関係
- 第4節 屋根の定形と変形
- 第5節 屋根の変形による構成の修辞
- 第6節 小結

第4章

寝室の開放による構成の修辞

- 第1節 本章の目的と概要
- 第2節 開放型寝室の形式と性格
- 第3節 寝室の開放による構成パターン
- 第4節 寝室の開放による構成の修辞
- 第5節 小結

第5章

収納の集約による構成の修辞

- 第1節 本章の目的と概要
- 第2節 集約された収納の空間的特徴
- 第3節 収納の集約による構成パターン
- 第4節 収納の集約による構成の修辞
- 第5節 小結

第6章

結論

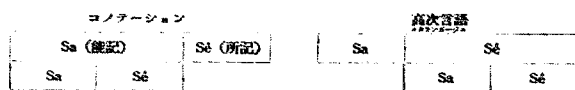
第1章 注

- 1) D・ハーヴェイ：ネオリベラリズムとは何か，青土社，2007.3 初版英語 2005
- 2) A・ネグリ，M・ハート：マルチチュード，NHK ブックス，2005.10. 初版英語 2004
- 3) R・ウ・エンチャーリ：建築の多様性と対立性，鹿島出版会，1982.11. 初版英語 1966
- 4) 多木浩二：生きられた家，青土社，2000.3
- 5) 坂本一成：建築に内在する言葉，TOTO 出版，2011.1
- 6) 広辞苑によれば異化とは「ロシア・フォルマリズムの芸術説の一。日常見慣れた表現形式に或る「よそよそしさ」を与えることによって異様なものに見せ、内容を一層よく感得させようとするもの。シクロフスキーが提唱。」異化効果とは「演劇で、見慣れた事物をも、初めて見たように異様に感じさせる効果。またその手法。プレヒトの用語。」
M・オクチュリエ：ロシア・フォルマリズム，白水社，1996.2 初版仏語 1994
「生活の感覚を取りもどし、事物を感じるためにこそ、また石を石らしくするためにこそ、芸術と呼ばれるものが存在するのである。芸術とはみることとして事物を感じさせることであって、同一化としてではない。芸術の手法とは、<異化>という手法であり、形式を難解にして知覚のむずかしさと持続時間を増大させる手法である。」「異化という手法は、トルストイにあっては、事物ならその名前では呼ばずに、あたかもはじめてそれをみるかのように描写し、出来事ならそれははじめて起こっているかのように描写することであり、そのうえ事物の描写においては、事物のさまざまな部分についてふつうの名称を用いずに、他の物体の対応する部分のように呼ぶことである。」
- 7) M・ハイデッガー：芸術作品の根源，平凡社，2002 初版独語 1960
「石は有用性のうちに消滅する。素材はそれが道具存在のなかに埋没して抵抗がなくなればなくなるほど、それだけ優れているのであり適材となる。それに対して、神殿-作品は、一つの世界を開けて立てることによって、素材を消滅させず、第一に、しかも作品の世界という開けたところのなかで、素材を現れてくるようにさせる。」
- 8) 広辞苑によれば、修辞とは「1. ことばを有効に用い、もしくは修飾的な語句を巧みに用いて、表現すること。またはその技術。2. ことばを飾り立てること。またはことばの上だけでいうこと。」とあり、本論文での構成的修辞とは何らかの単位を前提にした建築実体の構成による表現をさし、実体を構成する単位を性格の異なるものの選択可能性（範列関係）とそれらの結合関係（統辞関係）としてみたときの建築の構成的な表現をさす。
- 9) R・バルト：零度のエクリチュール 付・記号学の原理，みすず書房，1971.7 初版 1963
「言語学における統合関係と連合関係 第一の面は統合 (syntagme) の面である。統合とは記号の結合であって、これを支えとして広がりをもっている。第二の面は連合 (association) の面である。話（統合の面）の外で何らかの共通のものを持った単位が記憶の中で連合し合い、さまざまな関係で内部が支配されるグループを作っている。」「ソスユールは次のようなたとえで述べている。ひとつひとつの言語単位は古代建築の柱のようなものだ。柱は建築物の他の部分、たとえば

台輪（アーキトレーブ）などと実際にその場で隣り合っている関係にある（統合関係）。しかし、この柱がドリア様式のものであれだとすれば、それはわれわれの頭の中に、他の建築様式、イオニア式やコリント式との比較を呼び起こす。これが潜在的な置換関係（連合関係）である。

	体系 (システム)	統合 (シンタグム)
衣 装	同時に体の同一部分には着用できない衣料品。衣料部品、ディテールのグループで、その中のどれかを着ると衣装上の意味が変わるもの。たとえばトータ/ボンネット/フード等。	ある同一の服装の中での異なった要素の配列。スカーフ・ブライラス・ジャケット等。
料 理	親近性と相違性を持った食品のグループで、その中でのある料理の選び方が意味の変化を作なうもの。アントレ、コティ（焼物）、デザート等の内部のバリエーション。	実際の食事の中に選ばれてくる選ばれた料理の選取。これがメニューである。
家 具	あるひとつの家具（たとえばベッド）の「スタイル」のバリエーションから成るグループ。	同一空間における異なった家具の配列（ベッド・戸棚・テーブル等）。
建 築	ある建築物の一要素内のスタイルのバリエーション。屋根、バルコニー、入口等の色々な型。	建物全体のレベルでの部分の選取。

統合関係と連合関係（体系）



コノテーションと高次言語



コノテーションと修辞

- 10) B・ルドフスキー：建築家なしの建築，鹿島出版会，1984.1. 初版英語 1964
- 11) C・アレグザンダー：パタンランゲージ，鹿島出版会，1984.12 初版英語 1977

窓に関するものには「134 禅窓、140 街路をみおろすテラス、159 どの部屋も2面採光、164 街路にむかう窓、165 街路への開口、180 窓のある場所、192 生活を見おろす窓、221 自然なドアと窓、222 低い窓台、223 深い窓枠、231 屋根窓、236 いっぱいに開く窓、238 柔らげた光、239 小割りの窓ガラス」

屋根に関するものには「116 カスケード状の屋根、117 守りの屋根、209 屋根の割り付け、220 屋根ヴォールト、232 屋根飾り、244 キャンパス屋根」

寝室に関するものには「136 夫婦の領土、137 子供の領域、138 東まくら、143 ベッドクラスタ、187 ふたりのベッド、188 ベッドアルコーブ」

収納に関するものには「145 大物倉庫、198 部屋さかしのクローゼット、200 浅い棚、201 腰高の棚」

- 12) C・アレグザンダー：時を超えた建設の道，鹿島出版会，1993.10 初版英語 1979
- 13) L・カーン：ルイス・カーン建築論集，鹿島出版会，1992.10

「ひとりの人間としてのあなたの感情の本質から取り出されたものが、また他の個々の人たちから取り出されたものが共同性の感覚へと至るのです。共同性の感覚は人の心の素晴らしい案内者です。」

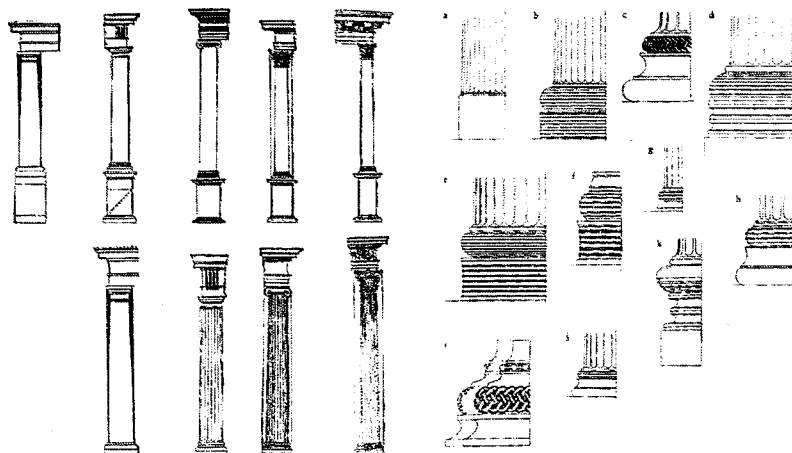
- 14) 中村雄二郎：共通感覚論，岩波書店，1979.5

「共通感覚つまりセンス・コムニス、それ自身も一種の感覚でありながら、同時に個別感覚つまり五感のひとつを超えている。個別諸感覚を相互に関係づけ、秩序づけ、高次の統合へと向かう働きを持っている。～個別諸感覚とそれらにもとづくあれこれの情動やイメージは、ただ放っておいてもおのずとまとまりをもち秩序立ってくるものではない。それどころかささまざまな慣習や惰性或見えぬ制度に囚われてひどく偏ったかたちでまとめられて固定化したり、また秩序立てられることに逆らって、ばらばらに活動したりしがちである。けれどもそれらをうまく導きさえすれば、二つの方向あるいは二つの仕方でも高次のまとまりを持つようになるだろう。一つは、私たち一人ひとりの基本的な諸感覚、いわゆる五感のそれぞれが十分に発揮されて全体化し、諸感覚がその全体化のなかで相互に結びつき、秩序立てられていく方向、つまり直接共通感覚の働きによるものである。もう一つは、私たち人間が個人としてまた類として、そのような方向で次第に確立するようになった内的・精神的秩序を規範とし範型として、諸感覚を秩序づけていく仕方である。この内的・精神的秩序が規範や範型として客体化され、とり出されたもの、それが、あるいは「型」といわれ、あるいは「様式」と呼ばれるものに他ならない。もちろんどんな場合でも共通感覚はまったく慣習や型のないところでは働くことはありえないから、実際には共通感覚は、慣習や型の解体・形成との絡み合いのなかで働くのである。」

- 15) A・ツォニス，R・ルフェーブル：古典主義建築－オーダーの詩学，鹿島出版会，1997.3 初版英語 1986

「我々は媒介的な規則、すなわち古典主義建築は歴史的に形成されたものであり、生得的な精神構造に最も訴えるものである。我々は古典主義建築の創造、鑑賞に不可欠ともいえるこの規範体系をこれから論じていくつもりだ。要約すれば、それは次なる構成上の構成上の手続きを経ている。(1) 配列－建築作品を部分に分割すること。(2) 種－部分を構成する個別要素。(3) 均衡－個別要素間の関係性。」

と述べられており、古典主義建築の規範が示されている。



柱要素の展開

「古典主義建築という新たな組織、新たな全体構成によって日常世界のなかに詩的世界が生まれてくる。悲劇におけるこの過程をアリストテレスは「浄化」と呼んだ。両者の併存によって日常性の純化という効果が発生する。今日の世界では、それが純然たる批評性となるのだ。～建物すなわち「神殿境内」は、悲劇と同じように「浄化」をもたらすものとなる。つまり、既存の現実を受け入れながら、超越的認識に基づいた異化によってその現実を再編していくのだ。「神殿境内」としての建物は、現実理解の新たな枠組みを提示しながら、同時に、旧来の枠組みを「浄化」することになる。」

と建築の修辞について述べている。

- 16) conventional (慣習的) に関する類語について、英英辞典 (Longman Dictionary of Contemporary English) および英和辞典 (プログレッシブ英和辞典) を用いて調べた。以下にその内容を示す。

「conventional」

英英 : a conventional method, product, practice etc has been used for a long time and is considered the usual type

(和訳 : 方法、生産、実践などが、長い間なされてきており、普通の型と考えられている)

always following the behaviour and attitudes that most people in a society consider to be normal, right, and socially acceptable, so that you seem slightly boring

(和訳 : 社会においてほとんどの人が普通で、正常で、社会的に受け入れられると思われるふるまい、態度、そのため、わずかにつまらないと感じられる)

英和 : 型にはまった、紋切り型の、平凡な、陳腐な、常套 (じょうとう) 的な、一般に行われている、在来の、慣習の、伝統に従った、(造形美術が) 様式化された

「custom」 「customary」

英 英 : something that is done by people in a particular society because it is traditional.

(和訳 : ある特定の社会において伝統的であるために人々によってなされること)

something that you usually do every day, or in a particular situation.

(和訳 : 毎日、あるいはある特定の状況で行うこと)

英和 : 習慣、習慣的行為、(確立されている社会的) 慣習、風習、しきたり、慣行、慣例、(全体の合意が前提) 特定の社会で長い間、受け入れられてきた慣行

「habit」 「habitual」

英 英 : something that you do regularly or usually, often without thinking about it because you have done it so many times before

(和訳 : 以前に何度も行ったことがあるため、無意識に定期的に、いつも、よくやること)

英和 : 習慣、習癖、癖、性質、気質、体質、習性、慣習、習わし、しきたり。

(個人の習慣的なこと、集団共通の傾向についてもいう) 特定の人が何度も繰り返して本人はほとんど気づかないほどになっているふるまい方。

「ordinary」

英英：average, common, or usual, not different or special

(平均的な、共通の、普通の、異常でない、特別でない)

英和：普通の、通常の、並みの、平凡な

「usual」

英英：happening, done, or existing most of the time or in most situations

(和訳：ほとんどの時間、状況で起こり、行われ、存在すること)

英和：日ごろの、平素の、いつもの、習慣的な、ふつうの、平凡な、ありふれた、社会や個人の生活で日常的なこと、起こることが予期できること、(自然現象にもいう)

「common」

happening often and to many people or in many places

(和訳：多くの人々に、多くの場所で、よく起こること)

existing in large numbers

(和訳：多く存在すること)

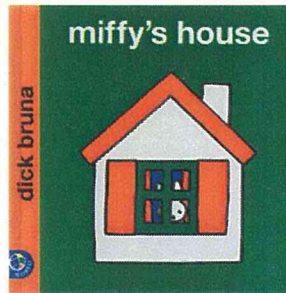
common aims, beliefs, ideas etc are shared by several people or groups

(和訳：ある集団、人々に共有された目的、信念、考え)

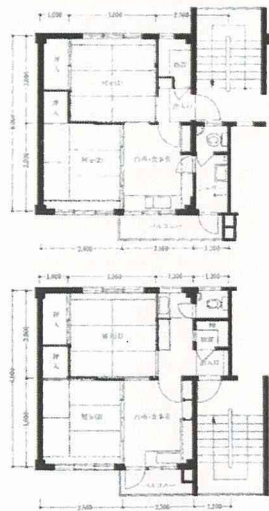
英和：よく起こる、よくある、普通に見かける、ありふれた、(表現などが) 陳腐な、言い古された共通の、共有の、共同使用の、共通の、公の、公共の、一般に知れわたった、広く行きわたった、一般的な、通常の

- 17) 金子明日美, 安田幸一, 村田涼, 内藤誠人：絵本の表紙における建物と背景からみた家の表現, 学術講演梗概集. F-2 建築歴史・意匠 2010 p699-700, 2010. 7

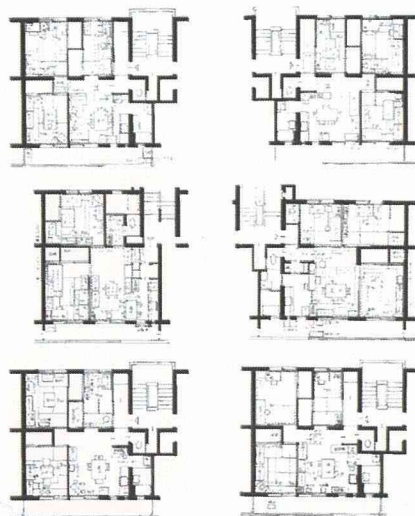
D・ブルーナ：ミッフィーのおうち, 講談社, 2004. 10. 初版オランダ語 1991



- 18) 鈴木成分：住まいの計画・住まいの文化, 彰国社, 1988. 11



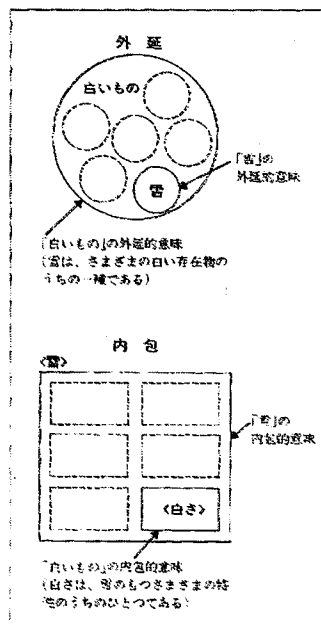
51c 型



住まい方調査

- 19) W・ミッチェル：建築の形態言語—デザイン・計算・認知について，鹿島出版会，1991.9. 初版英語 1990
- 「対象のタイプ (type) に対する事例 (instance)、もしくは記号 (token) の区別を基本にしよう。これは簡単に言うと記号は、一般的なタイプの具体的な事例として生成する (instantiation) あるいは記号とは、そのタイプの事例であるというものだ。」「同じタイプに属する記号どうしは、例えば形が等しいというように、何らかの特徴を共有する。逆に、そのような記号の一つ一つが要素となってタイプを構成しているのだといってもよい。」
- 20) A・ロッシ：都市の建築，大龍堂書店，1991.12 初版伊語 1987
- 「類型は、してみれば、必要に応じ、また美的要求に応じて、形づくられていくものなのだ。もとは一つのものでありながら、様々な社会のあり方に応じ多様な表れ方をするのであって、人間の生活の形態と形式と密接に結びついている。」「論理学用語を用いるなら、その何ものかとは、一定の定数であると言うことができる。この種の議論に前提として想定されている建築的創世物とは、ひとつの構造体であって、そのなかの構造を示現し、またそれが認識されるようなものである。もしこの何ものかが、類型の要素ないしは単純に類型そのものと呼んでもよいが、それが一個の定数であるなら、それはあらゆる建築的創世物の中から検出可能なはずである。それは更に文化の要素でもあり、そうであるがゆえに多様な建築的創世物の中にも探し求められ得るのだ。」
- 21) 坂本一成，多木浩二：JAPAN INTERIOR DESIGN 〈部屋〉その意味と構造：インテリア no236，1978.11
- 22) 塚本由晴，坂本一成：住宅建築の構成形式に関する研究 日本建築学会計画系論文集 465号，p85-93, 1994.11, 470号，p95-104, 1995.4, 480号，p113-121, 1996.2
- 23) 社団法人 日本建築学会：建築設計資料集成 総合編，丸善，2001.6
- 「空間配列とは、これまでの使用機能・用途中心の建築設計の考え方に対するオルタナティブとして、近年普及しつつある概念である。概念としては「室」や「外形ヴォリューム」といった建築の構成において単位となる空間を想定し、それらの関係から建築空間を総体的に捉える、きわめて基本的な考え方といえる。」
- 24) 佐藤信夫：レトリック感覚，講談社，1992.6
- 「ものごとの様子を表現するために「xはyのようだ」「yそっくりのxというぐあいにたとえられる形式を直喩と呼ぶ」「あるものごとの名称を、それと似ている別のものごとをあらわすために流用する表現法が隠喩—メタファー—である」「換喩とはあるひとつのxをあらわす語のかわりに、別のyをあらわす語で代用することばのあやであり、その代用法は、事実上または思考内でyとxを結びつけている近隣性、共存性、相互依存性のきずなにもとづくものである」「隠喩が類似性にもとづく比喩であったのに対して、換喩とは、ふたつのものごとの隣接性にもとづく比喩である。」「全体のかわりに部分を、また部分のかわりに全体をもちいる、複数のかわりに単数表現を、あるいは単数のかわりに複数表現をもちいたり、またある特定の明細な数のかわりに概数をもちいたりする喩」があり、これらをまとめると、比喩のレトリックのなかに、「部分をもって全体をあらわす喩 synecdoche、隣接または連合したもので対象を代理する換喩 metonymy、類似した

もので対象を代理する隠喩 metaphor」がある。また堤喩による部分と全体の関係に関しては、「人間＝霊長類の動物であり、かつ脳がもっとも発達しており、かつ直立して歩行し、かつ言語をあやつり、かつ笑い、かつ衣類を着用し、かつ、、、というぐあいに、これは概念としての人間の意味全体を、その構成部分（意味素）に分解したものである。人間という概念に含まれるべき属性の全体、すなわち内包的意味を、不正確ながら分解して列挙したものである。～人間の内包は、ある存在物を人間として認めるための基準となるような性質、資格条件を集めたのであり、その集積がπ様式（堤喩）の全体の人間にほかならない。」「全体と部分のあいだでの表現の貸し借りのうち、Π型の全体と部分（現実的な隣接関係）にかんする比喩は、いっさい換喩だということになる。しかしΣ型（それと表裏一体のπ型の）全体と部分は、現実的な隣接性ではなく、意味の大小関係、すなわち類と種の関係であるから、換喩とはまったく別のものと扱わなければならない。私はそれを本来の堤喩とみなすことにしたい。」とある。



堤喩 外延、内包の図式

- 25) 宇野勇治, 堀越哲美: 伝統的農家住宅の開口部形態・位置と立地地域における体感気候, 日本建築学会計画系論文集 第 538 号, p37-43
- 26) 柴田晃宏, 油谷千佳, 是永美樹, 八木幸二: 清家清の住宅作品における構成要素と内部機能の関係からみた立面表現, 日本建築学会計画系論文集
- 27) 平田圭子, 森保洋之: 空間領域区分別の空間形態に関する分析 - 開口部を中心とした住宅の内・外部の空間・意識領域に関する研究 (1) -, 日本建築学会計画系論文集 第 505 号, p75-82
- 28) 北川啓介, 早瀬幸彦, 近藤正一, 張健, 姜桶, 若山滋: 「視深度」による建築平面記述・評価の研究 - 壁と開口部を考慮した近代住宅の空間構成 -, 日本建築学会計画系論文集第 522 号, p187-194
- 29) 堀江亨: 「木造軸組構法の空間構成に関する方法論的研究」その 1, その 2, 日本建築学会計画系論文集, 第 501 号 (1997.11) 第 511 号 (1998.9)

- 30) 堀江亨：「日本の伝統的民家の架構法に関する系統的研究」その1～その3，日本建築学会計画系論文集，第538号（2001.12）第575号（2004.1）第604号（2006.6）
- 31) 金子晋也・西村友樹・是永美樹・堀江亨・八木幸二：「民家再生における主空間の架構の表現」第626号（2008.4）
- 32) 吉村歩「滋賀県における積雪と茅葺住宅の形態及び生活様式との関係 - 住宅における風土的要因と生活様式との関係その1-」第587号（2005.1）
- 33) 坂本一成・遠藤信行：「建築の形象での図像性に関する研究」第1報～第4報，日本建築学会計画系論文集，第351号（昭和60.5）第356号（昭和60.10）第358号（昭和60.12）第361号（昭和61.3）。
- 34) 坂本一成・青山恭之・岩岡竜夫：「<家>と<建築>の外形における平面図形（シルエット）的イメージ」，日本建築学会計画系論文集，第369号（昭和61.11）
- 35) 岩岡竜夫・坂本一成：「住宅外形におけるイメージの類的関係」，日本建築学会計画系論文集，第385号（昭和63.3）
- 36) 笠嶋泰・今井正次・松本壮一郎：「集合住宅の住戸平面と就寝分解・分離の時期：ライフステージによる住み方変化の研究1」，日本建築学会計画系論文集，第422号，pp.45-52，1991.4
- 37) 笠嶋泰・今井正次・松本壮一郎：「寝室の位置関係からみた住宅内ゾーン概念の提案：ライフステージによる住み方変化の研究2」，日本建築学会計画系論文集，第428号，pp.137-145，1991.10
- 38) 岡村航太・小川次郎・坂本一成：「外部空間の配列と接続からみた都市型住宅作品の構成 現代日本の住宅作品における内外の関係による構成形式（2）」，日本建築学会計画系論文集，第552号，pp.141-146，2002.2
- 39) 那須聖，八木幸二：「機能空間の連続による内部空間の連続性と住宅の開放性：南カリフォルニアにおけるR.M. シンドラーとR.J. ノイトラの住宅の比較を通して」，日本建築学会計画系論文集，第555号，pp.177-184，2002.5
- 40) 北川啓介・山田好美・碓井将義・西山尚希：「外形と空間構成と動線を考慮した近代住宅作品の平面特性」，日本建築学会計画系論文集，第629号，pp.1469-1476，2008.7
- 41) 山中章江・川向正人：「ケース・スタディ・ハウス・プログラムにおける「空間的広がり」場所に根差す感覚をもつ「戦後住宅」のキー・コンセプトとして」，日本建築学会計画系論文集，第604号，pp.203-210，2006.6
- 42) 坂本一成・吉川寛華ら：「部位の分節によるワンルーム型住宅の領域構成」日本建築学会大会学術講演梗概集F-2 建築歴史・意匠2005，pp.687-690，2005.7
- 43) 寺内美紀子・坂本一成ら：「領域的性格からみた建築の外部空間の構成形式に関する研究（1～5）」，日本建築学会計画系論文集 第491号，pp91-98，1997.1，第525号，pp129-135，1999.11，第543号，pp131-138，2001.5，第554号，pp159-166，2002.4，第559号，pp131-136，2002.9
- 44) 根本理恵・坂本一成：「住宅の主室における室形状と室内要素の配列による空間構成 - 現代住宅作品の構成に関する研究」，日本建築学会計画系論文集，第654号，pp1889-1895，2010.08

- 45) 坂本一成・高橋祐子ら：住宅作品における家具の配列と属性からみた主室の構成，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠 2001, pp517-518, 2001.7
- 46) 松本弘義・美濃部幸郎：現代日本の住宅作品における家具と構造材の複合的構成：現代建築における建築と家具の複合に関する研究 (2)，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠 2006, pp617-618, 2006.7
- 47) 渡辺光雄ら：住空間における家具占有面積の分析（その1～その5）：日本建築学会計画系論文報告集 第352号，pp48-58, 1985.6, 第362号，pp103-112, 1986.4, 第371号，pp104-111, 1987.1, 第383号，pp86-95, 1988.1, 第400号，pp61-73, 1989.6
- 48) 中島喜代子・一棟宏子・沖田富美子・塩谷壽翁・上林博雄：生活観的要因を考慮した場合の生活用品保有に影響を与える諸要因：住宅の収納空間研究基礎，日本建築学会計画系論文報告集，第371号，pp68-80, 1987.1
- 49) 馬場宏子・植松奈美・梁瀬度子：室内における家具の配置および量の視覚的効果に関する実験的研究，日本建築学会計画系論文報告集，第393号，pp17-24, 1988.11

第2章 窓の参照関係による構成の修辞

第1節 本章の目的と概要

第2節 窓の種類と位置

第3節 窓の種類による差異と窓の位置による重みづけ

第4節 窓の参照関係による構成パターン

第5節 窓の参照関係による構成の修辞

第6節 小結

第1節 本章の目的と概要

窓は建築の内外の境界に関わる慣習的な要素である。20世紀初頭の近代主義建築、たとえばル・コルビュジェの水平連窓、ミース・ファン・デル・ローエのガラスのカーテンウォールは、それまで工法的に制限されて縦長にならざるを得なかった窓のデザインを技術的に解放し、それによって同時に旧来の慣習的な建築空間を解体しようとするものと考えられる^{註1)}。なかでもミース・ファン・デル・ローエのファンズワース邸は空間の透明性や均質性を示した近代主義建築のひとつの到達点と言われている。しかしファンズワース邸以降も壁に穿った窓という慣習的な要素をむしろ積極的に用いた表現が登場している。本章ではこうした窓のあり方を見直すような作品の修辞を問題にしていく^{註2)}。窓は、採光や通風といった生活にとって不可欠なものであるため、ひとつの建築のなかで反復して用いられる、窓は構造や工法に制限されないかぎり壁面に対して自由に配置できる。そのため採光、通風といった機能的な要求や、室の大きさ、周辺状況に対応することにより窓の大きさや位置が異なってくる。こうした現実的な条件からひとつの建築において窓の反復のなかに差異が生じてくるのだが、窓どうしの差異をコントロールすることによって、たとえばひとつの窓を大きくすることで他の窓より強調するもの、同じ窓を反復するもの、それぞれの窓の幅に違いをつくるといった意匠表現が可能である。

ひとつの建築のなかで窓が反復されるといったことは窓という要素がもつ特徴的な性格である。たとえば建物の中に反復される要素としては柱や梁といった構造材が考えられる。これらは必ずしも一望できるわけではないが、構造のしくみを理解することから建物を捉えることによって空間全体を認識することが可能である。窓も同様に建物の中で反復されており、それらを部分と全体の関係として捉えられる。そこでひとつの建物の中に存在する複数の窓を抽出することで、集合としての窓のあり方が表われ、窓どうしを照らし合わせることで（以下窓どうしの参照）相対的な違いを判定することが可能となる^{註3)}。このような視点から窓を捉えると、建築は建築自体のうちに参照のシステムをもっていると考えることができる^{註4)}。つまりひ

とつ建築のなかに窓による差異や同一といったものが生じ、それらをコントロールすることで建築の構成の修辞が生まれる余地があると考えられる^{注5)}。本章ではこうした窓どうしの参照関係から窓の相対的な違いを捉え、建築の構成の修辞を検討するものであり、構成パターンを抽出、比較することによりその広がりを示すものである。

窓を研究するにあたり様々な方法が考えられる。たとえば、窓を採光や眺望との関係から位置づけるものや、窓を建物の立面との関係で位置づけるものが考えられる。これらは窓を外的条件や窓以外の要素との関係によってそのあり方を位置づけるものであると考えられる。本研究では窓がひとつの建物の中で反復するという性質に着目し、窓どうしの関係によって窓のあり方を捉えようとするものである。そこで『新建築』誌『新建築住宅特集』誌『a+u』誌に発表された住宅作品において、外形が単ウォリュームで構成され、建物に隣接するものによって制限されず、どのような方向にも窓が設けられるような住宅のうち図面や写真から窓が読み取れる住宅作品を分析資料としている^{注6)}。このようなヴィラ型といわれるような周辺が開けた場所に建つ住宅種を扱うという条件を共有することによって、それぞれの作品を比較することが可能になると考えられる^{注7)}。分析方法としては資料から得られた立面図や展開図などから窓をトレースした図（以下窓図）を作成し（図2-1, 2-2, 2-3）、そこで取り出された窓の集合から窓どうしの差異を窓の種類と位置から捉える。これは窓という要素のみに着目し、それらの差異を分析するものであり、窓の配列による建物の壁面にあらわれるような統合関係を問題にしていない。窓を集合論的な全体としてみたときに、窓どうしに差異や同一が生まれ、そこに窓どうしの関係による建築の特徴が生じると考えられる。そこで窓の参照関係で生じた同一や差異に基づく構成の修辞を明らかにすることを本章の目的とする。

第2節 窓の種類と位置

前節で述べたように窓の参照関係によって、窓どうしの相対的な違いが判別される。こうした窓どうしの違いを生む要因として、具体的には窓の種類と位置をあげている。分析例1(図2-1)では窓の形状はすべて矩形であり、奥行きには違いがみられないが、吹き抜けに面して2層分の大きさの窓があり、窓の大きさに明確な違いがみられる。分析例2(図2-2)ではすべての窓が矩形であり、奥行き、大きさに明確な違いがみられない。分析例3(図2-3)では丸い窓によって形状による違いをつくっている。全資料についてみたところ、窓の形状(表2-3)には矩形が最も多くみられ、三角形やひし形や台形といった斜形、円や楕円、アーチなどを丸形としてまとめることができる。次に窓の大きさ(表2-4)としては背丈程度の小さな窓、人の背丈を超える幅、高さをもつ大きな窓、2層にまたがる窓がみられた。窓の奥行き(表2-5)には壁の厚みが浅いもの、深いもの、窓辺に人が座れるなど窓と家具が一体となるもの、アルコーブと一体となるものがみられた。

こうした窓の種類の外に窓の位置によっても窓どうしの違いが捉えられる。窓は建物の壁面に対する位置によって窓の重要さが指し示される。設計する際にも窓を壁面に対して中央や角に配置するということはその窓に留意しているといえる。これは壁面に対する窓の位置の違いを窓の性格に反映させようとしているものと捉えることができる。分析例1では2層分の窓が壁面中央に位置しており、窓の位置によって他の窓より重みづけされているといえる。分析例2ではそれぞれの窓が角に位置している。このように窓を重みづける壁面に対する窓の位置(表2-6)としては壁面中央と角(角をまたぐ/接する)があげられる^{注3)}。

第3節 窓の種類による差異と窓の位置による重みづけ

3-1. 窓の種類による差異

前節では窓の種類を窓の形状、大きさ、奥行として整理した。こうした窓の種類による違いから窓どうしにどのような差異をつくりだしているかを検討する。分析例1(図2-1)のように2層分の大きな窓と他の小さな窓をくらべると大きさによる対比的な違いによって窓どうしに差異がつけられている。これを対比的な差異と捉える。分析例2(図2-2)では窓の高さはそろっているが、その幅に違いがみられる。窓の大きさに対比的な違いがなく規則的に窓のプロポーションを変えている。このような違いを相同的な差異と捉える^{注9)}。このように窓の種類による差異には窓どうしの違いに規則性があるかについて着目することから、対比と相同というふたつの差異があると捉えられる。分析例1でも小さな窓どうしにプロポーションの違いがみられるが、ひとつの住宅における窓どうしの差異の表現としてみれば対比的な差異のほうが主調となることから、小さな窓どうしの相同的な差異は表現としては相対的に重要ではないと考えられる。このことから対比的な差異と相同的な差異の両方がある場合、対比的な差異を優先的にみることにする。そこで対比的な差異と相同的な差異について窓の形状や大きさや奥行について整理すると(表2-7)形状については矩形と丸形の違いといった幾何学的な違い、大きさについては2層分の窓と小さな窓といった寸法の違い、奥行についてはアルコーブと一体となる場合を対比的な差異として捉えた。また丸形の大きな窓といった形状と大きさによる対比が重なるものがみられたことから、窓の種類による対比的な差異の重なりについて整理した(表2-8)。また窓の形状の部分や組合せ、プロポーションの違い、窓の厚みの違いを相同的な差異として捉えた。これらを対比の種類、対比の数や対比的に扱われる窓の数から窓の種類による差異として整理すると(表2-9)、ひとつの対比的な差異を用いて1つの窓を強調するもの、2つ以上の窓を強調するもの、異種の対比的な差異を用いて2つ以上の窓を強調するもの、相同的な差異のみによって窓どうしに違いをつくるもの、窓どうしに差異がないものがみられた。

3-2. 窓の位置による重みづけ

3-1 では壁面中央や角に窓が位置することでその窓が重みづけされると捉えた。こうした窓の重みづけは、重みづけされる窓の数によって意味が異なると考えられる。分析例1のようにひとつの窓を重みづけすることで他の窓と違いをつくりひとつの窓を強調するものや、分析例2では全ての窓を角に位置づけることで窓の位置に違いをつくらず、等しい関係をつくるものがある。また分析例3では3つの窓が壁面中央に位置しており、3つの窓が同じ位置関係を共有することでそれらの窓どうしが比較されていることが強調されると捉えられる。このように壁面に対する位置によって重みづけされる窓の数から、窓の位置による重みづけを整理すると（表2-10）、ひとつの窓を重みづけすることでその窓を強調するものや、複数の窓を重みづけすることで重みづけされた窓どうしの比較を強調するものがみられる。また多数（過半数）の窓を重みづけすることで窓の位置によって窓どうしに等しい関係をつくるものがある。重みづけしない場合は窓どうしの違いは窓の種類による差異のみになる。また窓の種類によって対比的に扱われた窓が、壁面の位置によっても重みづけされ、より強調される場合が多くみられた（表2-11）。以上のように本節では窓どうしの参照関係を窓の種類と位置から捉え、窓の種類による差異、窓の位置による重みづけを整理した。

第4節 窓の参照関係による構成パターン

前節では現代住宅作品における窓の参照関係を捉えるために窓の種類による差異と窓の位置による重みづけを整理した。本節ではこれらの組み合わせを検討することから構成パターンを導き、窓の参照関係による修辭を明らかにしていく。

窓の参照関係は窓の種類による差異と窓の位置による重みづけによって捉えられることから、窓の種類による差異を縦軸に窓の位置による重みづけを横軸にマトリクスを作成し、3資料以上のまとまりから共通する特徴をもつ12の構成パターンを導いた(表2-12)。単独型は、窓の種類によって対比的に扱われたひとつの窓がさらに位置によっても重みづけされることでさらに強調されるものである。これは対比的に扱われた単独の窓自体が表現されているものといえる。この類型では大きな窓が建物の角をまたいでいるものや窓が2層分の大きさをもつことで対比的な差異をつくっているものが多くみられる。対比型は位置によって重みづけされた複数の窓のうちひとつが対比的に差異づけられたものである。このパターンでは窓が壁面中央に位置しているものが多く、重みづけされた窓のうち大きな窓と小さな窓、矩形の窓と丸形の窓といった対比が際だっているものである。対比 - 同一型、対比 - 相同型とも複数の窓が位置によって重みづけされ、それら2つ以上の窓が対比的に差異づけられているものである。そのうち対比 - 同一型は、合同な窓が種類によって対比的に扱われており、さらに位置によって重みづけされている。これは対比的に扱われた窓の同一が表現されているものと捉えることができる。対比 - 相同型は複数の窓が重みづけされ、それら2つ以上の窓が対比的に差異づけられているものであるが、それらの窓は合同ではなく形や大きさを部分的に違わせている。これは対比的に扱われた窓にさらに相同的な差異をつくるといった、対比のなかの相同が表現されているといえる。対比 - 同一反復型は対比的に差異づけられた合同な多数の窓どうしが重みづけされることで等しい位置関係になっている。異種対比型は形や大きさの違いによって異種の対比をつくっており、その窓の一部が壁面中央に位置することで重みづけされている。これに対し異種散在型は異種の対比によっ

て異なった窓が位置によって重みづけされず、ばらばらに配置されたものである。相同型1、相同型2は窓どうしに対比的な違いはなくプロポーションに微妙な違いをつくりながら反復しており、相同型1はひとつの窓が位置によって重みづけされ、相同型2は複数の窓が重みづけされている。相同比較型は多数の窓が同じ位置関係にありながら、微妙にプロポーションの違う窓が反復されるもので窓どうしの微差が比較されている。相同散在型はプロポーションの違う窓が位置によって重みづけしないように配置されたもので、相同的な差異が表現されている。これら相同型は特定の窓が強調されないものと考えられる。同一型は合同な窓が反復するものである。

窓の種類による差異のパターンと窓の位置による重みづけのパターンの組み合わせのなかで、3資料以上のまとまりを構成パターンとして設定した。以下ではそれら2つのパターンの組み合わせとしてはありえるが、構成パターンとして成立しなかったものを説明する。窓の種類によってひとつの窓を強調するもので、窓の位置で多数の窓が重みづけされるものはみられなかった。これは単独型が数として多いことから推測できるように、ひとつの窓を強調する場合はその窓をさらに重みづけする傾向がうかがえる。窓の種類によって合同の窓を強調するもので、窓の位置で単数の窓を重みづけするものはみられなかった。これは合同な窓の片方だけを重みづけすることはなく、両方の窓を重みづける傾向があるといえる。複数の窓を強調し、位置による重みづけがないものがみられなかった。複数の窓を強調した場合も、窓の位置によっても重みづけする傾向があると推測できる。異種の対比により窓が強調される場合、位置による重みづけがなされない異種散在型が存在する。これは異種の対比によって強調された窓を重みづけしないことで、窓どうしにばらばらな状態をつくろうとするものだと考えられる。

第5節 窓の参照関係による構成の修辞

前節で得られた構成パターンを比較すると、窓の種類による差異は、窓の集合に対して、対比、相同、同一の特徴を与え、さらに窓の位置による重みづけは、それらの特徴に、強調、比較、散在（重みづけしない）という特徴を重ねる修辞であることがわかる（図2-5）。それらの構成の修辞は、対比的に扱われたひとつの窓が重みづけされる〈対比の強調〉、対比的に扱われた窓と他の窓が重みづけされることで比較される〈対比の比較〉、対比的に扱われたひとつの窓が散在する〈対比の散在〉、対比的に扱われた複数の窓が同一、相同となる〈対比の中の同一、対比の中の相同〉、相同的な差異をもつ複数の窓のうち一つが重みづけされる〈ひとつの窓の強調〉、相同的な差異をもつ複数の窓のうち複数の窓が重みづけされる〈相同の比較〉、相同、同一の窓が重みづけされず散在する〈相同の散在、同一の散在〉といった集合としての窓がつくりだす秩序のあり方に関するものである。

各パターンの年代的傾向をみると（表2-13, 2-14）、70年代 80年代の作品は単独型、対比型、対比-相同型、対比-同一反復型、異種対比型、異種散在型で多くみられた。窓の種類による対比や位置による重みづけがかさなることで特定の窓を強調する表現がみられた。これに対し 90年代以降の作品は相同型1、相同型2、相同比較型、相同散在型、同一型が多くみられ、プロポーションの違いによる窓どうしの微差を表現するものや合同な窓どうしの同一を表現するものである。このことから70年代、80年代の作品で多くみられた表現は強調された窓自体の図形的性格に意味を見出そうとしているのに対し、90年代以降の作品で多くみられた表現はひとつの建物の中における窓どうしの関係性に意味を見出そうとしていると位置づけられる。以上で得られた窓の参照関係による住宅作品の構成パターンの年代的傾向と時代的な背景を合わせて考察してみると、一般にポストモダニズムといわれる建築

が隆盛した70年代、80年代では対比的な差異によって特定の窓を強調するパターンが多くみられ、窓自体の図形的性格によって建築の歴史的文化的な文脈に位置づけるといった当時の建築思潮との同時代性を指摘することができる。また90年代以降では相同的な差異や同一を表現するパターンが多くみられ、窓どうしの関係性に意味を見出そうとしているものであると考えられる。

第6節 小結

以上、本章では住宅作品を対象として、窓の参照関係について検討した。窓どうしに違いをつくるものとして、窓の種類と窓の位置の2つの水準から検討した。窓の種類による差異には、対比的な差異と相同的な差異があることを見いだした。対比的な差異によってひとつの窓を強調するもの、合同な窓を強調するもの、複数の窓を強調するもの、異種の対比によって複数の窓を強調するもの、相同的な差異によって特定の窓を強調しないもの、差異がないものがあることを導いた。さらに壁面に対する位置によって重みづけされる窓の数を整理することで、単数の窓を重みづけし、ひとつの窓を際立たせているもの、複数の窓を重みづけし、複数の窓どうしを比較するもの、多数の窓を重みづけすることで、多数の窓どうしに位置による等しい関係をつくるもの、重みづけされず窓の種類による差異のみが表現されるものという4つのあり方を導いた。次に窓どうしの参照関係を、窓の種類による差異と窓の位置による重みづけの組み合わせを検討することから、住宅作品における窓の参照関係による12の構成パターンを抽出した。各パターンを比較することで、窓の種類による差異は、窓どうしに、対比、相同、同一の特徴を与え、さらに窓の位置による重みづけは、それらの特徴に、強調、比較、散在（重みづけしない）という特徴を重ねることで、集合としての窓に秩序を与えるという窓の参照関係による構成の修辭を明らかにした。

さらに各パターン年代的傾向を検討すると、主に70年代80年代に多くみられた類型は、窓の参照関係による表現が対比的な差異によるものが多くみられ、90年代以降では相同的な差異や同一性によるものが多くみられた。それら窓どうしの参照関係は強調された窓自体の図形的性格に意味を見出そうとしているもの、窓どうしの関係性に意味を見出そうとしているものであると位置づけことができた。

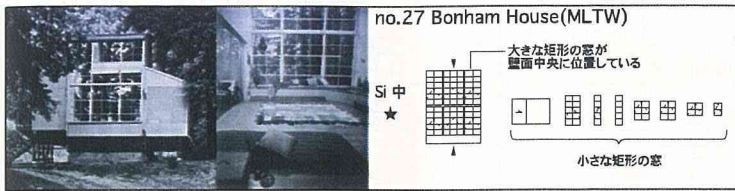


図2-1 分析例1



図2-2 分析例2

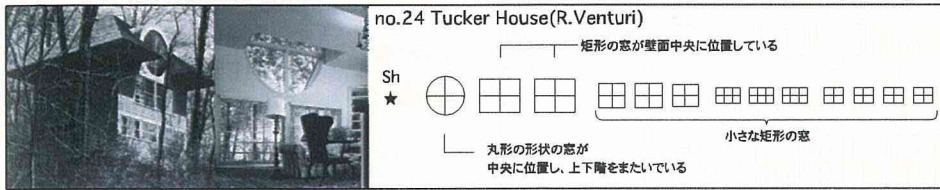


図2-3 分析例3

表2-1 窓の形状 (Sh)

□矩形(1724)	◇斜形(26)	○丸形(58)	▽その他(4)
-----------	---------	---------	---------

表2-2 窓の大きさ (Si)

小(1756)	大(34)	層(22)
---------	-------	-------

表2-3 窓の深さ (De)

壁浅(1723)	壁深(49)	家具(18)	7/10-7 (24)
----------	--------	--------	-------------

表2-4 窓の位置

中央に位置		角に位置	
中	角	接する	角* またぐ

Sh 窓の形状
Si 窓の大きさ
De 窓の奥行

★ 対比的な差異
☆ 相同的な差異

対比的な差異があり、その中に相同的な差異があるもの
/ 2つの対比的な差異があるもの
対比的な差異に重なりがみられるもの

例
Sh-De 形状により対比的な差異があり、その中に奥行きの違いがあるもの
Sh/Sh 形状の違いにより、2つの対比的な差異がみられたもの
Si+De 大きさにより相同的な違いあり、窓の奥行きが揃えられているもの

表2-5 対比的な差異と相同的な差異

	形状 Sh 幾何学的な違い	大きさ Si 寸法の違い	奥行 De 7/10-7 と一体化
対比的な差異			
相同的な差異	形状の部分 	形状の組合せ 	相似形
		プロポーションの違い 	壁の厚み
			家具と一体化

単独の対比 (42) : Sh (20), Si (20), De (2) / 対比の重ね合わせ (21) : Sh, Si (9), Si, De (10), Sh, De (1), Sh, Si, De (1)

表2-6 窓の種類による差異

対比的な差異★ (51)		相同的な差異☆	差異なし☆
ひとつの対比(重ね合わせ含む) (43)		対比なし	
1つの窓を強調	2つ以上の窓を強調	特定の窓を強調しない	
(22)	合同な窓 (14)	(8)	(35)
			(21)

表2-7 窓の位置による重みづけ

	単数	複数	多数	なし
	重みづけにより一つの窓を強調する	重みづけにより複数の窓を比較する	重みづけにより過半の窓を等しい関係とする	重みづけを用いず種類による差異のみになる
対比的な差異				
相同的な差異				

表註)多数とは窓数の過半数を示す。

表2-8 対比的な差異と窓の位置による重みづけ

種類によって差異づけられた窓が位置によって重みづけされる	種類によって差異づけられた窓が位置によって重みづけされない

点線は壁面輪郭を示す

表2-9 窓の参照関係による構成パタン

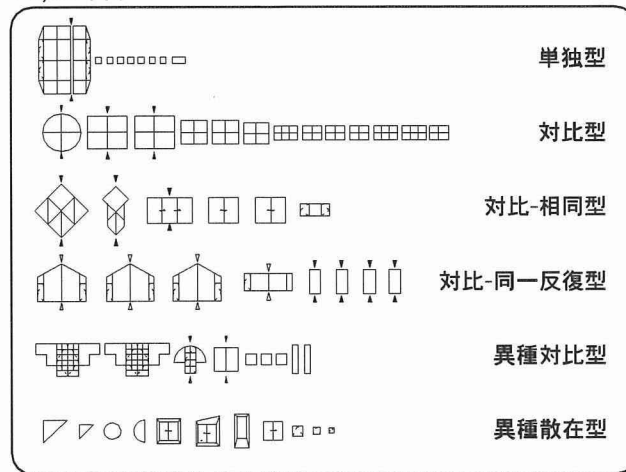
		窓の位置による参照関係		窓の位置による参照関係	
		単数	複数	多数	なし
			2つ	3つ以上	
窓の位置による参照関係	1つの窓を強調	<p>Sh, Si 角* (no.9)</p> <p>Si 角* (no.5) (no.3,104)</p> <p>Si, De 角* (no.14)</p> <p>Si 中 (no.89) (no.27,29,41,74)</p> <p>Sh, Si 中 (no.20)</p> <p>Si, De 角* (no.8) (no.26)</p> <p>単独型</p>	<p>Si, De 中 (no.33)</p> <p>Si, De 角 (no.54)</p> <p>Si 中 (no.52) (no.59)</p> <p>Sh 中 (no.37)</p> <p>Sh 中 (no.24)</p> <p>Si 中 (no.53)</p> <p>対比型</p>		<p>Sh (no.45)</p>
	ひとつの対比的な差異	<p>Sh, De 中 (no.23)</p> <p>Sh 中 (no.58) (no.51)</p> <p>Si 中 (no.39)</p> <p>対比-同一型</p>	<p>Si 中 (no.68)</p> <p>Si 中 (no.99)</p> <p>Sh, Si 角*/中 (no.31) (no.30)</p> <p>Si 角*/中 (no.21)</p> <p>対比-同一反復型</p>		<p>Sh (no.7)</p> <p>(no.6)</p>
	2つ以上の合同な窓を強調	<p>Sh 中/Sh (no.49)</p> <p>対比-相同型</p>	<p>Si 角 (no.42)</p> <p>Sh, Si-Sh 中 (no.46)</p> <p>Si 角 (no.4)</p> <p>Sh, Si-Sh 中 (no.47)</p> <p>Si-De 中 (no.71)</p> <p>Si 中 (no.63)</p> <p>対比-相同型</p>		
	異種の対比的な差異	<p>Si, De 中/Sh 中 (no.34) (no.15)</p> <p>Sh, Si/Sh 中 (no.16)</p> <p>Sh, Si, De/Sh (no.2)</p> <p>異種対比型</p>	<p>Sh 中/Si (no.50)</p> <p>Si 中/Sh 中 (no.43)</p> <p>Sh/Sh/De (no.48)</p> <p>Sh/Sh (no.10)</p> <p>Sh/Sh/De (no.56)</p> <p>異種散在型</p>		
窓の位置による参照関係	相同的な差異	<p>Si-De (no.67)</p> <p>Si 角 (no.81) (no.32)</p> <p>Si 中 (no.36)</p> <p>Si 角*中 (no.1)</p> <p>Si 中 (no.35)</p> <p>Si 角 (no.87) (no.57,83,86,90)</p> <p>Si (no.44) (no.76)</p> <p>相同型1</p>	<p>Si-Sh 角* (no.97)</p> <p>Si 中 (no.80)</p> <p>Si 角 (no.56)</p> <p>Si 角* (no.25) (no.55,13)</p> <p>Si-De 角 (no.75)</p> <p>Si 中 (no.40)</p> <p>相同比較型</p>	<p>Si+De (no.82) (no.22)</p> <p>Si (no.16) (no.95,101)</p> <p>Si (no.85) (no.19,60,61,62,70,84)</p> <p>Si (no.102)</p> <p>相同散在型</p>	
	差異なし	<p>Si (no.66) (no.12)</p> <p>同一型</p>	<p>Si (no.79) (no.32)</p> <p>同一型</p>	<p>Si (no.85) (no.17,28,69,72,73,77,88,91,93,94,98,100,103,105,106,107)</p>	

表2-10 各パタンの年代ごとの作品数

類型	年代	1970~1989年	1990年~2006年
単独型		11作品 (3,5,8,9,11,14,20,26,27,29,41)	3作品 (74,89,104)
対比型		5作品 (24,33,37,52,53)	2作品 (59,64)
対比-同一型		3作品 (23,38,51)	3作品 (58,68,99)
対比-相同型		5作品 (4,42,46,47,49)	2作品 (63,71)
対比-同一反復型		3作品 (21,30,31)	なし
異種対比型		6作品 (2,15,18,34,43,50)	1作品 (54)
異種散在型		2作品 (10,48)	1作品 (56)
相同型1		1作品 (36)	3作品 (67,81,92)
相同型2		3作品 (1,35,44)	6作品 (57,76,83,86,87,90)
相同比較型		3作品 (13,25,40)	5作品 (59,75,80,96,97)
相同散在型		3作品 (16,19,22)	10作品 (60,61,62,70,82,84,85,95,101,102)
同一型		2作品 (17,28)	15作品 (68,72,73,77,78,88,91,93,94,98,100,103,105,106,107)

表註 カッコ内は作品番号を示す

70,80年代



90年代以降

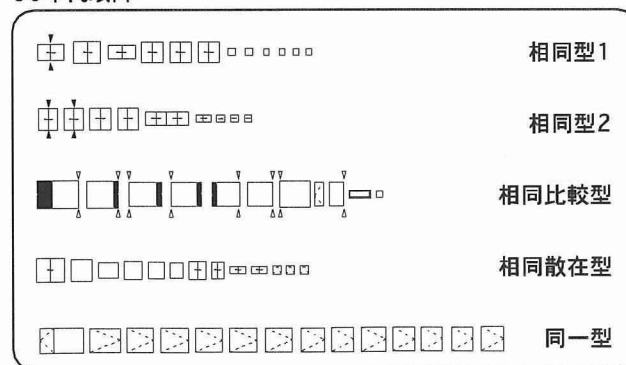


表2-4 パタンの年代的傾向

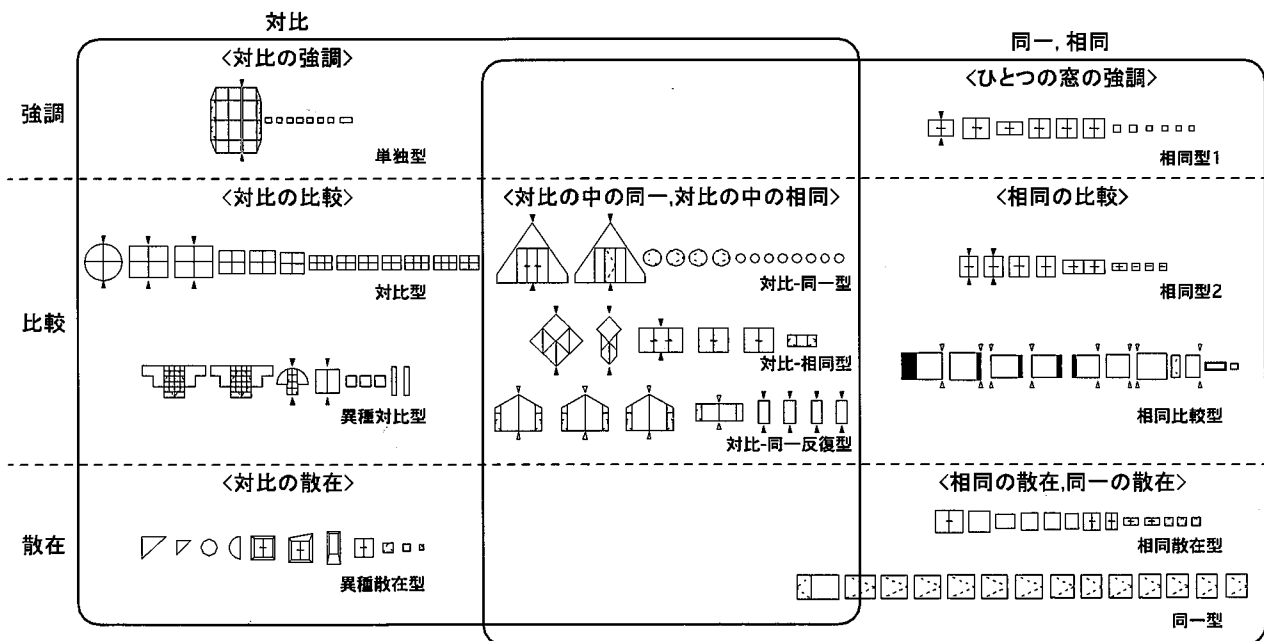


図2-5 窓どうしの参照関係による構成的修辭

付表2-1 資料作品リスト

no.	作品名	設計者	掲載誌/号	no.	作品名	設計者	掲載誌/号
1	山荘A	生田勉	sk6010	55	Villa Thoren-Soderst	Tammisaari	au9107
2	海の見える家	林雅子	sk7108	56	中田邸	難波和彦	jt9205
3	ブルーボックスハウス	宮脇徳	sk7110	57	Turegano House	Albert Campo Baez	au9209
4	直方体の森	篠原一男	sk7202	58	Red House	Toni Follina	au9212
5	MOV山荘	山下和正	sk7205	59	A Residence	Mario Campi	au9303
6	涅槃の家	相田武文	sk7208	60	森の別荘	妹島和世	jt9405
7	無為の家	相田武文	sk7208	61	邸	北川原温	jt9502
8	Rush House	MLTW	au7211	62	東大泉の住宅	富永謙	jt9502
9	グリーンボックスハウス	宮脇徳	sk7302	63	本町田の住宅	奥山信一	jt9510
10	Barn Rehabilitation	Stabley Tigerman	au7302	64	那須の家	宮森洋一郎	jt9604
11	ピラフィ	山下和正	sk7307	65	House Ungers	O.S.Ungers	au9611
12	サウナの主題による家	相田武文	sk7402	66	住宅スタジオ,生け花	中尾寛	jt9612
13	Coplans Residence	Burger&Coplans	au7403	67	トウフ	玉置順	jt9707
14	赤沢山荘	黒沢隆	sk7405	68	札幌西野の家	遠藤謙一良	jt9709
15	Barn House	MLTW	au7411	69	Two family Duplex	Harry Guggler	au9711
16	等々力邸	藤井博巳	sk7508	70	吉祥寺通りの住宅	奥山信一	jt9802
17	段象の家	相田武文	sk7602	71	アニハウス	トリエ・ワ	jt9802
18	Y邸	磯崎新	sk7604	72	Two Residential Building	Gigon&Guyer	au9909
19	Hot Dog House	Stanley Tigerman	au7607	73	House in Jona	V.Bearth&A.Deplaz	au0003
20	グイック	土岐新	sk7609	74	Wood&Steel House	John Davis	au0010
21	Tonini House	Reichilin+Reinhart	au7609	75	ハウスガマ	トリエ・ワ	sk0103
22	Milam Residence	Paul Rudolph	au7707	76	House in Aggstell	Hild und K	au0110
23	Brant-Johnson House	R.Venturi	au7801	77	ブライウッドキッドハウス	八木敦	jt0111
24	Tucker House	R.Venturi	au7801	78	多孔質/解放	八重樫直人	sk0204
25	Moore House	MLTW	au7805	79	つくばの家	堀部安嗣	jt0212
26	Lawrence House	MLTW	au7805	80	住宅K	北山恒	jt0302
27	Bonham House	MLTW	au7805	81	Meuli House	Bearth&Deplazes	au0310
28	愛蔵裾野の住宅	篠原一男	sk7807	82	Can Lis	Yorn Utzon	au0311
29	石井邸	山本理顕	sk7808	83	材木座の住宅	下吹越武人	jt0312
30	House in Sierras	Donald MacDonald	au7809	84	S/N	ライファンド・シムラ社	jt0402
31	Vacation House	Donald MacDonald	au7809	85	梅林の家	妹島和世	sk0403
32	House in Mendocino	Donald MacDonald	au7809	86	OIB	有馬裕之	jt0403
33	Cottage in Northport	Kazumi Frank	au7809	87	泉区の住宅	川辺直哉	jt0404
34	Cottage in Edironda	Kazumi Frank	au7809	88	セル・ブリック	山下保博	jt0405
35	坂田山附の家	坂本一成	sk7902	89	MUJI+INFILL	MUJI+INFILL	jt0407
36	鈴が台の家	村上徹	sk8102	90	G	青木淳	sk0409
37	研究学園都市の家	松永安光	sk8104	91	Villa Garbald	Miller&Maranta	au0411
38	Sculpture Studio	Steven Holl	au8204	92	Valther House	Bearth&Deplazes	au0411
39	藤科の山荘	大沢良三	sk8308	93	Living Room	Seifert stoeckmann	au0504
40	2-4-6-8 House	Morphosis	au8309	94	RVB Office Building	Van Belle&Medina	au0504
41	Maine House	J.C.Knowles	au8309	95	八ヶ岳の別荘	千葉学	sk0507
42	Esherick House	Louis I.Kahn	au8311	96	ジューンハウス	トリエ・ワ	sk0507
43	Blue House	Herzog&de Meuron	au8504	97	Tall	阿部仁史	jt0510
44	House at Balerna	Ivano Gianora	au8504	98	UK	林敬一	jt0512
45	星溪山荘	野田俊太郎	jt8506	99	K+N House	Valerio Olgiati	au0602
46	House on Long Island	R.Venturi	au8507	100	Poli House	Pezo von Ellrichsha	au0603
47	Roy Reed House	Fay Jones	au8507	101	Krakmora Holmar House	C.K.Rune	au0603
48	ハウスインコハラ	篠原一男	jt8605	102	深大寺の入籠	内海智行	jt0607
49	徳高の家	茶谷研究室	jt8608	103	Rivo House	Pezo von Ellrichsha	au0607
50	福井勝山の家	伊藤孝	jt8702	104	蒲田の家	木下道郎	jt0609
51	家門内門家	佐賀+エーフト	jt8704	105	K邸	藤本壮介	jt0611
52	Fiddlers Green House	Paul J.Byrne	au8710	106	邸	藤本壮介	jt0611
53	Villa Meyer	Dolf Schnebli	au8902	107	Detached House	Gigon&Guyer	au0611
54	Small House/Big View	Anderson/Schwartz	au9012				

第2章 注

- 1) L・コルビュジェ：プレシジョン，鹿島出版会，1984年 のなかで「水平連続窓そしてつについてはガラス壁とにより我々は過去とは全く異なった状況に置かれることになったのです。」と述べられている。
- 2) 近代主義を批判するといった背景とともに慣習的な要素を取り上げた論考として、R・ウ・エンチャーリ：建築の多様性と対立性，鹿島出版会，1982年 があげられる。
- 3) 建築のデザインを集合論として捉えた研究として、C・アレグザンダー：形の合成に関するノート，鹿島出版会，1978年 があげられる。「集合の要素は抽象的でも具体的でもよい。それは独特なものとして判別することができ、たがいに区別できることが可能でありさえすればよい。」「集合Sの要素xは、その集合に属するという。これを $x \in S$ で表わす。一つの集合はその要素を判定することによって一意的に決まる。」p67 と述べられている。
- 4) 河本英夫：オートポイエーシス 2001，2000年 のなかで「言及性とは区別すると同時に関係づけをおこなうことである。」「システムの作動は自己自身との関係で生じる。こうした自体が自己言及と呼ばれる。」とあり、本研究では自己の内部で繰り返される同一の作動（窓の反復）の比較のなかにあらわれる差異を問題にしている点で自己言及的であると考えられる。
- 5) 本章では、窓をひとつの住宅で反復される要素として捉えており、窓どうしの差異や同一によって窓の反復の形式をコントロールしつつ、集合としての窓の全体を問題にしている。
- 6) 本章では日本における現代の建築ジャーナリズムのなかで代表的なものと思われる「新建築」誌「新建築住宅特集」誌「a+u」誌に1955年以降に掲載された住宅2972件から外形が主に単ボリュームからなる住宅1103件を抽出し、壁に穿たれた窓をもち内外の関係が単純で分析の条件に適合し（中庭、密集地域の住宅などを除く）、図面、写真から窓の種類や位置が読み取れる住宅107作品を資料として取り上げている。
- 7) 中庭型の住宅、複数棟からなる住宅といった庭を介した内外の関係をもつと思われる住宅や、長屋形式の住宅、周辺が密集した地域に建つ住宅といった周辺環境から内外の関係が規定される住宅を分析から除外した。これらを除外することから、いわゆるヴィラ型といわれる周辺が開けた場所に建つ住宅種を扱うという条件を共有することによりそれぞれの住宅作品を比較することが可能になると考えた。また本研究でいう窓とはガラスのカーテンウォールや構造材の間に設けられた開口ではなく、壁面に穿たれた開口のことを指し、天窗、換気窓、玄関扉は分析の対象から除外している。

- 8) 壁面の輪郭に関わる中央や角といった明確に分節できる位置にある窓においては、窓の位置が窓の性格を修飾するものとして捉えた。また壁面の輪郭に関わるものとして上端、下端という位置があるが、窓自体の性格を修飾するものというより、建物の接地性や階数と結びついた表現であることから分析項目として扱っていない。
- 9) 相同とは生物学において、異種の生物の器官で形状や機能が異なるが、発生的には同一起源であることを指すが、本研究では窓の形状や大きさや奥行が類似していることを表している。

第3章 屋根の変形による構成の修辞

第1節 本章の目的と概要

第2節 資料作品の年代的傾向

第3節 屋根における軒、棟、頂点、勾配の関係

第4節 屋根の定形と変形

第5節 屋根の変形による構成の修辞

第6節 小結

第1節 本章の目的と概要

本章では風雨や日射を防ぎ、人間が生活するシェルターを構成する上で不可欠な要素である屋根を取り上げる。屋根は気候や風土、入手できる材料による可能な構法との関係によって形成されてきた建築の慣習的な要素である。こうした屋根は切妻や寄棟といった基本的な屋根形に形式化され、慣習的な建築言語として定着しているため、屋根は家の象徴として捉えられてきた。また「軒を連ねる」ことから街並を意味するように屋根は建築単体だけでなく風景や街並のなかで際立った要素として地域性や伝統との関係から捉えられてきた^{注1)}。近代建築に対する批評を背景にあらわれたポストモダニズムの建築においては近代以前の伝統的な建築や民家にみられる屋根の形態は記号的な側面から理解され、創作の題材として取り上げられてきた^{注2)}。それらに対しここで本章が着目しているのは、屋根形として表現された平面の輪郭や軒、棟の位置、あるいは勾配の関係によって、建築の平面と断面を統合する性格である。たとえば敷地に厳しい制限のない場合には屋根を歪みのない定形のまま用いることができるが、都市部の密集した環境では、歪んだ敷地形状や斜線制限に沿わざるを得ない場合があり、基本的な屋根形は歪められ、切り欠かれる。こうした屋根の変形は現実の条件を屋根の形態を通してあらわれたものと考えることができる。また屋根の変形は、定形がもっていた固定的な規則性とは異なり、逸脱を許容する柔軟で動的な性格が与えられているといえることができる。このように屋根の変形には、屋根がもつ統合的な性格と定形に力が加えられたような力動性のある表現を読み取ることができる。

屋根を研究するにあたり様々な方法が考えられる。たとえば建物全体のなかでの屋根を位置づけるもの、実際の外観から位置づけるもの、周囲の環境から位置づけるものが考えられる。これらは屋根以外の他の要素との関係によって屋根を論じるものである。これらに対し本章は屋根自体の形態を、それを構成する部分どうしの関係として捉えることによって屋根のもつ統合的な性格を論じるものである。そこで屋根面を形成する要素である軒、棟を線、頂点を点の要素としてみなすと、そ

これらの線や点をつなぐことで屋根面が定義される。1平面を決める条件は、平行な2直線、相交わる直線、1点と1直線であり、円柱や円錐などの単曲面やねじれ面を決める条件は、直線面素^{注3)}の連続的移動や回転、ねじれである。また曲線が複合して形成された複曲面がある^{注4)}。本章では、日本の住宅建築で多く用いられる直線面素で定義された屋根の形式である片流屋根、切妻屋根、寄棟屋根、方形屋根（表3-1）を分析対象とした。そこで片流、切妻、方形、寄棟の形式ごとに屋根面の構成についてみると、片流屋根は、軒、棟による2つの線による屋根面、切妻屋根は、2つの軒の線と1つの棟の線による2つの屋根面の組み合わせ、寄棟屋根は4つの軒の線と1つの棟の線による4面の組み合わせ、方形屋根は、頂点と4つの軒の線による錐状の屋根面によって構成されている。また屋根が壁面に与える影響としては、片流や切妻は妻側の壁面に屋根の勾配があらわれ、平側の壁面に軒の水平によって矩形があらわれるが、方形や寄棟は軒が屋根外周を囲むため、矩形の壁面のみがあらわれる特徴をもつ。片流以外の、切妻、方形、寄棟の形式は棟や頂点が屋根の内側にあり、中心軸や中心点となる。面を定義するものとして軒、棟、頂点があり、線である軒、棟が水平かつ平行であることが定形の条件であり、屋根面においては勾配一定、複数の屋根面をもつ場合、対面する勾配が同じであることを定形の条件とした。こうした条件に対し屋根の変形は、軒や棟が傾くなど定形の特徴を逸脱するものである。このように屋根を軒、棟、頂点、勾配といった部分に分解し、部分どうしの関係性として捉えなおすことで、屋根を固定した形ではなく、不規則な部分を全体の中に取り込む柔軟な形として検討することができる。このような捉え方のなかでは、定形としての屋根は部分どうし関係性が固定的であるのに対し、変形はそこに様々な逸脱を許容することになる。このときどの部分を定形と同じにし、どの部分を逸脱させるかといった選択が生じ、定形との比較において屋根の変形による修辭が成立するといえる。そこで本章は、こうした屋根形の変形を軒、棟、頂点、勾配から検討することから、屋根形の変形を体系化し、定形との対応から屋根の変形による構成の修辭^{注5)}を導くことを目的とする。

第2節 資料作品の年代的傾向

本章の資料の選定にあたって、『新建築』誌および『新建築住宅特集』誌において1955年以降に発表された住宅作品で屋根の全体形が把握できる4473作品の屋根形を年代別に作品数の割合を整理した(表3-3)。まず勾配屋根と陸屋根の割合においては50年代、60年代、80年代は勾配屋根が6割程度みられたのに対し、70年代、90年代以降は勾配屋根より陸屋根が多くみられた。さらに勾配屋根のなかでも、片流、切妻、寄棟、方形のいずれかの形式をもち、単ボリュームで構成されたものが852作品みられ、それらを定形と変形に分け、その割合を年代別に整理したところ、80年代以降に変形の占める割合の増加がみられた。これら変形した屋根形をもつ126の住宅作品を本研究の資料とした。各形式については、切妻の変形、片流の変形、方形の変形、寄棟の変形の順に多くみられた。これらの資料の立面図や断面図、屋根伏図などから軒、棟、頂点、また屋根面の勾配について検討した。

第3節 屋根における軒、棟、頂点、勾配の関係

分析例1(図3-1)の切妻屋根の場合、歪んだ平面形に対し、軒が水平に保たれ、一定の勾配で屋根面がかけられ、中心に位置した棟が斜めに傾くものであり、平面の歪みが棟の傾きとしてあらわれたものと捉えられる。分析例2(図3-2)の寄棟屋根の場合、歪んだ平面形に対し、水平な棟は中心軸から回転した位置に設けられ、傾斜した軒とねじれの位置にある。そのため屋根面が部分的には折れて勾配が変化し、他の部分では屋根面がねじれ、漸次的に勾配が変化する。また分析例2のような複雑な屋根形においては棟が屋根面の内側にある場合には寄棟の形式であると判断しており、他の作品に対しても軒、棟、頂点との関係からその形式を捉えている。たとえば平面形が矩形の場合、定形の屋根を用いることができるが、分析例のように歪形の場合、屋根が変形される。そのため平面形の矩形、歪形を1つの分析項目として設定した(表3-4)。定形の屋根では軒、棟が水平であるが、軒、棟が傾斜することで屋根形が変形する。傾斜した軒、棟のうち、分析例1の棟のように直線であるものを斜、分析例2の棟のように部材自体が曲がっている弧にわけた(表3-5)。これは弧状の部材によって屋根面が単曲面やねじれ面となるためである。軒、棟の立体的な位置関係については、互いに平行なもの、非平行なもの、同一平面状になく、ねじれの関係にあるものがあり(表3-6)、屋根面については、勾配が一定のもの、屋根面が曲がることで勾配が変化するもの、折れることで勾配が変化するものがある(表3-7)。棟や頂点の位置については、中心、偏心があり、そのなかでも棟をもつ切妻、寄棟において、棟が中心軸から角度がふられている回転があり(表3-8)、複数の屋根面をもつ切妻、方形、寄棟では対面する勾配が同じであるもの、異なるものがある(表3-9)。さらに軒、棟の位置関係と傾きの関係を整理した(表3-10)。以上の軒、棟、頂点、勾配に関する項目によって屋根の変形を捉える。

第4節 屋根の定形と変形

本節では、前章でまとめた軒、棟、勾配に関する項目の組み合わせから屋根形の変形を捉え（表 3-11）、それぞれの形式ごとに述べていく。

4-1. 片流屋根の定形と変形

片流屋根の変形（表 3-12）をみると、定形は軒、棟が水平かつ平行で、勾配一定の屋根面がかかるのに対し、片流の変形である片 A は水平に保たれた軒から勾配一定の屋根が上に延びた結果、平面の歪みが棟の傾きとしてあらわれたものであり、片流のなかで最も多くみられた変形である。片 B は水平に保たれた棟から勾配一定の屋根が下に向かって延びた結果、平面の歪みが軒の傾きとしてあらわれたものである。これら片 A、片 B のように片流の屋根でも軒と棟が平行でない例がみられる。これらに対し片 C は軒、棟を平行に保ったまま傾斜し、勾配一定の屋根がかかるものである。片 D は軒、棟が平行でなく傾斜し、歪んだ平面に勾配一定の屋根がかかるものである。片 E、片 F、片 G はねじれの関係にある軒、棟をつないだ結果、屋根面がねじれ、漸次的に勾配が変化するものである。そのうち片 E は水平に保たれた軒と棟をつなぎ、屋根の外周に歪みをつくらないもので、片 F は水平な軒、傾斜した棟をつなぎ、片 G は水平な棟、弧状の軒をつないだものである。

4-2. 切妻屋根の定形と変形

切妻屋根の変形（表 3-13）をみると、定形は軒、棟が水平かつ平行、棟が中心に位置し、勾配一定で屋根面がかかり、対面する勾配が同じである^{注6)}のに対し、切妻の変形である切 A は軒、棟が水平かつ平行に保たれ、棟の位置が偏心することで異なる勾配の屋根が組み合わさるもので、切 B はさらに屋根面が折れるものである。切 A は切妻のなかで最も多くみられた変形である。切 C は水平に保たれた軒から、勾配一定の屋根が上に延び、平面形の歪みが棟の傾きにあられ、かつ棟は中心に維持され、妻側の壁面に対称形の切妻形があらわれるものである。切 D は切 C でみ

られた変形に加え、屋根面が曲がり、勾配が変化するものである。切 E は水平に保たれた棟から勾配一定の屋根が下に延び、平面の歪みが軒の傾きとしてあらわれるもので、棟の位置が偏心することで、異なる勾配の屋根が組み合わさるものである。切 F は水平に保たれた棟の軸が中心から回転し、勾配一定の屋根が下に延び、回転した棟から軒までの距離の違いが軒の傾きとしてあらわれるものである。切 G は平行に保たれた軒、棟が傾斜し、棟の中心を維持し、一定の勾配で屋根がかかるもので、定形の屋根全体が傾いた形としてみることができる。同様に平行に保たれた軒、棟という条件で、切 H はさらに棟が偏心し、屋根面が折れるもので、切 I は軒、棟が弧状で、屋根面が曲がるものである。切 J、切 K は軒、棟が傾斜かつ非平行で、勾配一定の屋根面がかかる。そのうち切 J は棟の中心が維持されるもので、切 K は棟の位置が中心軸から角度がふられ回転するものである。切 L は水平な軒、弧状の棟をつないだ結果、屋根面がねじれ、漸次的に勾配が変化するものである。切 M は軒、棟の水平を保ち、屋根面が曲がり、勾配が変化するものである。

4-3. 寄棟屋根の定形と変形

寄棟屋根の変形（表 3-14）をみると、定形は軒、棟が水平かつ平行、棟が中心に位置し、勾配一定で屋根面がかかり、対面する勾配が同じであるのに対し、寄棟の変形である寄 A は軒、棟の水平を保ち、棟の位置が偏心することで異なる勾配の屋根面が組み合わさるものであり、寄棟のなかで最も多くみられた変形である。寄 B はさらに屋根面が折れ、勾配が変化するものである。寄 C は水平に保たれた軒から、勾配一定で屋根が上に延び、平面の歪みが棟の傾きとなってあらわれるものである。寄 D は水平かつ中心に保たれた棟から、勾配一定の屋根が下に延び、平面の歪みが軒の傾きとしてあらわれるものである。寄 E は棟が偏心するものである。寄 F は水平に保たれた棟が回転した位置にあり、妻方向の屋根面がねじれ、漸次的に勾配が変化するものであり、歪んだ平面によって軒が傾斜しているものである。

4-4. 方形屋根の定形と変形

方形屋根の変形（表 3-15）をみると、定形はすべての軒が水平であり、頂点が中心に位置し、勾配が一定で、対面する勾配が同じであるのに対し、方形の変形である方 A はすべての軒の水平を保ち、頂点の位置が偏心することで異なる勾配の屋根面が組み合わさるものであり、方形のなかで最も多くみられた変形である。方 B はさらに屋根面が折れ勾配が変化する。方 C は頂点の中心を維持しており、そこから勾配一定の屋根が下に延び、平面の歪みにあわせて軒が傾斜するものであり、定形を延長した形と捉えることができる。方 D は軒の傾きに加え、頂点の位置が偏心するものである。方 E は頂点の位置が偏心し、屋根面が折れ勾配が変化するものである。

第5節 屋根の変形による構成の修辞

前節ではそれぞれの形式ごとに屋根の変形を捉えた。本節ではそれらを屋根の形式を越えて比較することで、定形と同じ部分、定形を逸脱する部分との共通性によって分類する。そこで定形の特徴が維持された部分を「固定」、定形を逸脱する部分を「解放」とすると、屋根の変形には「固定」、「解放」といった対比が成立し、これを屋根の変形による構成の修辞として位置づける。各形式を横軸に、構成の修辞を囲みとしてあらわした表を作成した(表3-16)。以下、屋根の変形による構成の修辞を述べていく^{注7)}。

<I> 屋根の内側に棟や頂点があり、中心点や中心軸をつくる形式に対して、軒が水平に保たれることで固定され、偏心した棟や頂点が解放されることで異なる勾配の屋根面が複合するもの(切A、寄A、方A、切B、寄B、方B)は<軒固定-勾配複合>の修辞といえる。これは水平な軒、偏心した棟、頂点を統合することで定形のもつ中心性や勾配の均一性を逸脱するものである。<II> 棟をもつ形式に対して、軒が水平に保たれることで固定され、屋根面が上方に延びた結果、棟が解放されるもの(片A、切C、切D、寄C)は<軒固定-棟解放>の修辞といえる。これは水平に保たれた軒、勾配一定の屋根面、平面の歪みを統合すると棟が傾くものである。<III> これとは逆に、棟が水平に保たれることで固定され、屋根面が下方へ延びた結果、軒が解放されるもの(片B、切E、寄D、寄E、方C、方D)は<軒解放-棟固定>の修辞といえる。これは水平に保たれた棟や頂点、勾配一定の屋根面、平面の歪みを統合することで、軒が傾くものである。<II> では軒が優先的に決められることで固定されるのに対し、<III> では軒が結果的に決まることで解放されることから、<II><III> では軒の位置づけが異なる。このように軒、棟の一方を固定し他方を解放する修辞として<II> と<III> は対の関係にある。<IV> 屋根の内側に棟が

あり、中心軸をつくる形式に対して、棟の回転の結果、軒が解放されるもの（切F）は〈軒解放-棟回転〉の修辞といえる。棟の位置の回転が軒の傾きと対応づけられており、屋根をひねったような形になっている。〈V〉棟をもつ形式に対して、軒、棟が平行を保ち傾斜するもの（片C、切G、切H、切I）は〈軒-棟 斜平行〉の修辞といえる。これは定形のもつ水平性を逸脱しながらも、軒、棟の平行を維持しているため、屋根形全体が傾いたり曲がったりするものである。寄棟においてこの修辞は成立可能だが、みられなかった。〈VI〉棟をもつ形式に対して、軒、棟がともに傾斜し非平行なため、軒、棟それぞれが解放されるもの（片D、切J、切K）は固定される部分がないことから屋根が断片化した形とみることができるため〈軒-棟断片〉の修辞といえる。寄棟においてこの修辞は成立可能だが、みられなかった。〈VII〉棟をもつ形式に対して、ねじれの位置にある軒、棟を優先的に決め、その結果ねじれた屋根面が形成され、漸次的に変化する勾配が解放されるもの（片E、片F、片G、切L、寄F）はねじれの位置にある軒、棟を屋根面で縫合することによって全体を統合するため〈軒-棟 縫合〉の修辞といえる。これらの屋根の変形による構成の修辞は不規則な部分を再び統合する屋根の変形が作り出す不安定な均衡を示している。

以上で得られた修辞を考察すると平面の歪みとの対応によって変形があらわれる〈II〉〈III〉〈VI〉のうち〈II〉では棟、〈III〉では軒、〈VI〉では軒と棟の傾きに、平面の歪みを転写することによって定形を逸脱する表現であるのに対し、矩形の平面でありながら変形があらわれる〈I〉〈IV〉〈V〉のうち〈I〉では異なる勾配の複合、〈IV〉では棟の回転、〈V〉では軒-棟の斜平行、〈VII〉の軒-棟縫合といった、矩形、歪形の平面形の性格に関わらず屋根形自体によって定形の秩序を逸脱する表現であるといえる。

第6節 小結

本章では日本の現代住宅作品を対象に、片流、切妻、寄棟、方形といった基本的な屋根の形式をもつ作品のうち、定形から逸脱する特徴をもつものを屋根の変形として位置づけ、それらを分析資料として選定し、分析を行った。軒、棟、頂点、勾配についての各項目の組み合わせから、形式ごとに屋根の変形を抽出した。さらに変形される項目の共通性から、軒が固定され異なる勾配の複合によって棟や頂点が解放される修辭、平面の歪みによって軒が固定され棟が解放される修辭、棟や頂点が固定され軒が解放される修辭、棟の回転によって軒が解放される修辭、傾斜した軒、棟が平行を保つ修辭、傾斜かつ非平行な軒、棟により固定されるものがなく断片となる修辭、ねじれの位置にある軒、棟を漸次的に変化する勾配によって縫合する修辭、といった屋根の変形による構成の修辭を明らかにした。これらは不規則な部分を再び統合する屋根の変形が作り出す不安定な均衡を示している。またこれらの修辭は平面の歪みを屋根の変形として転写するもの、平面形の性格に関わらず屋根形自体によって変形をつくるものであると考察できた。

表3-1 基本となる屋根の形式

片流 (29)	切妻 (68)	寄棟 (10)	方形 (19)
(軒:1, 棟:1)	(軒:2, 棟:1)	(軒:4, 棟:1)	(軒:4, 棟:0)

表3-2 面の形成

平面	単曲面	ねじれ面	複曲面
平行な2直線	相交わる2直線	1点+1直線	

表3-3 年代別にみた作品数の割合

	陸屋根と勾配屋根の作品数の割合			変形と変形の作品数の割合		
	勾配屋根	陸屋根	勾配:陸 (2093:2380)	変形	定形	変形:定形 (126:726)
全作品	61.2%			1.6%		(1:61)
55-59	60.5%		(90:57)	11.6%		(11:84)
60-69	41.6%		(150:98)	6.9%		(4:58)
70-79	60.2%		(114:160)	13.0%		(19:134)
80-89	47.9%		(543:358)	14.8%		(30:178)
90-99	34.2%		(708:768)	22.4%		(61:211)
00-08			(488:939)			

No.6 末広りの家 林雅子

形式	平面形	軒/棟	棟の位置	勾配および対面の勾配
切妻	歪形	水平/斜(同一平面)	中心	一定/同じ
				歪んだ平面形に対し軒を水平にし勾配一定の屋根がかかり中心に位置する棟が傾斜する

図3-1 分析例1

No.63 House SA 坂本一成

形式	平面形	軒/棟	棟の位置	勾配および対面の勾配
寄棟	歪形	傾斜/水平(ねじれ)	回転	曲げ、折れ/異なる
				歪んだ平面形に対し軒が傾斜し、水平の棟が中心軸から回転し、ねじれの位置にある軒、棟がつながれ、ある部分では屋根面がねじれ、ある部分では屋根面が折れ、勾配が変化する

図3-2 分析例2

表3-4 平面形

矩形:口 (65)	歪形:▽ (61)

表3-5 軒、棟の傾きおよび頂点

水平:一	傾斜	頂点:・
	斜: / 弧: 〇	
		方形のみ

表3-6 軒、棟の位置関係

同一平面上	ねじれ:∞
平行: = 非平行: ≠	

表3-7 屋根の勾配

一定:定 (107)	変化 (19)
曲げ:曲 (11)	折れ:折 (8)

表3-8 平面における棟および頂点の位置

中心:中 (20)	偏心:偏 (93)	回転:回 (13)
切妻	寄棟	方形
切妻	寄棟	方形

表3-9 対面する屋根勾配

同じ:同 (35)	異なる:異 (62)

表3-10 軒-棟の位置関係と傾き

軒/棟	位置関係		
	平行 (50)	非平行 (42)	ねじれ (9)
水平/水平 (42)	(40)	(2)	(2)
水平/傾斜 (21)		(17)	(4)
傾斜/水平 (22)		(12)	(3)
傾斜/傾斜 (23)	(10)	(13)	(0)

表3-11 資料リストおよび屋根形の変形

no.	作品名	設計者	掲載誌	形式	平面形	軒	棟	棟位置	勾配	変形	変形パターン
46	編鳥居	五・六・山ノ浦	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
49	FULL HOUSE	川口とし子	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
57	菅谷の家	DESKS	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
59	香福寺の家	大川直治	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
72	SKA	石田敏明	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
75	川口の家	西島正樹	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
80	peccora	安部良	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
89	森を囲まえる家	手塚真由 由比	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
102	松尾の家	佐藤光浩	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
122	7/102	藤田剛司	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
34	カイト スコップ	北村隆夫	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
35	雲山荘	濱口洋子	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
39	壺中天地	藤川智郎	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
64	小杉・森の家	藤原良成	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
83	金野さんの家	アト・アト	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
101	三角敷地の家	藤原良成	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
46	王子の住宅1993	富永暎	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
54	那須の別荘	ソウノ	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
58	田沢湖高原の山荘	萩津野夫	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
90	On	附+計画研究会	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
48	Y子さんの家	石山修武	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
79	連窓の家#3	藤本壮介	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
81	しじま山荘	藤本壮介	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
86	OKU(け)	藤本壮介	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
85	昇龍木舎	橋本計	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
116	鶴山荘	アト・アト	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
104	藤の髪	宇野浩二	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
121	双舟橋の家	山下隆博	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
98	森の家	三浦	建築雑誌	片流れ	▽	—	—	—	—	—	—
9	K邸	小沢行二	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
2	まちなかに建つ小住宅	RIA	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
18	伊豆高原の家	彦達建築設計研究所	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
21	本駒込の住宅1983	富永暎	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
36	白神山の山荘	伊藤昌夫	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
44	森のかがり	加藤義夫	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
51	朝野村の家	伊藤昌夫	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
52	住居No. 18	内藤康	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
60	藤HOUSE	工藤和典	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
65	久喜本町の住宅	岡安雅人	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
66	SSH99	澤野真一	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
78	いの家	彦達建築設計研究所	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
95	東京町家 9坪の家	伊礼智	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
97	カト邸	太田運加	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
98	亀有の家	小川広次	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
106	田口の家	向山敏	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
107	B02	藤原明	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
109	青木	青木	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
111	白州の週末住宅	大塚野村	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
114	東京都家あざみ	伊礼智設計室	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
118	積層の景色	松野勉・相澤久美	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
119	木蘭の家	三分 博志	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
125	Y子さんの家	小泉雅生	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
14	成城の住宅	藤原一男	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
22	手塚の三角屋根2	北海道建築工房	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
68	一平玉川の住宅	佐藤良一	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
82	あがり屋敷の家	若原一貴	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
84	久留和海岸の住宅	木内厚子	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
95	小泉義利用の家	飯田博幸	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
38	鳥山の家	中村好文	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
99	池の本坂の住宅	内藤康行	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
13	もん・しほりま	宮代	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
103	Slanting CAVE	山下隆博	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
6	赤土がりの家	林雅子	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
42	KADK・ハッポ	中山繁信	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
50	グリーンウッド	安山直之	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
71	まぼろしのいえ	中村好文	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
20	西山山荘	中村好文	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
92	Lucky Drops	山下隆博	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
19	海の見える家	林雅子	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
56	自由学園園長公邸	吉岡亮介	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
61	伊豆高原の家	総都安綱	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
91	静岡の家	岩川卓也	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
27	ASTRUM-155	北海道建築工房	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
87	6	伊礼智	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
113	KATA House	加藤紀和子	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
26	テラスハウス	加藤義夫	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
76	眼科医の週末住居	堀池秀人	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
105	多重の景色	松野勉・相澤久美	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
126	酒田の住処	原田真宗/盛流	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
10	池田園	藤原明	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
28	三井の家	藤原明	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
41	浅野T邸	高橋真一	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
47	ART HUT SD	ソウノ	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
4	0さんの小別荘	RIA	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
30	種彦邸	今井秀明	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
37	菊池の家	加藤義夫	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
11	アトの	藤本壮介	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
24	DOMO EL TERO	環境デザイン研究所	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
67	吉岡の家	渡辺純	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
8	合前とコリアの家	波野正昭	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
108	松ヶ丘の家	安田博達	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
110	たわのある家	近藤智雄	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
124	house	福山博之	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
7	もろびでつく	宮橋博	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
45	鎌漕の双曲	石橋徳川建築設計所	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
120	Fuji View House	横川健	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
62	遠藤山荘	新田正樹	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
25	瀬風平野の家	彦達建築設計研究所	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
29	YAH	加藤義夫	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
14	アト・アト	藤本壮介	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
100	中伊豆の別荘	総都弘十 工藤和典	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
115	自由が丘の家	藤原明	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
112	瀬風の週末住宅	野沢正光	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
56	木月	富永暎	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
10	アト・アト	アト・アト	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
33	K邸	吉岡亮介	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
63	HOUSE SA 1999	藤本一敏	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
3	ぼっこ山荘	生田勲	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
9	Kさんの家	坂倉準三	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
12	伊東の週末住宅	内井昭蔵	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
16	ワな方角の家	吉島忠男	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
32	66邸	山崎孝幸	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
49	息の懐む家	伊藤一	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
53	南条日丘の家	木原千利	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
73	南両家の家	小笠原絵理	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
123	白いてんと虫	山下隆博	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
69	アト・アト	アト・アト	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
95	KV111a	明治大学建築設計研究所	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
23	美倉	白澤宏規	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
31	雲山邸	新田正樹	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
11	外山のある家	石井修	建築雑誌	切妻	▽	—	—	—	—	—	—
19	比叡平の家	石黒由紀	建築雑誌	切妻	▽	—	—				

表3-16 屋根形の変形による統合の修飾と各形式

定形	平	軒	棟	間	位	勾	対	片流	切妻	寄棟	方形																																														
<p>矩形の平面形に対し 軒、棟の水平をきめて 棟の位置の偏心に伴って 対面する勾配が異なる</p> <table border="1"> <tr><td>片定</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切定</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>寄定</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>方定</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> </table>	片定	□	-	-	=	中	定	同	切定	□	-	-	=	中	定	同	寄定	□	-	-	=	中	定	同	方定	□	-	-	=	中	定	同																									
片定	□	-	-	=	中	定	同																																																		
切定	□	-	-	=	中	定	同																																																		
寄定	□	-	-	=	中	定	同																																																		
方定	□	-	-	=	中	定	同																																																		
<p><I>軒固定-勾配複合</p> <p>矩形の平面形に対し 軒、棟の水平をきめて 棟の位置の偏心に伴って 対面する勾配が異なる</p> <table border="1"> <tr><td>切A</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>偏</td><td>定</td><td>異</td></tr> <tr><td>寄A</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>偏</td><td>定</td><td>異</td></tr> <tr><td>方A</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>偏</td><td>折</td><td>異</td></tr> <tr><td>切B</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>偏</td><td>折</td><td>異</td></tr> <tr><td>寄B</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>偏</td><td>折</td><td>異</td></tr> <tr><td>方B</td><td>□</td><td>-</td><td>-</td><td>=</td><td>偏</td><td>折</td><td>異</td></tr> </table>	切A	□	-	-	=	偏	定	異	寄A	□	-	-	=	偏	定	異	方A	□	-	-	=	偏	折	異	切B	□	-	-	=	偏	折	異	寄B	□	-	-	=	偏	折	異	方B	□	-	-	=	偏	折	異							(I 棟が内側不在のため成立しない)	<p>切A</p> <p>109</p> <p>切B 勾配変化</p> <p>13</p> <p>寄A</p> <p>25</p> <p>寄B</p> <p>112</p> <p>方A</p> <p>73</p> <p>方B</p> <p>95</p>	
切A	□	-	-	=	偏	定	異																																																		
寄A	□	-	-	=	偏	定	異																																																		
方A	□	-	-	=	偏	折	異																																																		
切B	□	-	-	=	偏	折	異																																																		
寄B	□	-	-	=	偏	折	異																																																		
方B	□	-	-	=	偏	折	異																																																		
<p><II>軒固定-棟解放</p> <p>歪んだ平面形に対し 軒の水平をきめて 一定の勾配で屋根をかけ 結果的に棟が傾斜する</p> <table border="1"> <tr><td>片A</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切C</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>寄C</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切D</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>中</td><td>折</td><td>同</td></tr> </table>	片A	▽	／	／	≠	中	定	同	切C	▽	／	／	≠	中	定	同	寄C	▽	／	／	≠	中	定	同	切D	▽	／	／	≠	中	折	同								<p>片A</p> <p>88</p> <p>切C</p> <p>6</p> <p>切D 勾配変化</p> <p>92</p> <p>寄C</p> <p>56</p>	(II 棟がないため成立しない)																
片A	▽	／	／	≠	中	定	同																																																		
切C	▽	／	／	≠	中	定	同																																																		
寄C	▽	／	／	≠	中	定	同																																																		
切D	▽	／	／	≠	中	折	同																																																		
<p><III>軒解放-棟固定</p> <p>歪んだ平面形に対し 棟の水平をきめて 一定の勾配で屋根をかけ 結果的に軒が傾斜する</p> <table border="1"> <tr><td>片B</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>偏</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>寄D</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>偏</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>方C</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>偏</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切E</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>偏</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>寄E</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>偏</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>方D</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>偏</td><td>定</td><td>同</td></tr> </table>	片B	▽	／	／	≠	偏	定	同	寄D	▽	／	／	≠	偏	定	同	方C	▽	／	／	≠	偏	定	同	切E	▽	／	／	≠	偏	定	同	寄E	▽	／	／	≠	偏	定	同	方D	▽	／	／	≠	偏	定	同								<p>片B</p> <p>101</p> <p>切E 棟偏中心</p> <p>67</p> <p>寄D</p> <p>70</p> <p>寄E</p> <p>33</p> <p>方C</p> <p>31</p> <p>方D</p> <p>77</p>	
片B	▽	／	／	≠	偏	定	同																																																		
寄D	▽	／	／	≠	偏	定	同																																																		
方C	▽	／	／	≠	偏	定	同																																																		
切E	▽	／	／	≠	偏	定	同																																																		
寄E	▽	／	／	≠	偏	定	同																																																		
方D	▽	／	／	≠	偏	定	同																																																		
<p><IV>軒解放-棟回転</p> <p>棟の水平をきめて 回転した棟に対し 一定の勾配で屋根をかけ 軒が傾斜する</p> <table border="1"> <tr><td>切F</td><td>□</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>回</td><td>定</td><td>同</td></tr> </table>	切F	□	／	／	≠	回	定	同								(IV 棟が内側不在のため成立しない)	<p>切F</p> <p>26</p>	<p>方E 頂点偏中心 勾配変化</p> <p>94</p> <p>(IV 棟がないため成立しない)</p>																																							
切F	□	／	／	≠	回	定	同																																																		
<p><V>軒-棟 斜平行</p> <p>軒、棟が平行で 軒、棟が傾斜する</p> <table border="1"> <tr><td>片C</td><td>□</td><td>／</td><td>／</td><td>=</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切G</td><td>□</td><td>／</td><td>／</td><td>=</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切H</td><td>□</td><td>／</td><td>／</td><td>=</td><td>偏</td><td>折</td><td>異</td></tr> <tr><td>切I</td><td>□</td><td>／</td><td>／</td><td>=</td><td>中</td><td>曲</td><td>同</td></tr> </table>	片C	□	／	／	=	中	定	同	切G	□	／	／	=	中	定	同	切H	□	／	／	=	偏	折	異	切I	□	／	／	=	中	曲	同								<p>片C</p> <p>90</p> <p>切G</p> <p>41</p> <p>切H 棟偏中心、勾配変化</p> <p>4</p> <p>切I 勾配変化</p> <p>30</p>	<p>方E 頂点偏中心 勾配変化</p> <p>94</p> <p>(V 棟がないため成立しない)</p>																
片C	□	／	／	=	中	定	同																																																		
切G	□	／	／	=	中	定	同																																																		
切H	□	／	／	=	偏	折	異																																																		
切I	□	／	／	=	中	曲	同																																																		
<p><VI>軒-棟 断片</p> <p>軒、棟が非平行で 軒、棟が傾斜する</p> <table border="1"> <tr><td>片D</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切J</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>中</td><td>定</td><td>同</td></tr> <tr><td>切K</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>≠</td><td>回</td><td>定</td><td>同</td></tr> </table>	片D	▽	／	／	≠	中	定	同	切J	▽	／	／	≠	中	定	同	切K	▽	／	／	≠	回	定	同								<p>片D</p> <p>86</p> <p>切J</p> <p>37</p> <p>切K 棟回転</p> <p>110</p>																									
片D	▽	／	／	≠	中	定	同																																																		
切J	▽	／	／	≠	中	定	同																																																		
切K	▽	／	／	≠	回	定	同																																																		
<p><VII>軒-棟 縫合</p> <p>軒と棟がねじれの位置で ねじれた屋根面をつなぎ 勾配が漸次的に変化する</p> <table border="1"> <tr><td>片E</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>S</td><td>S</td><td>曲</td><td>曲</td></tr> <tr><td>片F</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>S</td><td>S</td><td>曲</td><td>曲</td></tr> <tr><td>片G</td><td>□</td><td>／</td><td>／</td><td>S</td><td>S</td><td>曲</td><td>曲</td></tr> <tr><td>切L</td><td>□</td><td>／</td><td>／</td><td>S</td><td>S</td><td>中</td><td>曲</td></tr> <tr><td>寄F</td><td>▽</td><td>／</td><td>／</td><td>S</td><td>S</td><td>回</td><td>折</td></tr> </table>	片E	▽	／	／	S	S	曲	曲	片F	▽	／	／	S	S	曲	曲	片G	□	／	／	S	S	曲	曲	切L	□	／	／	S	S	中	曲	寄F	▽	／	／	S	S	回	折								<p>片E</p> <p>116</p> <p>片F 棟傾斜</p> <p>104</p> <p>片G 弧状の軒、棟</p> <p>99</p> <p>切L</p> <p>45</p> <p>寄F 棟回転</p> <p>63</p> <p>切M 勾配変化</p> <p>62</p>	<p>(VI 棟がないため成立しない)</p> <p>(VII 棟がないため成立しない)</p>								
片E	▽	／	／	S	S	曲	曲																																																		
片F	▽	／	／	S	S	曲	曲																																																		
片G	□	／	／	S	S	曲	曲																																																		
切L	□	／	／	S	S	中	曲																																																		
寄F	▽	／	／	S	S	回	折																																																		

表中 凡例

<p>平面形(平)</p> <p>□: 矩形</p> <p>▽: 歪形</p> <p>軒/棟の傾き</p> <p>-: 水平</p> <p>/: 斜</p> <p>∩: 弧</p> <p>・: 頂点</p> <p>軒棟の位置関係(間)</p> <p>=: 平行</p> <p>≠: 非平行</p> <p>∞: ねじれ</p>	<p>棟の位置(位)</p> <p>中: 中心</p> <p>偏: 偏心</p> <p>回: 回転</p> <p>一定: 勾配が一定</p> <p>折: 勾配が変化(折れ)</p> <p>曲: 勾配が変化(曲げ)</p> <p>対面する屋根勾配(対)</p> <p>同: 勾配が同じ</p> <p>異: 勾配が異なる</p>
--	--

固定される共通項目
 解放される共通項目
 ④ 解放される部分

付表3-1 資料作品リスト

no.	作品名	建築家	掲載誌	no.	作品名	建築家	掲載誌
1	K邸	小沢行二	sk5705	64	小砂・森の家	梶原良成	jt9909
2	まちなかに建つ	RIA	sk6101	65	久喜本町の住宅	岡安雅人	jt9911
3	ぼっこ山荘	生田勉	sk6210	66	SSH-99	澤野真一	jt0001
4	0さんの小別荘	RIA	sk6310	67	吉備の家	渡辺純	jt0001
5	小屋裏利用の家	飯田勝幸	sk6312	68	二子玉川の住宅	佐藤重徳	jt0007
6	末広がりの家	林雅子	sk6511	69	ハウス・797	アリエ・ワ	sk0103
7	もうびでいっく	宮脇徳	sk6701	70	ハウス・910	アリエ・ワ	sk0103
8	合板とコンクリートの家	野老正昭	sk6704	71	まほうびんのいえ	中村勇大	jt0109
9	Kさんの家	坂倉準三	sk6707	72	SAK	石田敏明	sk0111
10	池田邸	高矢晋	sk6707	73	南阿蘇の家	小笠原絵理	jt0203
11	アリエのある家	石井修	sk6808	74	ダス・ハウス	アリエ・ワ	jt0206
12	伊東の週末住宅	内井昭蔵	sk6906	75	川口の家	西島正樹	jt0206
13	もん・しゃぼう	宮脇徳	sk7002	76	眼科医の週末住居	堀池秀人	jt0206
14	成城の住宅	篠原一男	sk7402	77	隅のわがり	石黒由紀	sk0209
15	海の見える家	林雅子	sk7408	78	蓮窓の家#3	坂牛卓	jt0211
16	歪な方形の家	吉島忠男	sk7708	79	黒い家	菅匡史	jt0301
17	パナハス	環境デザイン研究所	sk8208	80	pecosa	安部良	jt0308
18	伊豆高原の家	岳建築設計研究所	sk8302	81	しじま山荘	藤本杜介	sk0308
19	比叡平の家	ヘ特	sk8302	82	あがり屋敷の家	若原一貴	jt0311
20	戸隠山荘	RE設計事務所	sk8302	83	金指さんの家	ワドウ・アリエ	jt0311
21	本駒込の住宅	富永嬢	sk8408	84	久留和海岸の住宅	木内厚子	jt0407
22	手稲の三角屋根2	北海道建築工房	jt86w	85	昇龍木舎	結設計	jt0407
23	茶舎	白澤宏規	jt8610	86	ORU(オム)	六角美瑠	jt0407
24	DOMO EL TERO	いるか設計集団	jt8611	87	G	青木淳	sk0409
25	濃尾平野の家	笠嶋建築工房	jt8701	88	森を捕まえる家	手塚貴晴+手塚由比	jt0410
26	テラツスト	加藤義夫	jt8710	89	柿の木坂の住宅	内海智行	jt0502
27	パストラム45-5	北海道建築工房	jt8712	90	Oh!	RH+計画研究室	jt0503
28	三界の家	渡辺明	jt8801	91	静岡の家	岩川卓也	jt0502
29	YAH	白旗定幸	jt8802	92	Lucky Drops	山下保博	sk0504
30	龍華荘	今井秀明	jt8805	93	港北M	都留理子	jt0506
31	奥山邸	新田徳雄	jt8806	94	HOUSE MTK	工藤和美+堀場弘	jt0508
32	MG邸	山崎泰幸	jt8807	95	K-Villa	田路研究室	jt0509
33	FUK邸	吉崎存亮	jt8809	96	東京町家 9坪の家	伊礼智	jt0510
34	カインド・スコープ	北村陸夫	jt8911	97	ワード邸	太田理加	jt0511
35	聖山荘	濱口孝三	jt8911	98	亀の家	小川広次	jt0512
36	白樺湖のU山荘	伊藤哲夫	jt9012	99	森の家	三浦慎	jt0512
37	鶴沼の家	仙田満	jt9108	100	中伊豆の別荘	堀場弘+工藤和美	jt0601
38	鳥山の家	中村好文	jt9211	101	三角敷地の家	諸角敬	jt0605
39	壺中天地Ⅲ	黒川哲郎	jt9212	102	松庵の家	佐藤光彦	jt0606
40	綱島邸	玄・ベ・トー・進来	jt9302	103	Slanting CAVE	山代悟	jt0611
41	浅野アリエ	高橋真	jt9304	104	崖の岩	宇野享	jt0702
42	KADK・ハケ岳	中山繁信	jt9311	105	多重の景色	松野勉・相澤久美	jt0702
43	風の棲む家	伊藤真一	jt9402	106	田口の家	向山徹	jt0705
44	長屋のガリア	ヘ特	jt9404	107	B0Z	彦根明	jt0705
45	鶴沼の双曲	石橋徳川	jt9409	108	松ヶ丘の家	安田博道	jt0705
46	王子の住宅1993	富永嬢	jt9411	109	A	青木淳	jt0707
47	ART HUT SD	テラカス	jt9503	110	にわのある家	近藤哲雄	jt0707
48	ドラキュラの家	石山修武	jt9506	111	白州の週末住宅	大塚聡アリエ	jt0710
49	FULL HOUSE	川口とし子	jt9603	112	那須の週末住宅	野沢正光	jt0710
50	ゲラントの家	安山宣之	jt9604	113	KATA House	加茂紀和子	jt0711
51	明野村の家	加藤義夫	jt9607	114	東京町家あずきハウス	伊礼智設計室	jt0712
52	住居No.18	内藤廣	jt9611	115	自由が丘の家	齊藤哲也	jt0712
53	南春日丘の家	木原千利	jt9701	116	鶴山荘	アリエ・ワ	sk0712
54	那須の別荘	テラカス	jt9701	117	F-HOUSE	窪田勝文	jt0801
55	自由学園園長公邸	吉岡亮介	jt9702	118	積層の景色	松野勉・相澤久美	jt0802
56	木月	泉幸甫	jt9707	119	太陽の家	三分一博志	jt0804
57	曾谷の家	DESK5	jt9811	120	Fuji View House	横川健	jt0804
58	田沢湖高原の山荘	荻津郁夫	jt9901	121	放物線の家	山下保博	jt0806
59	善福寺の家	大川直治	jt9903	122	ビアハウス	駒田剛司	jt0808
60	N-HOUSE	工藤和美	jt9905	123	白いてんとう虫	山下保博	jt0808
61	伊豆高原の家	堀部安嗣	jt9905	124	A-house	福山博之	jt0809
62	連磨山荘	新田正樹	jt9907	125	テノハ	小泉雅生	jt0810
63	HOUSE SA	坂本一成	jt9908	126	雨晴れの住処	原田真宏/麻魚	jt0811

第3章 注

- 1) 篠原一男：都市住宅 1969 年 7 月 のなかで、「古い日本住宅の屋根の様式を採用するのは、自然観であるよりは単純な形態がほしいという意図のために選ばれているのである。何よりもそれらの形は日本の国土に十分に対応しうる機能をもっている。だから恣意的な形態のために時間の中で消えていく形よりも、原則的に、いつも古い形を採用しようと思っている。独立住宅をコントロールする何の制約もない今日では、社会と環境に対する謙虚な存在の仕方がもっとも都市的なデザインだとも思っているからである」とあり、屋根の基本的な形式を用いることと風景や街並の問題との関係について述べられている。
- 2) R・ウ・エンチャーリ：ラスベガス，鹿島出版会，1978 のなかで「私たちは、建築における醜くて平凡な象徴主義を論じ、そして、雄弁な正面と何とすることもない背面からなる装飾された小屋の格別な重要性を述べ、つまるところ象徴をつけた覆いとしての建築を論じよう。」と述べられており、イコン的な建築のあり方が述べられている。
- 3) 面を線の連続的移動によって形成されると考えると、面を形成する要素が直線であるものを直線要素という。須藤利一：図学概論，東京大学出版会，1961 年
- 4) 複曲面の定形はドームであるが、日本の現代住宅ではその変形と呼べるものはみられなかった。また近年のコンピューターグラフィックによる自由曲面の覆いをもつ建築表現がみられるが、定形をきめることができないため、複曲面の屋根は分析対象にしていない。
- 5) 修辞とは一般に言語に関する表現の方法を意味するものであるが、建築における構成の修辞とは、歴史的建築の引用や伝統的な規範からの逸脱などの建築の文化的規範を前提とした意味内容に対する建築の実体による操作であるが、ここでは屋根の形式を前提に、そこから逸脱した性格を与える操作を屋根による修辞としている。
- 6) 切妻屋根において、軒、棟が水平、軒、棟が平行、勾配一定で対面する勾配が同じものを定形としている。
- 7) 屋根の変形による統合の修辞を実線の囲みとし、そのなかで変形される部分の共通項目を点線の囲みとした。実線の囲みに入らない切 M は定形の勾配を変化させたのみ、方 E は〈III〉の修辞に近いが平面形の歪みはなく、屋根面の折れによって軒の傾きが生じており、統合の修辞には入れなかった。

第4章 寢室の開放による構成の修辞

第1節 本章の目的と概要

第2節 開放型寢室の形式と性格

第3節 寢室の開放による構成パターン

第4節 寢室の開放による構成の修辞

第5節 小結

第1節 本章の目的と概要

寝室は個人のプライバシーが求められる場所であるため、界壁や間仕切り、建具によって、居間、ダイニングなどの家族の共有部分とは仕切られることが多い^{注1)}。こうした一般的な傾向に対して、現代日本の建築家の作品のなかには、寝室を個室として分離するのではなく、開放的な設えによって居間などの共有部分と連続した領域をつくるものがみられる。この共有部分と寝室部分の空間の連続性には、プライバシーの確保との矛盾^{注2)}や、一日の居場所の時間的な変化によって、居間、ダイニングといった共有部分どうしの連続性や内外の連続性とは異なる種類の緊張を孕むことから、その空間構成には豊かな修辭的表現が生み出されるものと考えられる。そこで本研究では、共有部分に開放された寝室を「開放型寝室」^{注3)}、寝室と共有部分が連続した領域を「連続領域」と呼び、その空間的な特徴を検討することから、寝室の開放による構成の修辭^{注4)}を明らかにすることを本章の目的とする。

研究資料としては、1953年以降に『新建築』誌および『新建築住宅特集』誌に掲載された別荘や週末住宅を除く住宅作品のうち、開放型寝室をもち、平面図、断面図、写真などで空間構成が把握できるもの129作品を対象とした。開放型寝室はリビングやダイニングや階段ホールなどの就寝以外の用途に供する共有部分と連続した領域のなかにあるため、開放型寝室の位置は、ベッドなどの寝具や畳が図面表記されている場所、あるいは寝室、ベッドルームに類する名称が図面表記されている場所を、実際に身体を横たえて寝るという行為がおこなわれると捉えることにした。これらの資料作品の寝室数を調べたところ、1つの開放型寝室を有するものが98作品、複数の開放型寝室を有するものは31作品あり、それらを合計すると170の開放型寝室がみられた(表4-1)。開放型寝室をもつ作品数の割合を年代別に整理したところ、50年代から90年代までは少なく、2000年代以降に増加していることがわかった(表4-2)。まず開放型寝室が主室などの共有部分との分節の形式、視線が連続するか遮断されるかといった視線による性格、寝室が建物のどこに位置するかといった動線による性格を検討する。また屋根や開口などの建築部位との関係を検討する。

次に検討項目の組み合わせから寢室の開放による構成パターンを抽出し、それらと比較することから寢室の開放による構成の修辭を導く。

第2節 開放型寝室の形式と性格

2.1 開放型寝室の形式と性格

分析例（図4-1）では、濃グレーで示した和室や水回り以外の室は間仕切りによって区画されず、空間的に連続している。これらの連続領域を分析すると、居間と寝室は床の高低差によって領域が分節されており、寝室は2階の奥にあることで動線的には末端である。また大きな吹き抜けを介して寝室側から居間を見下ろすことができる。平天井が主室と寝室の両方を覆っており、寝室側には小さな開口が設けられている。このように主室と寝室との間の分節、視線や動線との関係、建築部位との関係によって開放型寝室を分析していく。

まず開放型寝室を含む連続領域の空間的特徴として、寝室部分とリビングやダイニングなどの共有部分との分節の形式を検討する。連続領域内にある寝室部分と共有部分が段差のない平坦な床で繋がれ、床、天井を共有する〈隣〉、天井を共有するが、段差によって床が分離される〈段〉、同じく天井は共有しており床が分離され、その床下に室が設けられている〈積〉、天井、床ともに分離される〈層〉に分けたところ、〈隣〉が最も多く、次いで〈積〉、〈層〉、〈段〉の順に多くみられた（表4-3）。次に寝室部分と共有部分との視線的な関係から視線による性格を検討すると、寝室部分と共有部分で視線のやりとりができるものを〈連続〉とし、その両方から視線のやりとりができるもの〈連続（両側）〉、床の高低差によって片側からのみ視線のやりとりができるもの〈連続（片側）〉、背丈よりも高い障壁によって視線が遮られるものを〈遮断〉として開放による性格を整理した。（表4-4）。分節の形式と開放による性格との関連をみると、寝室部分と共有部分に高低差のない〈隣〉では片方から視線のやりとりができるものはなく、視線のやりとりが遮断されるものが多く、天井を共有しながらも床が分離される〈段〉や〈積〉では両方、片方から視線のやりとりができるものが多くみられた。天井、床ともに分離される〈層〉では視線のやりとりが遮断されるものが多くみられた（表4-5）。また寝室部分が建物全体の中でどのような位置にあるかで、そのプライバシーの度合いが異なると考えら

れることから、その平面的、断面的な位置について調べたところ、動線的に端部にあるものを端、入口が2ヶ所以上あるものを中とした。全資料を調べたところ、平面、断面的にも端にあるものが最も多く、平面的には端で断面的には中、平面的には中で断面的には端、平面、断面とも中が同数程度みられた。これらの動線による性格を平面、断面とも端のものを〈末端〉とし、それ以外を〈非末端〉として整理した(表4-6)。これら動線による性格と視線による性格から、視線的には連続しているが動線的には末端となる〈連続末端〉、視線の連続および動線的には末端とならない〈連続非末端〉、視線的なやりとりが遮断され、動線的に末端である〈遮断末端〉、視線が遮断されるが、動線的には末端とならない〈遮断非末端〉といったあり方を開放型寢室の視線による性格と動線による性格としてまとめた(表4-7)。

2.2 開放型寢室と建築部位

開放型寢室の空間的特徴は天井や開口といった建築部位との関係からも捉えることができる。開放型寢室における天井についてみると、平天井のものがほとんどであるが、屋根の形状が勾配天井としてあらわれるものが49寢室みられた。開口についてみると、寢室に開口がないものやあるいは小さな開口を設けるものが多くみられるが、寢室に大きな開口を設け、外とのつながりを確保するものが32寢室みられた。地面との関係についてみると、地下室を設け、そこを寢室とするものが10寢室と少数であるがみられた。またベッドや布団などの寝具は部屋や室に置かれるほとんどであったが、寝具がちょうど入るようなアルコーブに納められるものが34寢室みられた。これらは納戸や収納、水回りとまとめられるものもあり、寝るという行為が身体を収納することと関連づけられていると考えられる。

第3節 寝室の開放による構成パターン

共有部分と個人のプライバシーが求められる寝室部分のあいだの空間の連続性のあり方として、前節では、開放型寝室の空間的特徴を分節の形式、視線による性格、動線による性格、建築部位との関係を検討してきた。本節ではこれらの異なる要因の組み合わせとして寝室の開放による構成パターンを導く。

まず開放型寝室の分節の形式を縦軸に設定し、視線による性格および動線による性格を横軸に設定し、マトリクスを作成した。全資料をプロットし、さらに建築部位との関係について共通するものを囲みとしてあらわした(表4-9)。これらの組み合わせが5資料以上のものを寝室の開放による構成パターンとして抽出した。

共有部分と寝室部分とのあいだに段差がなく平坦に寝室と接している〈隣〉にはパターン〈ア〉×イ×ウ×エ〉がみられた。そのうち、部分的な間仕切りや衝立によって視線が遮断され、住宅の動線の末端に位置する〈ア〉は寝具がアルコーブに納められているものである。寝室部分と共有部分との間に間仕切りがなく視線が連続し、動線的に末端に位置する〈イ〉は大開口によって外との連続がみられるものである。間仕切りによって視線を遮断しながらも寝室への動線を2つ以上確保することで非末端となる〈ウ〉のうち〈ウ-1〉は大開口によって外との連続がみられるものであり、〈ウ-2〉は勾配天井によってひとつの連続した屋根の下に寝室と共有部分がおさめられているもので、〈ウ-3〉は寝具が動線の途中にあるアルコーブのなかに納められている。視線的に連続し、動線的に非末端である〈エ〉は動線の途中にあるアルコーブに寝具が納められるものである。

段差によって寝室部分と共有部分が分節されるパターン〈オ〉、〈カ〉がみられ、間仕切りがなく視線的に連続しているものである。そのうち動線の末端に位置する〈オ〉は段差の最も上端に位置し、勾配天井があらわれているもので、非末端に位置する〈カ〉は主室より下の段に位置し、かつ段差が連続する途中に寝具が設えてある。

吹き抜けによって寝室と主室が連続し、寝室部分から共有部分を見下ろすことが

できる〈積〉には、パタン〈キ〉、〈ク〉がみられ、動線的に末端である〈キ〉のうち〈キ-1〉では平天井であったが、〈キ-2〉ではひとつの連続した勾配天井が共有部分と寝室部分に架けられることで、両方の空間を統合している。動線的に末端でない〈ク〉は中間階や動線の途中で寝具が設えられており、主室を見下ろすことができる寝室部分が他の共有部分に見下ろされることになる。

床が垂直方向に積層し、ドアなしの諸室を階段によって繋ぐ〈層〉には、〈ケ〉、〈コ〉がみられ、共有部分との視線が遮断され、動線的に末端に位置する〈ケ〉のうち、〈ケ-1〉は積層された空間の最上階に位置し、〈ケ-2〉はさらに大開口によって外との連続がみられるもの、〈ケ-3〉は勾配天井があらわれることで屋根裏のような空間となっている。〈ケ-4〉は垂直方向に広がった空間の最下階である地下室を寝室にしているもので、地下にいる経験と寝るという行為を重ねている。視線が遮断され、動線の末端にない〈コ〉は垂直方向に広がった空間の上端や下端に位置せず、積層された諸室の途中で寝具が設えられている。

ここでそれぞれの分節の形式についてみると、段差がない〈隣〉では、視線を遮断しつつ動線的な末端にならない構成をとる傾向がみられる。立体的な構成である〈段〉、〈積〉では視線を連続させるものが多くみられ、特に〈積〉では動線的な末端に位置づけられている傾向がみられ、寝室部分から共有部分を見下ろすという関係をつくろうとしているものと捉えられる。それに対し〈層〉では床の積層によって視線が遮断されるものが多く、寝室部分が最上階のような動線の末端に位置する傾向がみられる。

また複数の開放型寝室を有する住宅作品について着目すると、分節の形式、開放による性格、動線による性格ともに同じものが最も多く、複数の開放型寝室に同一性をつくろうとする傾向がみられた(表4-10)。

第4節 寝室の開放による構成の修辞

本節では前節で得られたパターンを比較することで、寝室の開放による構成の修辞を検討する。まず分節の形式をみると、段差がない空間の連続の中に開放型寝室を位置づけようとする〈隣〉を水平方向の広がりともれば、床の積層による立体的な空間の連続の中に開放型寝室を位置づけようとする〈層〉は垂直方向の広がり、段差や吹き抜けによる〈段〉、〈積〉は斜方向の広がりの中に開放型寝室を位置づけるものと捉えることができる。これらを縦軸に設定し、末端 / 非末端といった動線による性格を横軸に設定し、前節で得た寝室の開放による構成パターンを布置した(表4-11)。さらに開放型寝室と建築部位との結びつきを重ねて検討することから、寝室の開放による構成の修辞を、共有部分と寝室部分の区別に、どのような空間的な対比が重ねられているかという観点から導く。

〈隣〉に分類される水平方向の構成パターンは、視線や動線による性格に着目すると、連続末端、遮断末端、連続非末端、遮断非末端のそれぞれでみられ、建築部位に着目すると、アルコーブに寝室をおさめる構成パターンが多くみられたため、末端 / 非末端の分類よりアルコーブの有無を強い特徴として捉えた。段差のない空間の連続のなかで、寝具がアルコーブに納められる〈ア〉、〈ウ-3〉、〈エ〉は共有部分と寝室部分の区別に〈大小の対比〉を用いるものといえる。それに対し、〈イ〉、〈ウ-1〉、〈ウ-2〉は段差のないワンルームに寝具や間仕切りが置かれることで居間と寝室が等価に併存し、共有部分と寝室部分の区別に〈空間的な対比を用いない〉ものである。特に〈イ〉、〈ウ-1〉は開口によって内外との連続を強めており、〈イ-2〉はひとつの連続した屋根が共有部分と寝室部分に架かることで両方の空間を統合している。

〈段〉、〈積〉に分類される斜方向の構成パターンは視線的に連続するもののみであったため、動線による性格によって違いが捉えられる。斜方向の広がりの中で末端に位置する〈オ〉、〈キ-1〉、〈キ-2〉は寝室部分から共有部分を見下ろせ、逆に共有部分は上から見られるといった共有部分と寝室部分の区別に〈見る / 見られるの

関係〉を用いるものといえる。特に〈オ〉、〈キ-2〉はひとつの連続した屋根が共有部分と寝室部分に架けられ、両方の空間を統合するものである。それらに対し、寝室が非末端に位置する〈カ〉、〈ク〉は、斜方向の広がりの中で段差や動線の途中にあることで、共有部分を見下ろせる寝室側が、さらに他の室から見下ろされることになり、〈見る / 見られるの関係の反復〉のなかに共有部分と寝室部分を位置づけるものである。

〈層〉に分類される垂直方向の構成パターンでは視線が遮断されるもののみであったため、動線の性格によって違いが捉えられる。垂直方向の広がりの中で寝室が末端にある〈ケ-1〉、〈ケ-3〉は積層された諸室の最上階に位置し、上方を寝室部分に、下方を主室などの共有部分にすることから、共有部分と寝室部分の区別に〈上下の対比〉を用いるものといえる。これらは水平方向に広がる段差のないワンルームとは異なり、住宅の空間が垂直方向に開放性を求めた結果、プライバシーを担保するものが建物の上端になったものであると考察できる。それらに対し、非末端に位置する〈コ〉は、垂直に広がる空間によってつくられる上下の対比に寝室部分と共有部分が対応せず、中間階や動線の途中に寝室が位置するものであることから、共有部分と寝室部分の区別を〈上下の対比からずらす〉ものといえる。寝室が末端に位置し、かつ屋根や地下といった建築部位に特徴づけられる〈ケ-2〉、〈ケ-4〉は、垂直に広がる空間によってつくられる上下の対比に加え、屋根裏という天の下に、地下室という地面の中に隣接する感覚を与える^{注5)}ことで共有部分と寝室部分の区別を〈天地の対比〉によって際立たせる修辞であるといえる。

以上から、開放型寝室を含む空間の連続性のなかで、共有部分と寝室部分の区別に空間的な対比が投影されることで、一体空間に不均質さをつくる構成の修辞が生み出されることを明らかにした。すなわち、共有部分と寝室部分の区別に〈大小の対比〉、〈見る / 見られるの関係〉、〈上下の対比〉、〈天地の対比〉を用いるもの、それらに対し共有部分と寝室部分の区別に〈空間的な対比を用いない〉、〈見る / 見られるの関係の反復〉する、〈上下の対比からのずれ〉として、寝室の開放による構成の修辞が明らかになった。

第5節 小結

以上、本章では開放型寝室をもつ現代日本の住宅作品を対象に、開放型寝室の分節の形式、視線による性格、動線による性格、さらに開放型寝室と建築部位との関係を捉え、これらの分析項目の組み合わせから寝室の開放による構成パターンを導いた。家族の共有部分と個人のプライバシーが求められる寝室部分のあいだの空間の連続性には、共有部分と寝室部分の区別に空間的な対比が投影されることによって一体空間に不均質さをつくる構成の修辞が生み出されることを明らかにした。具体的には、共有部分と寝室部分の区別に、〈大小の対比〉、〈見る／見られるの関係〉、〈上下の対比〉、〈天地の対比〉を用いるもの、それらに対し、〈空間的な対比を用いない〉、〈見る／見られるの関係の反復〉、〈上下の対比からのずれ〉、として寝室の開放による構成の修辞が明らかになった。

表4-1 分析資料

資料	作品数	寝室数	
		開放型	個室
開放型寝室 1つもつ	98	98	14
開放型寝室 複数もつ	31	72	6
合計	129	170	20

家族構成
 単身:9, 夫婦:66, 親子:46, 二世帯:8

表4-2 年代別にみた作品数の割合

年代	作品数の割合	作品数
全作品	4.2%	129/3042
53~59	4.2%	7/165
60~69	0.5%	2/369
70~79	0.5%	1/203
80~89	1.1%	5/441
90~99	1.7%	17/959
00~08	8.5%	77/905

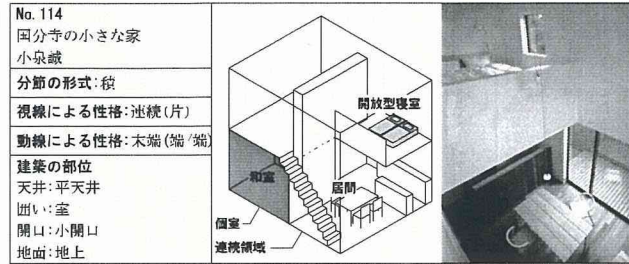


図4-1 分析例1

表4-3 分節の形式

隣 (56)	段 (26)	積 (50)	層 (38)
床, 天井の共有	床の分離, 天井の共有	床の分離, 天井の共有	床, 天井の分離
 (56)	 上 (9) 下 (17)	 上 (46) 下 (2)	 上 (26) 下 (12)

表4-4 視線による性格

連続	遮断
 両側 (49)	 片側 (32)
(89)	

表4-5 分節の形式と視線による性格

	両側	片側	遮断
隣	16	40	
段	16	2	8
積	15	30	5
層	2	0	36

表4-6 動線による性格

平断	端	中
端	 末端 (93)	 (24)
中	 (32)	 非末端 (21)

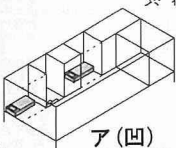
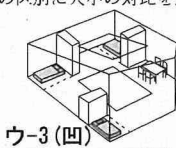
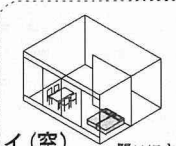
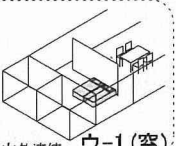
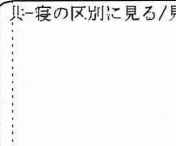
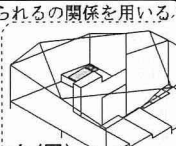
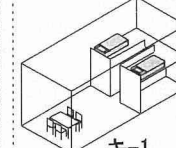


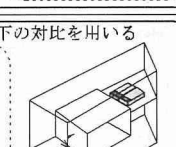
表4-7 視線による性格と動線による性格

動視	末端	非末端
連続	 連続末端 (52)	 連続非末端 (29)
遮断	 遮断末端 (41)	 遮断非末端 (48)

表4-8 開放型寝室と建築部位

天井	開口	地面	囲い
 平天井 (117)	 小開口 (138)	 地上 (160)	 室 (136)
 勾配天井: 人 (49)	 大開口: 口 (32)	 地下: ◆ (10)	 アルコーブ: 人 (34)

表4-11 寝室の開放による構成の修辞

区分	末端	非末端
水平方向 隣	共-寝の区別に大小の対比を用いる	
	 <p>ア(凹)</p>	 <p>ウ-3(凹)</p>
斜方向 段・積	共-寝の区別に空間的な対比を用いない	
	 <p>イ(窓)</p>	 <p>ウ-1(窓)</p>
垂直方向 層	共-寝の区別に見る/見られるの関係を用いる	
	 <p>キ-1</p>	 <p>キ-2(屋)</p>
垂直方向 層	共-寝の区別に上下の対比を用いる	
	 <p>ケ-2(窓)</p>	 <p>ケ-1</p>
垂直方向 層	共-寝の区別を天地の対比によって際立たせる	
	 <p>ケ-3(屋)</p>	 <p>ケ-4(地)</p>

付表4-1 資料作品リスト

no.	作品名	設計者	掲載誌	掲載数	家族構成
1	宮環親徳の家	清家清	sk5311	1	夫婦+子供1
2	小さなすまい	木村昭也	sk5505	1	夫婦
3	私の家	清家清	sk5703	1	夫婦
4	VILA COUCOU	吉阪隆正	sk5712	1	夫婦
5	段地に建つ家	林桂子	sk5809	1	夫婦
6	スカイハウス	菊竹清訓	sk5901	1	夫婦
7	7坪の小住宅	青藤英彦	sk5906	1	夫婦
8	すまい	藤本忠善	sk6501	1	夫婦+子供1
9	金子邸	高須賢吾	sk6901	3	夫婦+子供2
10	北山・住宅	白沢宏規	sk7502	1	夫婦
11	福行邸	福行俊治	jt8609	1	夫婦
12	グラスハウス (池田邸)	pie	jt8704	1	夫婦
13	松見町の家 (H&M)	江原	jt8709	2	夫婦+子供2
14	田中邸	高橋おさむ	jt8709	1	夫婦
15	GAMERA	鈴木エドワード	jt8807	2	夫婦+子供1
16	馬橋の住宅	中村好文	jt8801	1	夫婦
17	L HOUSE	金相珍	jt9011	1	単身
18	上栗の家	森本隆	jt9102	2	2世帯 (親夫婦+夫婦)
19	塚中実地Ⅱ/海老沢邸	奥川哲郎	jt9108	2	2世帯 (夫婦+子供3)
20	法行庵邸	海建築工房	jt9207	1	夫婦
21	奥沢の家	前田光一	jt9305	1	夫婦
22	藤-II	倉持全孝	jt9307	1	夫婦
23	白鳥の家	小林克弘	jt9411	1	夫婦
24	BARN-4	吉本剛	jt9701	2	2世帯 (親夫婦+夫婦+子供1)
25	三宮の家	吉成文+鹿野信哉	jt9701	3	2世帯 (母+夫婦+子供1)
26	野田の家	WIZ ARCHITECTS	jt9703	2	2世帯 (母+夫婦+子供1)
27	下仁田の家	小沢明	jt9708	1	夫婦
28	蓮岩下の家	山之内裕一	jt9709	1	夫婦
29	箱の家-14	難波和彦	jt9801	2	夫婦+子供1
30	箱の家-7	難波和彦	jt9801	2	夫婦+子供4
31	秋後の家	遠坂空樹	jt9801	1	夫婦
32	アニー・ハウス	アトリエ・ワン	jt9802	1	夫婦+子供2
33	カムフラージュハウス1	井口浩	jt9802	1	夫婦
34	LIME HOUSE (お)	北山慎	jt9803	2	夫婦
35	A LITTLE HOUSE	白川直行	jt9805	2	夫婦+子供2
36	大きな空間と小さな空間	堀内誠	jt9805	1	単身
37	考え事の家	タカマシヨシコ	jt9811	1	夫婦
38	「塵に住むひと」の家	鳥好常	jt9808	1	夫婦
39	HOUSE SA	坂本一成	jt9908	3	夫婦+子供1
40	9912/U-residence	A studio	jt0003	2	夫婦+子供1
41	L	青木隆	jt0004	3	夫婦+子供2
42	五輪みなむらの家	手塚貴晴	jt0008	1	夫婦
43	A-Y-Y	片岡聖典	jt0009	1	夫婦
44	バルコニーの家	手塚貴晴+手塚由比	jt0011	1	夫婦+子供1
45	つなね2-01	阿久津友嗣	jt0012	1	夫婦
46	世田谷上町の家	田井幹夫	jt0101	1	夫婦
47	大和の家	大塚亮	jt0102	1	夫婦
48	空野の家	長谷大	jt0103	2	夫婦+子供1
49	安城のスタジオ	竹山健	jt0103	1	単身
50	ふたりの家	林敬一	jt0104	1	夫婦
51	BARN-5	吉本剛	jt0110	1	夫婦+子供2
52	川妻の住宅	内海智行	jt0112	1	夫婦
53	代沢邸	pie	jt0201	3	夫婦+子供1
54	ペニシ三角舎の家	塩塚	jt0201	1	夫婦
55	ちっちゃな家#1	杉浦伝宗	jt0203	1	夫婦
56	F1-ガレージ	横河健	jt0206	2	夫婦+子供1
57	ダス・ハウス	アトリエ・ワン	jt0206	1	夫婦
58	川口の家	西島正樹	jt0206	2	夫婦+子供2
59	敷地のステップハウス	手塚貴晴+手塚由比	jt0206	1	夫婦
60	船	横河健	jt0208	1	夫婦
61	ペンギンハウス	アトリエ・天人	jt0210	1	夫婦
62	短形の森	五十嵐肇	jt0212	1	夫婦
63	藤の家-50	松葉カ+テレデザイン	jt0302	1	単身
64	箱の家-50	難波和彦	jt0304	2	夫婦+子供1
65	真ヶ谷の住宅	内田洋行	jt0304	1	夫婦
66	空を縛る家Ⅲ	手塚貴晴+手塚由比	jt0307	1	夫婦
67	DEVISE #9	前田紀典	jt0308	1	夫婦
68	SoHo	宮本佳明	jt0309	1	夫婦
69	ガエ・ハウス	アトリエ・ワン	jt0310	1	夫婦
70	段の家	田辺生	jt0311	1	夫婦
71	回(カイハウス)	中藤留也+中佐昭夫	jt0401	1	夫婦
72	ヨコハマハウス	安立悦子	jt0402	2	夫婦+子供1
73	引き出しの家	nendo	jt0404	3	夫婦+子供4
74	積層の家	大谷弘明	jt0405	1	夫婦+子供1
75	セル・ブリック	アトリエ・天人	jt0405	3	母+子供2
76	アイスハウス	アトリエ・ワン	jt0405	1	夫婦
77	トラス下の矩形	五十嵐肇	jt0409	3	夫婦+子供2
78	atu house	塩塚隆生	jt0410	1	夫婦+子供2
79	クス・ハウス	アトリエ・ワン	jt0410	1	夫婦+子供1
80	砲島のハウス	西沢大良	sk0411	1	単身
81	Lucky drops	山下隆博	jt0504	1	夫婦
82	LOFT HOUSE	小川博	jt0508	1	夫婦
83	B house	atelier A5	jt0508	2	2世帯 (親夫婦+夫婦)
84	ホルニストの家	二藤浩+古谷清寿	jt0510	1	夫婦
85	アコ・ハウス	アトリエ・ワン	jt0511	1	夫婦
86	ガク・ハウス	アトリエ・ワン	jt0601	2	夫婦+子供1
87	南青山の家	坂倉建築研究所	jt0602	1	夫婦
88	Double blind	上田和子+坂野修崇	jt0602	1	夫婦
89	6.6	オデッセイ オプティカ	jt0604	2	夫婦+子供2
90	大津の住宅	戸田清也	jt0604	1	夫婦+子供3
91	おおつ野の家	小平恵一	jt0605	1	夫婦
92	松山の住宅	末光弘和+末光陽子	jt0605	2	夫婦+子供3
93	moving box	新堀秀一	jt0605	1	単身
94	A	米田明	jt0606	1	夫婦
95	e-HOUSE	福島加津也	jt0607	3	夫婦+子供1
96	RSH : 2	岸本和彦	jt0608	3	夫婦+子供2
97	kn	長田直之	jt0608	1	単身
98	△の家	小嶋良一	jt0609	1	夫婦
99	タカギハウス	宇野浩太郎	jt0609	3	母+子供2
100	富士見の家	藤本俊介	jt0609	3	夫婦+子供2
101	海と山と空の家	伊藤寛	jt0610	3	2世帯 (親夫婦+夫婦+子供1)
102	K&B	藤本俊介	jt0611	1	夫婦+子供1
103	ANNEX A	五十嵐肇	jt0612	2	母+子供1
104	HOUSE A	西沢立博	sk0703	1	単身
105	ハウス・タワー	アトリエ・ワン	jt0703	1	夫婦
106	コトバノイエ	矢野謙也	jt0706	2	夫婦+子供2
107	日本橋 川辺の家	西島正樹	jt0706	3	2世帯 (夫婦+母+子供1)
108	頼の浦のアトリエ	宮森洋一郎	jt0707	1	夫婦
109	曾我邸邸	曾我部昌安+丸山美紀	jt0707	2	夫婦+子供1
110	THEY?	前田紀典	jt0708	1	夫婦+子供1
111	都筑の家	住野	jt0711	2	夫婦
112	KATA House	加藤紀和子+藤田・野村/ワ	jt0711	3	夫婦+子供2
113	ホワイトロ	塚田修大	jt0712	1	夫婦
114	園分寺の小さな家	小島誠	jt0712	1	夫婦
115	H.T.邸-櫻庵	横河健	jt0712	1	夫婦
116	子秋木の家	新堀秀一	jt0801	1	夫婦
117	F-HOUSE	窪田陽一	jt0801	1	夫婦
118	Hall House 1	竹口健太郎+山本麻子	jt0802	1	夫婦
119	積層の灰色	松野勉+相澤久美	jt0802	1	夫婦
120	筒の家	岩瀬未生	jt0803	2	夫婦+子供1
121	深見の住宅	ワークステーション	jt0805	2	夫婦+子供1
122	品川の家	堀直樹+安田朋子	jt0807	1	夫婦+子供3
123	半堂のアトリエ	手塚貴晴+手塚由比	jt0807	1	夫婦
124	松原の住宅	小谷研	jt0808	1	夫婦
125	ピアノハウス	駒田剛司+駒田由香	jt0808	1	夫婦
126	house N	藤本俊介	sk0809	1	夫婦
127	DOUBLE GUGE	大河内学+藤田昭代	jt0810	2	夫婦+子供1
128	SUNING	米田明	jt0811	1	夫婦
129	生島文庫	アトリエ・ワン	jt0811	3	夫婦+子供3

第4章 注

- 1) 寝室や子供室といった私的部分の個室化と居間や家族室など共有部分の開放性については、鈴木成文：住まいの計画 住まいの文化，彰国社，1988.11 のなかで「これまでの住宅は結局一室的で、間仕切りも不完全である。家族人数や家族構成によって居住部分の区分の要求は異なるが、子供のある家族では、少なくとも家族全員がくつろげるほどの広さをもつ部分と、この部分から相当隔離された勉強・読書・仕事（家事を含む）等ができる部分をもつことが必要であろう。後者はさほど広くなくてもよいが、基本寝室と一致させ壁で仕切ってもよいのではあるまいか。前者には居住者の家族構成や生活の仕方に応じた住み方のできるゆとりがほしい。」と述べられている。
- 2) プライバシーの確保と空間の連続性の間の矛盾の例が、C・アレグザンダー：パタンランゲージ，鹿島出版会，1984.12 で論じられている。寝室の関わる環境形成のパタンについての記述で「一方の極端なやり方は、子供をみな大部屋 - 1つの共用寝室 - に入れることができよう。その対極としては、各人が個室をもつような配置が考えられる。さらにこの両極の中間として、子供たちが部屋というほど広くないが自分だけの小さな個人空間を所有し、それが共用の遊戯空間の周りに房状に取り付いている配置がある。この両極例は不適當であり、子供の生活に依存する力の対立を解消するのは、クラスター状に配置したアルコーブのようなものが必要になる。」とある。
- 3) 「開放型寝室」と類した表現として、笠嶋 泰・今井 正次・松本 壮一郎：寝室の位置関係からみた住宅内ゾーン概念の提案：ライフステージによる住み方変化の研究2，日本建築学会計画系論文集，第428号，pp.137-145，1991.10 において、「オープン域」という言葉が用いられている。LDKおよび、それに隣接する寝室を「オープン域」、LDKと廊下によって連結されることで、直接LDKとつながらない寝室を「隔離域」とし、オープン域にある寝室は、壁や間仕切りによって分節された個室であっても、LDKと動線的に直接つながっていれば、オープン域と定義している。本論では、壁や間仕切り、建具によって区画された寝室を「個室寝室」として捉え、壁や間仕切りによって区画されず、連続した領域の一部が寝室となっているものを「開放型寝室」と定義している。
- 4) 修辞とは一般に言語に関する表現の方法を意味するものであるが、建築における構成の修辞とは、建物の実体の構成法による表現を指す。建物の実体を構成する要素を性格の異なるものの選択可能性（範列関係）とそれらの結合のしかた（統辞関係）としてみたときの建築における構成の表現のことをいう。本章での寝室の開放による構成の修辞とは、分節の形式や視線、動線との関係なかに選択の可能性が生じ、それらの組み合わせによる構成の表現のことを指している。

- 5) ガストン・バシュラール 岩村行雄訳：空間の詩学，思潮社，1969.1 初版仏語 1957
において、第1章 家 地下室から屋根裏まで 小屋の意味において「鉛直性は地下室と
屋根裏部屋という極性によって裏づけられる。この極性のしるしはたいへん深くおよん
でいるため、想像力の現象学にたいしていわばひどくことなつた二方向をひらいてみせ
る。事実ほとんど注釈をつけなくとも屋根の合理性と地下室の非合理性を対比すること
ができよう。屋根はただちに自分の存在理由をかたる。それは雨や太陽をこわがる人間
をまもるのだ。どんな国でも屋根の勾配が風土の一番の確かなしるしの一つだというこ
とを、地理学者たちはたえず、われわれにおもいださせる。われわれは屋根の傾斜を「理
解する」。夢想家でさえも理性的に夢みる。屋根のあたりでは、思考はみな明快だ。屋
根裏部屋では、かれにとっては、尖った屋根は厚い雲を切断する。屋根のあたりでは、
思考はみな明快だ。屋根裏部屋では、むきだしの力強い骨組みをみてたのしむ。われわ
れは大工の堅固な幾何学にあずかるのだ。地下室に関しては、われわれはおそらくこれ
を有用なものと考えることだろう。その便利さをかぞえあげて、合理化することであろ
う。しかしこれはまず家の暗い存在であり、地下の力をわけもつ存在なのだ。これを夢
みることによって、われわれは深部の非合理性と接触する。(略)地下室の壁は土中に
埋もれた壁であり、うしろには大地全体がひかえた、片面の壁であるということをしっ
ている。」とあり、屋根裏、地下室の象徴性について述べられている。

第5章 収納の集約による構成の修辞

第1節 本章の目的と概要

第2節 集約された造り付け収納の空間的特徴

第3節 収納に集約による構成パターン

第4節 収納に集約による構成の修辞

第5節 小結

第1節 本章の目的と概要

住宅は人が住む場所であるため、様々な日用品や趣味の物が蓄積される^{注1)}。そこで生活する人によって物が整理整頓されているか、乱雑に散らかっているかという物の配列の違いが、内部空間の性格を創出する。生活者のみが物による空間の性格に関われるというわけではなく、設計者は建築の構成という生活のための物理的な初期条件を決めることによって、その後の生活によってもたらされる物の配列を誘導することができる。このような物の配列を誘導する建築の構成要素として収納があげられる。一般的には、タンスや押し入れなどをそれぞれの部屋に設けることで、物は住宅の中に分散して置かれている。これに対し、計画の段階で設計者が収納を造り付けることで物は集約され、造り付け収納は外壁や仕切りなどの建築部位と重ねられることになる。集約した造り付け収納によってできた「物の領域」^{注2)}には、人の自由な回遊や、長時間の滞留が及ばないため、住宅のなかに人の居場所である「人の領域」と物の集積による「物の領域」という2つの領域の関係^{注3)}が生じることになる。集約した造り付け収納と建築部位の関係、および物の領域と人の領域による関係には、修辭的な表現が成立すると考えられる。そこで本章は集約した造り付け収納による構成の修辭^{注4)}を明らかにすることを目的とする。

収納は物を納めることが使用上の目的であるが、同時に空間を遮蔽する作用をもつため、造り付け収納は外壁や間仕切りなどの建築部位と重ねられる。このような集約した収納が建築部位と重ねられた作品を研究資料として選定する。このような集約した収納を厚みをもった密実なヴォリュームとして捉えると、その厚みの中に組み込まれたトイレや階段などの要素も、収納に組み込まれたものとして分析するため、資料の選定に際して収納に含めることにしている。以上の条件のもと、1955年以降『新建築』誌および『新建築住宅特集』誌に掲載された住宅のうち、集約した収納をもち、平面図、断面図、写真などで空間構成が把握できる80作品^{注5)}を選定し(付表5-1)、さらに148の各階平面ごとに分析を行う^{注6)}。

第2節 集約された造り付け収納の空間的特徴

集約した造り付け収納をもつ住宅作品の空間的特徴を収納の種類と位置から捉える。収納の種類には、棚やクローゼットのように壁に造り付けられる〈壁型〉、納戸やウォークインクローゼットのように人が入れる〈室型〉がある。〈壁型〉のうち、収納された物が見える〈露出型〉、収納された物が建具などで隠されている〈隠蔽型〉がある（表5-1）。次に収納の位置は、人の居場所をより広く確保するために建物の外縁に配置されるもの、人の居場所を仕切るように内部に配置されるものがある。外縁に位置するもののうち、収納が外縁の2面以上に囲む〈圍繞〉、外縁の片側1面に寄せられる〈片寄〉があり、内部に位置するもののうち、収納が内部空間を横断する〈分割〉、収納が仕切りの役割をもちながらそのまわりを人が回遊できる〈包含〉があり、それらが〈複合〉したものがある（表5-2）。

以上の設定により、分析例1（図5-1）は、クローゼットが建物の外壁に沿うように集約されており、そのなかの一部にトイレやキッチン、階段が収納に組み込まれて計画されている。また分析例2（図5-2）では、棚が外壁に沿うように配列されており、キッチンは居間の一部に、階段は吹き抜けに配置されており、トイレやふろは寝室と同じように壁で仕切られているため、これらの設備部分は収納に組み込まれていない。

こうした分析を全資料について行い、それぞれの分析項目を集計する。収納の種類については、室型のみが最も多く、次いで隠蔽型のみ、露出型のみ、露出型と隠蔽型、隠蔽型と室型、露出型と隠蔽型と室型、露出型と室型の順に多くみられた（表5-1）。また収納の位置については、片寄が最も多く、次いで圍繞、分割、複合、包含の順に多くみられた（表5-2）。次に収納の種類の組み合わせについてみると、ひとつの平面に複数の種類の収納が設けられる場合、隠蔽型の収納が部分的に設けられる作品が多かったことから、露出形のみ、露出型と隠蔽型の複合を主に露出型の収納で構成されるもの、隠蔽型のみのもを隠蔽型の収納で構成されるもの、室形のみ、室型と隠蔽型の複合を主に室型の収納で構成されるもの、それ以外を露出型

と室型が複合するものにまとめた。また収納に組み込まれる設備部分^{注7)}については、主に室形で構成されるものが、設備部分を収納に組み込む傾向がみられた(表5-3)。

第3節 収納の集約による構成パターン

前節では収納の空間的特徴を、収納の種類、位置として検討してきた。本節ではこれらの項目の組み合わせを収納の集約による構成パターンとして抽出する。

収納の種類を横軸に、収納の位置を縦軸に設定したマトリクスに資料の番号とともに収納の種類と収納に組み込まれる要素を付置した表を作成した(表5-4)。これら縦軸、横軸の項目の組み合わせを構成パターンとし、そこに該当する資料がみられたパターンについて説明する。

主に露出型の収納で構成されるパターンのうち、〈露・片〉は内部空間の片側に棚が寄せられるものであり、〈露・囲〉は棚が内部空間を囲むように配列されていることで、露出型の収納が外壁と重なるものである。これは大きな収納の中に人の居場所が取り込まれ、人の居場所と収納が明確な区別なく一体となっているとみることができる。それに対し〈露・分〉は内部空間を仕切るように棚が配列されており、露出型の収納が間仕切りと重なるものである。

隠蔽型の収納で構成されるパターンのうち〈隠・片〉は扉付きの収納が片側に寄せられており、〈隠・囲〉は内部空間を囲む隠蔽型の収納が外壁と重なり、その厚みの中に物が隠されるようになる。これらのパターンには、設備部分などが収納に組み込まれるものが多い。〈隠・分〉は収納が内部空間を分割する間仕切りと重なり、その厚みの中に物が納められるものである。このパターンには設備部分が収納に組み込まれないものが多い。〈隠・包〉は仕切りとなっている収納のまわりを回遊できるものである。〈隠・複〉は収納が外縁に寄せられかつ内部空間を分割しているものである。

納戸やウォークインクローゼットのような人が入れる室型の収納で構成されるパターンのうち〈室・片〉は納戸が片側に寄せられ、〈室・囲〉は内部空間を包囲するように納戸が配されている。これは納戸が外壁と重なるものである。〈室・分〉は納戸が内部空間を分割することで、収納の中を通過して隣の空間に抜けられるものである。室型の収納をもつパターンでは設備部分が収納に組み込まれるものが多いの

に対し、この〈室・分〉では少ない。〈室・包〉は収納と設備が内部空間の中央にまとめられることでコアを形成しているものであり、人の居場所の中に収納が包含されている。〈室・複〉は建物外縁と内部ともに収納が設けられているものである。

露出型と室型の収納が複合するパタンのうち、〈露+室・囲〉は物が見える棚と人が入れる納戸が建物外縁に沿って設けられるのに対し、〈露+室・複〉は棚が外縁に沿い、納戸が中央のコアとなるものである。

資料作品の分布がみられない構成パターンとして、露出型と包含、複合の組み合わせ、露出+室と片寄、分割、包含の組み合わせがあげられる。これらから、露出型の収納は外縁に沿う傾向、露出型と室型が組み合わせが少ない傾向が読みとれる。

また複数の階をもつ住宅作品についてみると、収納の種類組み合わせ、収納の位置ともに同じであるものが最も多く、すべての階で同じ構成パターンを反復する傾向がみられた（表 5-5 左下）。

第4節 収納の集約による構成の修辞

本節では前節で得られた構成パターンを比較し、収納と建築部位との関係、物の領域と人の領域の関係を収納の集約による構成の修辞として導く（図5-3）。

構成パターンを建築部位との重なりについて着目すると、収納が外縁に沿う、〈露・片〉、〈露・囲〉、〈隠・片〉、〈隠・囲〉、〈室・片〉、〈室・囲〉は、収納が外壁と融合し、物の領域が人の領域である内部空間を囲うという役割をもつことから「物の領域が囲みと重なる」ものである。これらに対し、〈露・分〉、〈隠・分〉、〈隠・包〉、〈室・分〉、〈室・包〉は、間仕切りと収納が融合し、物の領域が人の領域を分節するという役割をもつことから「物の領域が仕切りと重なる」ものである。

この2つの「物の領域が囲みと重なる」「物の領域が仕切りと重なる」という建築部位との関係のなかで、収納の種類や位置によって、物の領域と人の領域による関係を強調するものがみられる。〈露・囲〉は人の居場所が露出した物で囲まれることで、人は物の領域に取り込まれることになる。つまり物の領域と人の領域が区別なく一体的となることで、「物の領域と人の領域が重なる」ものといえる。〈室・囲〉は納戸のように人が入れる物の領域によって人の領域が囲まれるものである。これは、収納が図でその他の空間が地となるという構成上の認識に対し、物で満たされた密実な塊の中に人の領域を空隙として割り貫くという構成とみることができ、「物の領域と、人の領域の図と地が反転」する構成であるといえる。それに対し、〈室・包〉は人が入れるコアのまわりを回遊でき、人の領域が物の領域を包含するもので、建物の中心を占有する傾向にある人の居場所が収納によって周縁に追いやられ、「物の領域と、人の領域の中心と周縁が反転」するという中心と周縁の関係が反転する構成であるといえる。これら〈室・囲〉と〈室・包〉は物の領域と人の領域の位相が逆転した関係となっている。〈室・分〉では、建物の奥に押しやられがちな物の領域が手前にくることで、人の居場所から収納に入り、再び人の居場所を通過するといったシークエンスを生んでいることから物の領域が間室となり、「物の領域と、人の領域の端とつながりが反転」するものである。

さらに複合したパタン〈露+室・囲〉、〈露+室・複〉、〈隠・複〉、〈室・複〉については、複数の構成の修辭が重なったものとして捉えることができる。

以上から、収納が建築部位との関係から「物の領域と囲みの融合」「物の領域と仕切りの融合」というあり方がみられ、「物の領域と人の領域の重合」、「物の領域と、人の領域の図と地が反転」、「物の領域と、人の領域の中心と周縁が反転」、「物の領域と、人の領域の端とつなぎが反転」といった収納の集約による構成の修辭が明らかになった。

第5節 小結

以上、本章では集約した造り付け収納をもつ現代日本の住宅作品を対象に、収納の種類および位置、収納に組み込まれる要素について検討し、分析項目の組み合わせから収納の集約による構成パターンを導いた。それらを比較することから、収納が建築部位と重なることで、「物の領域と囲みの融合」「物の領域と仕切りの融合」というあり方がみられ、「物の領域と人の領域の重合」、「物の領域と人の領域の図と地が反転」、「物の領域と人の領域の中心と周縁が反転」、「物の領域と人の領域の端とつながりが反転」といった収納の集約による構成の修辭が明らかになった。

表5-1 収納の種類

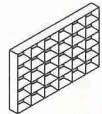

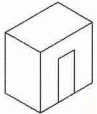
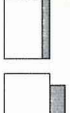
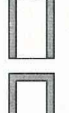


壁型		室型<R>	Sのみ(19)
露出型<S>	隠蔽型<G>		Cのみ(33)
			Rのみ(43)
			S, C (21)
			S, R (5)
			C, R (15)
			S, C, R (1)

表5-2 収納の位置

外縁(73)		内部(41)		複合(18)
片寄(46)	囲繞(27)	分割(26)	包含(15)	
				囲+分(7)
				囲+包(2)
				片+分(7)
				端+包(2)

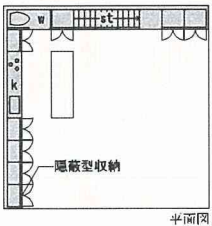
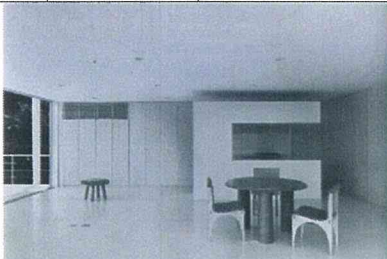
No. 28 b 家具の家No. 3 (2階) 坂茂	収納の種類: 隠蔽型のみ	収納の位置: 囲繞	収納に組込まれる要素: トイレ(w), キッチン(k), 階段(st)
			

図5-1 分析例1

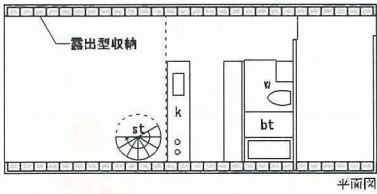

No. 18 a 木箱210 (1階) 島西潔	収納の種類: 露出型, 隠蔽型	収納の位置: 囲繞	収納に組込まれる要素: なし
			

図5-2 分析例2

表5-3 収納に組み込まれる要素と収納の種類

収納に組み込まれる要素	収納の種類			
	露出型	隠蔽型	室型	
設備(117)	トイレ, 洗面 w (54)	1	13	40
	ふろ bt (26)	0	1	25
	キッチン k (37)	1	16	19
動線(47)	階段 st (35)	2	8	25
	玄関 e (12)	0	3	9
家具(14)	ベッド bd (9)	0	1	8
	机, ベンチ f (5)	3	1	1

表5-4 収納の種類と収納に組み込まれる要素の組合せ

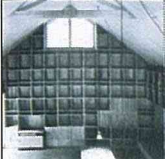
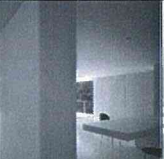

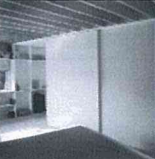
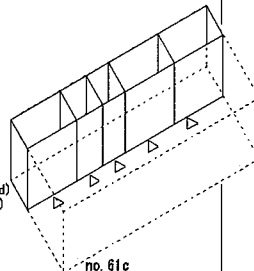
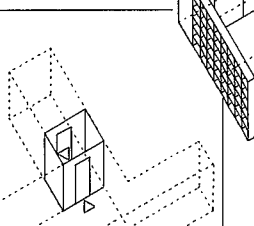
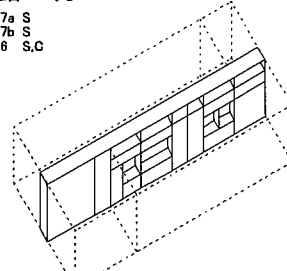
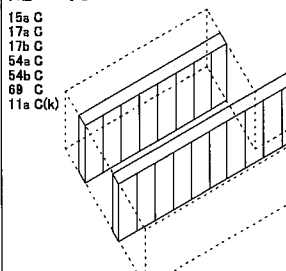
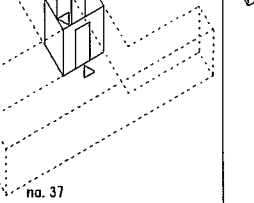
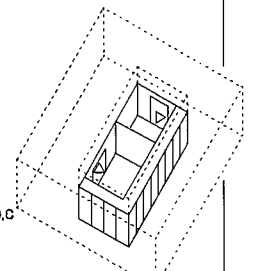
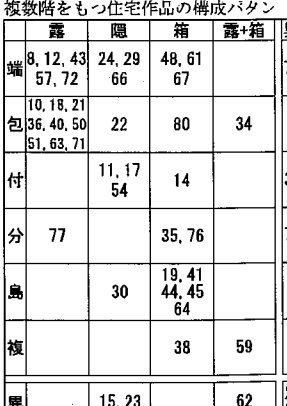
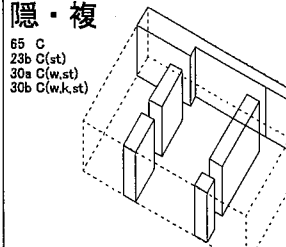
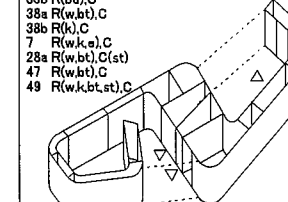
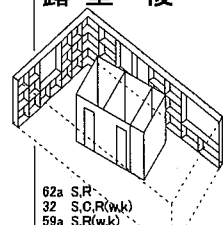
露出型が主となる S(19) S, C(21)	隠蔽型が主となる G(33)	室型が主となる R(43) C, R (15)	露出型+室型 S, R(5) S, C, R(1)
設備組込(8) 設備なし(32)	設備組込(14) 設備なし(19)	設備組込(45) 設備なし(13)	設備組込(4) 設備なし(2)
			

表5-4 収納の集約による構成パターン

位置 種類	露出型	隠蔽型	室型	露出+室																																																
片寄	露・片 2 S 8a S 12a S 12b S 43c S 43b S(k) 8b S,C 8c S,C 57a S,C 57b S,C 72a S,C 72b S,C 72c S,C(w)	隠・片 29a C 29b C 33a C 79b C 60 C(e) 78 C(e) 24b C(bd) 24a C(k) 70 C(k) 66a C(w) 66b C(w) 23a C(w,w)	室・片 48b R(st,bd) 48c R(st,bd) 61a R(st,bd) 67a R(k,e,st) 48a R(w,st) 75b R(w,st) 4a R(w,k,e,st) 61b R(w,k,e,st) 43a R(w,kt) 79a R(w,kt) 67b R(w,kt,st) 48d R(w,kt,st,bd) 61c R(w,kt,st,bd) 52 R(w,kt,st,bd) 3 R(w,kt),C(k,f)	 no. 61c																																																
	露・囲 18a S 34c S,C(k,f) 18b S 10a S,C(w) 21a S 10b S,C(w,k) 21b S 40b S,C 27a S 50a S,C 71a S 50b S,C(e) 71b S 36a S,C(k) 36b S 40c S,C(k) 40a S 63a S 63b S 6 S(f) 58a S(f),C 51a S(w,st),C 51b S(k,sh,st),C	隠・囲 25 C 22b C(st) 22a C(w,k,st) 28b C(w,k,st) 46 C(w,kt)	室・囲 80b R(bd) 20 R(w,k,e) 68a R(w,kt,e,st) 80a R(w,kt) 37 R(w,kt),C(k) 31b R(st),C 14b R(w,st) 14a R(w,kt,st) 9 R(w,kt,e) 31a R(w,kt,k,st),C	露+室・囲 34a S,R(w,kt) 34b S,R(w) 62b S,R																																																
分割	露・分 77a S 77b S 26 S,C	隠・分 15a C 17a C 17b C 54a C 54b C 69 C 11a C(k)	室・分 35a R 35b R 55a R 73b R 73a R 76c R 79a R(w,f) 74b R(w,kt) 53 R(w,st),C	 no. 34b																																																
	 no. 26	 no. 17a	 no. 37																																																	
包含	複数階をもつ住宅作品の構成パターン <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>露</th> <th>隠</th> <th>箱</th> <th>露+箱</th> <th>異</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>端</td> <td>8, 12, 43 57, 72</td> <td>24, 29 66</td> <td>48, 61 67</td> <td></td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>包</td> <td>10, 18, 21 36, 40, 50 51, 63, 71</td> <td>22</td> <td>80</td> <td>34</td> <td></td> </tr> <tr> <td>付</td> <td></td> <td>11, 17 54</td> <td>14</td> <td></td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>77</td> <td></td> <td>35, 76</td> <td></td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>島</td> <td></td> <td>30</td> <td>19, 41 44, 45 64</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>複</td> <td></td> <td></td> <td>38</td> <td>59</td> <td></td> </tr> <tr> <td>異</td> <td></td> <td>15, 23</td> <td></td> <td>62</td> <td>28 33</td> </tr> </tbody> </table>		露	隠	箱	露+箱	異	端	8, 12, 43 57, 72	24, 29 66	48, 61 67		79	包	10, 18, 21 36, 40, 50 51, 63, 71	22	80	34		付		11, 17 54	14		31	分	77		35, 76		73	島		30	19, 41 44, 45 64			複			38	59		異		15, 23		62	28 33	隠・包 13 C 42 C 11b C(w,k) 15b C(w,k) 39 C(k)	室・包 45b R,C 19a R(w,e,st) 19b R(w,k,st) 19c R(w,st) 18 R(w,k) 41a R(w,kt) 41b R(w,k) 64a R(w,kt) 64b R(w) 44a R(k) 44b R(k) 44c R(w,kt) 45a R(k) 45c R(w,kt) 56 R(w,k,kt),C 1 R(w,kt,k,e,st),C 5 R(w,kt,k),C	 no. 35b
		露	隠	箱	露+箱	異																																														
端	8, 12, 43 57, 72	24, 29 66	48, 61 67		79																																															
包	10, 18, 21 36, 40, 50 51, 63, 71	22	80	34																																																
付		11, 17 54	14		31																																															
分	77		35, 76		73																																															
島		30	19, 41 44, 45 64																																																	
複			38	59																																																
異		15, 23		62	28 33																																															
複合	 no. 26	隠・複 65 C 23b C(st) 30a C(w,st) 30b C(w,k,st)	室・複 33b R(bd),C 33a R(w,kt),C 38b R(k),C 7 R(w,k,e),C 28a R(w,kt),C(st) 47 R(w,kt),C 49 R(w,k,kt,st),C	露+室・複 62a S,R 32 S,C,R(w,k) 59a S,R(w,k) 59b S,C,R(w,kt)																																																
	 no. 23b	 no. 49	 no. 59a																																																	

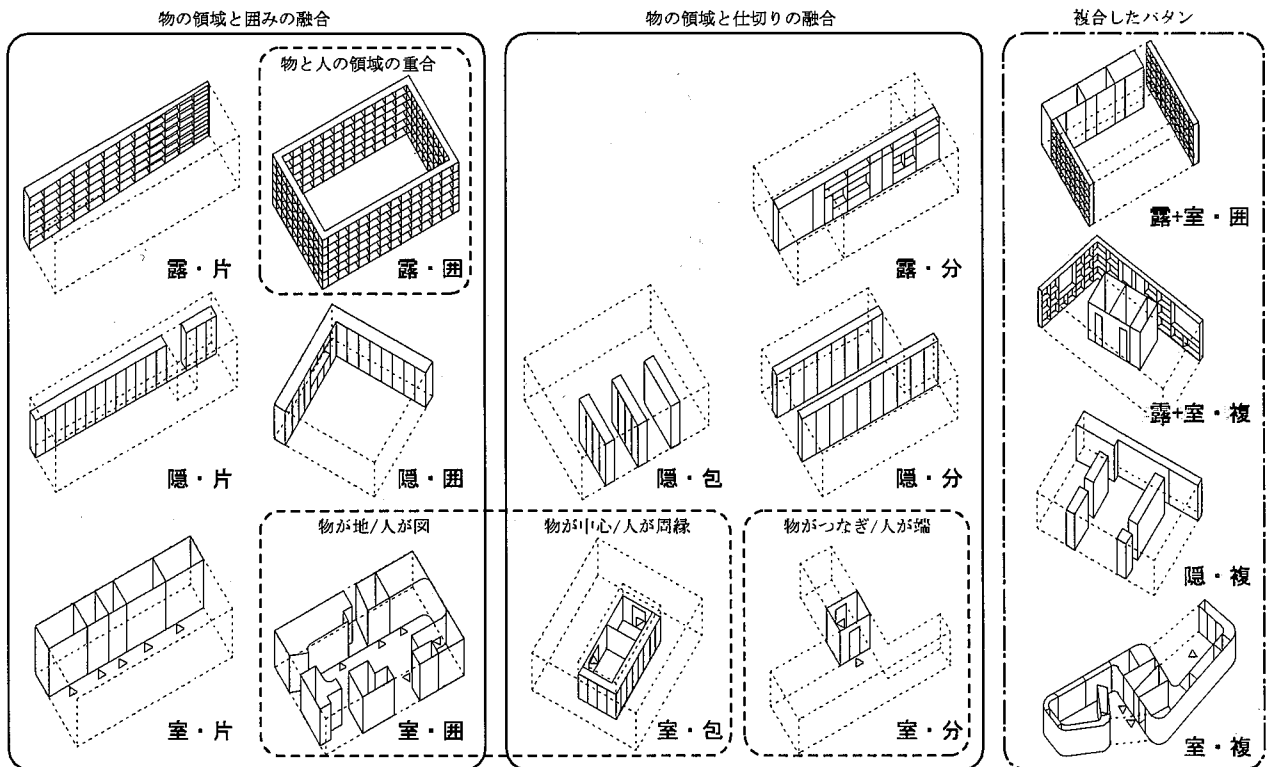


図5-3 収納の集約による構成の修辞

付表5-1 資料作品リスト

番号	作品名	設計者	掲載誌	延床面積	枚数	収納の種類
1	住居	丹下健三	sk5501	140	1	C,R(w,bt,k,e,st)
2	私の家	清家清	sk5702	50	1	S
3	浜田山の家	吉村順三	sk6805	106	1	C(k,f),R(w,bt)
4	ブルーボックスハウス	宮脇檀	sk7110	122	2	R(w,k,e,st) / -
5	キャンティレバールーフの家	栗祥栄	sk7402	164	1	C,R(w,bt,k)
6	南湖の家	坂本一成	sk7902	78	1	S(f)
7	国分寺西町の家	ワークショップ	sk8202	115	1	C,R(w,k,e)
8	祐天寺の家	茶谷正洋	jt8809	140	3	S / S,C / S,C
9	森の別荘	妹島和世	jt9405	199	1	R(w,bt,e)
10	ひばりが丘の家	ワークショップ	jt9406	144	2	S,C(w) / S,C(w,k)
11	石神井公園の住宅	奥山信一	jt9406	131	2	C(b) / C(w,k)
12	書架の家	前田光一	jt9504	73	2	S / S
13	家具の家	坂茂	jt9506	104	1	C
14	カーテンウォールの家	坂茂	jt9510	180	2	R(w,bt,et) / R(w,et)
15	ISOBE STUDIO&RESIDENCE	小川晋一	jt9601	166	2	C / C(w,k)
16	太宰府の家	有馬裕之	jt9608	138	1	R(w,k)
17	平邸	阿久津友嗣	jt9612	202	2	C / G
18	木箱210	葛西深	jt9704	139	2	S,C / S
19	光井戸の家	早草隆憲	jt9707	186	3	R(w,et) / R(w,k,et) / R(w,et)
20	トウフ	玉置順	jt9709	112	1	R(w,k,e)
21	千歳島山の家	内藤廣	jt9711	52	2	S / S
22	館山海岸の住宅	奥山信一	jt9801	102	2	C(w,k,et) / C(et)
23	吉祥寺通りの住宅	奥山信一	jt9801	162	2	C(w,et) / C(et)
24	Lime House	北山恒	jt9803	154	2	C(b) / C(bd)
25	8スクエアグリッド	坂茂	jt9805	123	1	C
26	北神戸の住宅	阿久津友嗣	jt9806	80	1	S,C
27	雲居	斎藤裕	jt9807	200	4	S / - / - / -
28	家具の家No3	坂茂	jt9809	170	2	C(st),R(w,et) / C(b,et)
29	アイビーストラクチャーの家	坂茂	jt9809	211	2	C / C
30	本郷台の住宅	奥山信一	jt9811	234	2	C(w,et) / C(w,k,et)
31	M-house	阿部仁史	jt9904	100	2	C,R(w,bt,k,et) / C,R(et)
32	T平面の住宅	岩岡庵夫	jt9912	123	1	S, C(w,k)
33	L	青木淳	jt0004	164	2	C / C,R(bd)
34	代沢の住宅	安田光一	jt0006	217	3	S,R(w,et) / S,R(w) / S,C(b,f)
35	C	青木淳	jt0009	73	2	R / R
36	樹の家	前田光一	jt0011	110	2	S,C(k) / S
37	空をつかまえる家	手塚建築研究所	jt0011	87	1	C(b),R(w,et)
38	U&U HOUSE	塚田真樹子	jt0011	102	2	C,R(w,et) / C,R(k)
39	Plaats	FOBA	jt0101	182	1	C(b)
40	大和町の家	大塚聡	jt0102	103	3	S / S,C / S,C(b)
41	TN-HOUSE	北山恒	sk0102	78	2	R(w,et) / R(w,k)
42	中山の住宅	山口誠	jt0103	82	1	C
43	81.155.0032	河瀬行生	sk0104	109	3	R(w,et) / S(b) / S
44	バルコニーの家	手塚建築研究所	jt0111	129	3	R(b) / R(b) / R(w,et)
45	壁のない家	手塚建築研究所	jt0111	206	3	R(k) / C,R / R(w,et)
46	プライウッドキットハウス	八木敦司	jt0111	50	1	C(w,et)
47	ペニヤ三角格子の家	坂茂	jt0201	102	1	C,R(w,et)
48	代沢M邸	CLIP	jt0201	81	4	R(w,et) / R(st,bd) / R(st,bd) / R(w,et,bd)
49	e house	ライファントホテル社	jt0202	151	1	C,R(w,k,et,et)
50	上目黒の住宅	藤岡新	jt0204	100	2	S,C / S,C(e)
51	ダス・ハウス	アトリエ・ワン	jt0208	74	2	S(w,et),C / S(k,et,f),C
52	ヒムロハウス	小嶋一浩	jt0302	182	1	R(w,et,k,et,bd)
53	アプストラクトの家	小川晋一	jt0304	91	1	C,R(w,et)
54	BARBUS	小川晋一	jt0304	211	2	C / C
55	江東の住宅	佐藤光彦	jt0306	64	2	R
56	空をつかまえる家III	手塚建築研究所	jt0307	89	1	C,R(w,k,et)
57	SoHo	宮本佳明	jt0309	104	2	S / S
58	ガエ・ハウス	アトリエ・ワン	jt0310	88	3	S(f),C / - / -
59	台形面の家	岩岡庵夫	jt0312	144	2	S,R(w,k) / S,C,R(w,et)
60	縁側の家	手塚建築研究所	jt0410	78	1	C(e)
61	引き出しの家	nendo	jt0404	163	3	R(st,bd) / R(w,k,e,et) / R(w,et,et,bd)
62	上原の住宅	みかんぐみ	jt0404	81	2	S,R / S,R
63	セルブリック	アトリエ工工人	jt0405	85	2	S/S
64	昭島のハウス	西沢大良	jt0411	75	2	R(w,et) / R(w)
65	隅切りの家	手塚建築研究所	jt0501	84	1	C
66	m/n house	studioKOZ	jt0504	102	2	C(w) / C(w)
67	由比ヶ浜の家	塚部安嗣	jt0508	88	2	R(k,et) / R(w,et,et)
68	府中の家	塚部安嗣	jt0508	82	2	R(w,et,et) / -
69	COURT HOUSE	小川晋一	jt0508	120	1	C
70	HAKKO	関本竜太	jt0509	54	1	C(b)
71	うなぎ001	千葉学	jt0509	50	2	S / S
72	円山町のアトリエ付き住居	ワークショップ	jt0601	156	3	S,C / S,C / S,C(w)
73	ガク・ハウス	アトリエ・ワン	jt0601	75	2	R(w,f) / R
74	SET	塚辺康	jt0602	102	2	- / R(w,et)
75	UNABO	古谷誠章	jt0803	134	2	- / R(w,et)
76	ushiの家	nendo	jt0808	124	2	R(st) / - / R(et)
77	おおきな家	マウントフジ	jt0808	260	2	S / S
78	底の家	手塚建築研究所	jt0810	120	1	C(e)
79	鳳蓮台の家	手塚建築研究所	jt0810	82	2	R(w,et) / C
80	攻守の家	赤坂真一郎	jt0810	108	2	R(w,et,k) / R(bd)

凡例:
S,C,R 収納の隠蔽
去1参照
w, bt, k, st, e, bd, f
収納に組み込まれる要素
付表2参照
/は各階平面の分節
をあらわし
1階/2階の順で示す

付表2 収納に組み込まれる要素と収納の種類

収納に組み込まれる要素		収納の種類		
		露出型	隠蔽型	室型
設備(117)	トイレ, 洗面 w (54)	1	13	40
	ふろ bt (26)	0	1	25
	キッチン k (37)	1	16	19
動線(47)	階段 st (35)	2	8	25
	玄関 e (12)	0	3	9
家具(14)	ベッド bd (9)	0	1	8
	机, ベンチ f (5)	3	1	1

第5章 注

- 1) 物の配列による空間の性格とは、住むことによって物が蓄積されたりしていく状態を指している。参考文献1)のなかでは、「どんな古く醜い家でも、人が住むかぎりは不思議な鼓動を失わないものである。変化しながら安定している、しかし、決して静止することのないあの自動修復回路のようなシステムである。摩滅したか風化してぼろぼろになった敷居や柱も傷だらけの壁や天井のしみも、動いているそのシステムのなかでは時間のかたちに見えてくる。住むことが日々すべてを現在のなかにならべかえるからである。家はただの構築物ではなく、生きられる空間であり、生きられる時間である。」(p9)さらに物が家のなかにあらわれている現象を人の行為の定着としてみている。「たとえば生きられた家を眺めていると、その中心に「出来事」(人間の行為)が浮かび上がり、たえずあらわれては消える「物」の振舞いがこの出来事と関係を持ち、しかしそれらのための「場」だけが連鎖をなして見えてくる。」(p33)とある。
- 2) 「物の領域」とは、本研究では収納が集約することによって形成される空間をさしており、その空間の狭さ故に人の居場所ではないと捉える。またこの研究では、人の領域とあまり関係をもたず独立して設けられるという理由から、集約された収納であっても、床下収納や屋根裏収納は資料から除外している。
- 3) また物の領域と人の領域という図と地の関係を利用した実践例として、R・コールハース設計の1989年フランス国立図書館コンペ案があげられる。参考文献4)において、書架で満たされた建物全体を密実な塊(solid block)とし、そこに人の居場所となるパブリックスペースを空隙(void)として割り貫くという密と粗の対比を用いた構成を提案している。
またゲシュタルトの法則において、図と地とは感覚の情報処理のプロセスにおいて図(figure)が地(ground)に対して分離されることを指す。
- 4) 修辞とは一般に言語に関する表現の方法を意味するものであるが、建築における構成の修辞とは、建物の実体の構成法による表現を指す。建物の実体を構成する要素を性格の異なるものの選択可能性(範列関係)とそれらの結合のしかた(統辞関係)としてみたときの建築の構成的な表現のことをいう。本章での収納による構成の修辞とは、収納の種類や位置との関係のなかで選択の可能性が生じ、それらの組み合わせによる構成の表現のことを指している。
- 5) 資料作品の年代的な内訳をみると、50～80年代はそれぞれ3作品以下と少なく、90年代は24作品、2000年代以降は48作品みられ、90年代以降に増加している傾向があることが分かった。また住宅作品の延床面積をみると、最小で50㎡、最大で260㎡、

平均は 123 m²であった。50～80年代は 114 m²、90年代は 146 m²、2000年代以降は 114 m²であり、90年代に面積の増加がみられたが、2000年代以降に減少した。

- 6) 吹き抜けなどによる一部2階建てやロフトがある場合、分析に結果に関わらないほどの小さなものに関しては、下階にまとめて考察したものもある。またピロティ、駐車場、塔屋については分析から除外している。
- 7) 作品ごとに設備部分についてみると、収納に設備部分を組み込むものが 49 作品、組み込まないものが 31 作品あり、設備部分を組み込むものうちトイレ・洗面、風呂、キッチンのすべてを組み込む傾向がみられた。

第6章 結論

第6章 結論

本章では、各論を総括し、本論文の結論とする。

第1章「序論」では、研究の背景と目的、研究の資料と方法、従来の研究との関係、及び論文の構成と概要について述べた。建築の慣習を、外部の要素と内部内部要素の2つから捉え、外部の要素として窓や屋根、内部の要素として寝室や収納を研究の題材として取り上げた。これらの要素は建築にとって一般的でありきたりであるため、建築する際の共通の基盤となることを述べ、その慣習的な要素を固定した関係からずらすことで、新たな関係に位置づける構成の修辞を明らかにするという目的を述べた。また本論文に関連する既往研究や建築論に関する文献を比較、整理することから、本論文の独自性について述べた。

第2章「窓の参照関係による構成の修辞」では、採光、通風、眺望を得るという役割をもち、部屋に対応して開けられるという個別の窓の特徴に対し、ひとつの建物の中に複数存在するという集合としての窓の特徴に着目した。まず反復の中で生じる窓どうしの違いを窓の種類と窓の位置から検討し、次にそれらの組み合わせから、窓どうしの参照関係による構成パターンを抽出、比較した。その結果、窓どうしの同一と差異に基づく構成の修辞を明らかにした。それらは、

- <対比の強調> 対比的に扱われたひとつの窓が重みづけされる
- <対比の比較> 対比的に扱われた窓と他の窓が重みづけされることで比較される
- <対比の散在> 対比的に扱われたひとつの窓が散在する
- <対比の中の同一、対比の中の相同> 対比的に扱われた複数の窓が同一、相同となる
- <ひとつの窓の強調> 相同的な差異をもつ複数の窓のうち一つが重みづけされる
- <相同の比較> 相同的な差異をもつ複数の窓のうち複数の窓が重みづけされる
- <相同の散在、同一の散在> 相同、同一の窓が重みづけされず散在する

という集合としての窓がつくりだす対比、相同、同一といった関係の配分に関する表現の可能性を示すものである。

第3章「屋根の変形による構成の修辞」では、片流、切妻、寄棟、方形といった基本的な形式の中で、定められた形をもつ屋根の特徴に対し、軒、棟、頂点および勾配の部分どうしが敷地形状や使用用途などによる不規則な部分を統合する屋根の変形に着目した。まず定形から逸脱する特徴をもつものを屋根の変形として位置づけ、次に、軒、棟、頂点、勾配についての各項目の組み合わせから屋根の変形による構成パターンを抽出、比較した。その結果、定形の特徴が維持される固定された部分と定形から逸脱する解放された部分との対比に基づく構成の修辞を明らかにした。それらは、

〈軒固定 - 勾配複合〉 軒が固定され異なる勾配の複合によって棟や頂点が解放される

〈軒固定 - 棟解放〉 平面の歪みによって軒が固定され棟が解放される

〈軒解放 - 棟固定〉 棟や頂点が固定され軒が解放される

〈軒解放 - 棟回転〉 棟の回転によって軒が解放される

〈軒 - 棟 斜平行〉 傾斜した軒、棟が平行を保つ

〈軒 - 棟 断片〉 傾斜かつ非平行な軒、棟により固定されない

〈軒 - 棟 縫合〉 ねじれの位置にある軒、棟を変化する勾配によって縫合する

という不規則な部分を統合する屋根が作り出す不安定な均衡に関する表現の可能性を示すものである。

第4章「寝室の開放による構成の修辞」では、個室として閉じられるという一般的な寝室の特徴に対し、空間の連続性とプライバシーの両方を確保するという矛盾を含む寝室の開放に着目した。まず開放型寝室の分節の形式、視線による性格、動線による性格、開放型寝室と建築部位との関係を検討し、次にそれらの組み合わせから寝室の開放による構成パターンを抽出、比較した。その結果、共有部分と寝室部分における空間的な対比に基づく構成の修辞を明らかにした。それらは、

〈大小の対比〉 段差のない空間の連続のなかで、寝具がアルコーブに納められる

〈見る / 見られるの関係〉 寝室部分から共有部分を見下ろせ、共有部分は上から見られる

<上下の対比> 積層された空間の上方を寝室部分に、下方を共有部分にする

<天地の対比> 積層された空間による上下の対比に加え、屋根裏、地下室に位置する

<空間的な対比を用いない> 段差のないワンルームに寝具や間仕切が置かれ、共有部分と寝室部分が等価に併存する

<見る / 見られるの関係の反復> 寝室部分が段差や動線の途中にあることで、共有部分を見下ろせる寝室側が、さらに他の室から見下ろされる

<上下の対比からのずれ> 積層された空間による上下の対比に寝室部分と共有部分が対応せず、中間階や動線の途中に寝室部分が位置する

という寝室に求められるプライバシーと空間の連続性の矛盾がつくりだす一体空間の不均質さに関する表現の可能性を示すものである。

第5章「収納の集約による構成の修辞」では、物を納める役割をもつ収納の特徴に対し、物と人の領域を分節し関係づける収納の集約に着目した。まず収納の種類および位置を検討し、次にそれらの組み合わせから収納の集約による構成パターンを抽出、比較した。その結果、収納と建築部位との関係、および物の領域と人の領域の関係に基づく構成の修辞を明らかにした。それらは、

<物の領域と囲みの融合>、<物の領域と仕切りの融合>

<物の領域と人の領域の重合> 物の領域と人の領域が区別なく一体的となる

<図と地の反転> 納戸のような物の領域によって人の領域が囲まれる

<中心と周縁の反転> コアのまわりを回遊でき人の領域が物の領域を包含する

<端とつなぎの反転> 物の領域が人の領域のを分割し、物の領域が間室となる

という収納と建築部位との融合、および物の領域と人の領域の重合や反転に関する表現の可能性を示すものである。

以上より、建築の慣習的な要素を、固定的な使用・目的などによる安定した関係から、窓の反復による参照関係、屋根の変形による不規則な部分の統合、寝室の開放による空間の連続性とプライバシーの矛盾、収納の集約による人と物の領域の分

節といった、各要素の実践によって生じる関係へと位置づけ直すことで、慣習的な要素による構成の修辞を、不安定な均衡を生み出すものとして明らかにした。

関連論文目録

<本論に関する審査論文>

- *現代住宅作品における窓どうしの参照関係
 - 建築の慣習的な要素による構成的修辞に関する研究 -
 - 能作文徳・塚本由晴
 - 日本建築学会計画系論文集, 第 629 号, pp. 1643-1649, 2008. 7
- *現代日本の住宅作品における屋根形の変形による統合の修辞
 - 建築の慣習的な要素による構成的修辞に関する研究 (その 2) -
 - 能作文徳・森中康彰・塚本由晴
 - 日本建築学会計画系論文集, 第 652 号, pp. 1615-1621, 2010. 6
- *現代日本の住宅作品における開放型寝室の連続性
 - 建築の慣習的な要素による構成的修辞に関する研究 (その 3) -
 - 能作文徳・坂根みなほ・塚本由晴
 - 日本建築学会計画系論文集, 第 661 号, pp. 711-717, 2011. 3
- *現代日本の住宅作品における収納からみた領域の構成
 - 建築の慣習的な要素による構成的修辞に関する研究 (その 4) -
 - 能作文徳・塚本由晴
 - 日本建築学会計画系論文集, 現在投稿準備中

<本論に関する口頭発表論文> 日本建築学会大会学術講演梗概集 (共著)

- *現代日本の住宅作品における収納の形式と配列による空間の構成の修辞 2005
- *窓の種類と位置
 - 住宅作品における窓どうしの参照関係 (1) 2007
- *窓どうしの参照関係による構成の修辞
 - 住宅作品における窓どうしの参照関係 (2) 2007
- *軒・棟の関係からみた屋根形の定形と変形
 - 現代日本の住宅作品における屋根形の修辞 (1) 2008
- *軒・棟の関係からみた屋根形の修辞
 - 現代日本の住宅作品における屋根形の修辞 (2) 2008

<その他の口頭発表論文>

- 33 編 日本建築学会大会学術講演梗概集 (共著)

付章

複数の慣習的な要素の組み合わせに関する考察

本論文では、窓の参照関係、屋根の変形、寝室の開放、収納の集約のといった4つの慣習的な要素による構成の修辭について、要素ごとに別々に論じてきた。しかし実際の建築は、要素の結合によって全体を形成されるものであり、本論文では、要素の結合や、そこで形成される隣接関係による全体性については分析していない。その理由としては、本論文の目的が、慣習的な要素を新たな関係に置くことで要素の意味を更新するという構成の修辭を明らかにすることであり、建物のある部分に分割してそれを再び結合するという具体的な隣接関係による全体ではなく、建物という集合概念のなかに属するある部分によって、全体を想起させるという意味や概念の包含関係によって建物の全体を喩的に論じた^{注1)}。

また、それぞれの要素において構成の修辭を論じるにあたり、各章において適切な資料を選定しているため、たとえば窓の参照関係と屋根の変形といった二つ以上の要素による構成の修辭を、同時に論じることは困難であった。この付章では、複数の章で取り上げられている現代住宅作品をみることで、要素の結合においてどのような表現の可能性があるのか考察したい(表7-1)。

まず複数の章で取り上げられている住宅作品をみると24の作品が得られた。そのうち、寝室の開放と収納の集約の2つ組み合わせに該当するものが最も多く12作品みられた。他の組み合わせに該当するものは0～4作品であった(表7-2)。

次に、要素の組み合わせについて論じるために、該当する作品を取り上げる。

窓の参照関係と屋根の変形が組み合わせる作品のうち、no.11 ハウス・アサマでは、プロポーションの異なる窓が並び、軒、棟がともに水平であり偏心した方形によって異なる勾配が組み合わせられて屋根を形成しており、偏心した頂点による勾配の差異と窓の相同的な差異が連動し統合する表現とみることができ、no.19 Gでは、平面の歪みによって軒が傾斜し、同一の窓が反復しており、屋根の変形による不規則性に対し、窓の同一による規則性が組み合わせられて統合する表現、としてみることもできる。すなわち、窓の参照関係による同一と差異、屋根の変形による部分の固定と解放が統合されるとによって、規則性(同一、固定)と不規則性(差異、解放)

の均衡の表現の可能性があると見える。

屋根の変形と寝室の開放が組み合わさる作品のうち、たとえば、no. 6 HouseSAでは、回転した棟と軒を結ぶと部分的に屋根面がねじれ、平面の歪みによって軒が傾斜し、その内部では寝室が段差によって分節されており、軒、棟の縫合の表現が寝室の開放によって一望できることになる。つまり屋根の変形による歪みと内部空間の連続性を統合する表現の可能性があると見える。

窓の参照関係と寝室の開放が組み合わさる作品のうち、no. 4 アニ・ハウスでは、階をまたいだ大きな窓が反復するもので、積層した寝室からもその窓の反復をみることができる。つまり窓の参照関係による同一や差異と内部空間の連続性を統合する表現の可能性があると見える。

窓の参照関係と収納の集約が組み合わさる作品のうち、no. 17 セルブリックでは、棚が外壁に沿い、その所々に棚の規格にあった同一の窓が反復しており、外壁、収納の融合と窓の同一が結びついた表現と見える。窓と収納を関係づけるには、収納が外壁に沿って設けられることが必要条件となり、外壁と融合した収納の規格サイズや奥行と、窓の大きさや奥行による同一や差異が統合する表現の可能性があると見える。

寝室の開放と収納の集約が組み合わさる no. 14 空を捕まえる家 III では、収納が中央に集約され、寝室が開放されることで環状に連続した空間が形成されており、no. 18 引き出しの家では、収納が片側に寄せられ、寝室もそのアルコーブ部分に納められているものである。つまり収納の集約による物の領域と残りの領域の空間の連続性を統合する表現と、物の領域に寝室を組み込む表現の可能性が考察できる。

屋根の変形と収納の集約が組み合わさる事例はみられなかったが、外壁と融合した収納が歪んだ平面形で配置された場合、屋根の変形がそれらを統合する表現の可能性が考えられる。

以上より、複数の慣習的な要素が組み合わさることによって、それぞれの要素による構成を関係づけて統合する表現の可能性を考察した。

第7章 注

1) 佐藤信夫：レトリック感覚，講談社，1992.6

「全体と部分のあいだでの表現の貸し借りのうち、 Π 型の全体と部分（現実的な隣接関係）にかんする比喩は、いっさい換喩だということになる。しかし Σ 型（それと表裏一体の π 型の）全体と部分は、現実的な隣接性ではなく、意味の大小関係、すなわち類と種の関係であるから、換喩とはまったく別のものと扱わなければならない。私はそれを本来の喩とみなすことにしたい。」とある。

表7-1 作品リスト

no.	作品名	設計者	掲載誌/号	窓	屋根	寝室	収納
1	私の家	清家清	sk5703			○	○
2	ブルーボックスハウス	宮脇檀	sk7110	○			○
3	トウフ	玉置順	jt9707	○			○
4	アニ・ハウス	アトリエ・ワン	jt9802	○		○	
5	LIME HOUSE	北山恒	jt9803			○	○
6	HOUSE SA	坂本一成	jt9908		○	○	
7	L	青木淳	jt0004			○	○
8	バルコニーの家	手塚貴晴+手塚由比	jt0011			○	○
9	ブライッド・キャットハウス	八木敦	jt0111	○		○	○
10	大和町の家	大塚隆	jt0102			○	○
11	ハウス・アサマ	アトリエ・ワン	sk0103	○	○		
12	代沢M邸	CLIP	jt0201			○	○
13	ダス・ハウス	アトリエ・ワン	jt0206		○	○	○
14	空を捕まえる家Ⅲ	手塚貴晴+手塚由比	jt0307			○	○
15	SoHo	宮本佳明	jt0309			○	○
16	ガエ・ハウス	アトリエ・ワン	jt0310			○	○
17	セル・ブリック	山下保博	jt0405	○		○	○
18	引き出しの家	nendo	jt0404			○	○
19	G	青木淳	sk0409	○	○		
20	昭島のハウス	西沢大良	sk0411			○	○
21	Lucky Drops	山下保博	sk0504		○	○	
22	ガク・ハウス	アトリエ・ワン	jt0601			○	○
23	KATA House	加茂紀和子	jt0711		○	○	
24	ピアノハウス	駒田剛司	jt0808		○	○	

表7-2 要素の組み合わせのある作品数

窓+屋根	2
窓+寝室	1
窓+収納	3
屋根+寝室	4
屋根+収納	0
寝室+収納	12
窓+屋根+寝室	0
窓+屋根+収納	0
窓+寝室+収納	1
屋根+寝室+収納	1
窓+屋根+寝室+収納	1

現代建築作品における慣習的な要素による構成の修辞

資料編

第2章 窓の参照関係による構成の修辞

第3章 屋根の変形による構成の修辞

第4章 寝室の開放による構成の修辞

第5章 収納の集約による構成の修辞

第2章 現代建築作品における窓どうしの参照関係

(全107作品)

作品番号 作品名 建築家名 掲載誌	窓の種類による差異 窓図
	<p style="text-align: center;"> 平面図 立面図 外観写真 内観写真 </p>

凡例

Sh:窓の形状 Si:窓の大きさ De:窓の奥行

窓の種類による差異

★:対比的な差異 ☆:相同的な差異

(

- :対比的な差異があり、その中に相同的な差異があるもの
- / :2つの対比的な差異があるもの
- , :対比的な差異に重なりがみられるもの

)

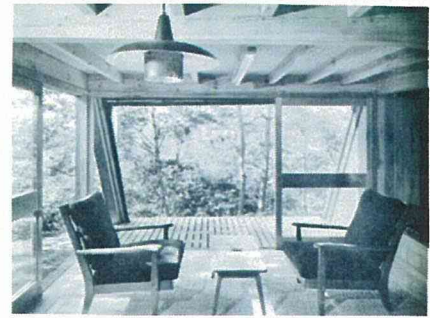
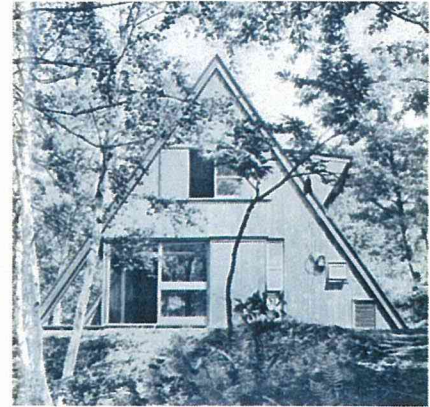
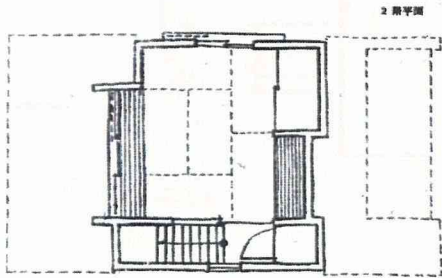
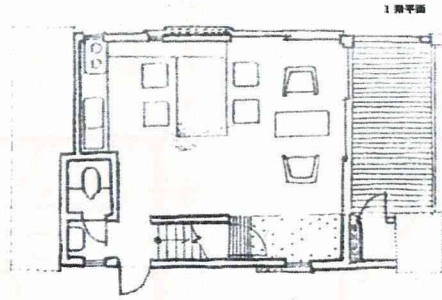
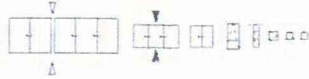
窓図

↓ ∇
 中央に位置 角に位置
 ▲ ▲

1

山荘△
生田勉
sk6010

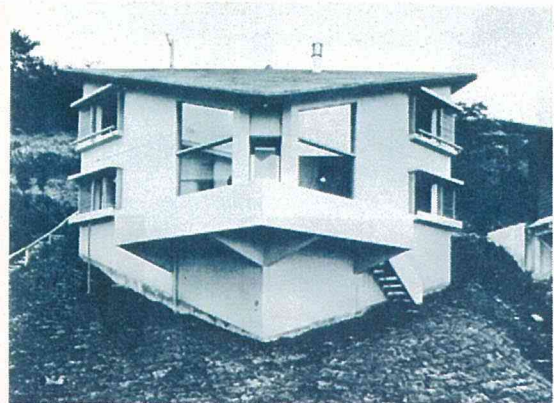
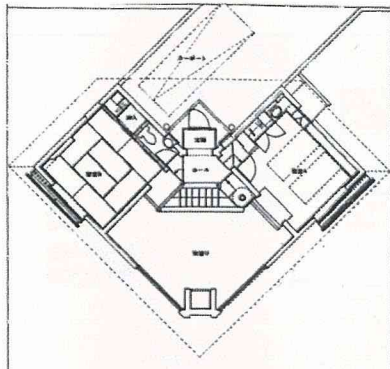
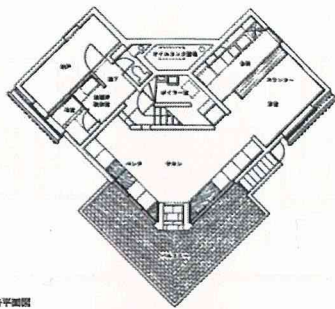
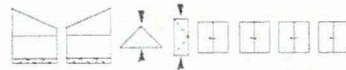
Si角中
☆



2

海に見える家
林雅子
sk7408

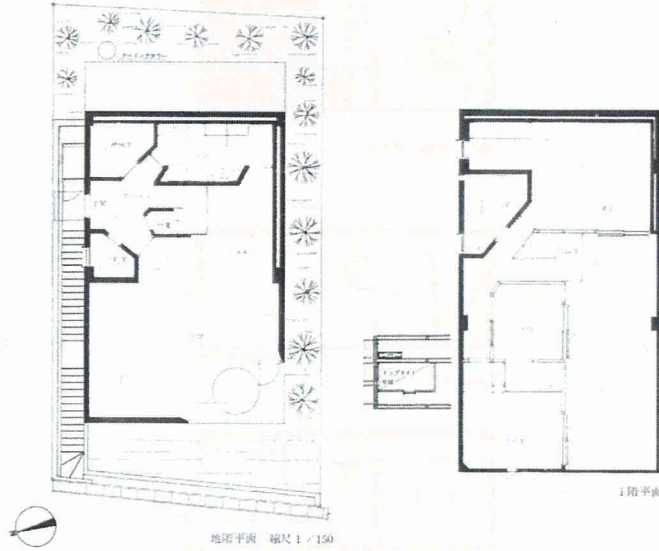
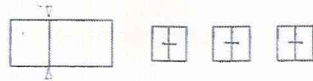
Sh,Si,De2/Sh中/中
☆



3

ブルーボックス
宮脇檀
sk7110

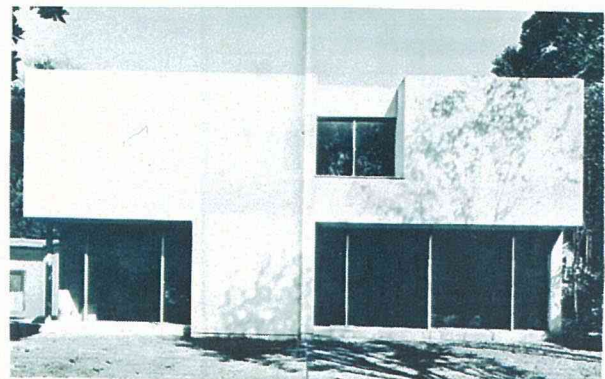
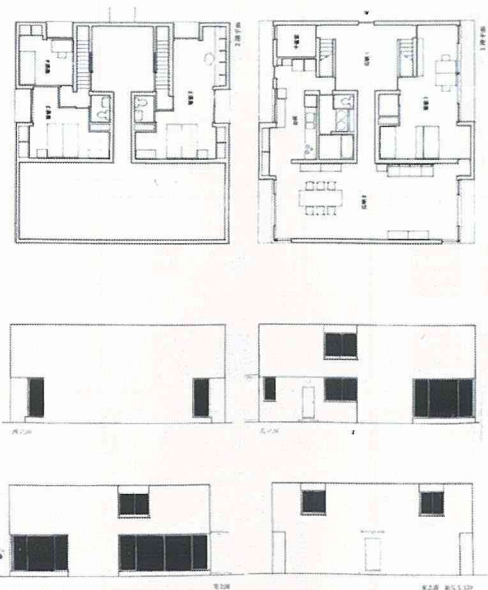
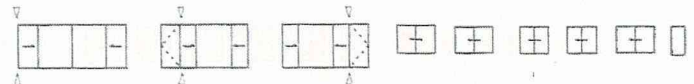
Si,角
★



4

直方体の森
篠原一男
sk7202

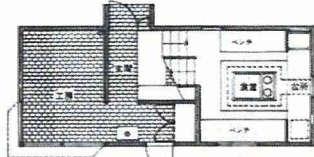
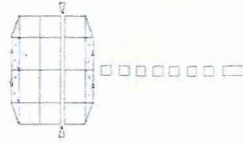
Si,角/Si,角*2
★



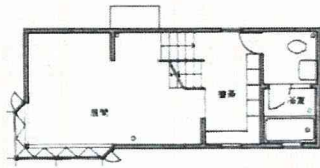
5

MOV 山莊
山下和正
sk7205

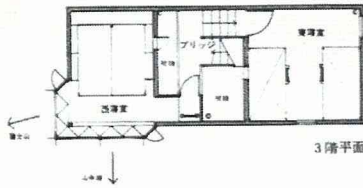
Si角*
★



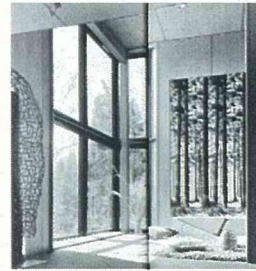
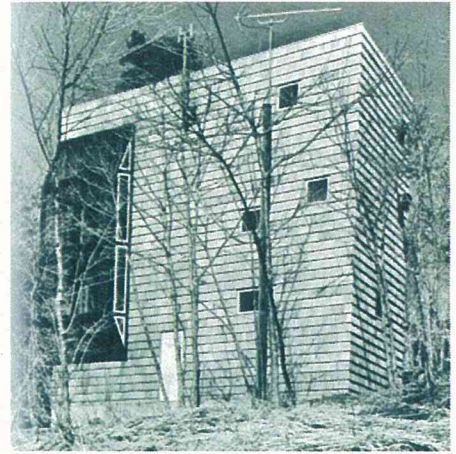
1階平面 縮尺1/150



2階平面



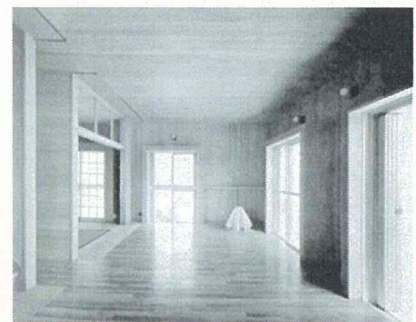
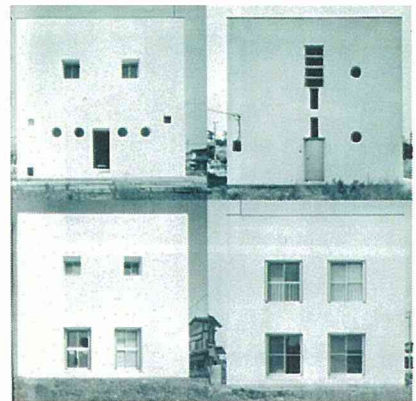
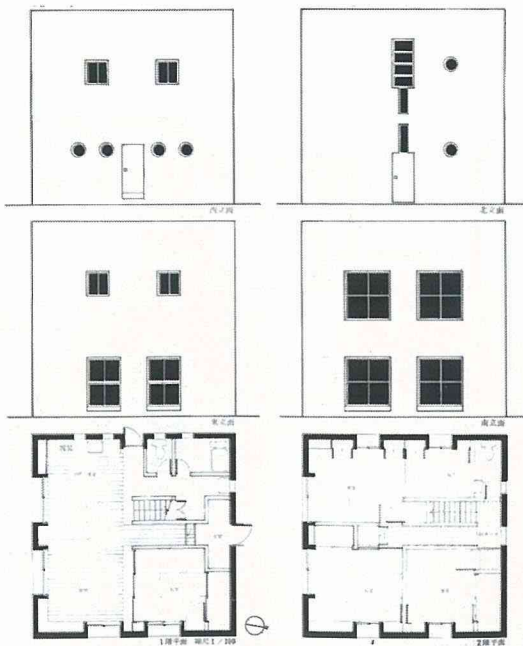
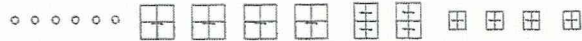
3階平面



6

涅槃の家
相田武文
sk7208

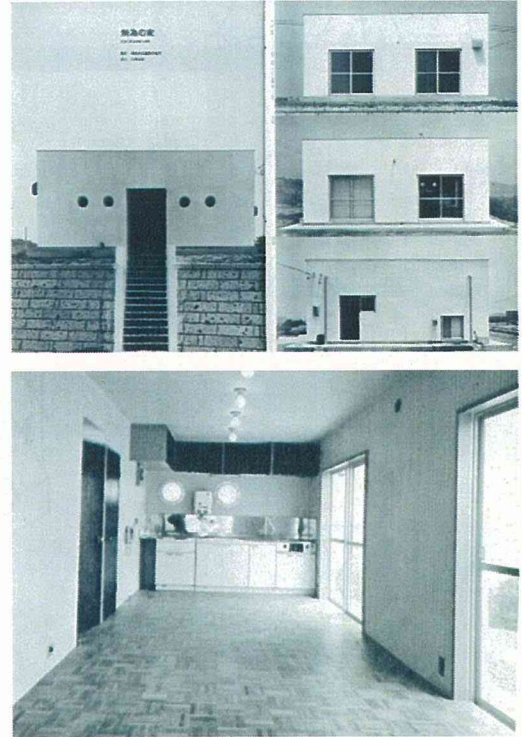
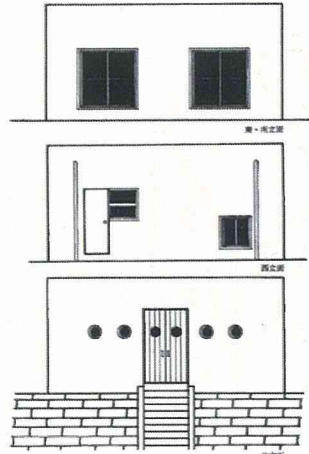
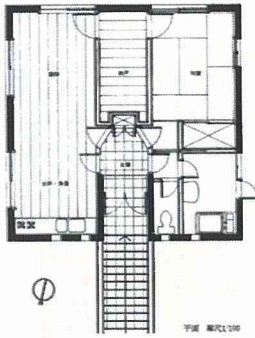
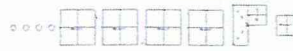
Sh
★



7

無為の家
相田武文
sk7208

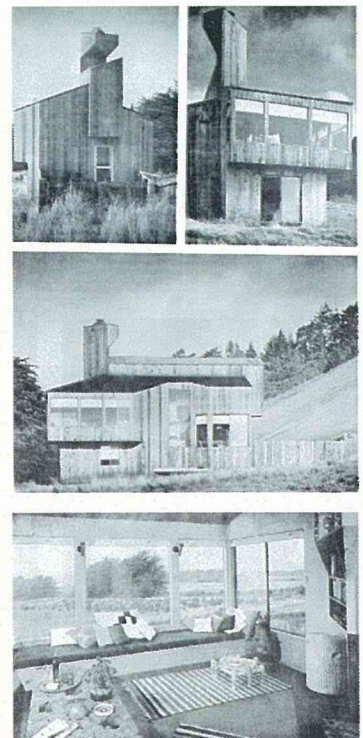
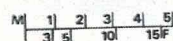
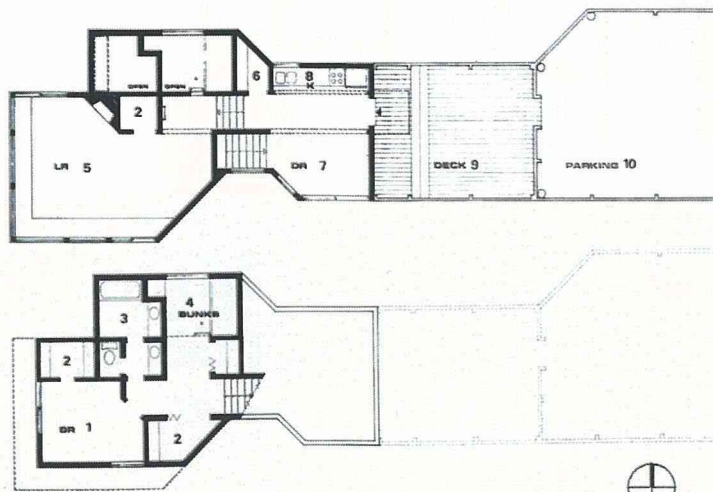
Sh
★



8

Ruch House
MLTW
au7211

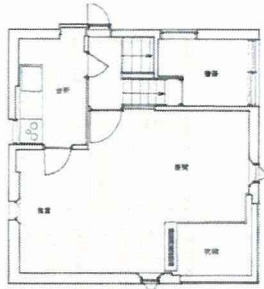
Si,De 角
★



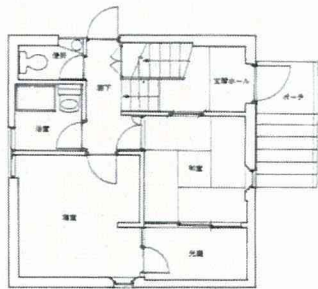
9

グリーンボックス
宮脇檀
sk7302

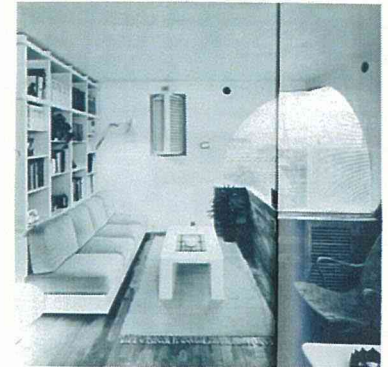
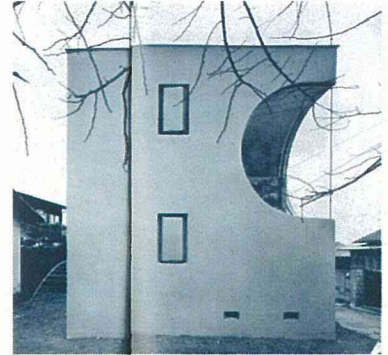
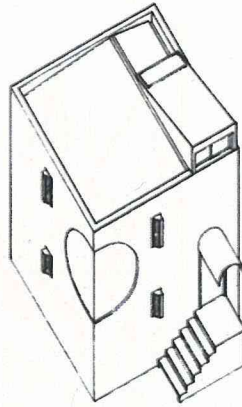
Sh,Si 角
★



2階平面図



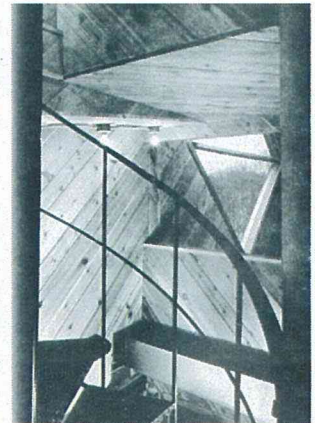
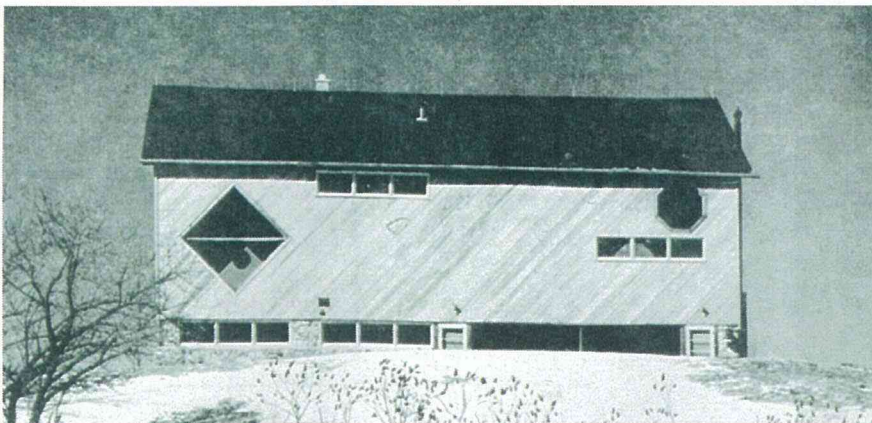
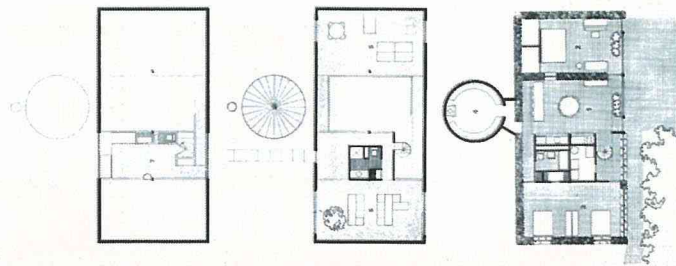
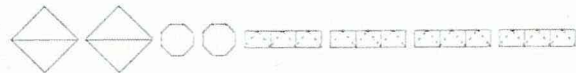
1階平面図 縮尺1/100



10

Barn Rehabilitation
Stabley Tigerman
au7302

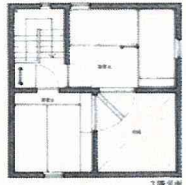
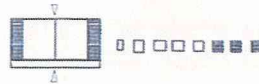
Sh2/Sh2
★



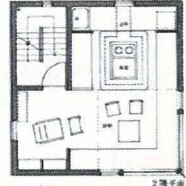
11

ピラアチス
山下和正
sk7307

Si,De 角
★



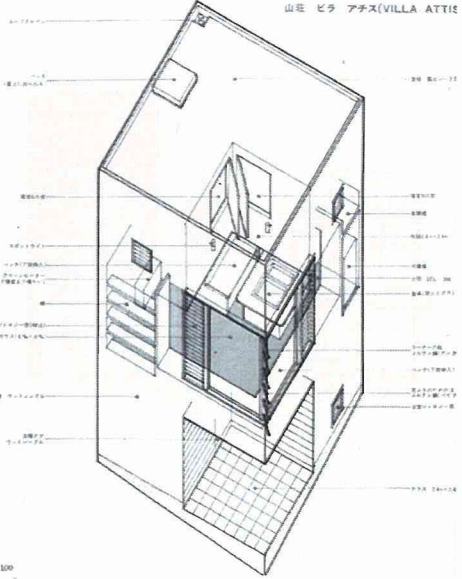
3階平面



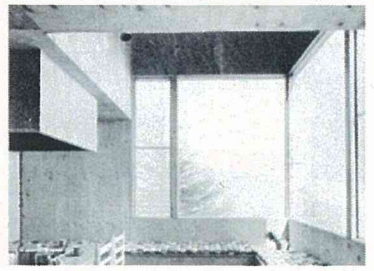
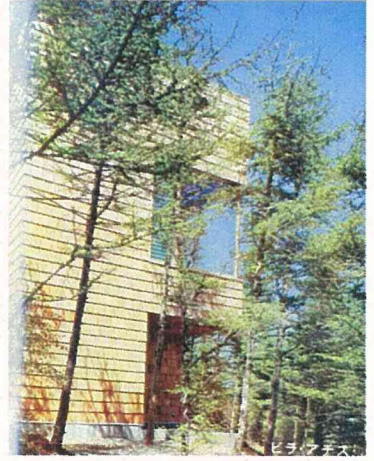
2階平面



1階平面 縮尺 1/100



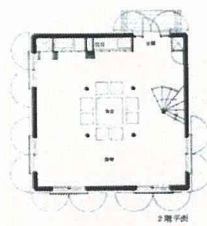
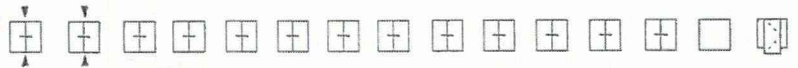
山荘 ピラ アチス(VILLA ATTIE)



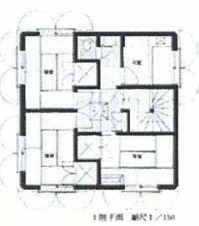
12

サイコロの主題による家
相田武文
sk7402

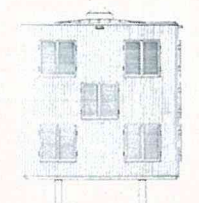
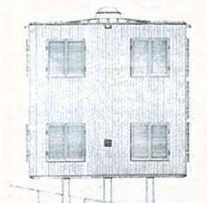
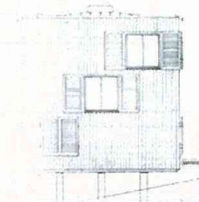
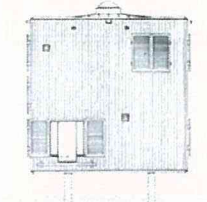
中2
☆



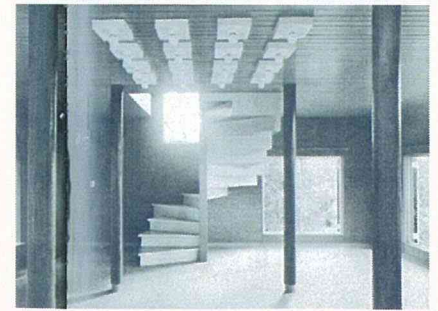
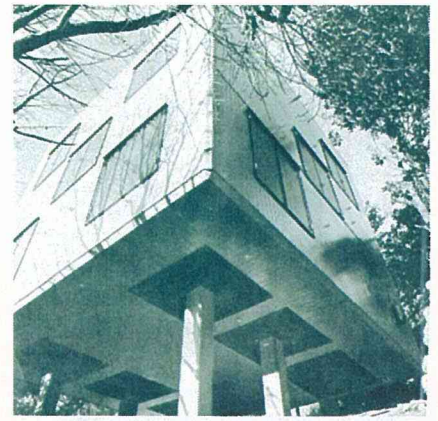
2階平面



1階平面 縮尺 1/150



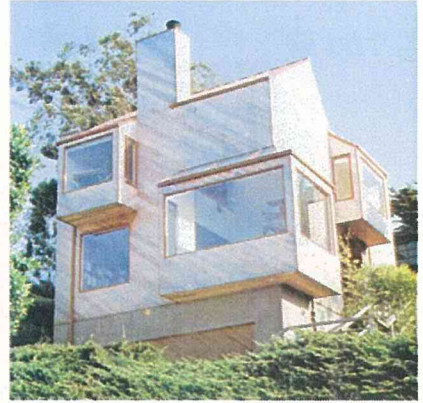
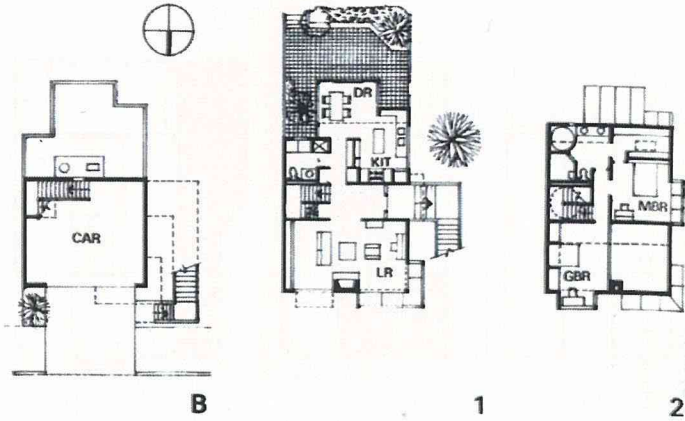
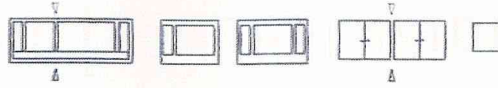
南立面



13

Coplans Residence
Burger&Coplans
au7403

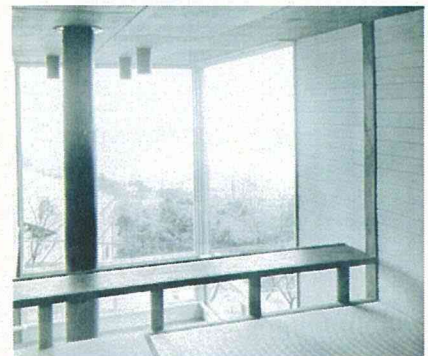
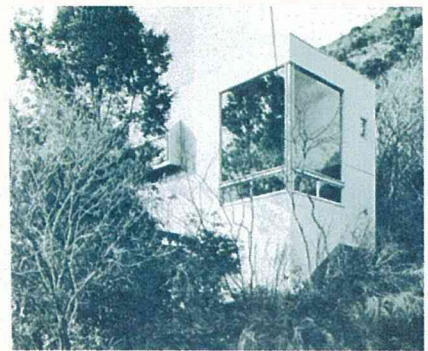
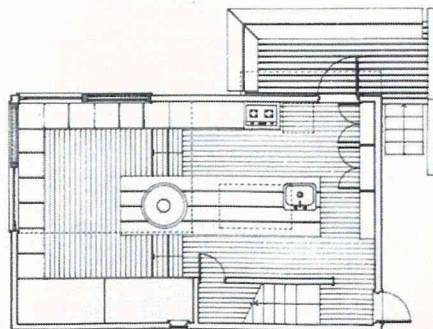
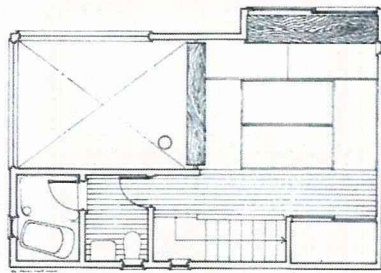
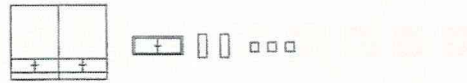
De,角/De2/角
☆



14

赤沢山荘
黒沢隆
sk7405

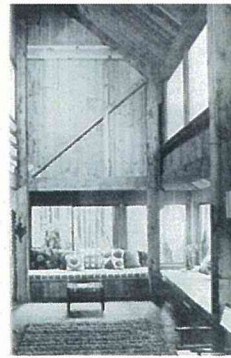
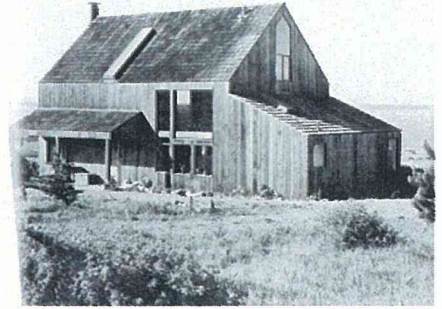
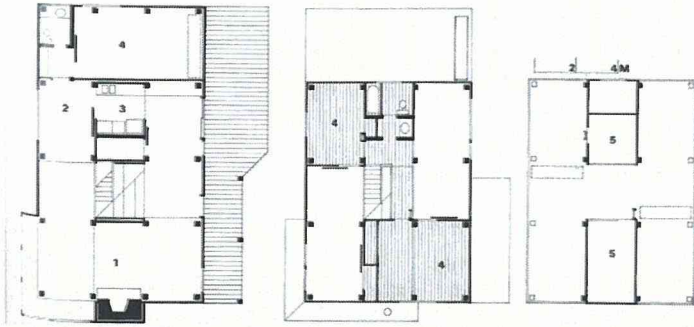
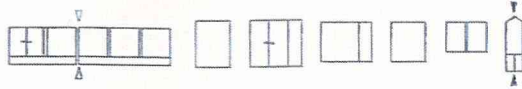
Si,De角
★



15

Barn House
MLTW
au7410

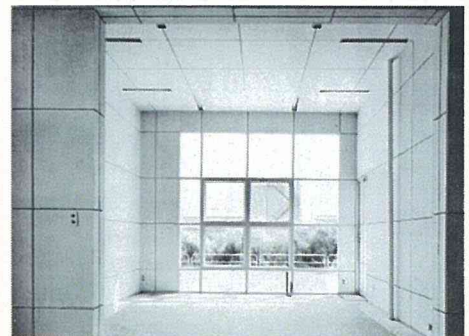
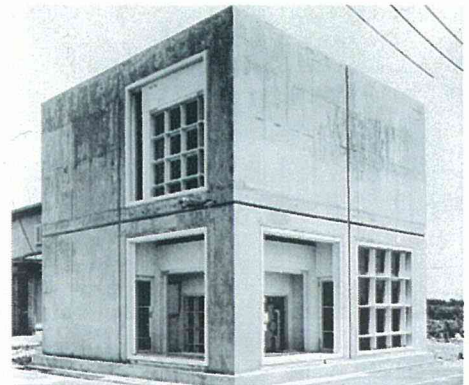
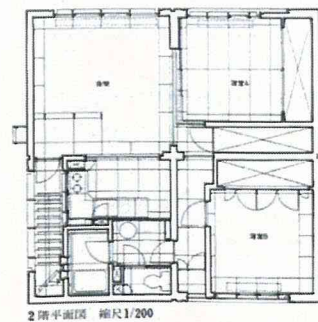
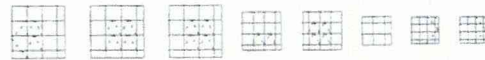
Si, De 角/Sh 中
★



16

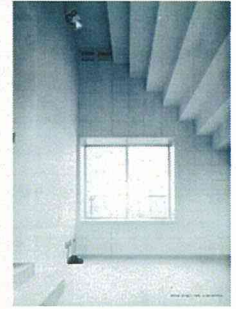
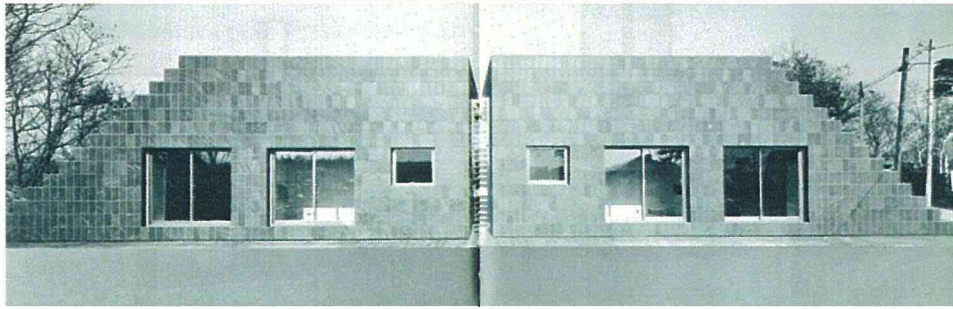
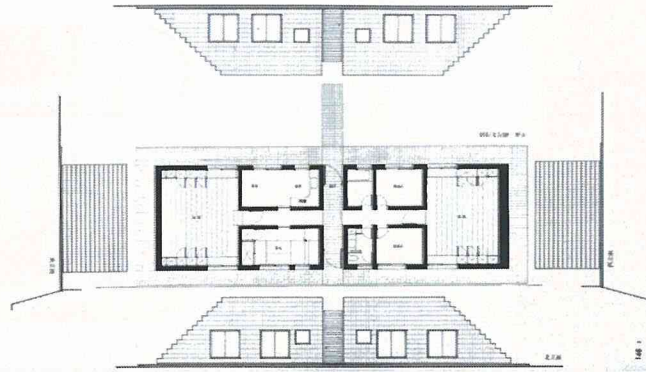
等々力邸
藤井博己
sk7508

Si
★



17

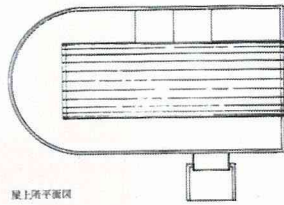
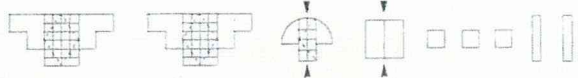
段象の家
相田武文
sk7602



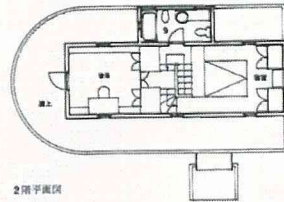
18

Y邸
磯崎新
sk7604

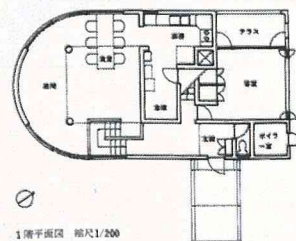
Sh, Si2/Sh中/中



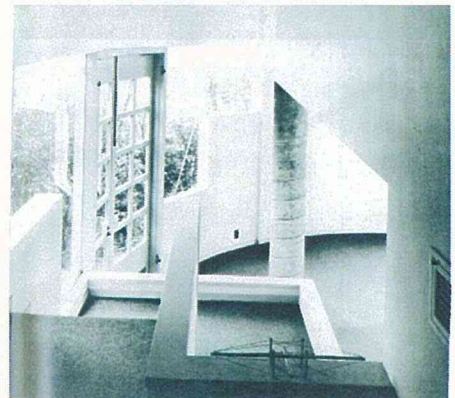
屋上階平面図



2階平面図



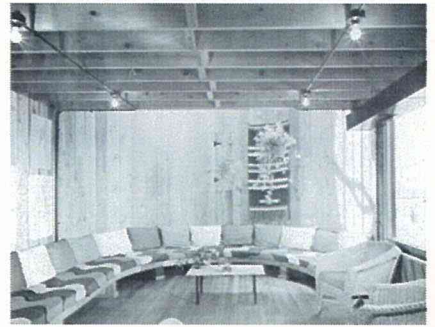
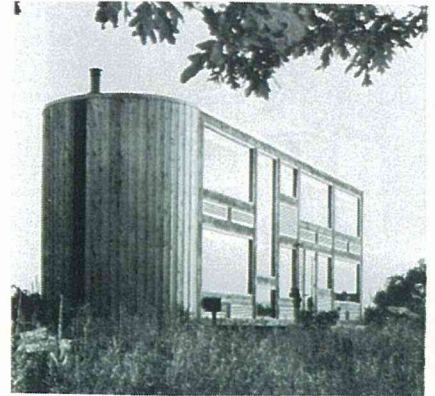
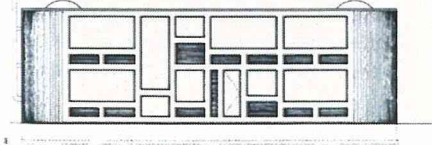
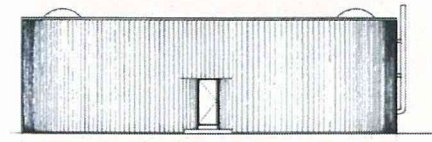
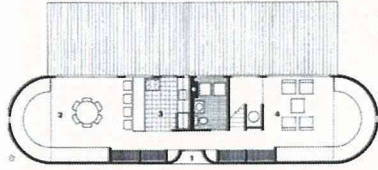
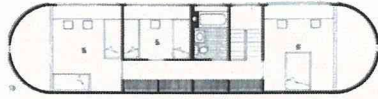
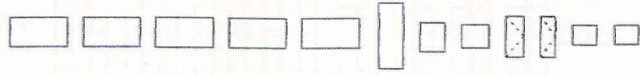
1階平面図 縮尺1/200



19

Hot Dog House
Stanley Tigerman
au7607

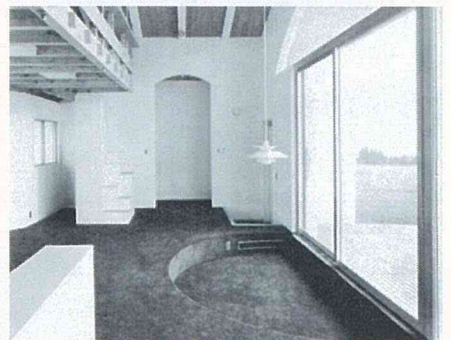
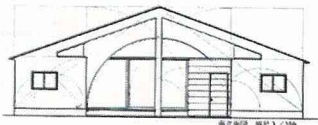
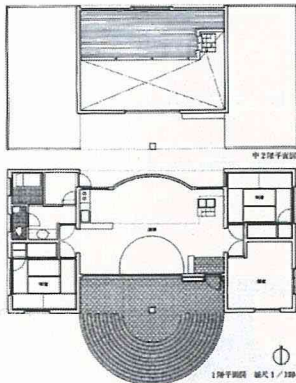
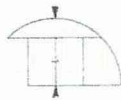
Si
☆



20

ヴィッラK
土岐新
sk7609

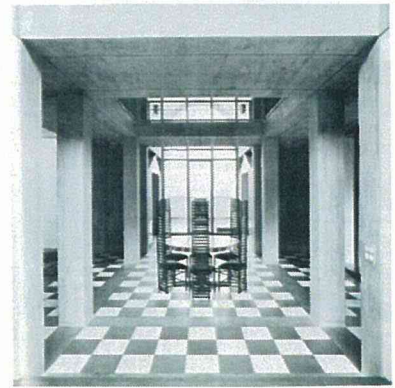
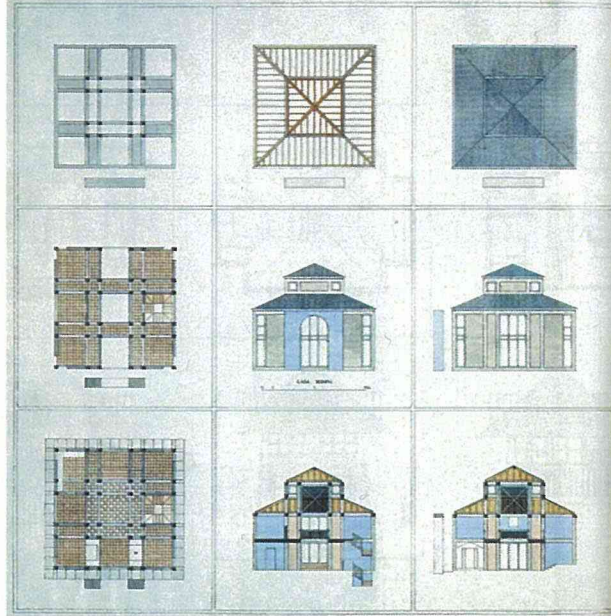
Sh, Si 中
★



21

Tonini House
Reichlin+Reinhart
au7609

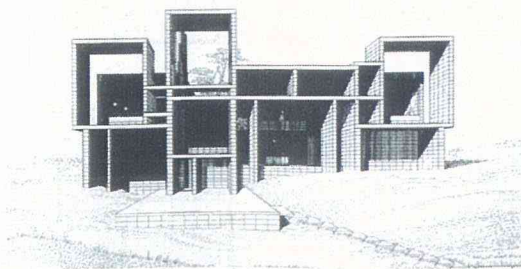
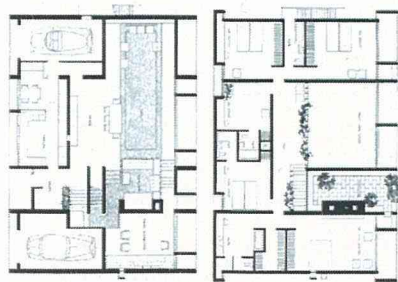
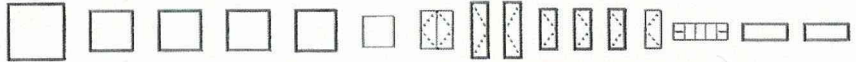
Si角/Si中
★



22

Milam Residence
Paul Rudolph
au7707

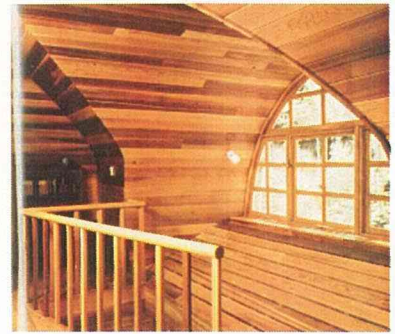
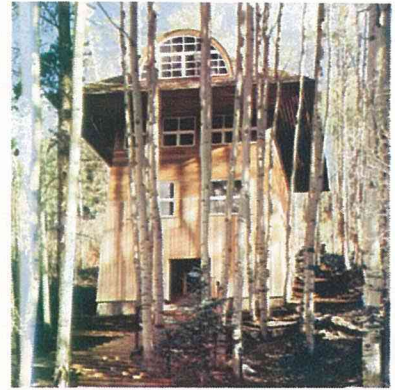
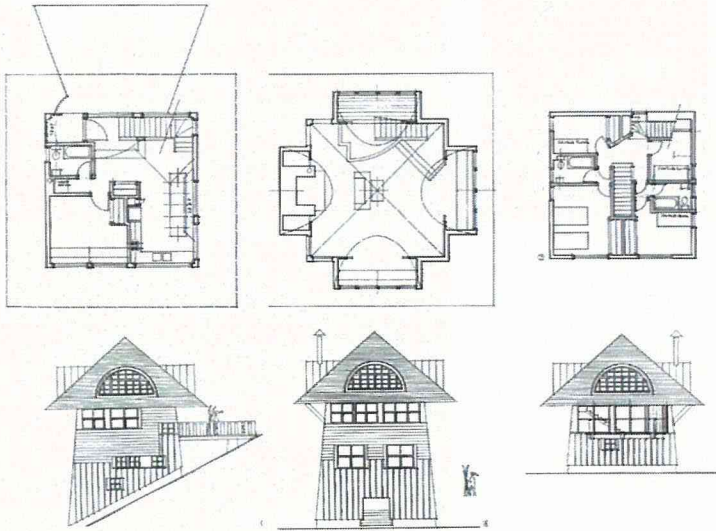
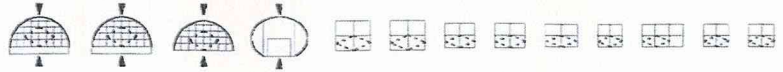
Si-De
☆



23

Brant-Johnson House
R.Venturi
au7801

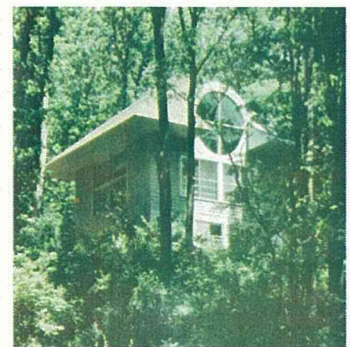
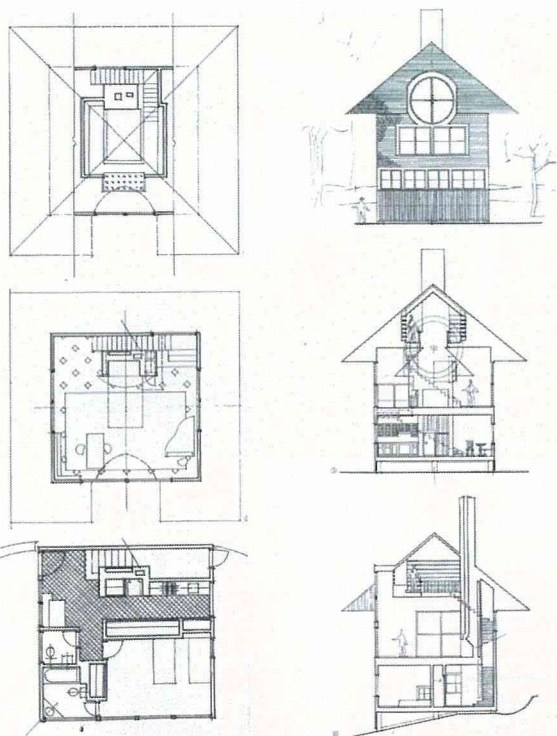
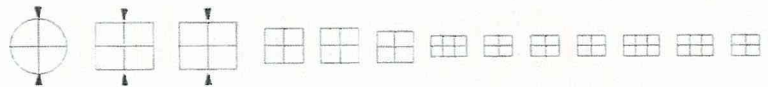
Sh-De 中4
★



24

Tucker House
R.Venturi
au7801

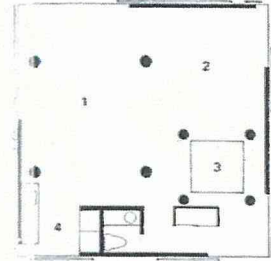
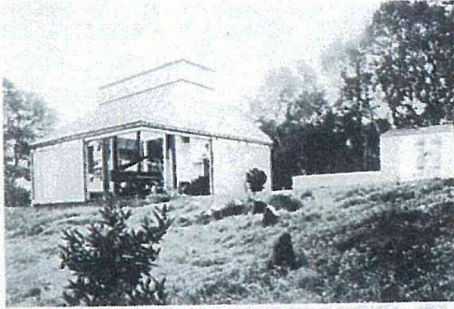
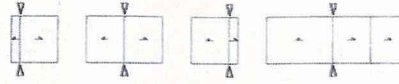
Sh 中/中2
★



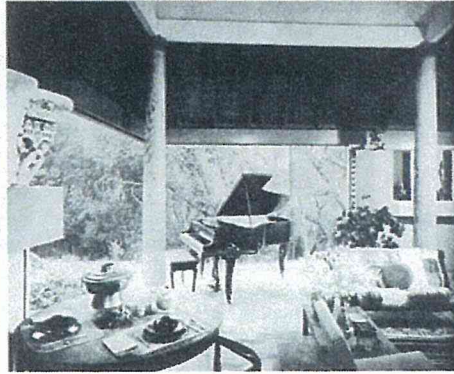
25

Moroe House
MLTW
au7805

Si角*
☆



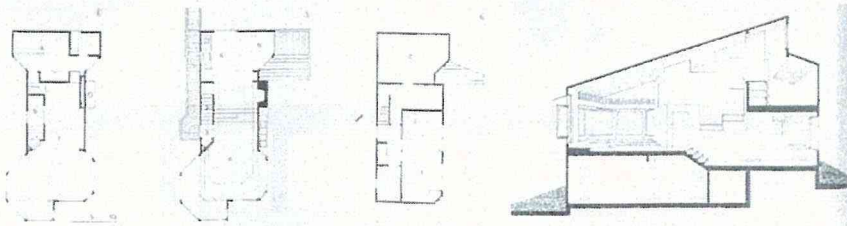
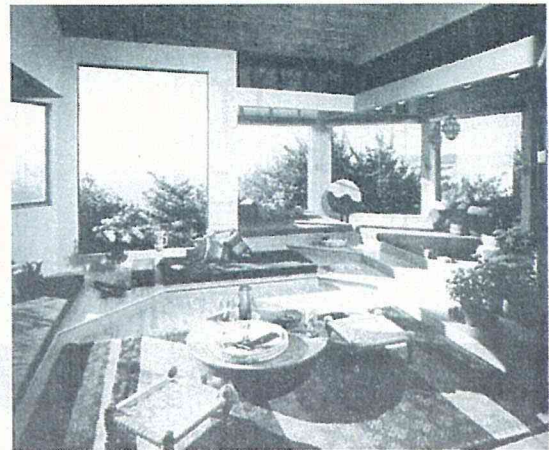
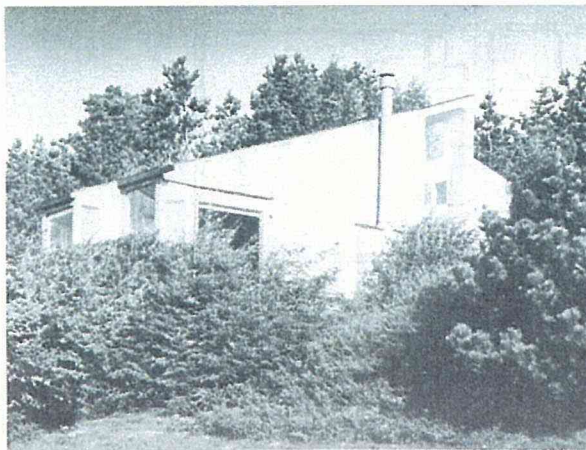
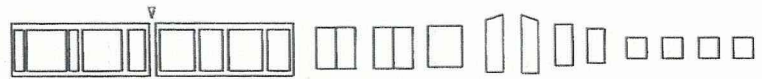
- 5 - 平面図
 - 1 - 居間 食卓
 - 2 - 臥室
 - 3 - シェーダー
 - 4 - 浴室
- 5 - Plan
 - 1 - Living dining
 - 2 - Bed room
 - 3 - Shower
 - 4 - Kitchen



26

Laurence House
MLTW
au7805

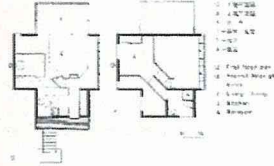
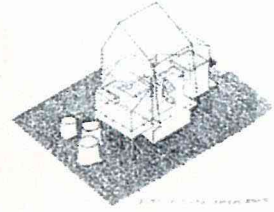
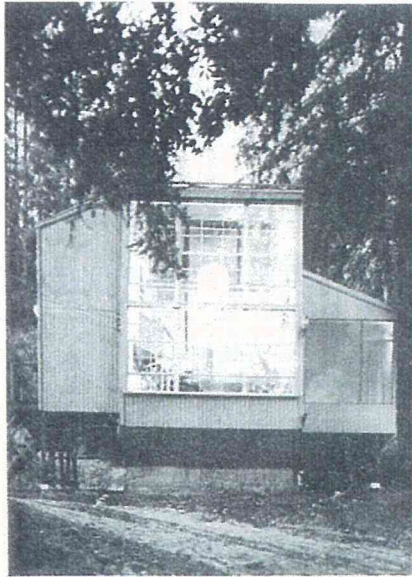
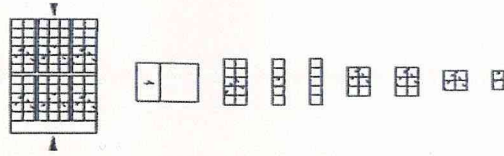
Si,De角
☆



27

Bonham House
MLTW
au7805

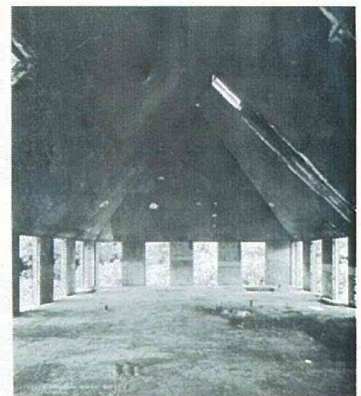
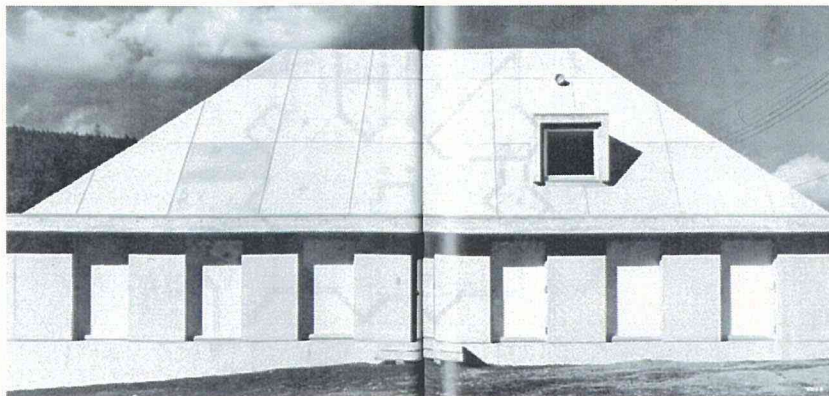
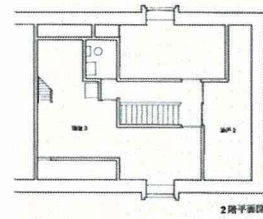
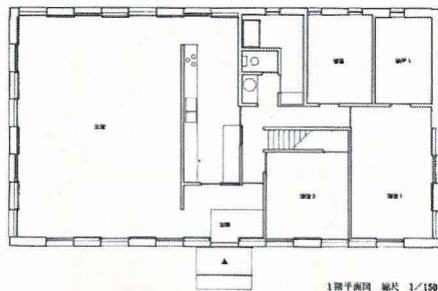
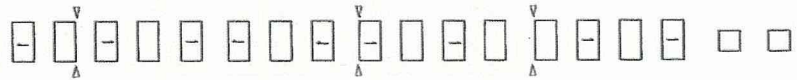
Si 中
★



28

愛鷹裾野の住宅
篠原一男
sk7807

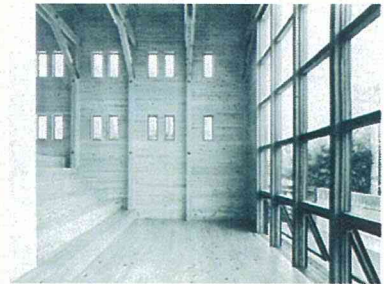
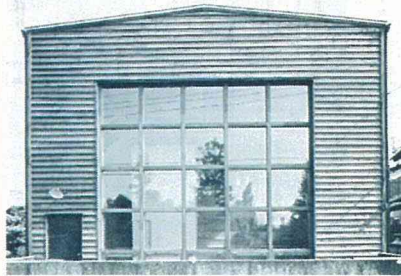
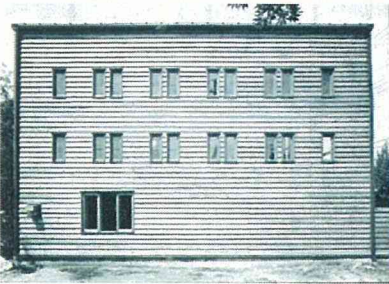
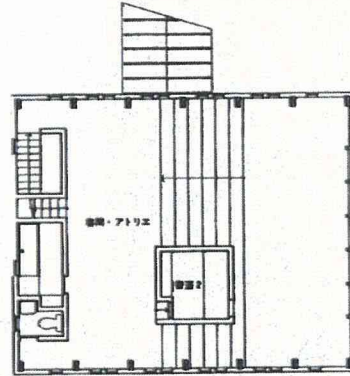
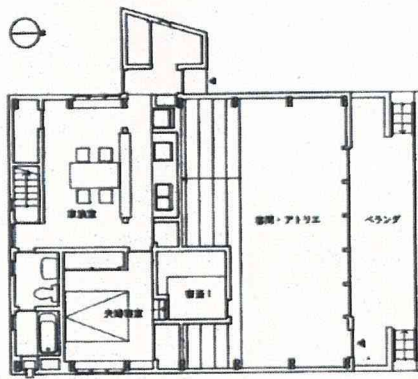
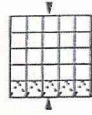
角3
☆



29

石井邸
山本理顕
sk7808

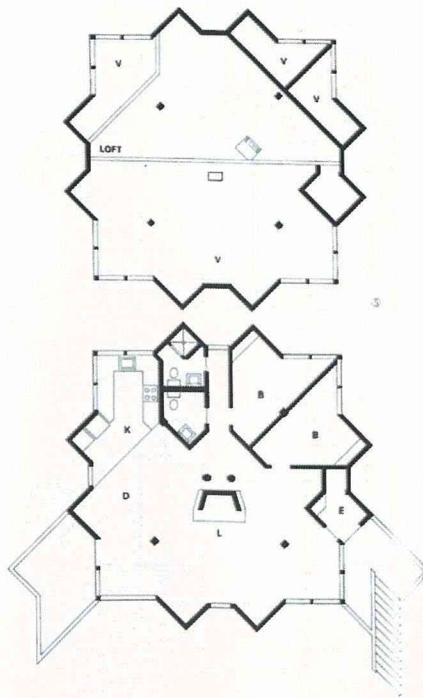
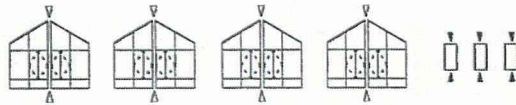
Si 中
★



30

House in Sierras
Donald MacDonald
au7809

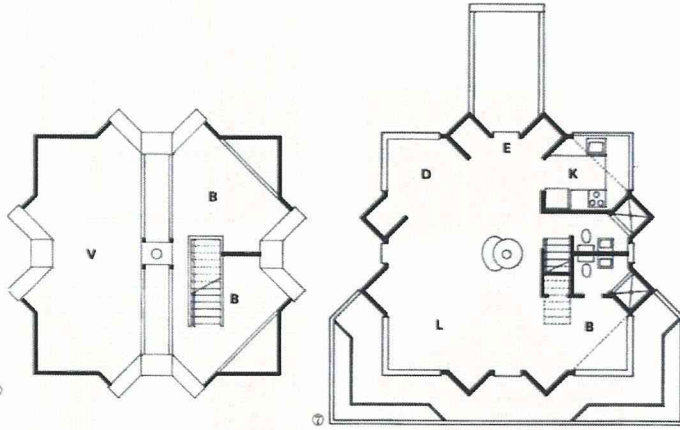
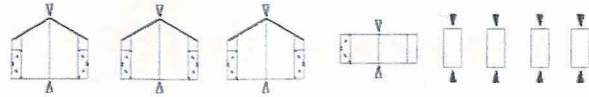
Sh, Si 角4/中3
★



31

Vacation House
 Donald MacDonald
 au7809

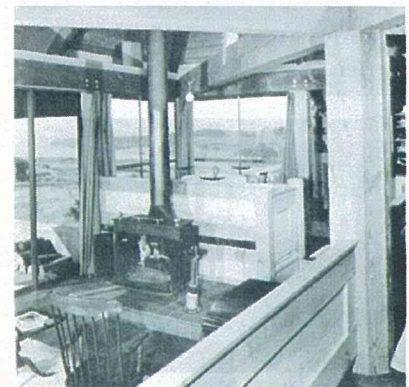
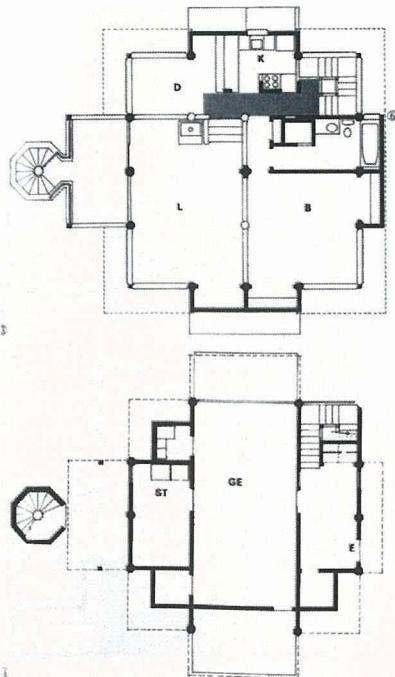
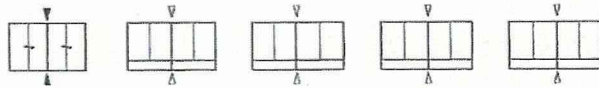
Sh, Si 角3/中4
 ☆



32

House in Mendocino
 Donald MacDonald
 au7809

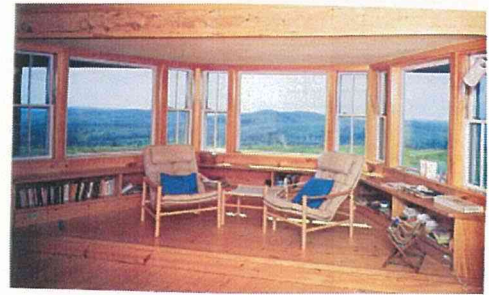
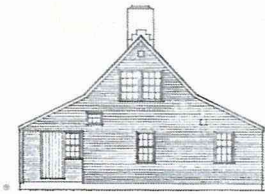
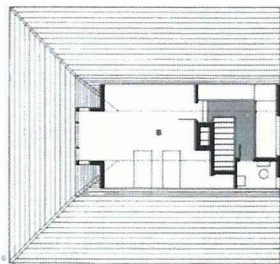
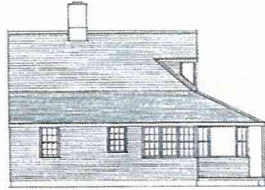
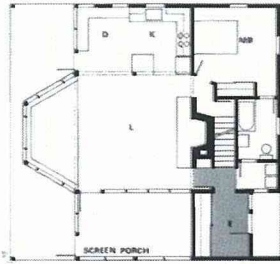
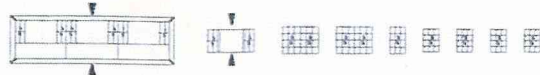
角3/中
 ☆



33

Cottage in Northport
Kazumi Frank
au7809

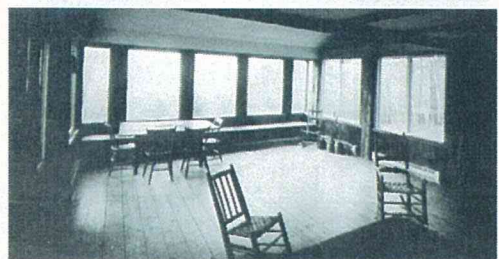
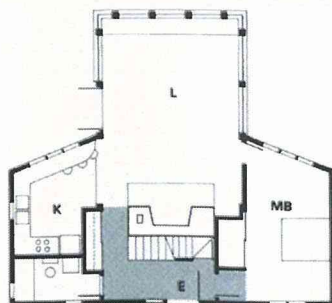
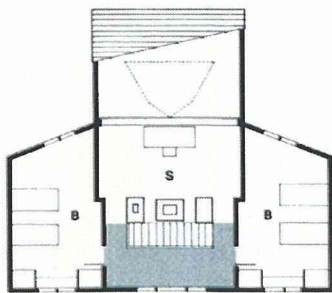
Si,De 中/中
★



34

Cottage in Adirondack
Kazumi Frank
au7809

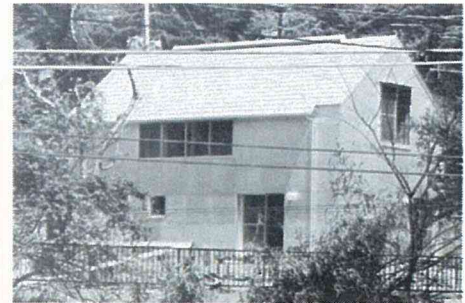
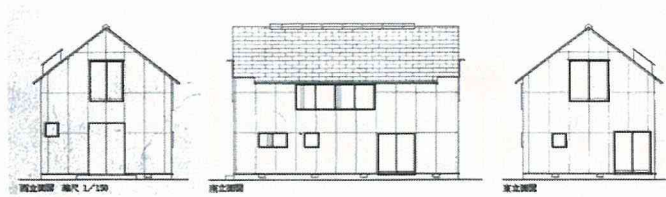
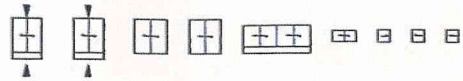
Si,De 中/Sh 中
★



35

坂田山附の家
坂本一成
sk7902

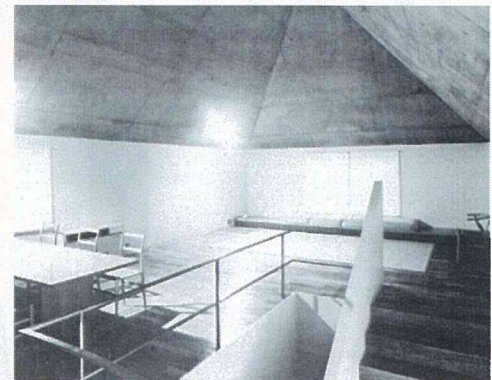
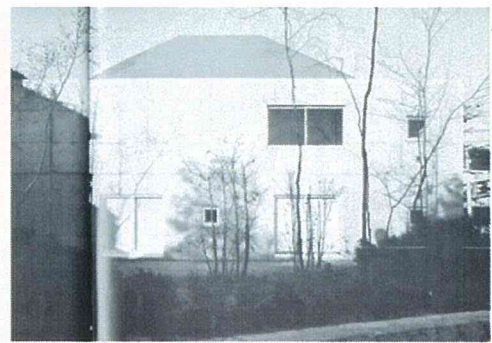
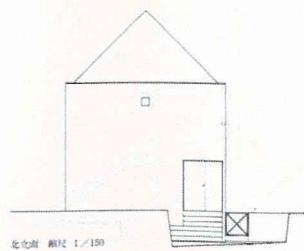
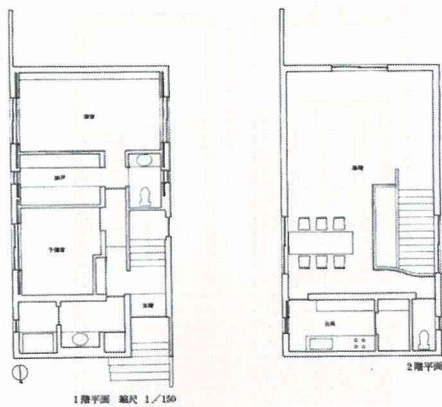
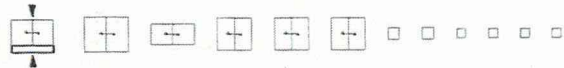
Si-De 中2/-De
☆



36

鈴が台の家
村上徹
sk8102

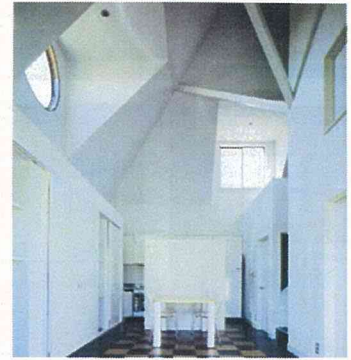
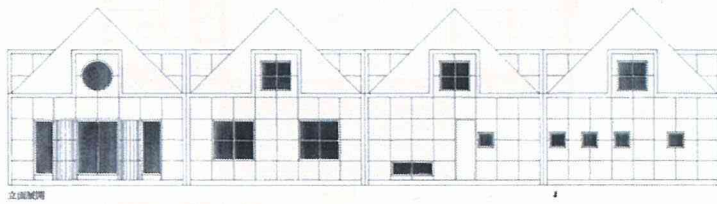
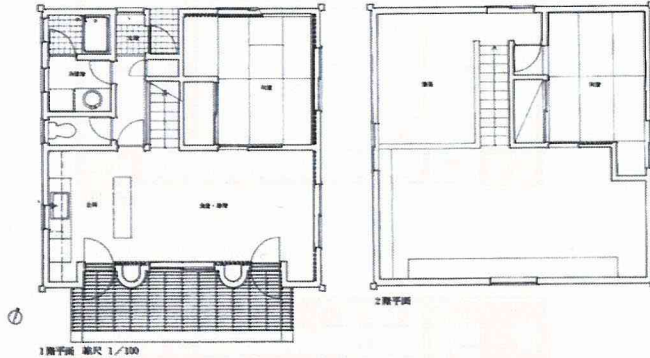
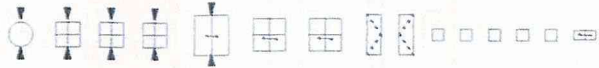
Si-De 中
☆



37

研究学園都市の家
松永安光
sk8104

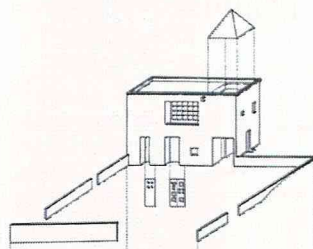
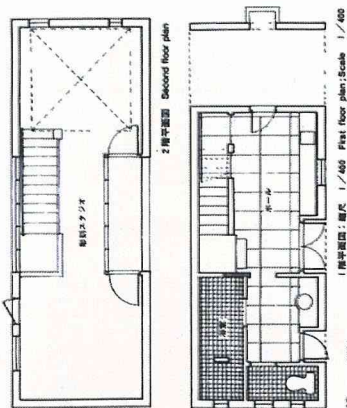
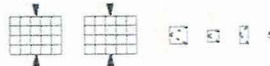
Sh 中/中3/中
★



38

Sculpture Studio
Steven Holl
au8204

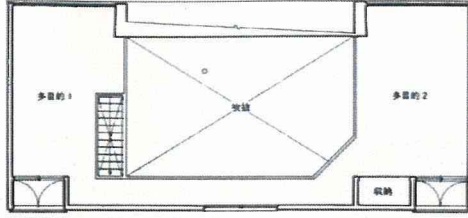
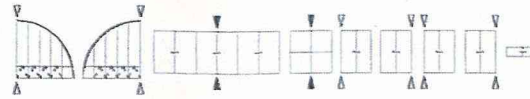
Si 中
★



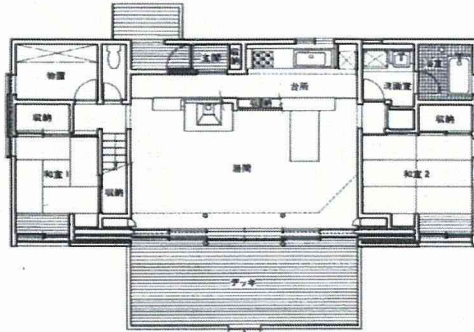
39

蓼科の山荘
犬沢良三
sk8308

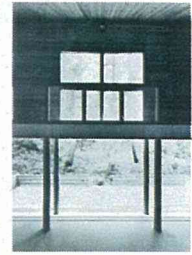
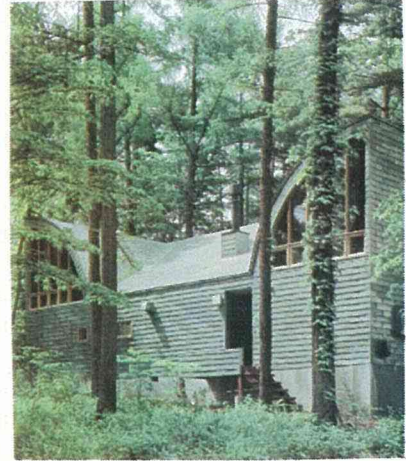
Sh 中,角
★



2階平面



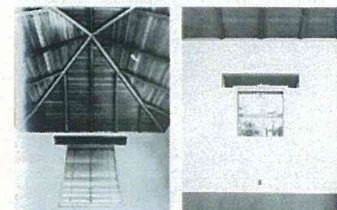
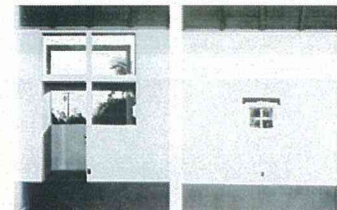
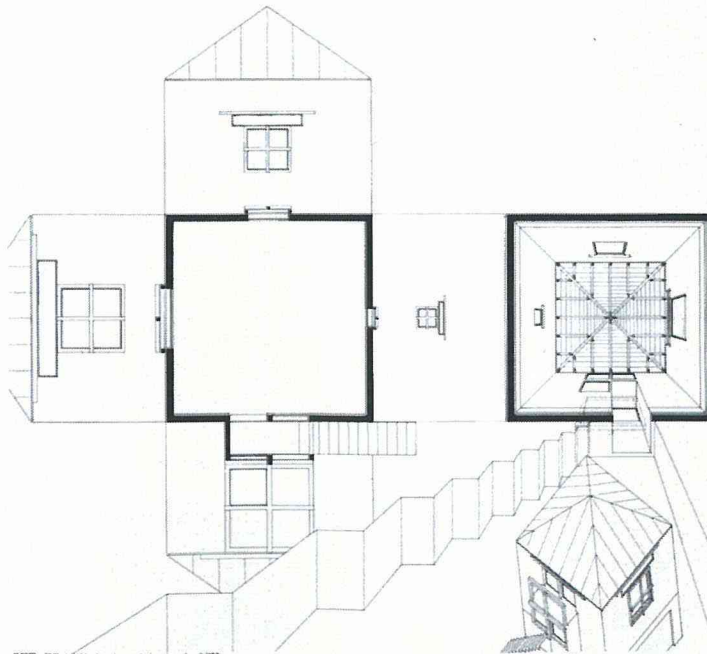
1階平面 縮尺 1/200



40

2-4-6-8 House
Morphosis
au8309

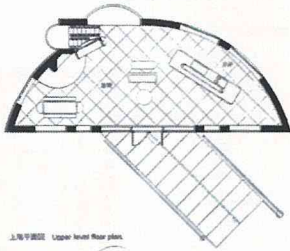
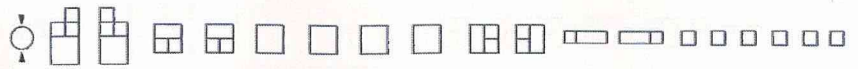
Si 中
☆



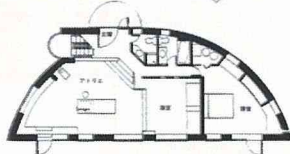
41

Maine House
J.C.Knowles
au8309

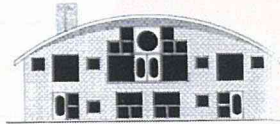
Sh 中
★



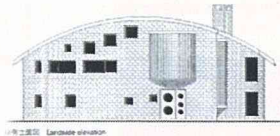
上層平面 Upper level floor plan



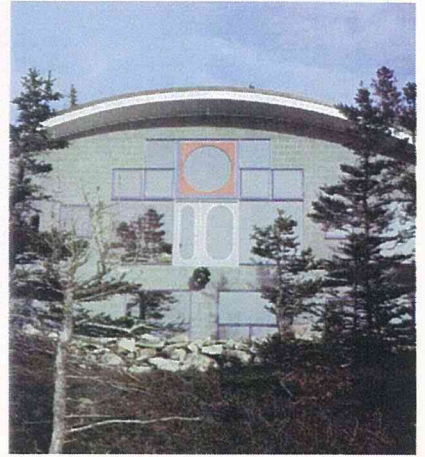
下層平面 Lower level floor plan Scale: 1/200



南立面 South elevation



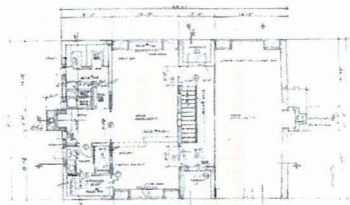
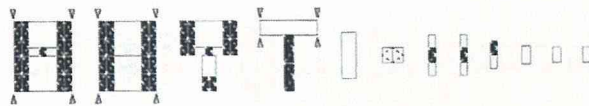
东立面 East elevation



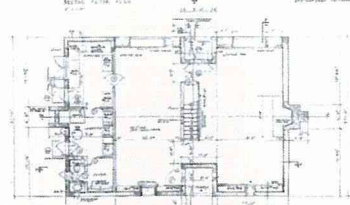
42

Esherrick House
Louis I. Kahn
au8311

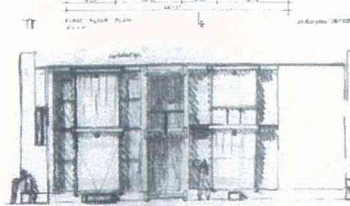
Si 角
★



MEAL PLAN PLAN Scale: 1/200



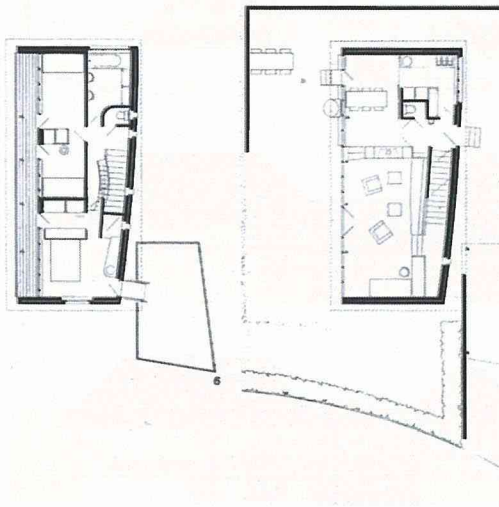
MAIN PLAN PLAN Scale: 1/200



43

Blue House
Herzog&de Meuron
au8504

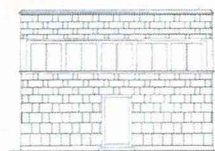
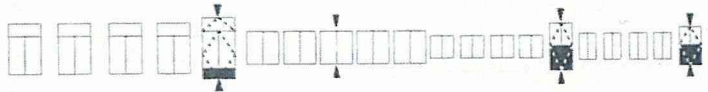
Sh 中3/Si
★



44

House at Balerna
Ivano Gianora
au8504

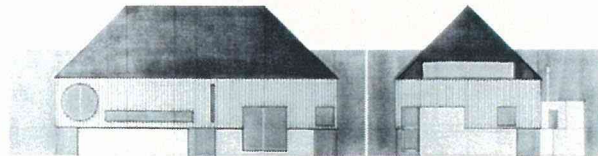
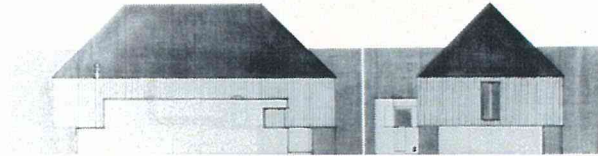
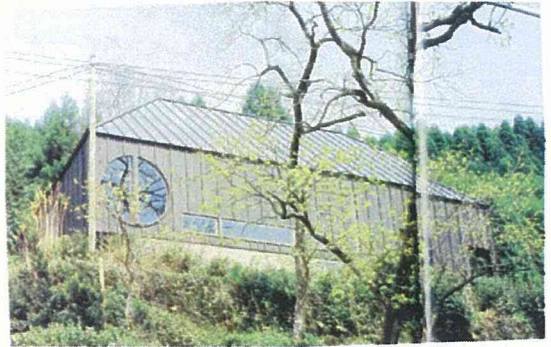
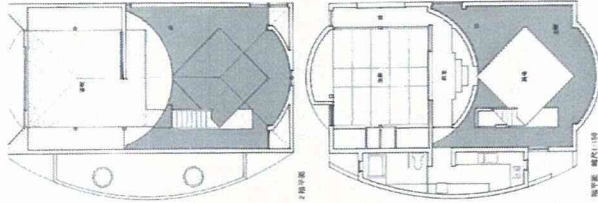
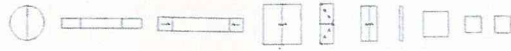
Si,中
☆



45

星溪山莊
野田俊太郎
jt8506

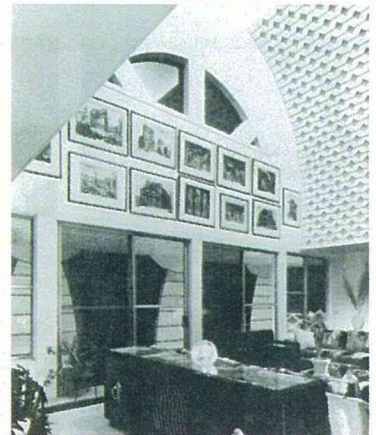
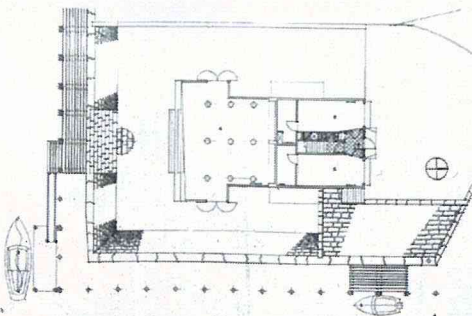
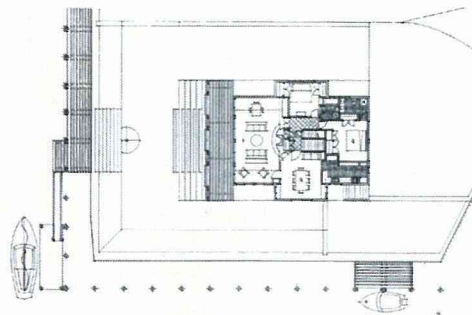
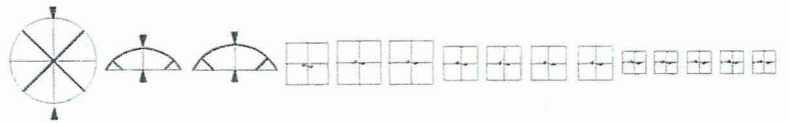
Sh
★



46

House on Long Island
R.Venturi
au8507

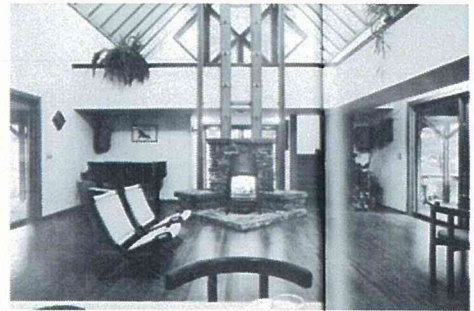
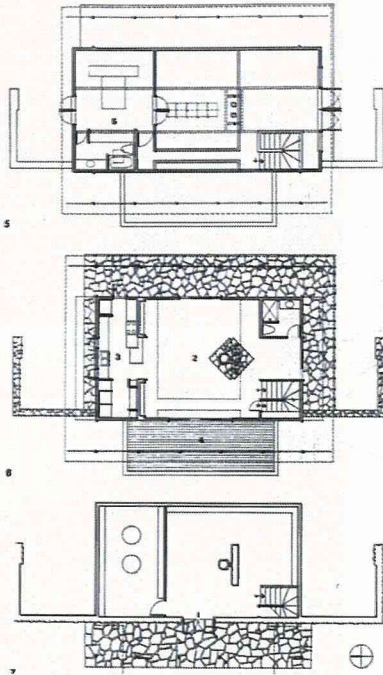
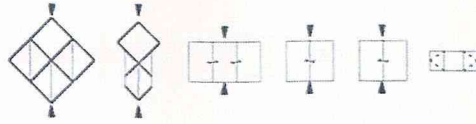
Sh-Si,-Sh 中
★



47

Roy Reed House
Fay Jones
au8507

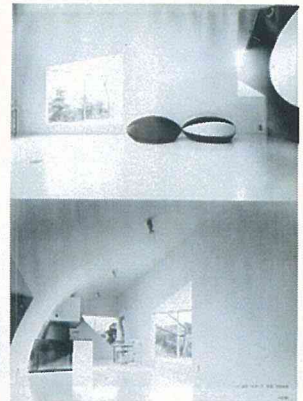
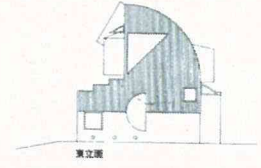
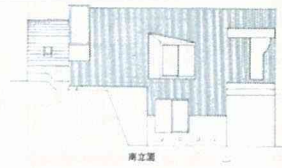
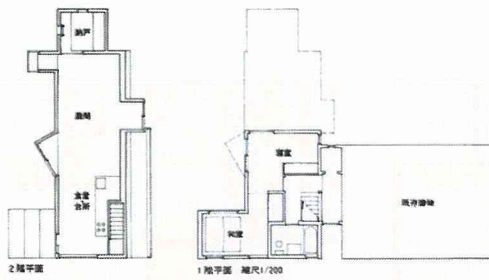
Sh-Si,Sh 中
★



48

ハウスインヨコハマ
篠原一男
jt8605

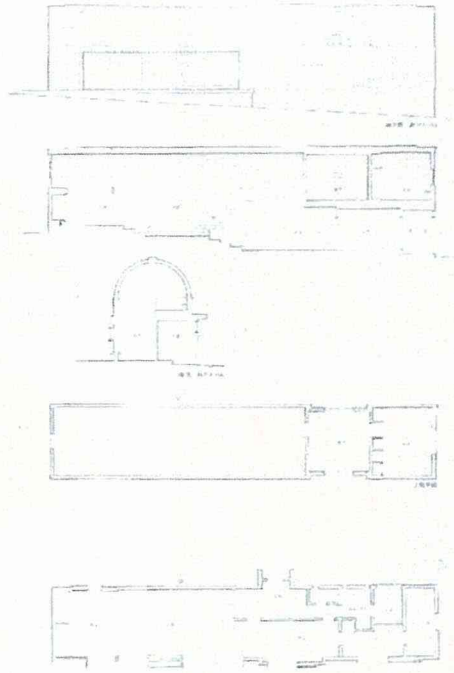
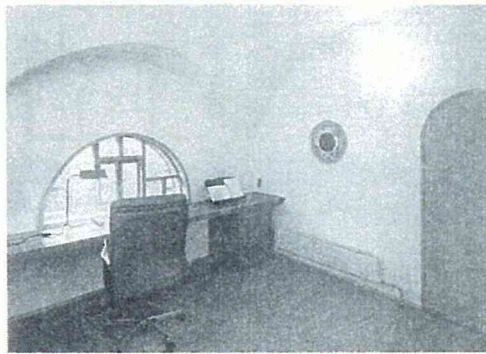
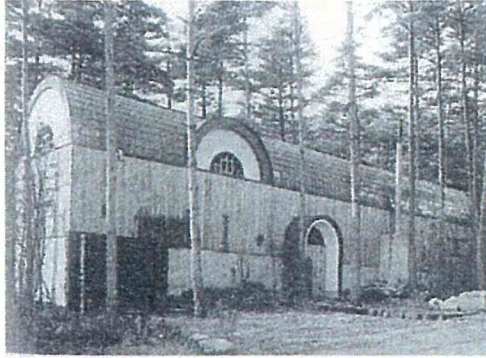
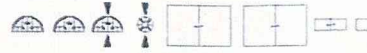
Sh/Sh/De
★



49

穂高の家
茶谷研究室
jt8608

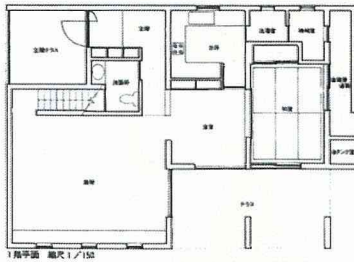
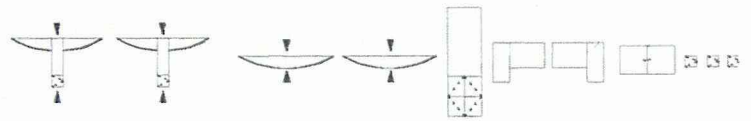
Sh 中/Sh
★



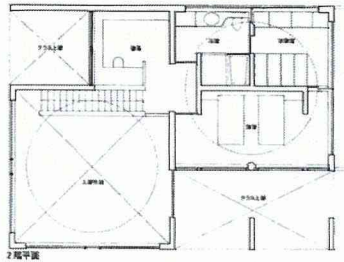
50

福井勝山の家
伊藤孝
jt8702

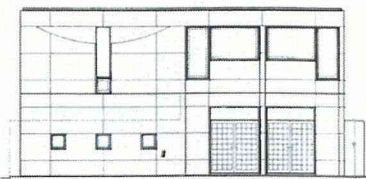
Sh 中/Si
★



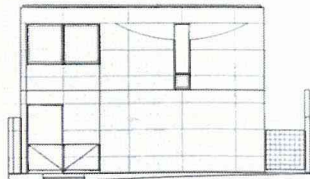
1階平面 縮尺 1/150



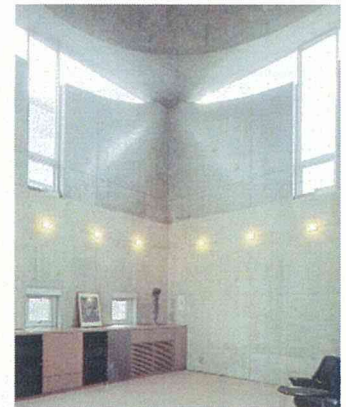
2階平面



南側立面



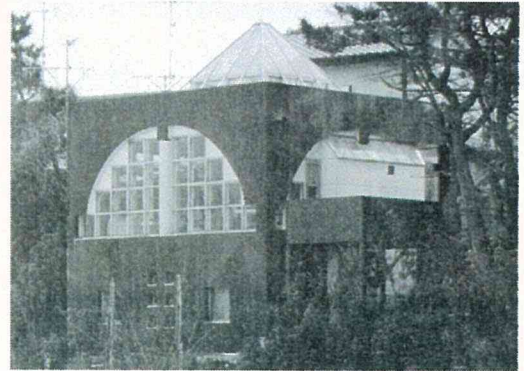
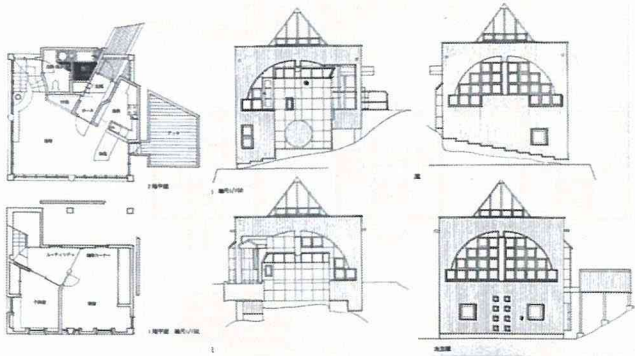
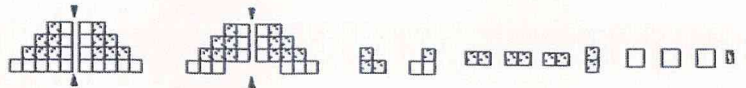
西側立面



51

家門内門家
佐賀十エーアート
jt8704

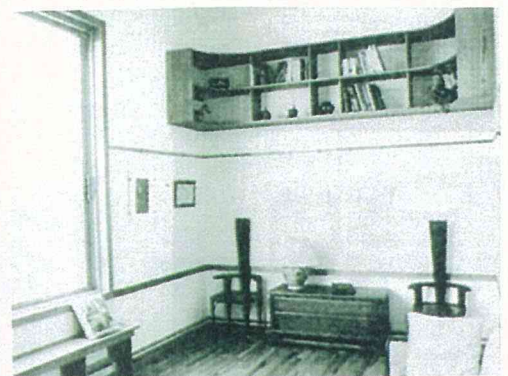
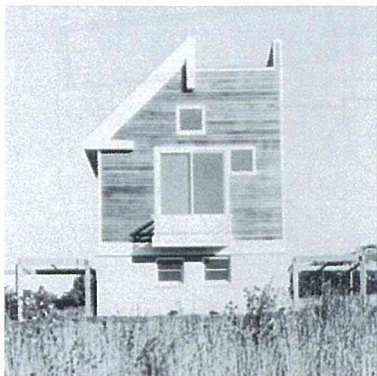
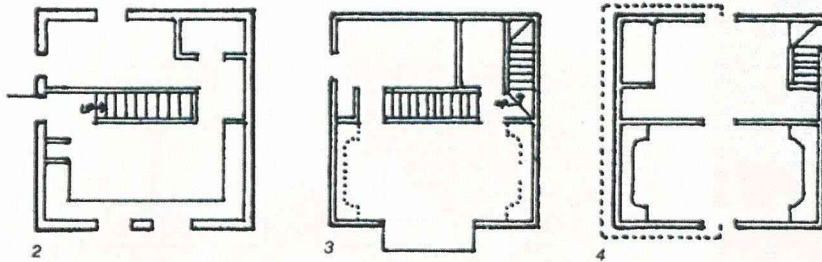
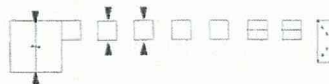
Si,Sh 中
★



52

Fiddlers Green House
Paul J. Byme
au8710

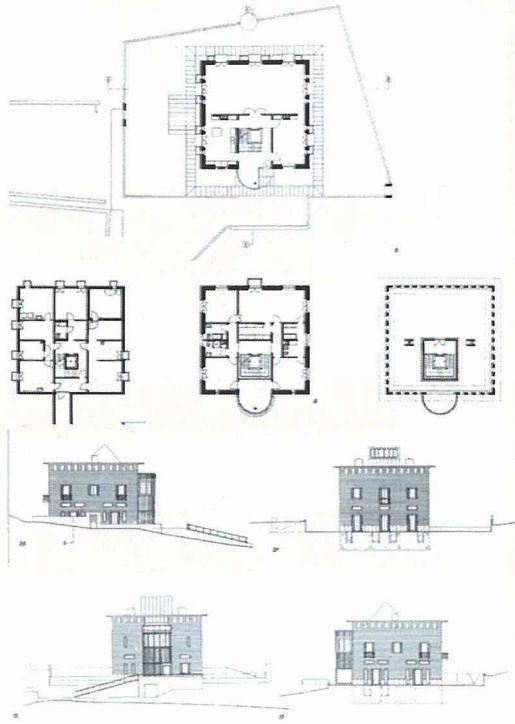
Si 中
★



53

Villa Meyer
Dolf Schnebli
au 8902

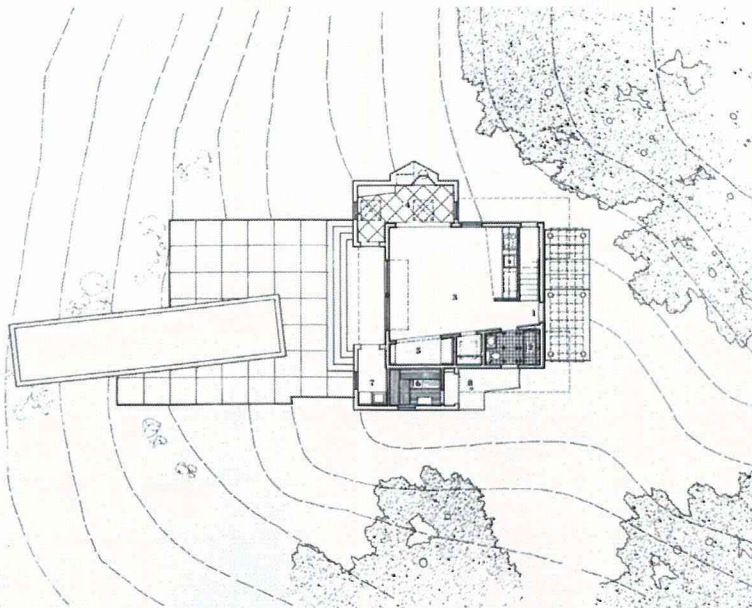
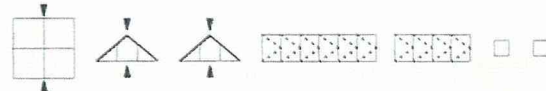
Si 中
★



54

Small House/Big View
Anderson Schwartz
au9012

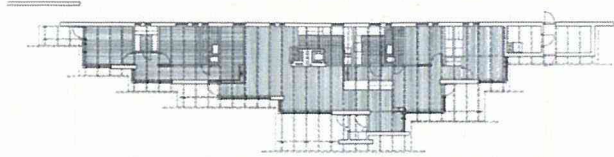
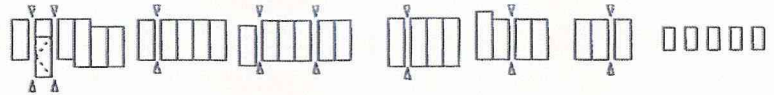
Si 中/Sh 中
★



55

Villa Thoren-Soderst
 Tammissaari
 au9107

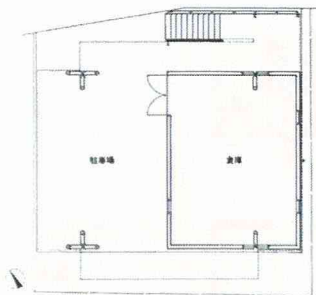
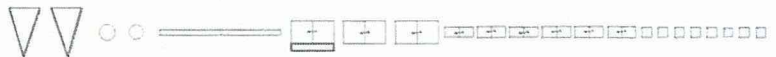
Si角
 ☆



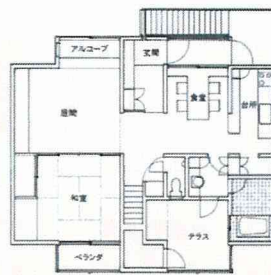
56

中田邸
 難波和彦
 jt9205

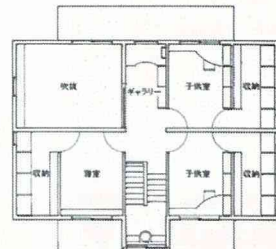
Sh/Sh/De
 ☆



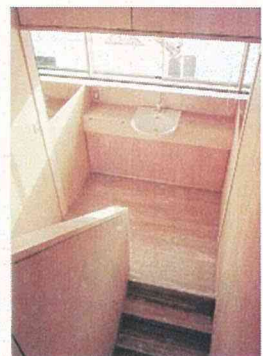
1 階平面 縮尺 1/200



2 階平面



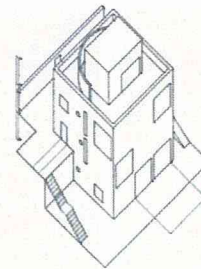
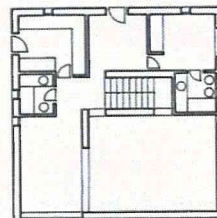
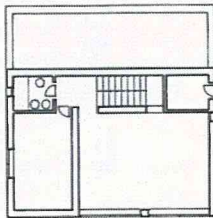
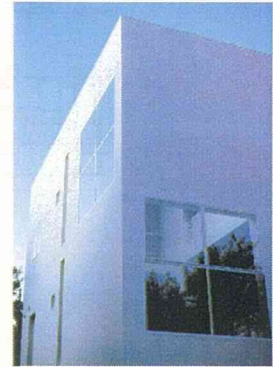
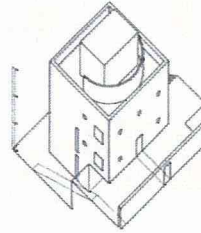
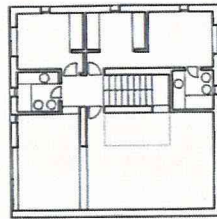
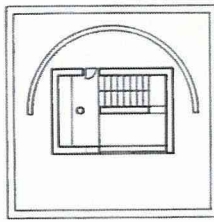
3 階平面



57

Turegano House
Albert Campo Baeza
au9209

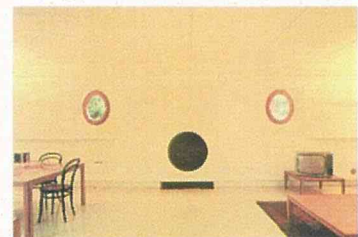
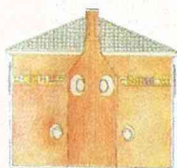
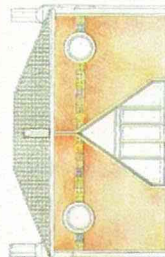
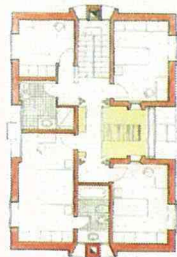
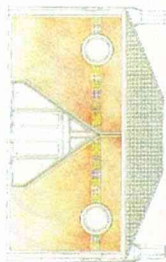
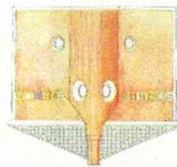
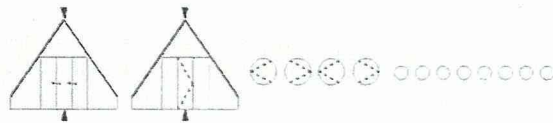
Si 角5
☆



58

Red House
Toni Follina
au9212

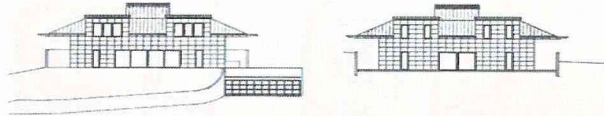
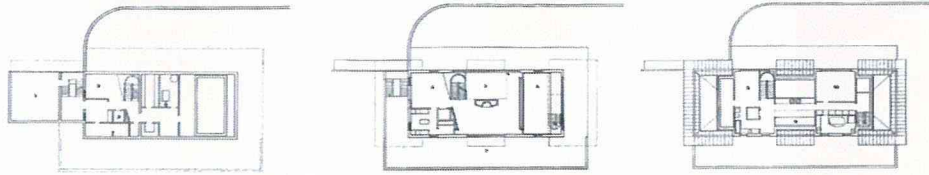
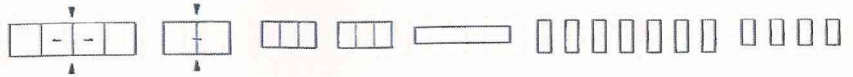
Sh, Si 中2
☆



59

A Residence
Mario Campi
au 9303

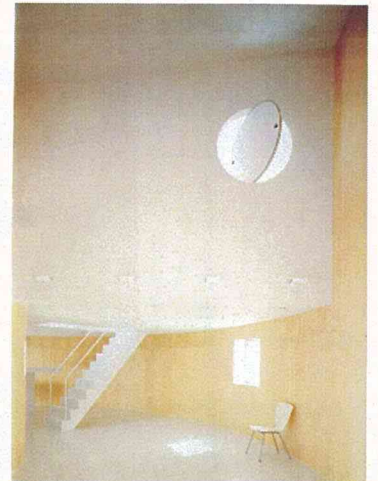
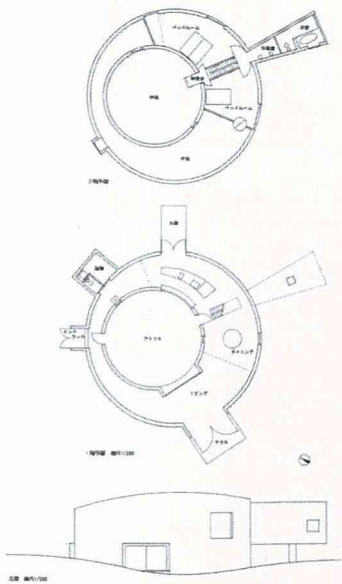
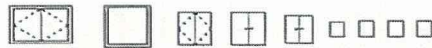
Si 中
★



60

森の別荘
妹島和世
jt9405

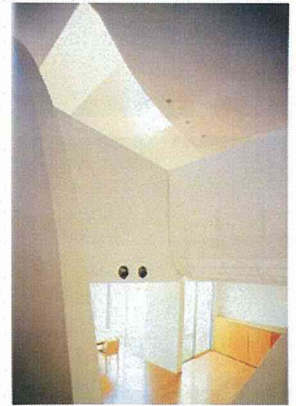
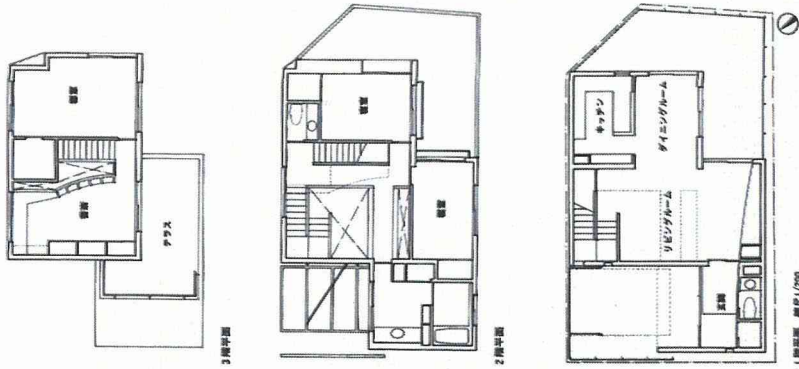
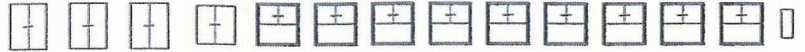
Si-De
☆



61

I邸
北川原温
jt9502

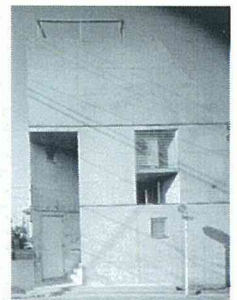
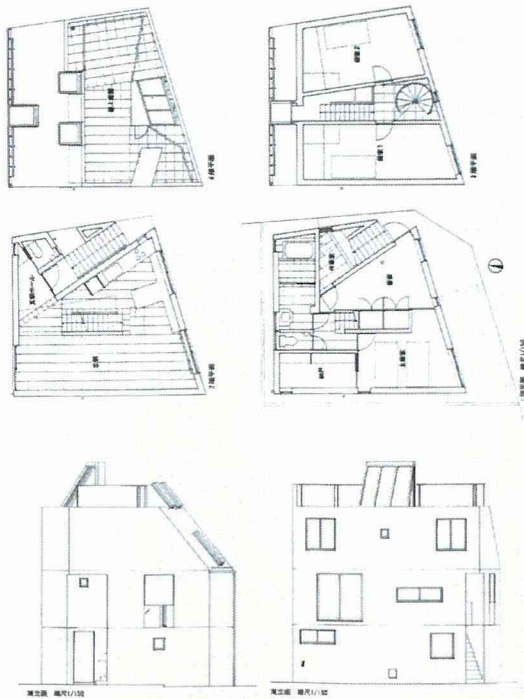
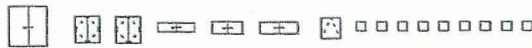
Si-De
☆



62

東大泉の住宅
富永謙
jt9502

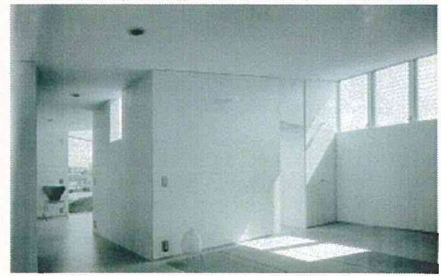
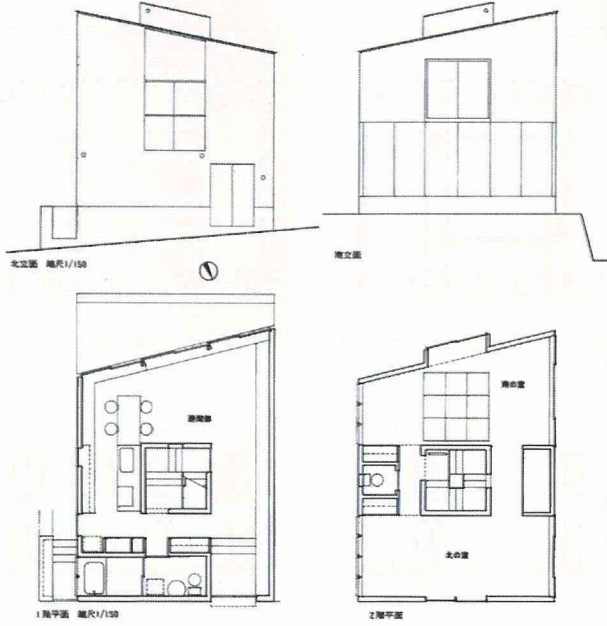
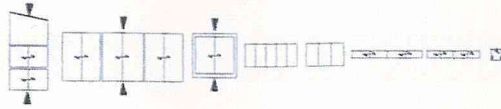
Si
☆



63

本町田の住宅
奥山信一
jt9510

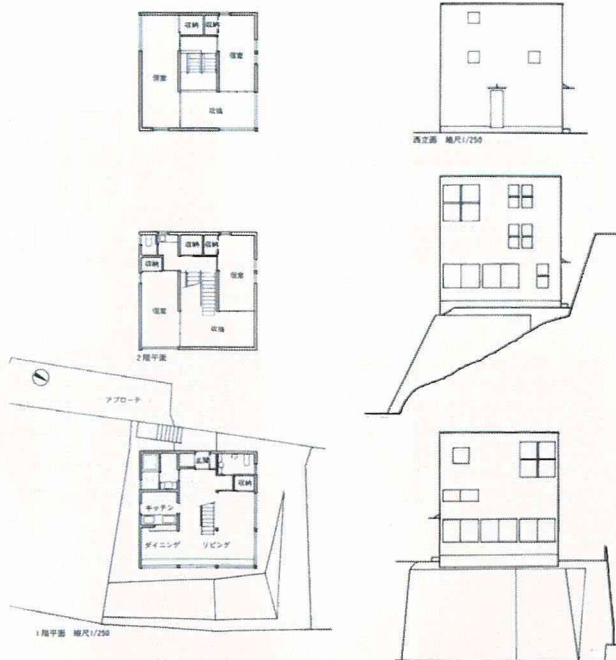
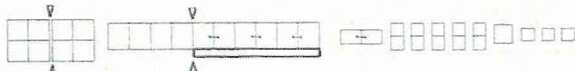
Si-De,中
★



64

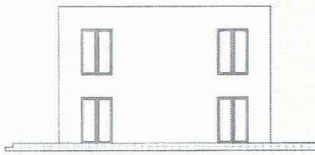
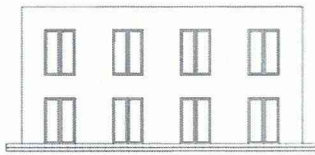
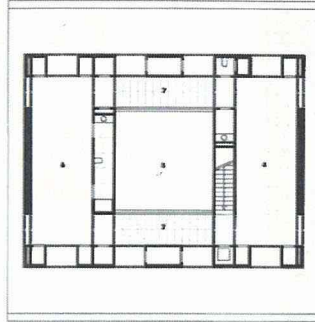
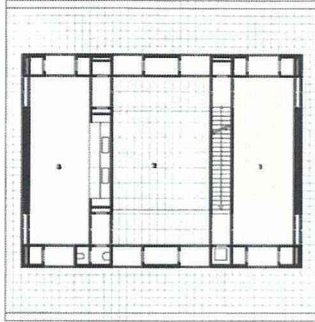
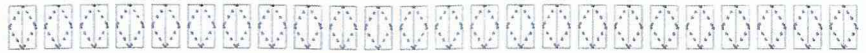
丹那の家
宮森洋一郎
jt9604

Si,De角
★



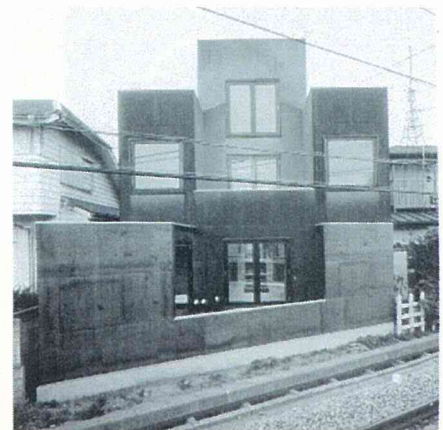
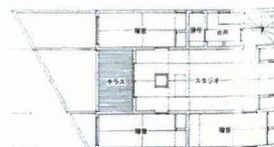
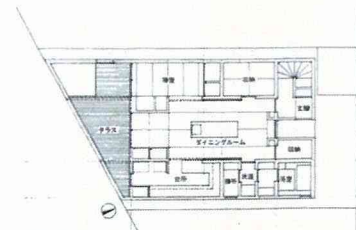
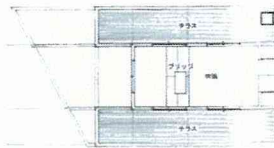
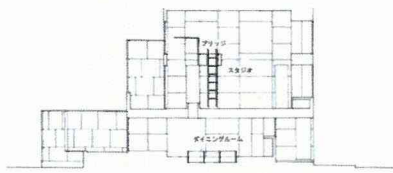
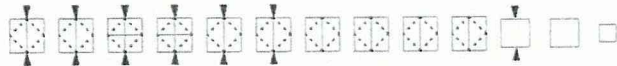
65

House Ungers
O. S. Ungers
au9611



66

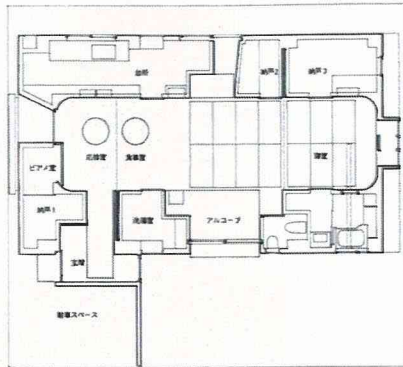
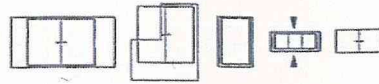
住宅スタジオ、生け花のための
中尾寛
jt9612



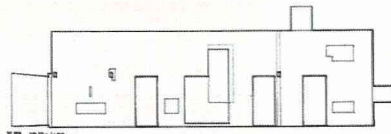
67

トウフ
玉置順
jt9709

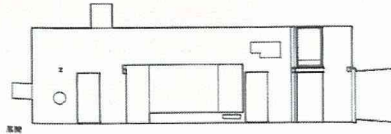
Si+De
☆



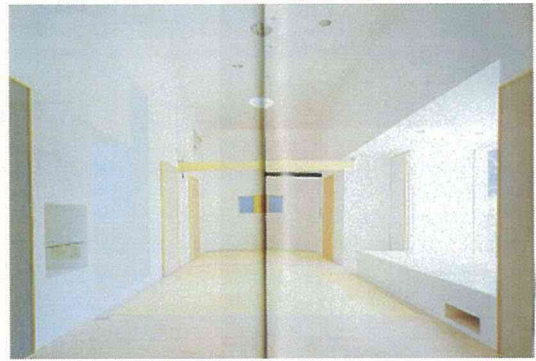
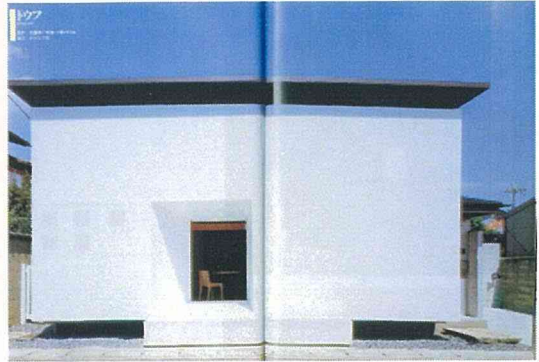
2F 縮尺1/100



高層 縮尺1/100



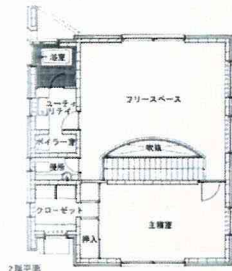
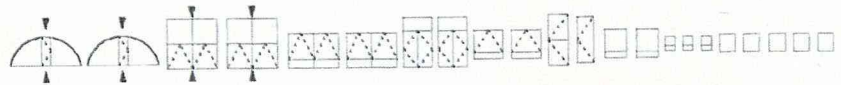
高層



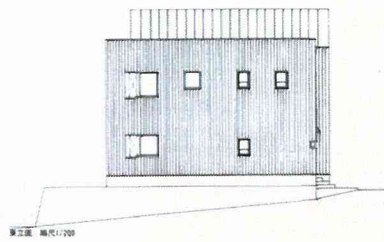
68

札幌西野の家
遠藤謙一良
jt9709

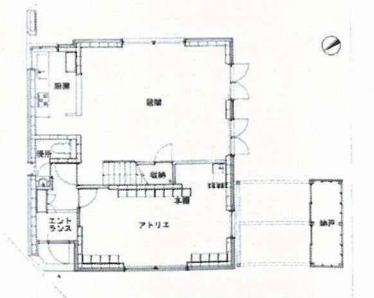
Sh中
☆



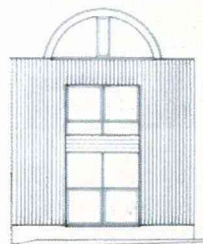
2階平面



東立面 縮尺1/200

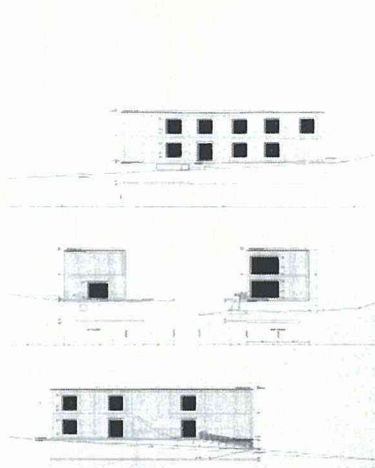
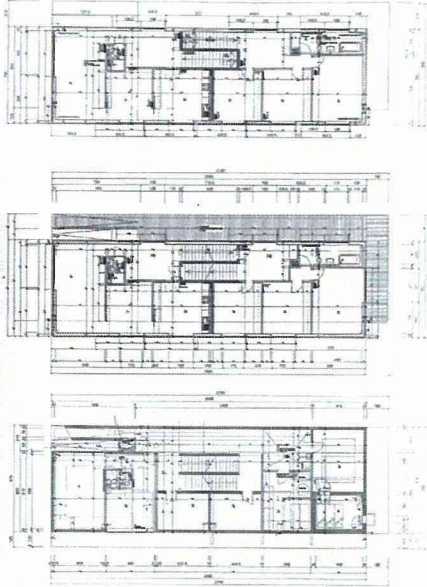
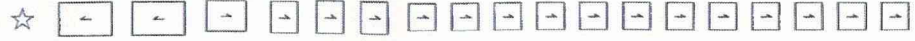


1階平面 縮尺1/200



69

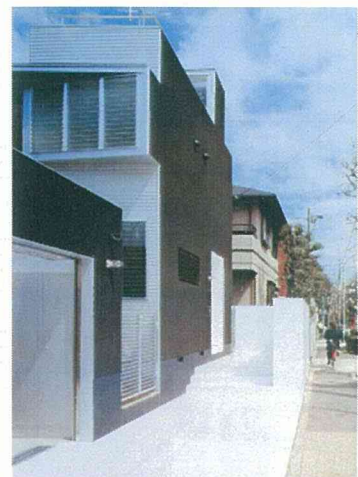
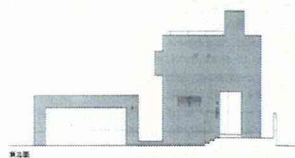
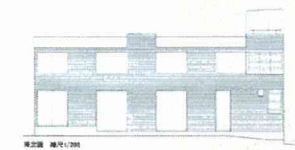
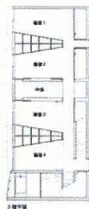
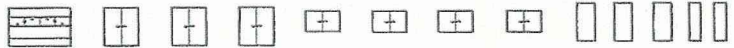
Two Family Duplex
Harry Gugger
au9711



70

吉祥寺通りの住宅
奥山信一
jt9801

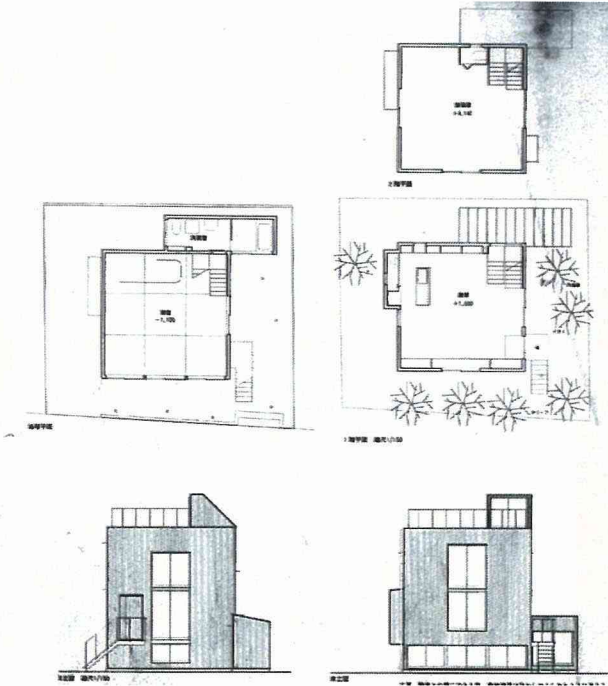
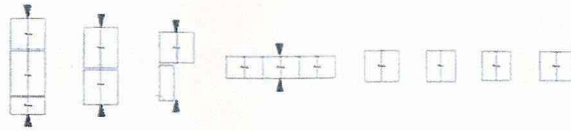
Si-De
☆



71

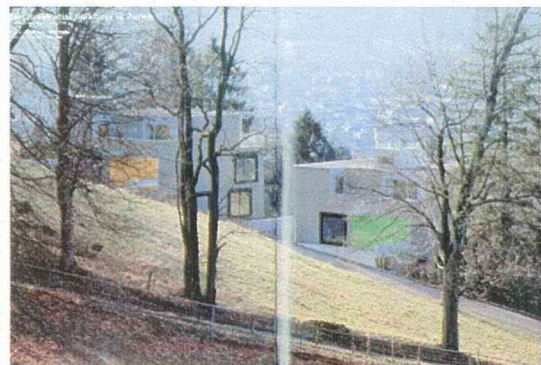
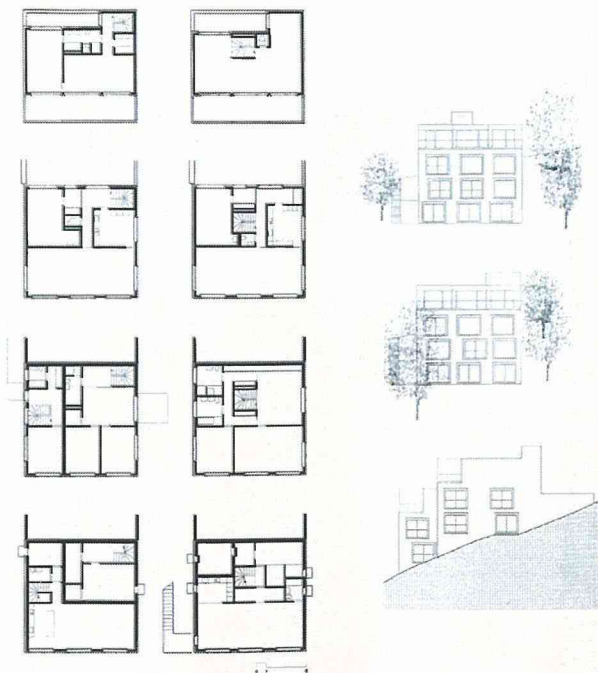
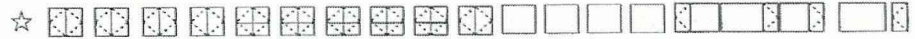
アニハウス
アトリエ・ワン
jt9802

Si-De 中
★



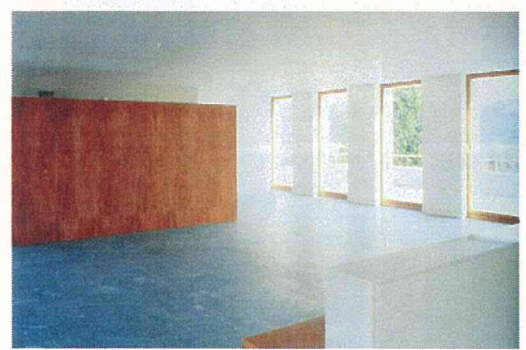
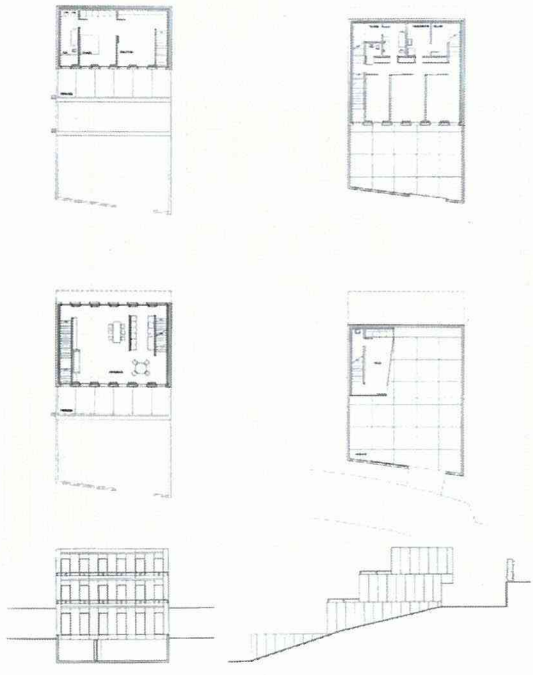
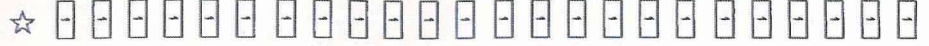
72

Two residential Building
Gigon&Guyer
auu9909



73

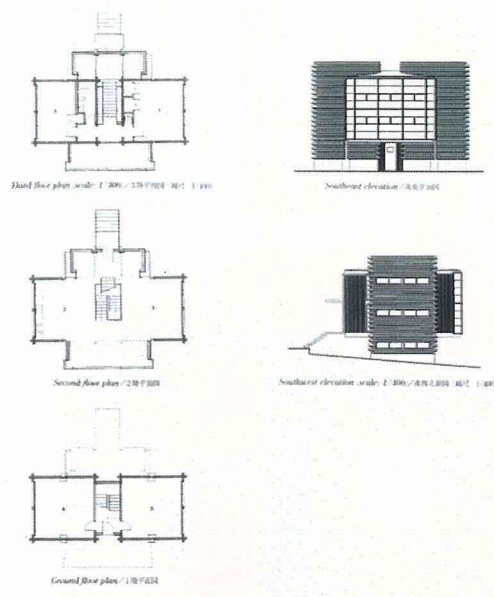
House in Jona
V.Bearth&A.Deplaz
au0003



74

Wood&Steel House
John Davis
au0010

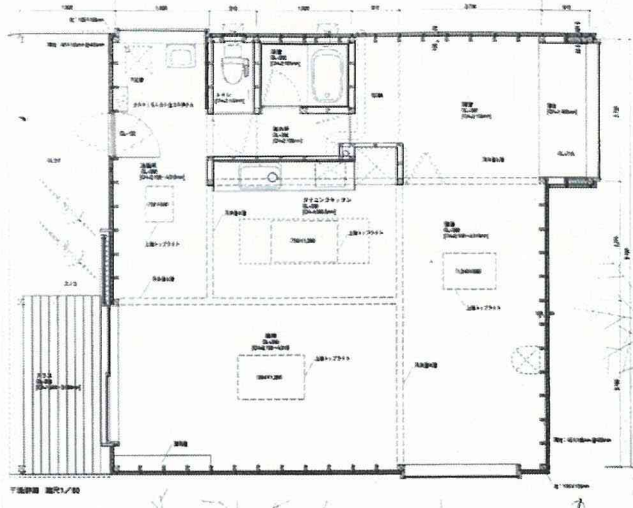
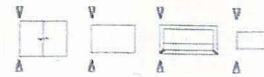
Si 中
★



75

ハウスアサマ
アトリエ・ワン
jt9802

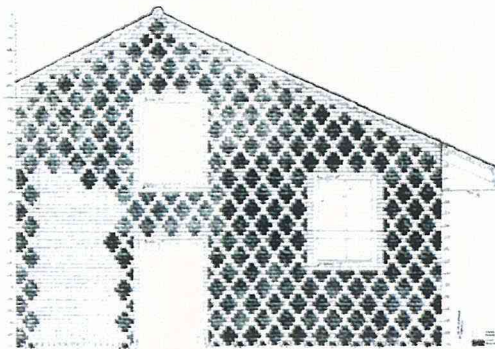
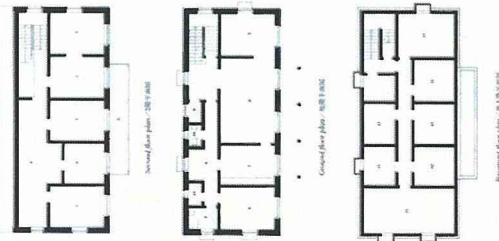
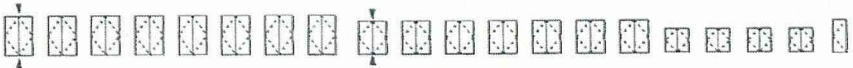
Si-De 角
☆



76

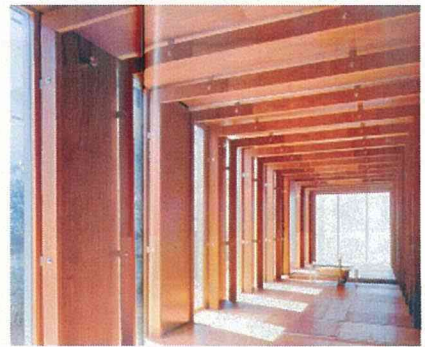
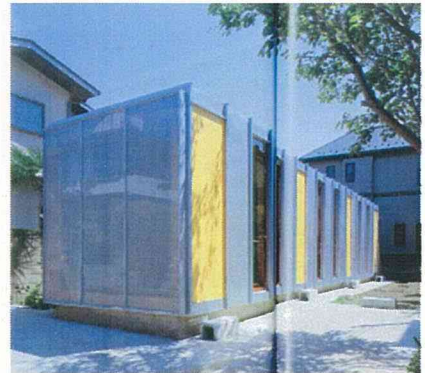
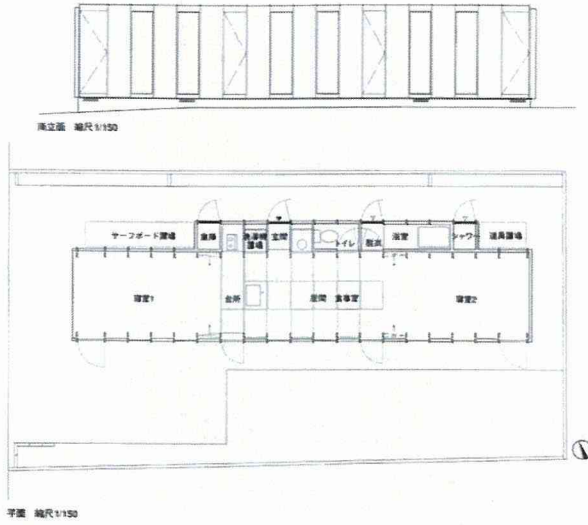
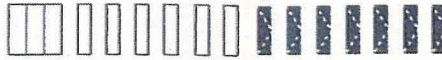
House in Aggstell
Hild und K
au0110

Si-中
☆



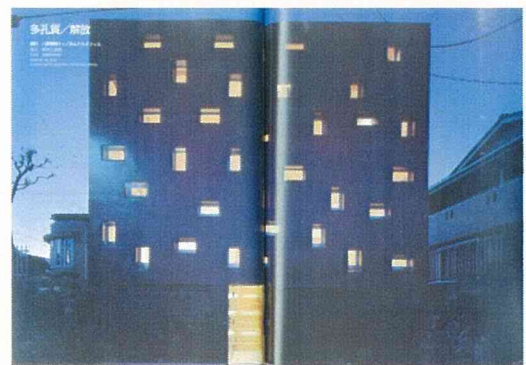
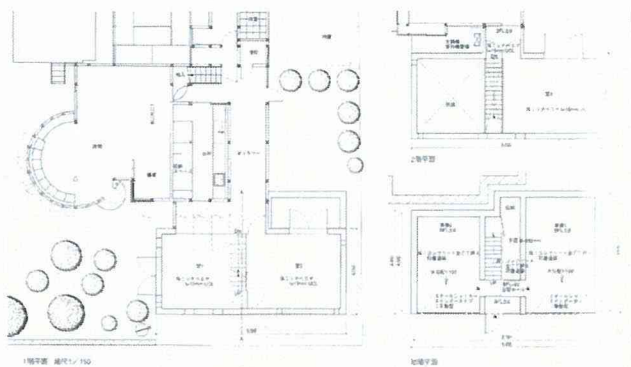
77

プライウッドキットキットハウス
八木敦
jt0111



78

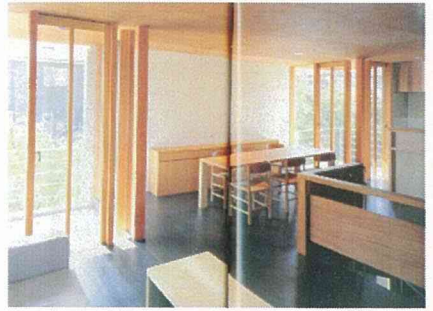
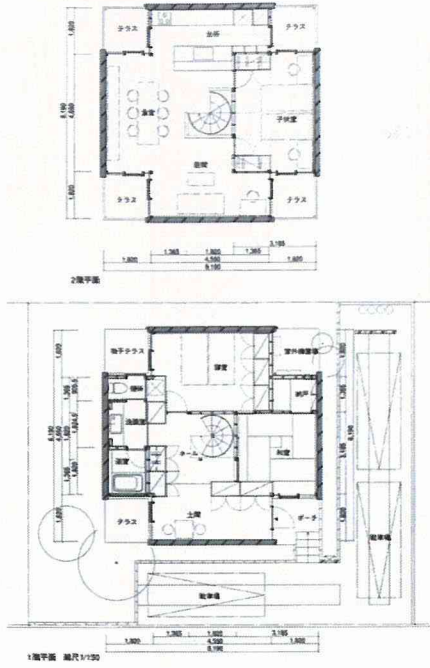
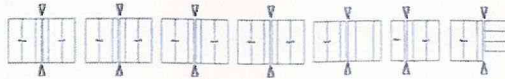
多孔質 / 解放
八重樫直人
sk0204



79

つくばの家
堀部安嗣
jt0212

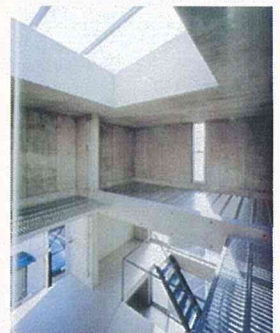
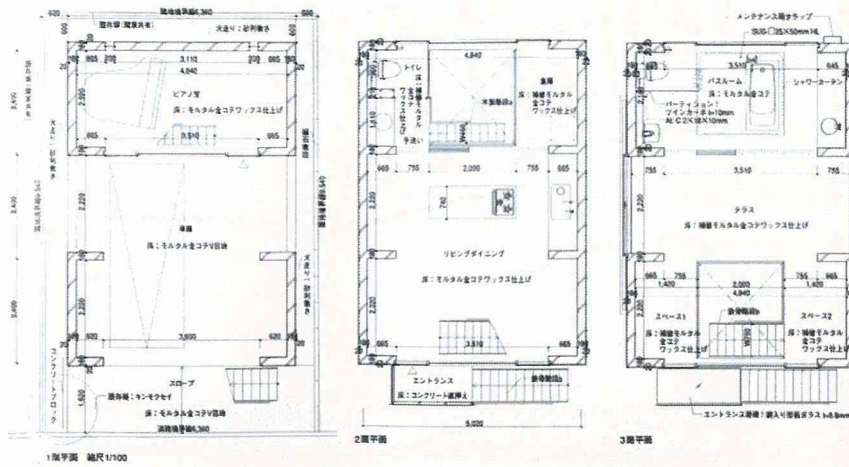
角☆



80

住宅K
北山恒
jt0302

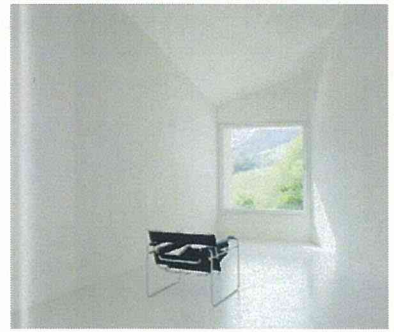
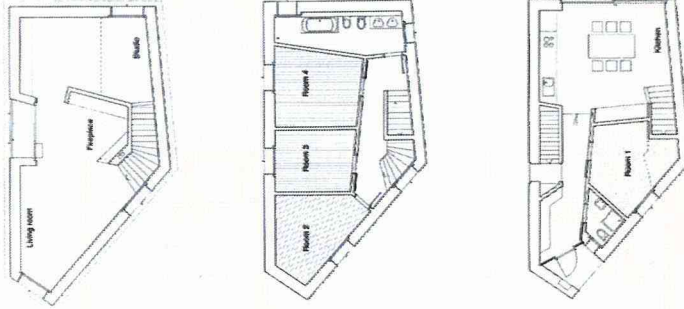
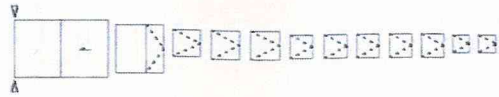
Si中☆



81

Meuli House
Beath&Deplazes
au0310

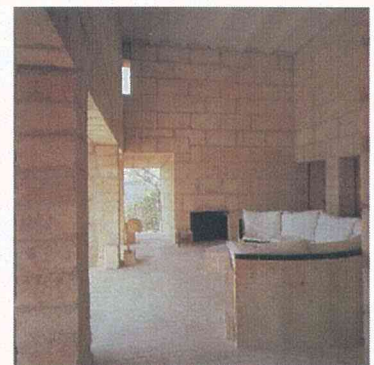
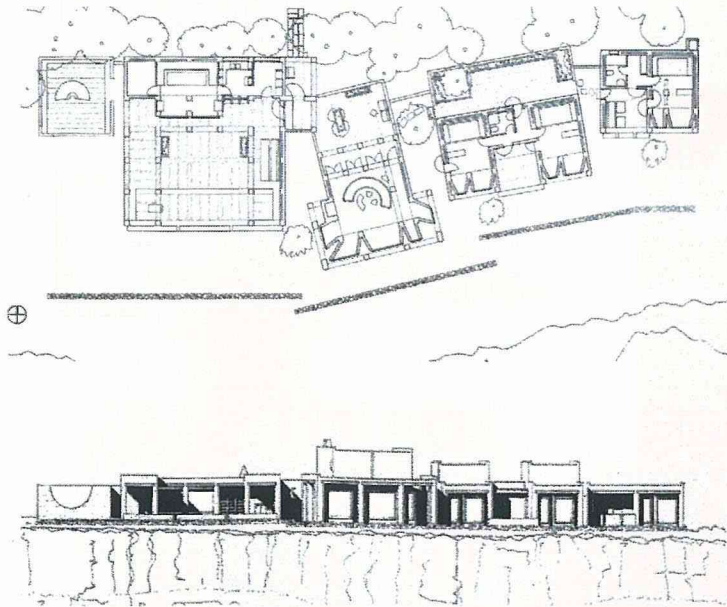
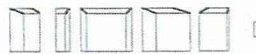
Si角
☆



82

Can Liz
Yorn Utzon
au0311

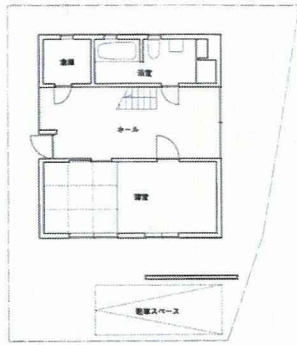
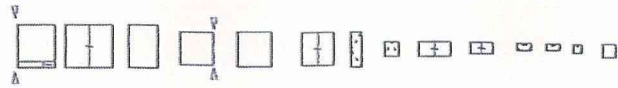
Si+De
☆



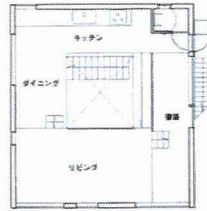
83

材木座の住宅
下吹越武人
jt0312

Si
☆



1階平面 縮尺 1/150



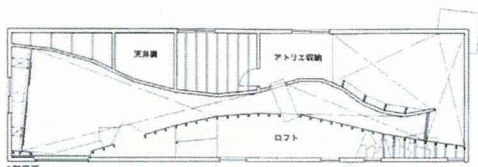
2階平面



84

S/N
ライフアンドシェルター社
jt0402

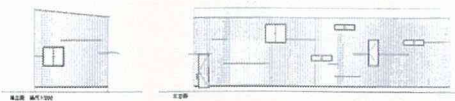
Si
☆



2階平面

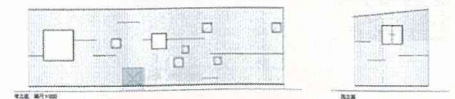


1階平面 縮尺 1/200



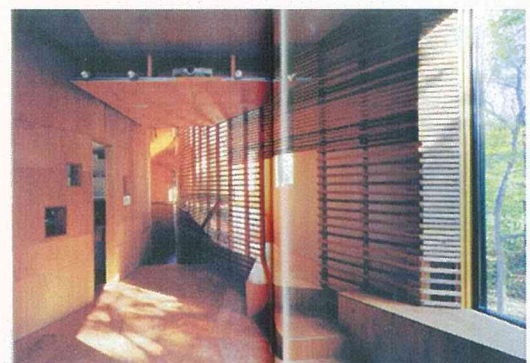
断面 縮尺 1/100

平面



断面 縮尺 1/100

平面



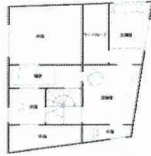
85

梅林の家
妹島和世
sk0403

Si
☆



2階平面



2階平面



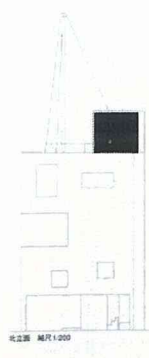
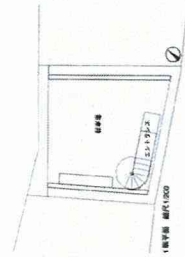
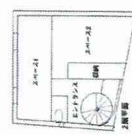
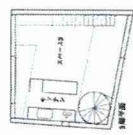
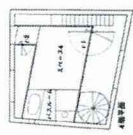
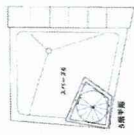
1階平面 縮尺1/200



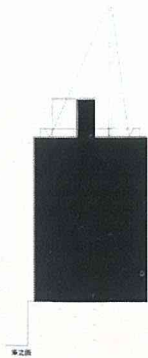
86

018
有馬裕之
jt0403

Si
☆



北立面 縮尺1/200



東立面



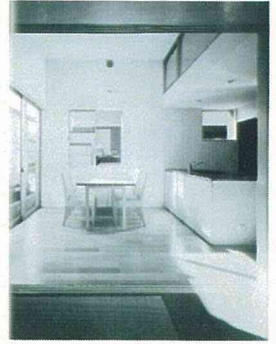
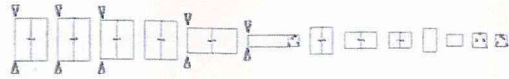
南立面



87

泉区の住宅
川辺直哉
jt0404

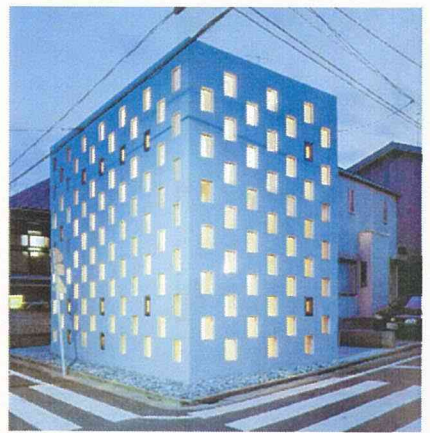
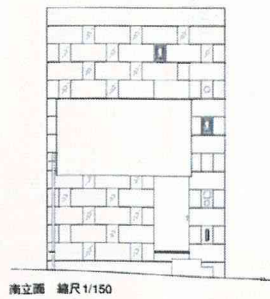
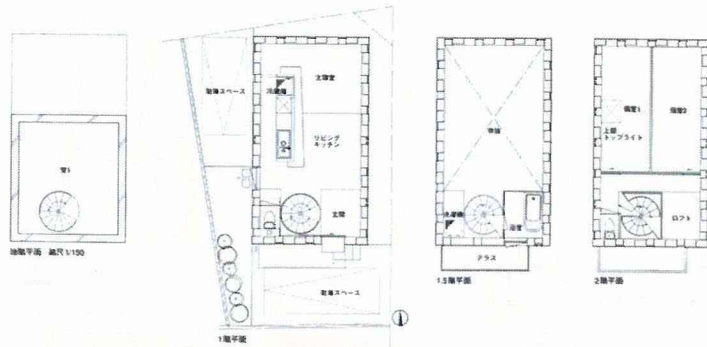
☆ Si 角



88

セル・ブリック
山下保博
jt0405

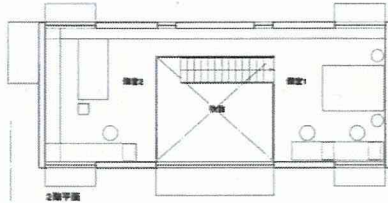
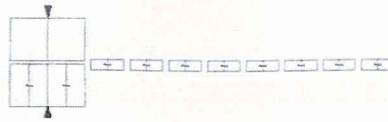
☆



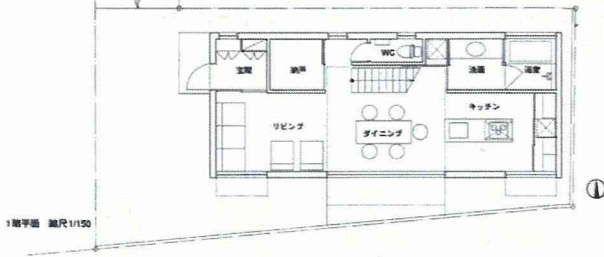
89

MUJI+INFILL
MUJI+INFILL
jt0407

Si 中
★



2階平面



1階平面 縮尺 1/150

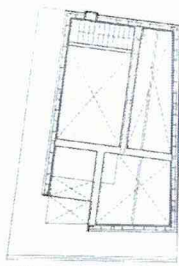
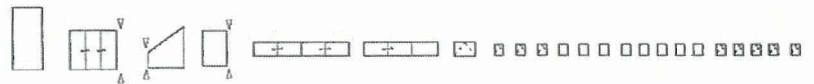


MUJI+INFILL 木の家-1

90

G
青木淳
sk0409

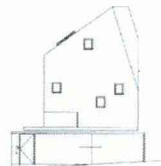
Si-Sh 角
★



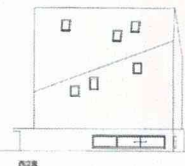
中庭階平面



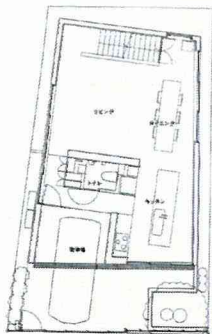
2階平面



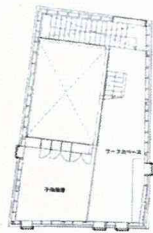
北立面 縮尺 1/200



西立面



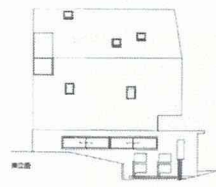
地下1階平面



1階平面 縮尺 1/150



南立面

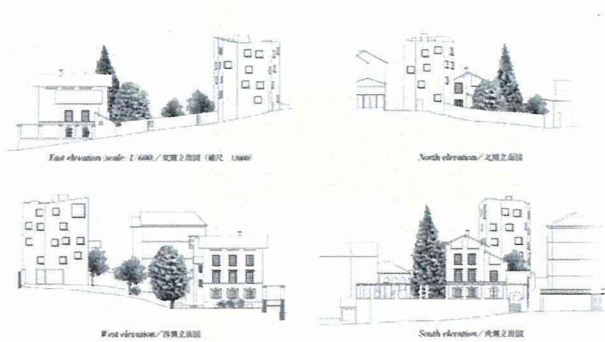
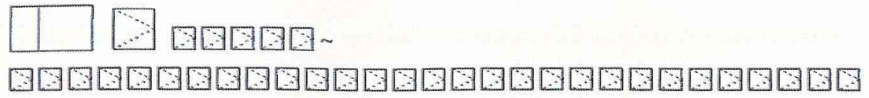


東立面



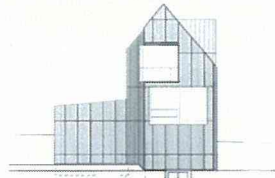
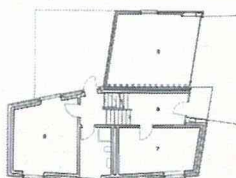
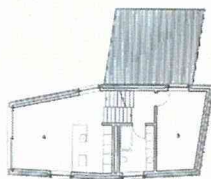
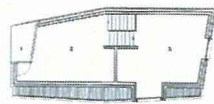
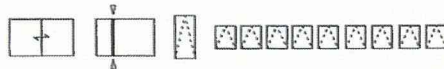
91

Villa Garbald
Miller&Maranta
au0411



92

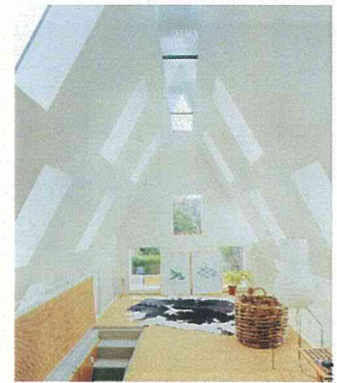
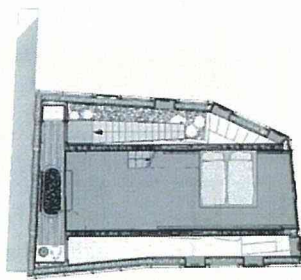
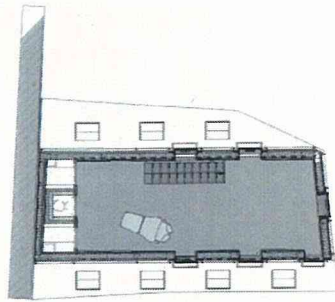
Walther House
Beareth&Deplazes
au0411



93

Living Room
Seifert Stoeckman
au0504









☆  ~

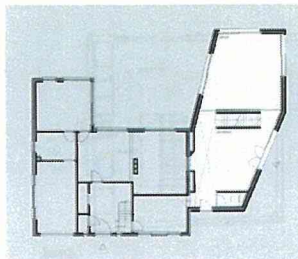



Drawer level plan scale: 1:150 / 引きだしレベル平面図 (縮尺 1/150)

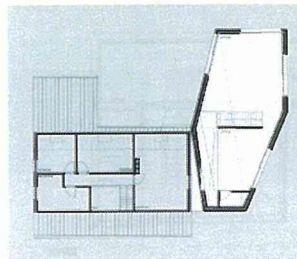
94

RVB Office Building
Van Belle&Medina
au0405

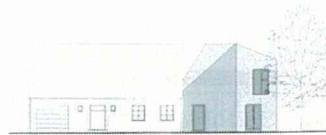
☆        



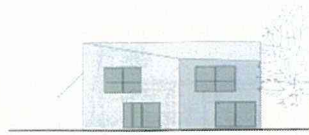
1st floor plan / 1階平面図



2nd floor plan / 2階平面図



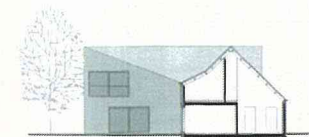
Northeast elevation / 北東立面図



Southwest elevation / 南西立面図



Southeast elevation / 南東立面図

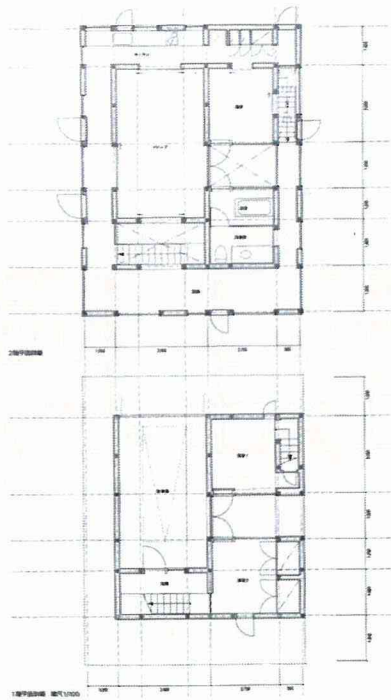


Northwest elevation / 北西立面図

95

八ヶ岳の別荘
千葉学
sk0507

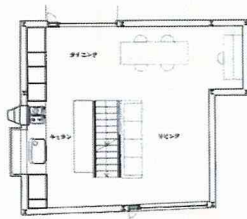
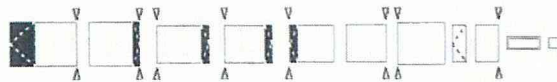
Si
☆



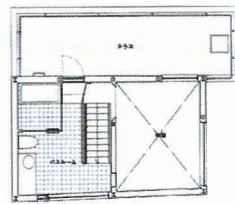
96

ジュシーハウス
アトリエ・ワン
sk0507

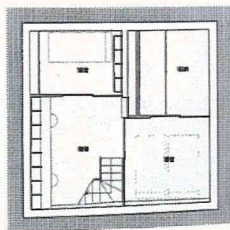
Si
☆



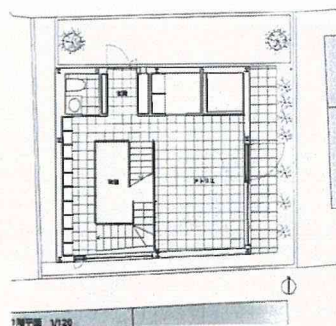
2階平面



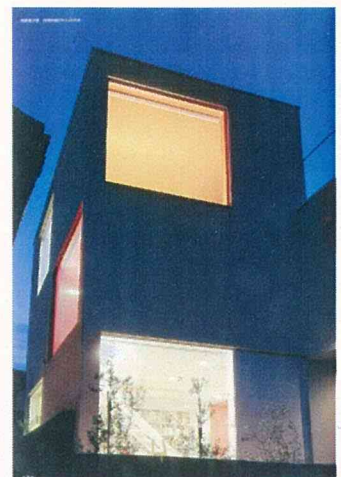
3階平面



1階平面



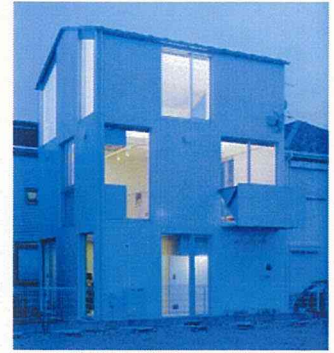
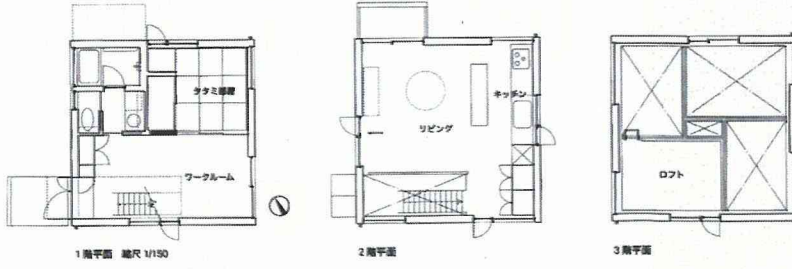
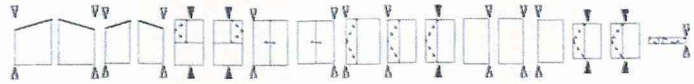
1階平面 1/120



97

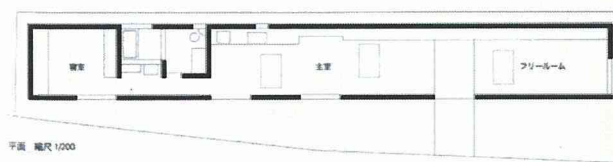
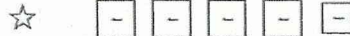
Tall
阿部仁史
jt0510

Si-Sh 角中
☆



98

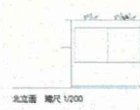
UK
林敬一
jt0512



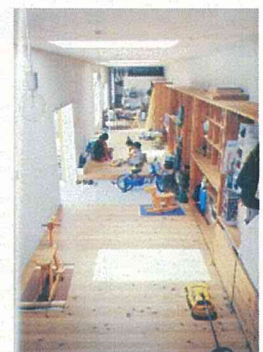
平面 縮尺 1/200



南立面



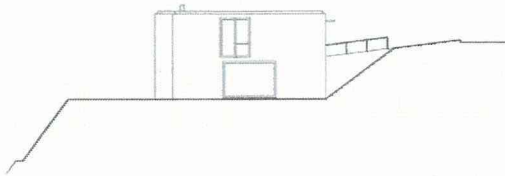
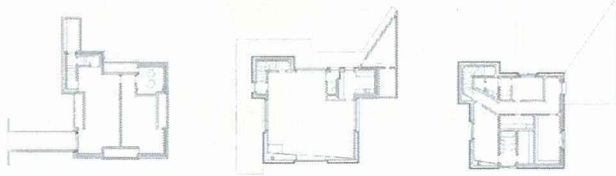
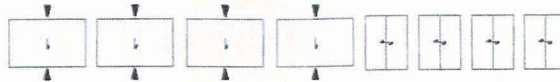
北立面 縮尺 1/200



99

K+N House
Valerio Olgiatti
au0602

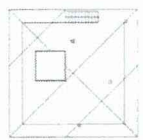
Si 中
★



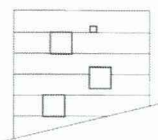
100

Poli House
Pezo von Ellrichsha
au0603

☆



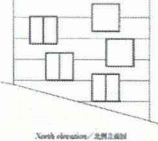
Roof plan, level +200 / 屋顶平面图, 1:750 x 750



South elevation / 南侧立面图



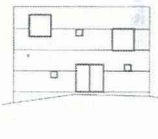
2nd floor plan, level +0.00 / 二楼平面图, 1:750 x 750



North elevation / 北侧立面图



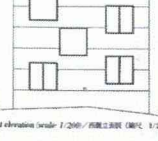
3rd floor plan, level +0.00 / 三楼平面图, 1:750 x 750



East elevation / 东侧立面图



4th floor plan, level +1.200 / 四楼平面图, 1:750 x 750



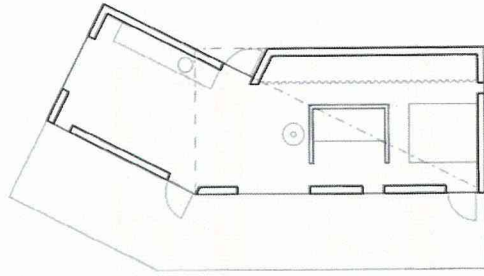
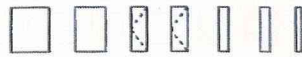
West elevation (scale: 1:200) / 西侧立面图 (比例: 1:200)



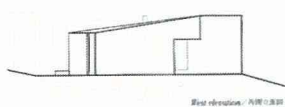
101

Krakmora Holmar House
C. K. Rune
au0603

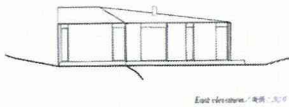
Si
☆



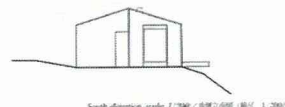
Plan (scale: 1/200)/平面图 (縮尺 1/200)



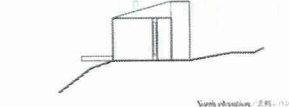
East elevation / 内側立面図



East elevation / 外側立面図



South elevation scale: 1/200 / 南側立面図 (縮尺 1/200)



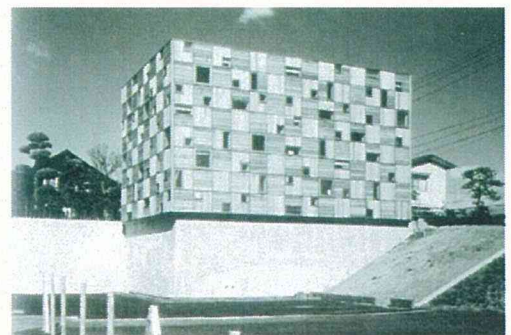
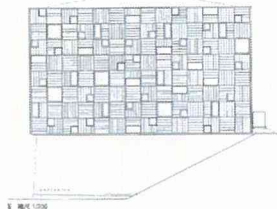
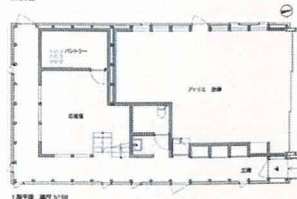
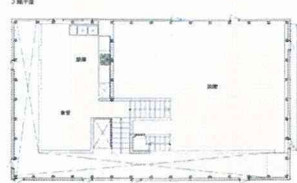
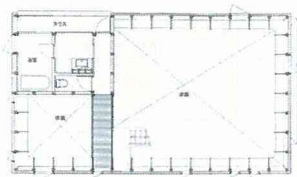
South elevation / 立面立面図



102

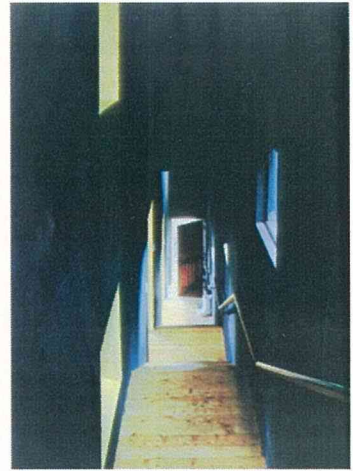
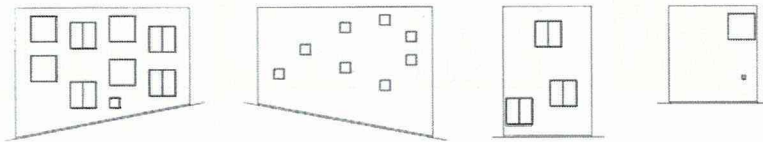
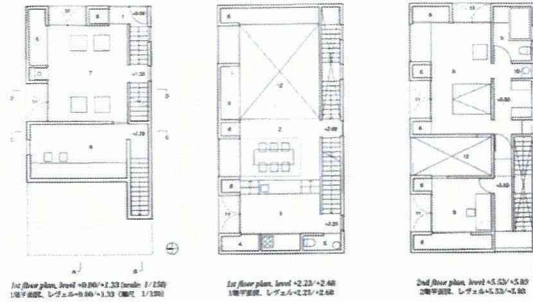
深大寺の入籠
内海智行
jt0607

Si
☆



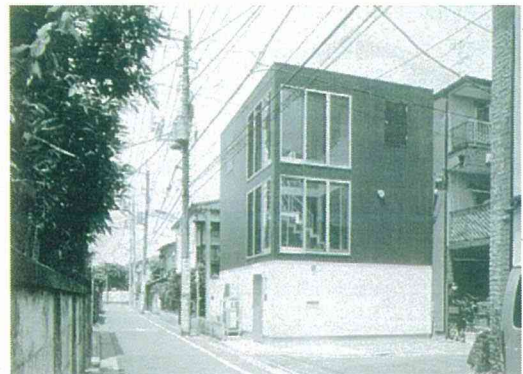
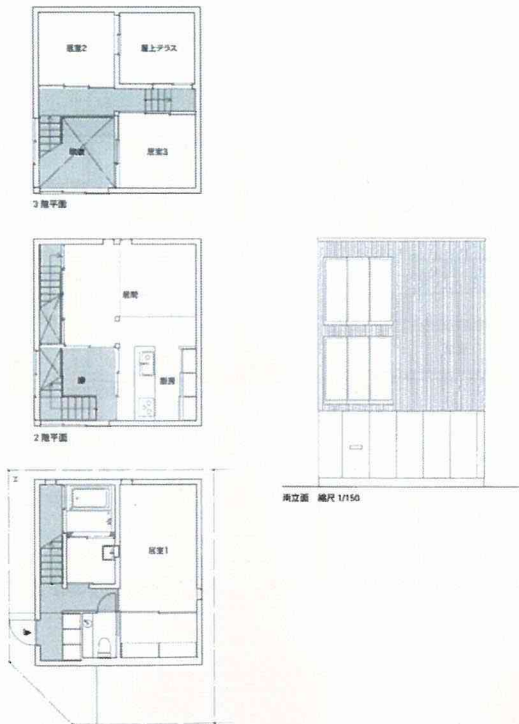
103

Rivo House
 Pezo von Ellirichsha
 au0607



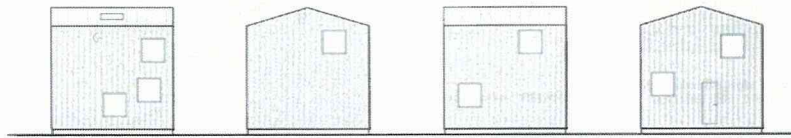
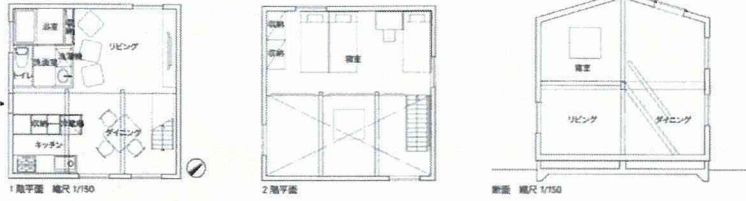
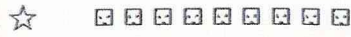
104

蒲田の家
 木下道郎
 jt0609

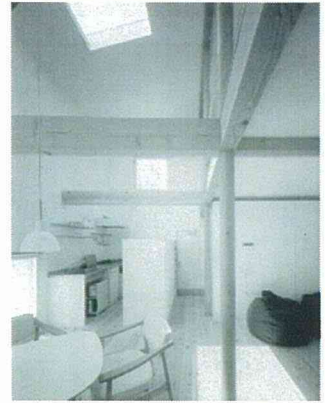


105

K邸
藤本壮介
jt0611

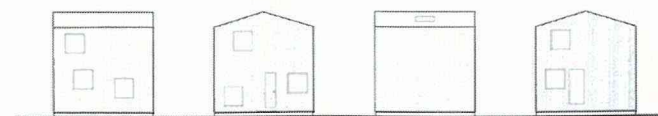
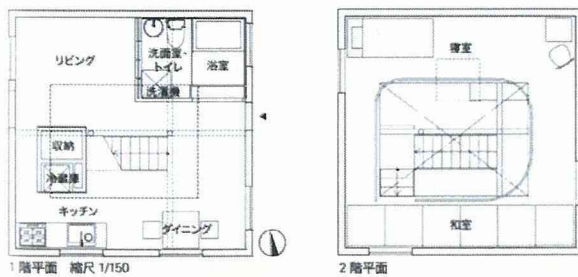


↑別ハウス "base" K邸立面 縮尺 1/150 (左から南、東、北、西)



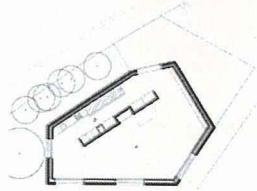
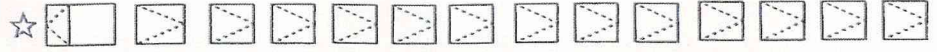
106

I邸
藤本壮介
jt0611

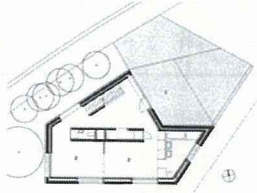


↑別ハウス "base" I邸立面 縮尺 1/150 (左から南、東、北、西)

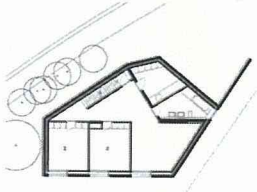




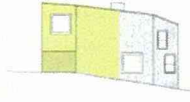
2nd floor plan / 2楼平面图



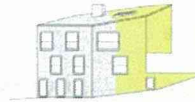
1st floor plan / 1楼平面图



Basement plan (scale: 1/200) / 地下室平面图 (比例: 1/200)



Northwest elevation / 北西侧立面图



Southeast elevation / 南东侧立面图



East elevation / 东侧立面图



South elevation (scale: 1/500)
南侧立面图 (比例: 1/500)



第3章 現代日本の住宅作品における屋根型の変形による統合の修辞

(全126作品)

作品番号 作品名 建築家名 掲載誌	屋根の形式 平面形	軒の傾き 棟の傾きおよび頂点	軒の位置 屋根の勾配	棟の位置 対面する屋根勾配
平面図 立面図 断面図 屋根伏図 外観写真				

凡例

屋根の形式	片流 切妻 寄棟 方形
平面形	□:矩形 ▽:歪形
軒の傾き	—:水平 /:傾斜(斜) ∩:傾斜(弧)
棟の傾きおよび頂点	—:水平 /:傾斜(斜) ∩:傾斜(弧) ∙:頂点
軒の位置関係	=:同一平面上(平行) ≠:同一平面上(非平行) ∞:ねじれ
屋根の勾配	定:一定 曲:変化(曲げ) 折:変化(折れ)
棟の位置関係	中:中心 偏:偏心 回:回転
対面する屋根勾配	同:同じ 異:異なる

1

K 氏邸
小沢行二
sk5705

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
——

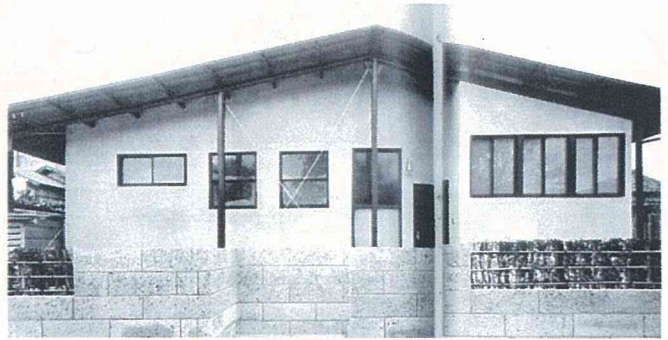
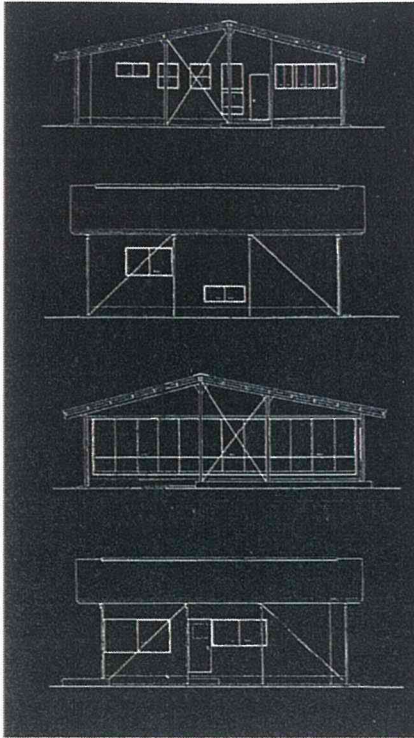
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



2

まちなかに建つ小住宅
RIA
sk6210

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
——

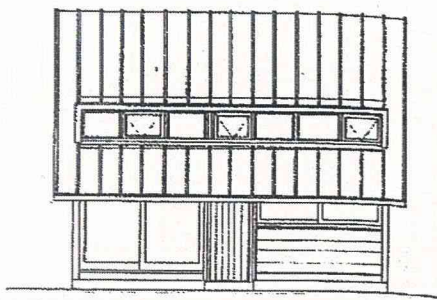
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

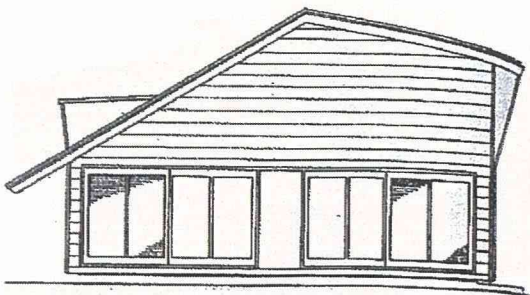
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

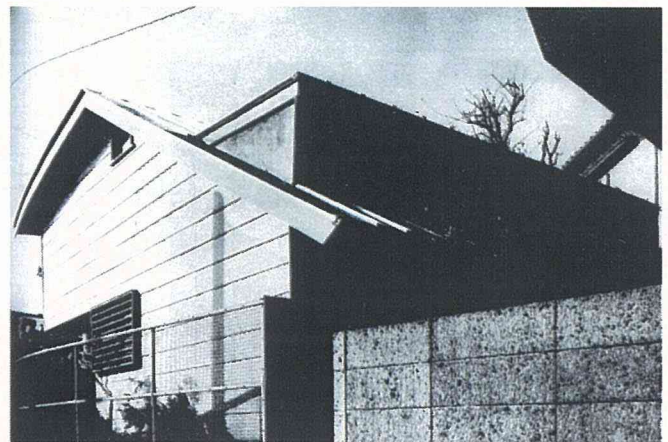
対面する屋根勾配
異



北側立面



西側立面



3

ぼっこ山荘
生田勉
sk6210

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
——

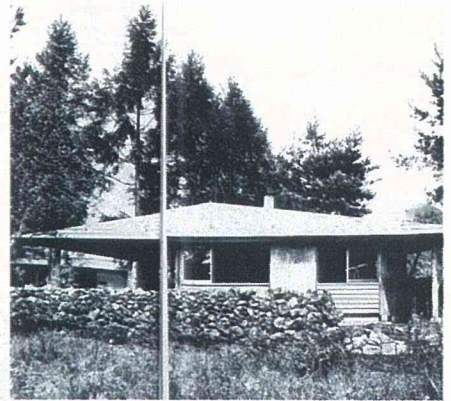
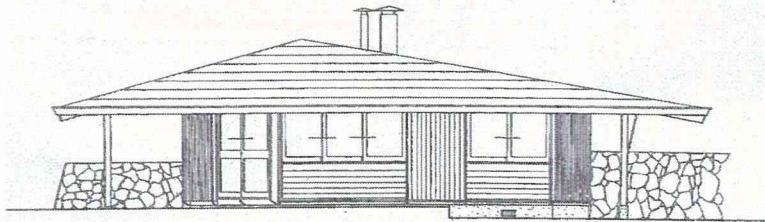
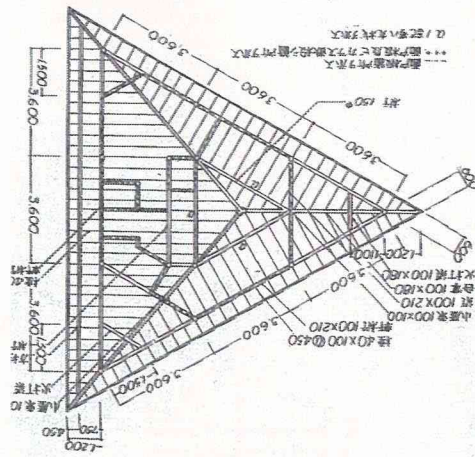
棟の傾きおよび頂点
●

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



4

〇さんの小別荘
RIA
sk6310

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
//

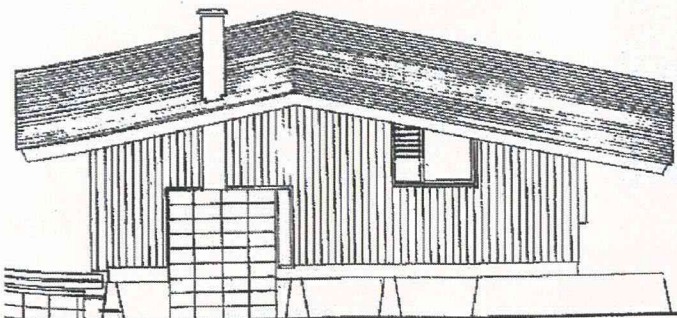
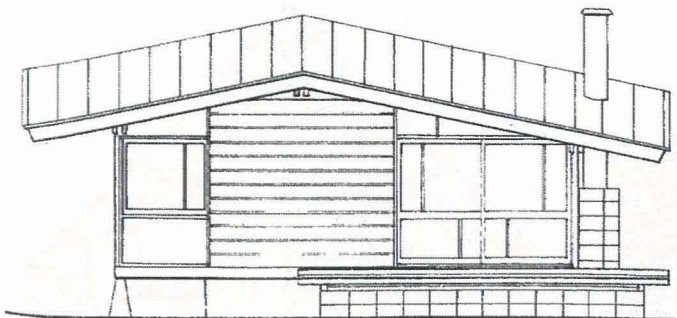
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
同



5

小屋裏利用の家
飯田勝幸
sk6312

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

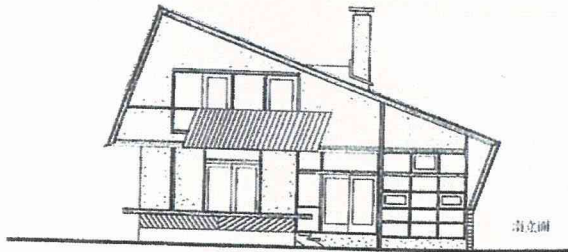
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係

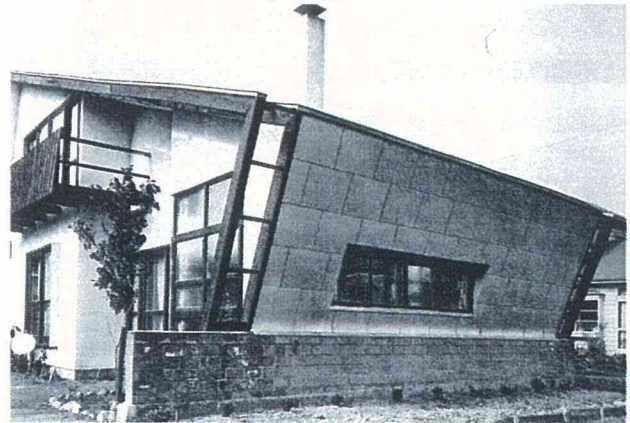
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
直, 異



南立面



6

末広りの家
林雅子
sk6511

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
—

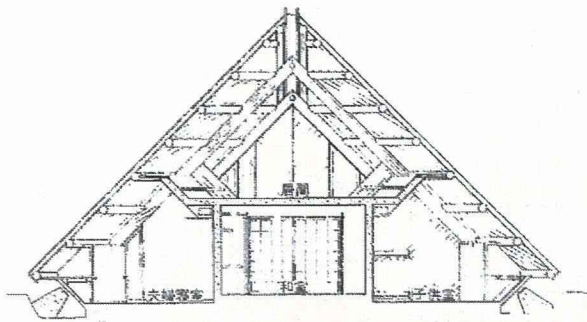
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

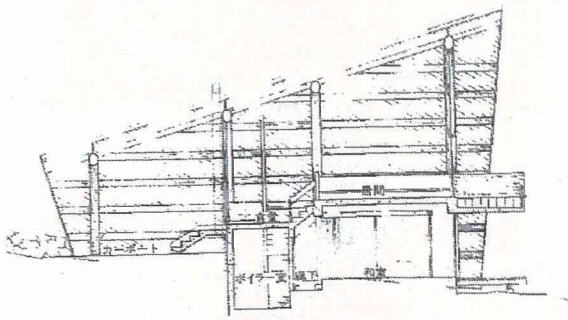
屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

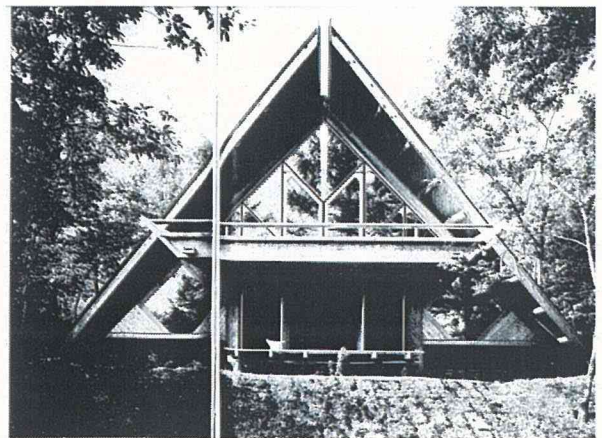
対面する屋根勾配
直, 同



南—北 断面図



西—東 断面図



7

もうびでいっく
宮脇壇
sk6701

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
∞

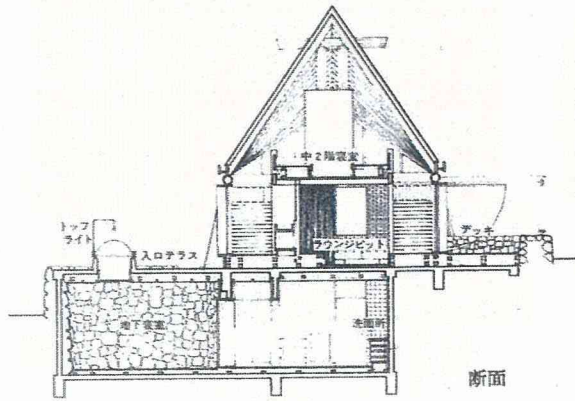
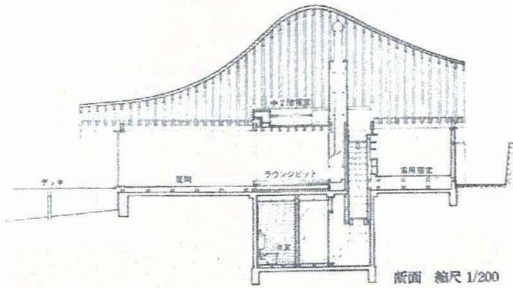
棟の位置関係
中

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
∩

屋根の勾配
曲

対面する屋根勾配
同



8

合板とコンクリートの家
野老正昭
sk6704

屋根の形式
切妻

軒の傾き
/—

軒の位置関係
≠

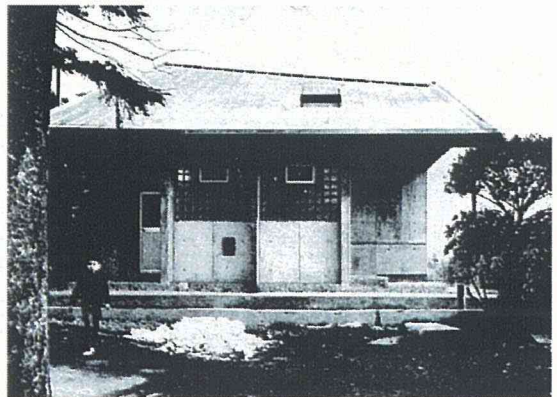
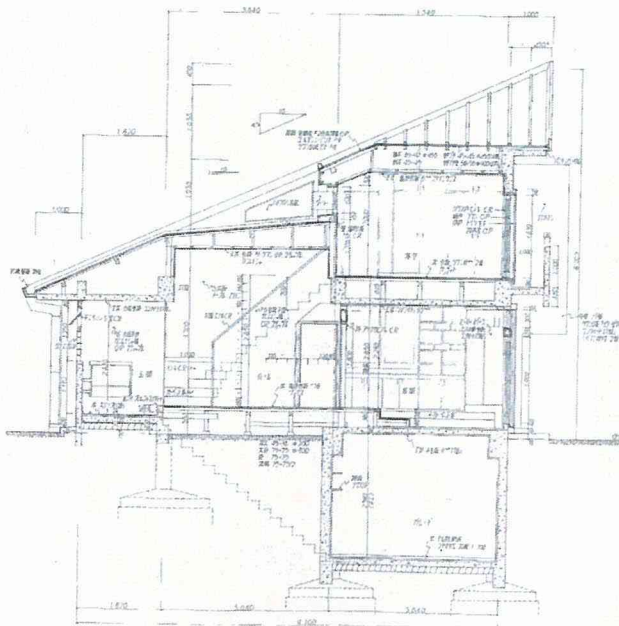
棟の位置関係
回

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
/

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



9

Kさんの家
板倉準三
sk6707

屋根の形式
方形

平面形
□

軒の傾き

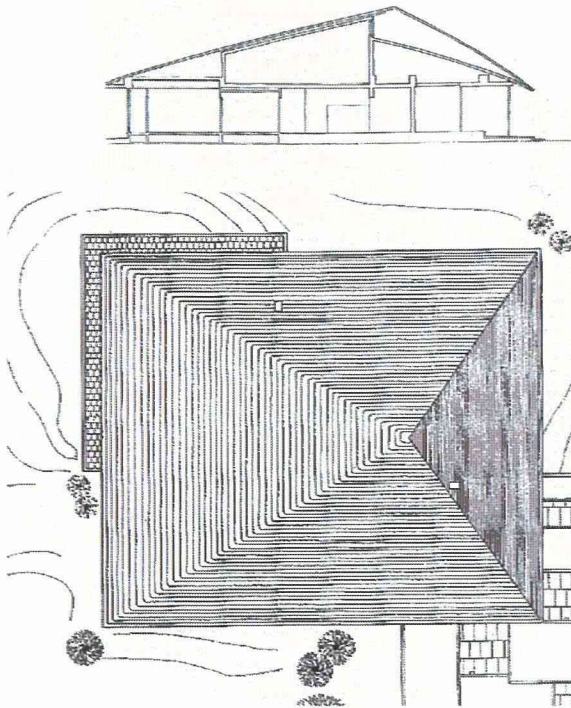
棟の傾きおよび頂点
•

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



10

池田邸
高矢晋
sk6707

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
//

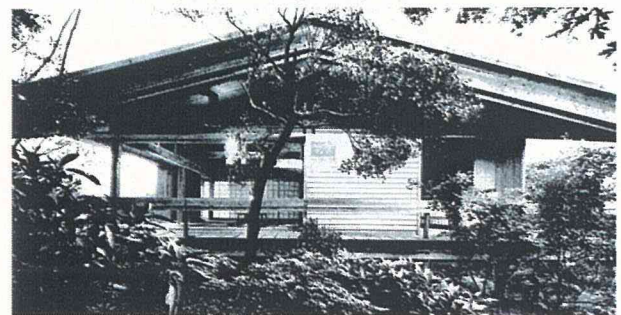
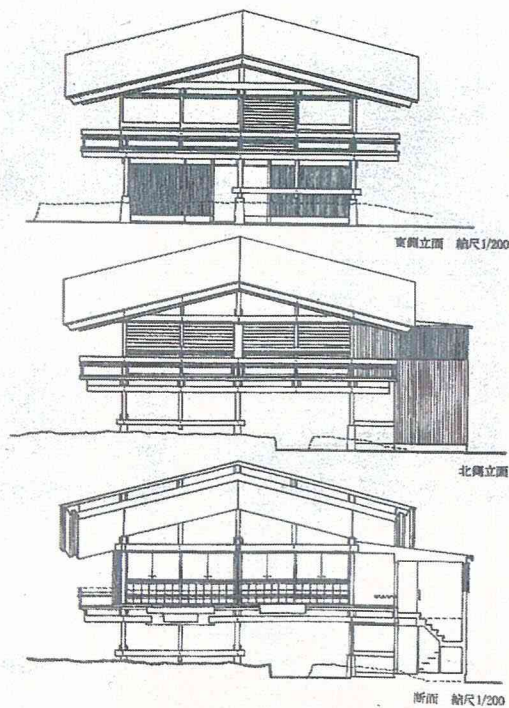
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



11

アトリエのある家
石井修
sk6808

屋根の形式
方形

軒の傾き
/—

軒の位置関係

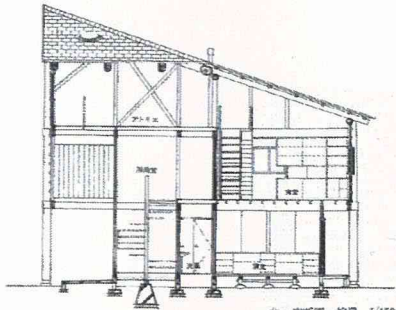
棟の位置関係
端

平面形
▽

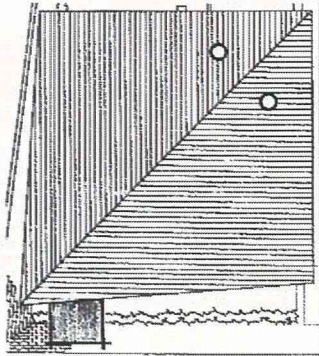
棟の傾きおよび頂点
・

屋根の勾配
定

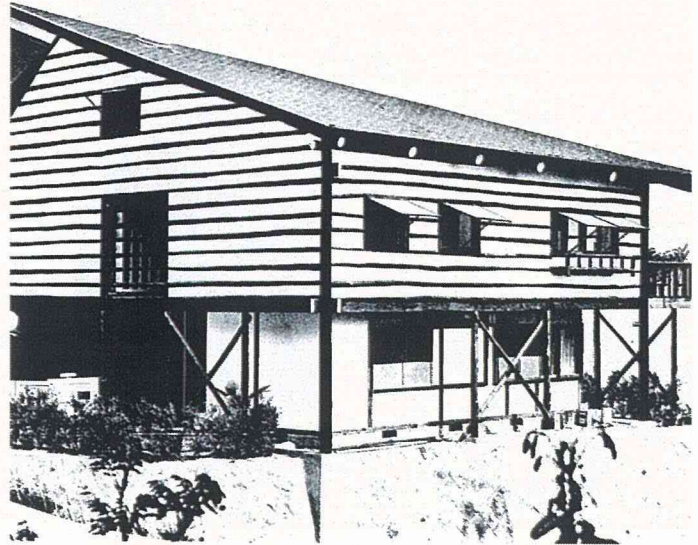
対面する屋根勾配
同



北-南断面 縮尺 1/150



配置図 縮尺 1/300



12

伊東の週末住宅
内井昭蔵
sk6906

屋根の形式
方形

軒の傾き
— —

軒の位置関係

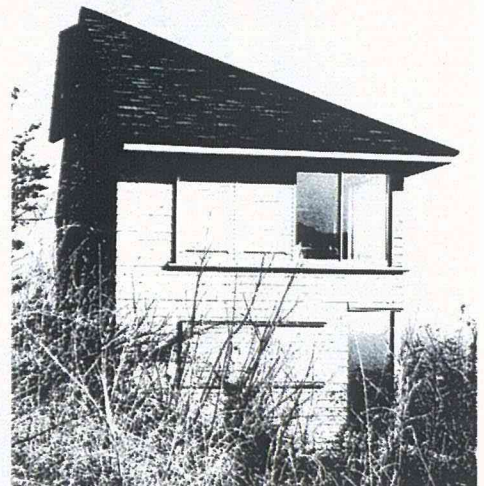
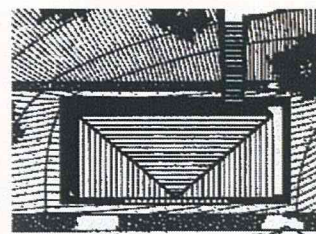
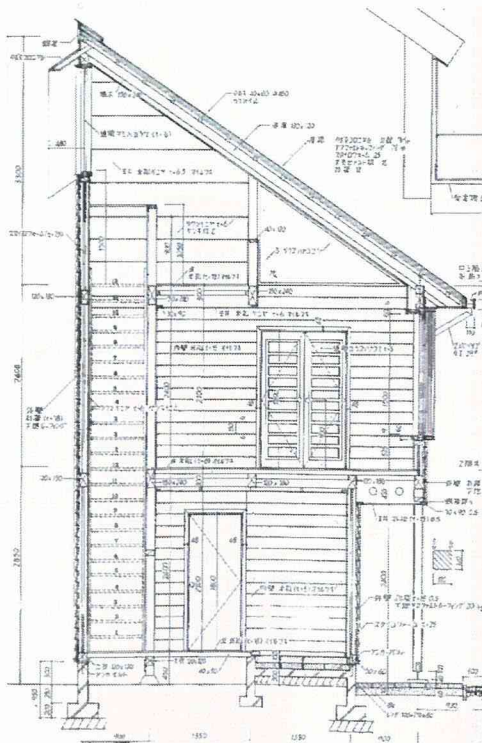
棟の位置関係
端

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
・

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



13

もん・しゃぼう
宮脇檀
sk7002

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

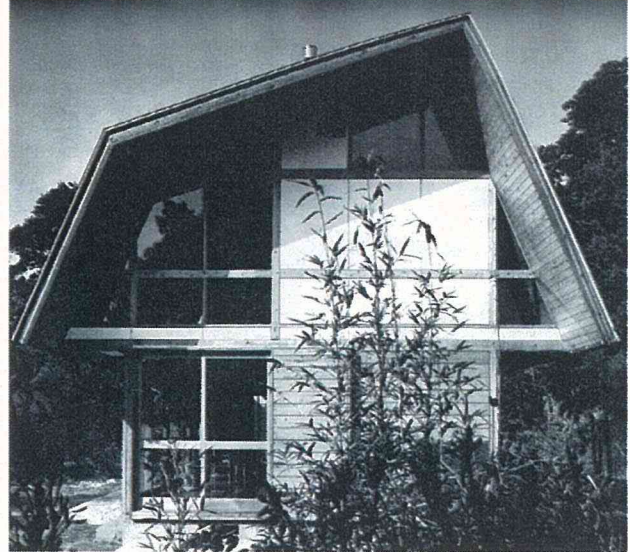
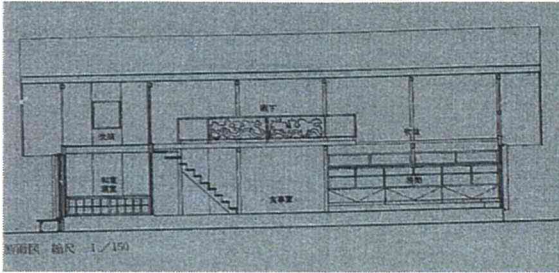
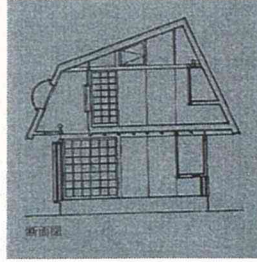
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
折

対面する屋根勾配
異



14

成城の住宅
篠原一男
sk7402

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

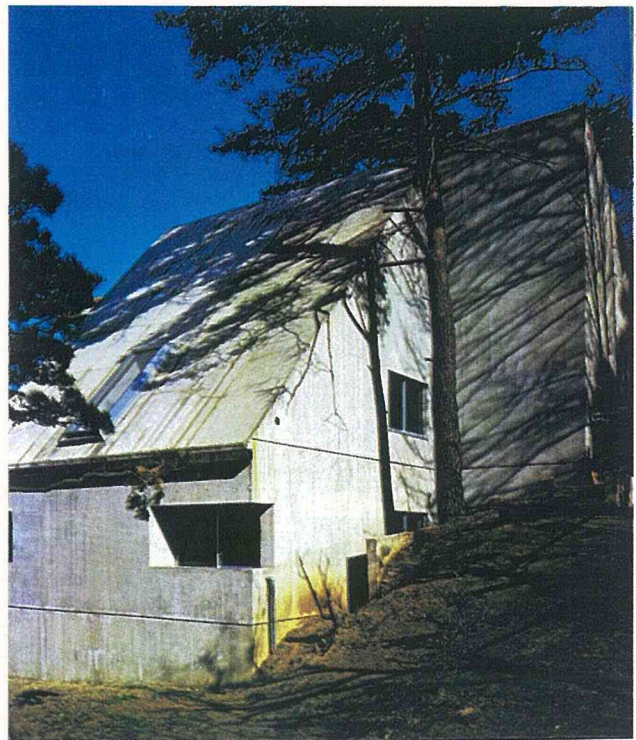
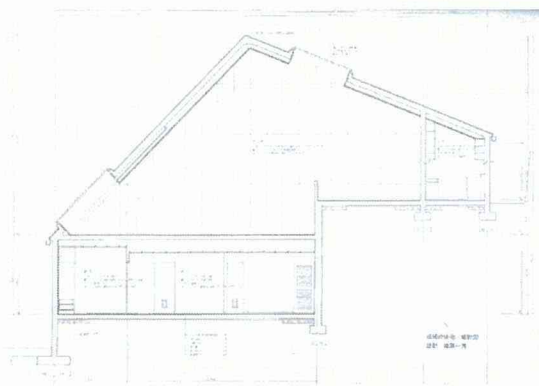
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
折

対面する屋根勾配
異



15

海に見える家
林雅子
sk7408

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
//

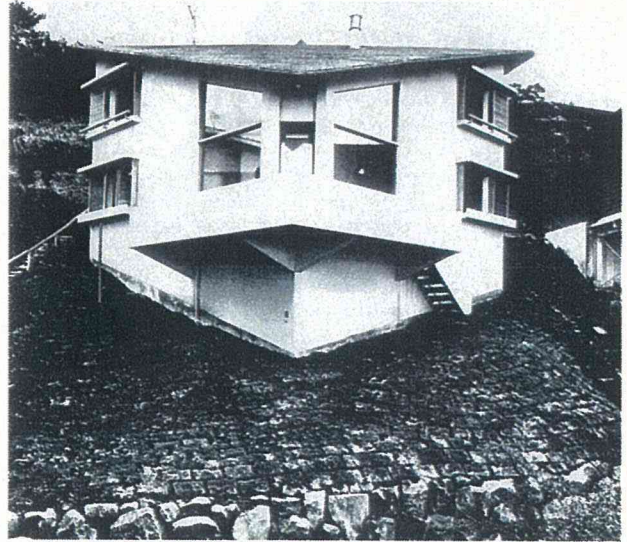
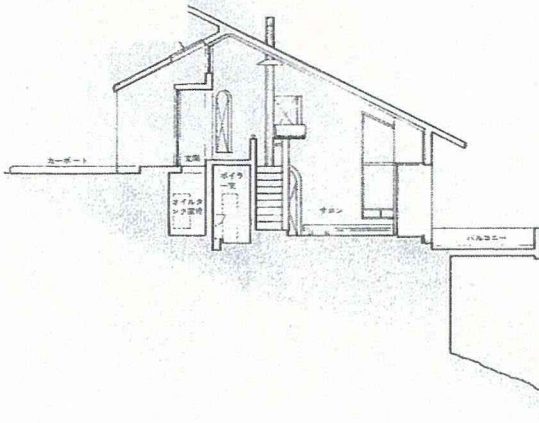
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
同



16

▽な方形の家
吉島忠男
sk7708

屋根の形式
方形

平面形
□

軒の傾き
—

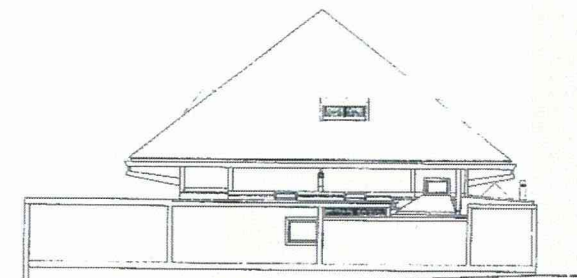
棟の傾きおよび頂点
•

軒の位置関係

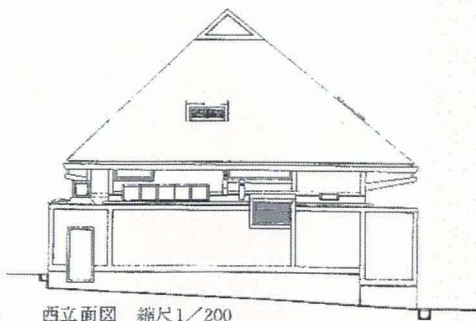
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

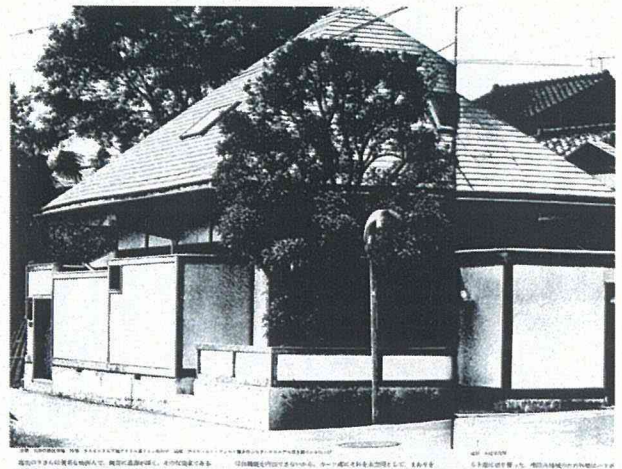
対面する屋根勾配
異



北立面図



西立面図 縮尺1/200



17

バナナハウス
環境デザイン研究所
sk8208

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
//

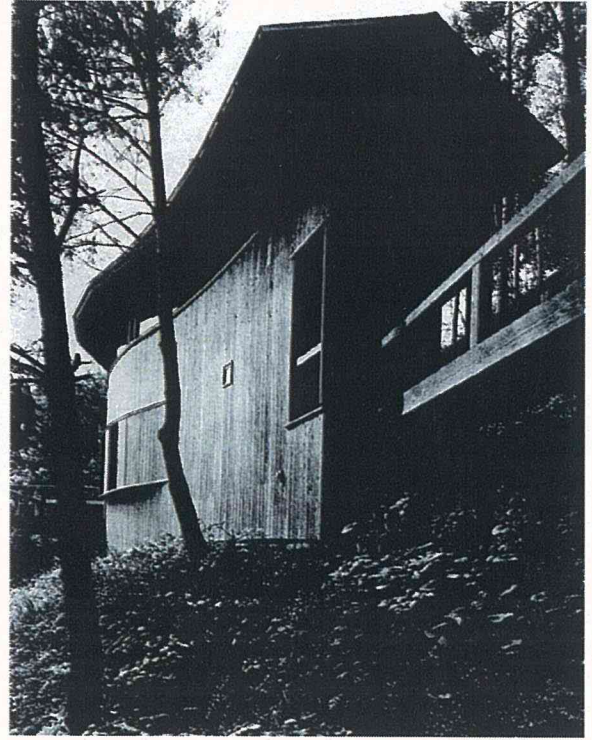
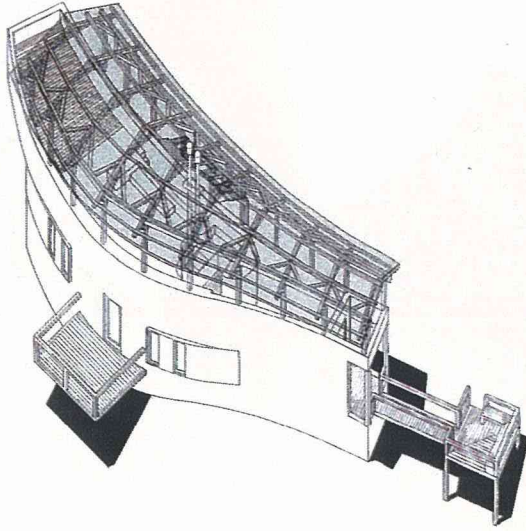
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



18

伊豆高原の家
岳建築設計研究所
sk8208

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
——

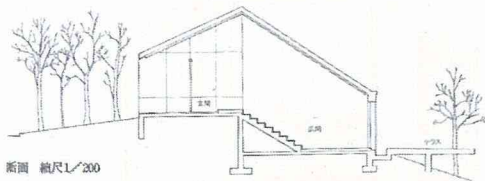
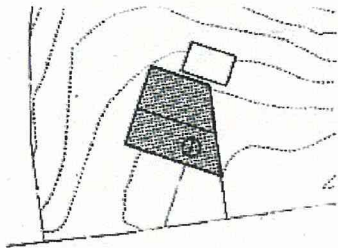
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

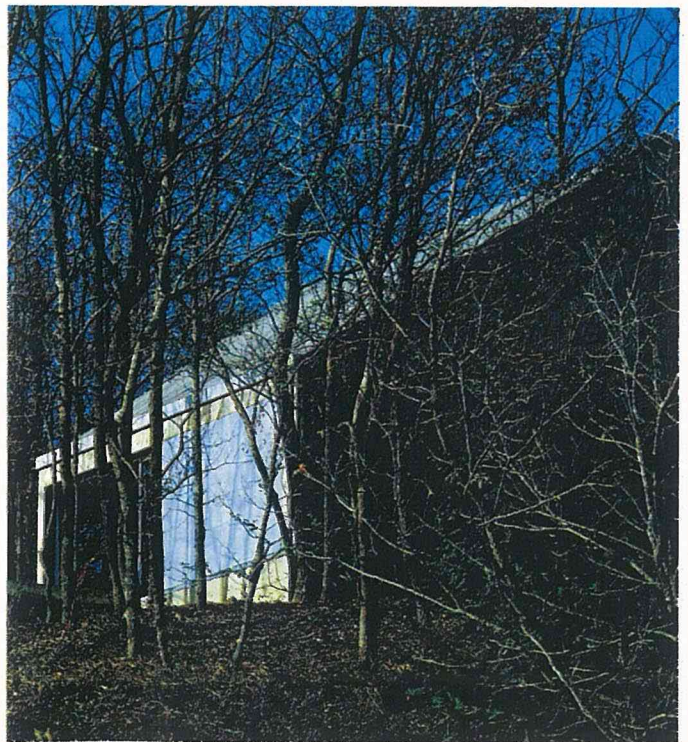
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



断面 概尺1/200



19

比叡平の家
 ヘキサ 小島政
 sk8302

屋根の形式
 方形

平面形
 ▽

軒の傾き
 // — —

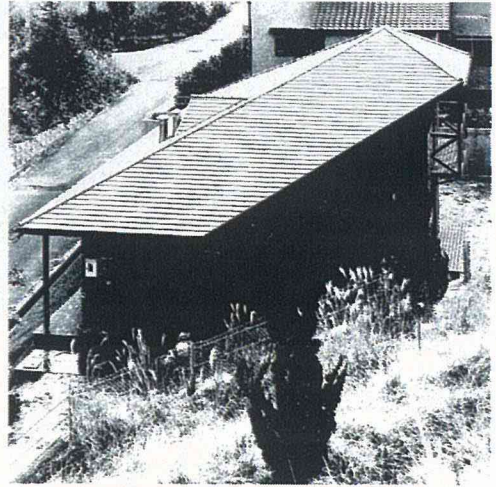
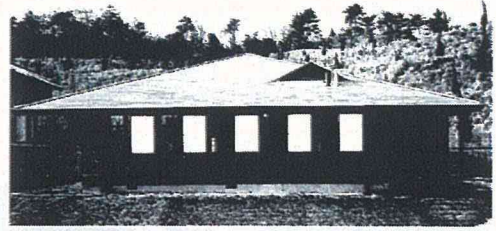
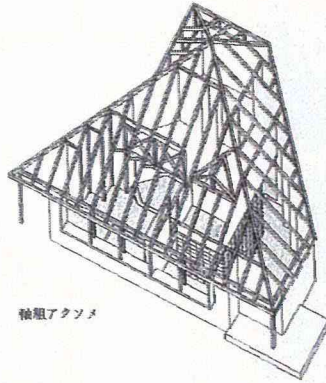
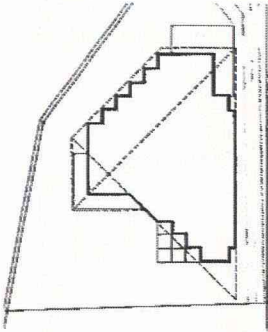
棟の傾きおよび頂点
 .

軒の位置関係

屋根の勾配
 定

棟の位置関係
 偏

対面する屋根勾配
 同



20

戸隠山荘
 RE 設計事務所
 sk8302

屋根の形式
 切妻

平面形
 ▽

軒の傾き
 — —

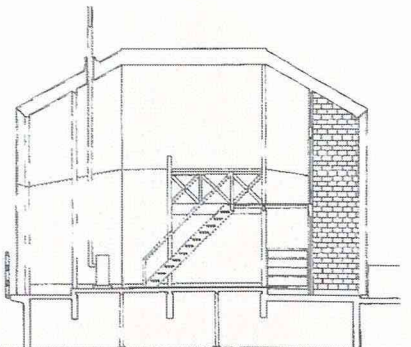
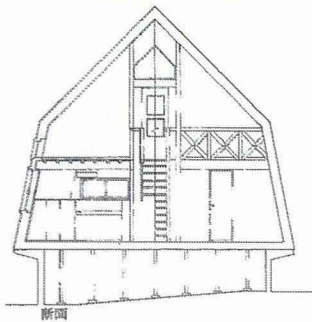
棟の傾きおよび頂点
 /

軒の位置関係
 ≠

屋根の勾配
 折

棟の位置関係
 中

対面する屋根勾配
 直, 同



21

本駒込の住宅 1983
 富永謙
 sk8408

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

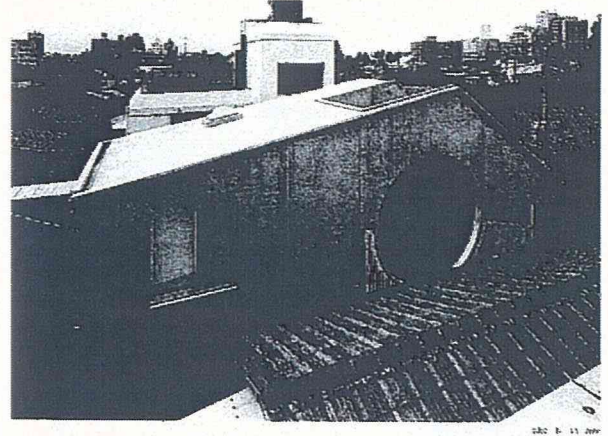
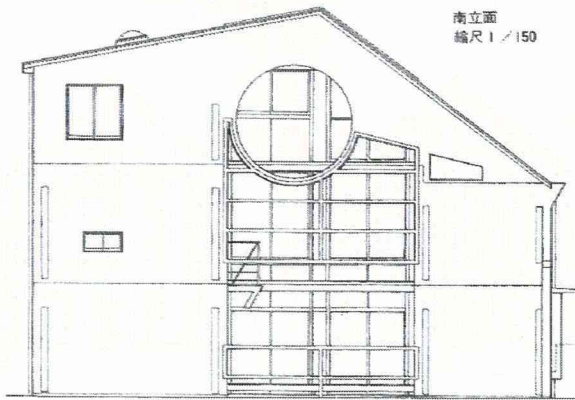
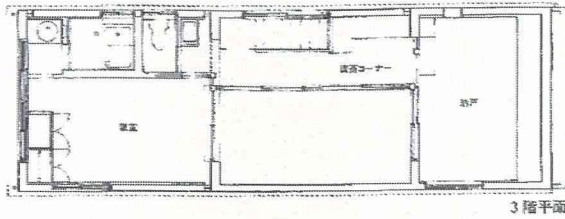
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



22

手稲の三角屋根 2
 北海道建築工房
 jt86??

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

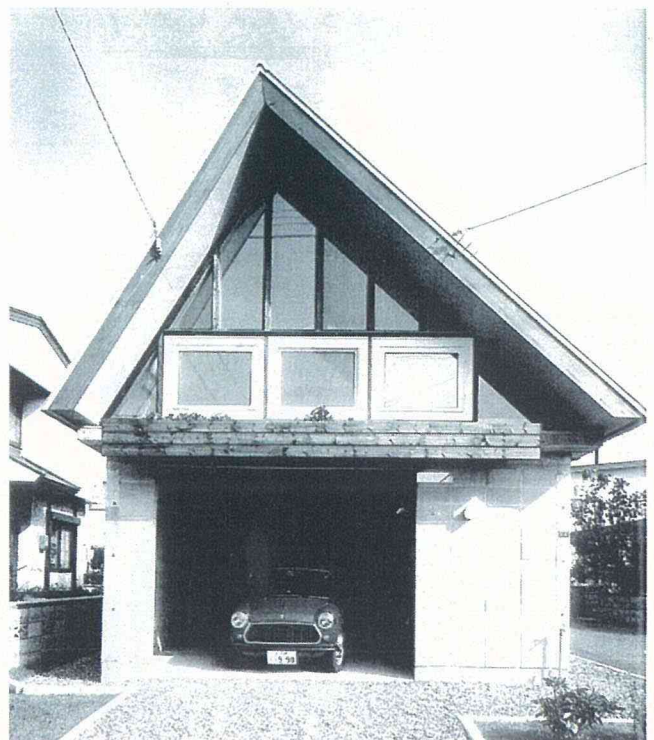
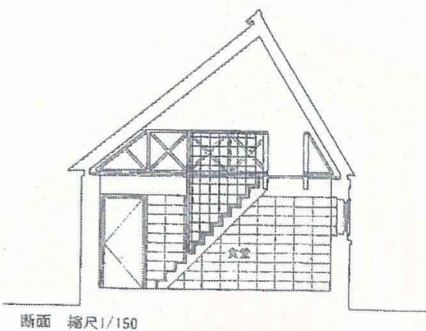
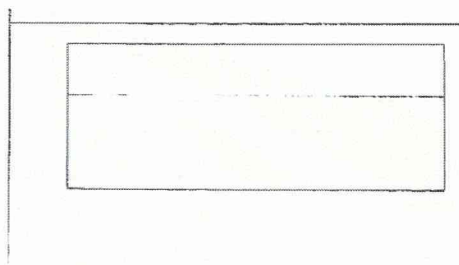
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



23

楽舎
白澤宏規
jt8610

屋根の形式
方形

軒の傾き
///—

軒の位置関係

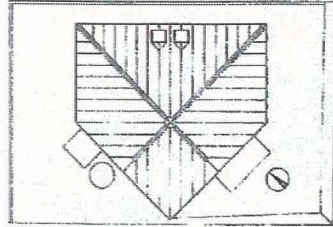
棟の位置関係
中

平面形
▽

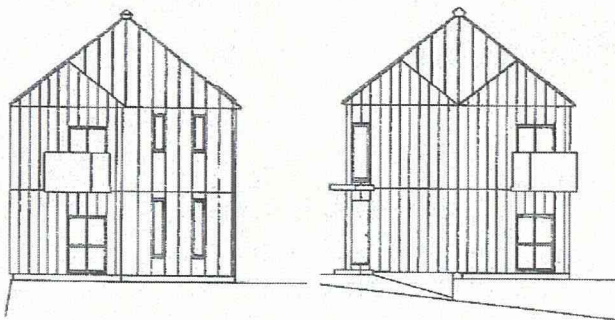
棟の傾きおよび頂点
・

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
同

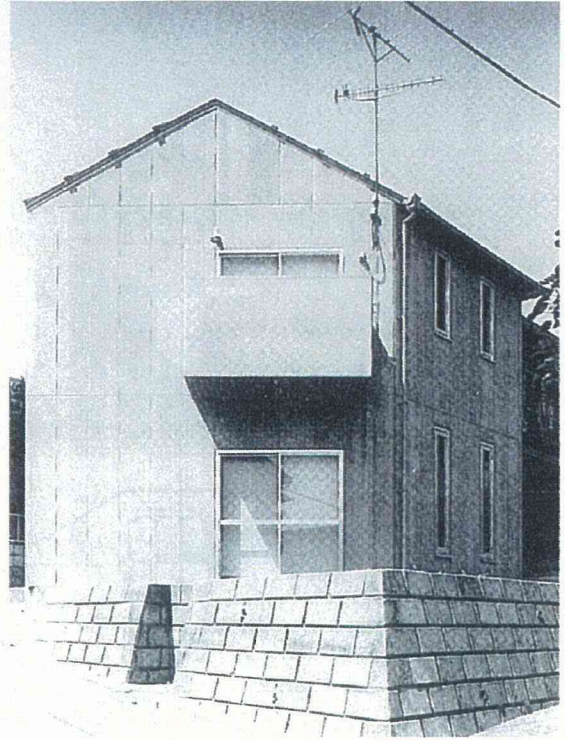


配置 縮尺 1/300



南側立面 縮尺 1/150

西側立面



24

DOMO EL TERO
いるか設計集団
jt8611

屋根の形式
切妻

軒の傾き
/—

軒の位置関係
≠

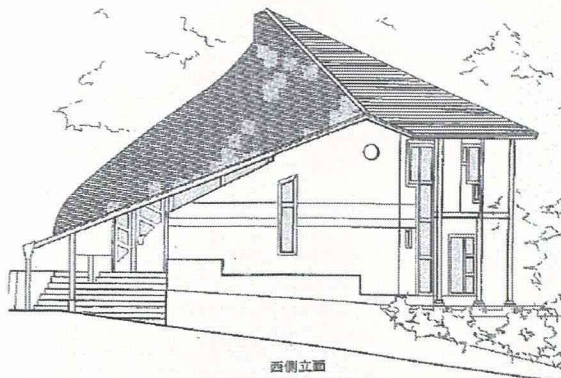
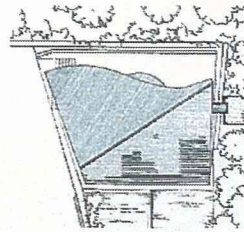
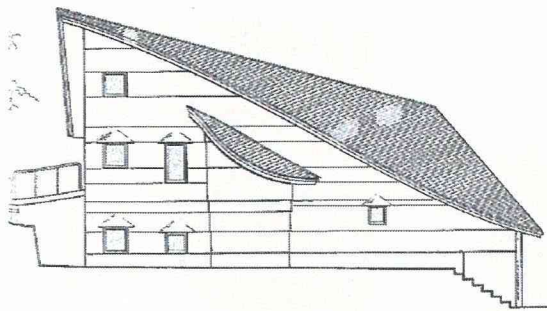
棟の位置関係
回

平面形
▽

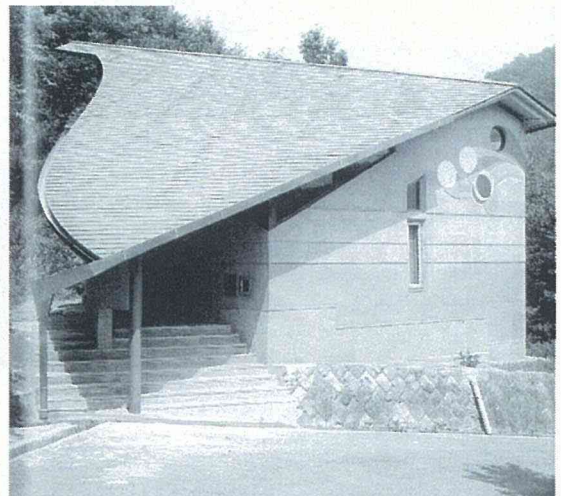
棟の傾きおよび頂点
/

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
同



西側立面



25

濃尾平野の家
笠嶋建築工房
jt8701

屋根の形式
寄棟

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

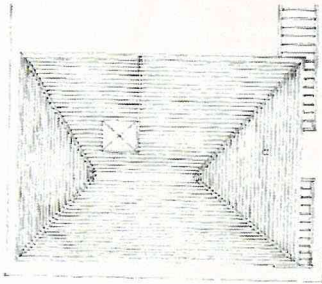
棟の位置関係
偏

平面形
□

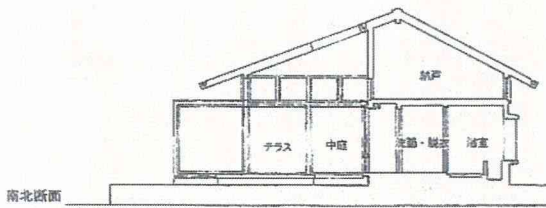
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

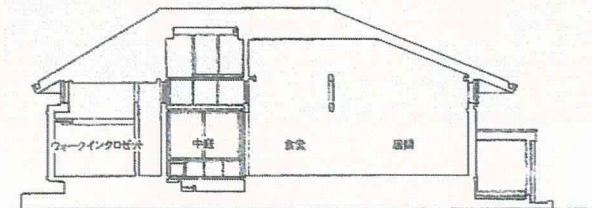
対面する屋根勾配
異



配置 縮尺1/500



南北断面



東西断面 縮尺1/200

26

ソーラーツイスト
加藤義夫
jt8710

屋根の形式
方形

軒の傾き
//

軒の位置関係
≠

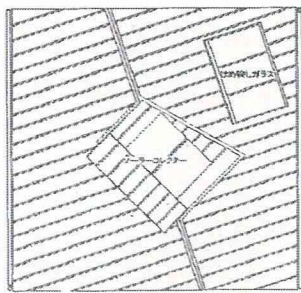
棟の位置関係
回

平面形
□

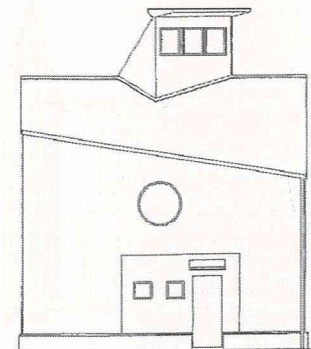
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

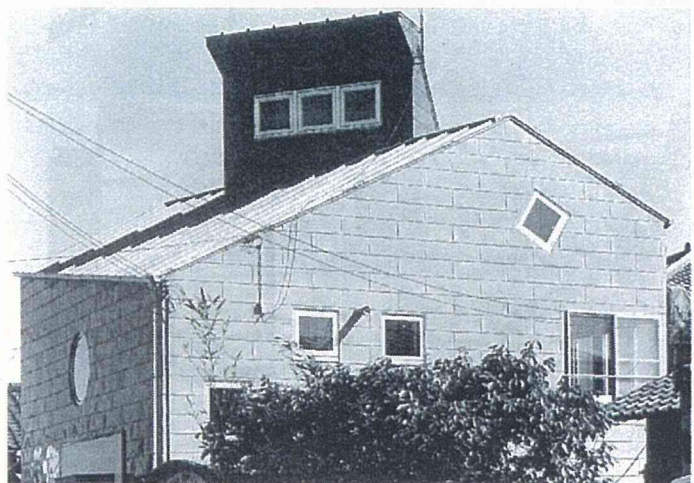
対面する屋根勾配
同



屋根状



北西立面 縮尺1/150



27

パストラルホーム 55
北海道建築工房
jt8712

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
∩ —

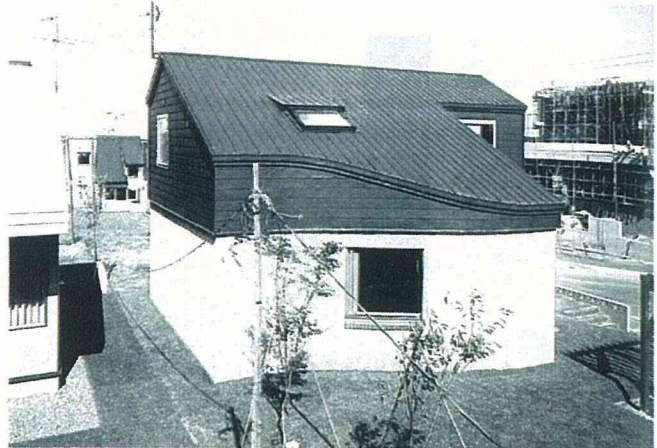
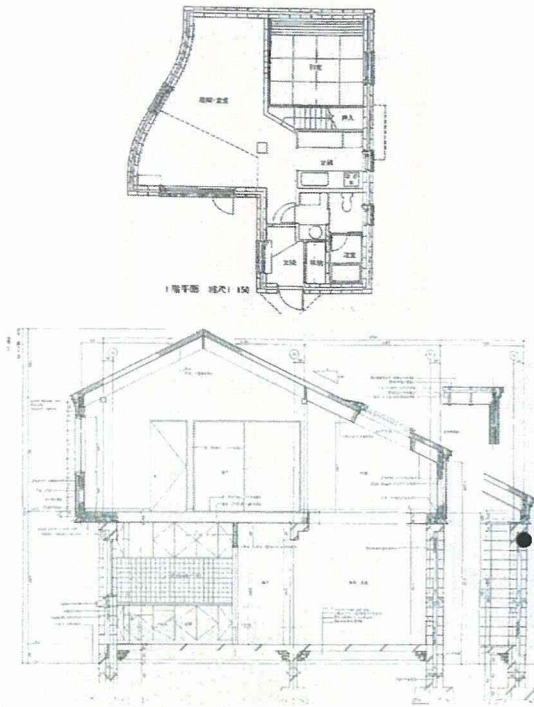
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
同



28

三界の家
渡辺明
jt8801

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
//

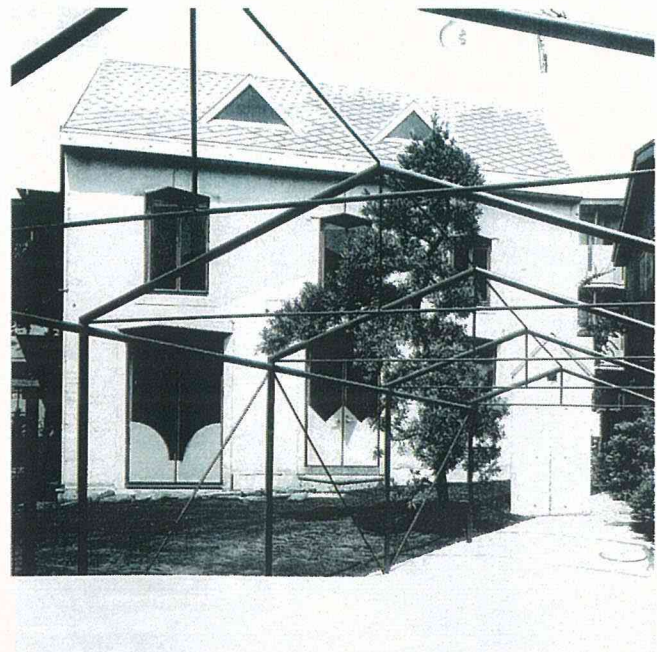
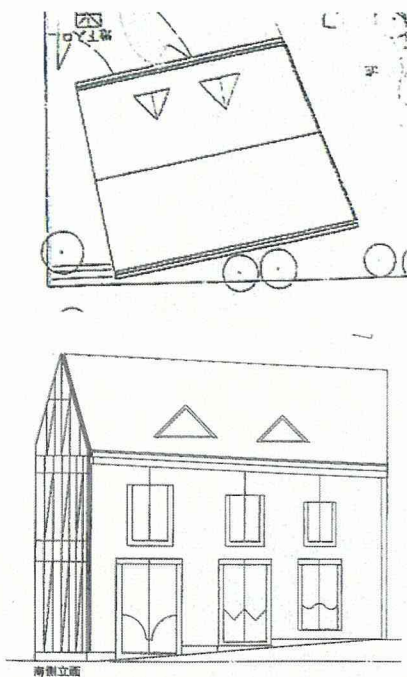
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



29

YAH
白旗定幸
jt8802

屋根の形式
寄棟

平面形
□

軒の傾き
—

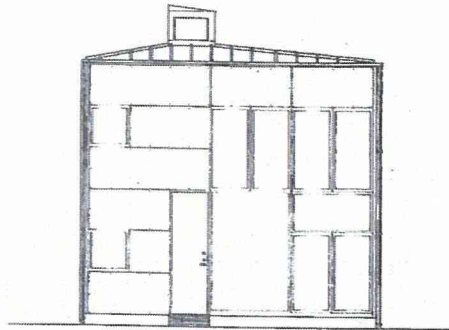
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

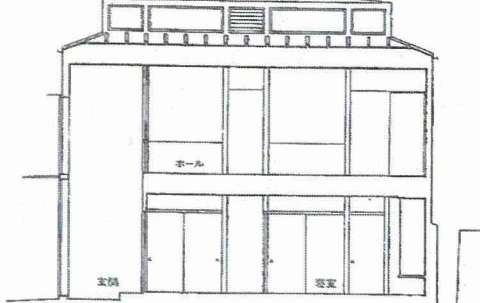
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

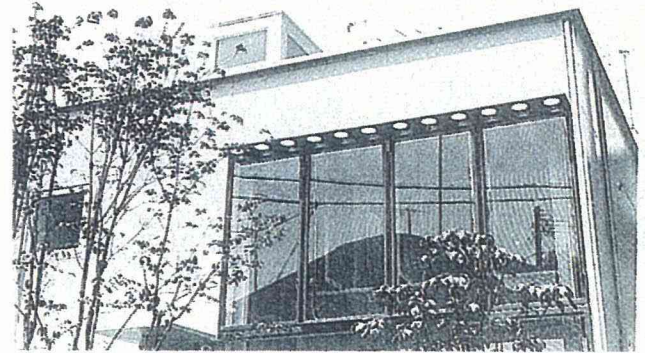
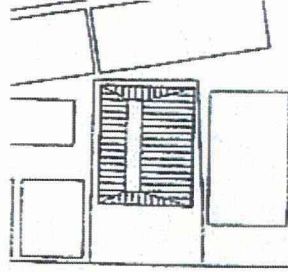
対面する屋根勾配
異



南立面 縮尺 1/150



断面 縮尺 1/150 2-1'



30

龍華荘
今井秀明
jt8805

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
〇〇

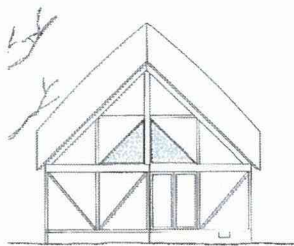
棟の傾きおよび頂点
〇

軒の位置関係
=

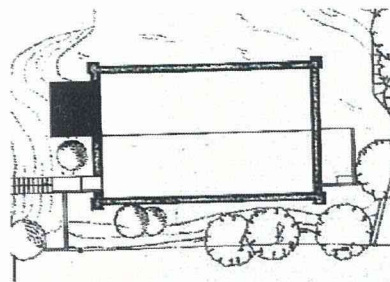
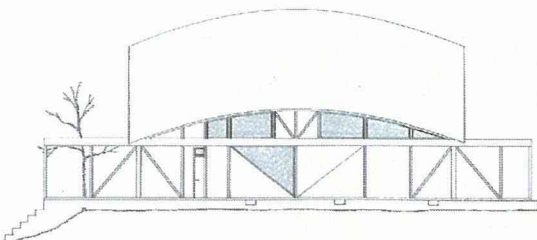
屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
直, 同



西立面



31

奥山邸
新田 鷹雄
jt 8806

屋根の形式
方形

平面形
▽

軒の傾き
// / - - -

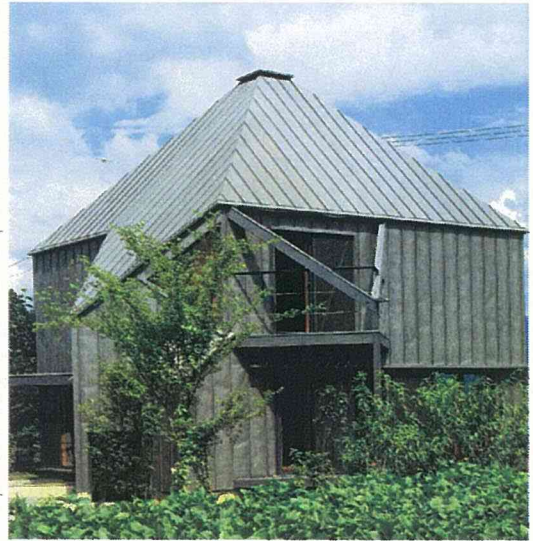
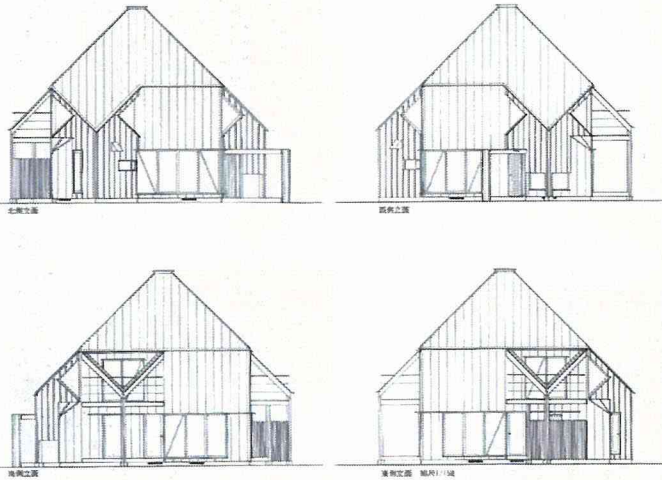
棟の傾きおよび頂点
・

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
直, 同



32

MG 邸
山崎 泰孝
jt8807

屋根の形式
方形

平面形
▽

軒の傾き
- - - -

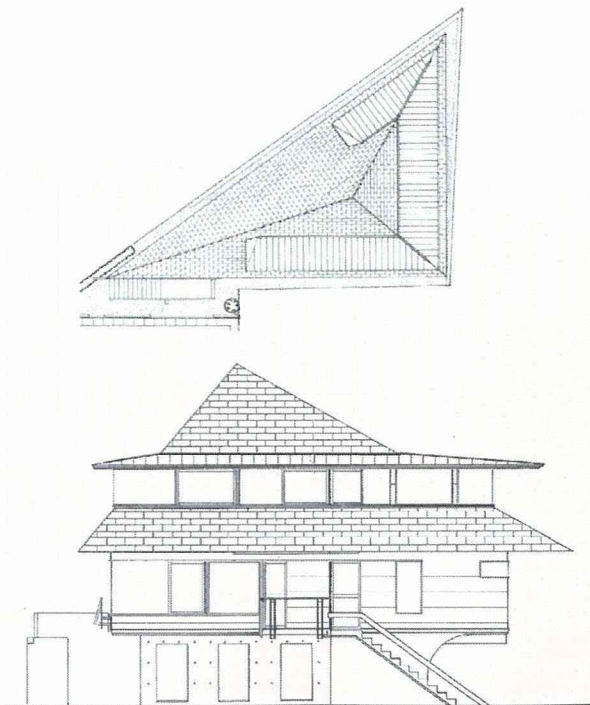
棟の傾きおよび頂点
・

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



南東側立面 縮尺1/200



33

FUK 邸
吉崎存亮
jt 8806

屋根の形式
方形

平面形
▽

軒の傾き
／／——

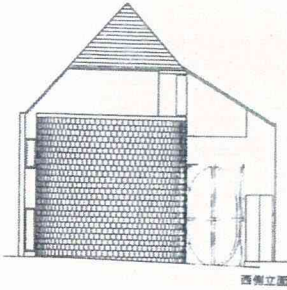
棟の傾きおよび頂点
・

軒の位置関係
≠

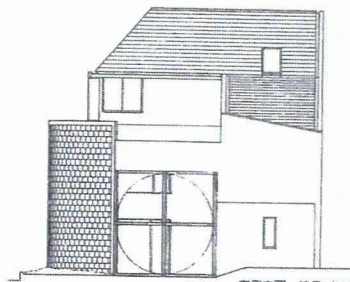
屋根の勾配
折

棟の位置関係
偏

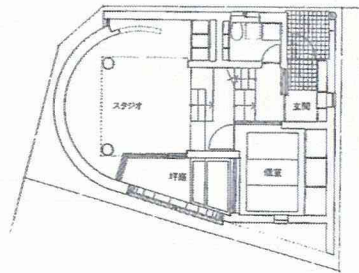
対面する屋根勾配
異



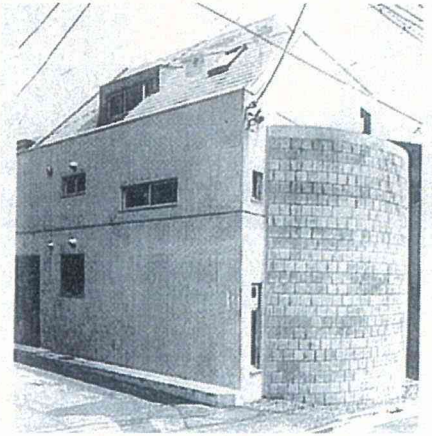
西側立面



南側立面 縮尺 1/200



⊕ 地階平面 縮尺 1/200



34

カレイドスコープ
北村陸夫
jt8911

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

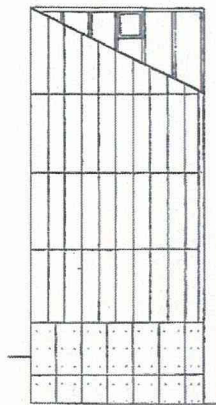
棟の傾きおよび頂点
／

軒の位置関係
≠

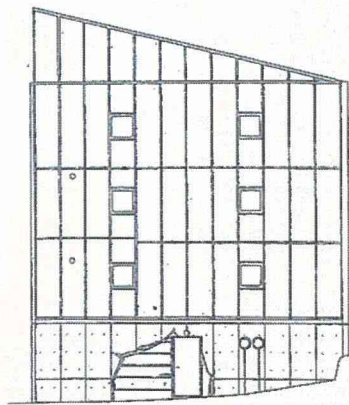
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

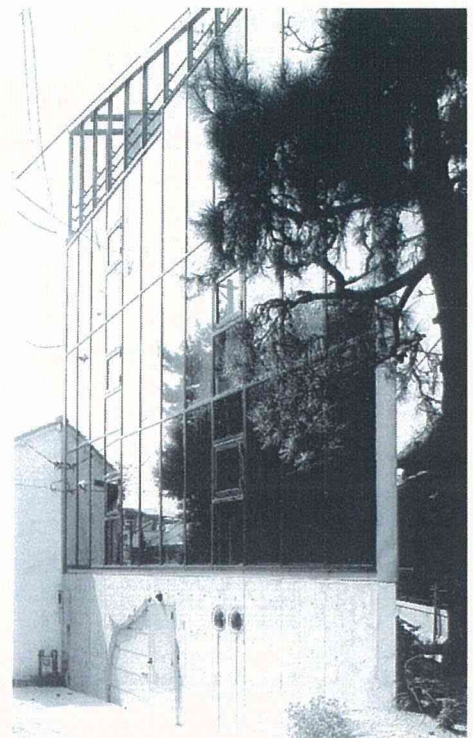
対面する屋根勾配



南立面



東立面



35

聖山荘
濱口オサミ
jt8911

屋根の形式
片流

軒の傾き
/

軒の位置関係
≠

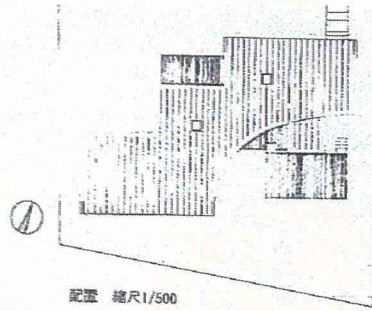
棟の位置関係
端

平面形
▽

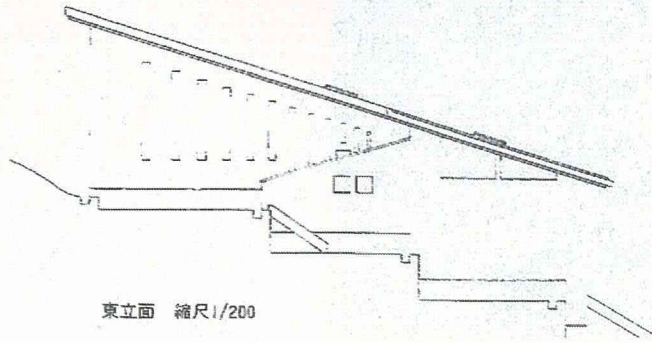
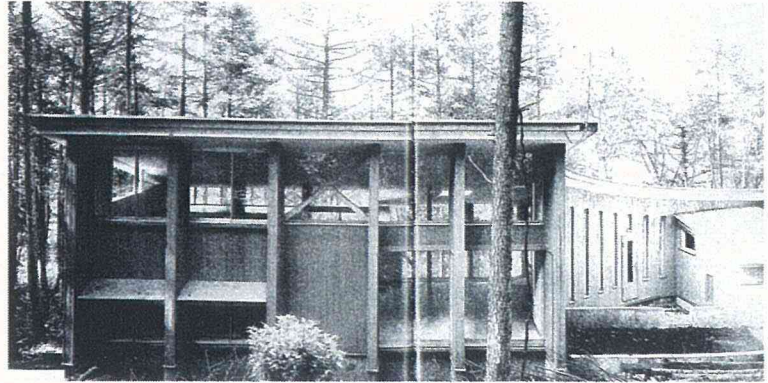
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配



配置 縮尺1/500



東立面 縮尺1/200

36

白樺湖のU山荘
伊藤哲夫
jt9012

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

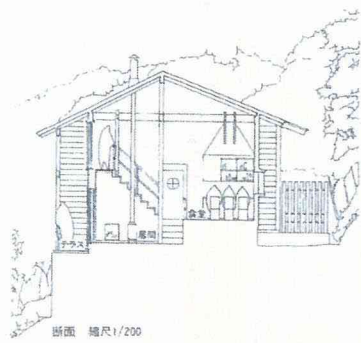
棟の位置関係
偏

平面形
□

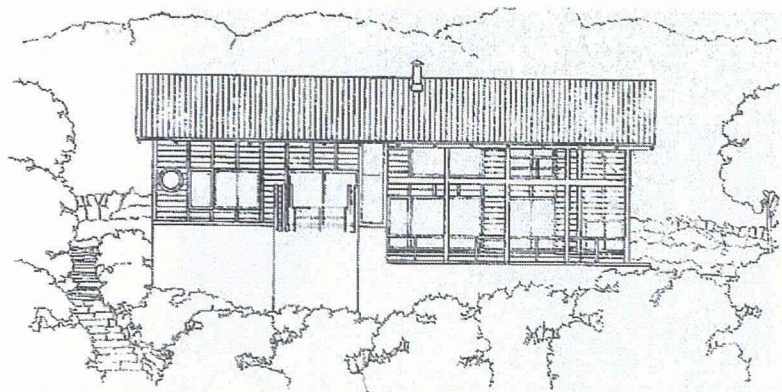
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

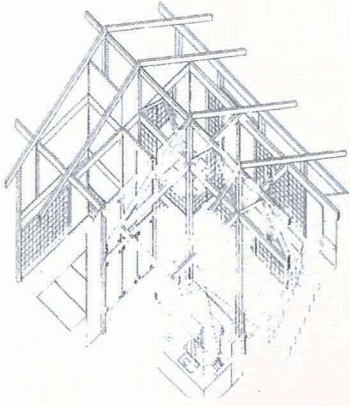
対面する屋根勾配
異



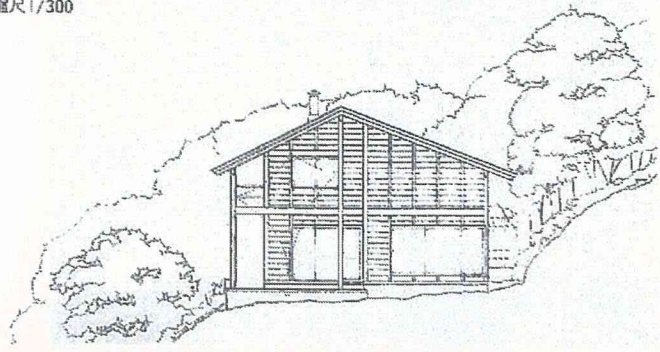
断面 縮尺1/200



西立面 縮尺1/300



南立面



37

鶉沼の家
仙田満
jt9108

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
//

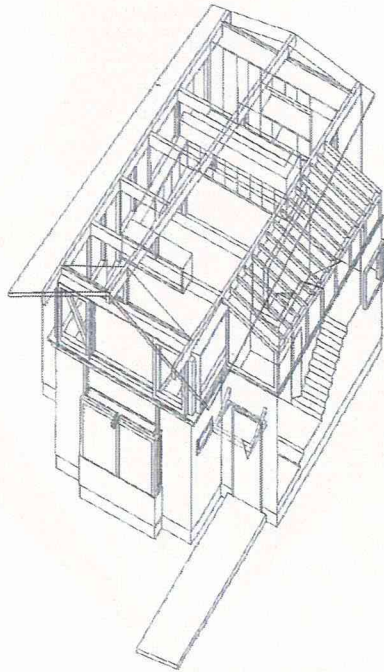
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



38

鳥山の家
中村好文
jt9211

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

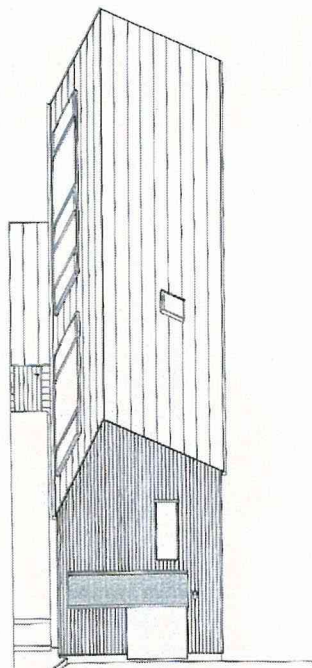
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

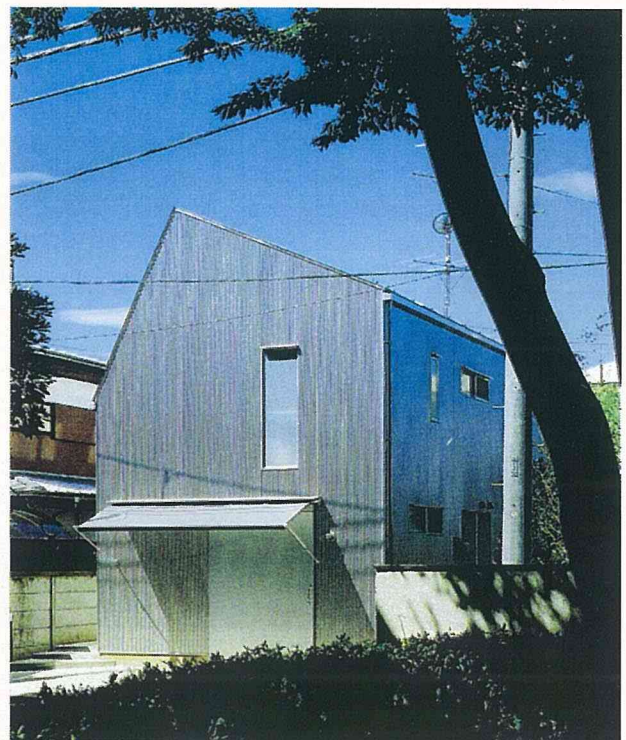
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
直, 異



アキノノメトリック



39

壺中天地
黒川哲郎
jt9212

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
/

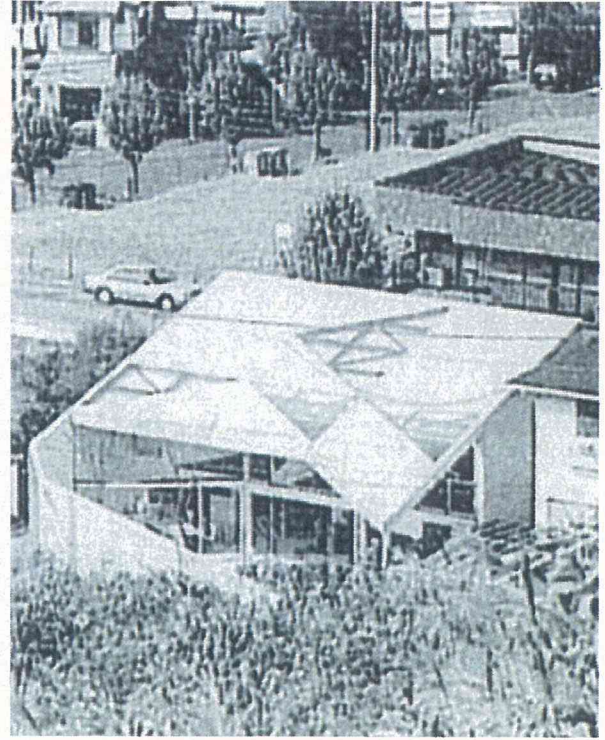
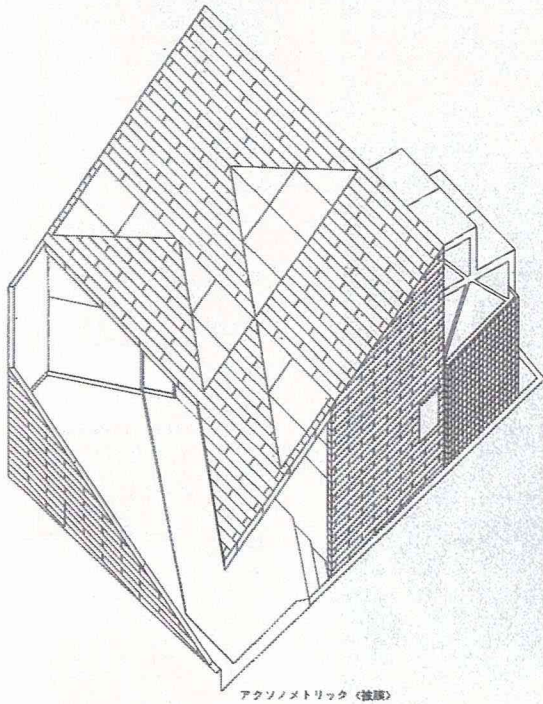
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



40

網島邸
玄・ベルトー・進来
jt9302

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

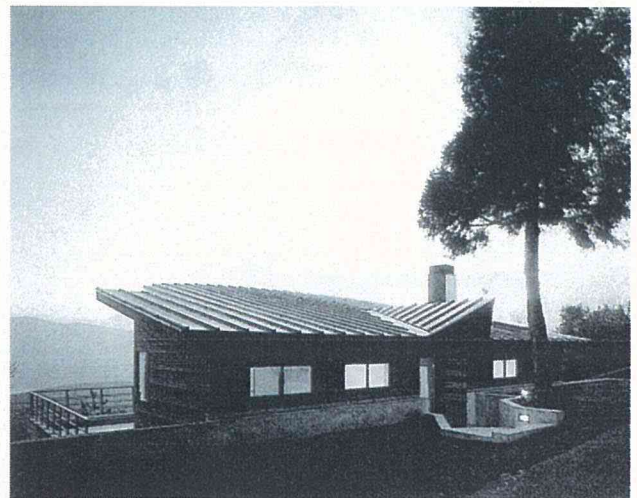
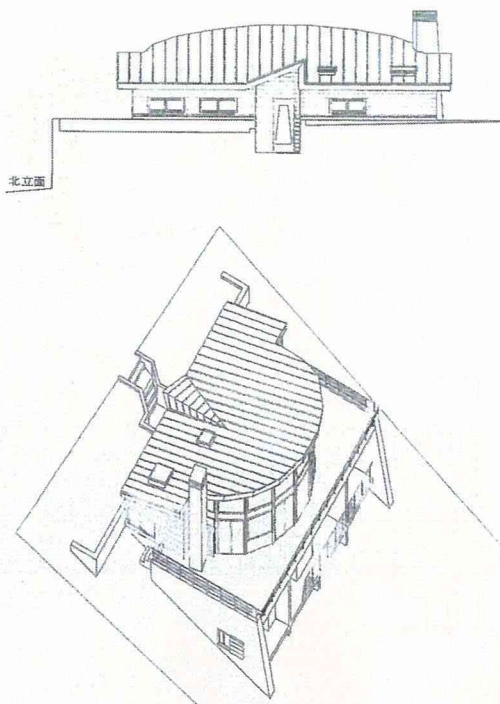
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



41

浅野アトリエ
高橋真
jt9304

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
//

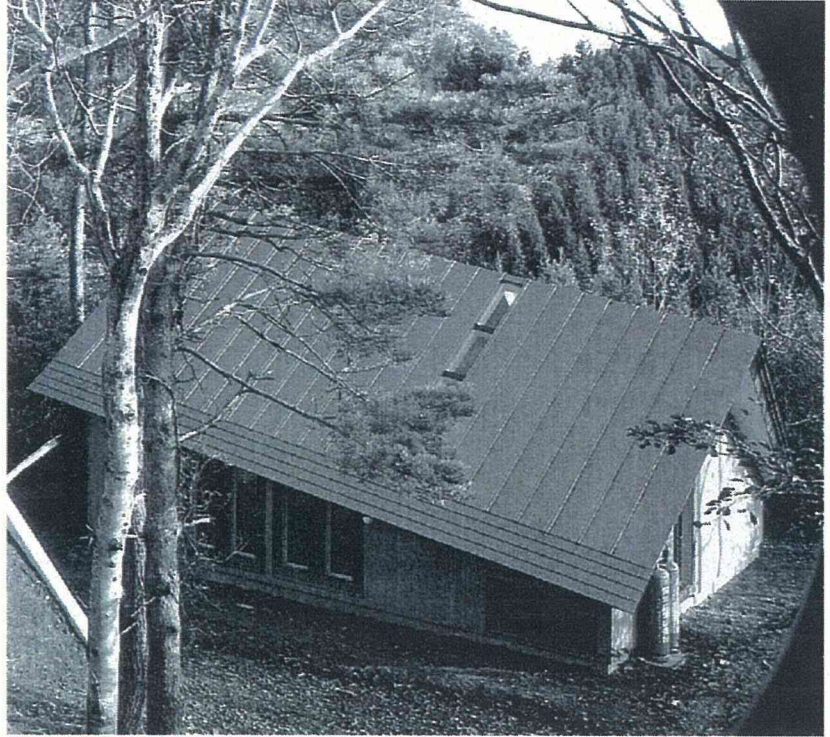
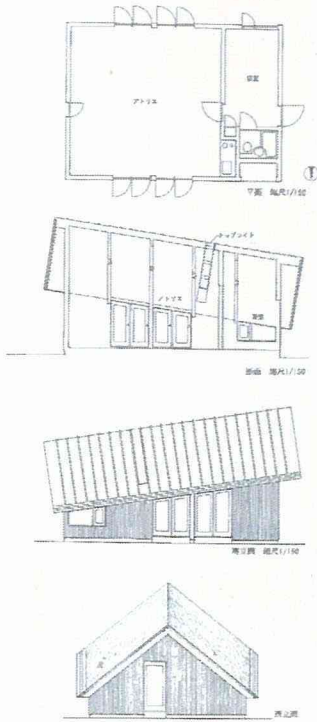
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



42

KAOK・八ヶ岳
中山繁信
jt9311

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き

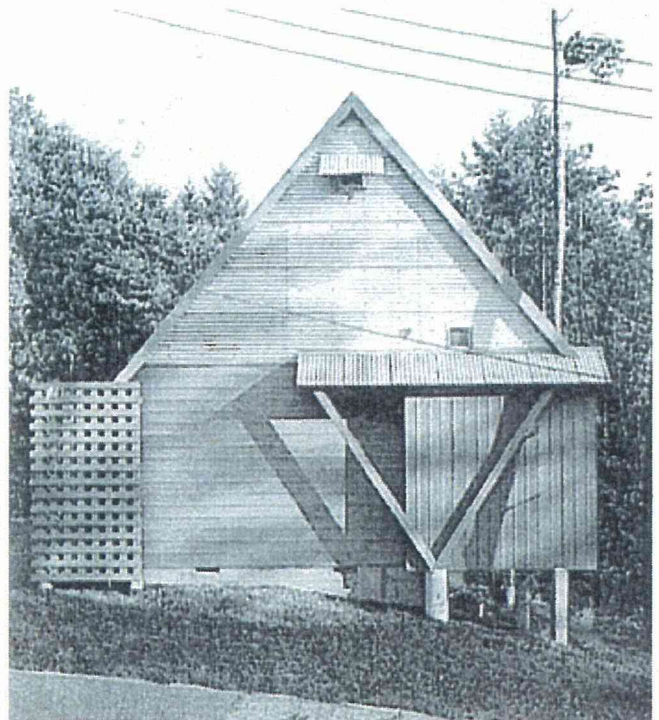
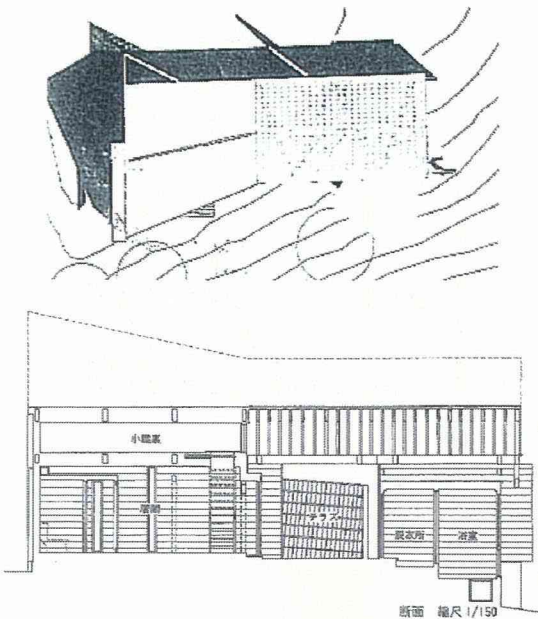
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



43

風の棲む家
伊藤真一
jt9402

屋根の形式
切妻

軒の傾き
／—

軒の位置関係
≠

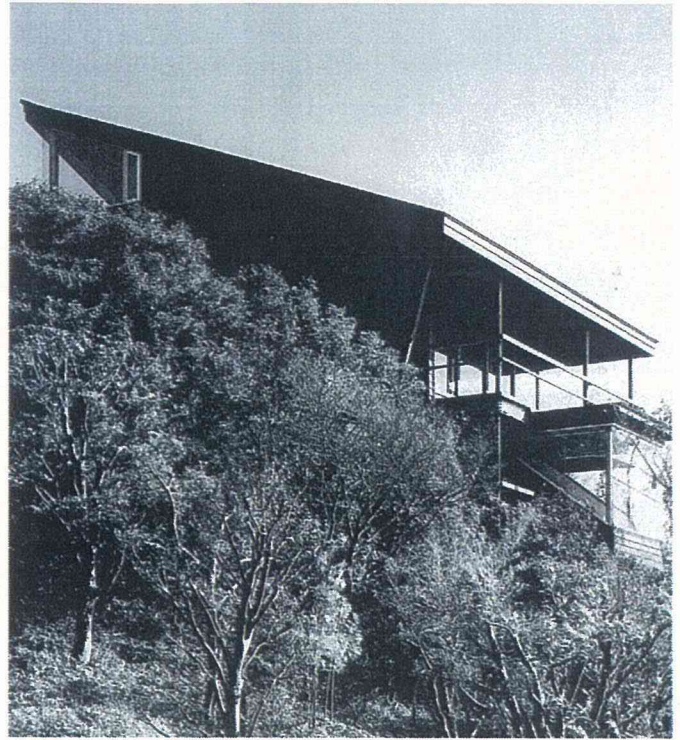
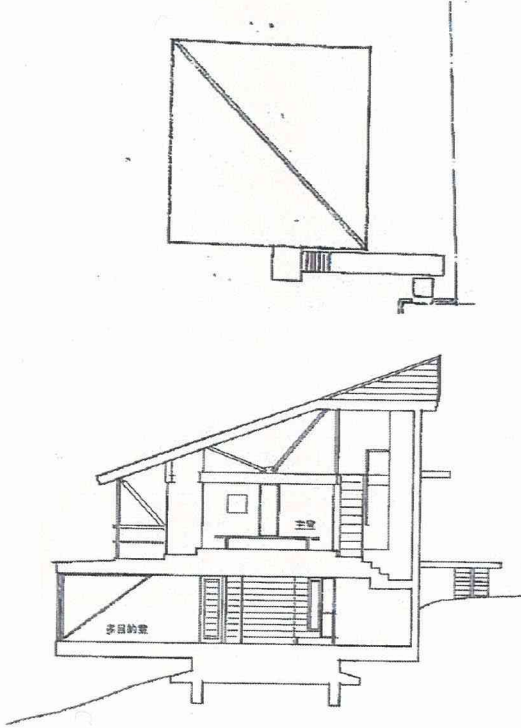
棟の位置関係
回

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
／

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
同



44

長屋のギャラリー
ヘキサ
jt9404

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

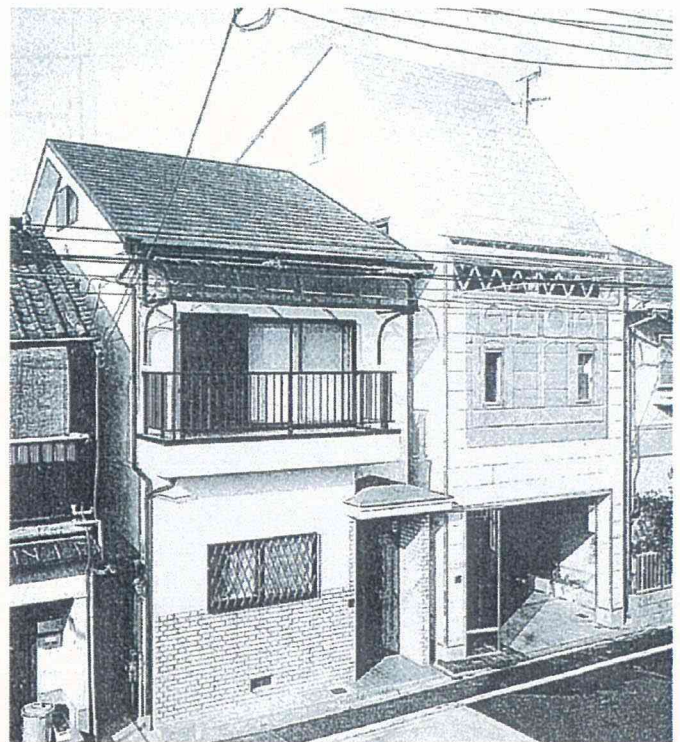
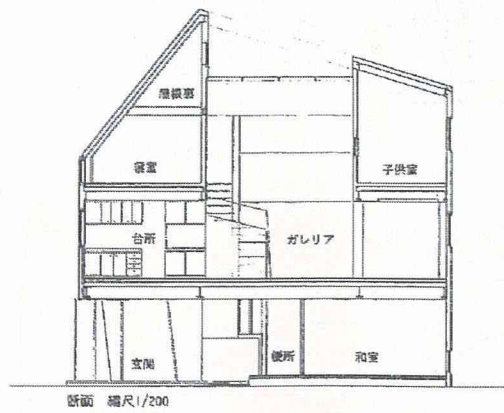
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



45

鶴溜の双曲
石橋徳川建築設計所
jt9409

屋根の形式
切妻

軒の傾き
//

軒の位置関係
∞

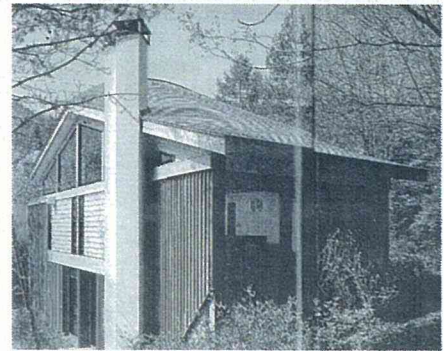
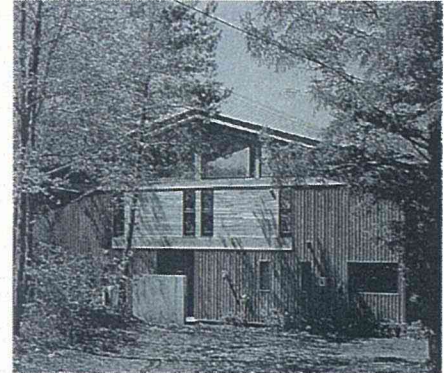
棟の位置関係
中

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
∩

屋根の勾配
曲

対面する屋根勾配
同



46

王子の住宅 1993
富永嬢
jt9411

屋根の形式
片流

軒の傾き
/

軒の位置関係
=

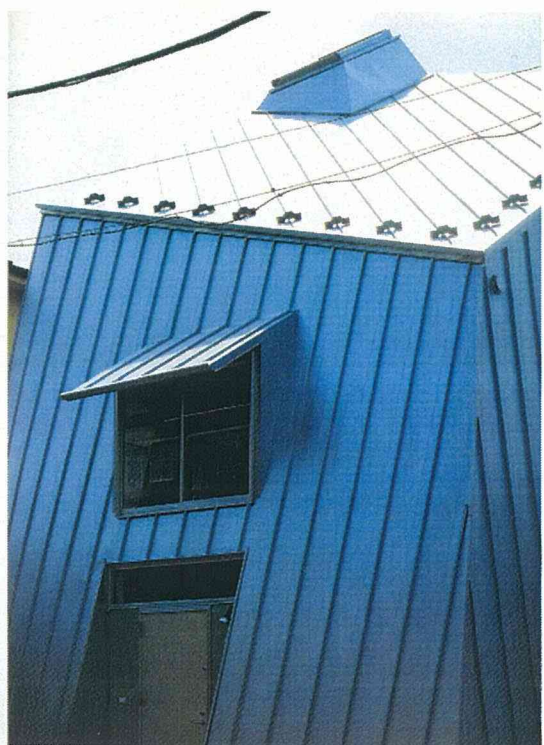
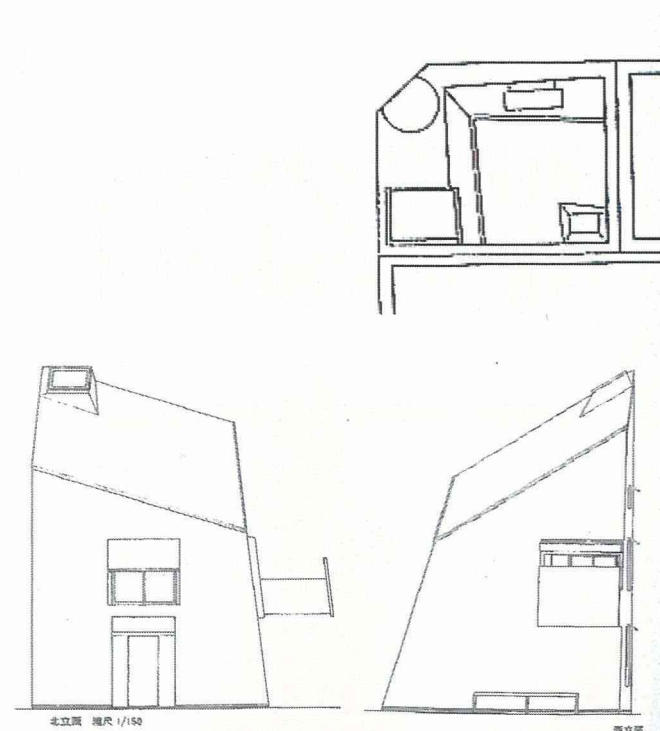
棟の位置関係
端

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
/

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
定



47

ART HUT SD
シーラカンス
jt9503

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
//

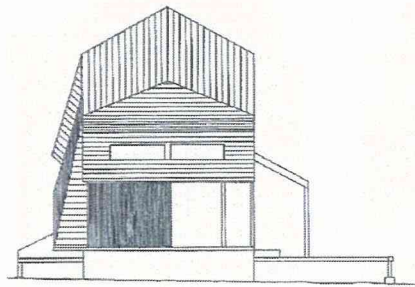
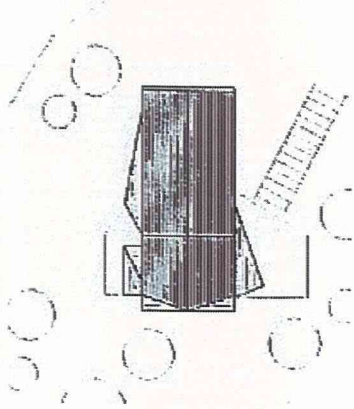
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

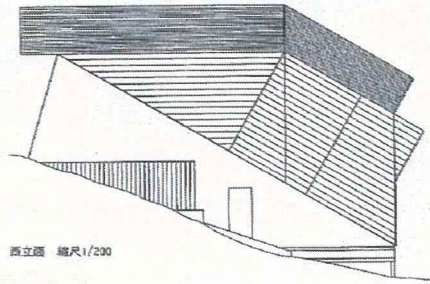
屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



南立面



西立面 縮尺1/200

48

ドラキュラの家
石山修武
jt9506

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
/

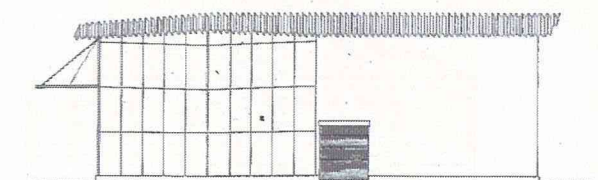
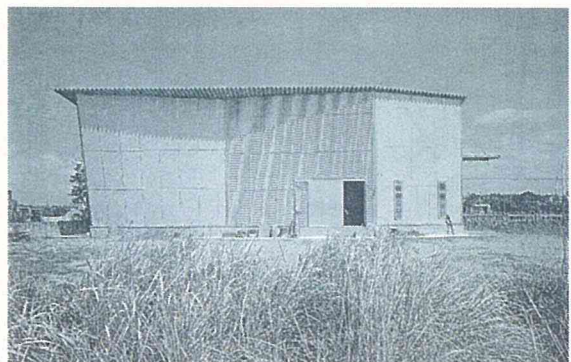
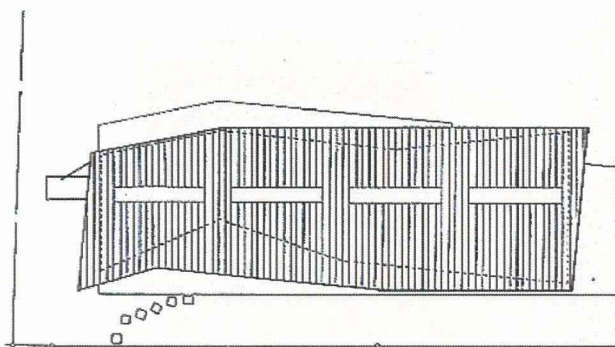
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

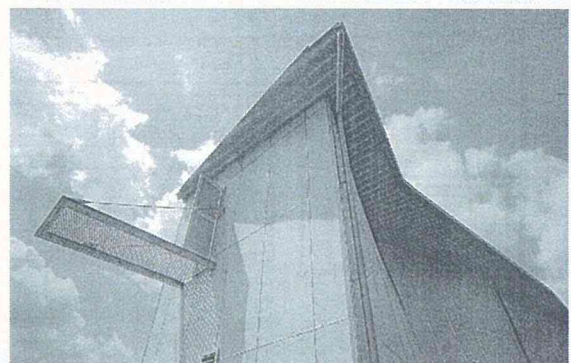
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



北立面 縮尺1/200



49

FULL HOUSE
川口とし子
jt9603

屋根の形式
片流

軒の傾き
—

軒の位置関係
≠

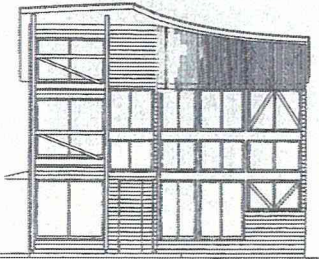
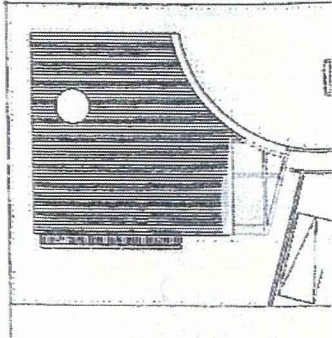
棟の位置関係
端

平面形
▽

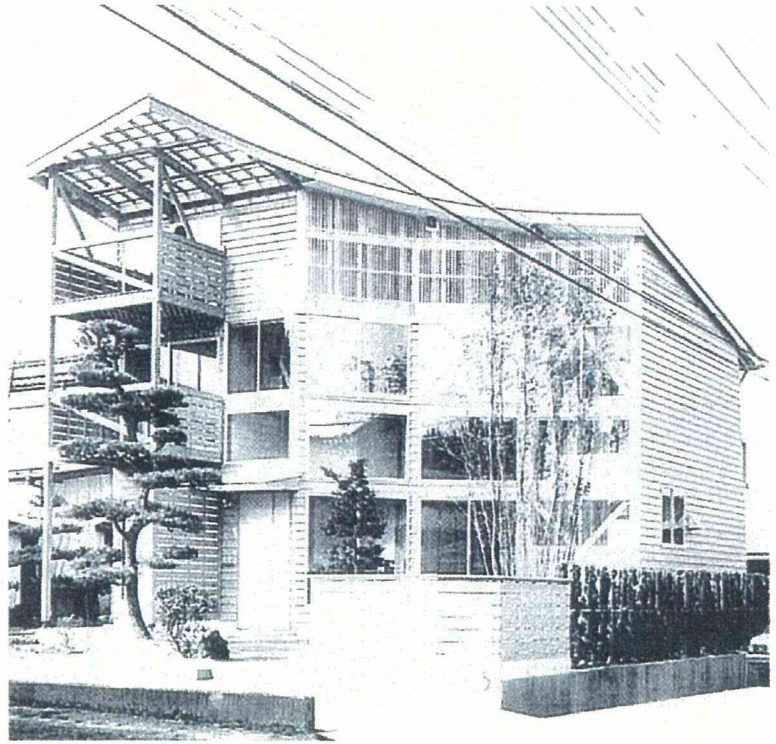
棟の傾きおよび頂点
／

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配



側立面 縮尺1/200



50

グリーンシェッド
安山宣之
jt9604

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
≠

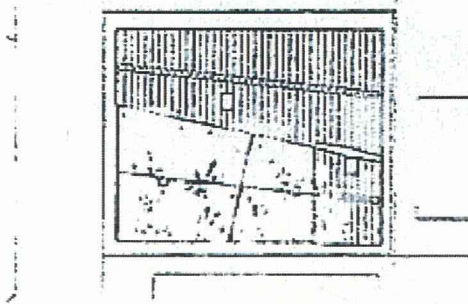
棟の位置関係
中

平面形
▽

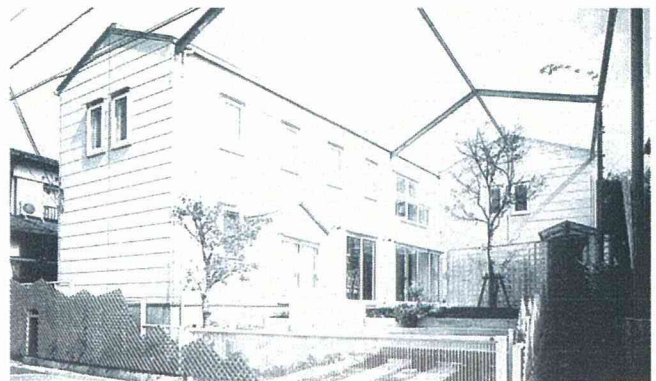
棟の傾きおよび頂点
／

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
同



側立面 縮尺1/200



断面 縮尺1/200

51

明野村の家
加藤義夫
jt9607

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

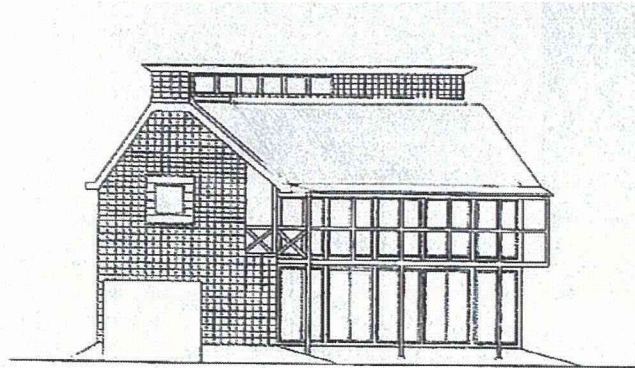
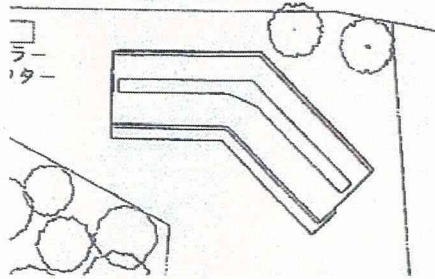
棟の位置関係
偏

平面形
□

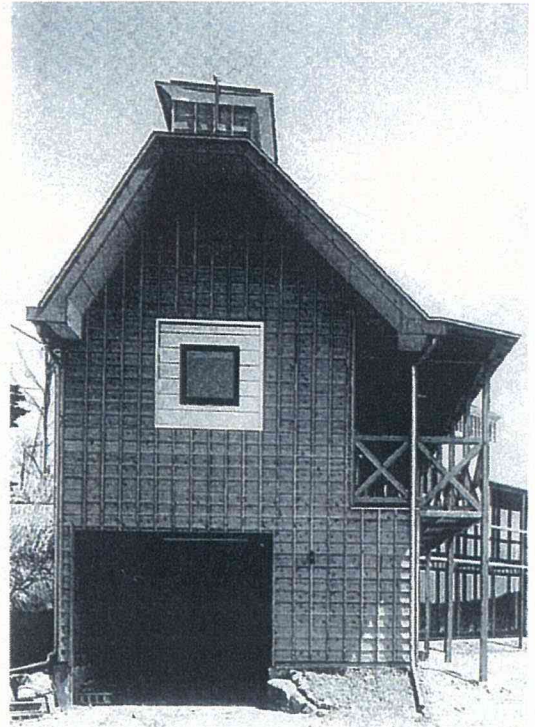
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



西立面 縮尺 1/250



52

住居 No.18
内藤廣
jt9611

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

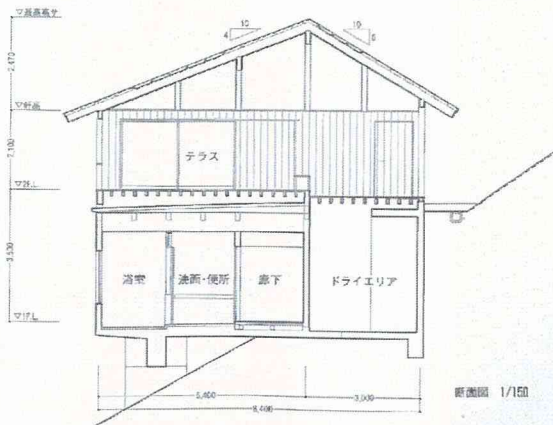
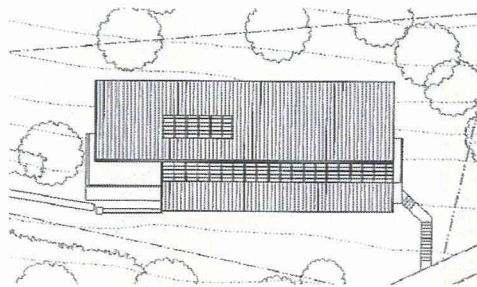
棟の位置関係
偏

平面形
□

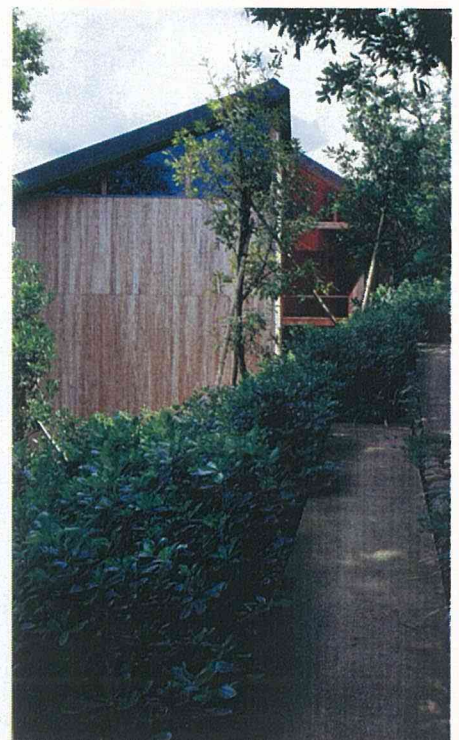
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



断面図 1/100



53

南春日丘の家
木原千利
jt9701

屋根の形式
方形

平面形
▽

軒の傾き
—

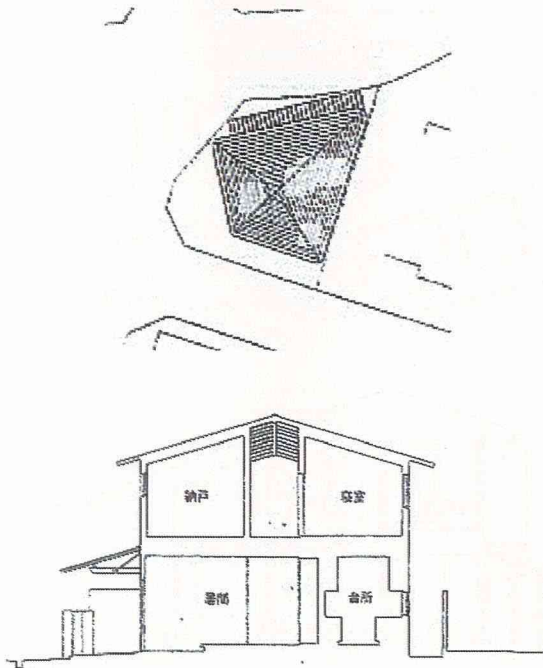
棟の傾きおよび頂点
・

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



54

那須の別荘
シーラカンス
jt9701

屋根の形式
片流

平面形
□

軒の傾き
/

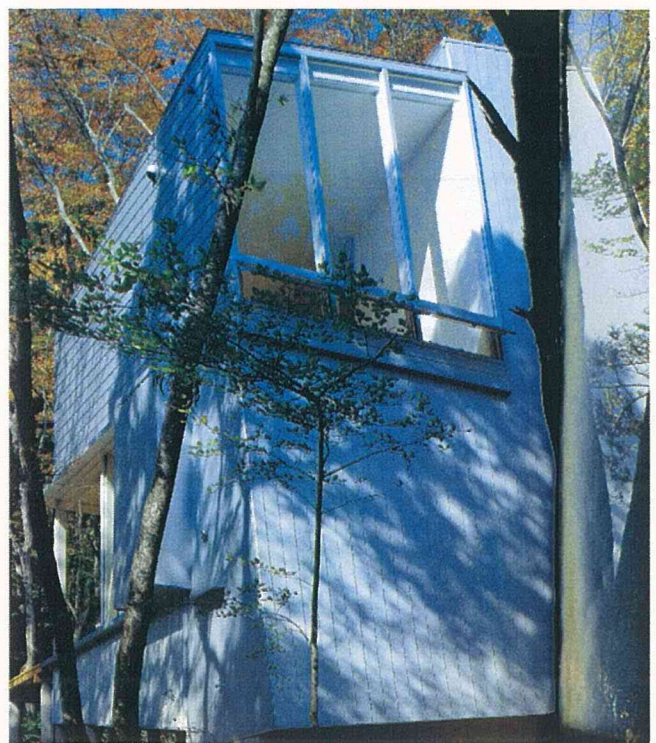
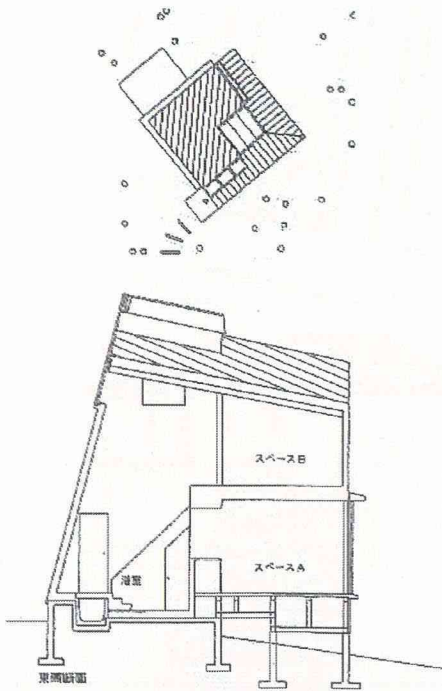
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



55

自由学園園長公邸
吉岡亮介
jt9702

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
／—

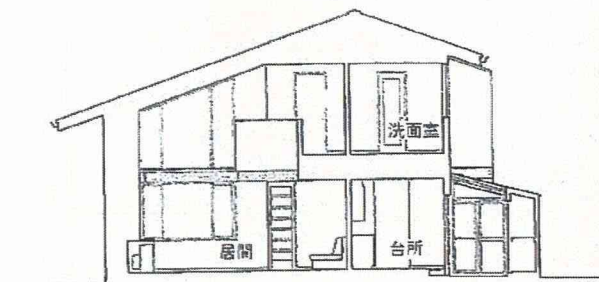
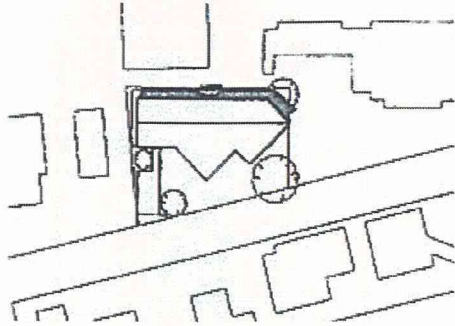
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

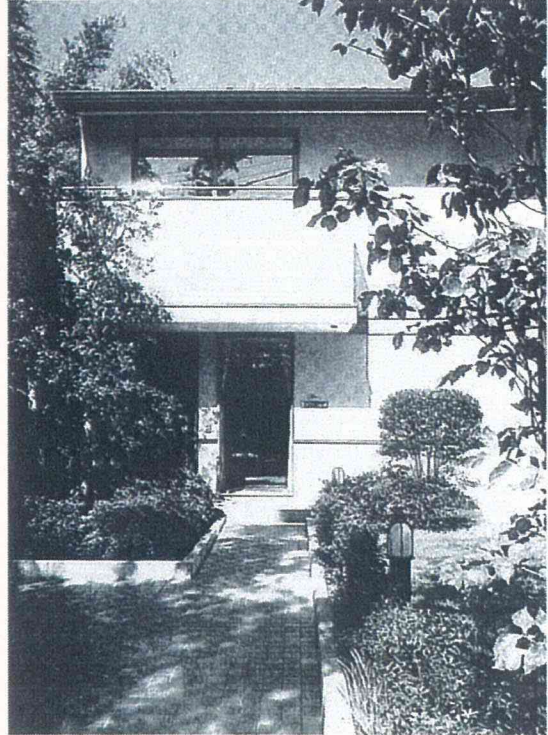
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
同



断面 縮尺 1/250



56

木月
泉幸甫
jt9707

屋根の形式
寄棟

平面形
▽

軒の傾き
———

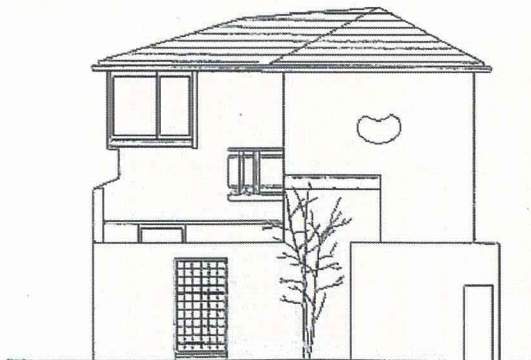
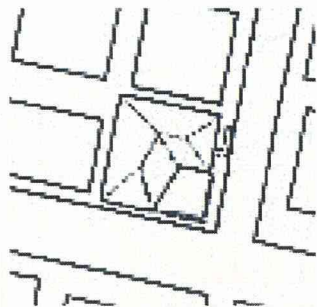
棟の傾きおよび頂点
／

軒の位置関係
≠

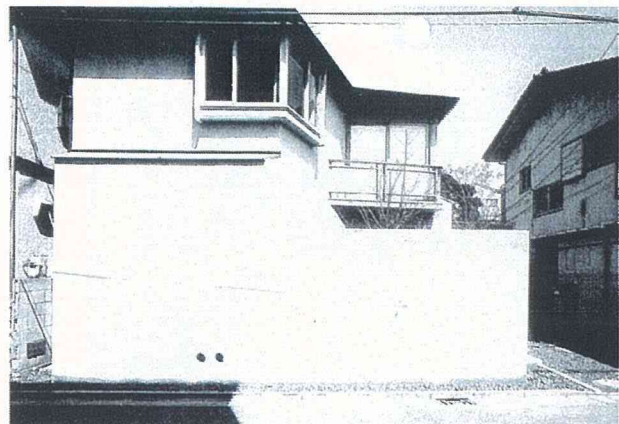
屋根の勾配
定

棟の位置関係
回

対面する屋根勾配
同



東立面 縮尺 1/150



57

曾谷の家
DESK5
jt9811

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

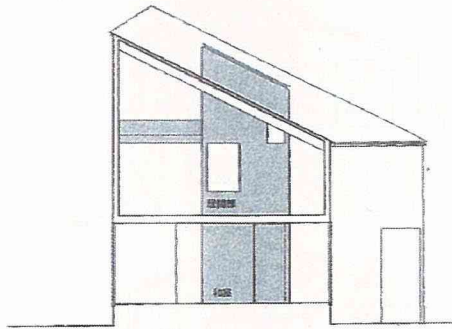
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

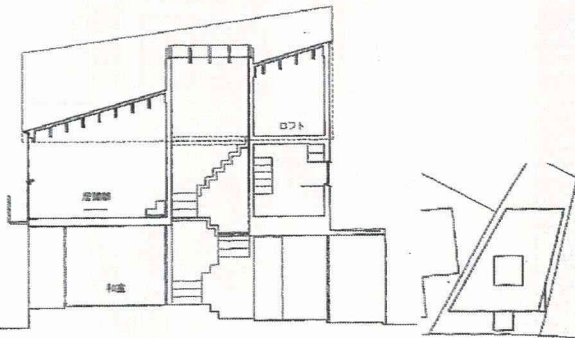
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

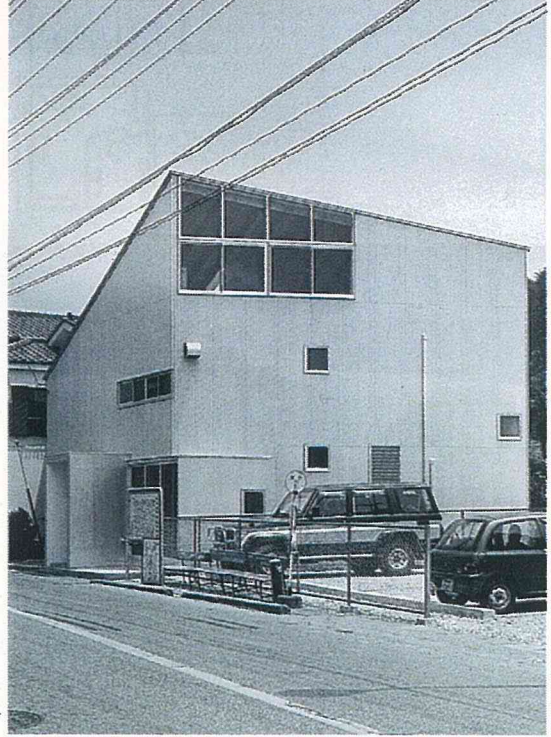
対面する屋根勾配



断面 グレーの部分は寝室を示す



縮尺1/150



58

田沢湖高原の山荘
荻津郁夫建築設計事務所
jt9901

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
/

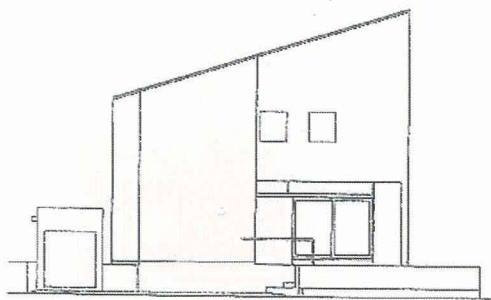
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

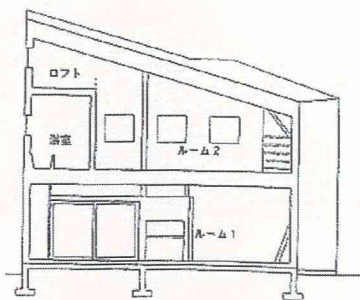
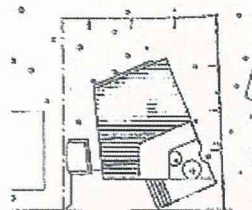
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

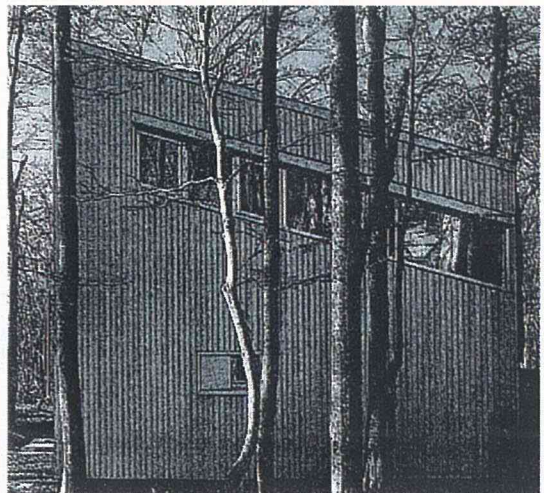
対面する屋根勾配



西立面 縮尺1/200



断面 縮尺1/200



59

善福寺の家
大川直治
jt9903

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

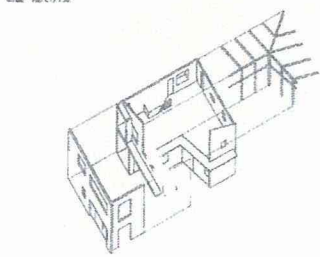
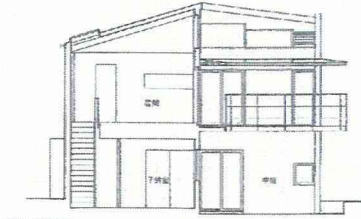
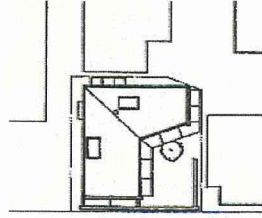
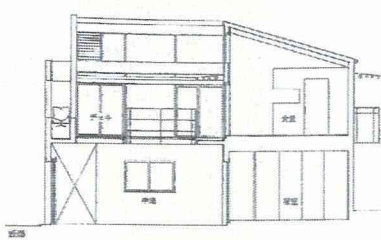
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



60

MHOUSE
工藤和美
jt9905

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

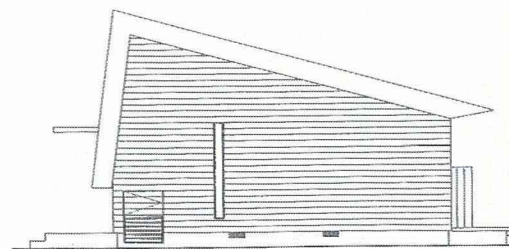
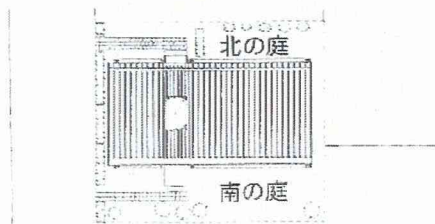
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

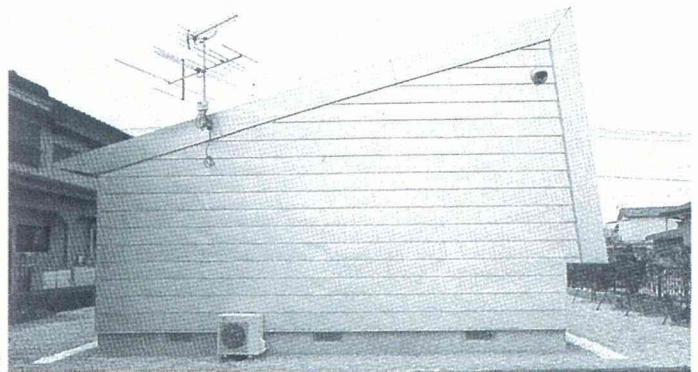
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



西立面



61

伊豆高原の家
堀部安嗣
jt9905

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
//

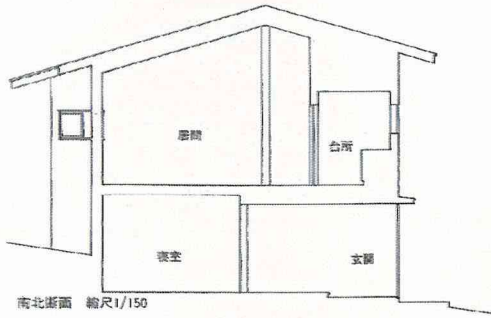
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

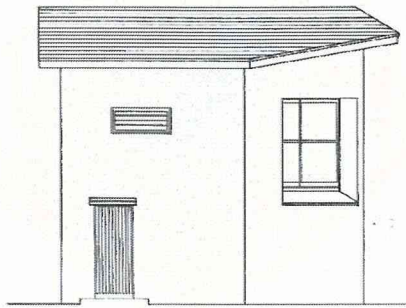
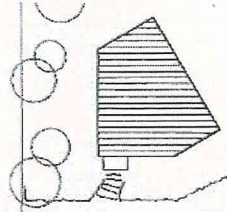
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
同



南北断面 縮尺1/150



南立面 縮尺1/150



62

達磨山荘
新田正樹建築空間外社
jt9907

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

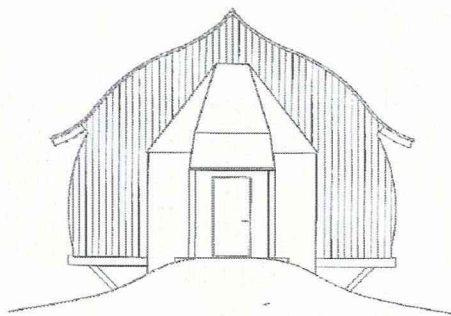
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

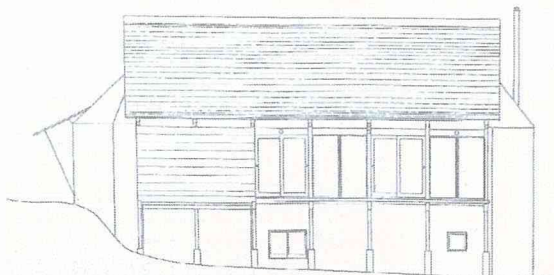
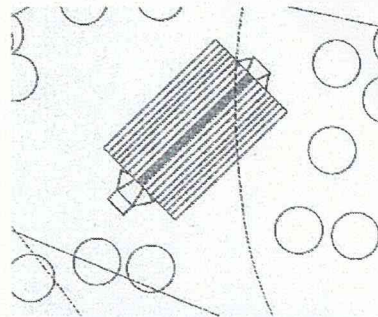
屋根の勾配
曲

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



西立面



63

HOUSE SA 1999
坂本一成
jt9908

屋根の形式
寄棟

平面形
▽

軒の傾き
// —

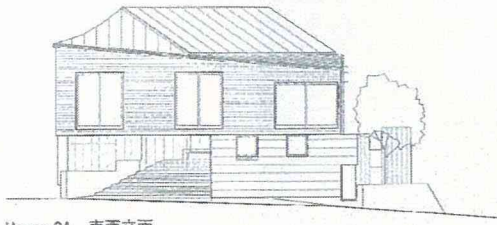
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
∞

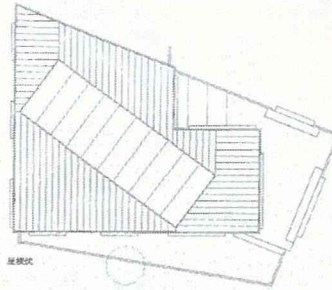
屋根の勾配
曲, 折

棟の位置関係
回

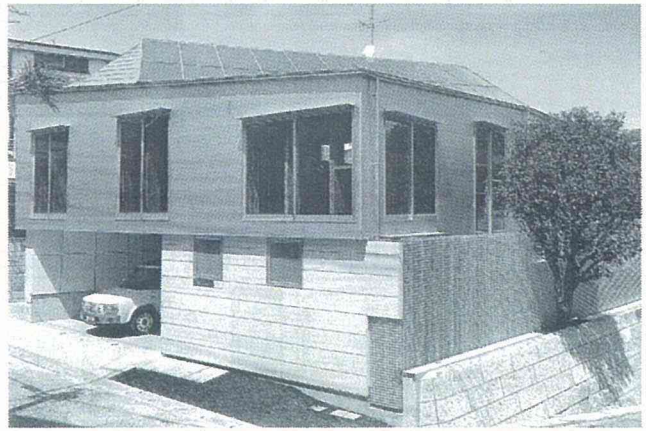
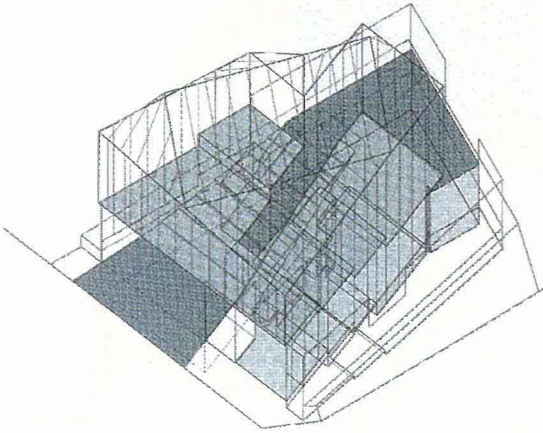
対面する屋根勾配
異



House SA 南西立面



屋根状



64

小砂・森の家
梶原良成
jt9909

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
/

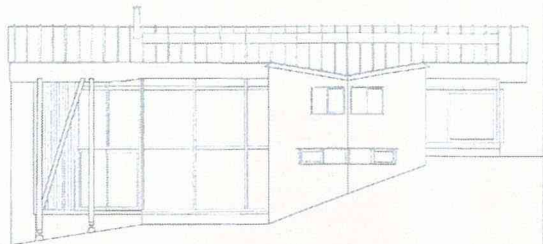
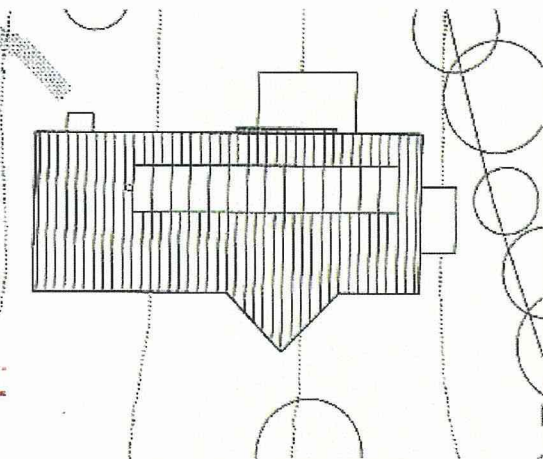
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



65

久喜本町の住宅
岡安雅人
jt9911

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

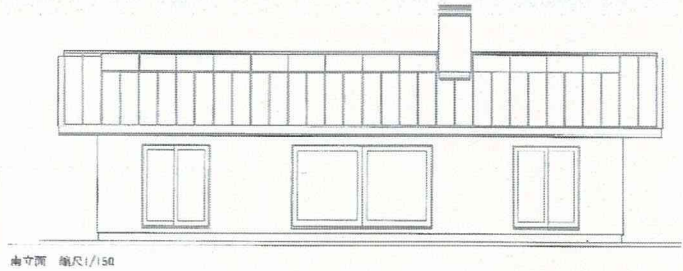
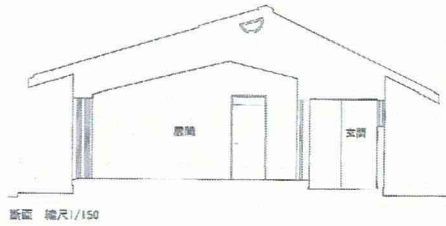
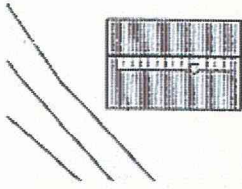
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



66

SSH99
澤野眞一 / 澤野建築研究所
jt0001

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

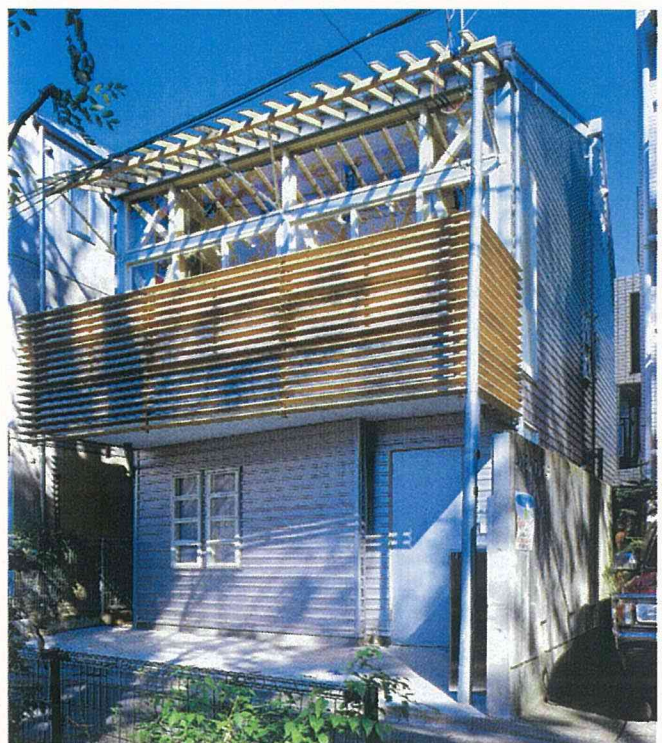
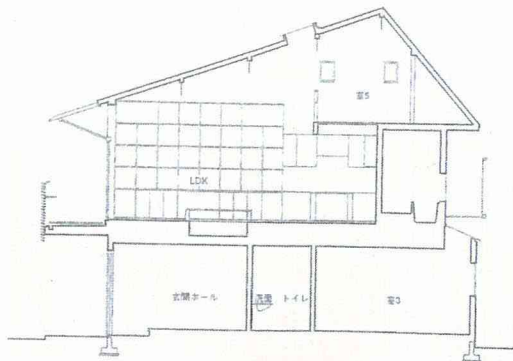
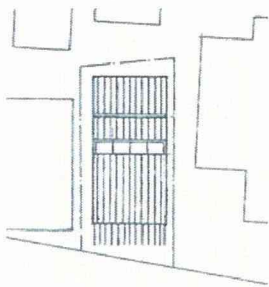
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



67

吉備の家
渡辺純
jt0001

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
//

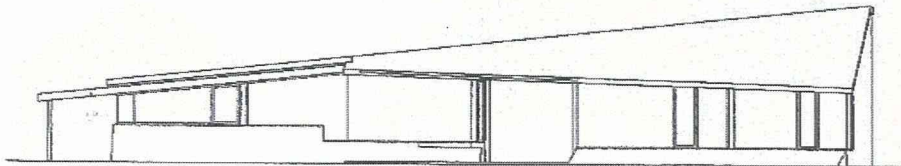
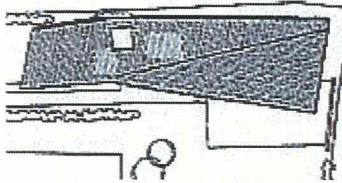
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

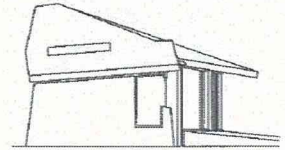
屋根の勾配
定

棟の位置関係
回

対面する屋根勾配
同



南立面 縮尺1/200



西立面 縮尺1/200

68

二子玉川の住宅
佐藤重徳
jt0007

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

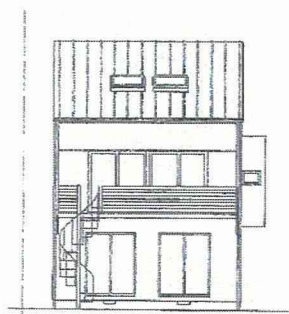
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

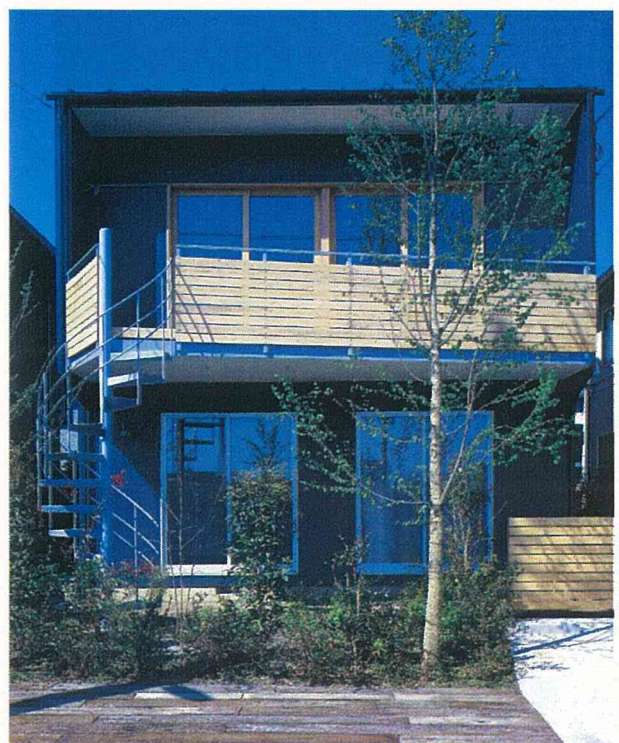
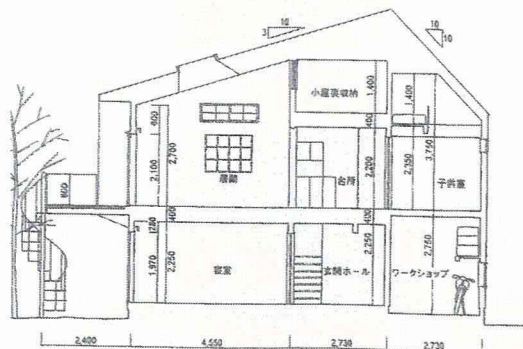
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



北1/200



69

ハウス・アサマ
アトリエ・ワン
sk0103

屋根の形式
方形

軒の傾き
———

軒の位置関係

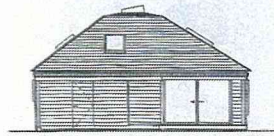
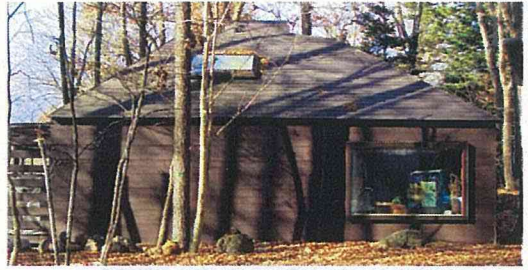
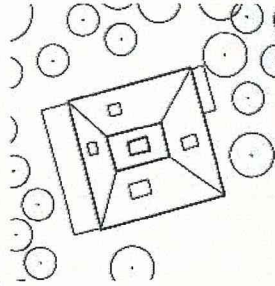
棟の位置関係
偏

平面形
□

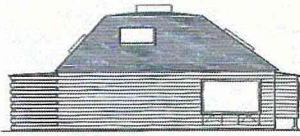
棟の傾きおよび頂点
・

屋根の勾配
定

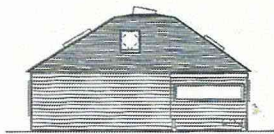
対面する屋根勾配
異



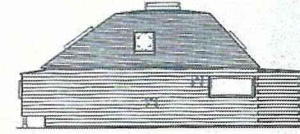
ハウス・アサマ西立面 縮尺1/300



南立面



東立面



北立面

70

ハウス・サイコ
アトリエ・ワン
sk0103

屋根の形式
寄棟

軒の傾き
// — —

軒の位置関係
≠

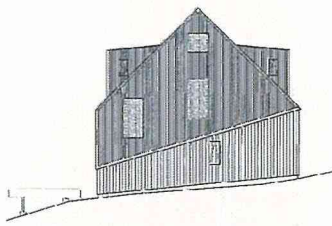
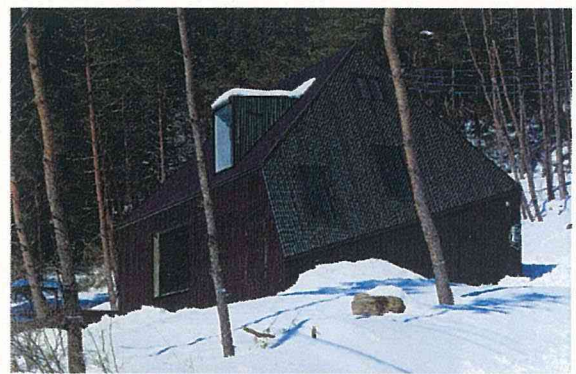
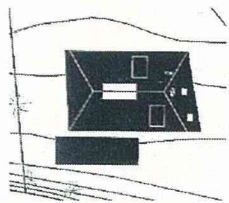
棟の位置関係
中

平面形
▽

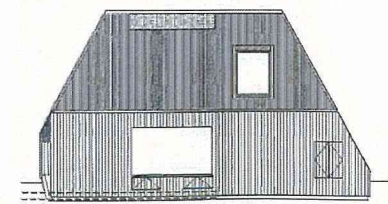
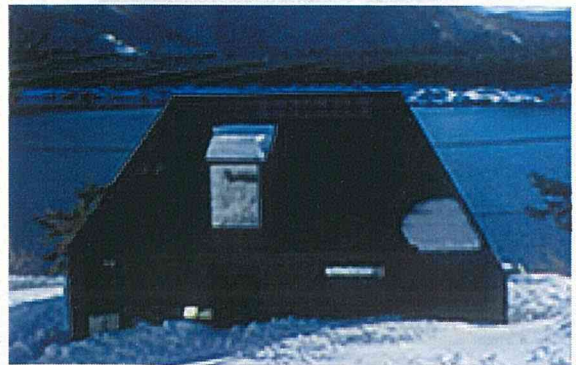
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
直, 同



東立面



南立面

71

まほうびんのいえ
中村勇大
jt0109

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
—

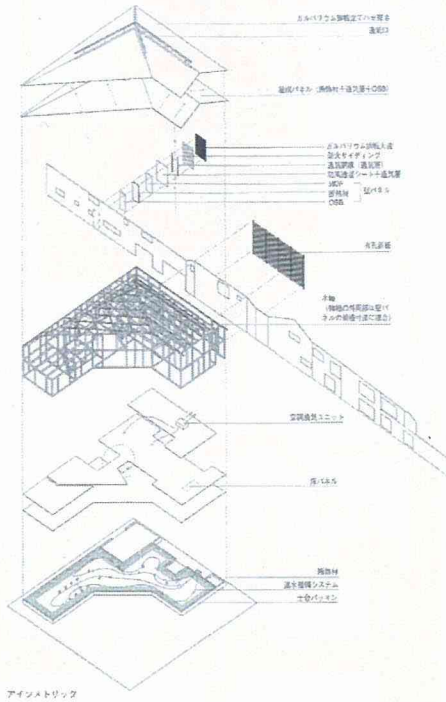
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



72

SAK
石田敏明
sk0111

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

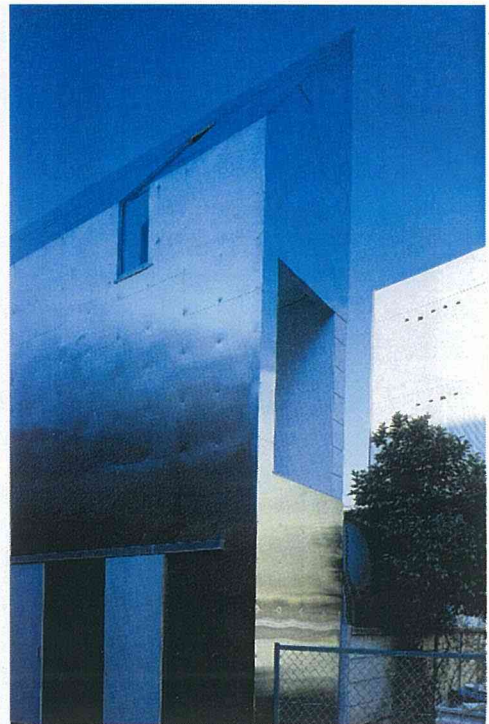
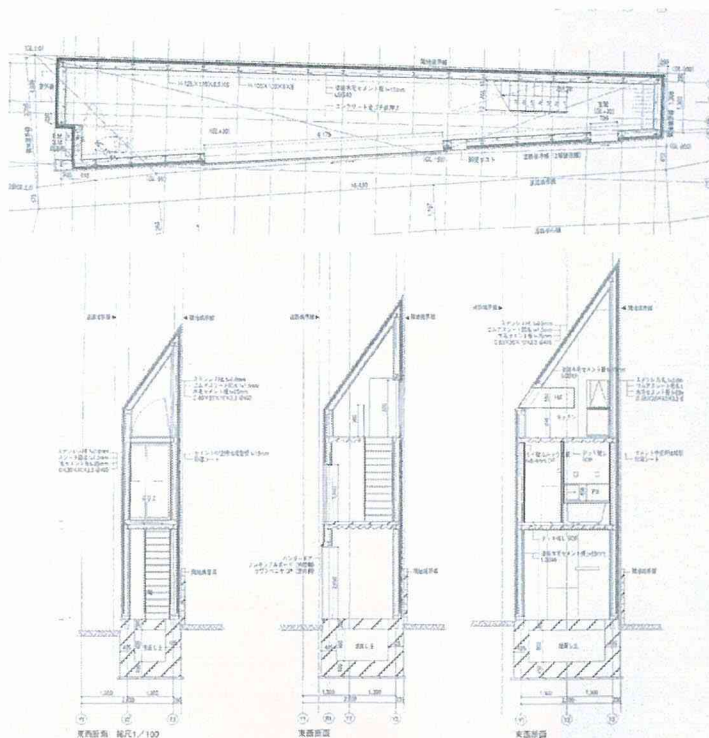
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配
同



73

南阿蘇の家
小笠原絵理/間工作舎
jt0203

屋根の形式
方形

平面形
□

軒の傾き

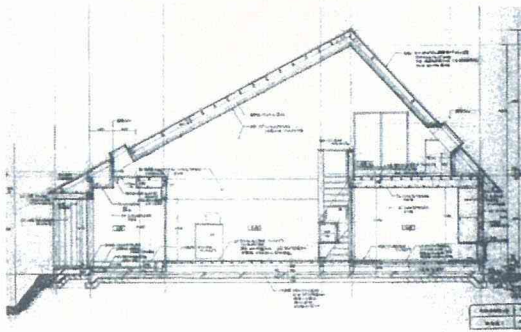
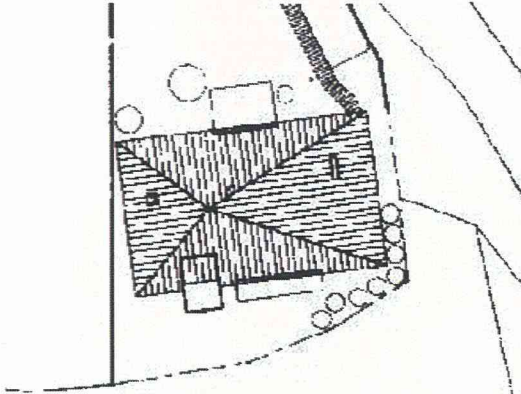
棟の傾きおよび頂点
・

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



74

ダス・ハウス
アトリエ・ワン
jt0206

屋根の形式
寄棟

平面形
□

軒の傾き

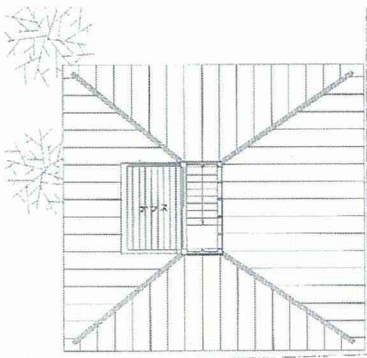
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

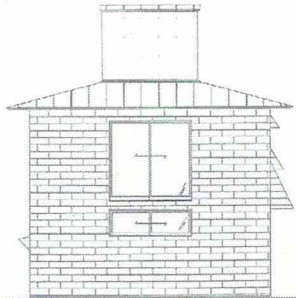
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



平面図



東立面 縮尺 1/150



75

川口の家
西島正樹
jt0206

屋根の形式
片流

軒の傾き
—

軒の位置関係
≠

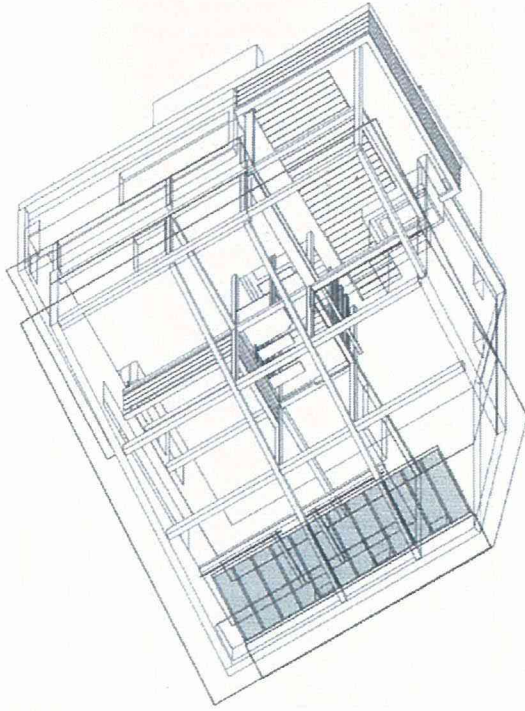
棟の位置関係
端

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
/

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配



76

眼科医の週末住居
堀池秀人
jt0206

屋根の形式
切妻

軒の傾き
//

軒の位置関係
≠

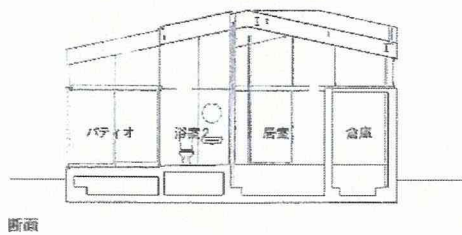
棟の位置関係
回

平面形
□

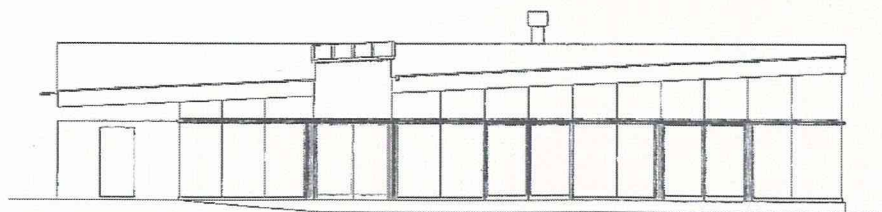
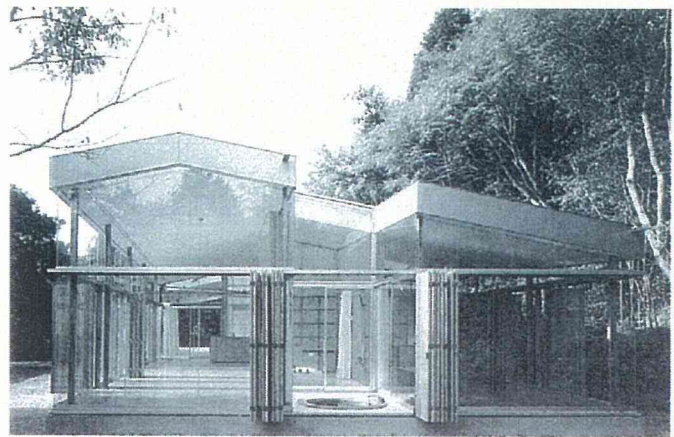
棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

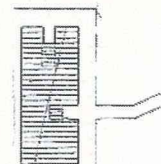
対面する屋根勾配
同



断面



南立面 縮尺 1/200



77

隣のトンガリ
石黒由紀
sk0209

屋根の形式
方形

軒の傾き
// —

軒の位置関係

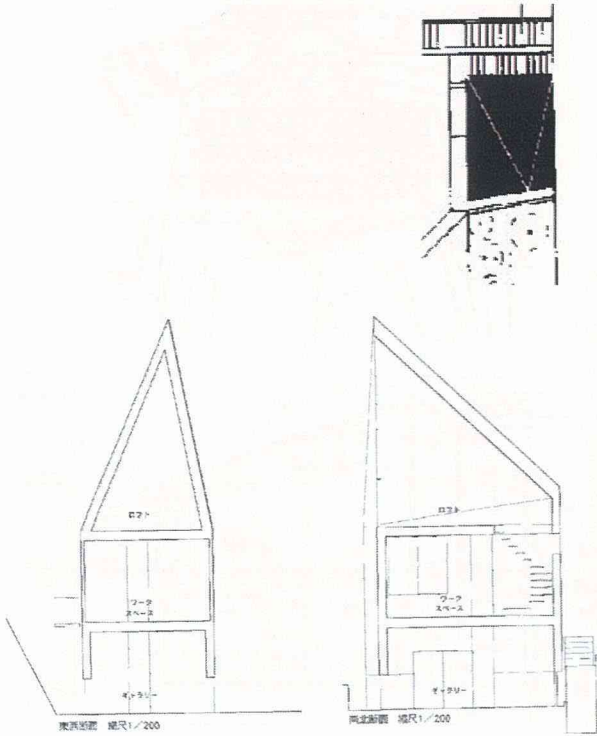
棟の位置関係
端

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
•

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



78

連窓の家 # 3
坂牛卓
片流

屋根の形式
片流

軒の傾き
/

軒の位置関係
≠

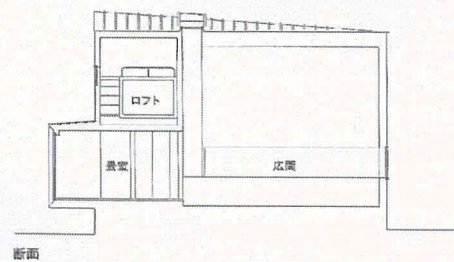
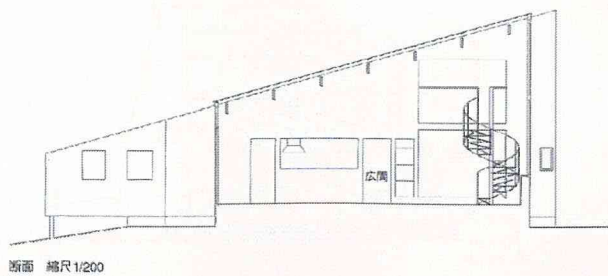
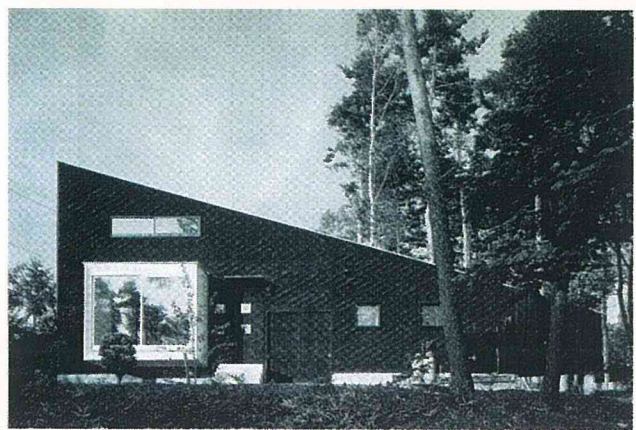
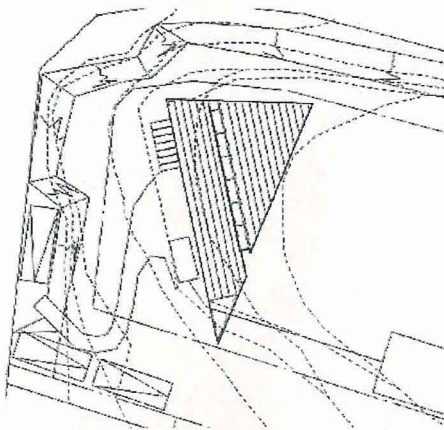
棟の位置関係
端

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
/

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配



79

黒い家
菅匡史建築研究所
jt0301

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

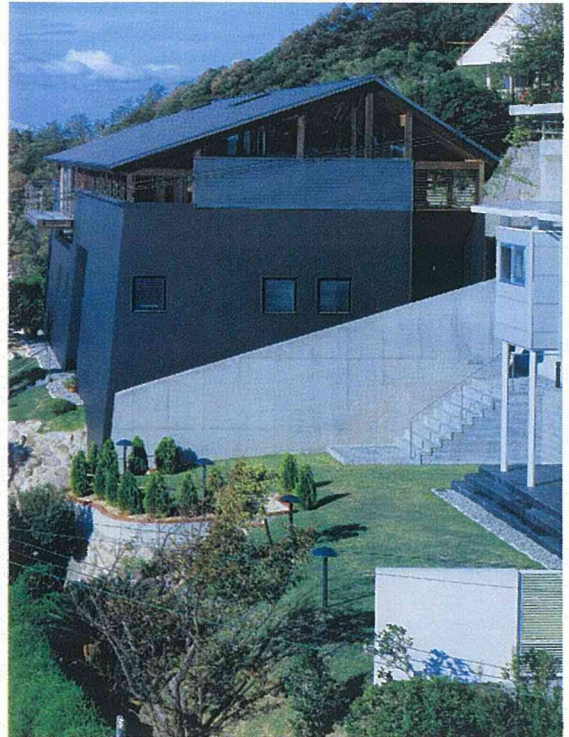
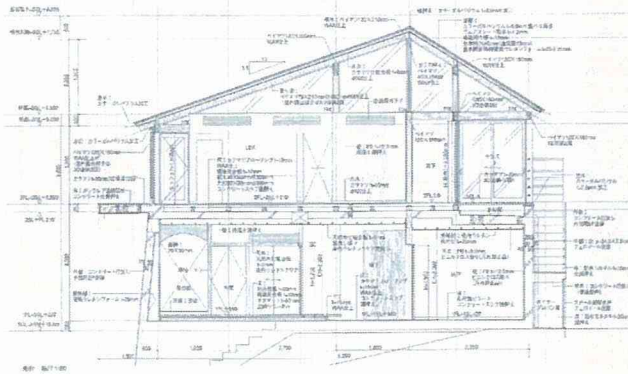
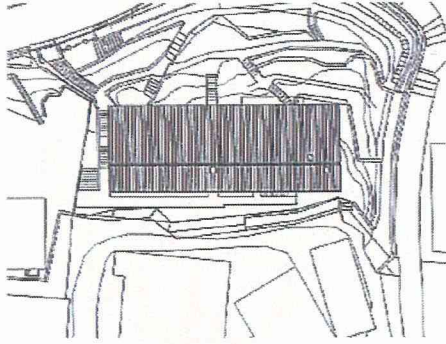
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



80

pecosa
安部良
jt0308

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

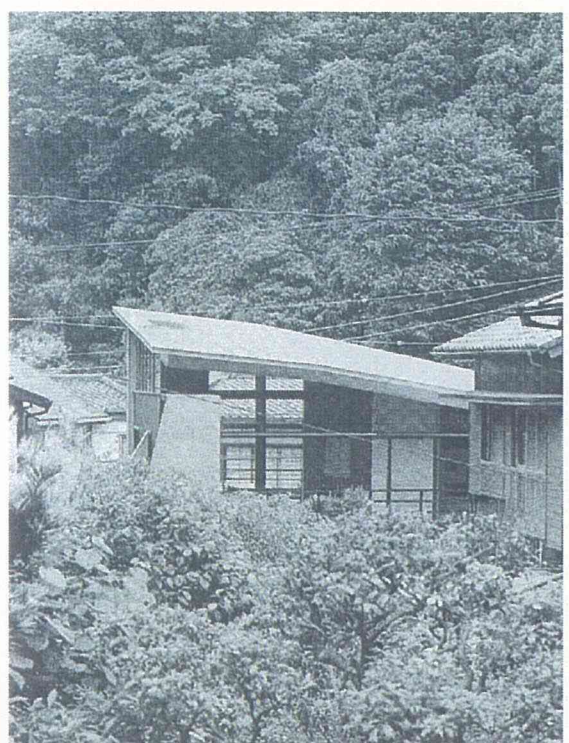
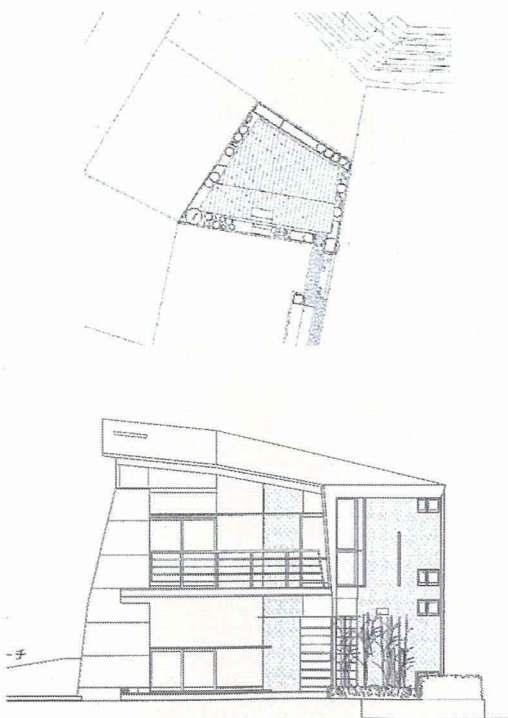
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
折

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



81

しじま山荘
藤本壮介
sk0308

屋根の形式
片流

軒の傾き
／

軒の位置関係
≠

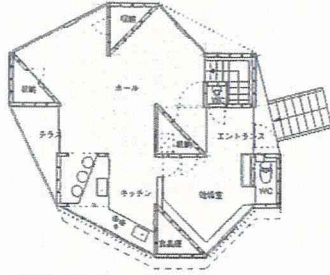
棟の位置関係
端

平面形
▽

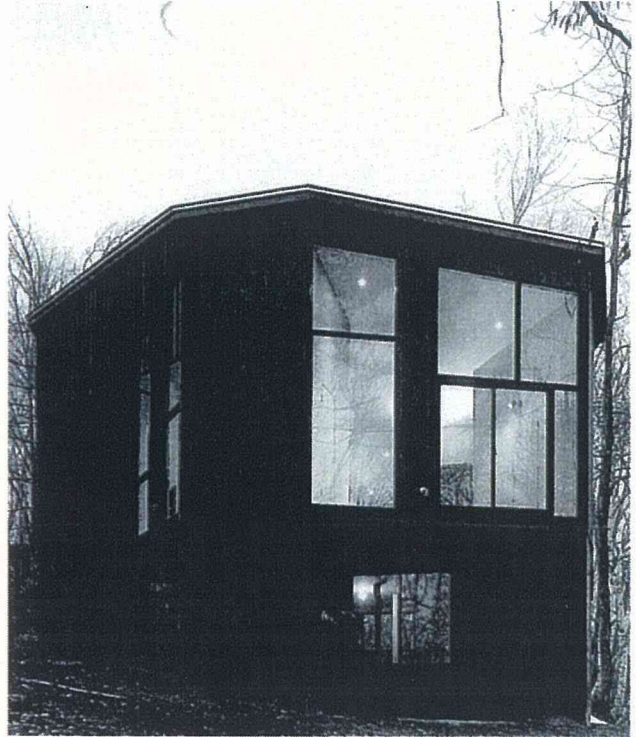
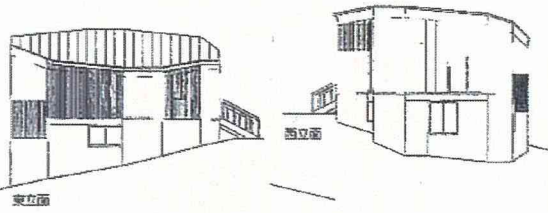
棟の傾きおよび頂点
／

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配



1階平面 縮尺1/200



82

あがり屋敷の家
若原一貴／若原アトリエ
jt0311

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

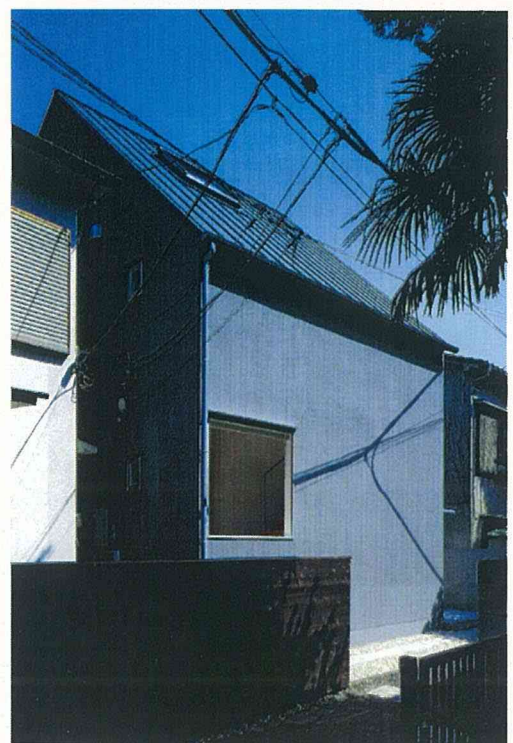
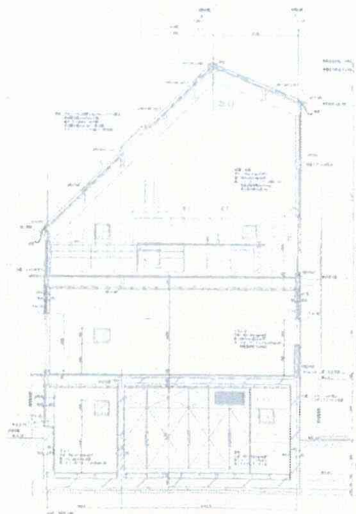
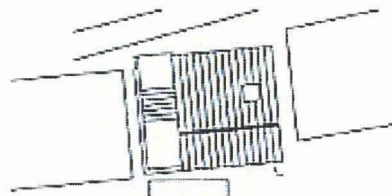
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



83

金指さんの家
アンドウ・アトリエ
jt0311

屋根の形式
片流

軒の傾き
/

軒の位置関係
≠

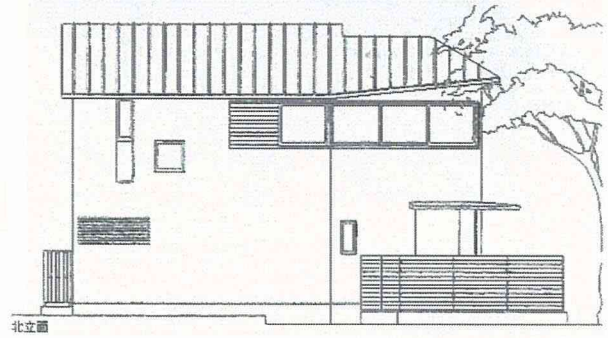
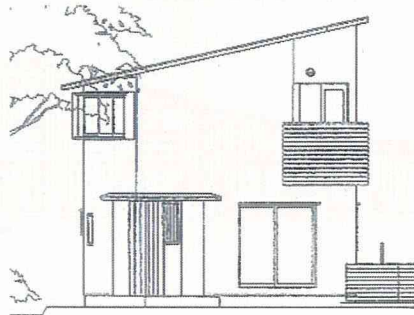
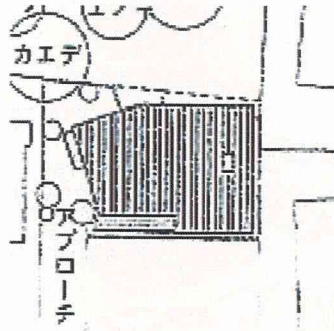
棟の位置関係
端

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配



84

久留和海岸の住宅
木内厚子 / Studio8
jt0407

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

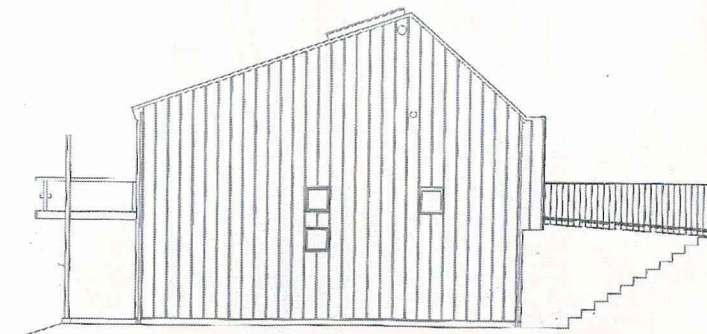
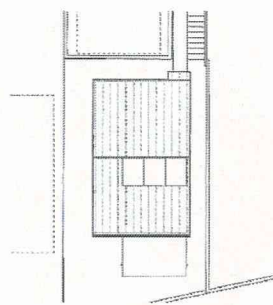
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



85

昇龍木舎
結設計
jt0407

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

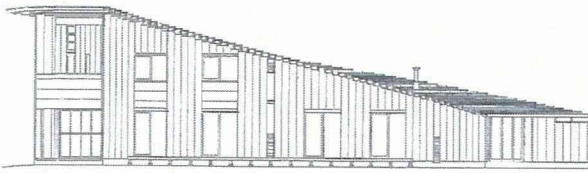
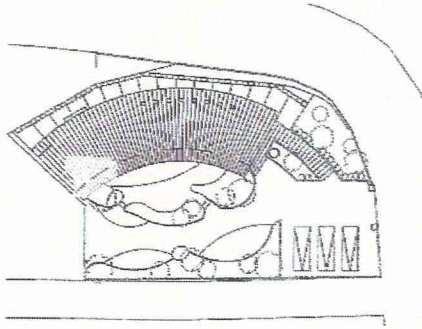
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
∞

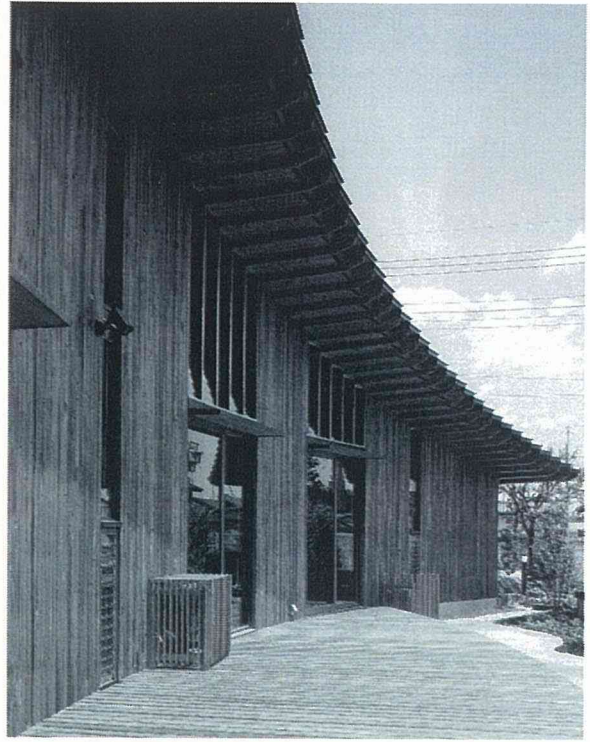
屋根の勾配
曲

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



立面図 縮尺1/600



86

ORU(木)
六角美瑠
jt0407

屋根の形式
片流

平面形
□

軒の傾き
/

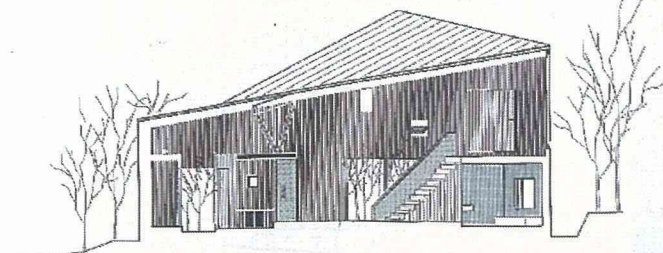
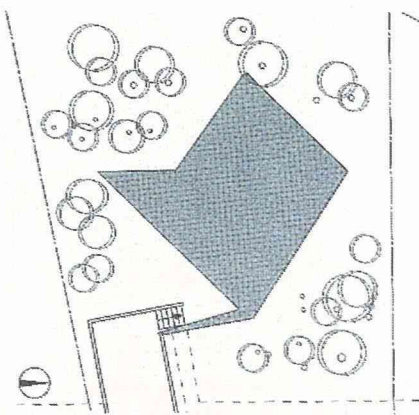
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

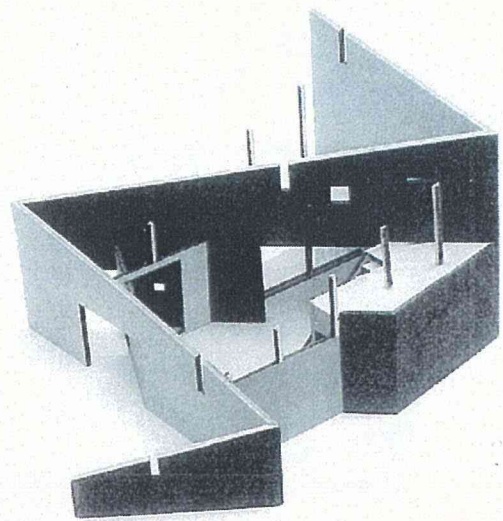
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



断面 縮尺1/150



87

G
青木淳
sk0409

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
／—

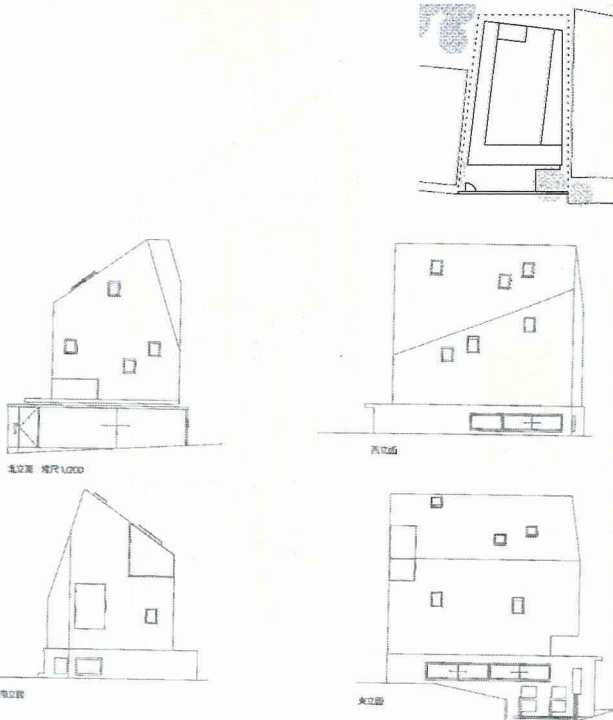
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



88

森を捕まえる家
手塚貴晴 + 手塚由比
jt0410

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

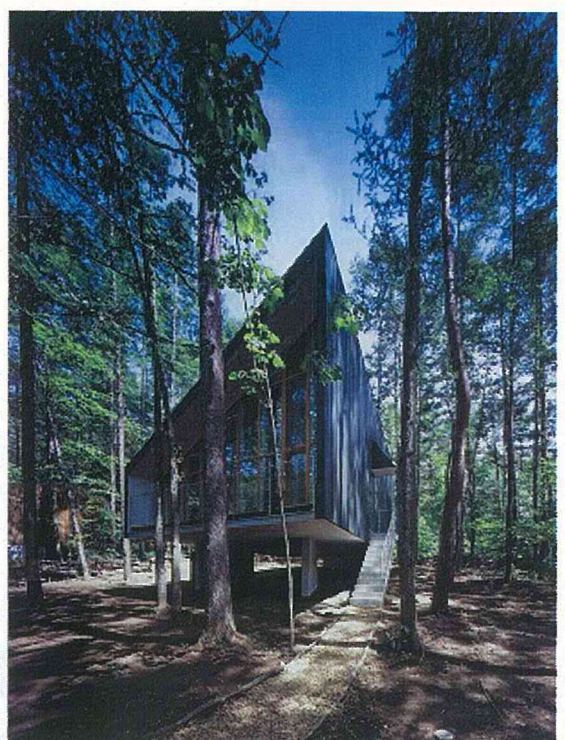
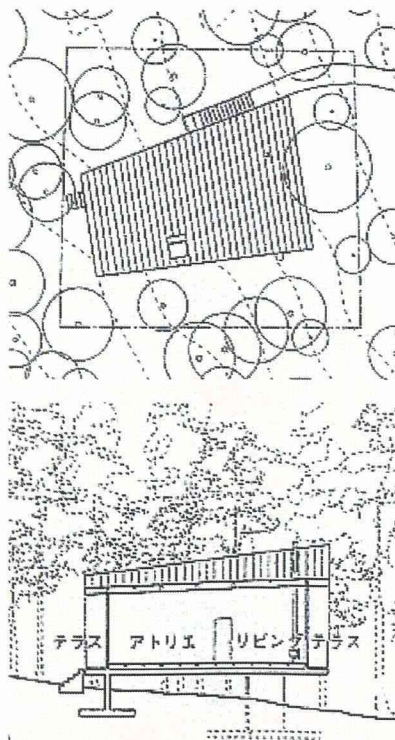
棟の傾きおよび頂点
／

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



89

柿の木坂の住宅
内海智行+安藤毅
jt0502

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

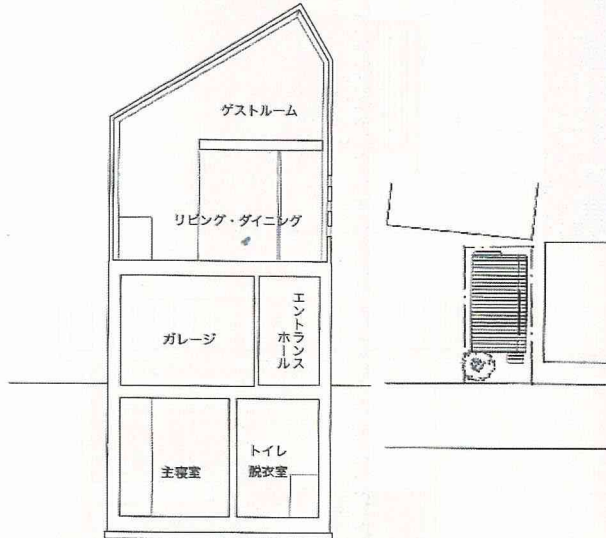
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

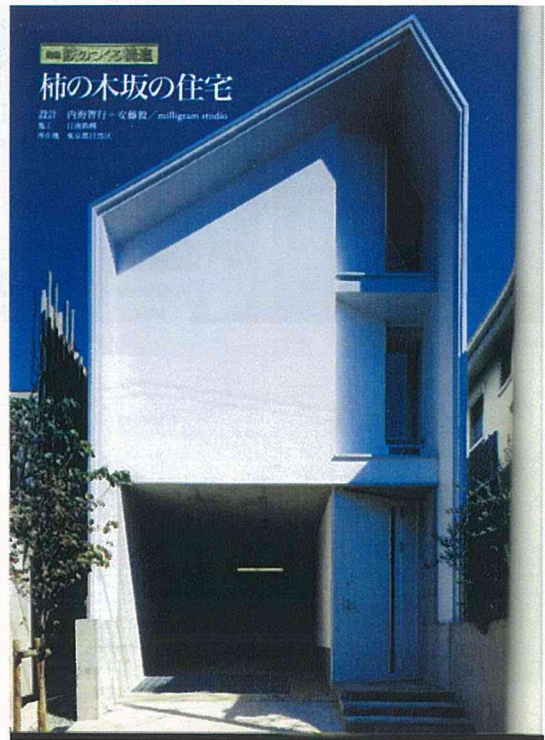
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
直, 異



断面 縮尺 1/150



90

Ohl
RH+ 計画研究室
jt0503

屋根の形式
片流

平面形
□

軒の傾き
/

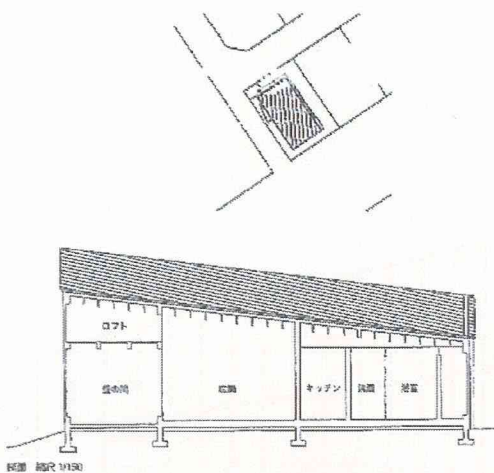
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
=

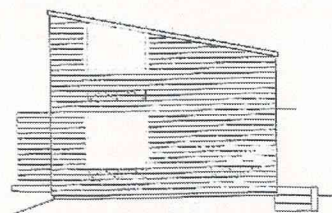
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

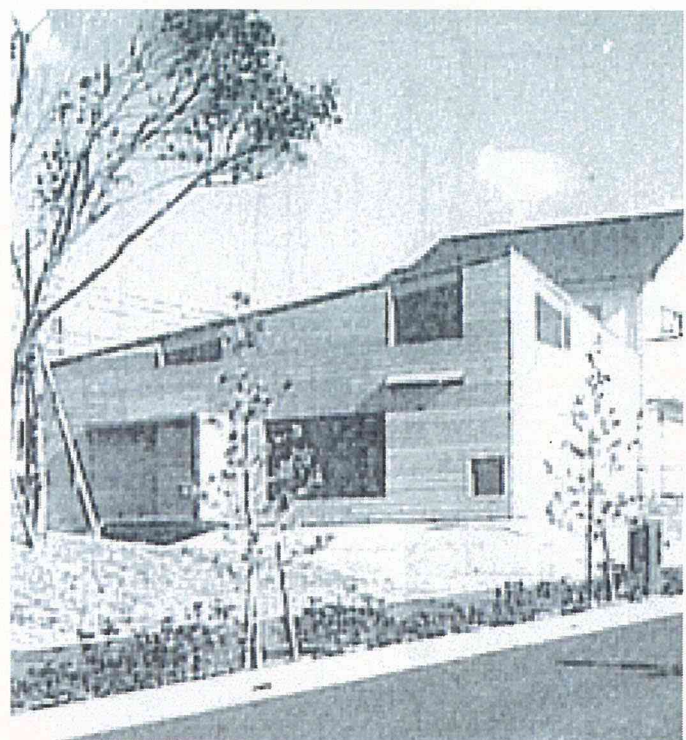
対面する屋根勾配



断面 縮尺 1/150



南立面 縮尺 1/150



91

静岡の家
岩川卓也
jt0502

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
／—

棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

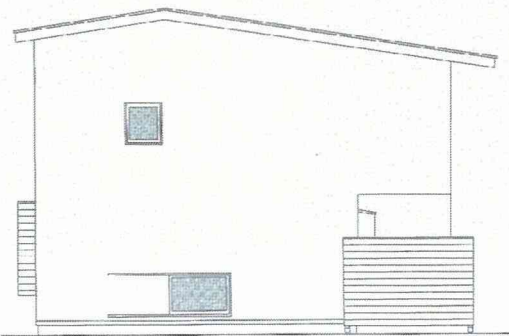
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
同



南立面 縮尺 1/150



西立面

92

Lucky Drops
山下保博
sk0504

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
—

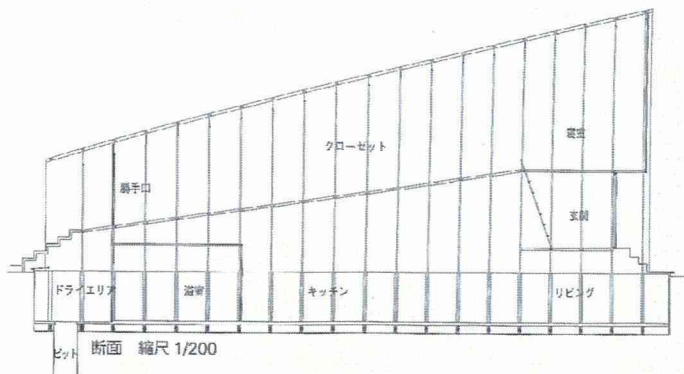
棟の傾きおよび頂点
／

軒の位置関係
≠

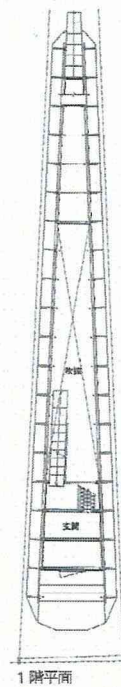
屋根の勾配
曲

棟の位置関係
中

対面する屋根勾配
同



断面 縮尺 1/200



1階平面



93

港北M
都留理子
jt0506

屋根の形式
方形

軒の傾き
// / - -

軒の位置関係

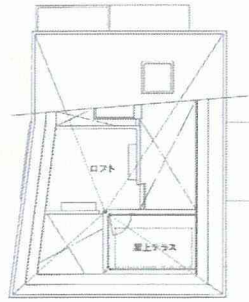
棟の位置関係
偏

平面形
▽

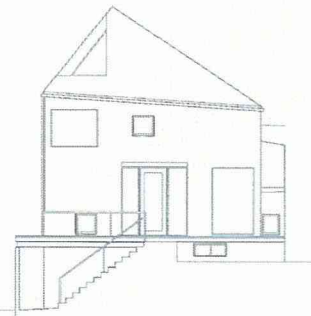
棟の傾きおよび頂点
・

屋根の勾配
定

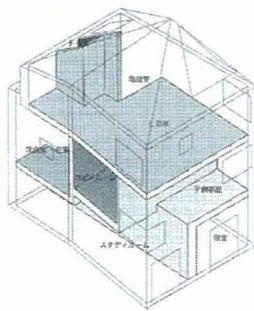
対面する屋根勾配
異



ロフト平面



北東立面 縮尺 1/100



アイソメトリック



94

HOUSE MTK
工藤和美 + 堀場弘
jt0508

屋根の形式
方形

軒の傾き
// / / -

軒の位置関係

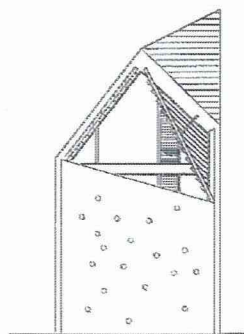
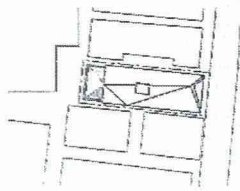
棟の位置関係
端

平面形
□

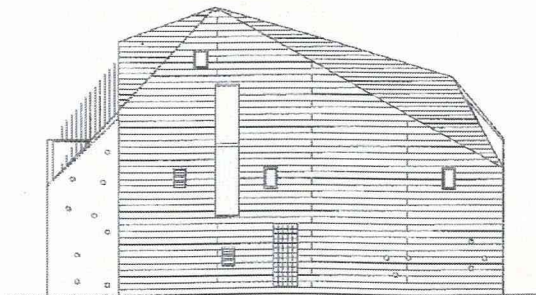
棟の傾きおよび頂点
・

屋根の勾配
折

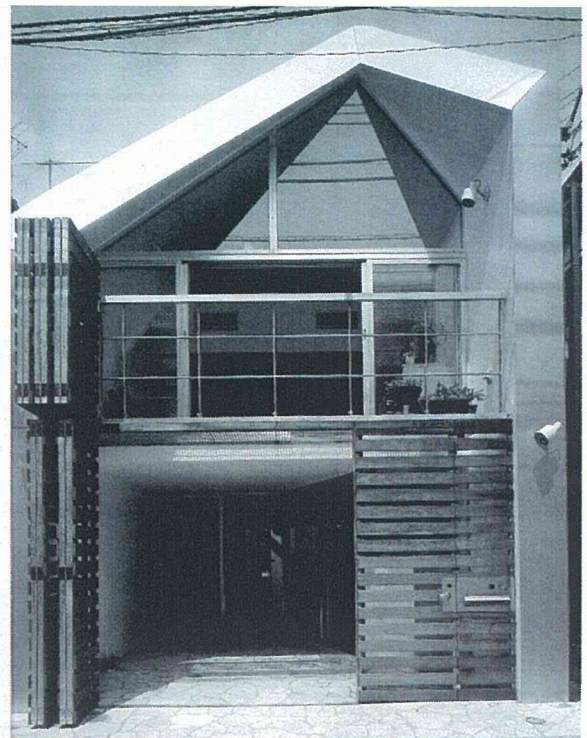
対面する屋根勾配
異



西立面



南立面 縮尺 1/200



95

KVilla
 明治大学田路研究室
 + 森吉直剛アトリエ
 jt0509

屋根の形式
 方形

平面形
 □

軒の傾き
 ———

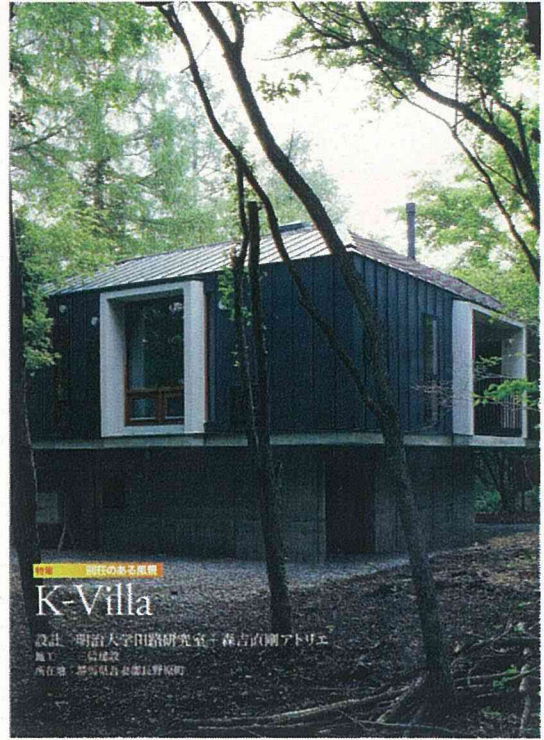
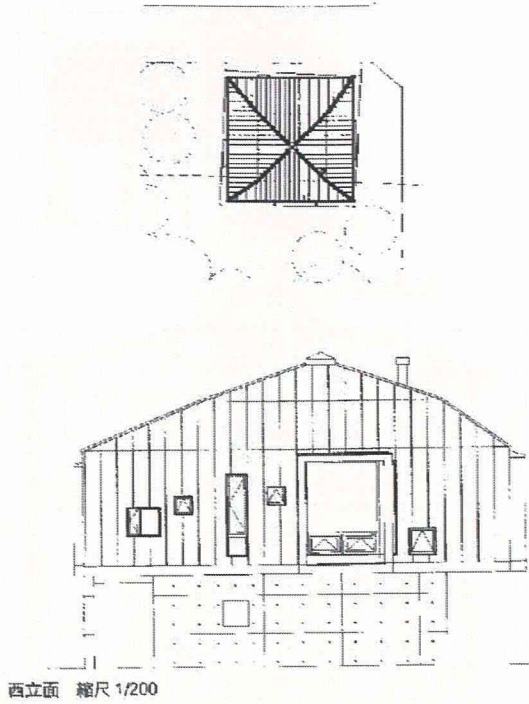
棟の傾きおよび頂点
 .

軒の位置関係

屋根の勾配
 折

棟の位置関係
 偏

対面する屋根勾配
 異



96

東京町家 9坪の家
 伊礼智
 jt0510

屋根の形式
 切妻

平面形
 □

軒の傾き
 ———

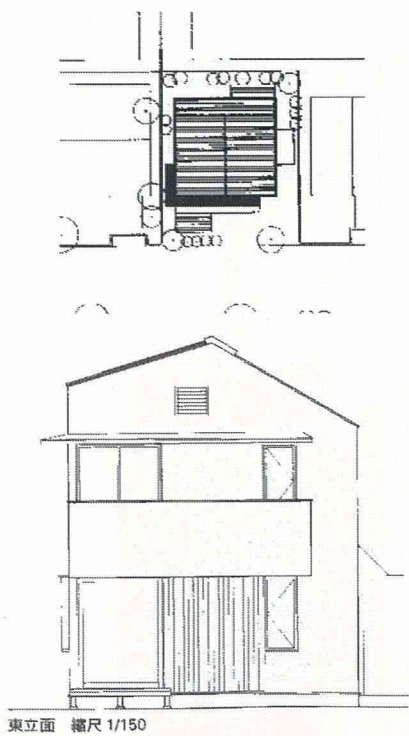
棟の傾きおよび頂点
 —

軒の位置関係
 =

屋根の勾配
 定

棟の位置関係
 中

対面する屋根勾配
 異



97

ハワード邸
太田理加
jt0511

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

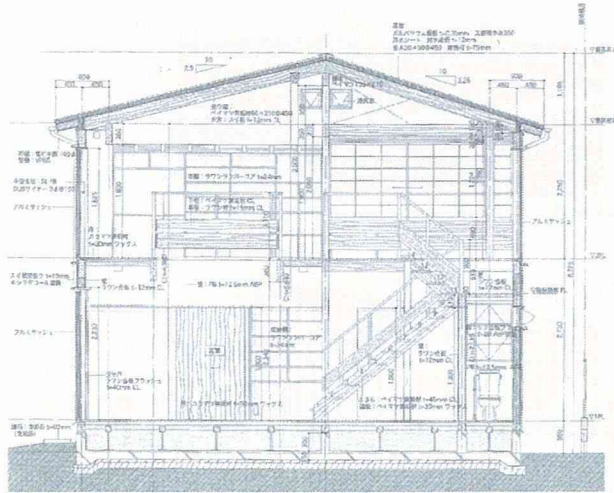
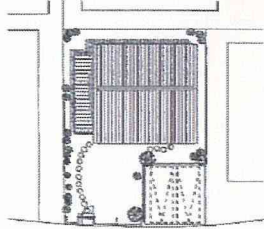
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



98

亀有の家
小川広次
jt0512

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

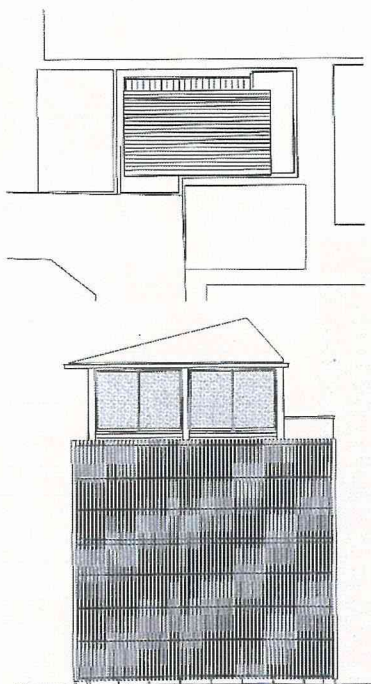
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



東立面 縮尺 1/150



99

森の家
三浦慎
jt0512

屋根の形式
片流

平面形
□

軒の傾き
∩

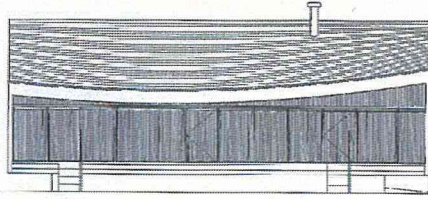
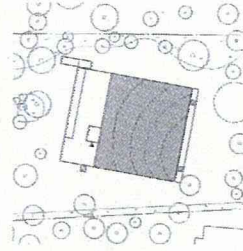
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
∞

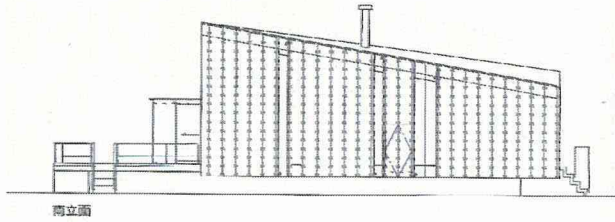
屋根の勾配
曲

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



東立面 縮尺 1/200



南立面



100

中伊豆の別荘
堀場弘+工藤和美
jt0601

屋根の形式
寄棟

平面形
□

軒の傾き
—

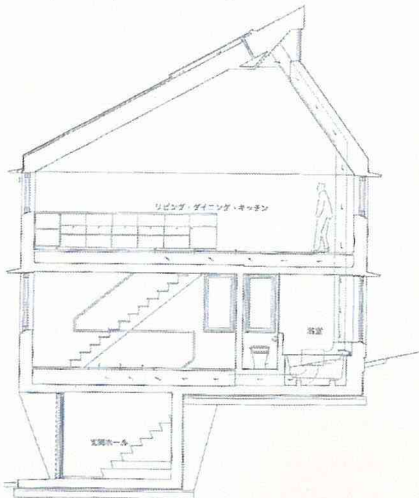
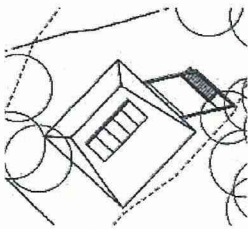
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

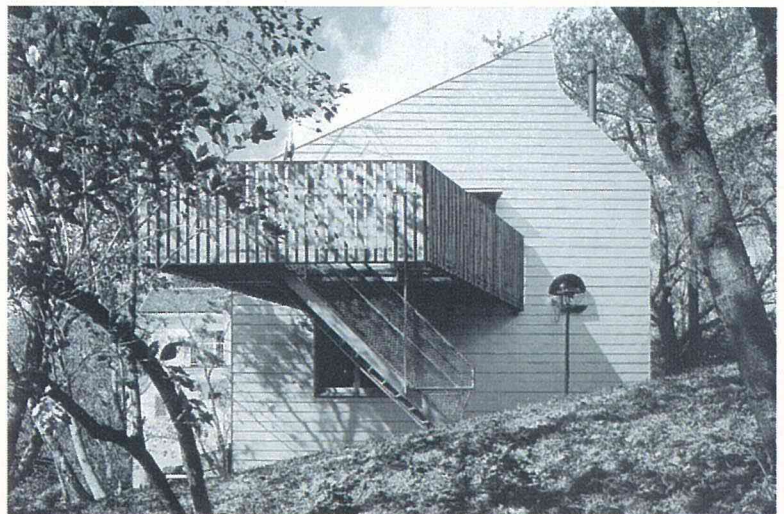
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



紙巻 縮尺 1/100



101

三角敷地の家
諸角敬
jt0605

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
/

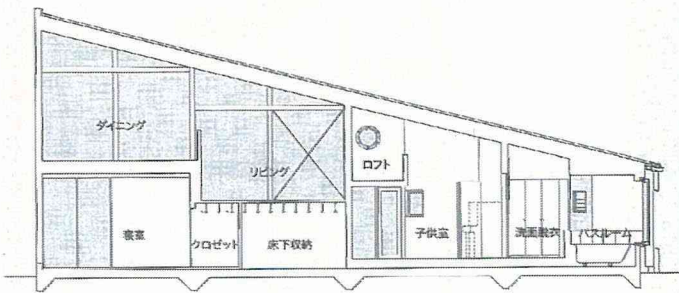
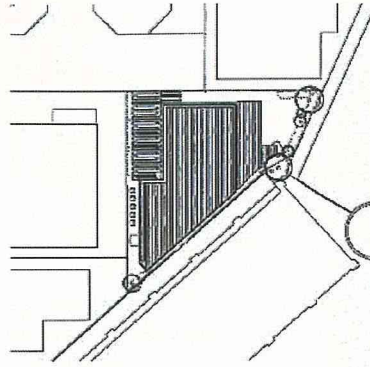
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

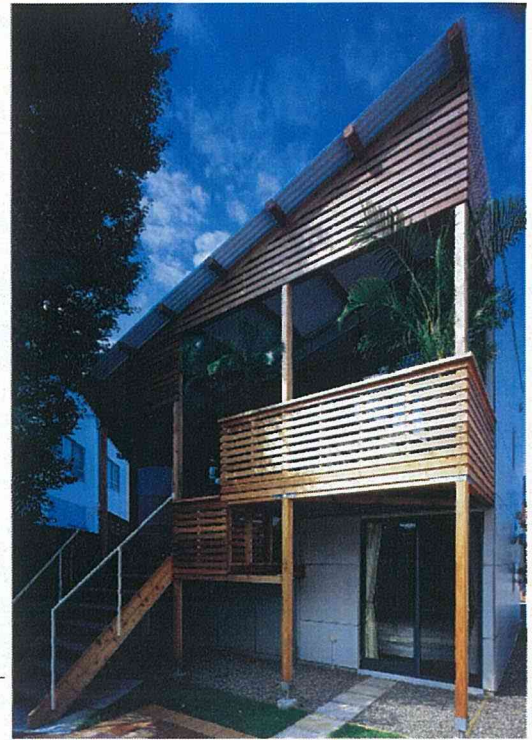
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配
≠



断面 縮尺 1/150



102

松庵の家
佐藤光彦
jt0606

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

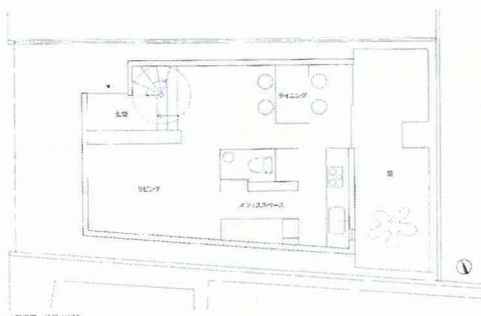
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

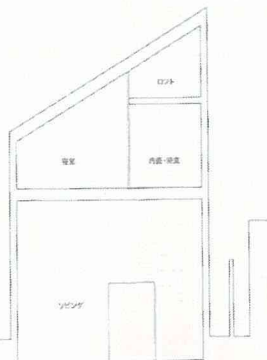
屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配
≠



1/F 縮尺 1/150



103

Slanting CAVE
山代悟
jt0611

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

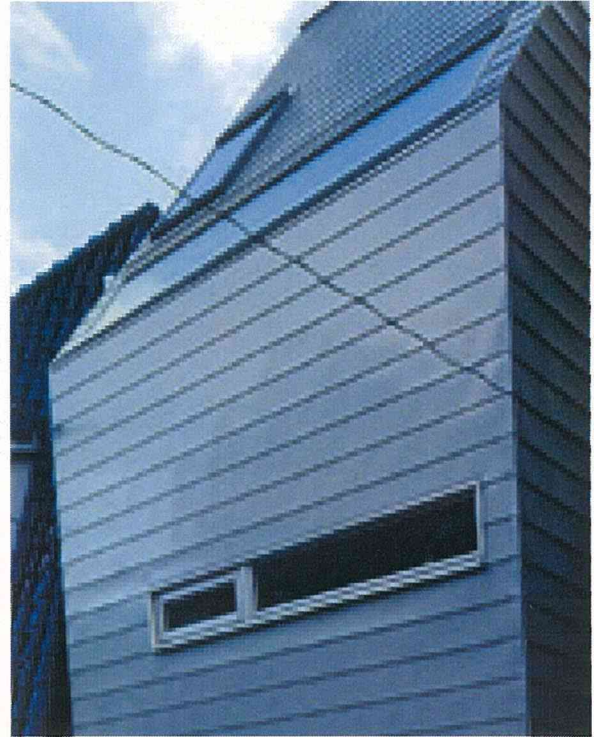
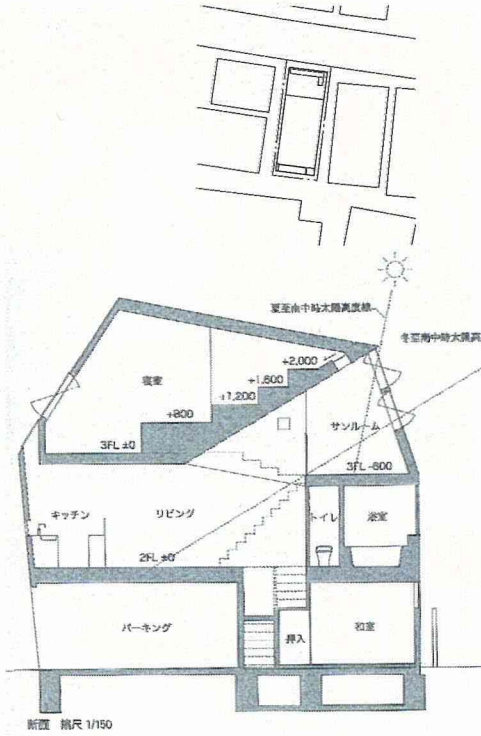
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
折

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



104

崖の岩
宇野享 / Can
jt0702

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

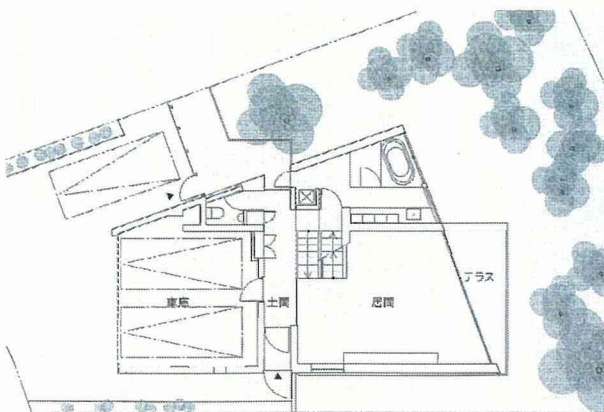
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
∞

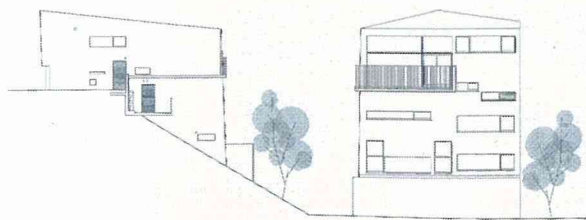
屋根の勾配
曲

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配

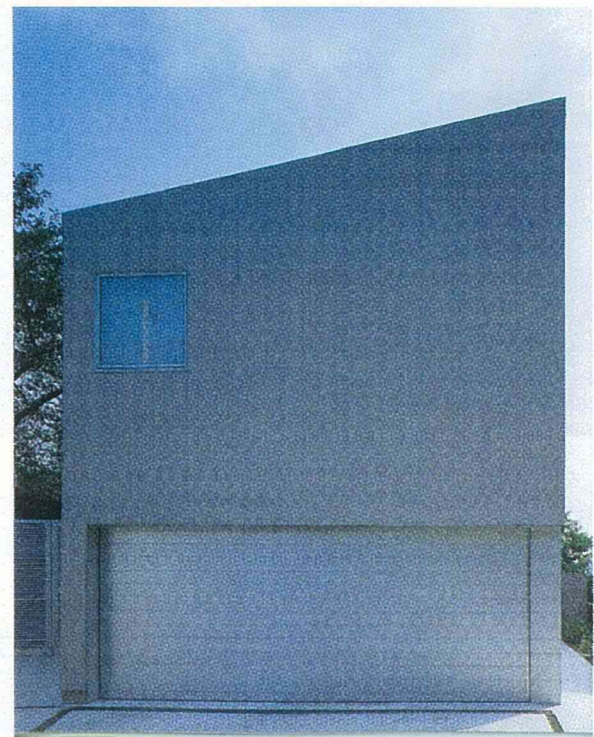


2階平面 縮尺 1/250



側立面 縮尺 1/400

端立面



105

多重の景色
松野勉・相澤久美
jt0702

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
//

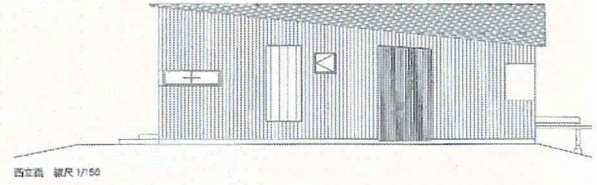
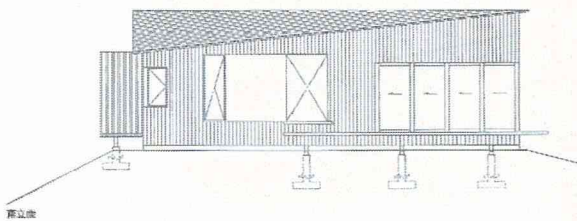
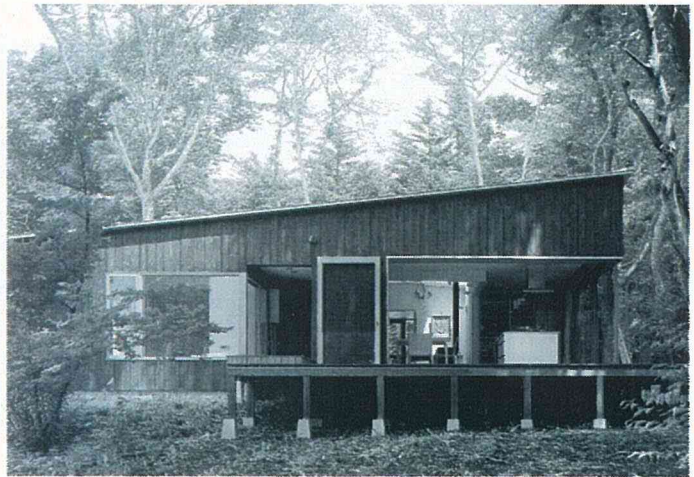
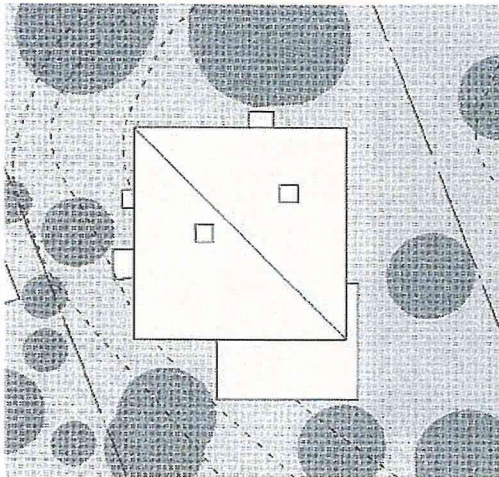
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
回

対面する屋根勾配
同



106

田口の家
向山徹
jt0705

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

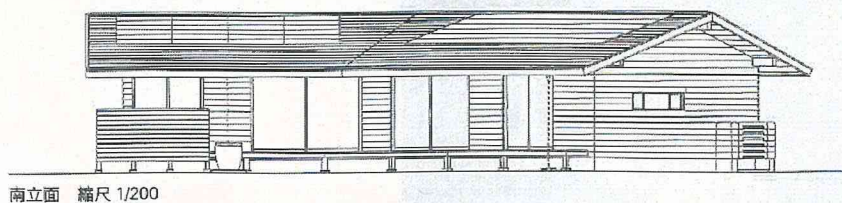
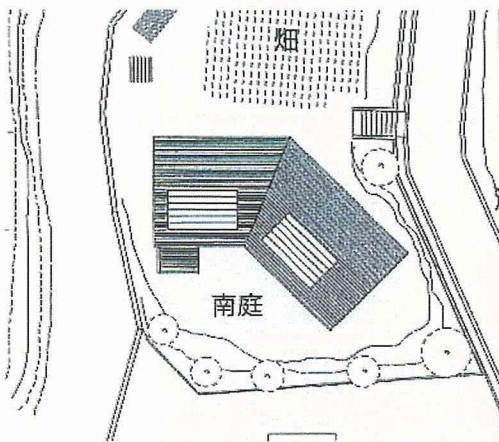
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



107

BOZ
彦根明
jt0705

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

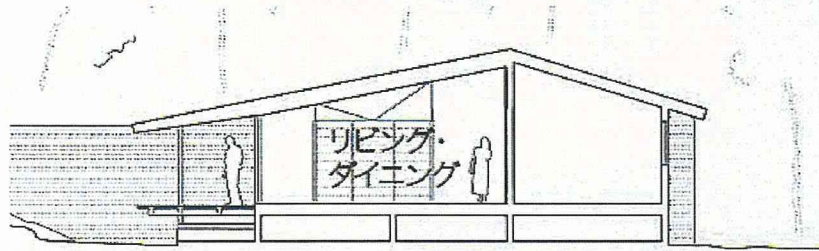
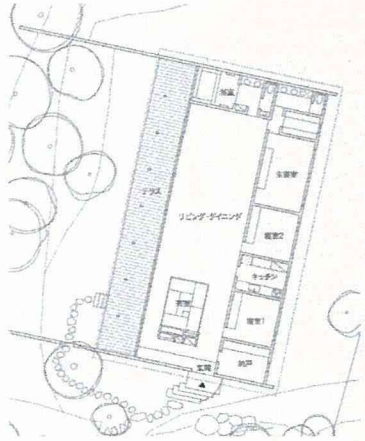
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



108

松ヶ丘の家
安田博道
jt0705

屋根の形式
切妻

軒の傾き
/—

軒の位置関係
≠

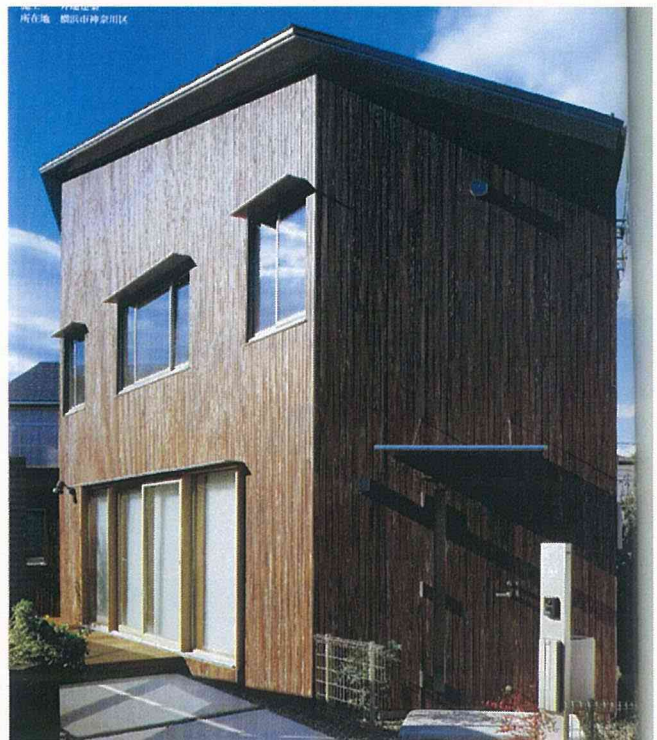
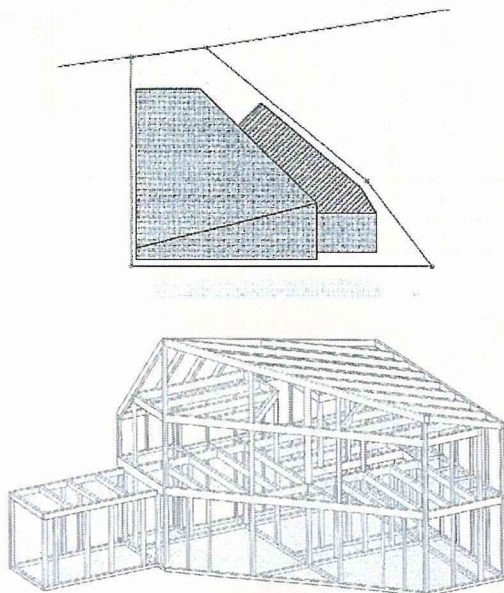
棟の位置関係
回

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
/

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



109

A
青木淳
jt0707

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き

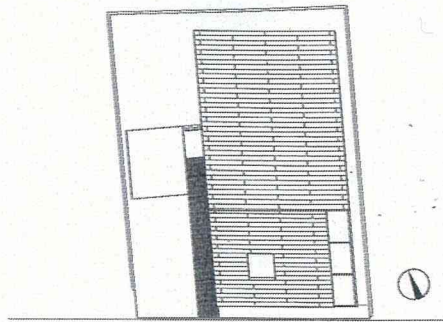
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

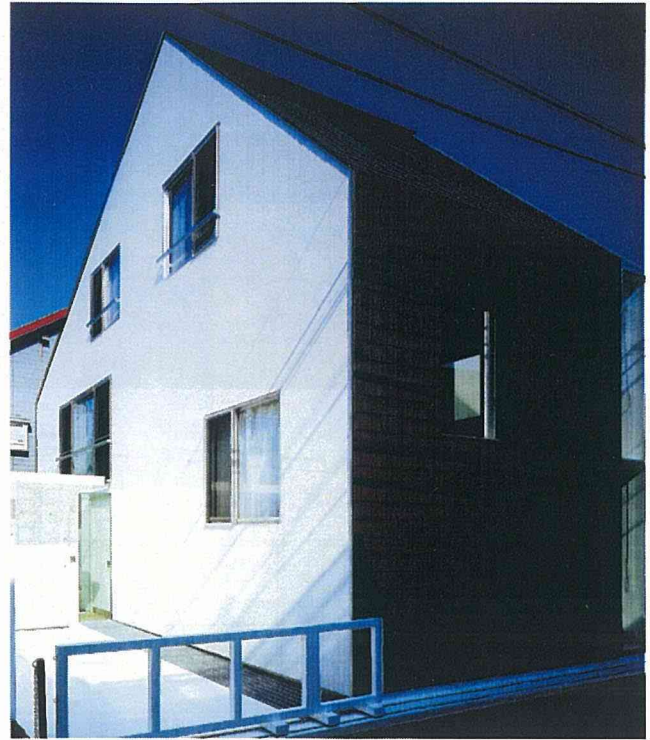
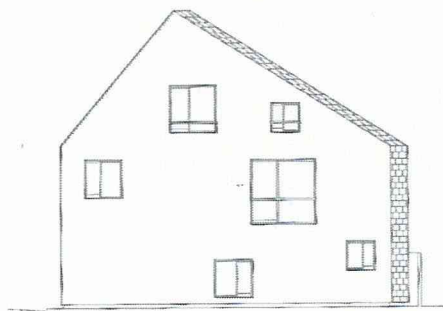
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



配置 縮尺 1/300



110

にわのある家
近藤哲雄
jt0707

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
/—

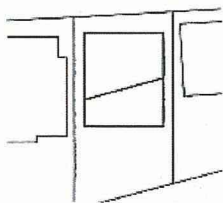
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

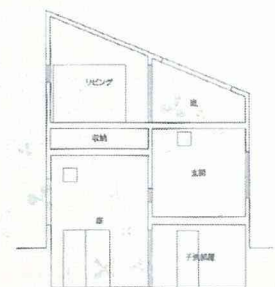
屋根の勾配
定

棟の位置関係
回

対面する屋根勾配
異



配置1 縮尺 1/150



配置2



111

白州の週末住宅
大塚聡アトリエ
jt0710

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

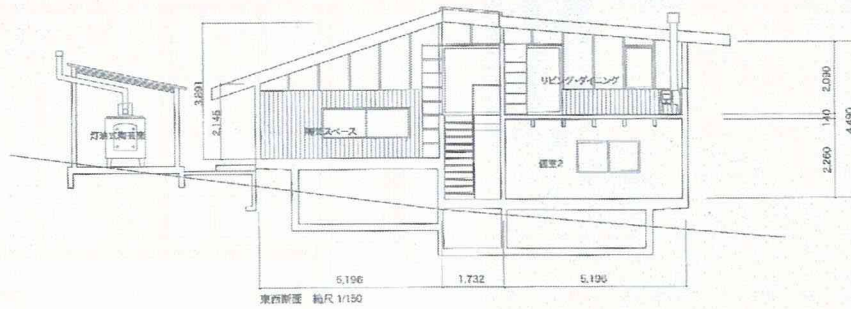
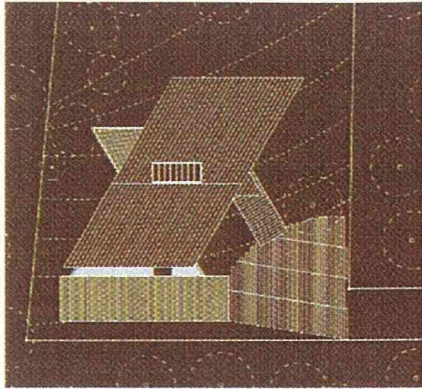
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



112

那須の週末住宅
野沢正光
jt0710

屋根の形式
寄棟

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

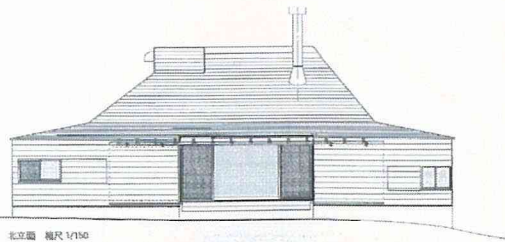
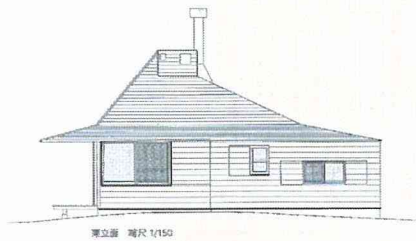
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
折

対面する屋根勾配
異



113

KATA House
加茂紀和子
マニユエル・タルディッツ
jt0711

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
//

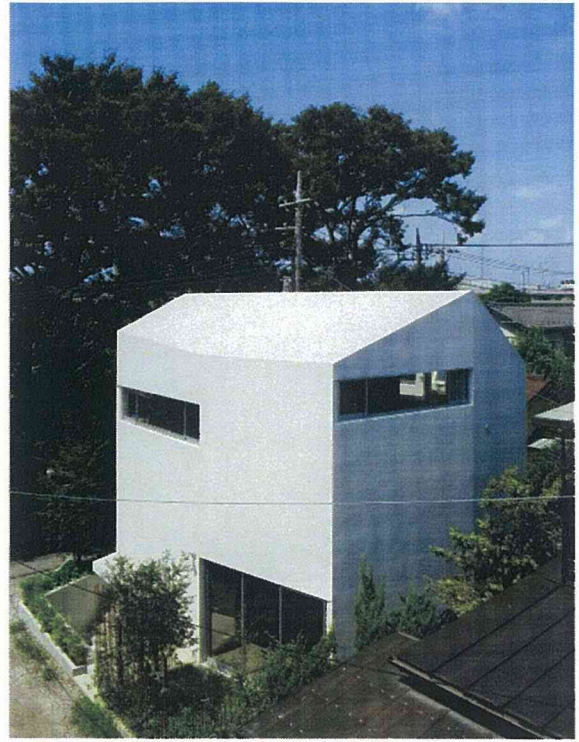
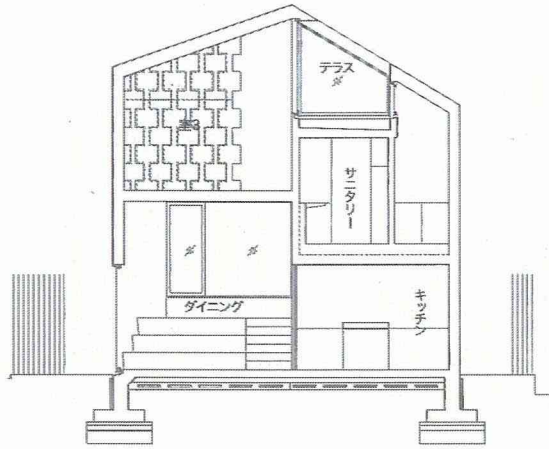
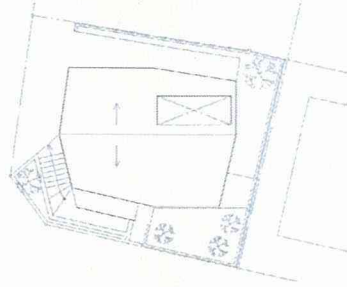
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



114

東京町家あずきハウス
伊礼智設計室
jt0712

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

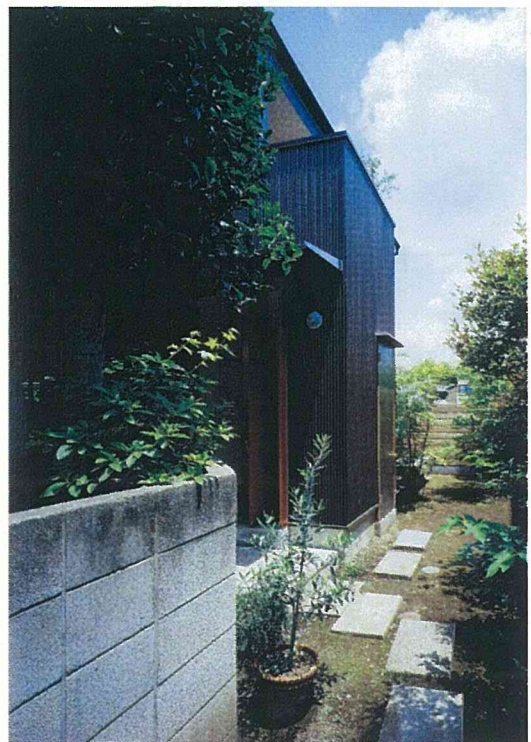
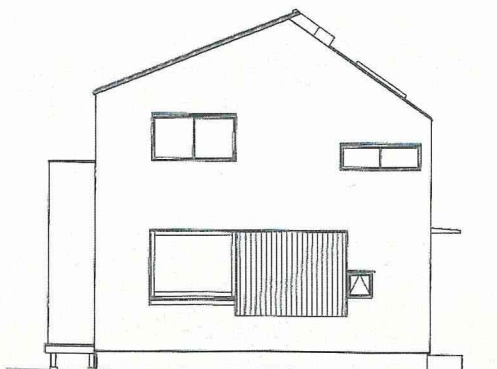
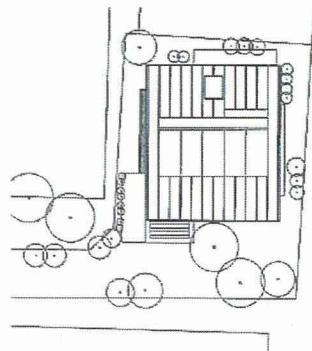
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



115

自由が丘の家
齊藤哲也
jt0712

屋根の形式
寄棟

平面形
□

軒の傾き
—

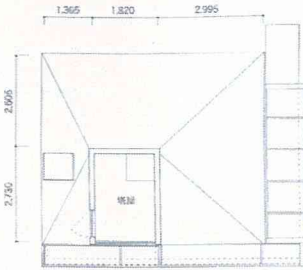
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

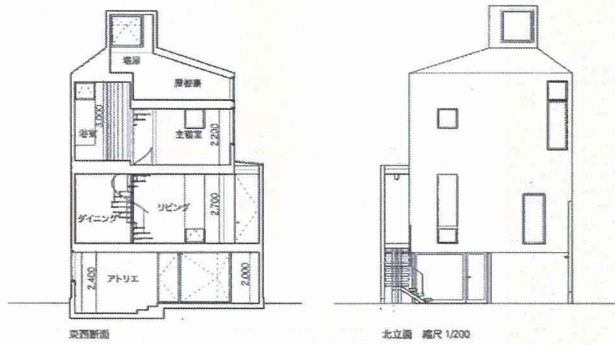
屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



床下階平面



東西断面

北立面 縮尺 1/200



116

鶴山荘
アトリエ・ワン
sk0712

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

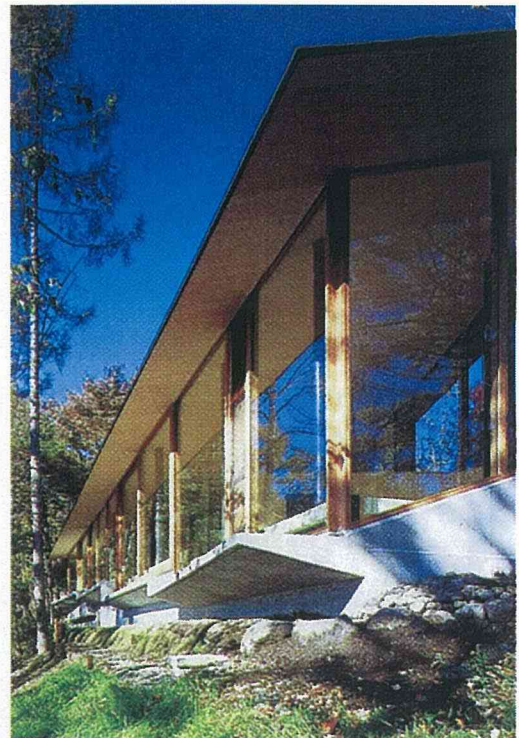
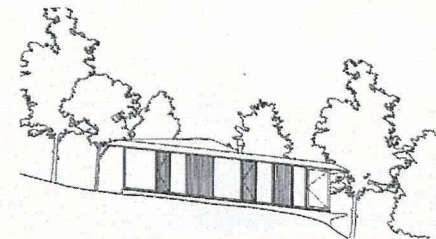
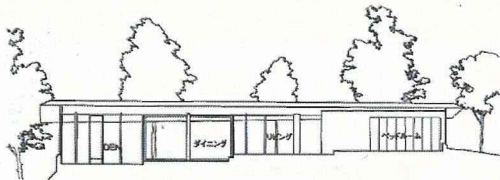
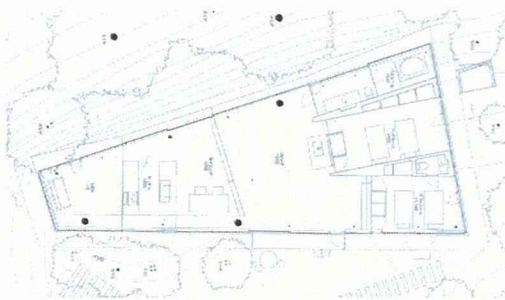
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
∞

屋根の勾配
曲

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配



117

FHOUSE
窪田勝文
jt0801

屋根の形式
方形

平面形
▽

軒の傾き
// ---

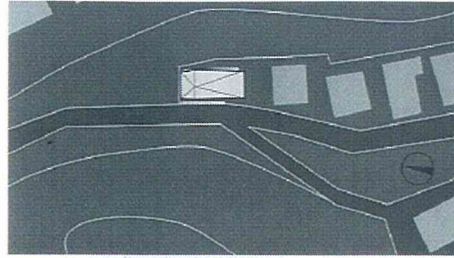
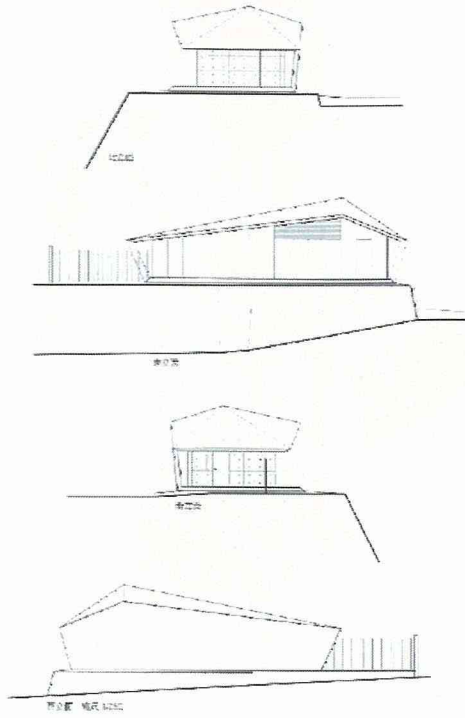
棟の傾きおよび頂点
•

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



118

積層の景色
松野勉・相澤久美
jt0802

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き

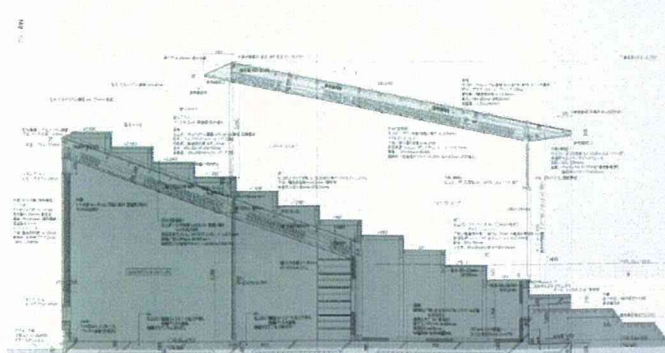
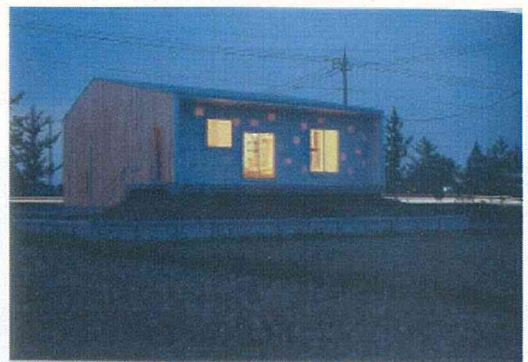
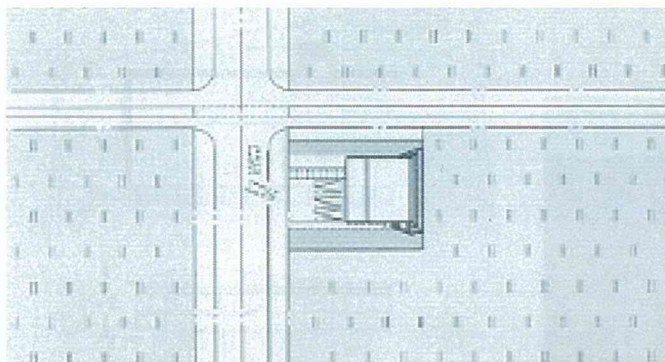
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



119

太陽の家
三分一博志
jt0804

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

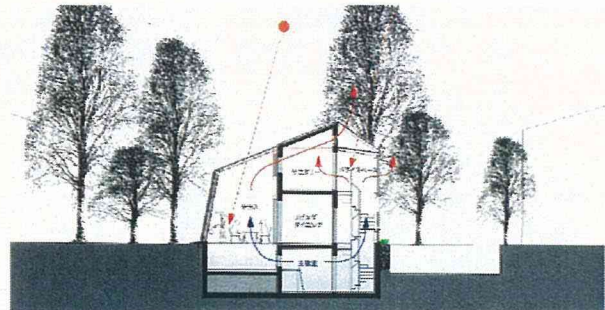
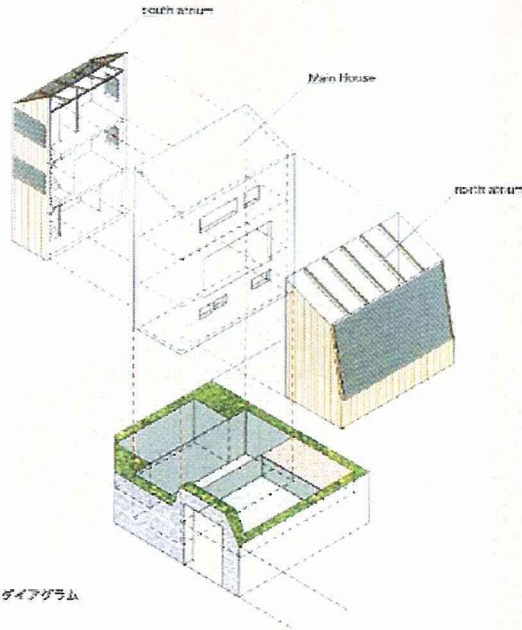
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
=

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



120

Fuji View House
横川健
jt0804

屋根の形式
切妻

平面形
□

軒の傾き
—

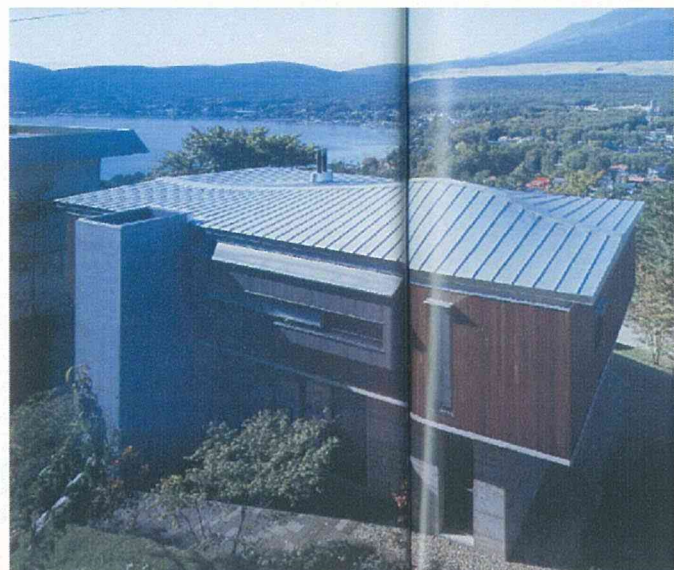
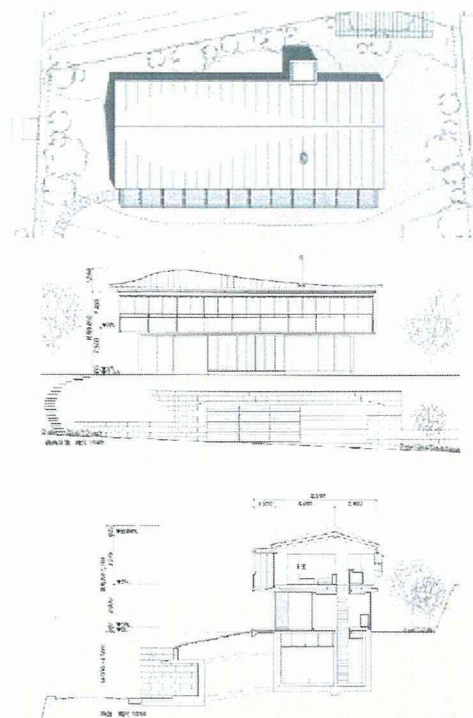
棟の傾きおよび頂点
∩

軒の位置関係
∞

屋根の勾配
曲

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



121

放物線の家
山下保博
jt0806

屋根の形式
片流

平面形
□

軒の傾き
∩

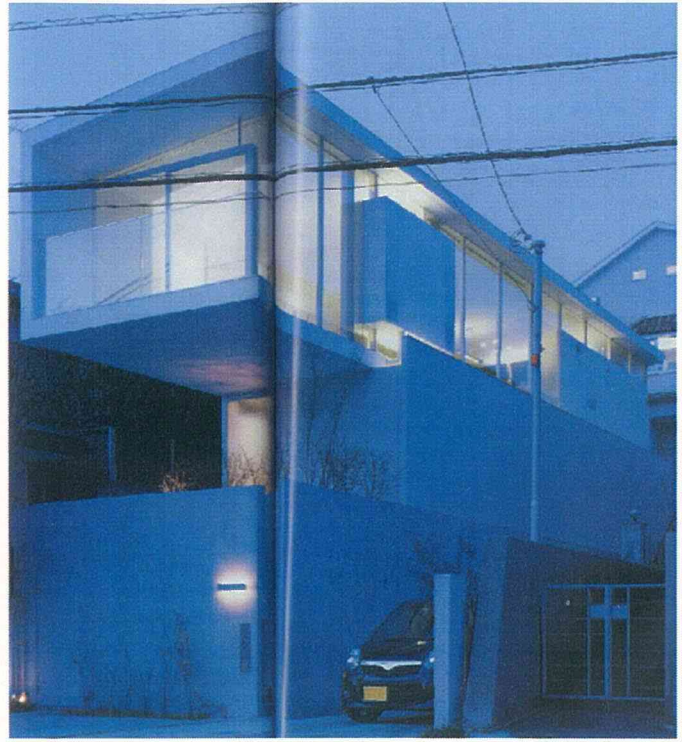
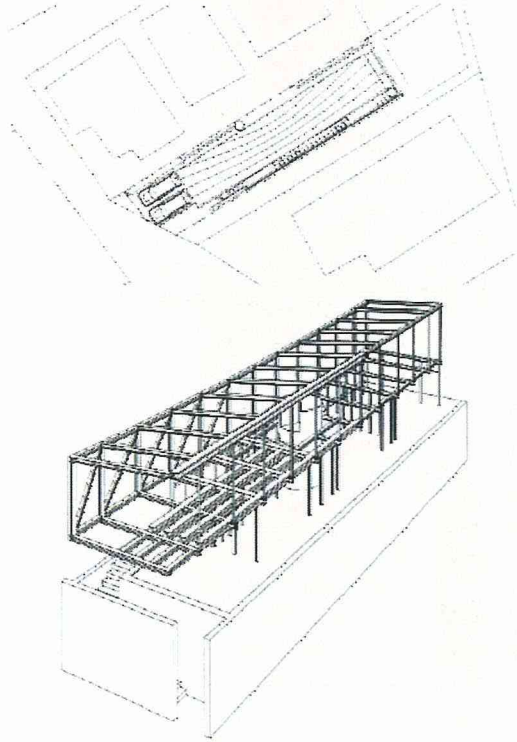
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
∞

屋根の勾配
曲

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配
異



122

ピアノハウス
駒田剛司
jt0808

屋根の形式
片流

平面形
▽

軒の傾き
—

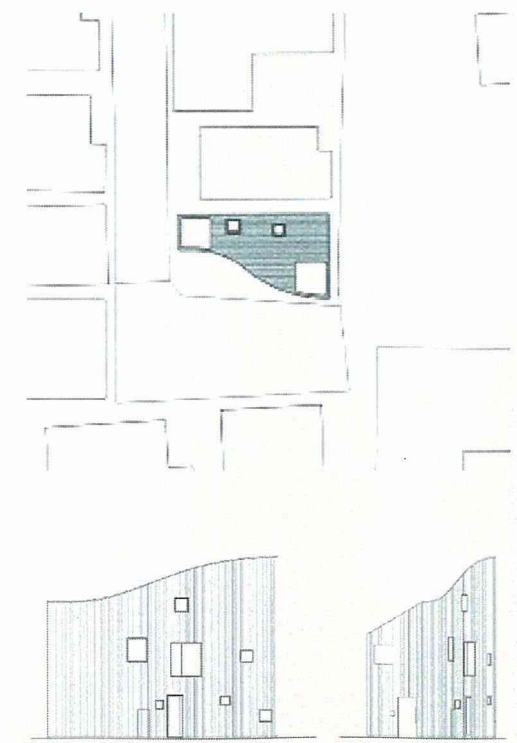
棟の傾きおよび頂点
/

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
端

対面する屋根勾配
定



123

白いてんとう虫
山下保博
jt0808

屋根の形式
方形

平面形
▽

軒の傾き
—

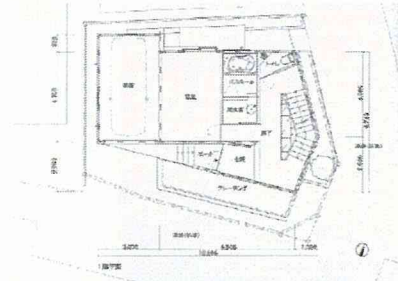
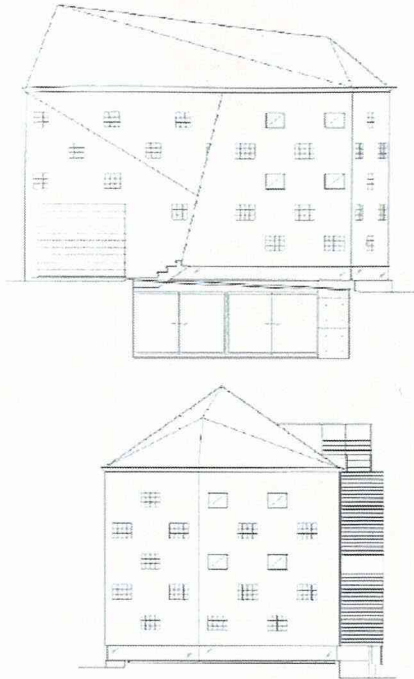
棟の傾きおよび頂点
・

軒の位置関係

屋根の勾配
定

棟の位置関係
偏

対面する屋根勾配
異



124

Ahouse
福山博之
jt0809

屋根の形式
切妻

平面形
▽

軒の傾き
/—

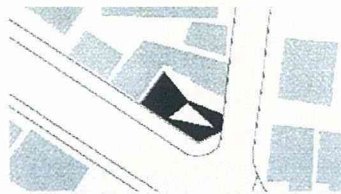
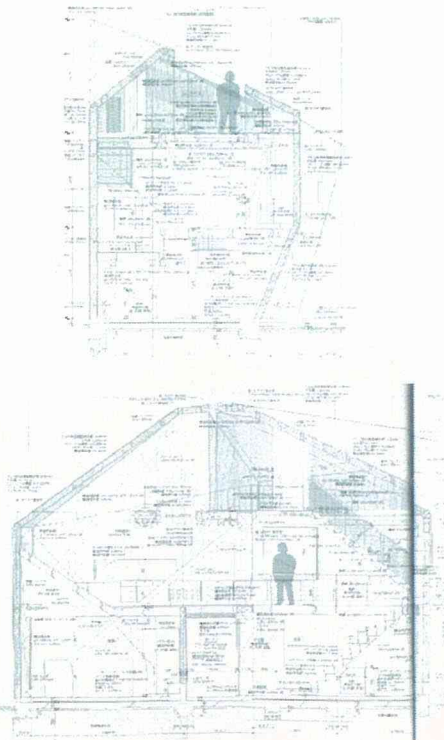
棟の傾きおよび頂点
—

軒の位置関係
≠

屋根の勾配
定

棟の位置関係
回

対面する屋根勾配
異



125

デンカノイエ
小泉雅生
jt0810

屋根の形式
切妻

軒の傾き
—

軒の位置関係
=

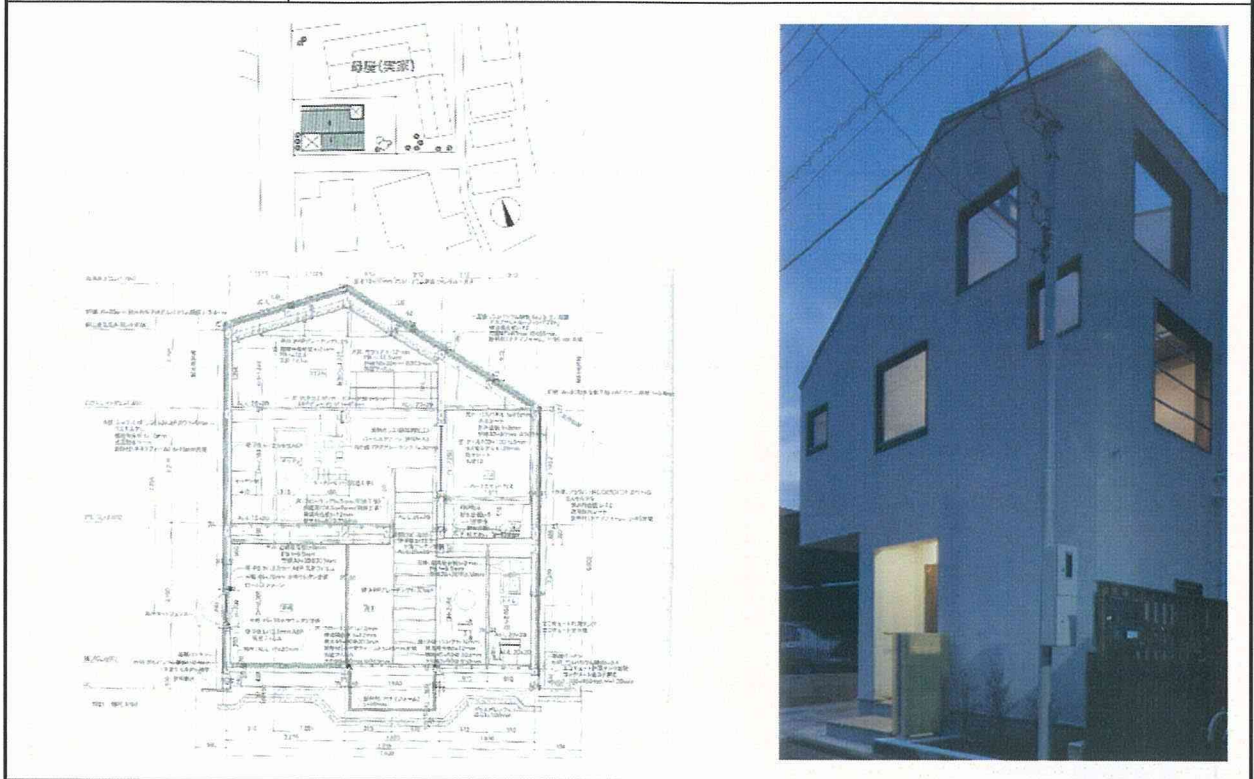
棟の位置関係
偏

平面形
□

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
異



126

雨晴れの住処
原田真宏 / 麻魚
jt0811

屋根の形式
切妻

軒の傾き
//

軒の位置関係
≠

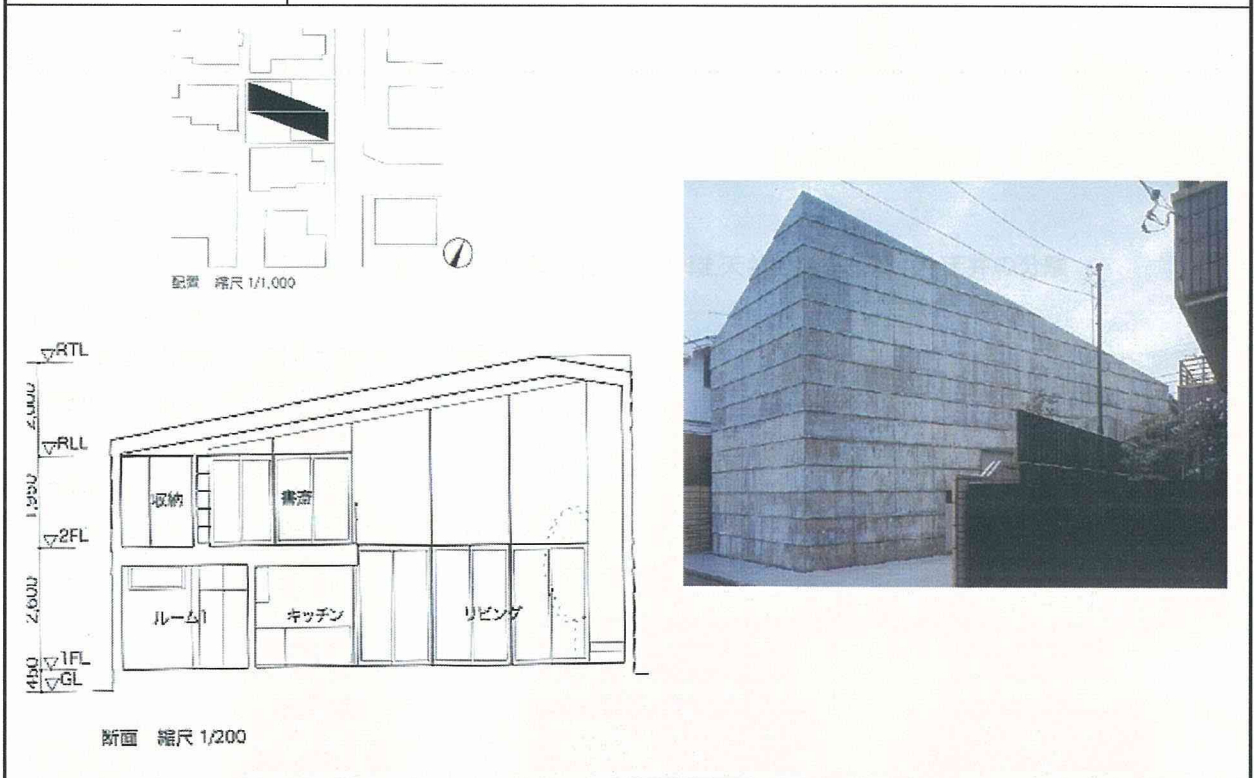
棟の位置関係
回

平面形
▽

棟の傾きおよび頂点
—

屋根の勾配
定

対面する屋根勾配
同



第4章 現代日本の住宅作品における開放型寝室の連続性
(全129作品)

作品番号 作品名 建築家名 掲載誌	分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
平面図 断面図 寝室写真				

凡例

分節の形式

隣:床,天井の共有 段:床の分離,天井の共有 積:床の分離,天井の共有 層:床,天井の分離

視線による性格

=:連続(両側) 一:連続(片側) |:遮断

動線による性格(平面/断面)

中 端 (*:平屋)

建築部位

△:勾配天井 □:大開口 ◆:地下 c:アルコーブ

1

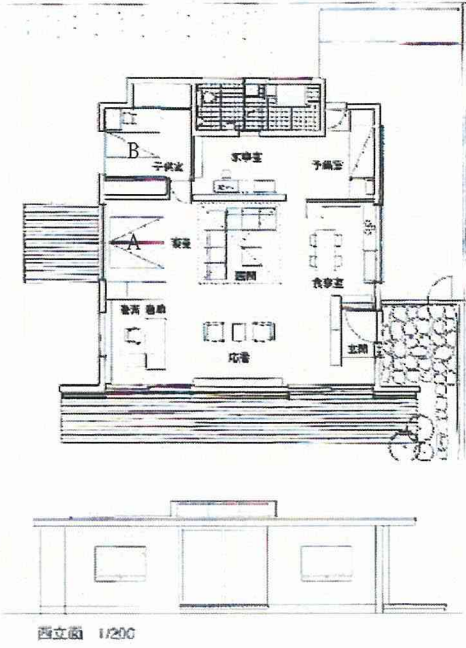
宮城教授の家
清家清
sk5311

分節の形式
A 隣
B 隣

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
中/端*
端/端*

建築部位
□



2

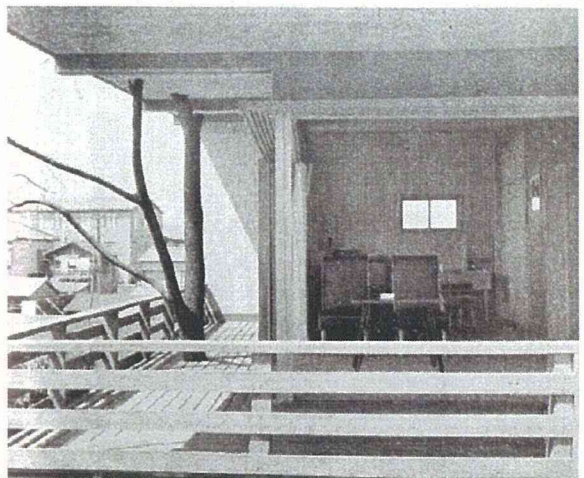
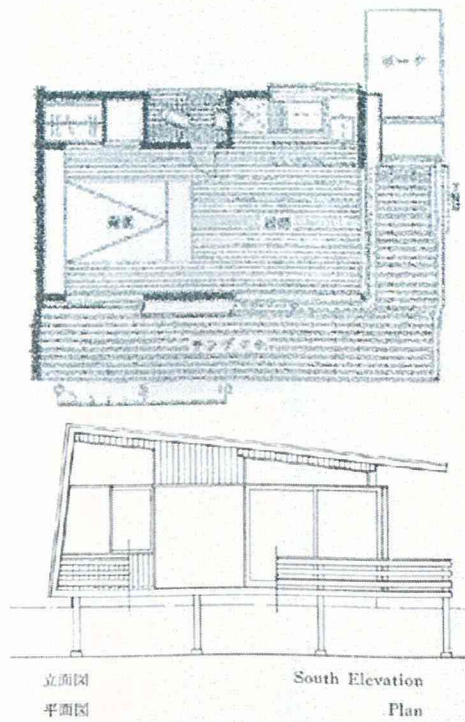
小さなすまい
木村昭也
sk5605

分節の形式
隣

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端*

建築部位
□



3

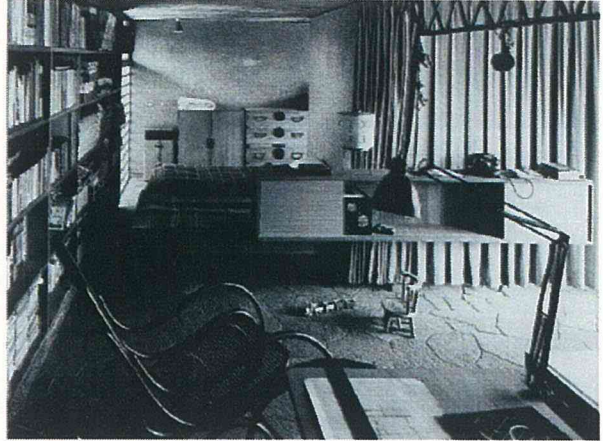
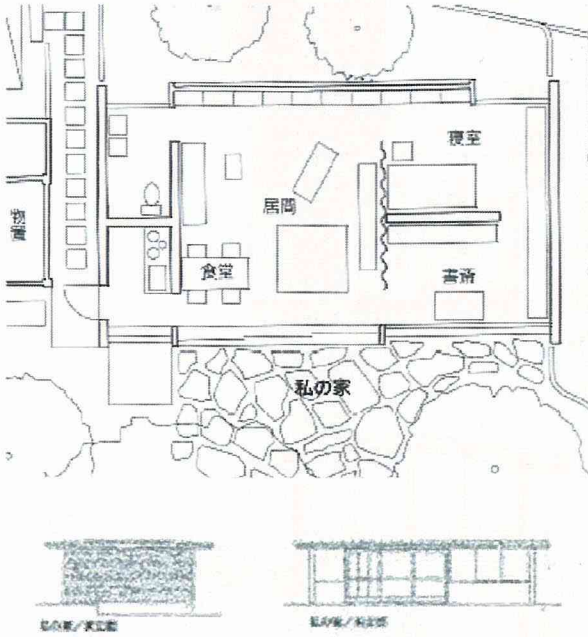
小さなすまい
木村昭也
sk5605

分節の形式
隣

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
端/端*

建築部位
□



4

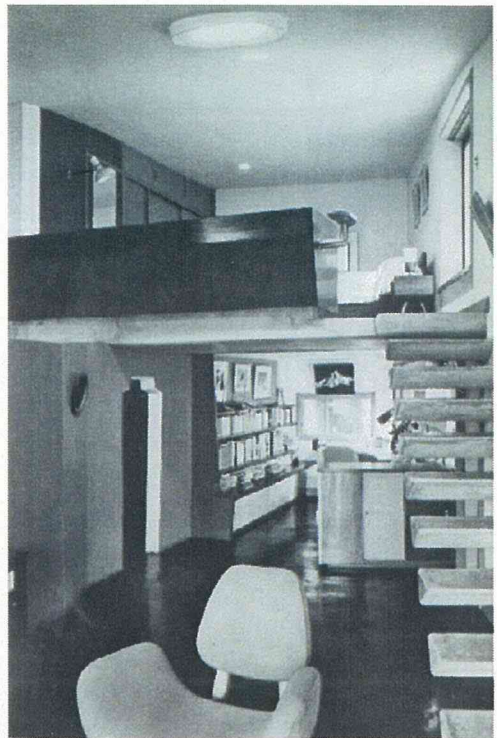
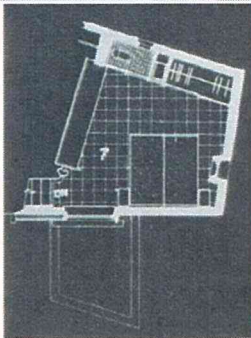
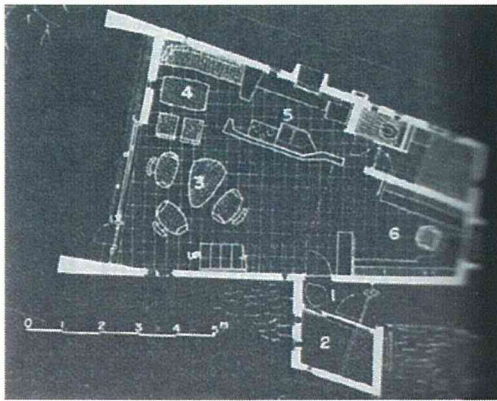
VILA COUCOU
吉阪隆正
sk5712

分節の形式
積上

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
端/端

建築部位
△



5

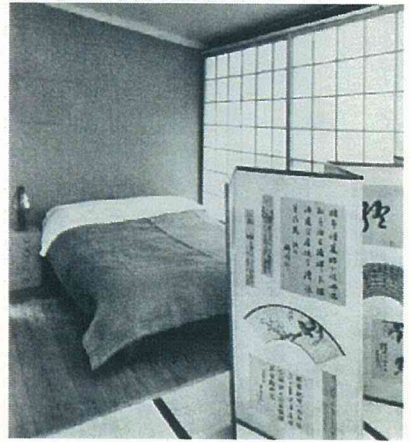
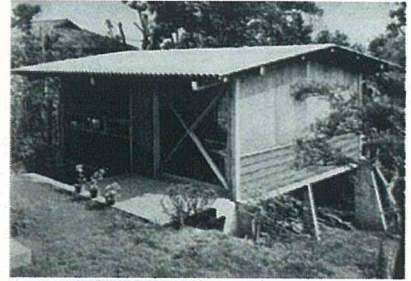
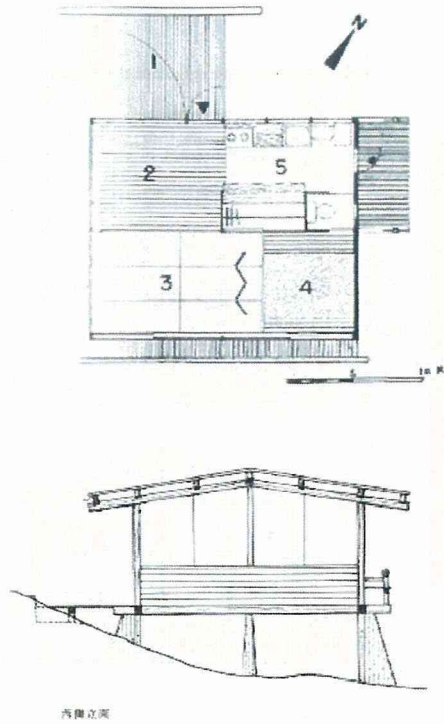
段地に建つ家
林 雅子
sk5809

分節の形式
隣

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
端/端*

建築部位
□



6

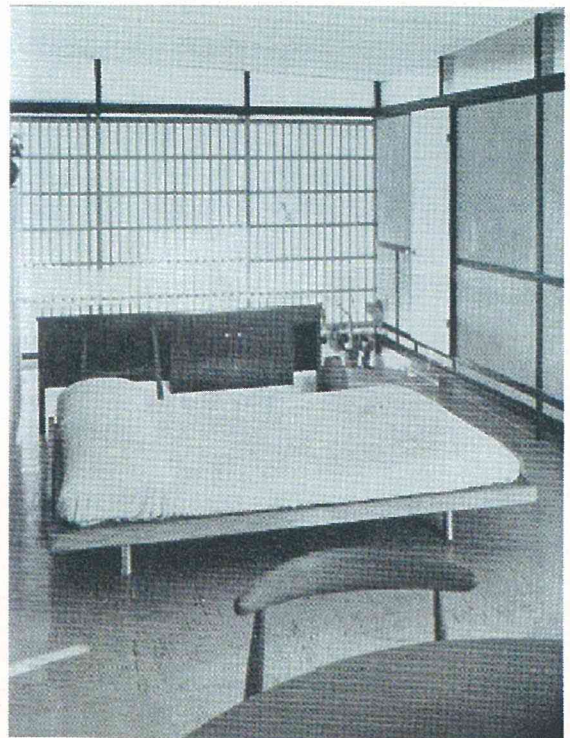
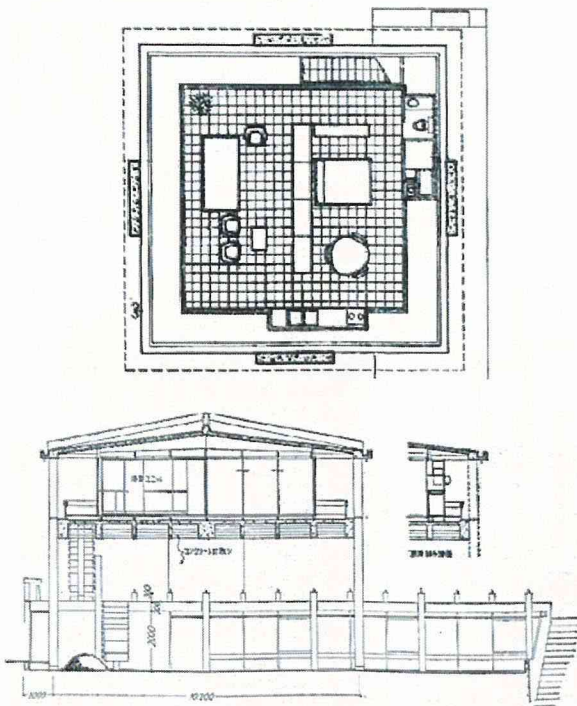
スカイハウス
菊竹清訓
sk5901

分節の形式
隣

視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
中/端*

建築部位
△ □



7

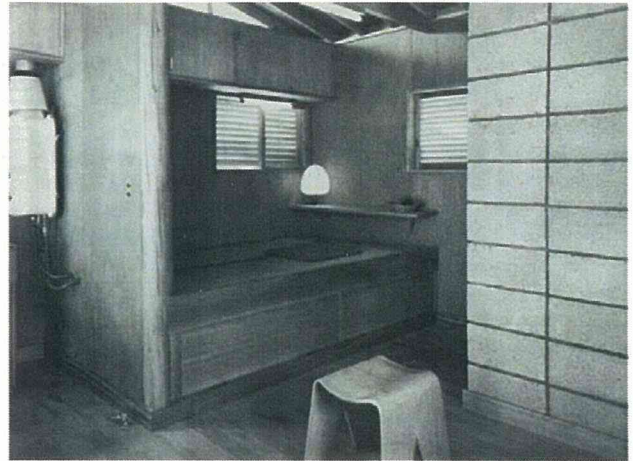
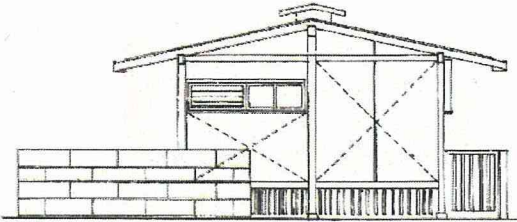
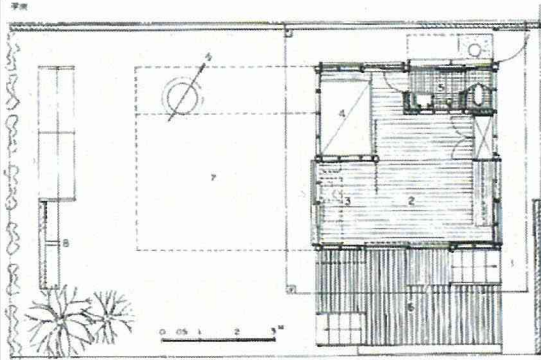
7坪の小住宅
斉藤英彦
sk5906

分節の形式
隣

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
橋/端*

建築部位
C



8

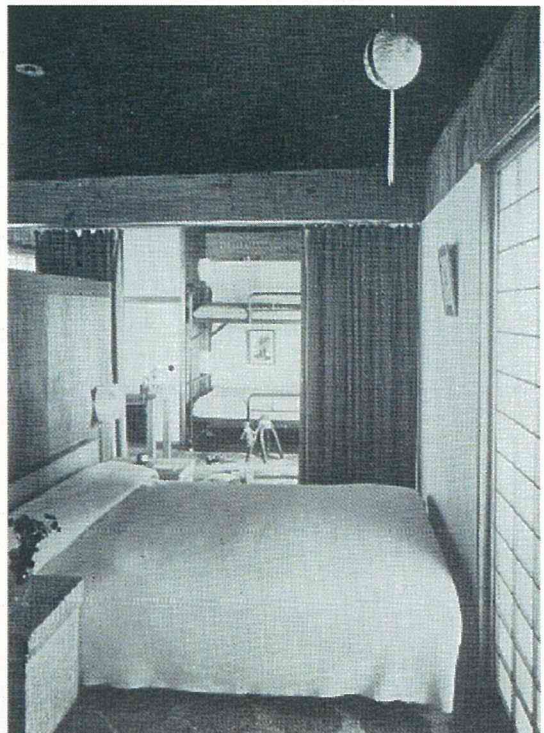
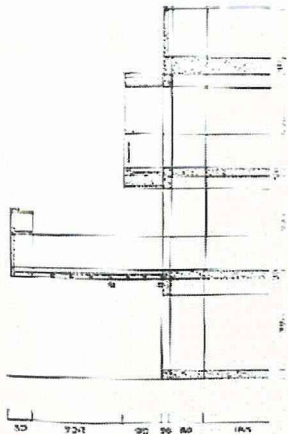
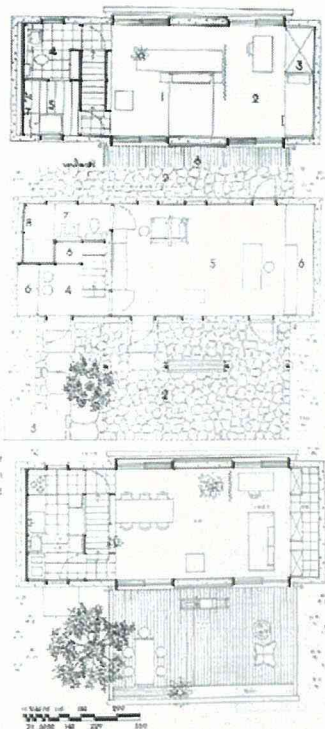
すまい
藤木忠善
sk6501

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
端/端

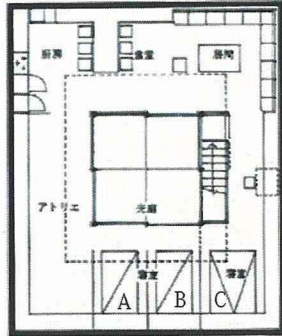
建築部位



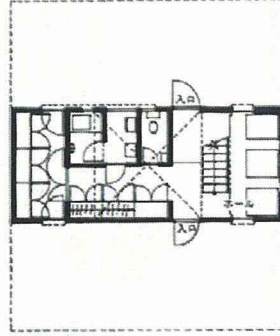
9

金子邸
高須賀晋
sk6901

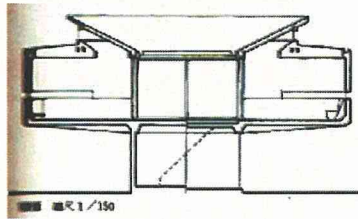
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 隣		中/端	C
B 隣		中/端	C
C 隣		中/端	C



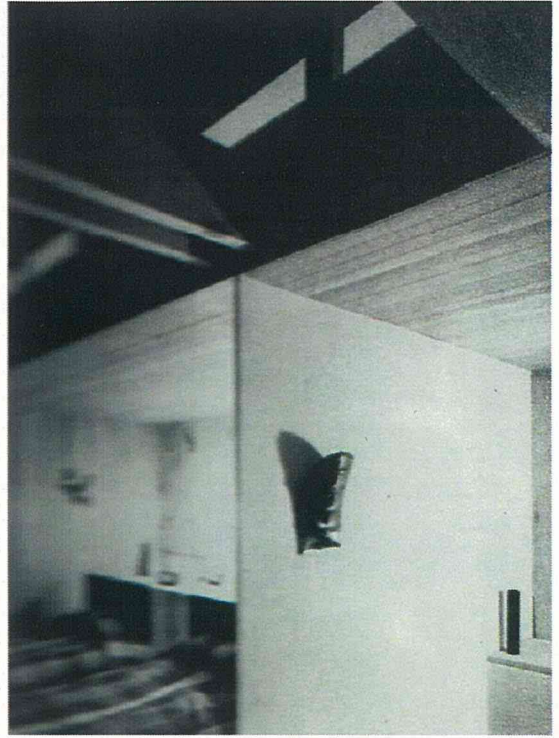
2階平面



1階平面 縮尺 1/150



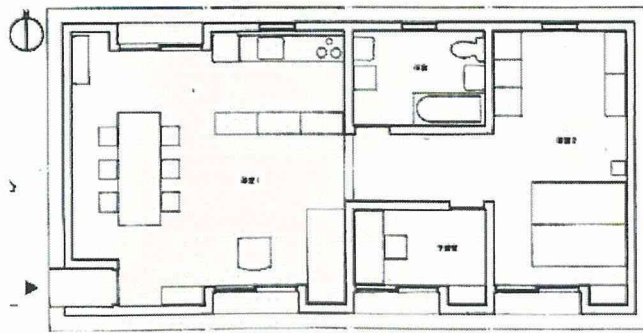
縮尺 1/150



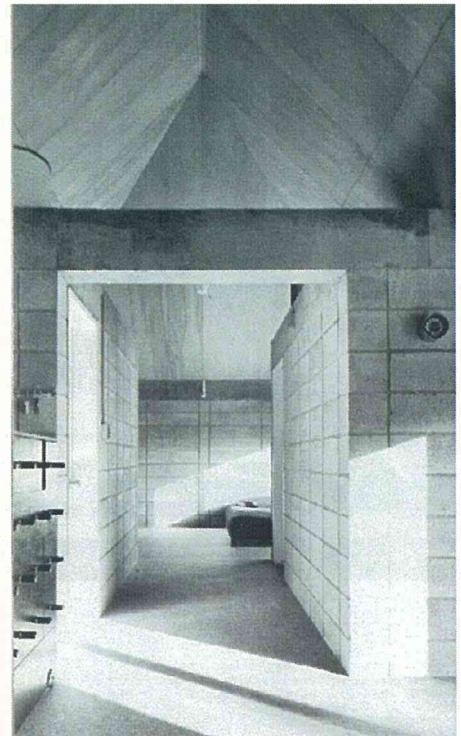
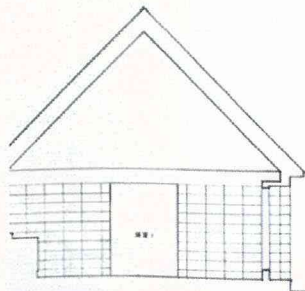
10

北山・住宅
白沢宏規
sk7502

分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
隣		端/端*	△



平面図 縮尺 1/100



11

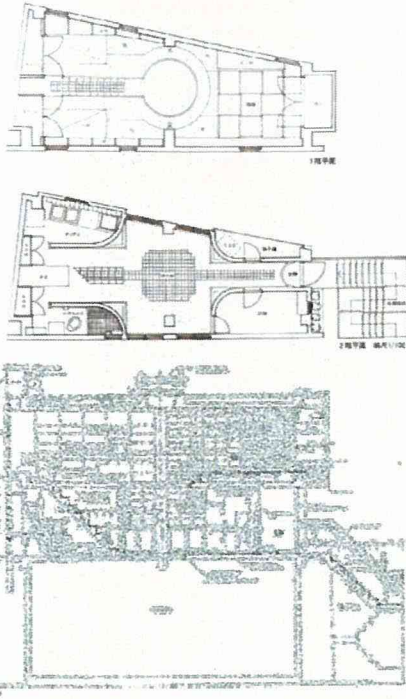
福村邸
福村俊治
jt8608

分節の形式
層上

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
中/端

建築部位



12

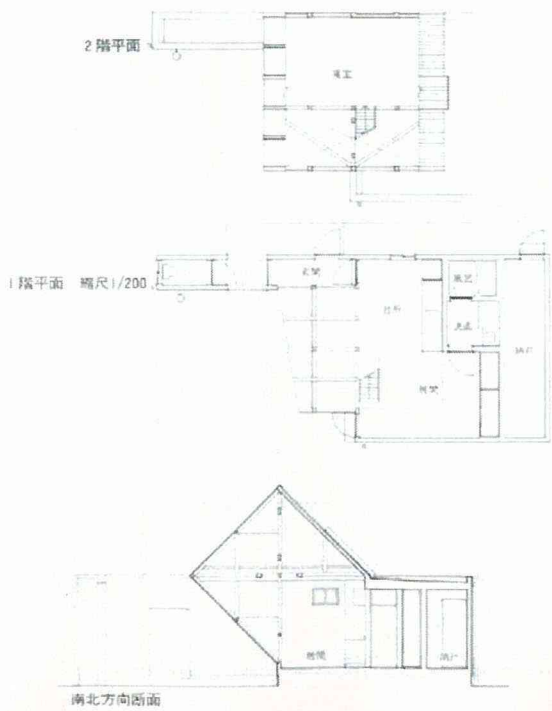
ガラスハウス
pia
jt8704

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

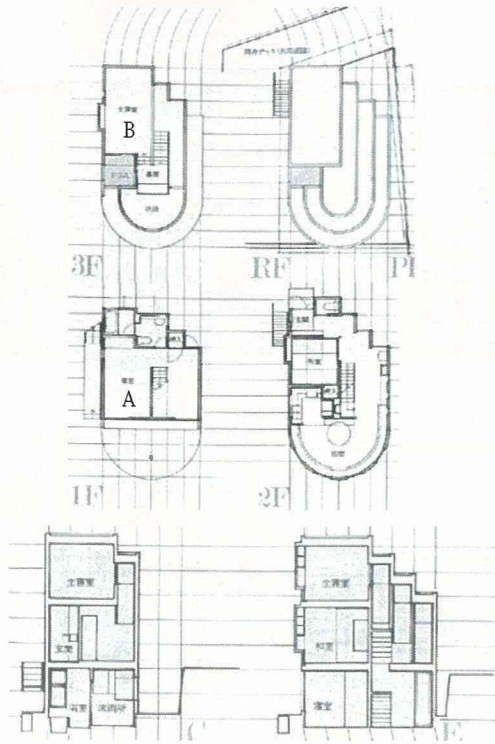
建築部位
△ □



13

松見町の家
U工房
jt8709

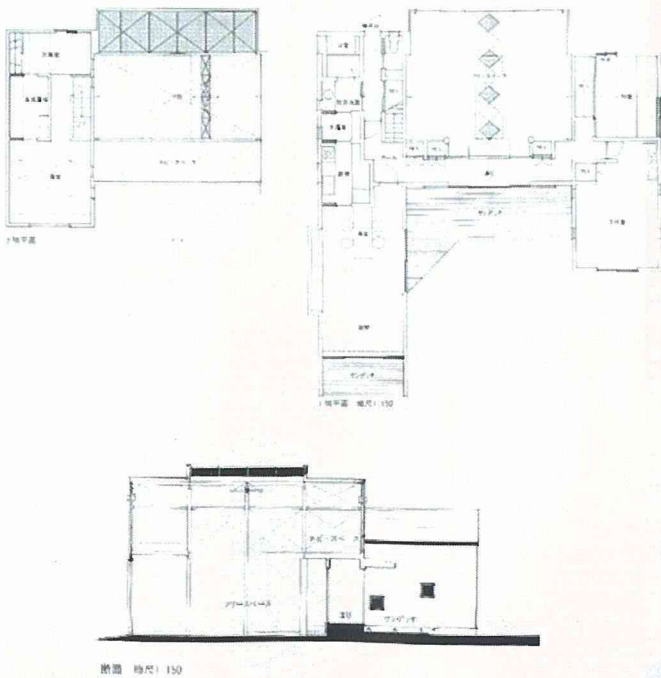
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 層下		端/端	
B 層上		端/端	



14

田中邸
高柳おさむ
jt8709

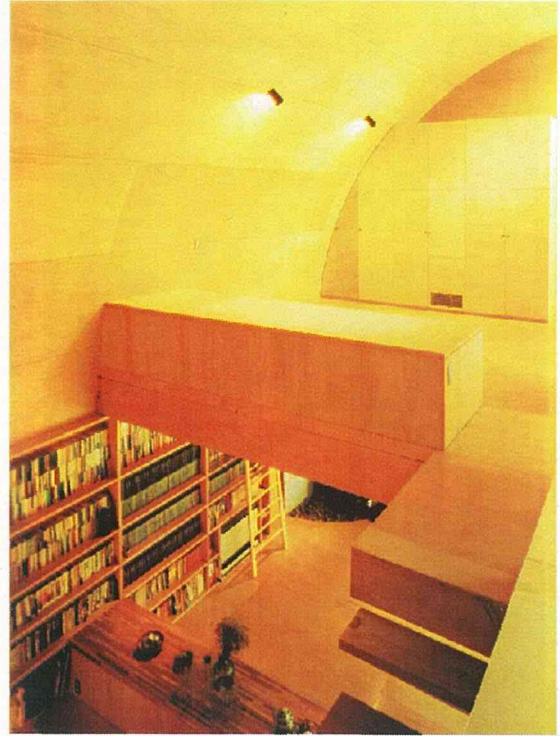
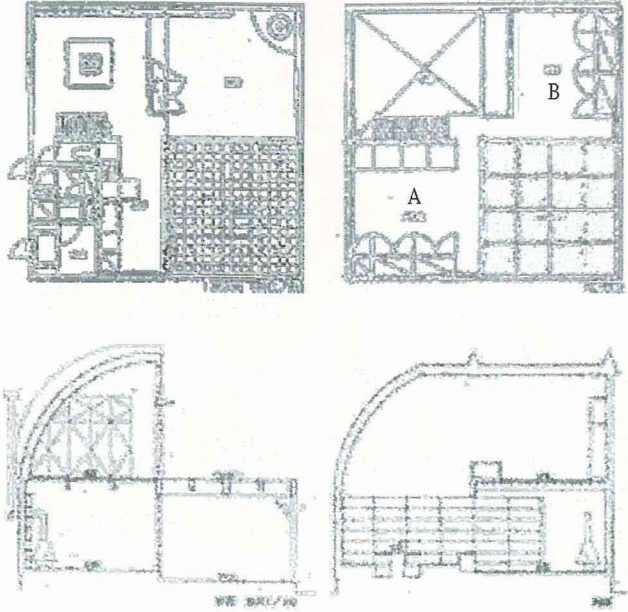
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
層上		端/端	△



15

GAMERA
鈴木エドワード
jt8807

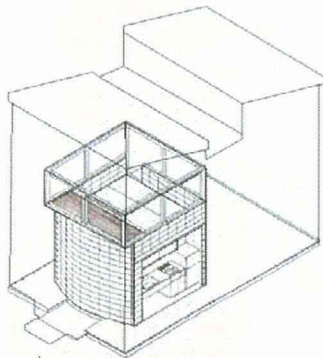
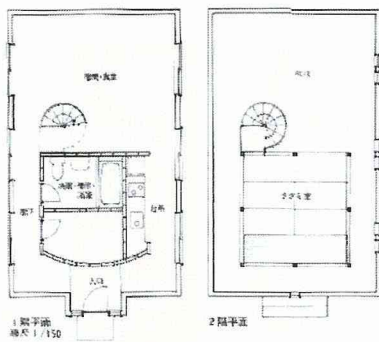
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 積上	=	端/端	△
B 積上	=	端/端	△



16

馬絹の住宅
中村好文
jt9001

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
積上	—	端/端	



17

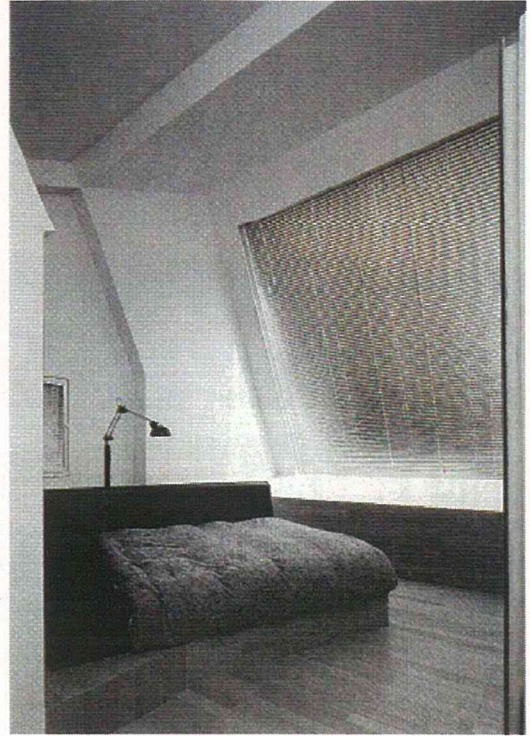
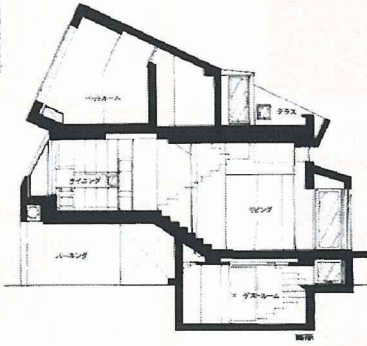
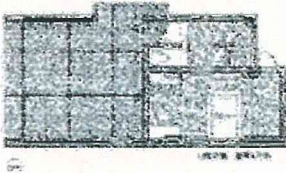
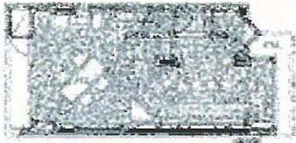
IHOUSE
金相珍
jt9011

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
△



18

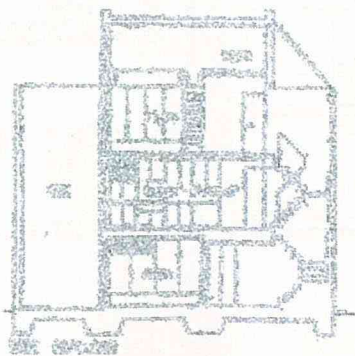
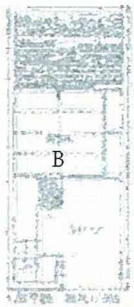
上京の家
岸和郎
jt9102

分節の形式
A 積上
B 閉

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

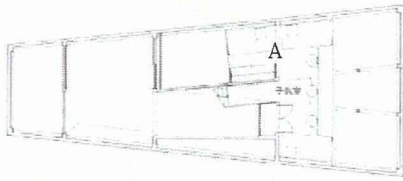
建築部位



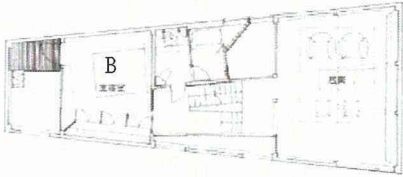
19

壺中天地Ⅱ
黒川哲郎
jt9109

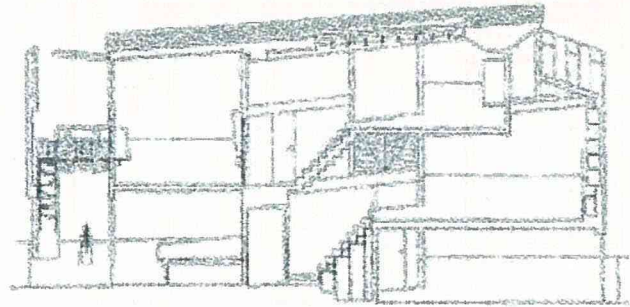
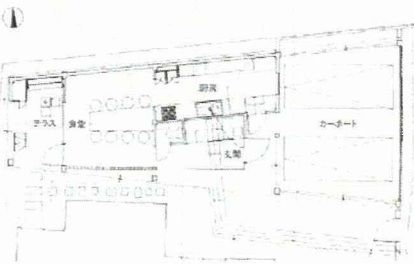
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 段上 B 閉	—	端/中	



層上平面図



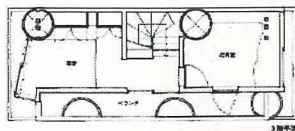
2階平面



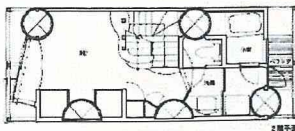
20

法行燈庵
海建築工房
jt9207

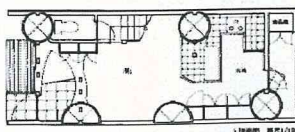
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
層上		端/端	△



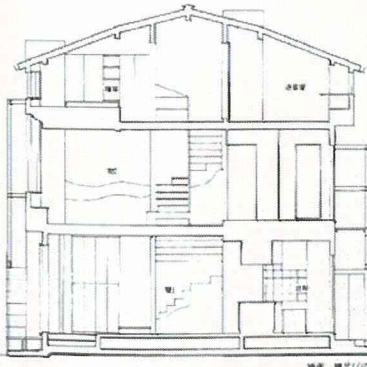
3階平面



2階平面



1階平面 縮尺1/100



断面 縮尺1/100



21

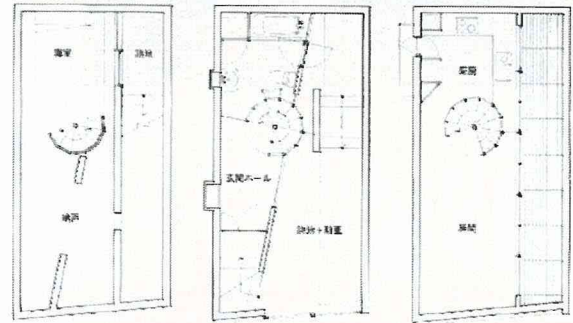
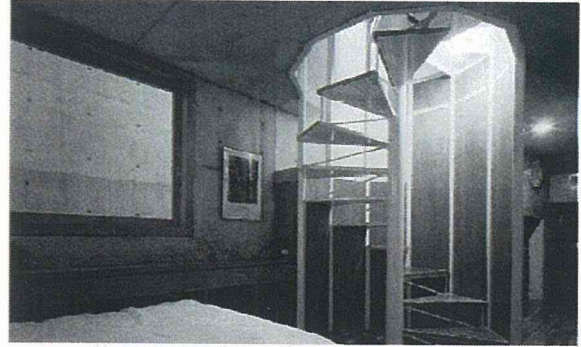
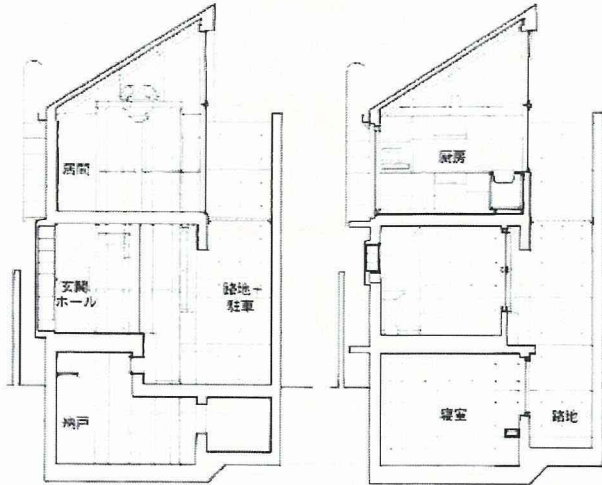
奥沢の家
前田光一
jt9305

分節の形式
層下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
◆



1階平面 幅尺1/150 2階平面 3階平面

22

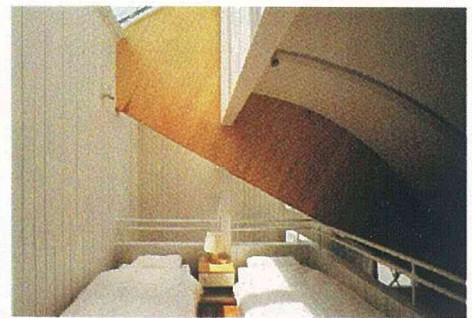
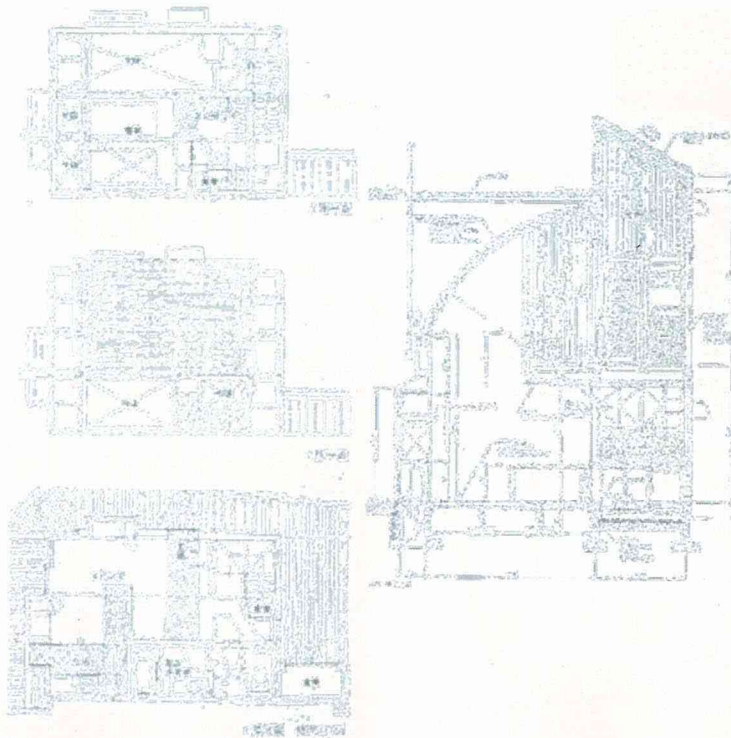
M邸 - II
倉持全孝
jt9307

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/中

建築部位
△



23

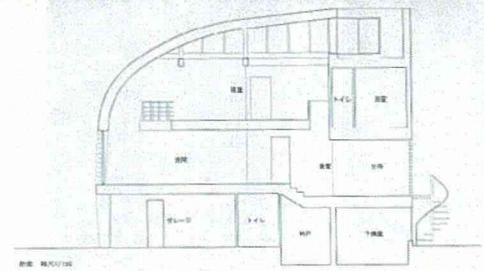
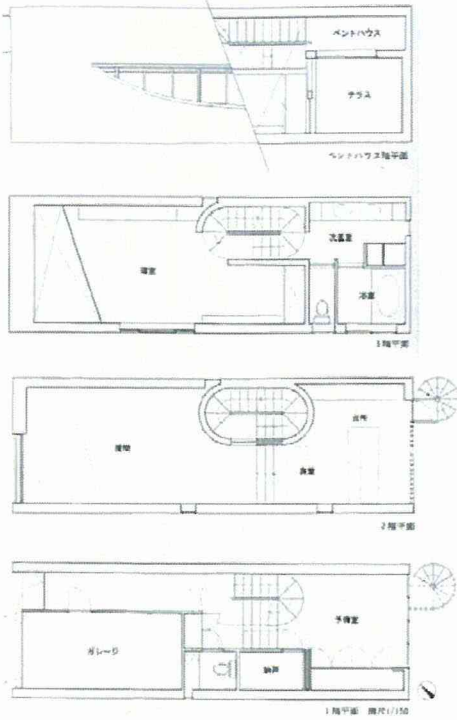
目白の家
小林克弘
jt9411

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/中

建築部位
△



24

BARN-4
吉本剛
jt9701

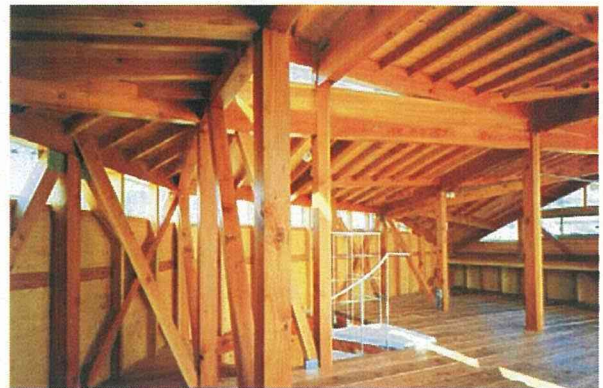
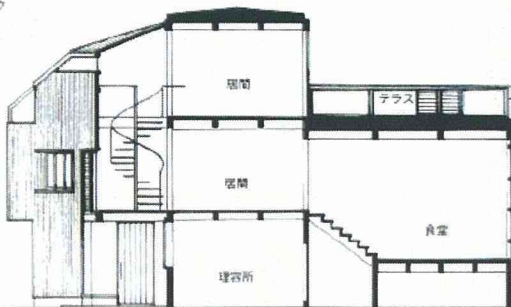
分節の形式
A 閉
B 隣

視線による性格
=

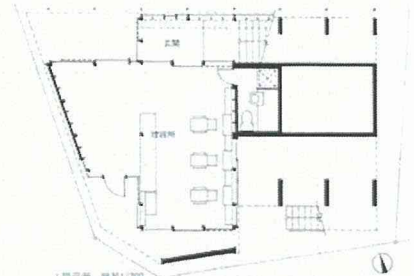
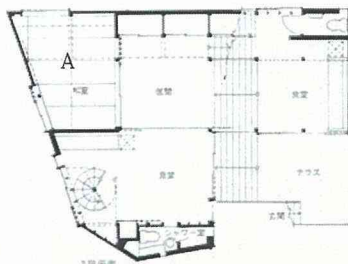
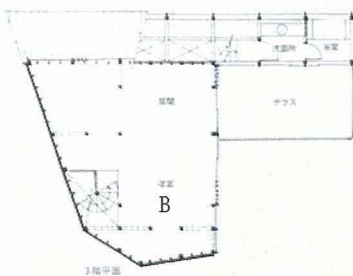
動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
△

メトリック



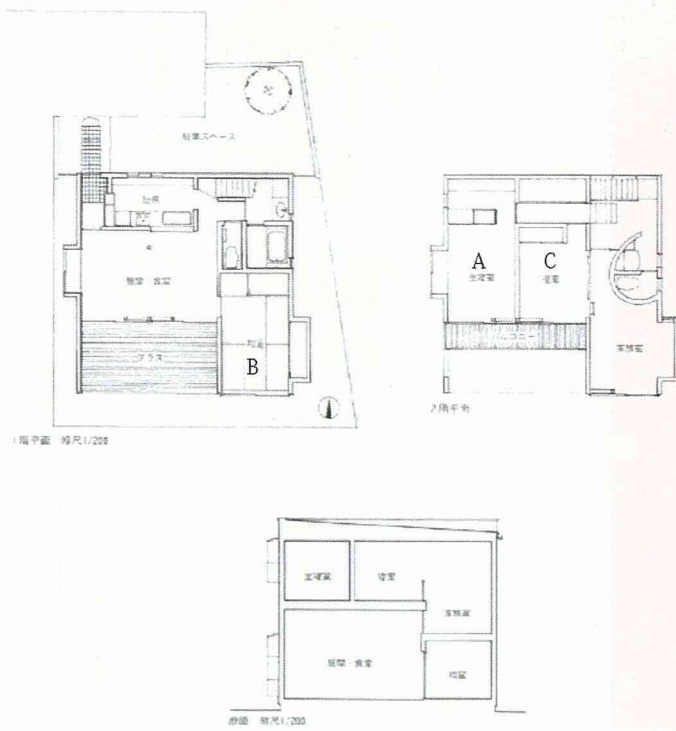
断面 縮尺1/200



25

三鷹の家
佐藤文+鹿嶋信哉
jt9701

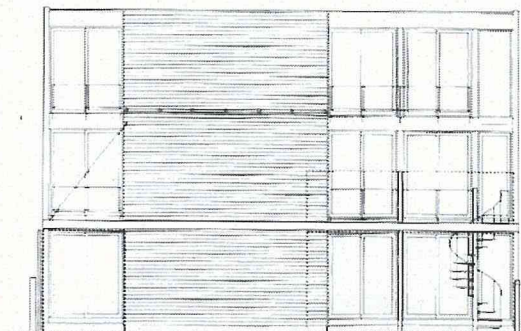
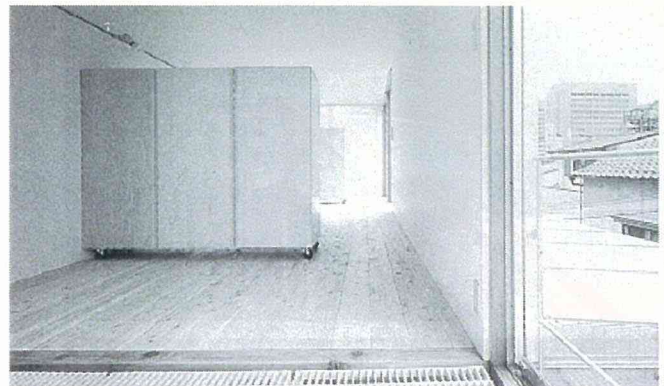
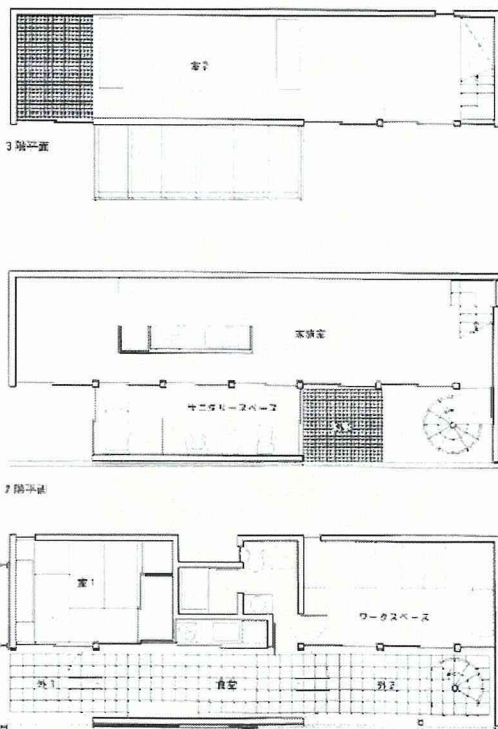
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 閉	=	中/端	
B 段上			
C 閉			



26

野田の家
WIZ ARCHITECTS
jt9703

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
層上		端/端 閉	□



27

下仁田の家
小沢明
jt9708

分節の形式
隣

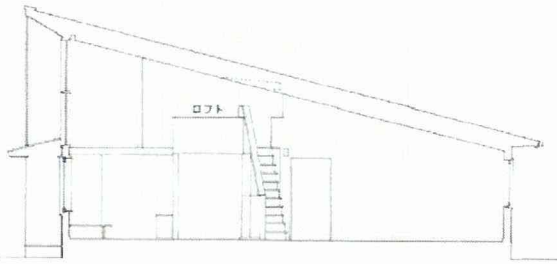
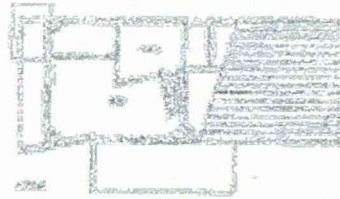
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

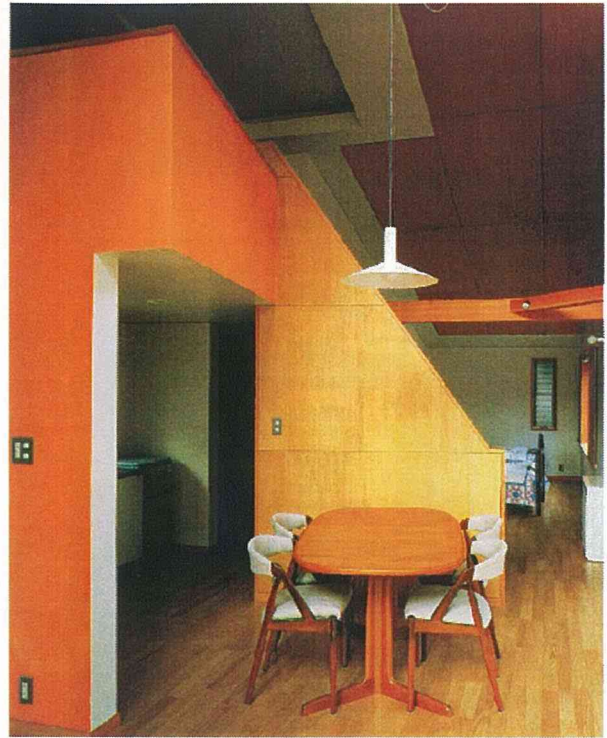
建築部位
^



1/200 全棟



断面 縮尺1/150



28

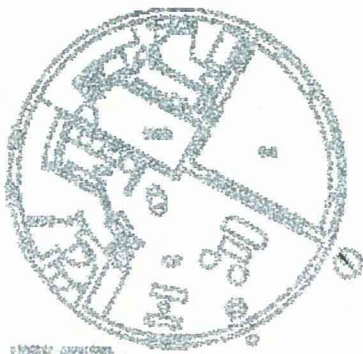
藻岩下の家
山之内裕一
jt9709

分節の形式
層上

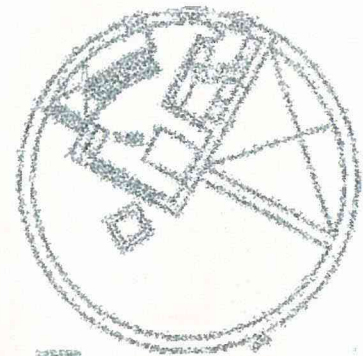
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

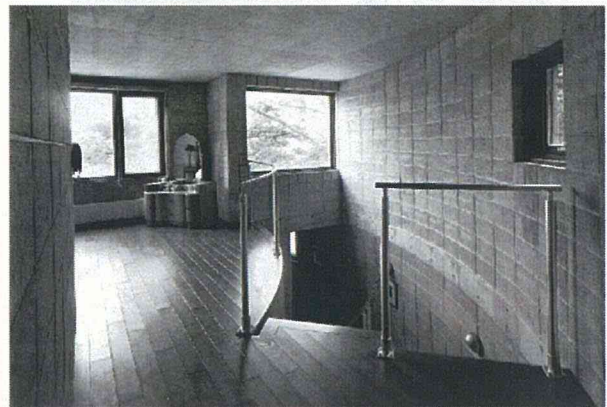
建築部位



1/200 全棟



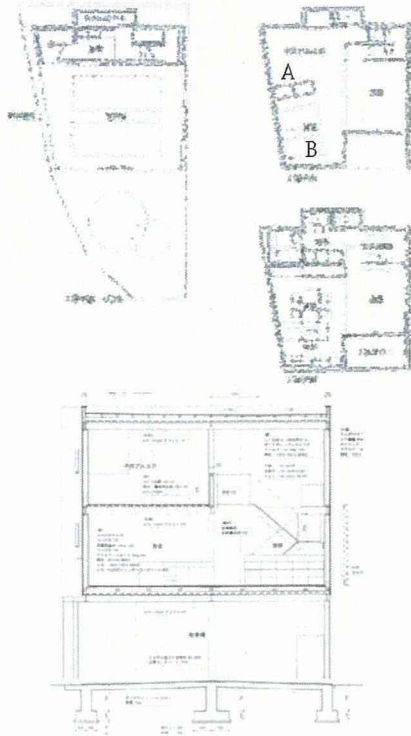
1/200 全棟



29

箱の家-14
難波和彦
jt9801

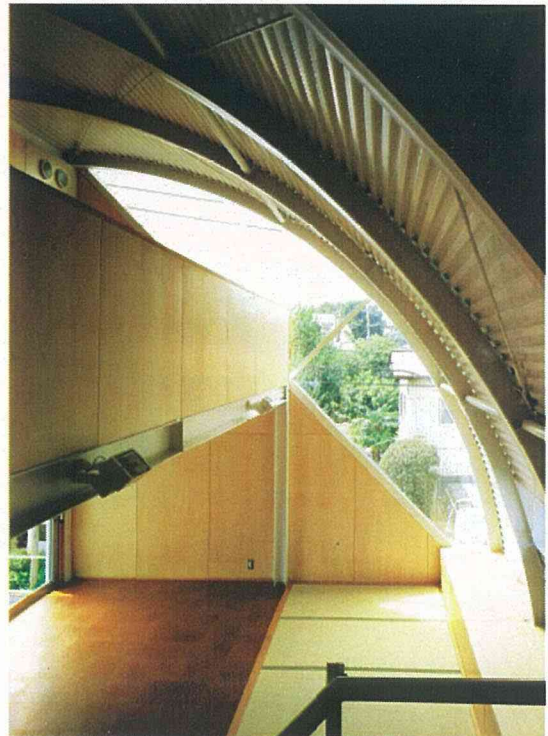
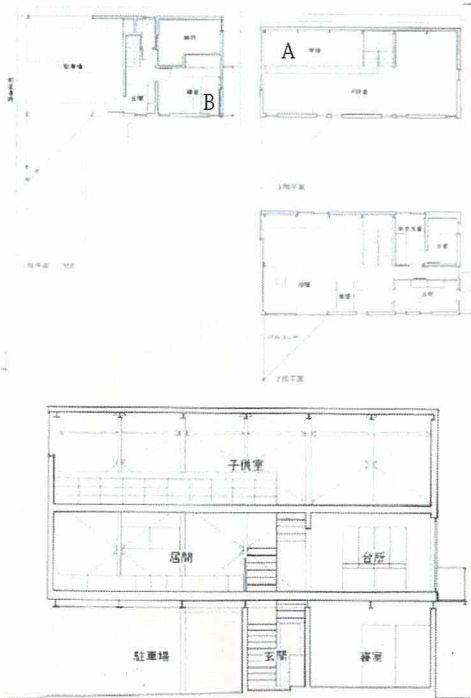
	分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A	積上	—	中/端	
B	積上	—	端/端	



30

箱の家-7
難波和彦
jt9801

	分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A	積上	—	端/端	△
B	閉			



31

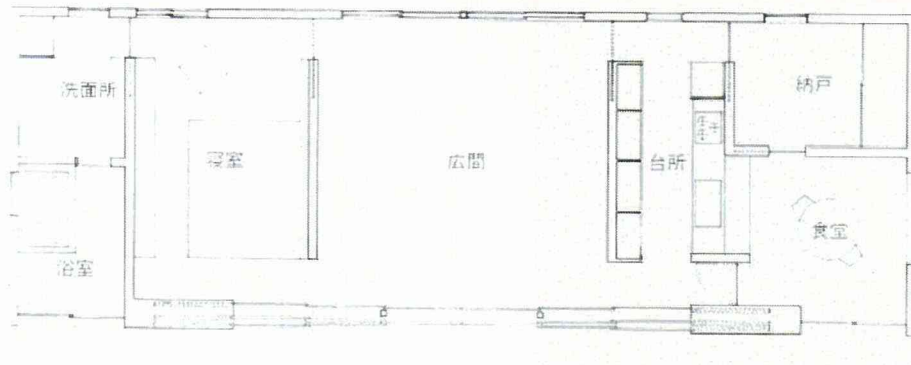
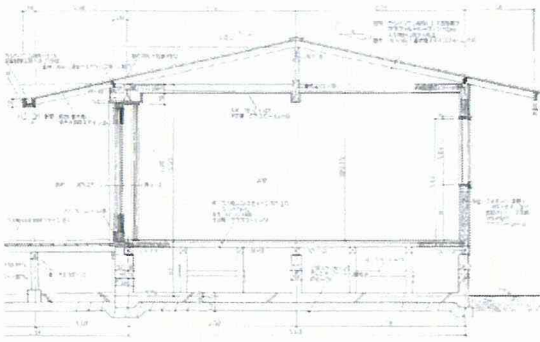
秋谷の家
堀部安嗣
jt9801

分節の形式
隣

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/端*

建築部位
△□



32

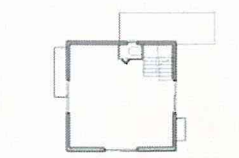
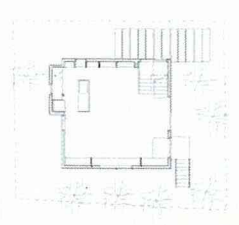
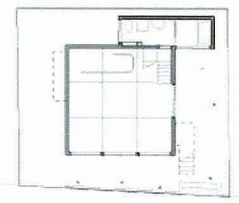
アニ・ハウス
アトリエ・ワン
jt9802

分節の形式
層下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
◆



33

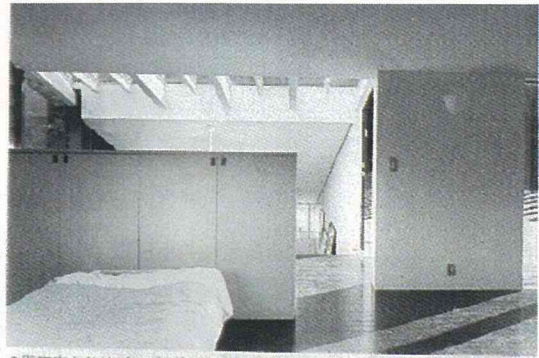
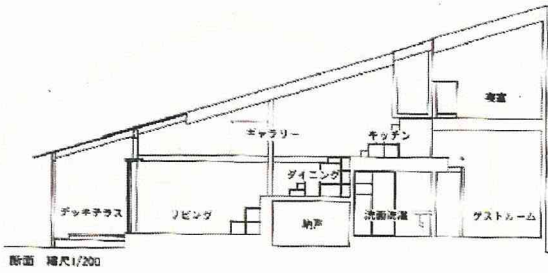
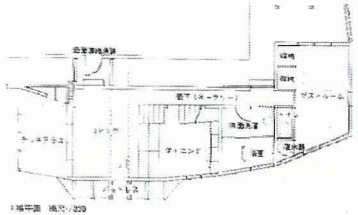
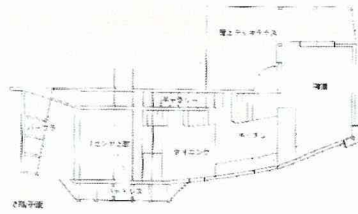
カムフラージュハウス1
井口浩
jt9802

分節の形式
段上

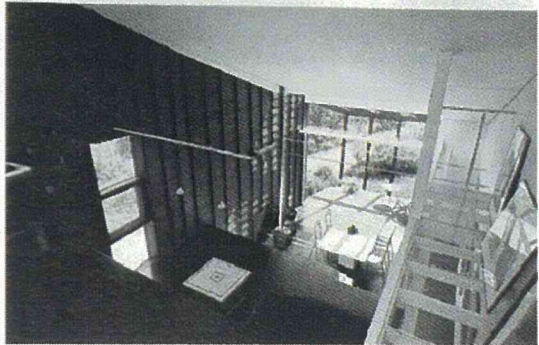
視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
△



2階寝室よりリビング方向を見る



34

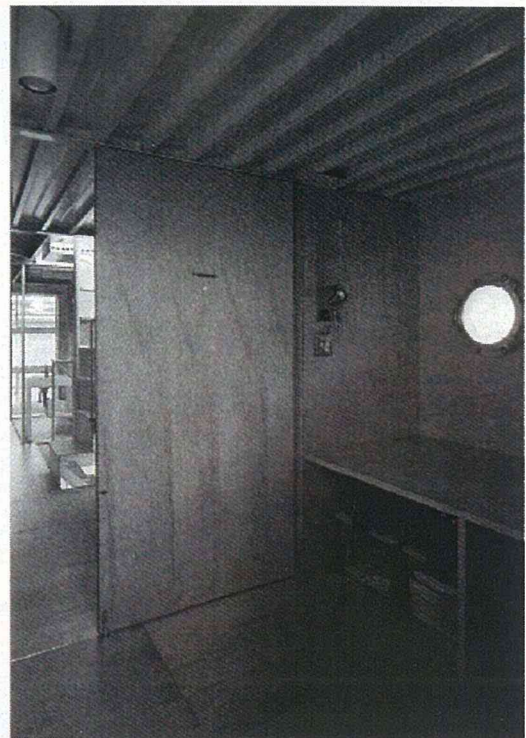
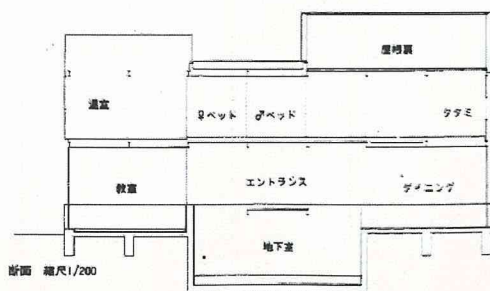
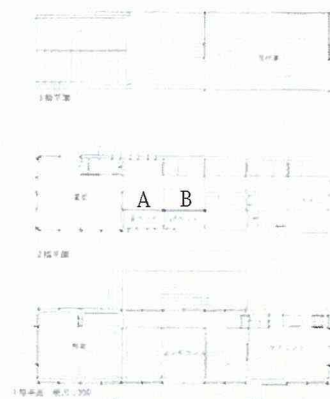
LIME HOUSE
北山恒
jt9803

分節の形式
A 隣
B 隣

視線による性格
=
=

動線による性格 (平面/断面)
端/中
端/中

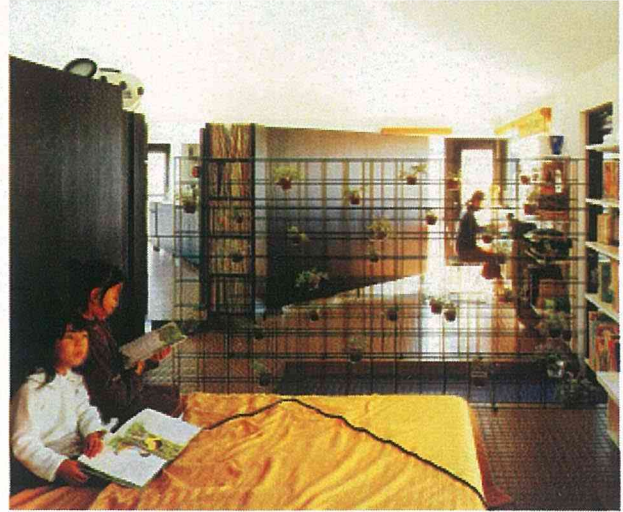
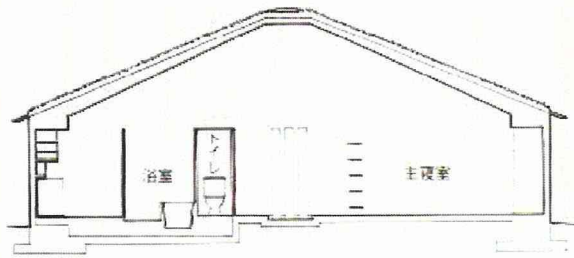
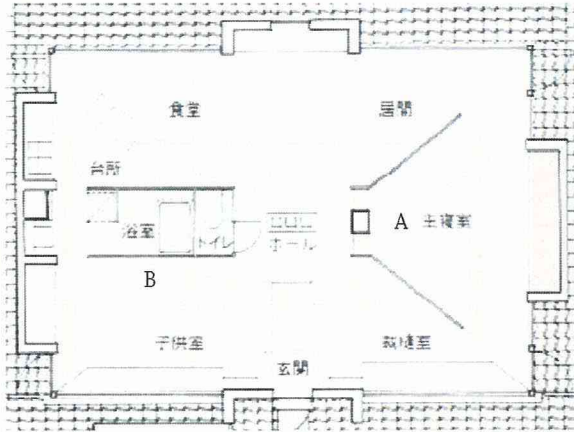
建築部位
C
C



35

A LITTLE HOUSE
白川直行
jt9805

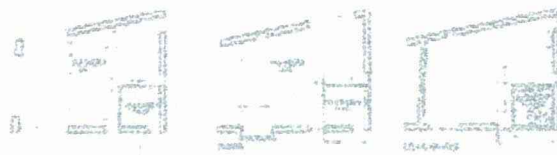
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 隣		中/端*	△
B 隣		中/端*	△



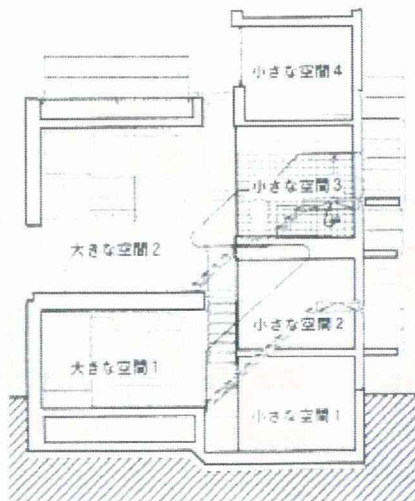
36

大きな空間と小さな空間の家
増田 実
jt9805

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
隣	=	中/中	



1986-12/1987



37

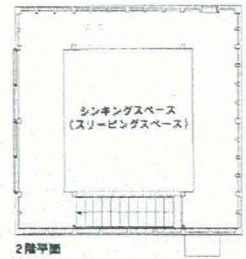
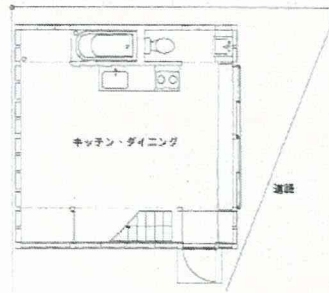
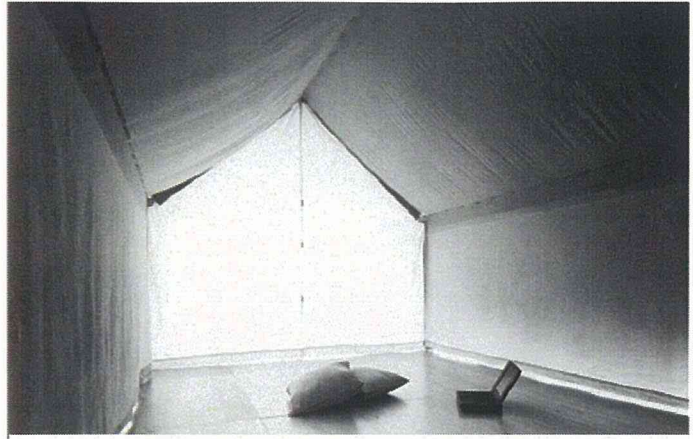
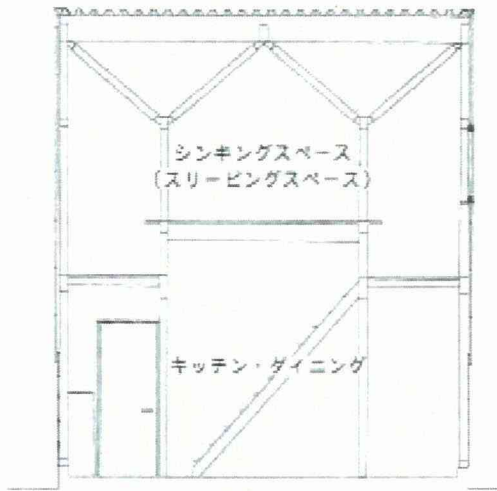
考え事の家
タカマスヨシコ
jt9811

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/端

建築部位



38

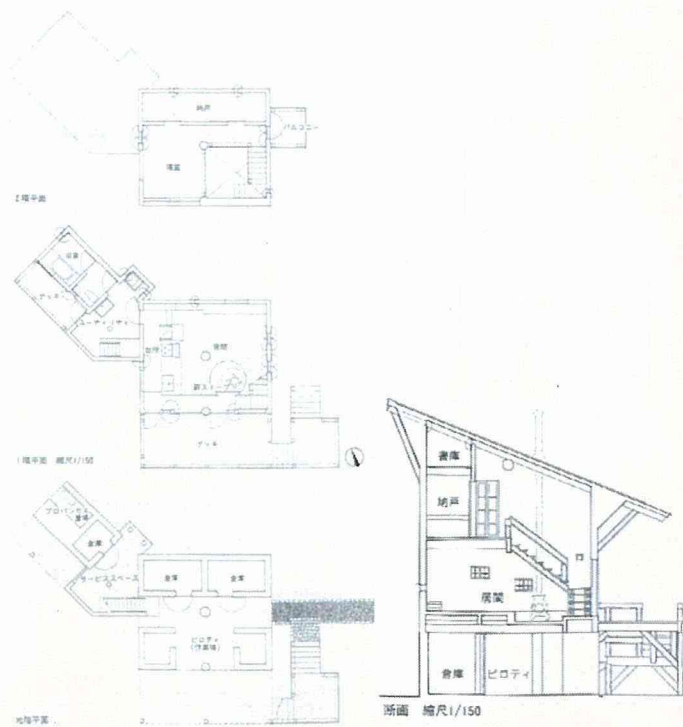
「里に住むひと」の家
島好常
jt9908

分節の形式
積上

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端

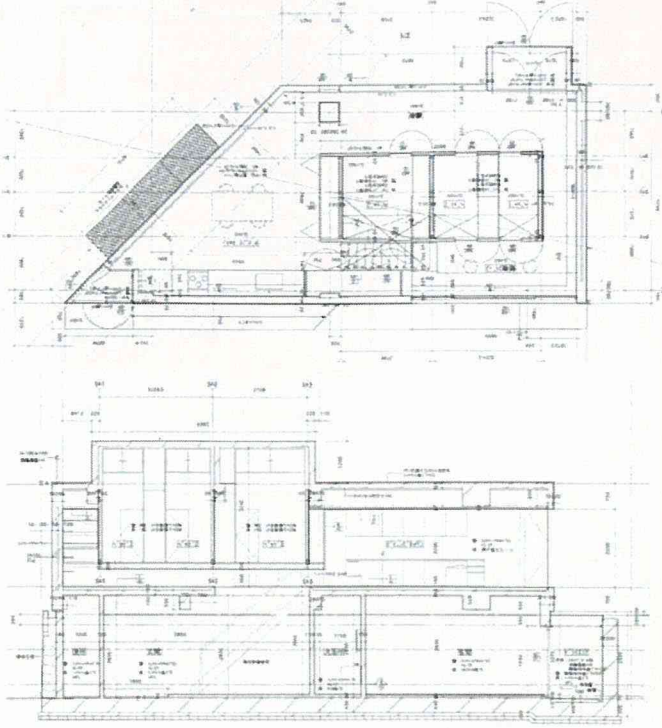
建築部位
△



41

L
青木淳
jt0004

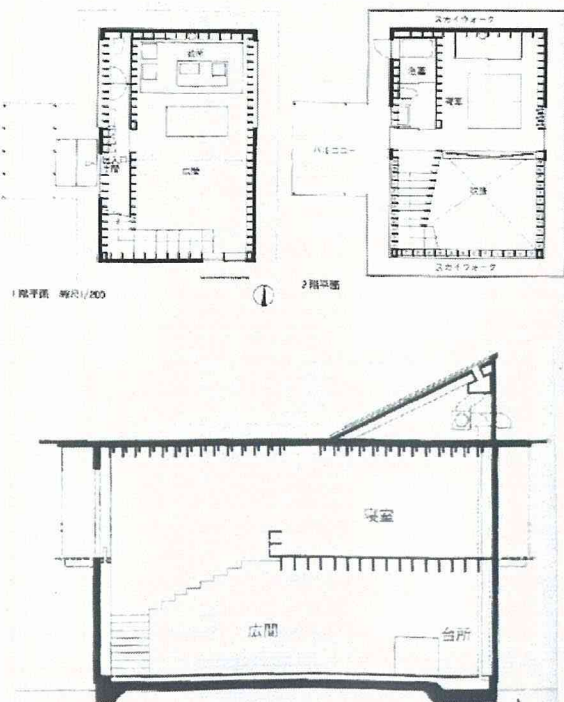
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 隣		中/端	C
B 隣		中/端	C
C 隣		端/端	C



42

葦崎みなむらの家
中澤建築工房
jt0008

分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
積上	—	端/端	き



45

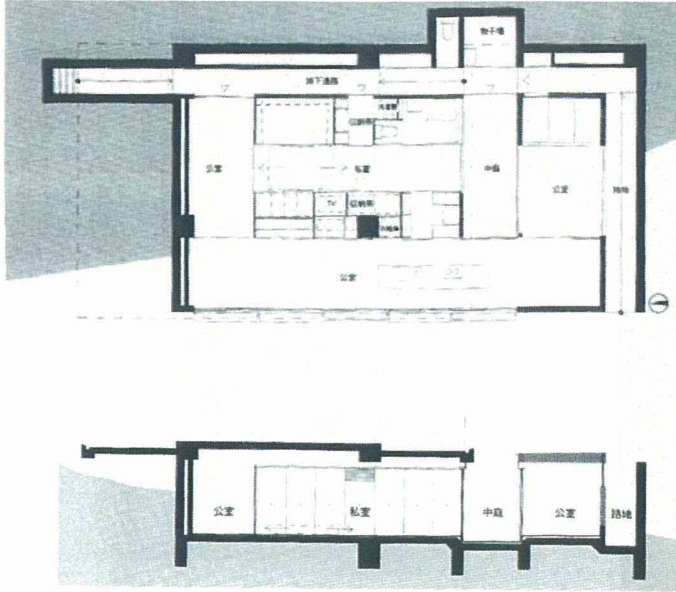
つなね 2-01
阿久津友嗣
jt0012

分節の形式
隣

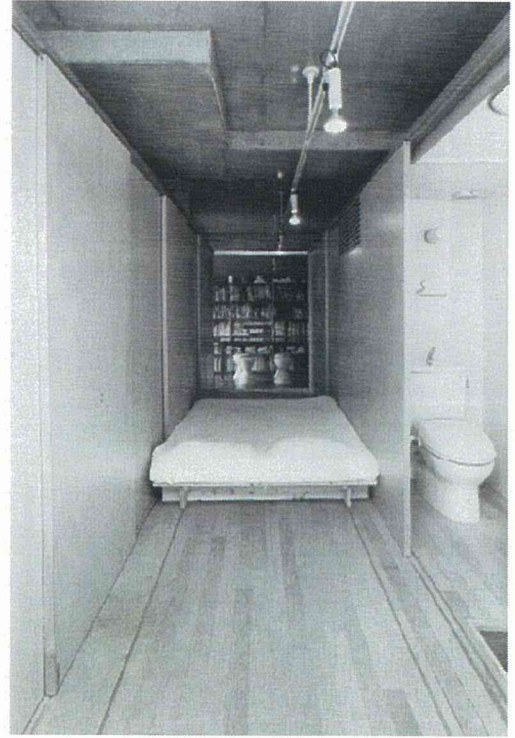
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/端*

建築部位
C



東西断面 縮尺1/200



46

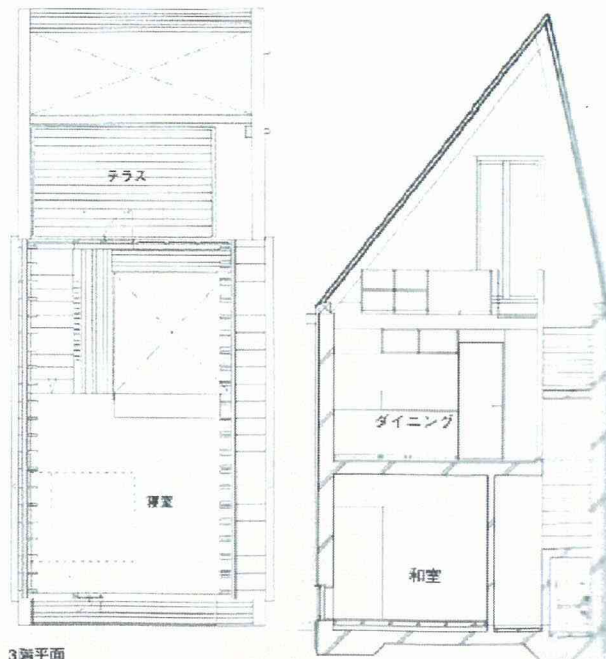
世田谷上町の家
田井幹夫
jt0101

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
A□



3階平面



47

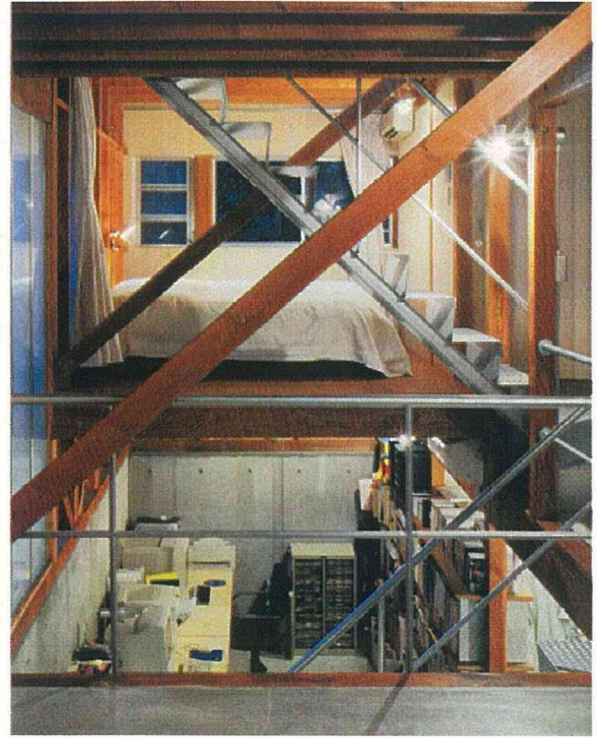
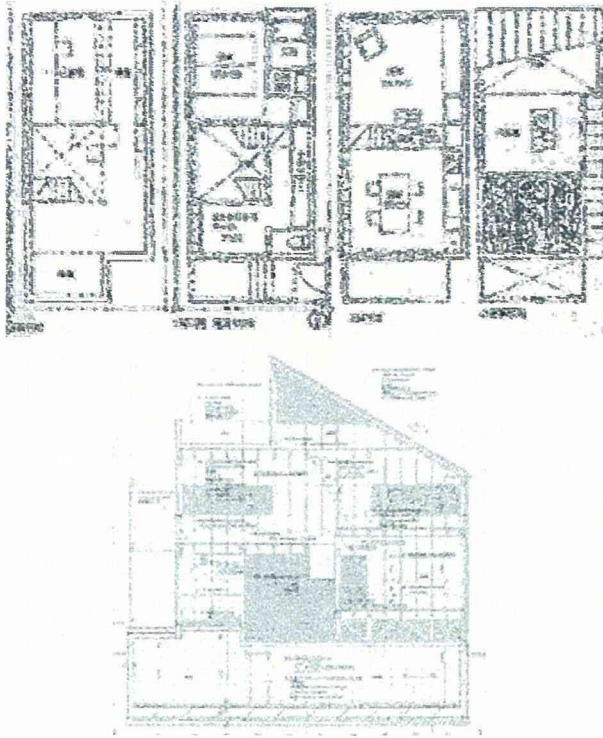
大和町の家
大塚聡
jt0102

分節の形式
層上

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
端/中

建築部位



48

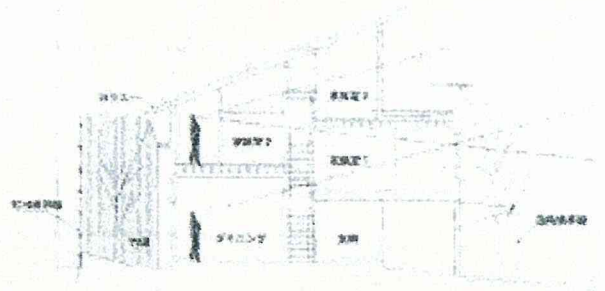
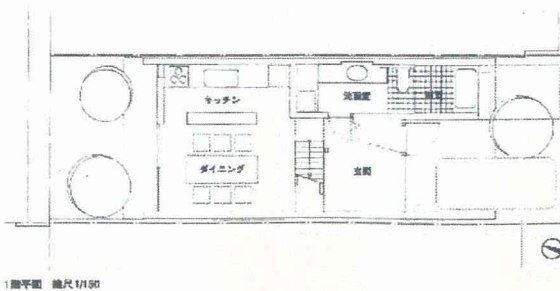
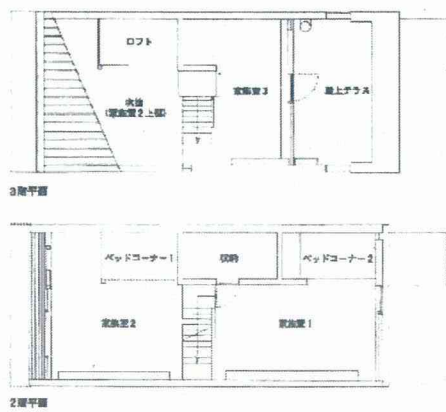
紫野の家
長坂大
jt0103

分節の形式
A 隣
B 隣

視線による性格
=
=

動線による性格(平面/断面)
端/中
端/中

建築部位
C
C



1階平面 縮尺 1/130

49

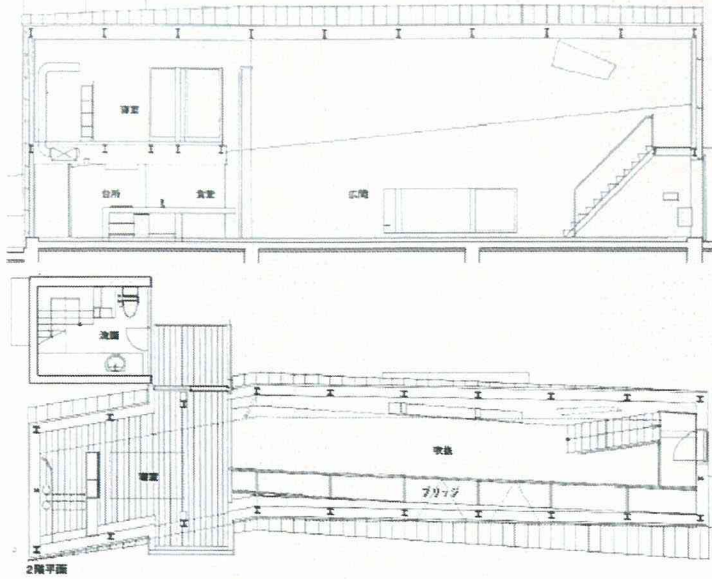
安城のスタジオ
竹山聖
jt0103

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格(平面/断面)
端/端

建築部位
△



50

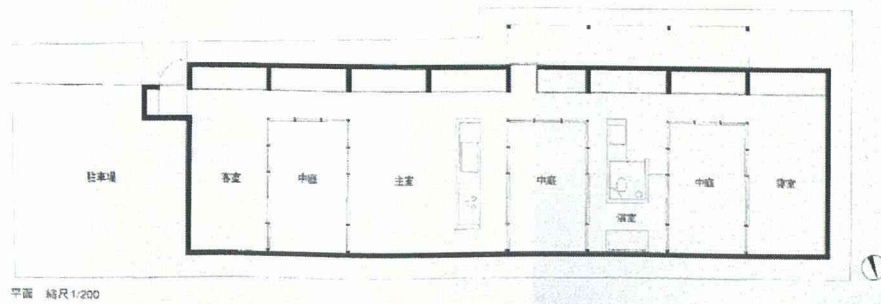
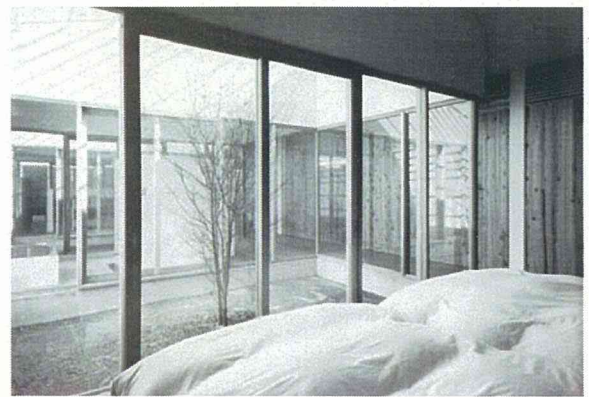
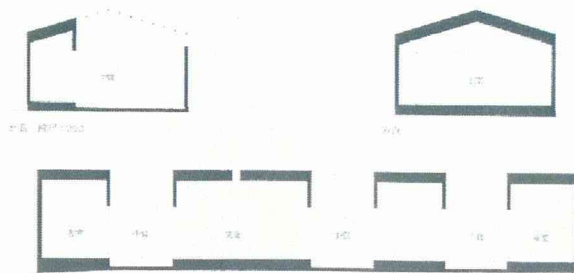
ふたりの家
林敬一
jt0104

分節の形式
隣

視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
端/端*

建築部位
□



51

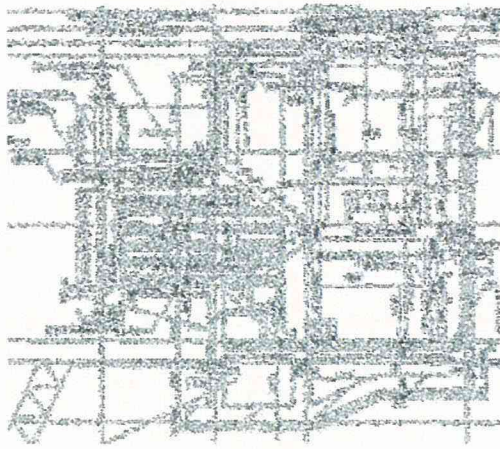
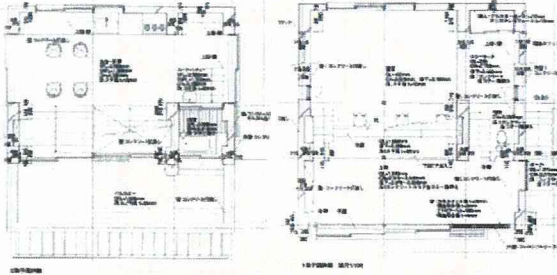
BARN-5
吉本剛
jt0110

分節の形式
段下

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位



52

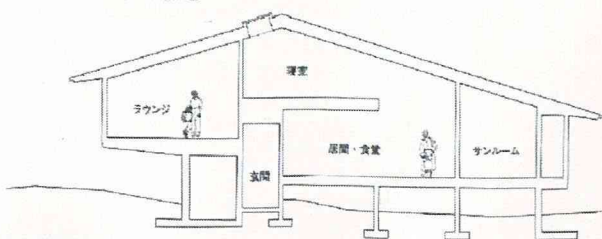
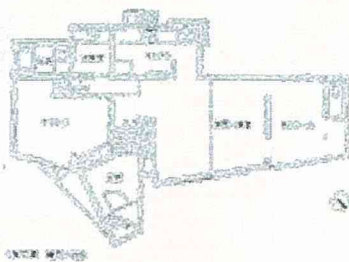
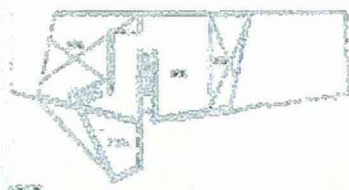
川奈の住宅
内海智行
jt0112

分節の形式
積上

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端

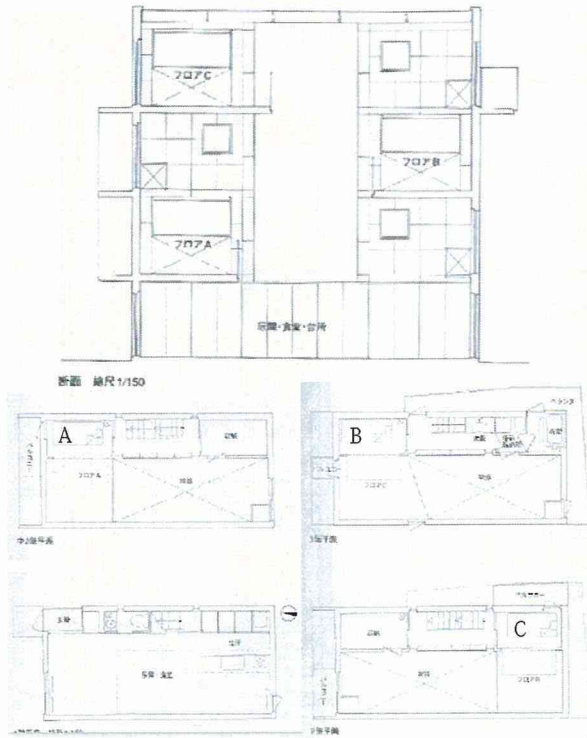
建築部位
^



53

代沢 M 邸
CLIP
jt0201

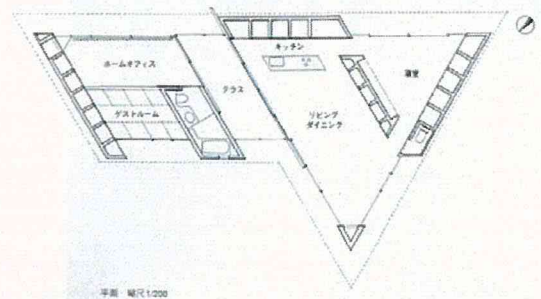
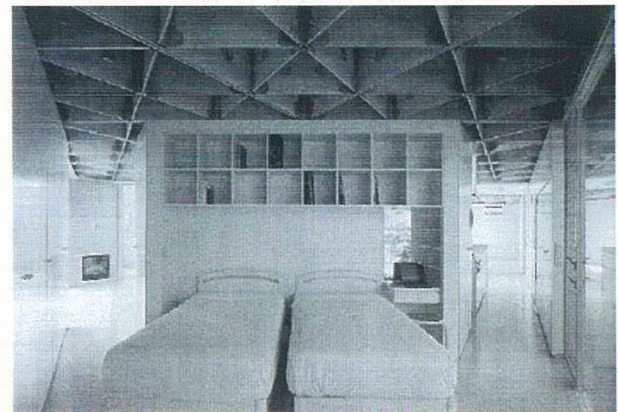
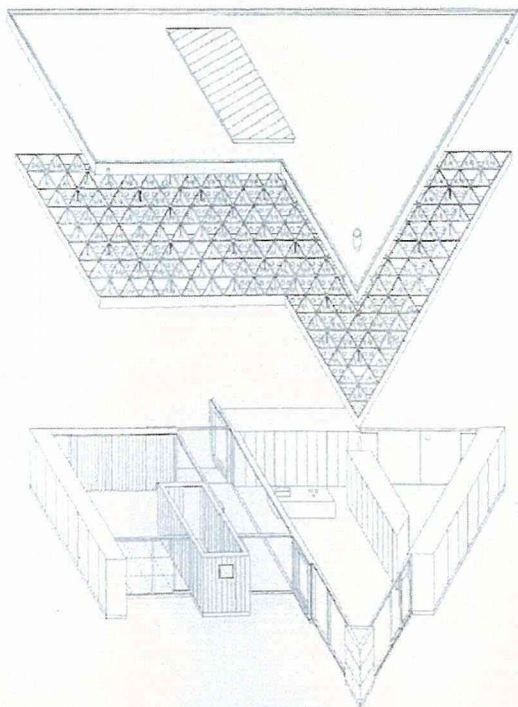
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 層上		中/中	C
B 層上		中/中	C
C 層上		中/端	C



54

ベニヤ三角格子の家
坂茂
jt0201

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
隣		中/端*	□



55

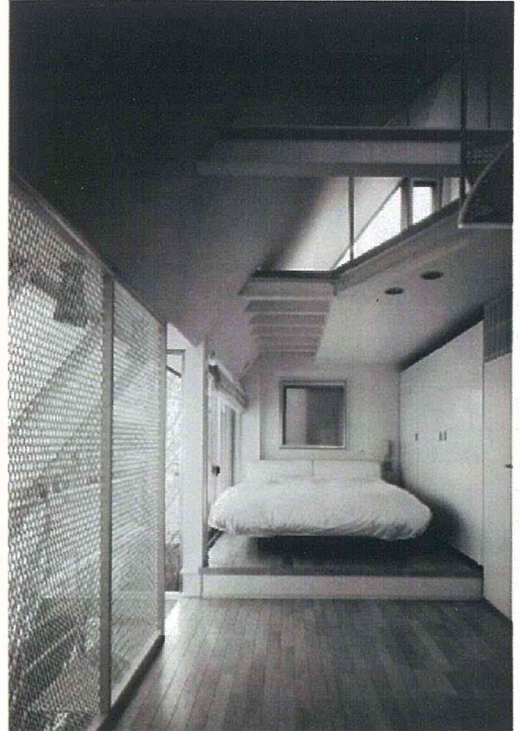
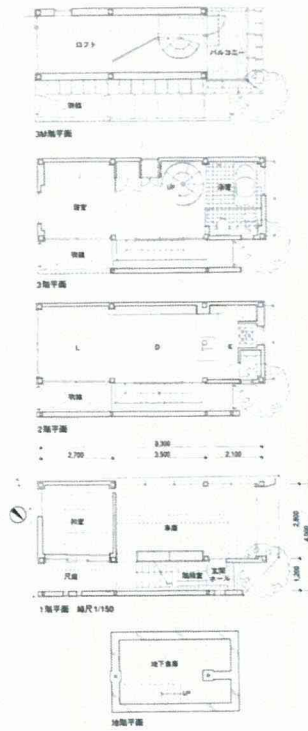
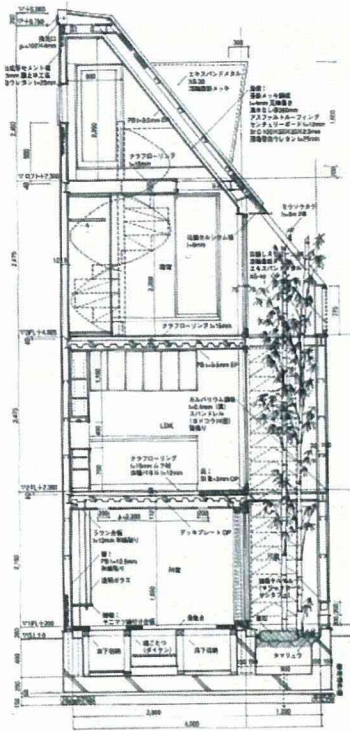
ちっちゃな家 # 7
杉浦伝宗
jt0203

分節の形式
積下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/中

建築部位
△



56

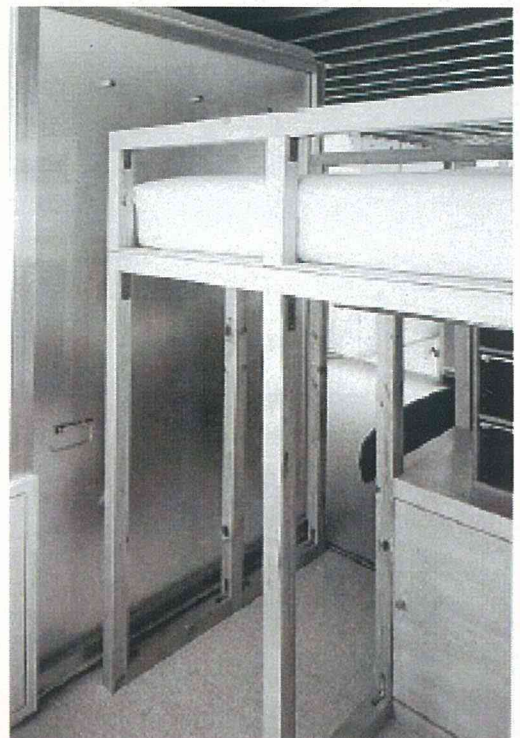
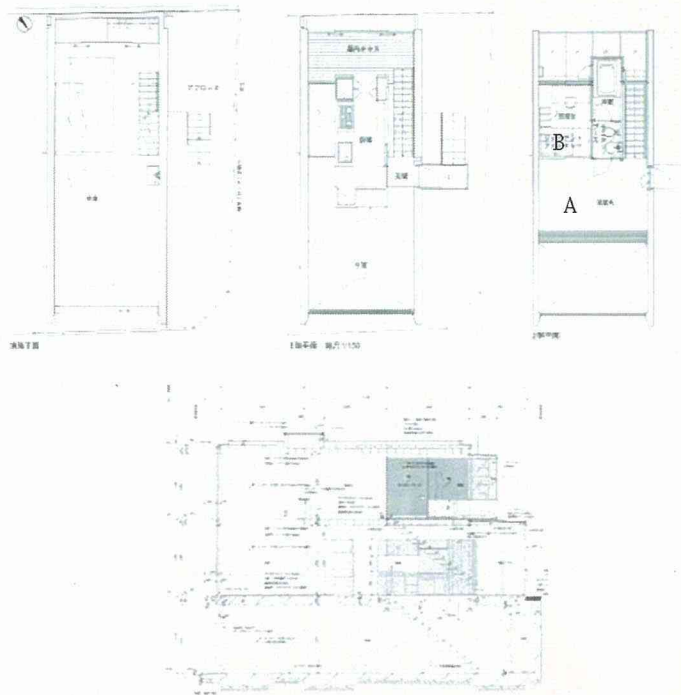
F1- ガレージ
横河健
jt0206

分節の形式
A 積上
B 閉

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
中/端

建築部位



57

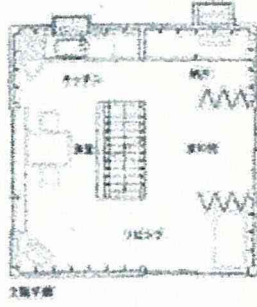
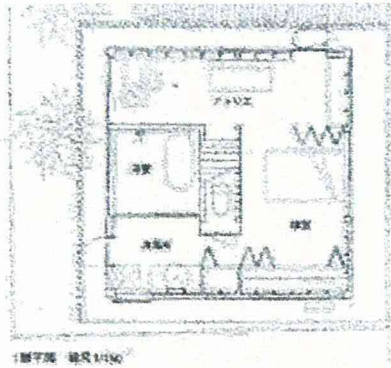
ダス・ハウス
アトリエ・ワン
jt0206

分節の形式
隣

視線による性格
|

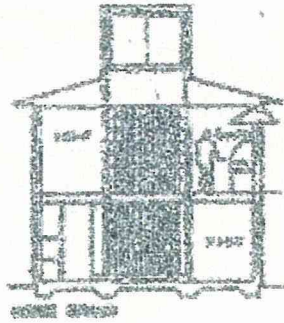
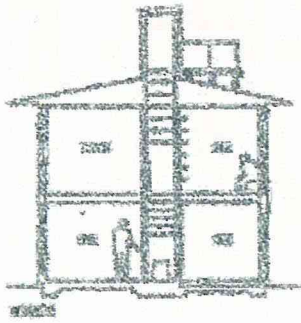
動線による性格(平面/断面)
中/中

建築部位



1F 平面図 縮尺 1/100

2F 平面図



58

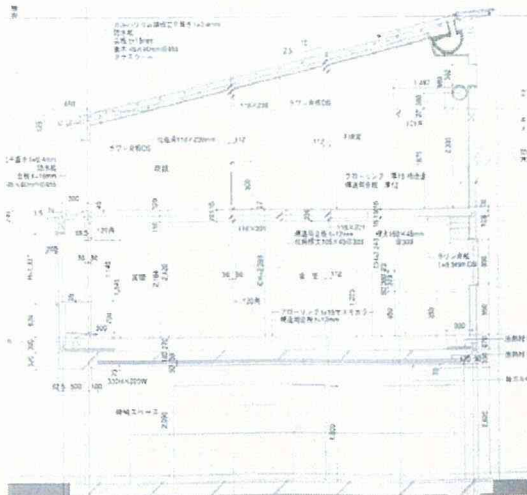
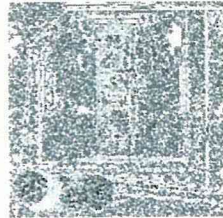
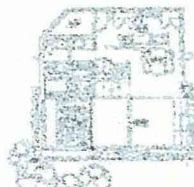
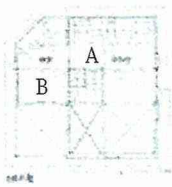
川口の家
西島正樹
jt0206

分節の形式
A 積上
B 閉

視線による性格
—

動線による性格(平面/断面)
端/端

建築部位
△



59

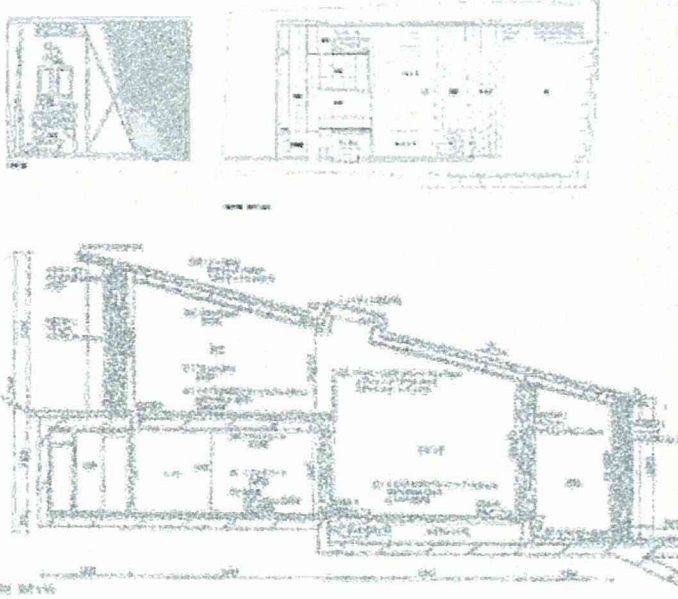
熱海のステップハウス
手塚貴晴 + 手塚由比
jt0208

分節の形式
積上

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
△□



60

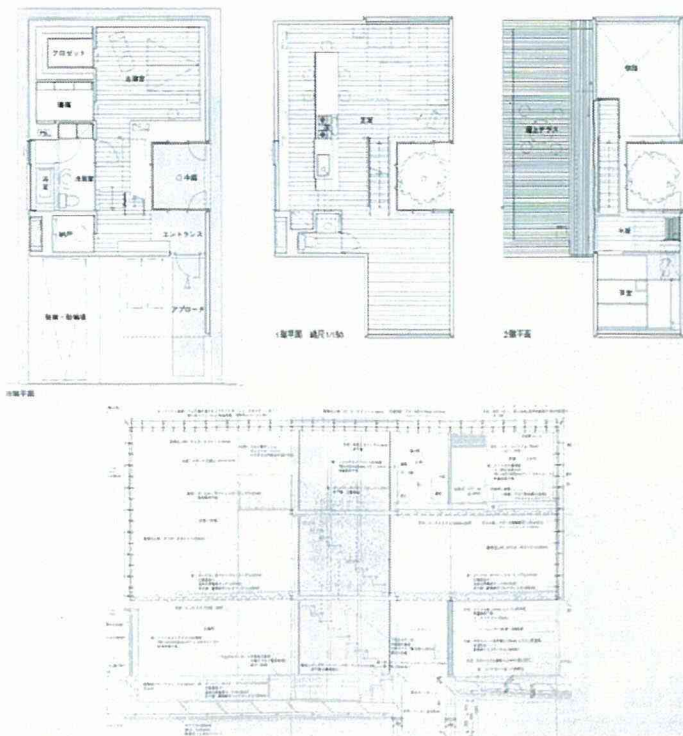
M邸
横河健
jt0208

分節の形式
段下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
◆



61

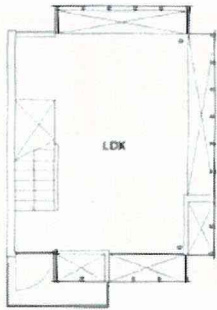
ペンギンハウス
アトリエ・天工人
jt0210

分節の形式
層下

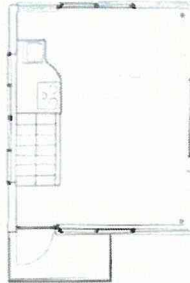
視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
中/中

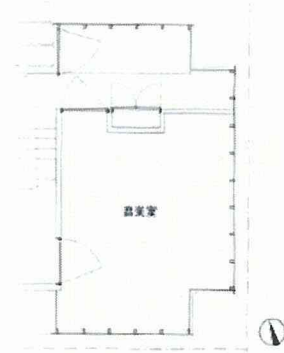
建築部位



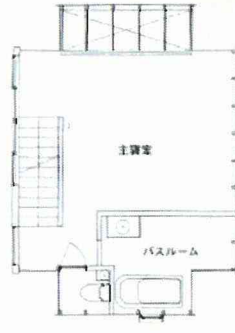
3階平面



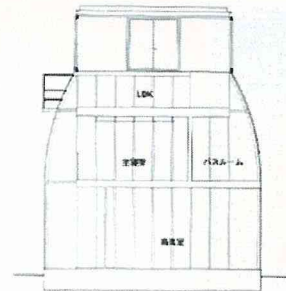
3階平面+1,200mm



2階平面 縮尺 1/150



2階平面



断面 縮尺 1/150

62

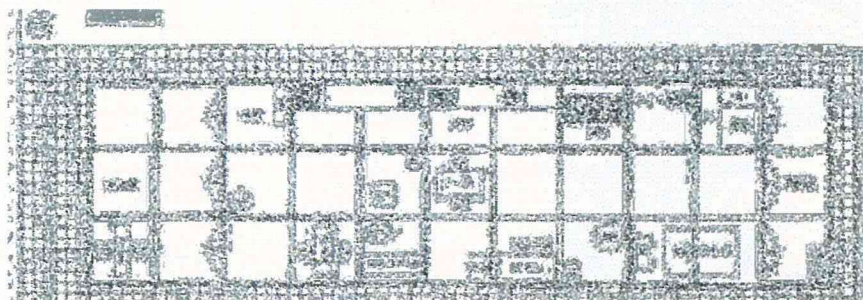
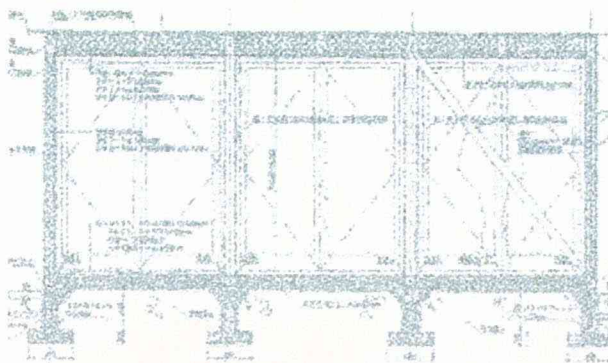
矩形の森
五十嵐淳
jt0212

分節の形式
隣

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
端/端*

建築部位
□



63

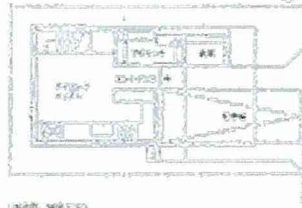
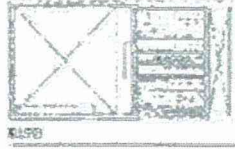
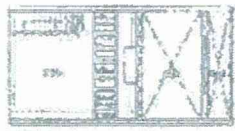
簾庵
松葉カ+テレデザイン
jt0302

分節の形式
積上

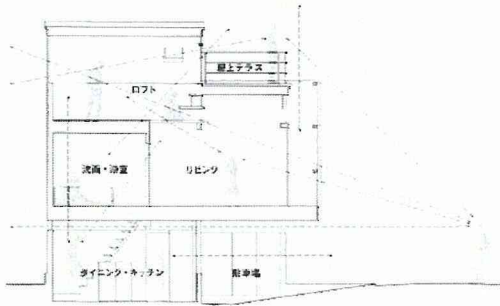
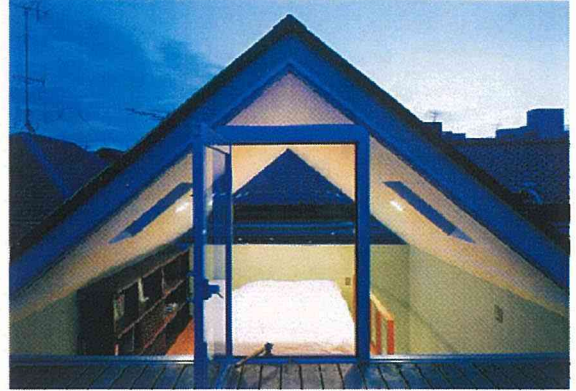
視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
端/端

建築部位
△



1階平面 縮尺1/50



64

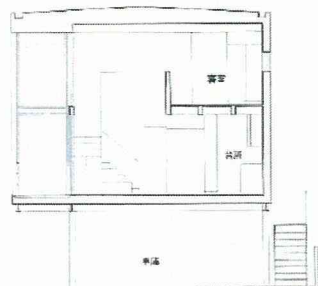
箱の家-58
難波和彦
jt0304

分節の形式
A 積上
B 積上

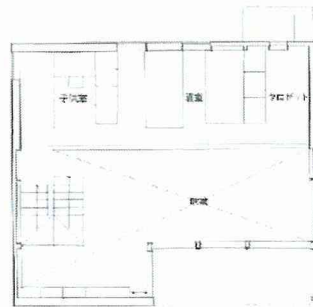
視線による性格
—
—

動線による性格(平面/断面)
中/端
端/端

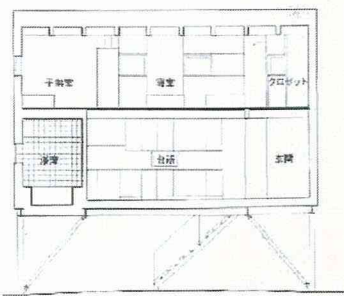
建築部位



断面 縮尺1/150



3階平面



2階平面



65

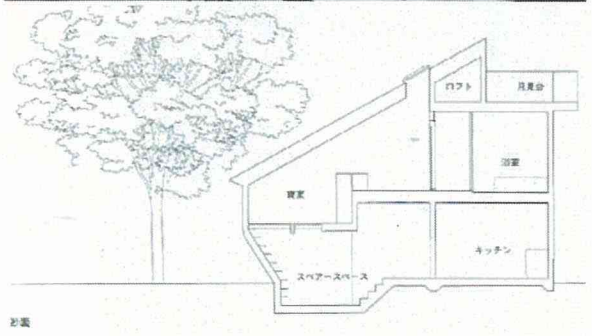
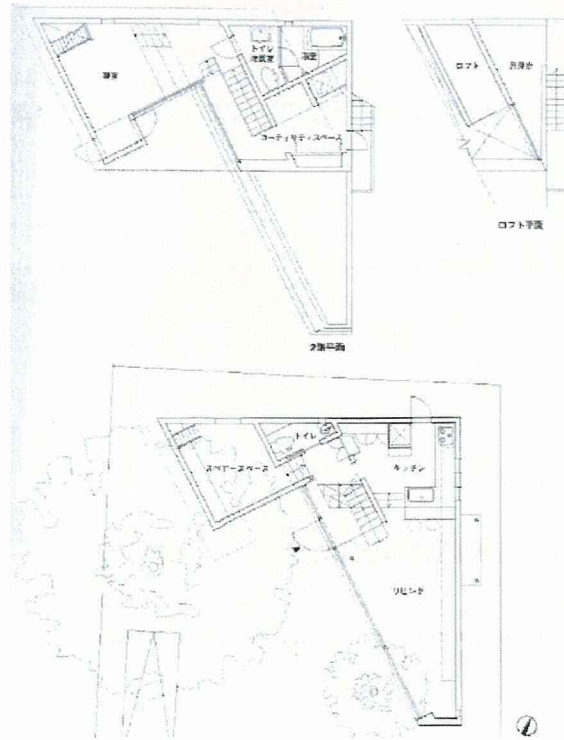
扇ヶ谷の住宅
内海智行
jt0304

分節の形式
段下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/中

建築部位



66

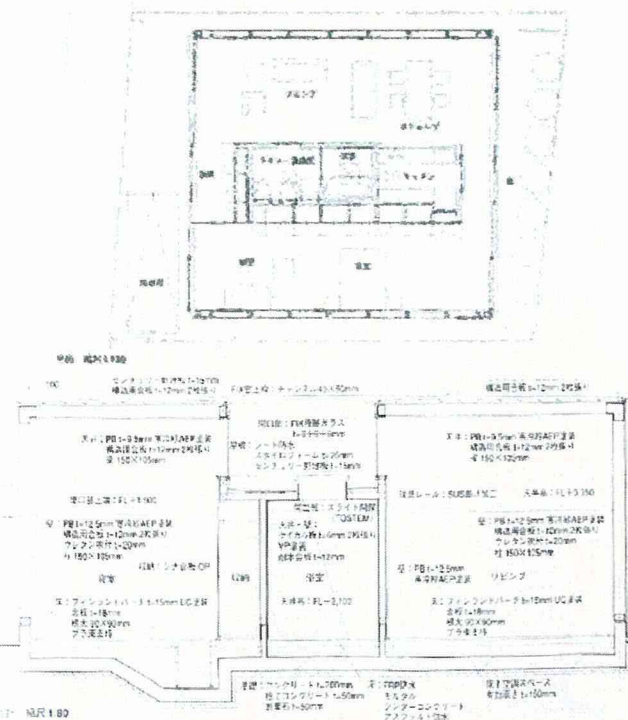
空を捕まえる家Ⅲ
手塚貴晴 + 手塚由比
jt0307

分節の形式
隣

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/端*

建築部位
□



67

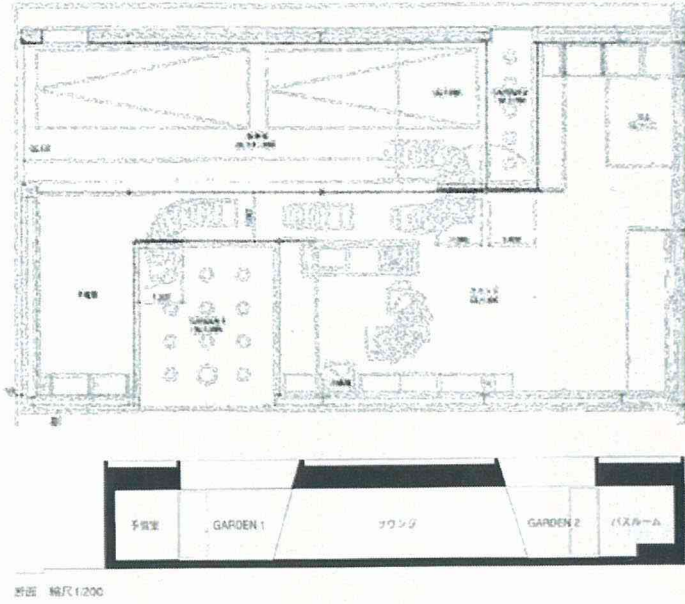
DEVICE # 9
前田紀貞
jt0308

分節の形式
隣

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端*

建築部位
□



68

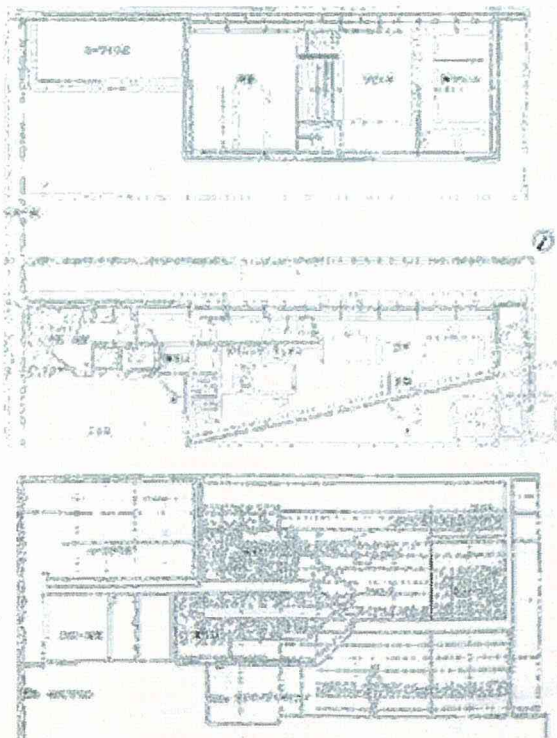
SoHo
宮本佳明
jt0309

分節の形式
段下

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
中/中

建築部位
△



69

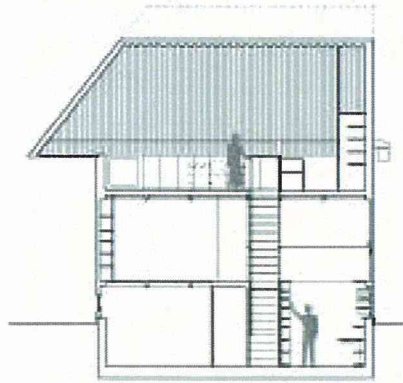
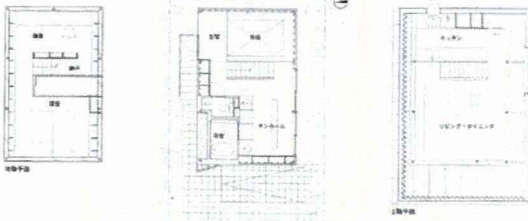
ガエ・ハウス
アトリエ・ワン
jt0310

分節の形式
層下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
◆



70

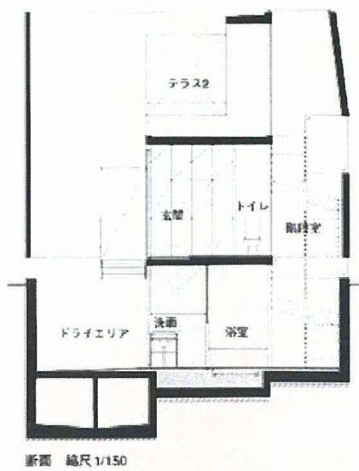
殻の家
田辺芳生
jt0311

分節の形式
層下

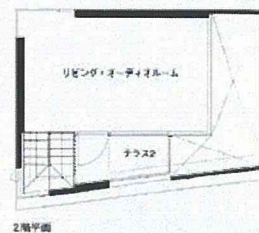
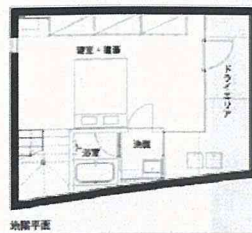
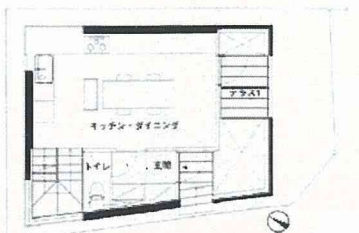
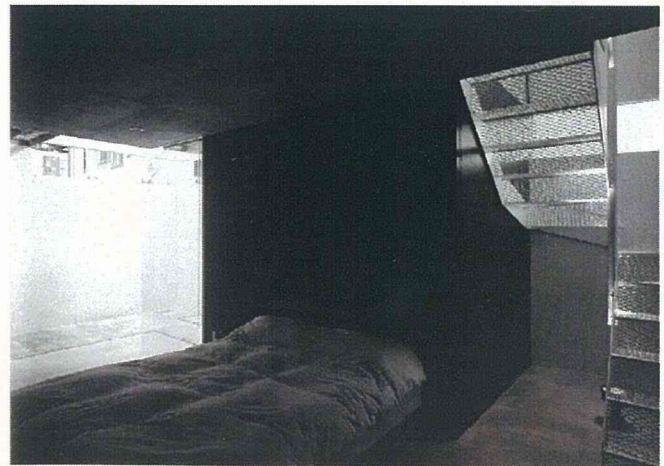
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
◆



断面 縮尺 1/150



71

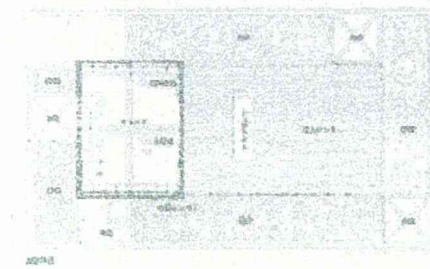
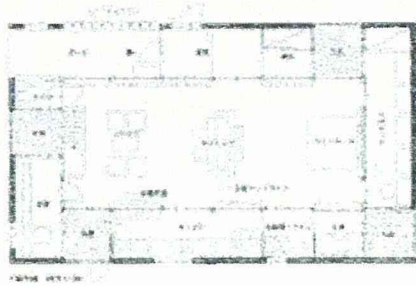
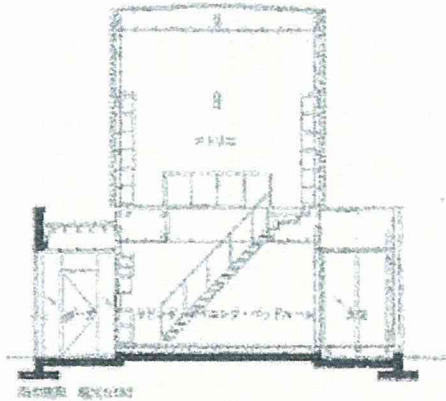
回 (カイハウス)
 中藺哲也 + 中佐昭夫
 jt0401

分節の形式
 隣

視線による性格
 =

動線による性格 (平面/断面)
 中/中

建築部位



72

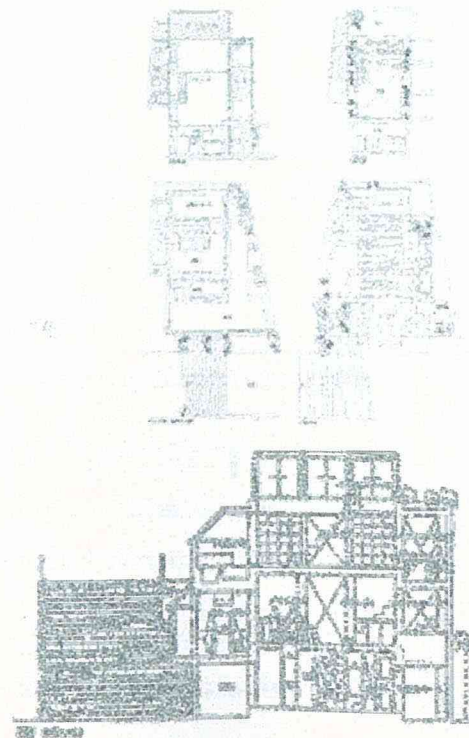
ヨコハマハウス
 安立悦子
 jt0402

分節の形式
 A 積上
 B 隣

視線による性格
 =
 =

動線による性格 (平面/断面)
 端/端
 端/中

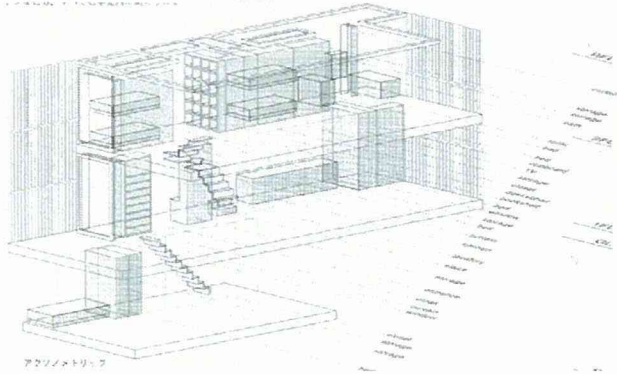
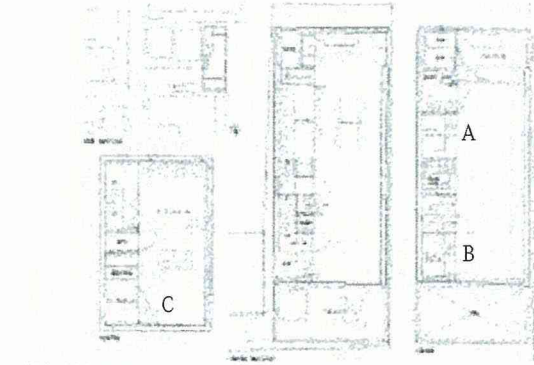
建築部位
 □
 C



73

引き出しの家
nendo
jt0404

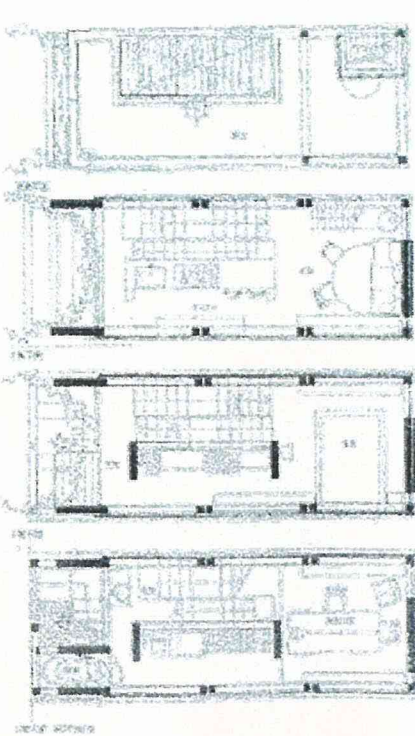
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 隣		端/端	C
B 隣		端/端	C
C 隣		端/端	C



74

積層の家
大谷弘明
jt0405

分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
層下		中/中	



75

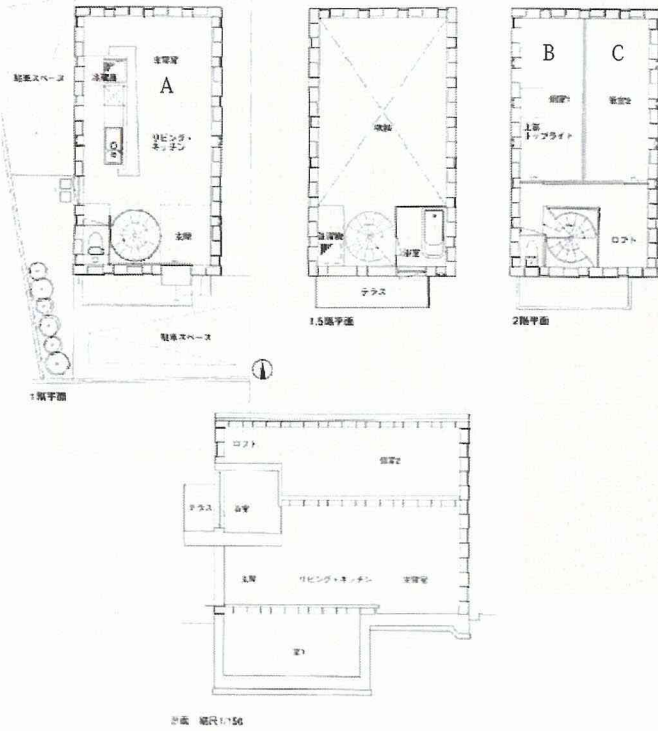
セル・ブリック
アトリエ・天工人
jt0405

分節の形式
A 段下
B 閉
C 閉

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
端/端

建築部位



76

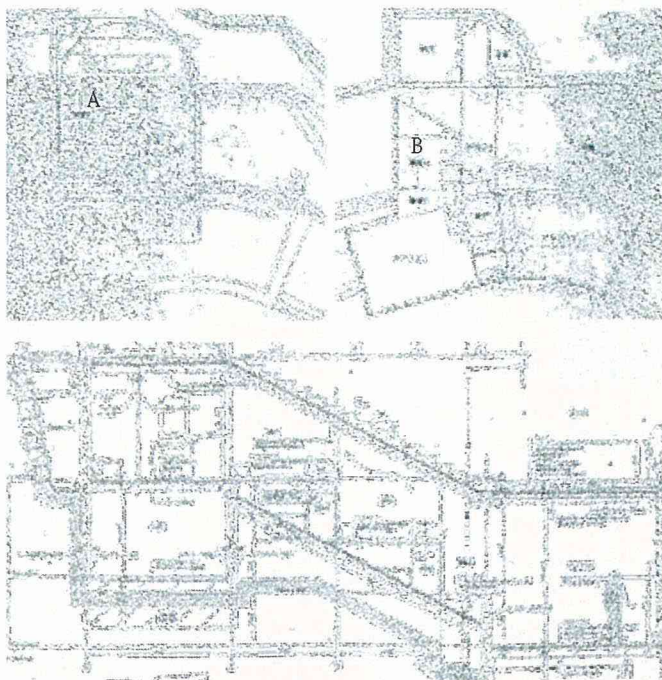
イズハウス
アトリエ・ワン
jt0406

分節の形式
A 段上
B 段上

視線による性格
=
=

動線による性格(平面/断面)
中/中
中/中

建築部位
^
^



77

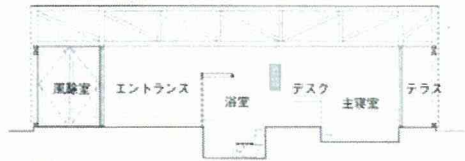
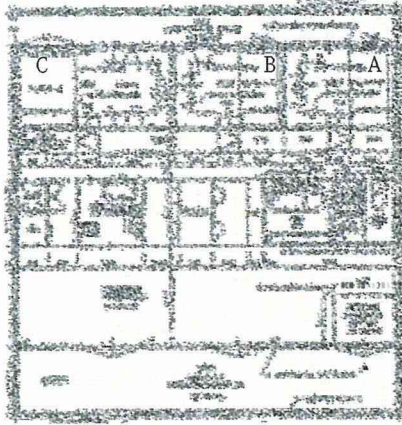
トラス下の矩形
五十嵐淳
jt0409

分節の形式
A 段下
B 段下
C 段下

視線による性格
=
=
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端*
端/端*
端/端*

建築部位
△□
△□
△□



78

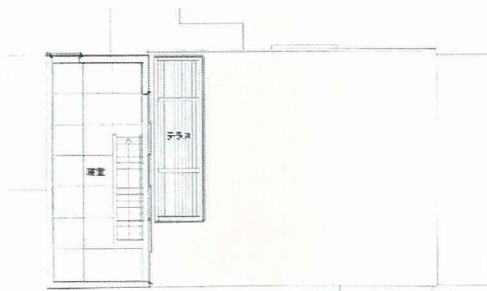
atu house
塩塚隆生
jt0410

分節の形式
層上

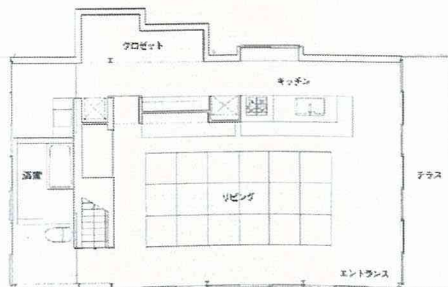
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

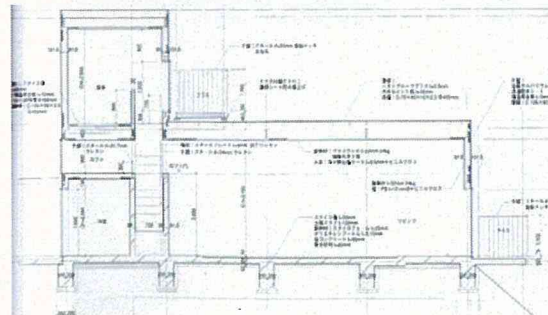
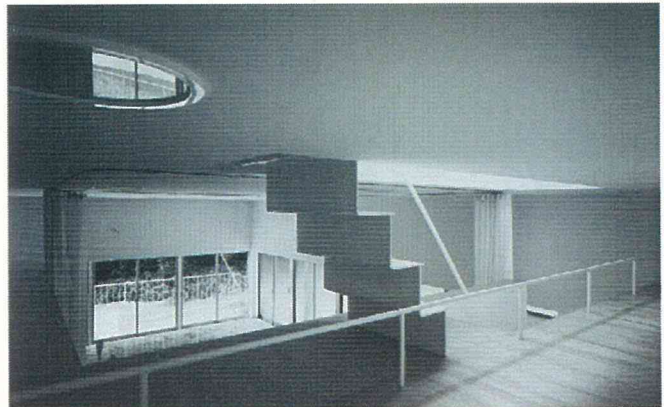
建築部位
□



1階平面



1階平面 縮尺 1/100



79

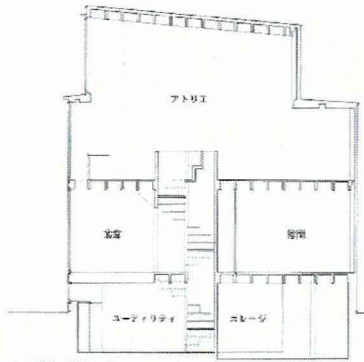
クス・ハウス
アトリエ・ワン
jt0410

分節の形式
隣

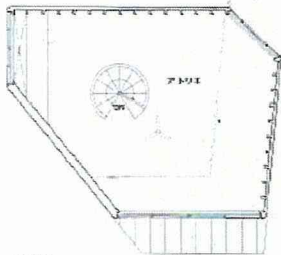
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/中

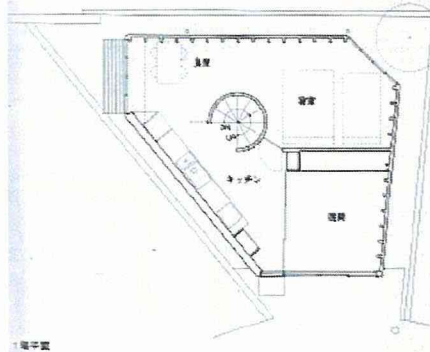
建築部位
□



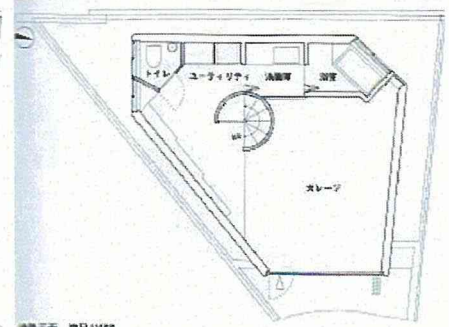
1階平面 縮尺1/150



2階平面



3階平面



4階平面 縮尺1/150

80

昭島ハウス
西沢大良
sk0411

分節の形式
隣

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/端

建築部位

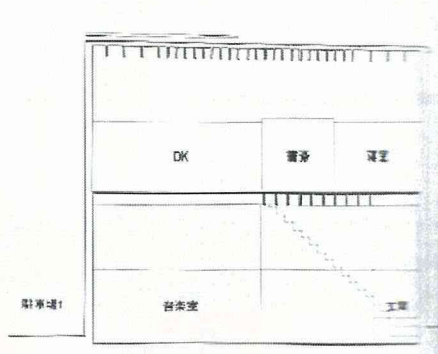


1階平面 縮尺1/200

1.5階平面

2階平面

2.5階平面



駐車場



81

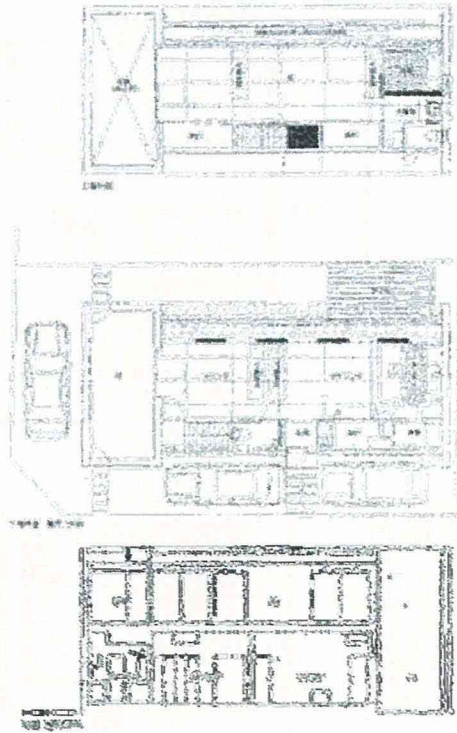
Lucky Drops
山下保博
jt0504

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
△



82

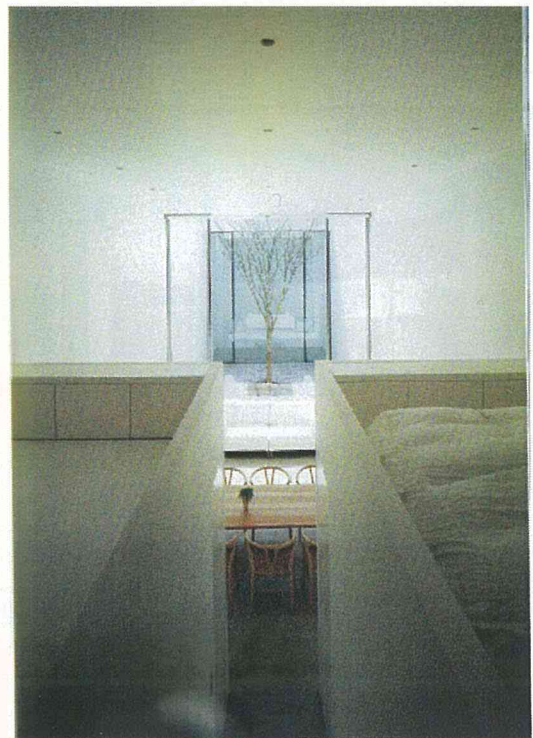
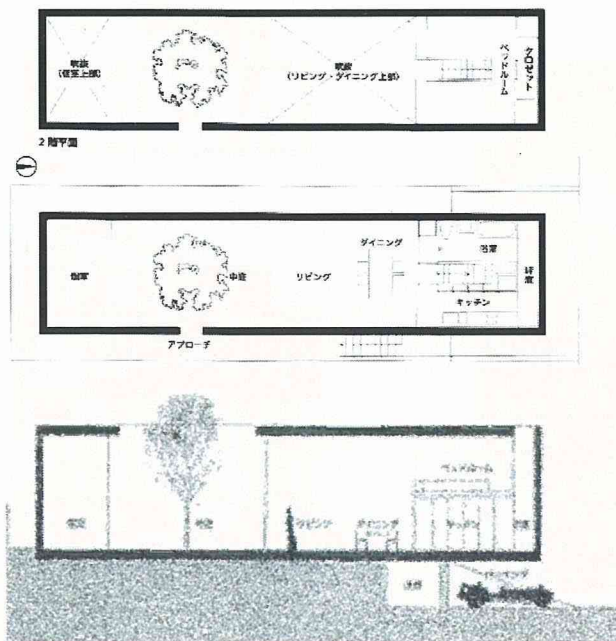
LOFT HOUSE
小川晋一
jt0508

分節の形式
積上

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位



83

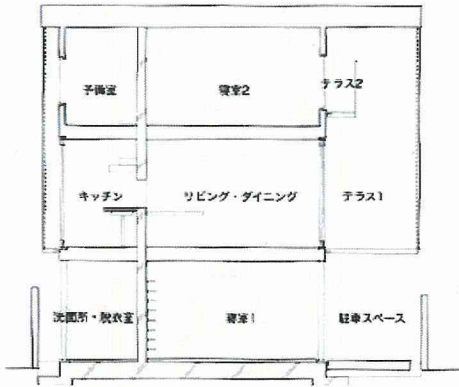
B house (夫婦)
atlier A5
jt0508

分節の形式
A 層上
B 閉

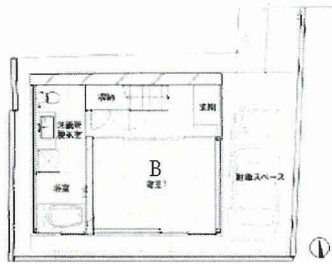
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

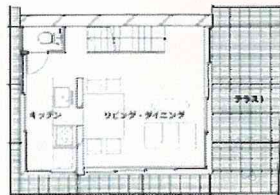
建築部位



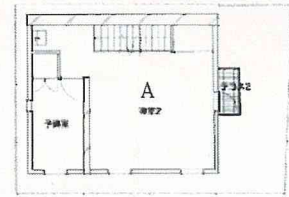
断面1 縮尺 1/150



1階平面 縮尺 1/100



2階平面



3階平面

84

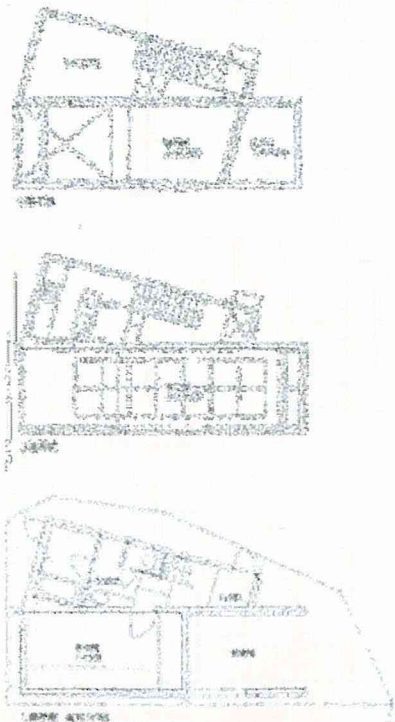
ホルニストの家
二瓶渉+古谷清寿
jt0510

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位



1階平面 縮尺 1/100



85

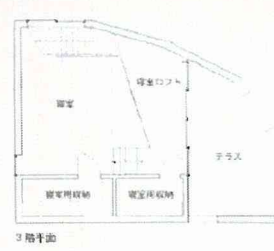
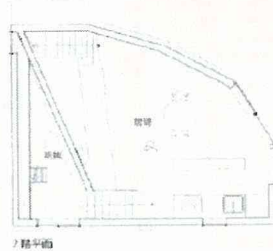
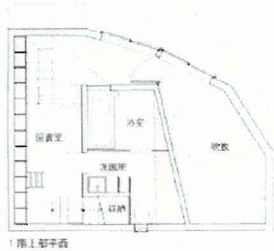
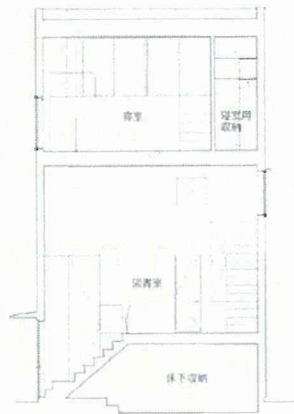
アコ・ハウス
アトリエ・ワン
jt0511

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
□



86

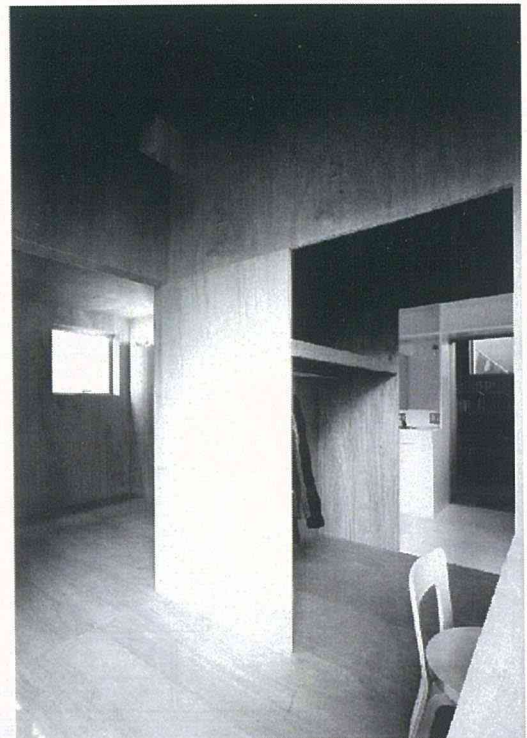
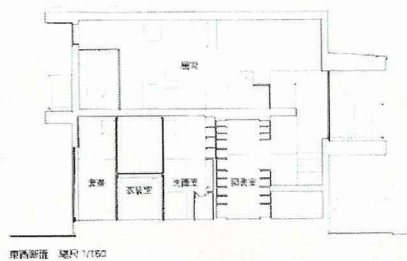
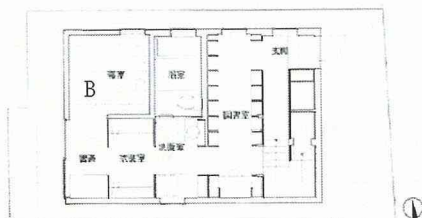
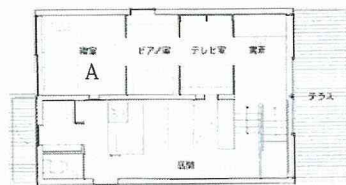
ガク・ハウス
アトリエ・ワン
jt0601

分節の形式
A 隣
B 隣

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/中
端/中

建築部位
C
C



87

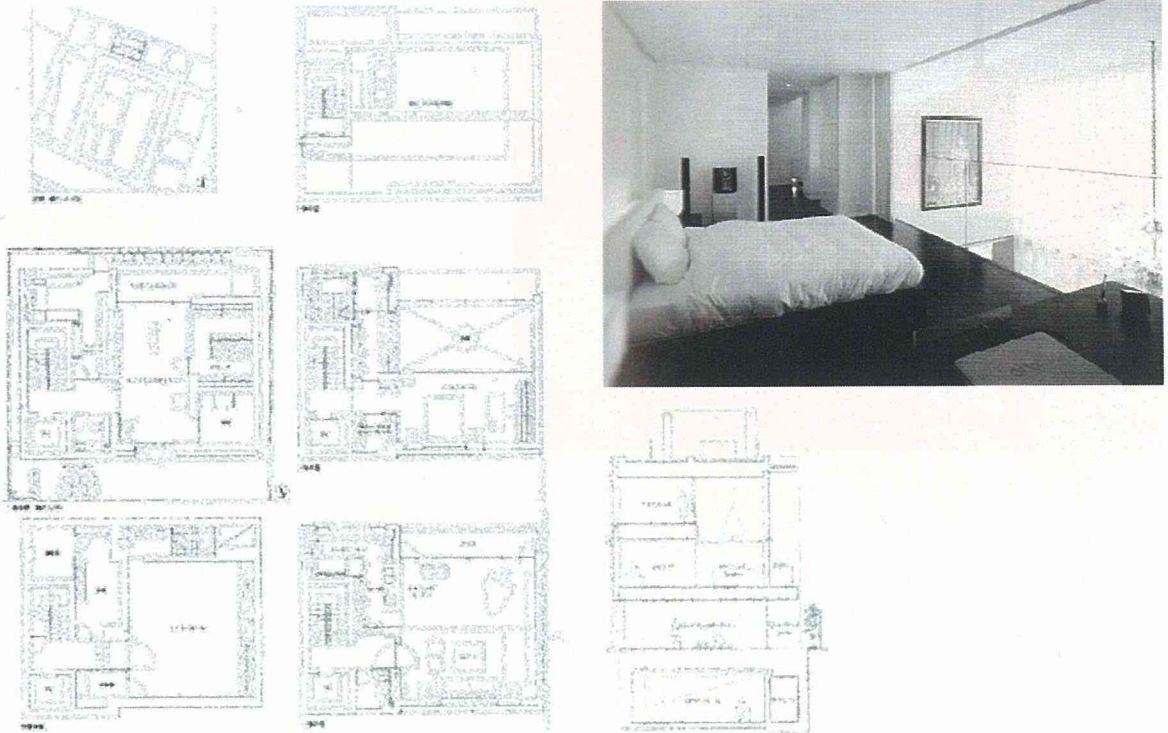
南青山の家
板倉建築研究所
jt0602

分節の形式
積上

視線による性格
=

動線による性格(平面/断面)
端/端

建築部位



88

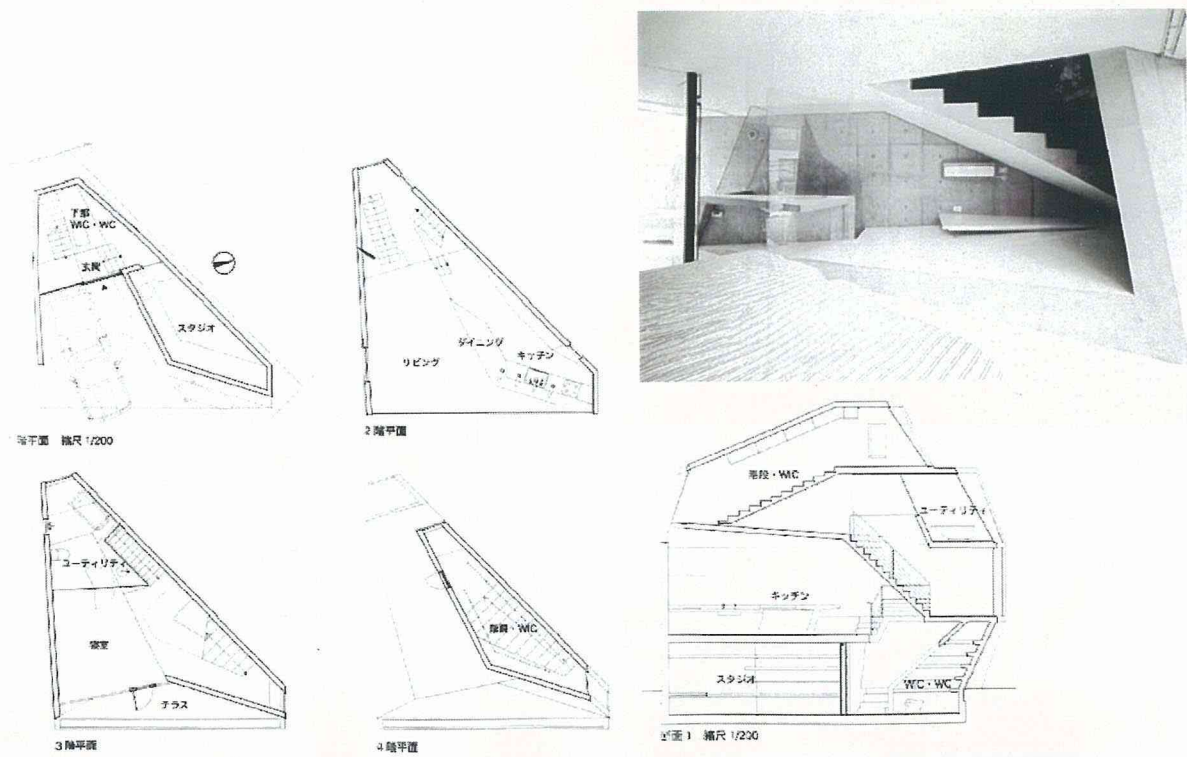
DoubleBlind
上田知正+坂野修崇
jt0602

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
中/中

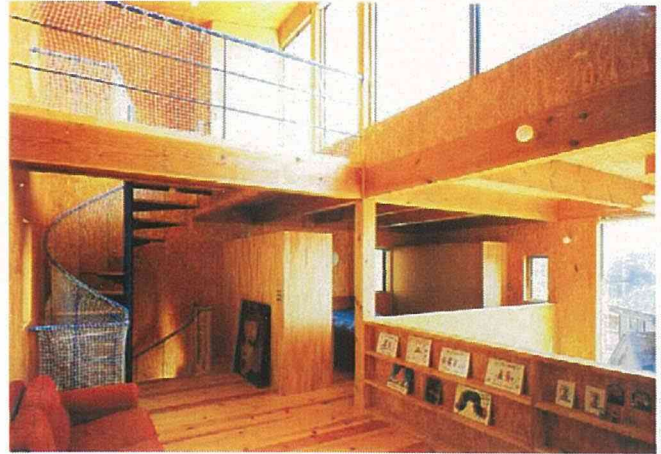
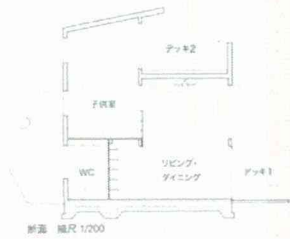
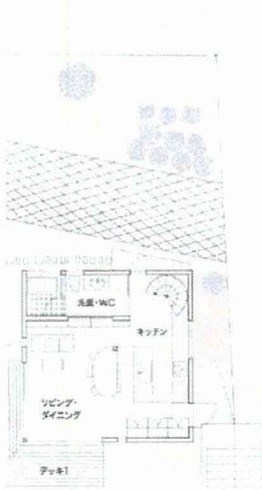
建築部位



89

6.6
オデッセイ オブ イスカ
jt0604

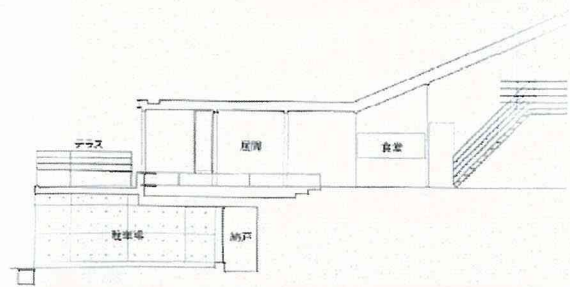
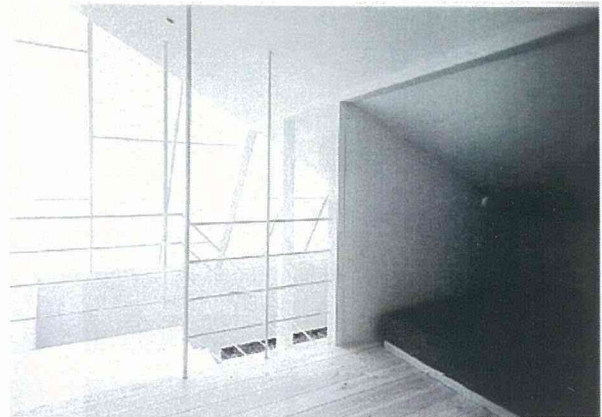
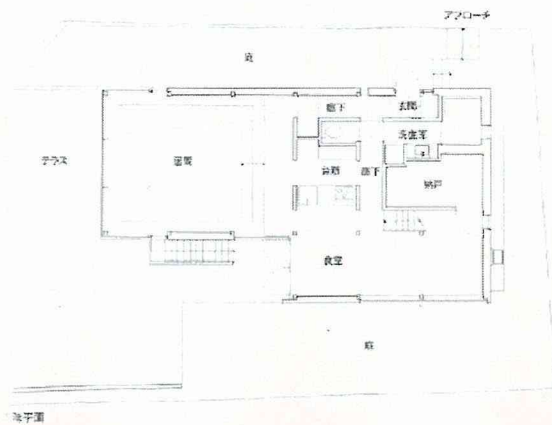
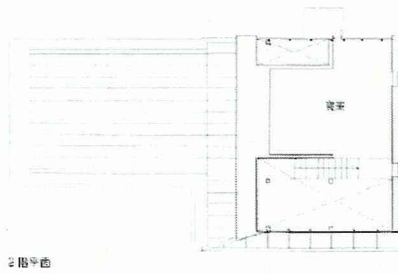
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 積上	—	端/中	
B 積上	—	端/中	



90

大津の住宅
戸田潤也
jt0604

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
積上	—	端/端	△



91

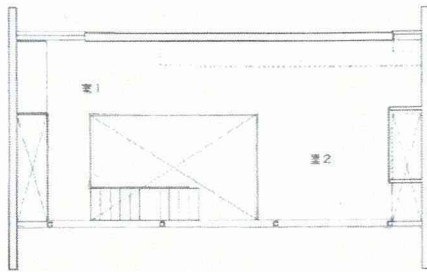
おおつ野の家
小平恵一
jt0605

分節の形式
積上

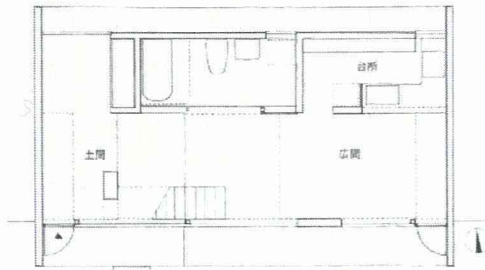
視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位



2階平面



1階平面 縮尺 1/150



92

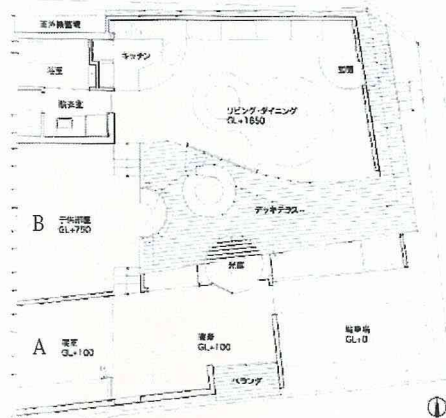
松山の住宅
末光弘和+末光陽子
jt0605

分節の形式
A 段下
B 段下

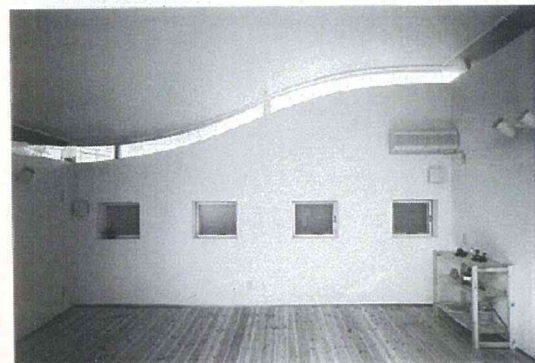
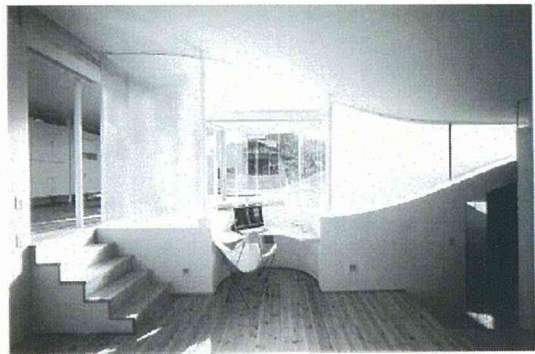
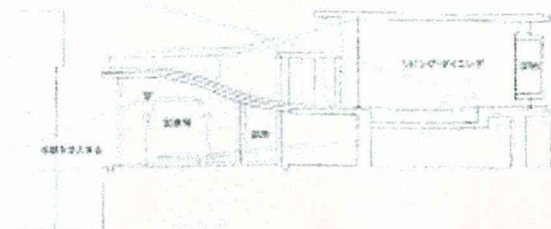
視線による性格
|
=

動線による性格 (平面/断面)
中/中
中/中

建築部位



縮尺 1/150



93

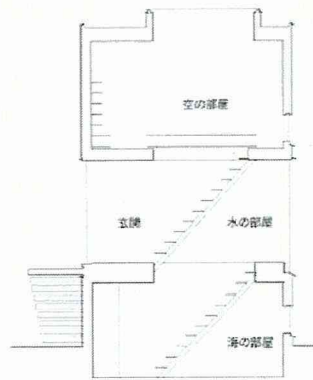
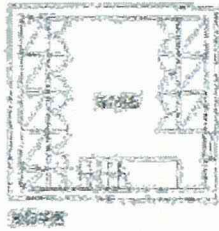
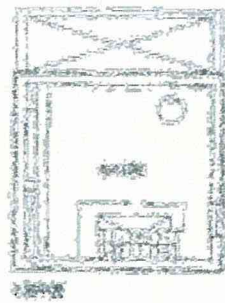
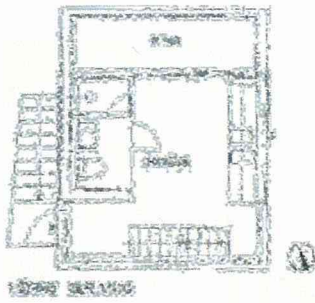
moving box
新堀建築事務所
jt0605

分節の形式
層下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
◆



断面 縮尺 1/150



94

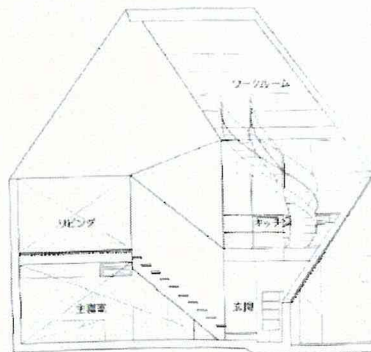
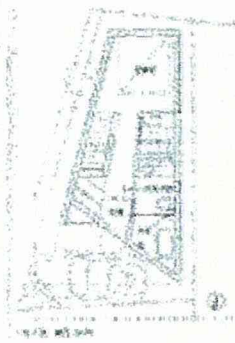
△
米田明
jt0606

分節の形式
層下

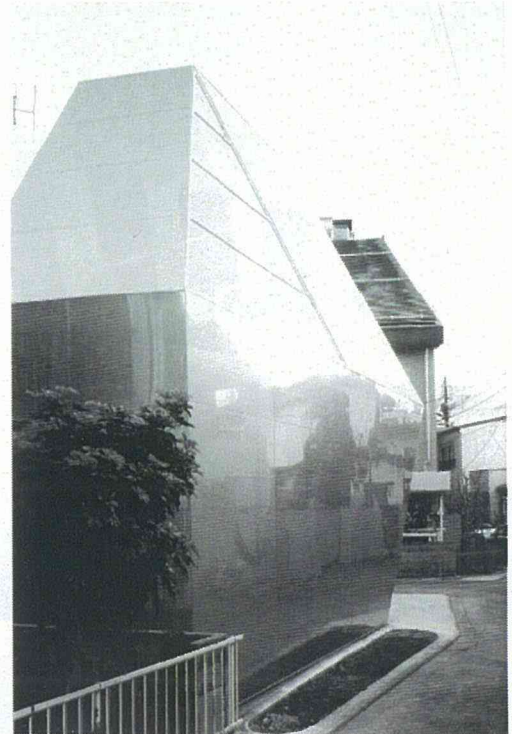
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/中

建築部位



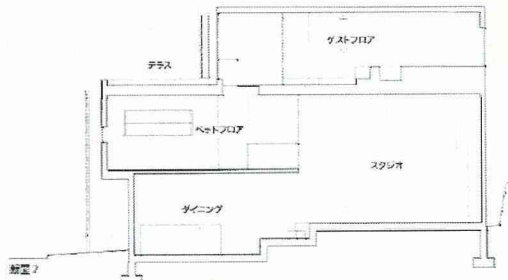
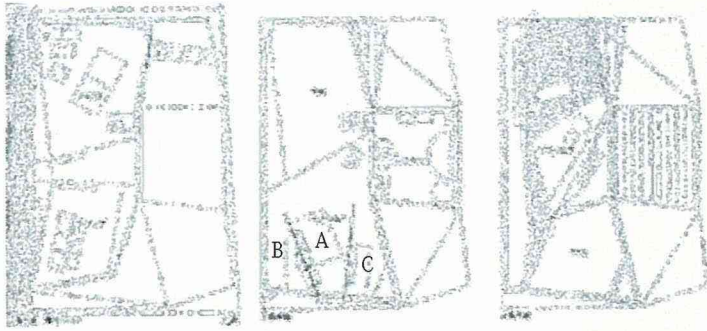
断面 縮尺 1/150



95

e-HOUSE
福島加津也
jt0607

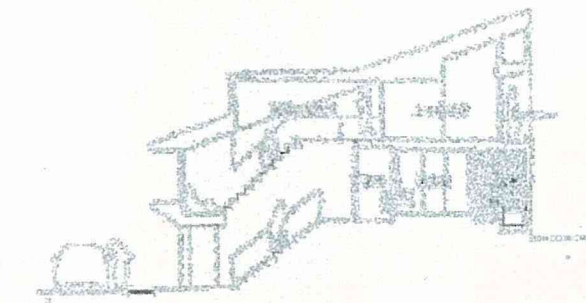
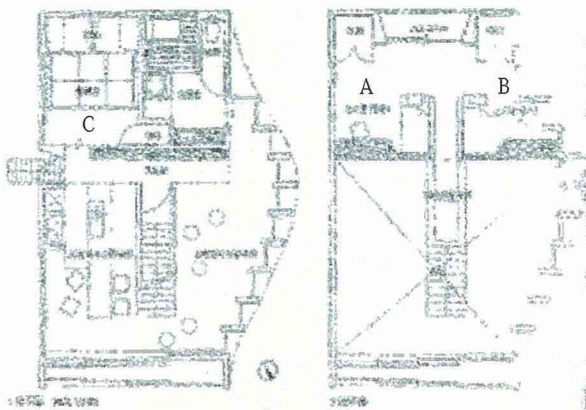
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 積上	=	端/中	C
B 積上	=	端/中	C
C 積上	=	端/中	C



96

RSH : 2 (上の居場所 1)
岸本和彦
jt0608

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 積上	—	端/端	∧
B 積上	—	端/端	∧
C 閉			



97

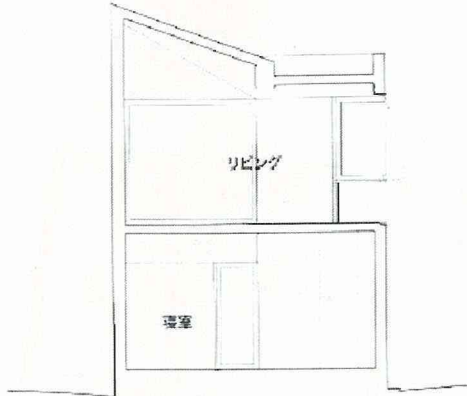
kh
長田直之
jt0608

分節の形式
層下

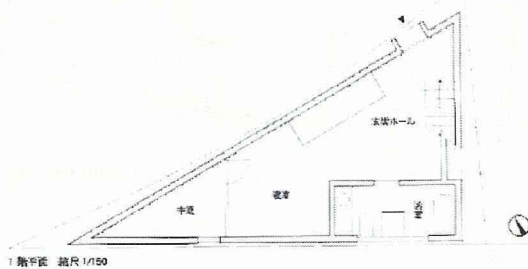
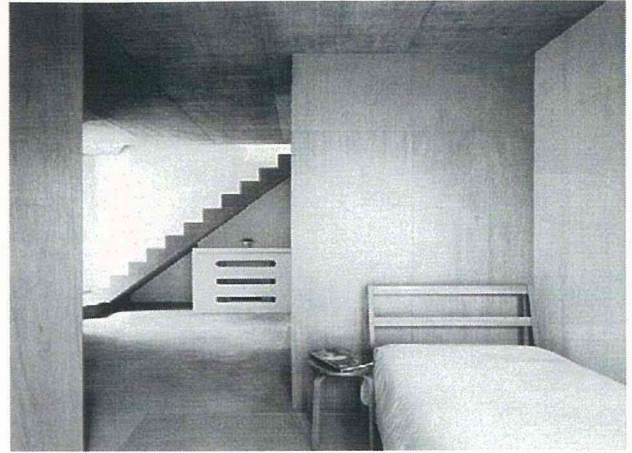
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/中

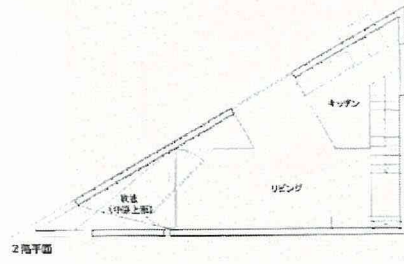
建築部位



断面 縮尺 1/150



1階平面 縮尺 1/150



2階平面

98

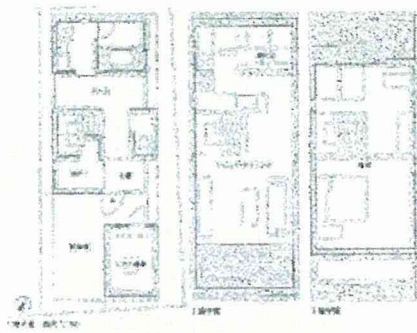
△の家
小嶋良一
jt0609

分節の形式
層上

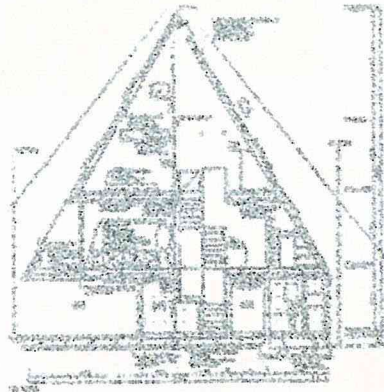
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
△



1階平面 縮尺 1/150



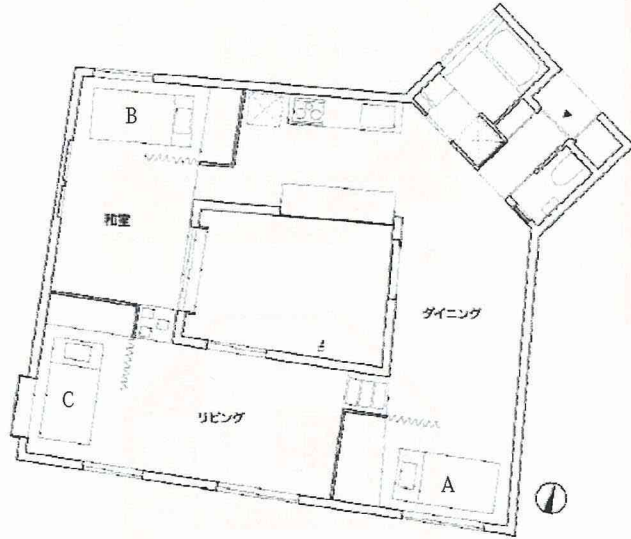
3階平面



99

タカハギハウス
安宅研太郎
jt0609

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 隣		中/端*	C
B 隣		中/端*	C
C 隣		中/端*	C



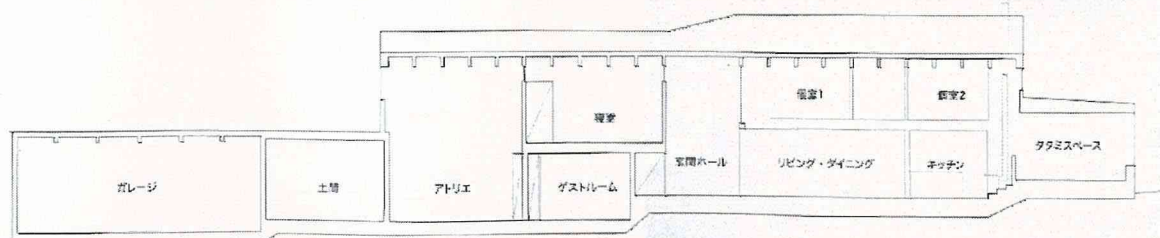
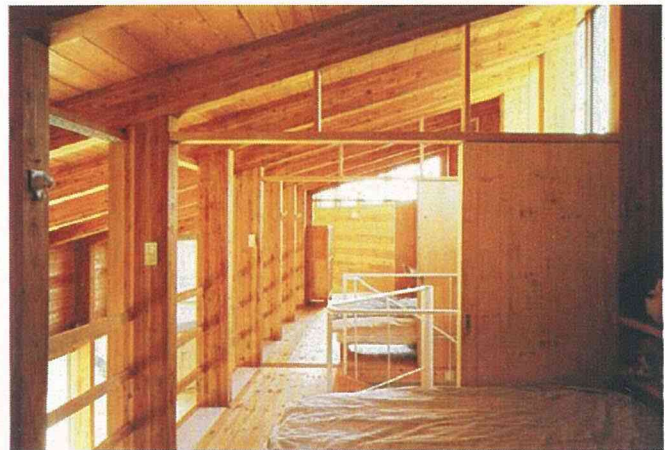
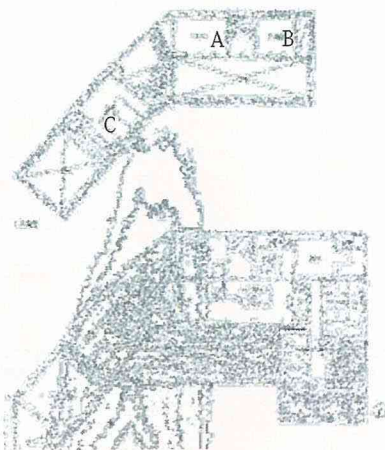
平面 縮尺 1/150



100

富士見の家
植本俊介
jt0609

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 積上	—	端/端	△
B 積上	—	端/端	△
C 閉			

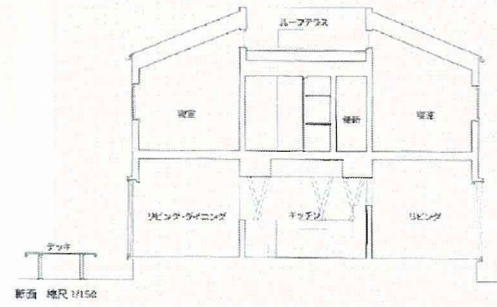
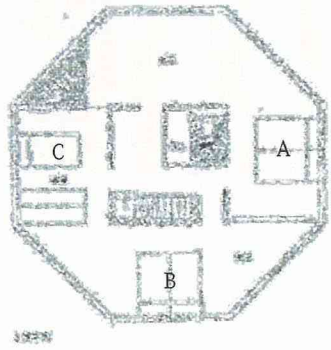
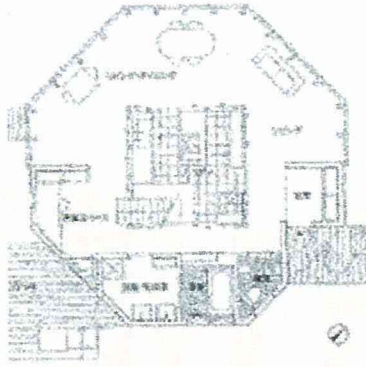


断面 縮尺 1/200

101

海と山と空の家
伊藤寛
jt0610

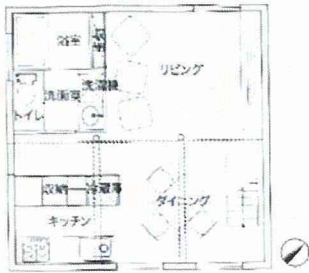
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 隣		中/端	△
B 隣		中/端	△
C 隣		中/端	△



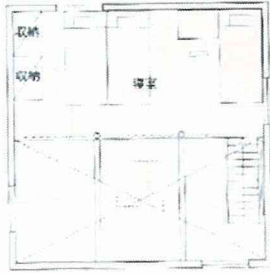
102

K邸
藤本壮介
jt0611

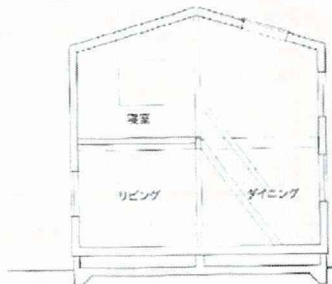
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
積上	=	端/端	△



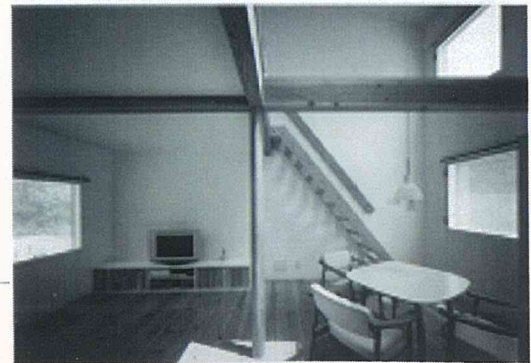
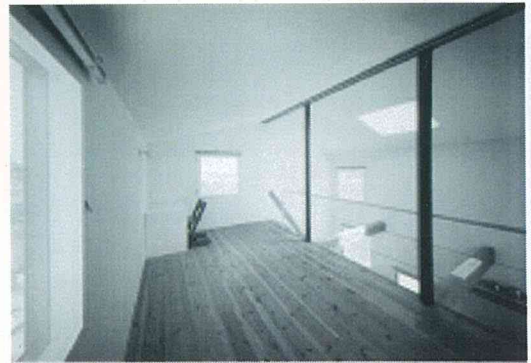
1階平面 縮尺 1/150



2階平面



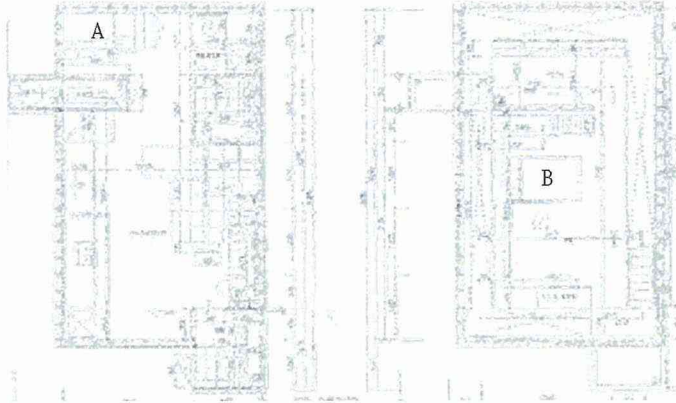
断面 縮尺 1/150



103

ANNEX
五十嵐淳
jt0612

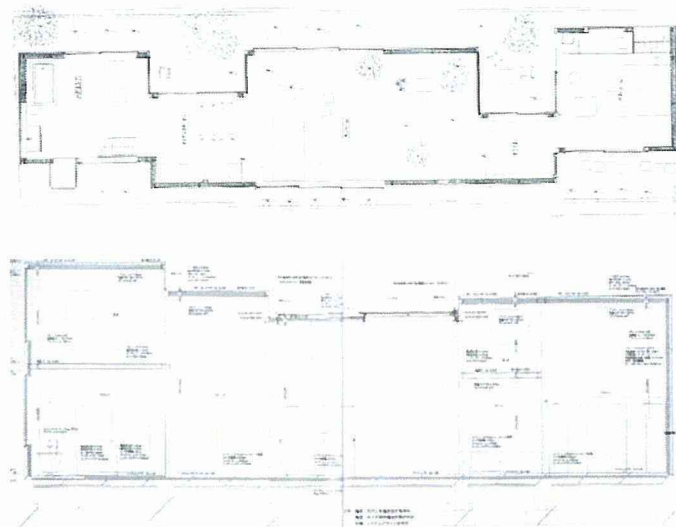
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 隣		端/中	C
B 層上		端/端	



104

HOUSE A
西沢立衛
sk0703

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
積上	=	端/端	



105

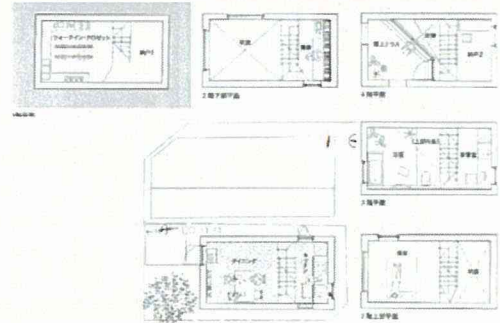
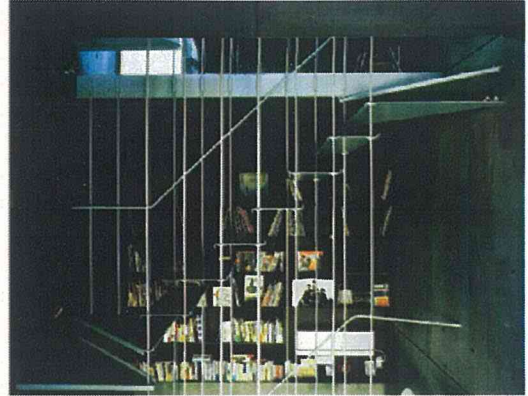
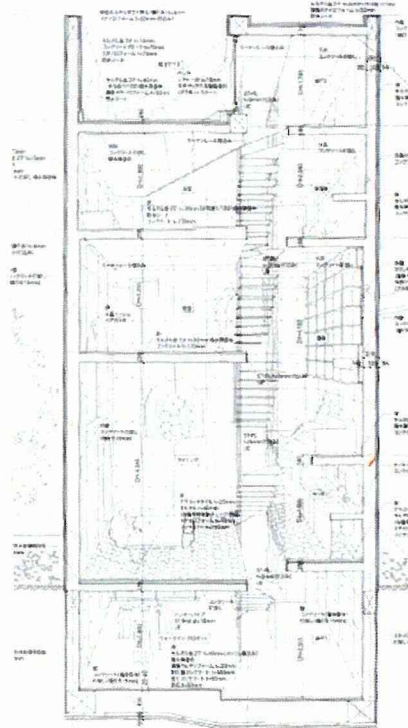
ハウス・タワー
アトリエ・ワン
jt0703

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/中

建築部位



106

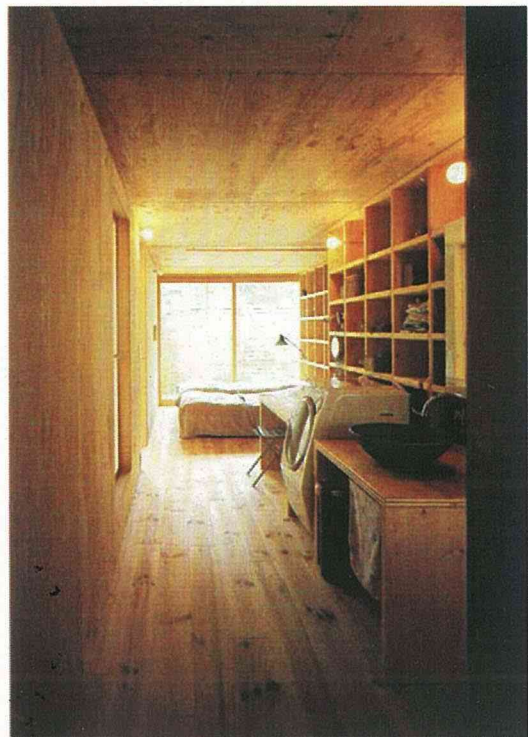
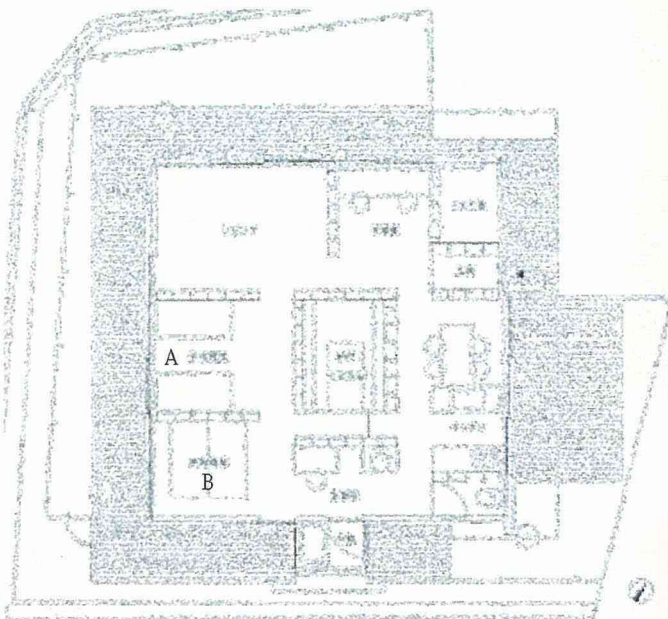
コトバノイエ
矢部達也
jt0706

分節の形式
A 隣
B 隣

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/端*
中/端*

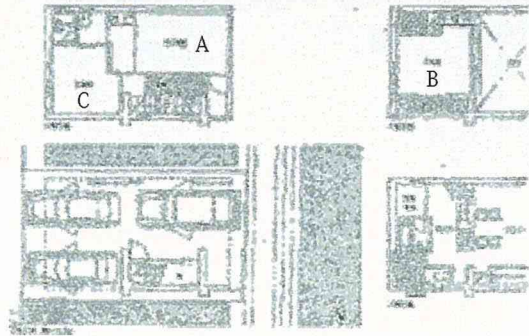
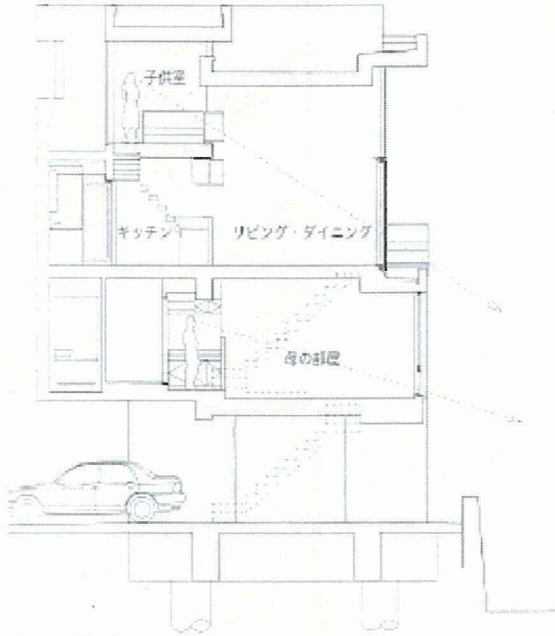
建築部位



107

日本橋 川辺の家
西島正樹
jt0706

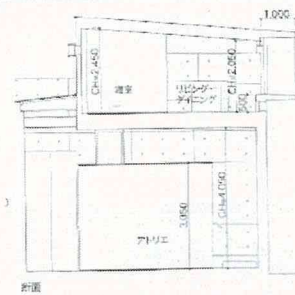
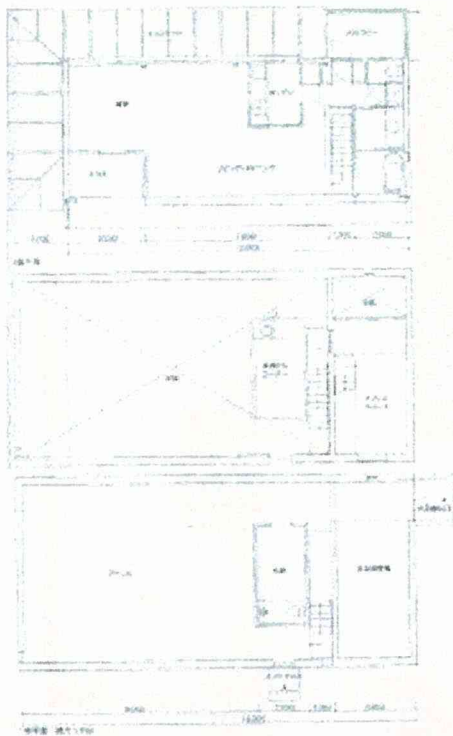
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 閉	—	端/端	
B 積上			
C 閉			



108

鞆の浦のアトリエ
宮森洋一郎
jt0707

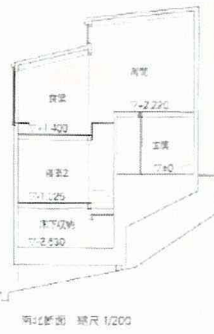
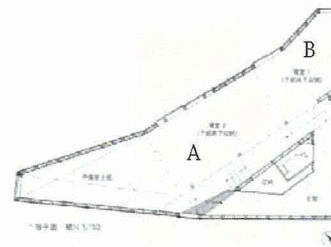
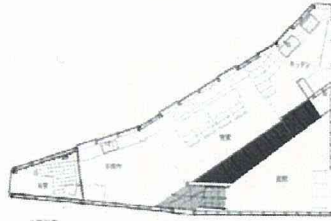
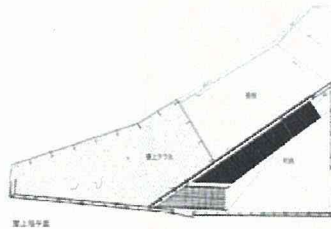
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
隣	=	端/端	□



109

曾我部邸
曾我部昌史+丸山美紀
jt0707

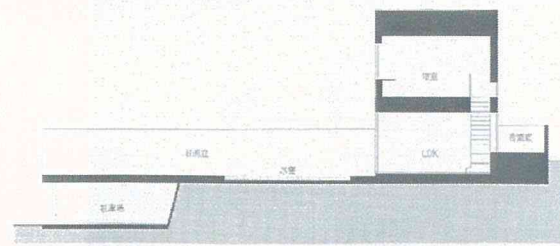
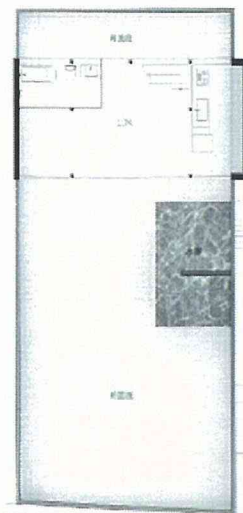
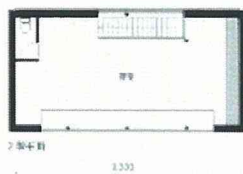
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 段下	=	中/中	
B 段下	=	中/中	



110

THEN?
前田紀貞
jt0708

分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
層上		端/端	□



113

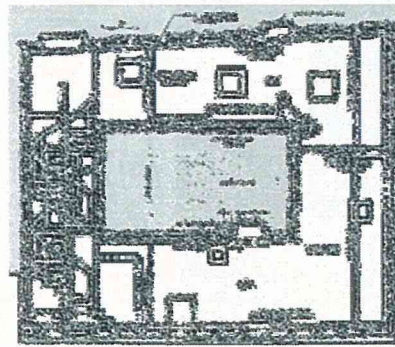
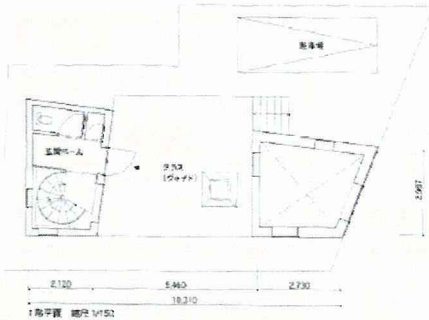
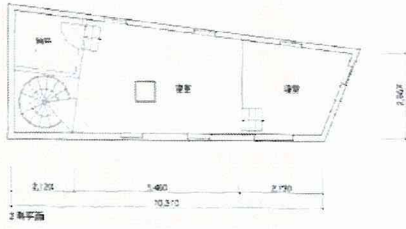
ホワイトロ
塚田修大建築設計事務所
jt0712

分節の形式
層上

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位



114

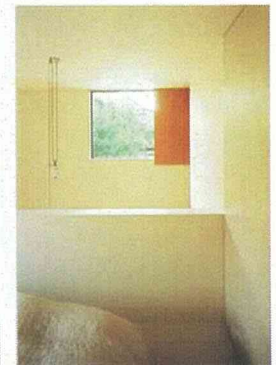
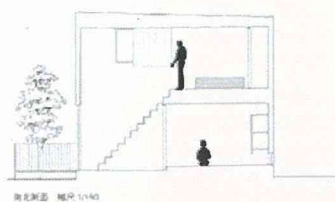
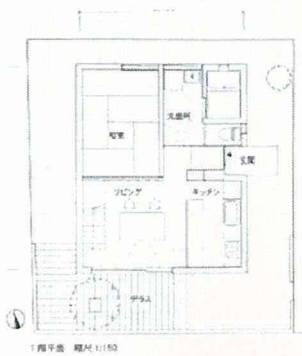
国分寺の小さな家
小泉誠
jt0712

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位



115

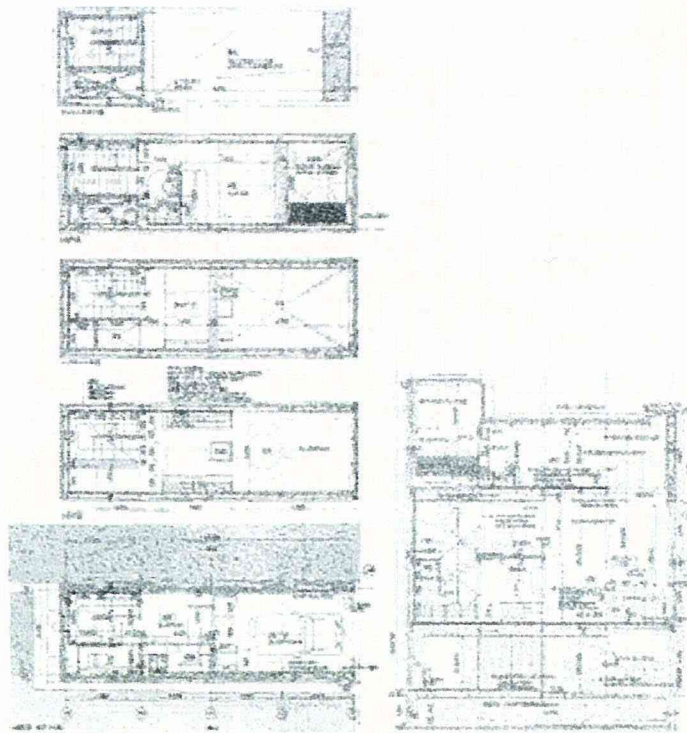
八丁堀・櫻庵 LCSH-#12
jt0712
jt0712

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位



116

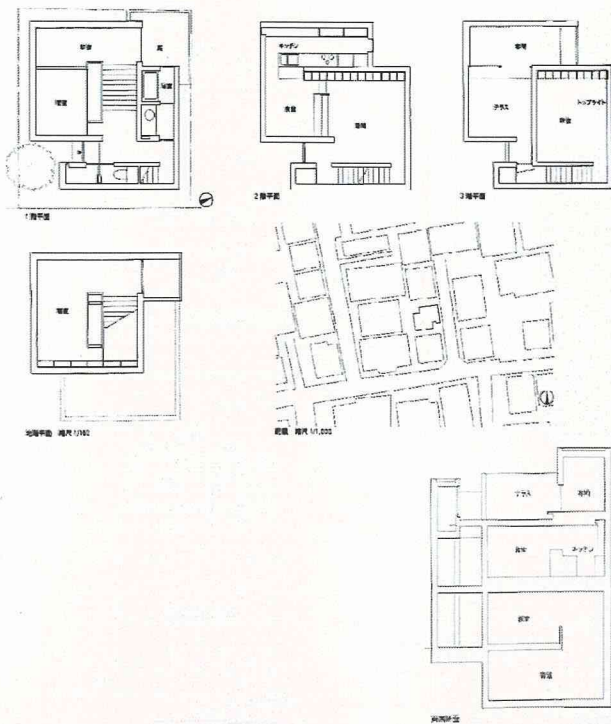
千駄木の家
NIIZEKI STUDIO
jt0801

分節の形式
積下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
◆



117

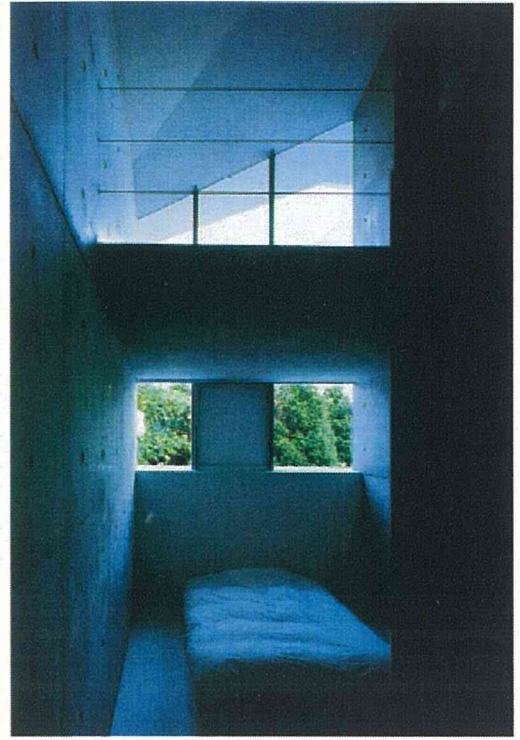
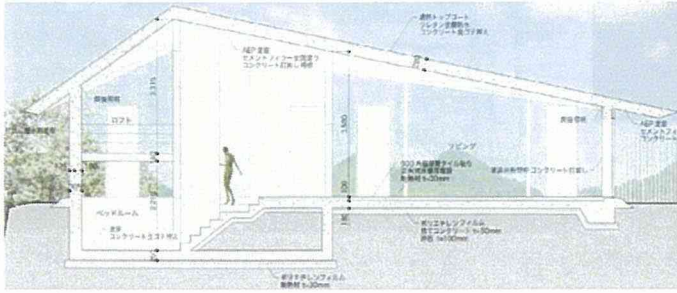
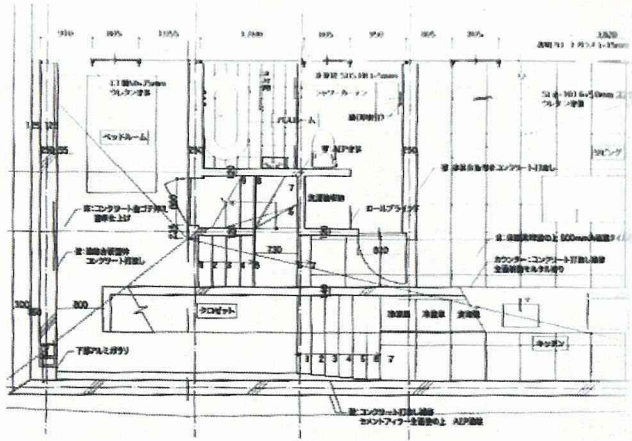
F-HOUSE
窪田勝文
jt0801

分節の形式
段下

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/中

建築部位
◆□



118

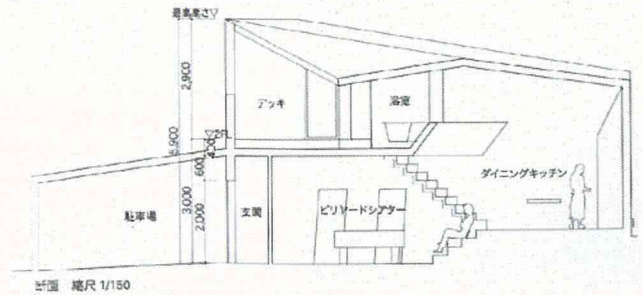
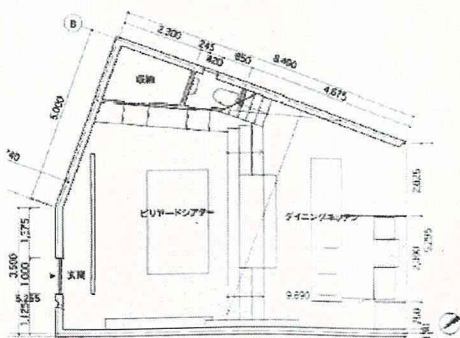
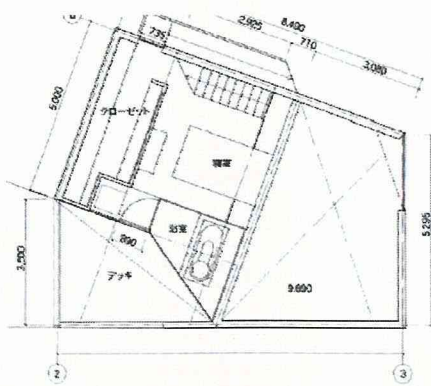
Hall House 1
竹口健太郎+山本麻子
jt0802

分節の形式
積上

視線による性格
—

動線による性格 (平面/断面)
端/端

建築部位
△



119

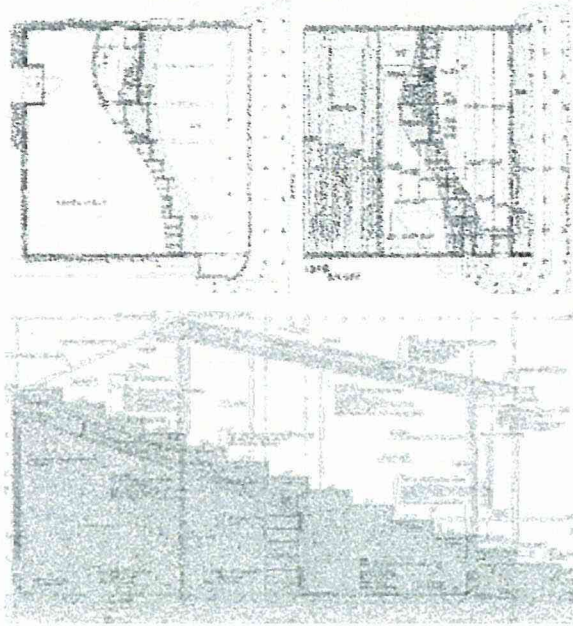
積層の景色
松野勉+相澤久美
jt0802

分節の形式
段上

視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
端/端

建築部位
△□



120

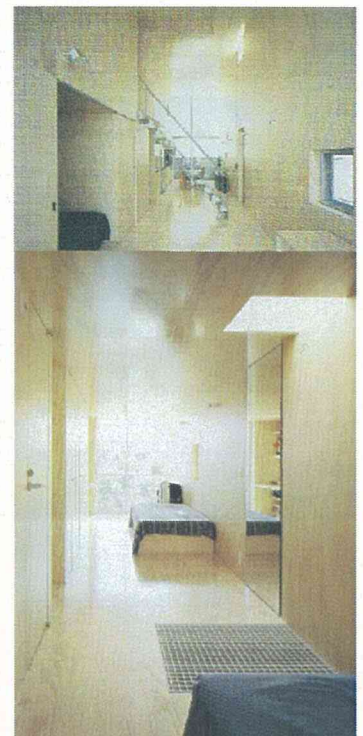
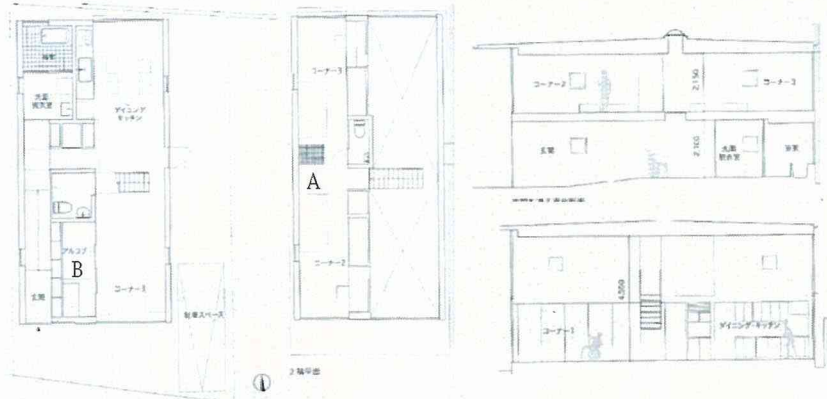
筒の家
岩堀未来
jt0803

分節の形式
A 積上
B 隣

視線による性格
|

動線による性格(平面/断面)
端/端
端/中

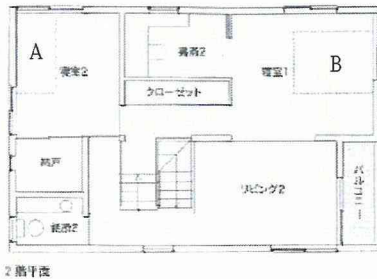
建築部位
□
C



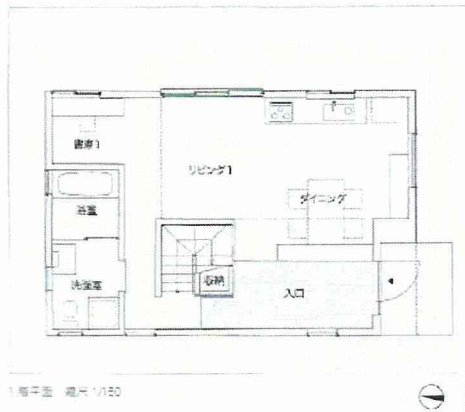
121

深見の住宅
ワークステーション
jt0805

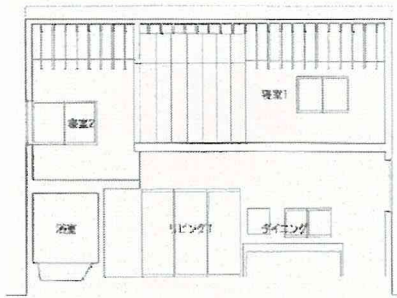
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 段上	—	端/端	△
B 段上	=	端/端	△



2階平面



1階平面 縮尺 1/200

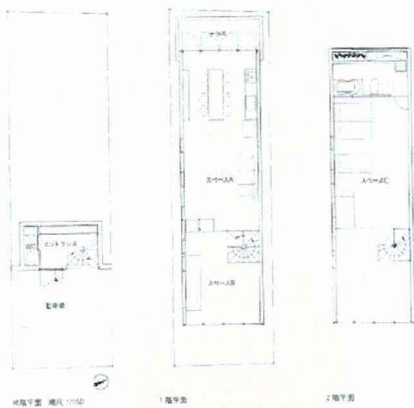


断面 縮尺 1/150

122

品川の家
堀直樹+安田朋子
jt0807

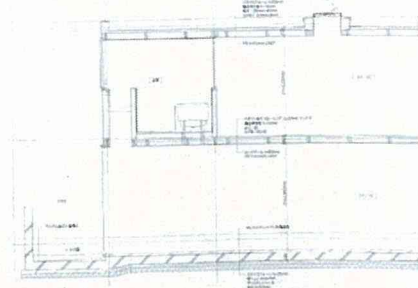
分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
積上		端/端	



1階平面 縮尺 1/100

1階平面

2階平面



断面 縮尺 1/100



123

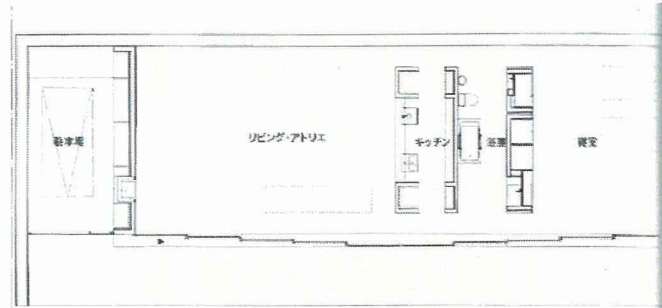
牛窓のアトリエ
手塚貴晴 + 手塚由比
jt0807

分節の形式
隣

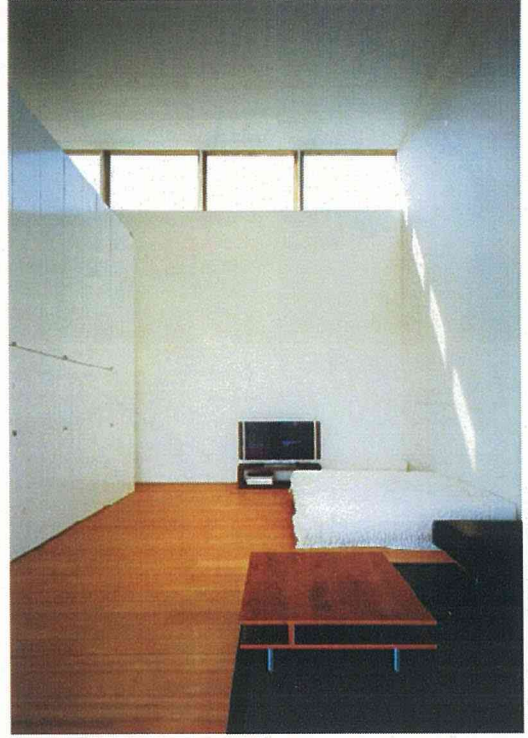
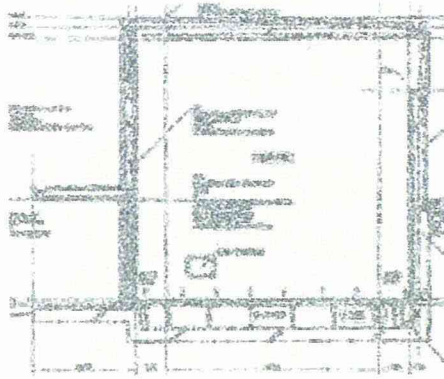
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/端*

建築部位
□



平面 縮尺 1/200



124

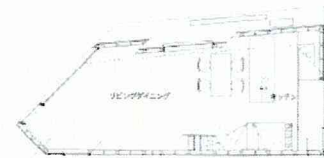
松原の住宅
小谷研一
jt0808

分節の形式
層下

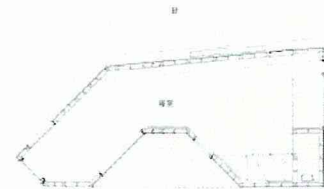
視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
中/中

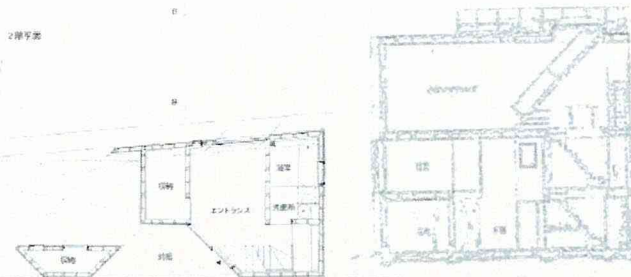
建築部位



1階平面



2階平面



125

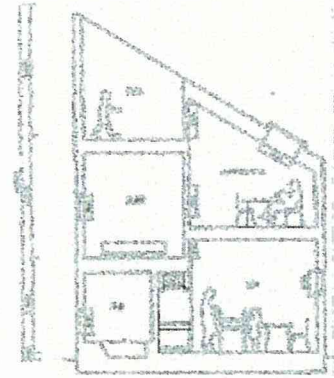
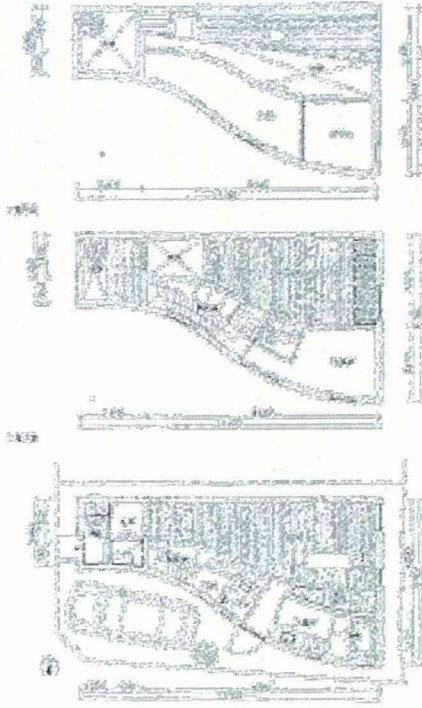
ピアノハウス
駒田剛司 + 駒田由香
jt0808

分節の形式
段上

視線による性格
|

動線による性格 (平面/断面)
端/中

建築部位
C



126

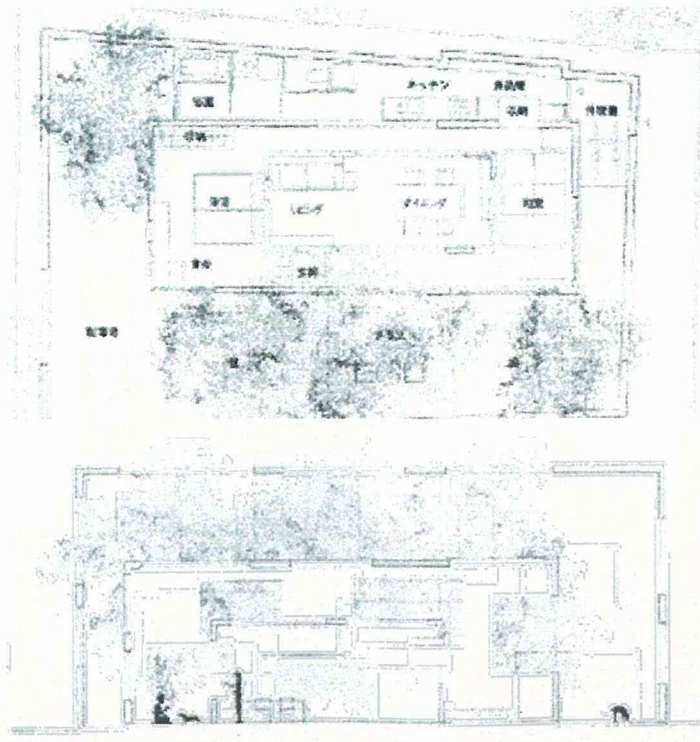
house N
藤本壮介
sk0809

分節の形式
隣

視線による性格
=

動線による性格 (平面/断面)
中/端*

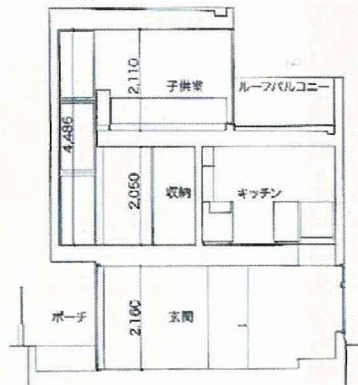
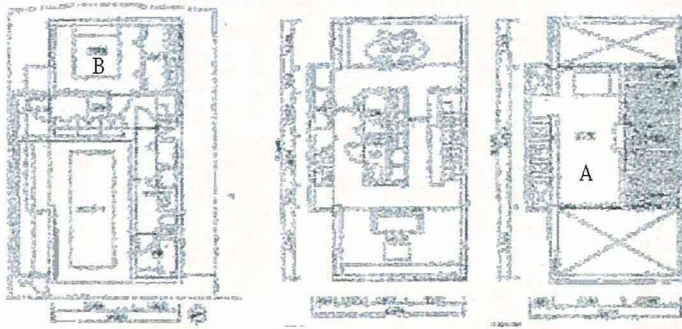
建築部位
□



127

DOUBLE CUBE
大河内学+郷田桃代
jt0810

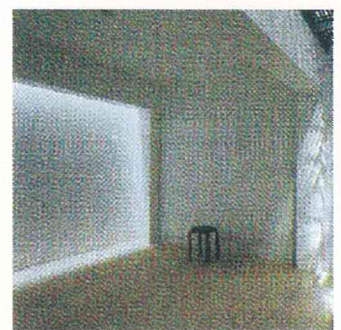
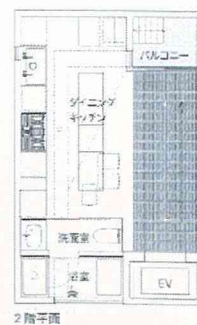
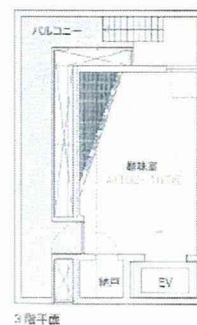
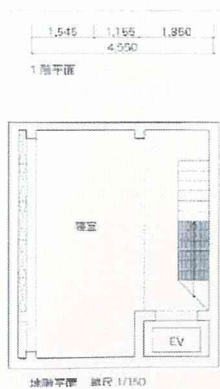
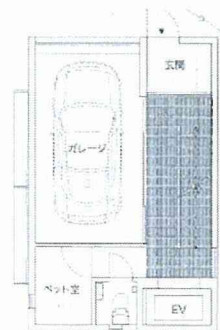
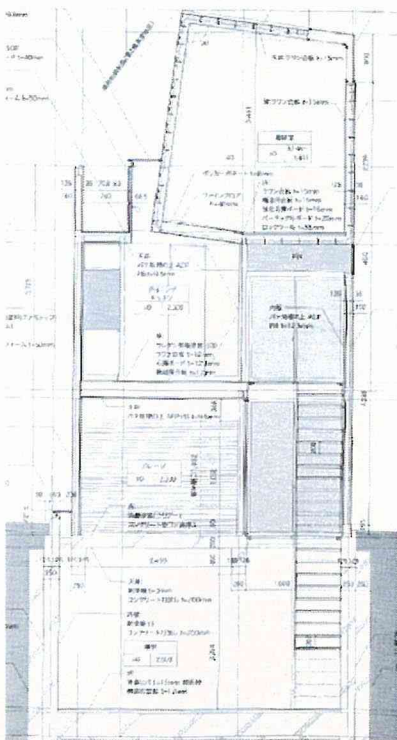
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
A 層上 B 閉	—	端/端	□



128

SWING
アーキテクトン
jt0811

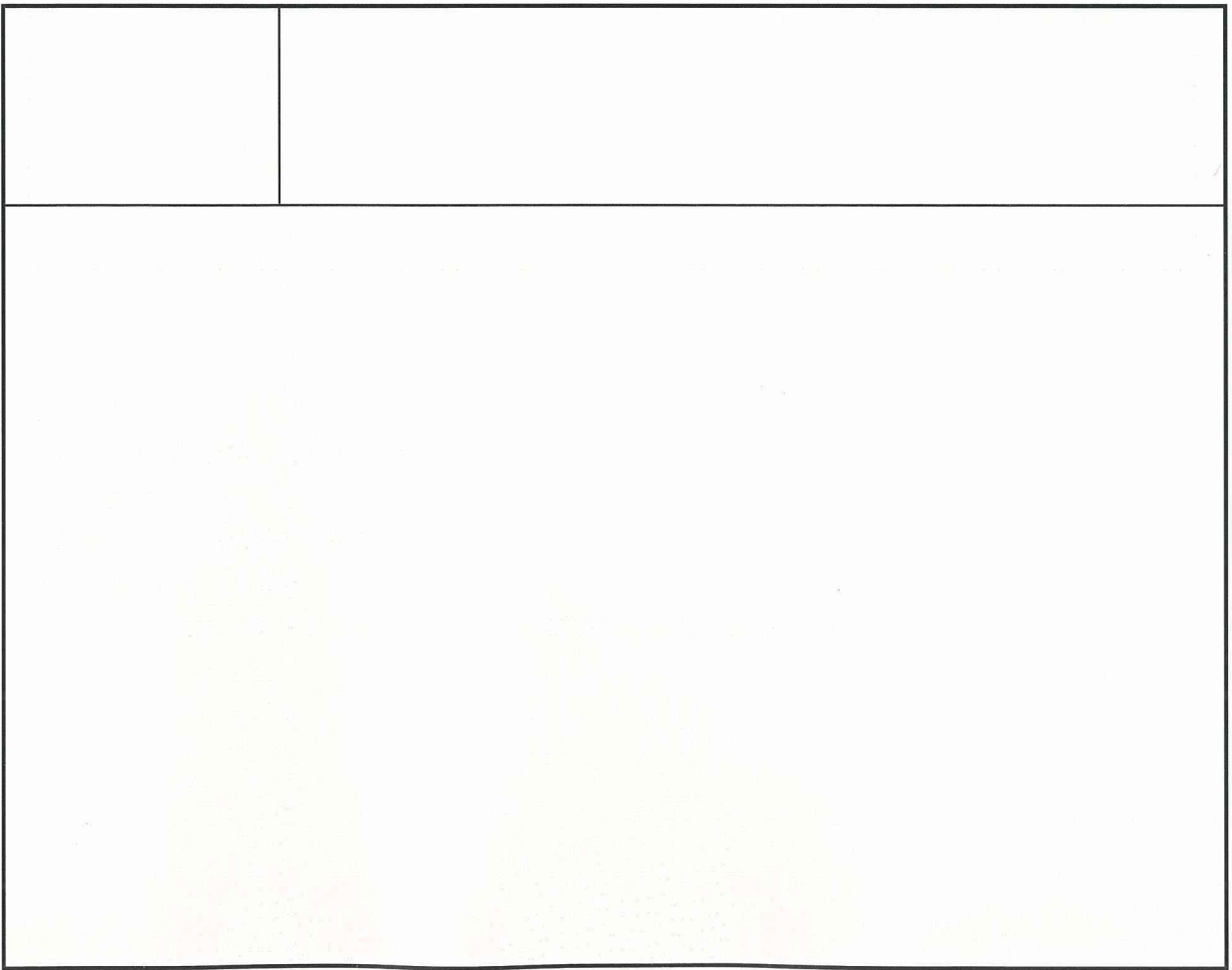
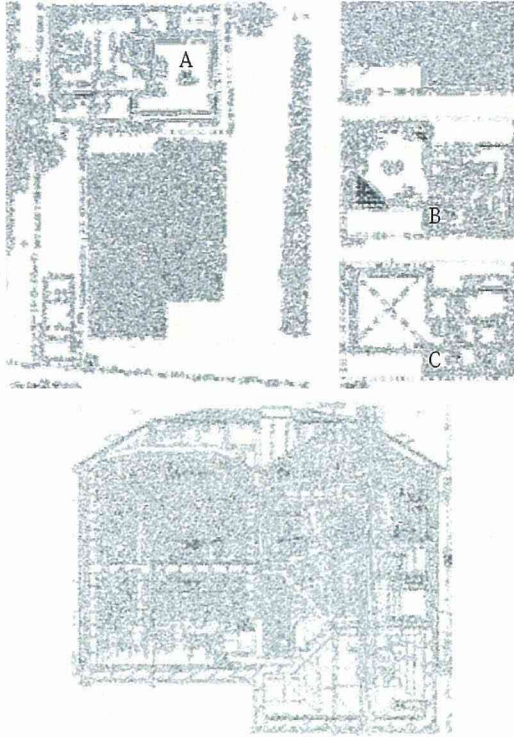
分節の形式	視線による性格	動線による性格(平面/断面)	建築部位
層下		端/端	◆



129

生島文庫
アトリエ・ワン
jt0811

分節の形式	視線による性格	動線による性格 (平面/断面)	建築部位
A 段下		端/端	◆
B 段上	>	中/中	C
C 段上		中/中	C



第5章 現代日本の住宅作品における収納からみた領域の構成
(全80作品)

作品番号 作品名 建築家名 掲載誌	収納の形式	収納の種類(収納に組み込まれる要素)
平面図 内観写真		

凡例

収納の形式

片:片側 囲:囲繞 分:分割 包:包含

収納の種類

S:露出型 C:隠蔽型 R:室型

収納に組み込まれる要素

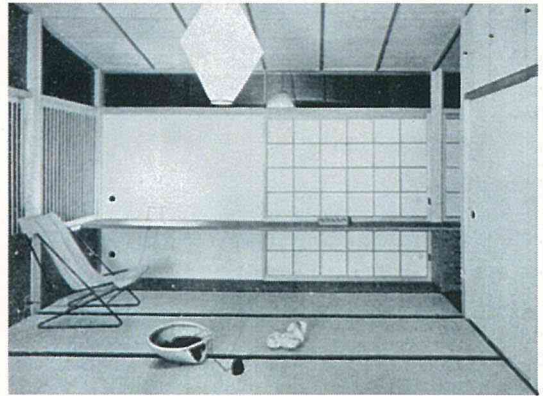
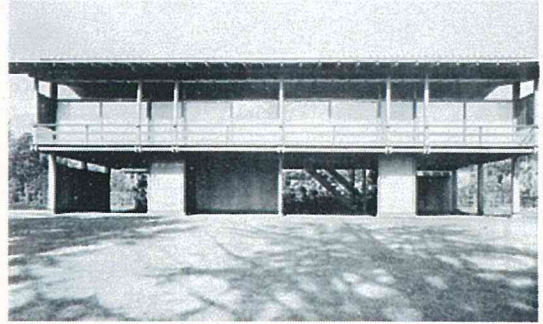
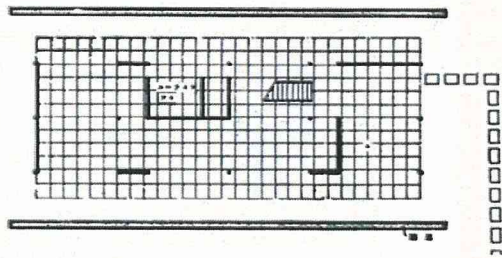
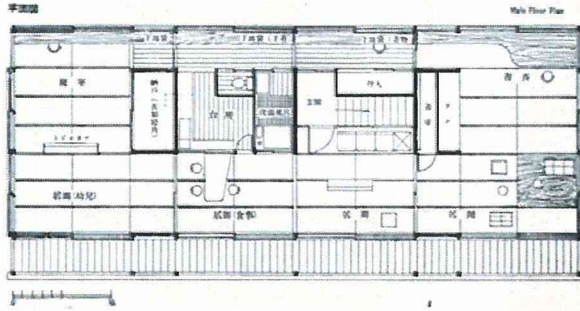
w:トイレ,洗面 bt:ふる k:キッチン st:階段 e:玄関 bd:ベッド f:机,ベンチ

1

住居
丹下健三
sk5501

収納の形式
中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C, R(w, bt, k, e, st)

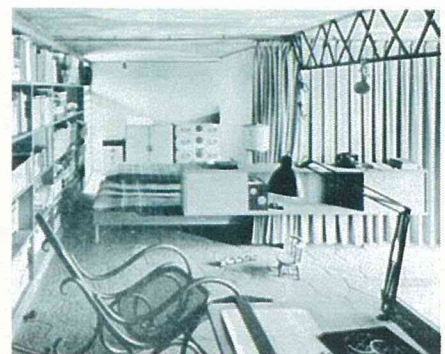
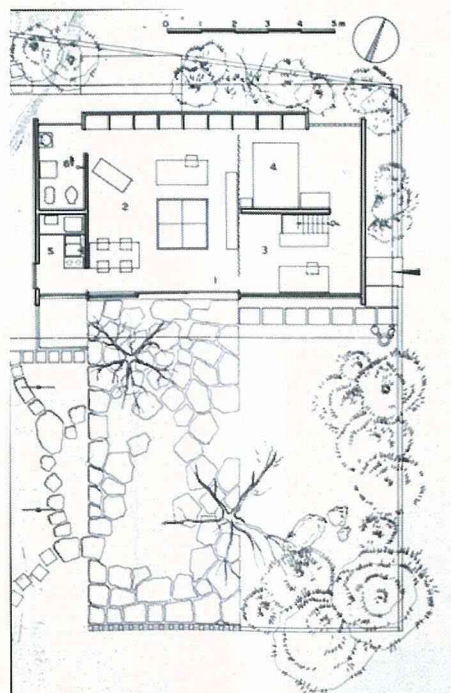


2

私の家
清家清
sk5703

収納の形式
片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
S

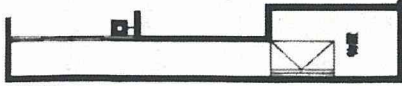


3

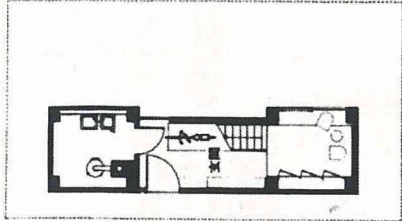
浜田山の家
吉村順三
sk6605

収納の形式
片

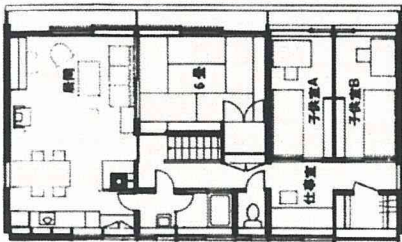
収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C(k,f), R(w,bt)



3階平面



2階平面



1階平面 縮尺 1/200



4

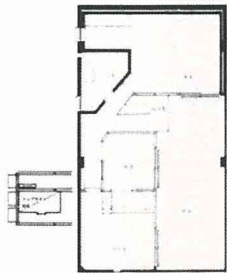
ブルーボックスハウス
宮脇檀
sk7110

収納の形式

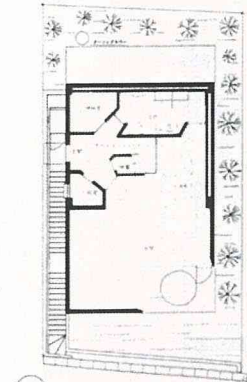
- a 片
- b —

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(w,k,e,st)



2階平面



地階平面 縮尺 1/350

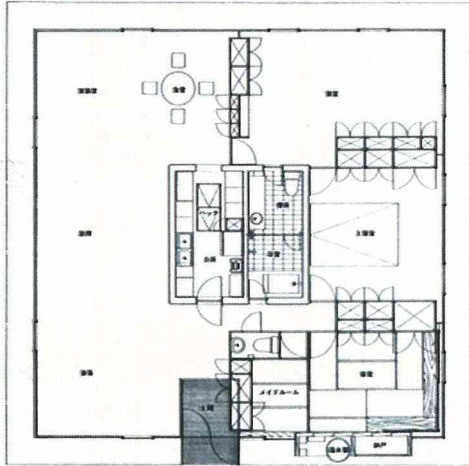


5

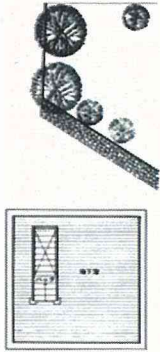
キャンティレバールーフの家
葉祥栄
sk7402

収納の形式
中

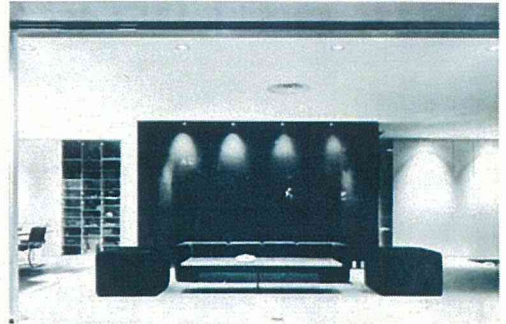
収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C, R(w,bt,k)



平面図 縮尺 1/150



地味図

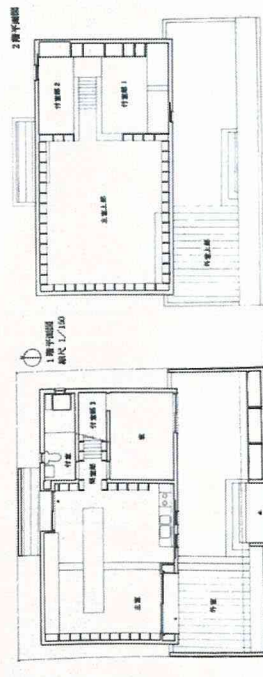


6

南湖の家
坂本一成
sk7902

収納の形式
囲

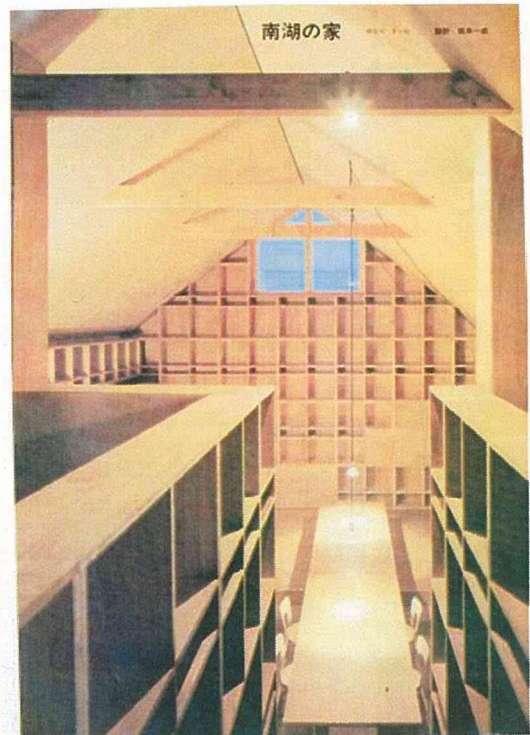
収納の種類 (収納に組込まれる要素)
S(f)



2階平面図

1階平面図

縮尺 1/100



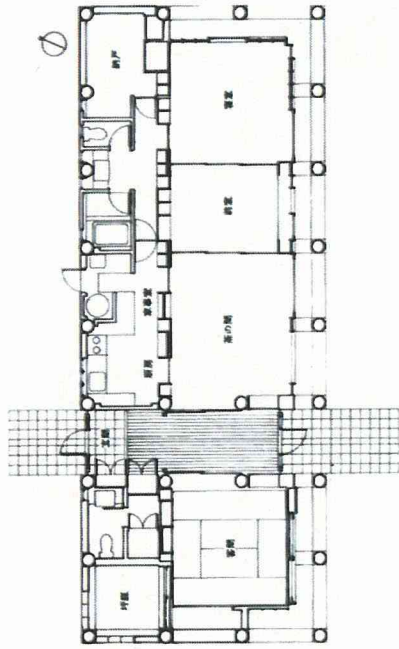
南湖の家

7

国分寺西町の家
ワークショップ
sk8202

収納の形式
片,分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C, R(w,k,e)



平面 縮尺 1/200

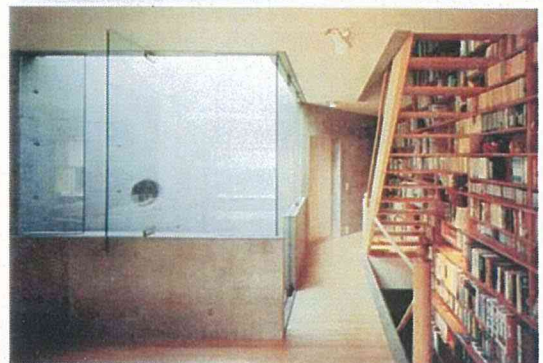
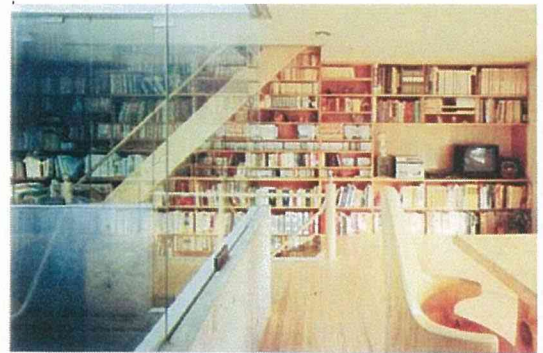
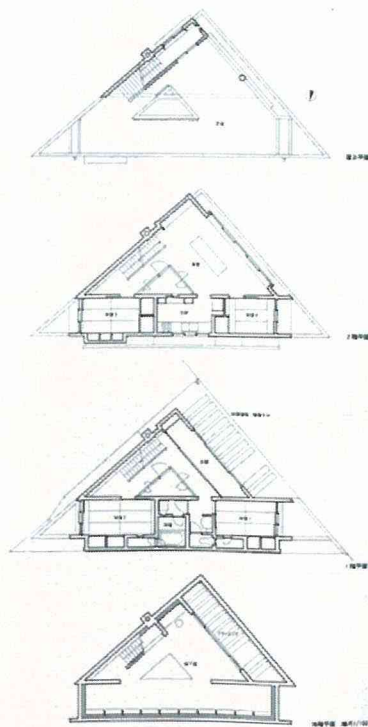


8

祐天寺の家
茶谷正洋
jt8809

収納の形式
a 片
b 片
c 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
S
S, C
S, C



11

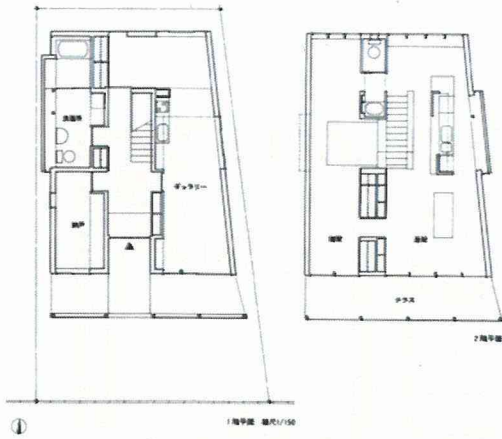
石神井公園の住宅
奥山信一
jt9406

収納の形式

- a 分
- b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C(k)
- C(w,k)



12

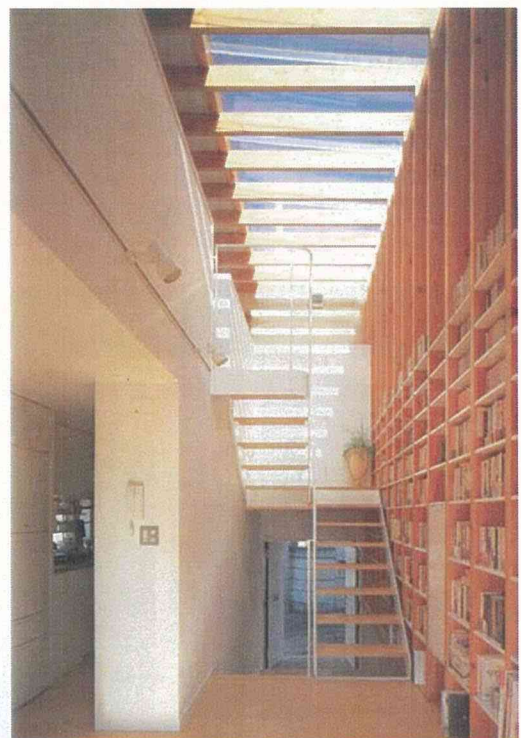
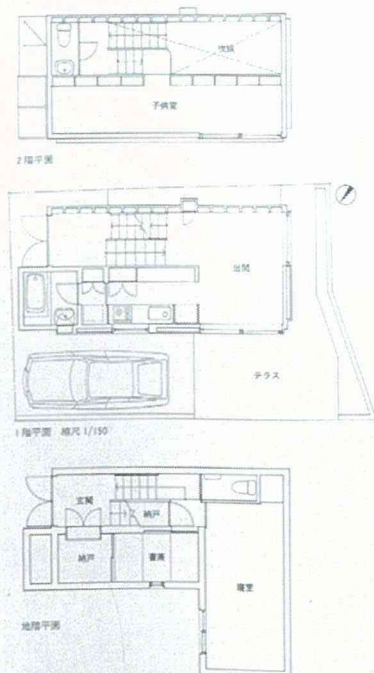
書架の家
前田光一
jt9504

収納の形式

- a 片
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S
- S

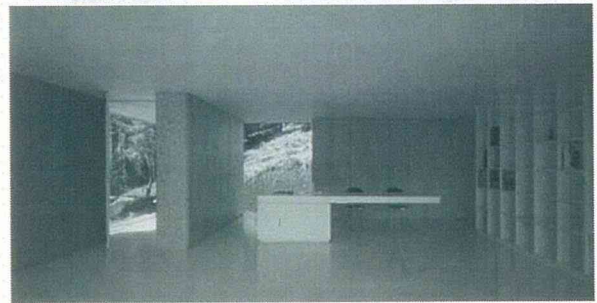
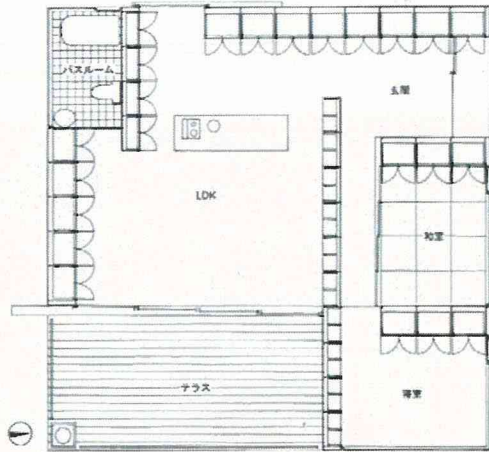


13

家具の家
坂茂
jt9506

収納の形式
分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C



14

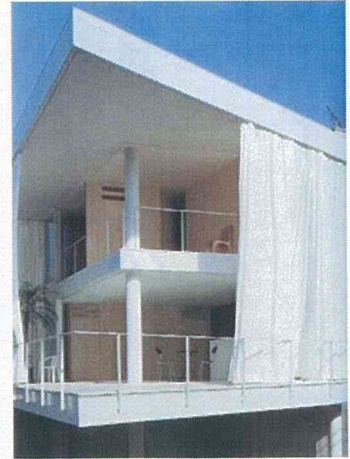
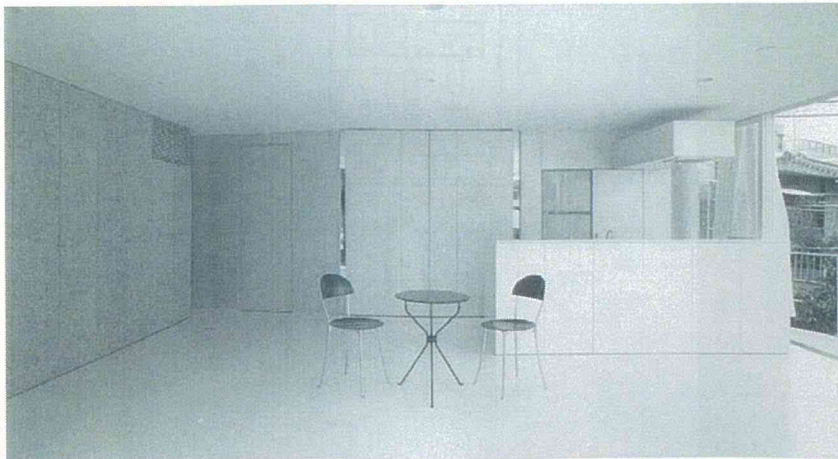
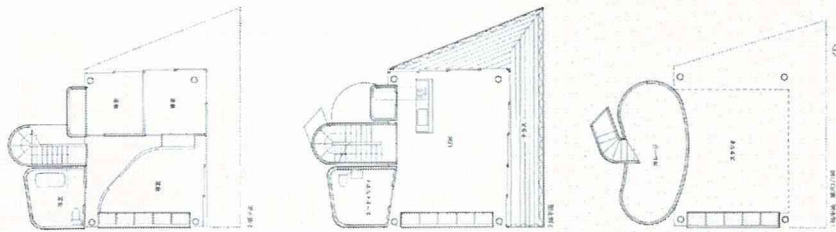
カーテンウォールの家
坂茂
jt9510

収納の形式

- a 付
- b 付

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(w,bt,st)
- R(w,st)



15

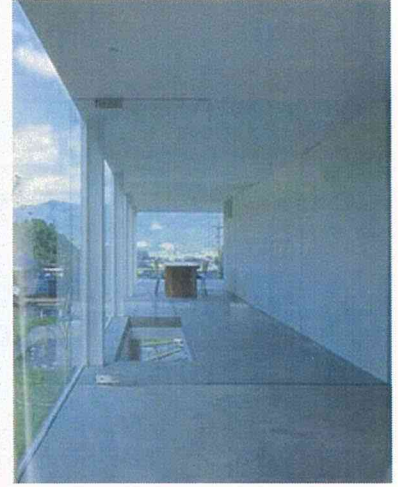
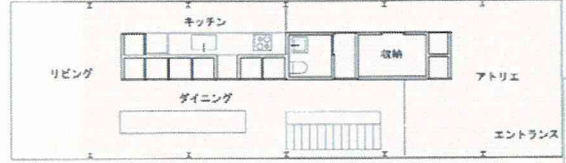
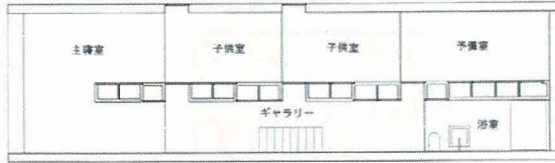
ISOBE STUDIO&RESIDENCE
小川晋一
jt9601

収納の形式

- a 分
- b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

C
C(w,k)



16

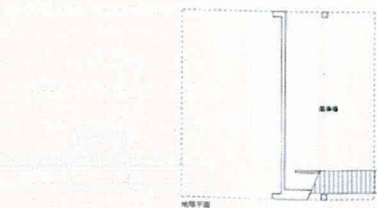
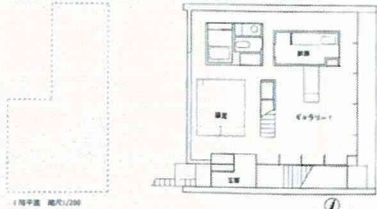
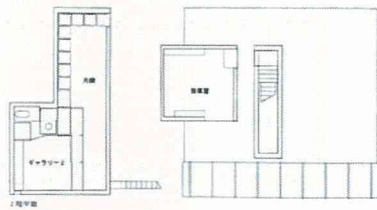
太宰府の家
有馬裕之
jt9608

収納の形式

中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(w,k)



17

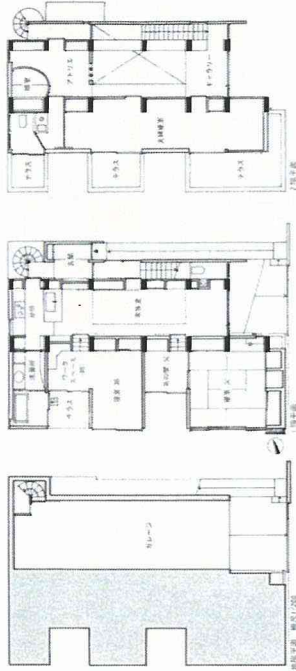
平邸
阿久津友嗣
jt9612

収納の形式

- a 分
- b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C
- C



18

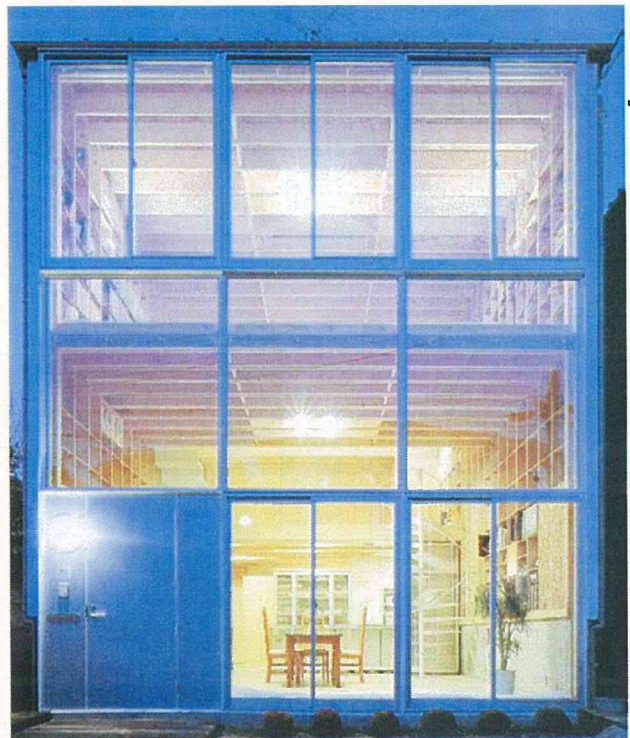
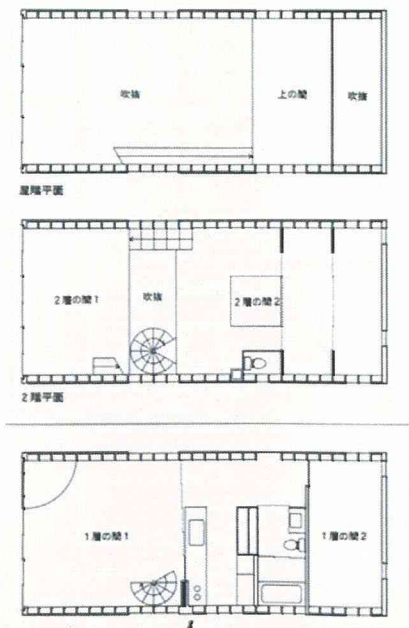
木箱210
葛西潔
jt9704

収納の形式

- a 囲
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S
- S



19

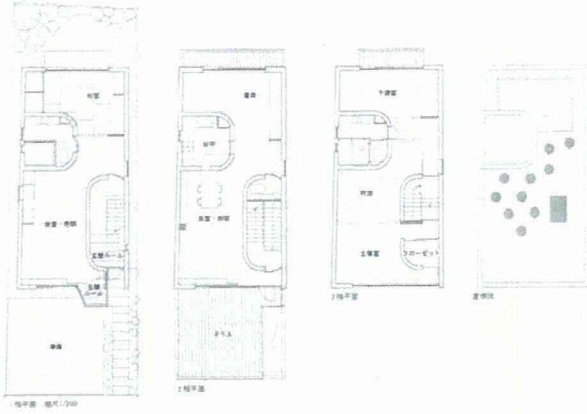
光井戸の家
早草睦恵
jt9707

収納の形式

- a 中
- b 中
- c 中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(w,e,st)
- R(w,k,st)
- R(w,st)



20

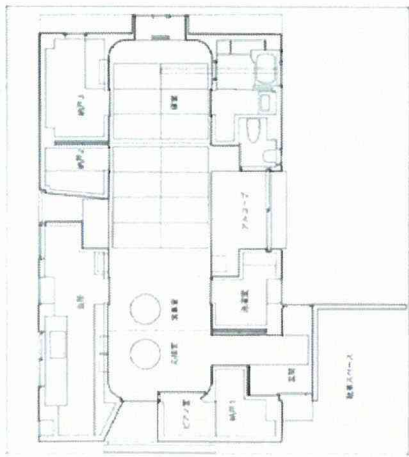
トウフ
玉置順
jt9709

収納の形式

- 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(w,k,e)



21

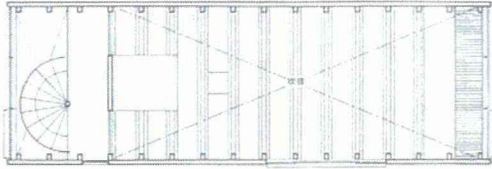
千歳烏山の家
内藤廣
jt9711

収納の形式

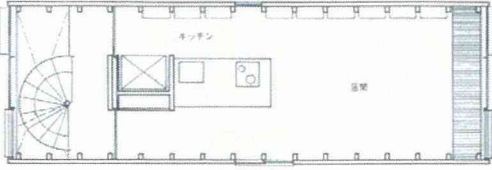
- a 囲
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

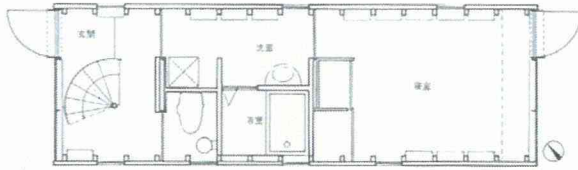
- S
- S



2階平面



1階平面



0階平面 縮尺1/100



22

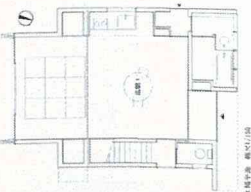
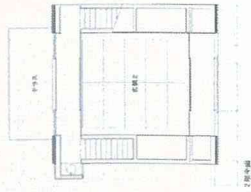
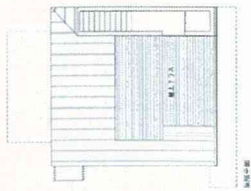
館山海岸の住宅
奥山信一
jt9801

収納の形式

- a 囲
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C(w,k,st)
- C(st)



23

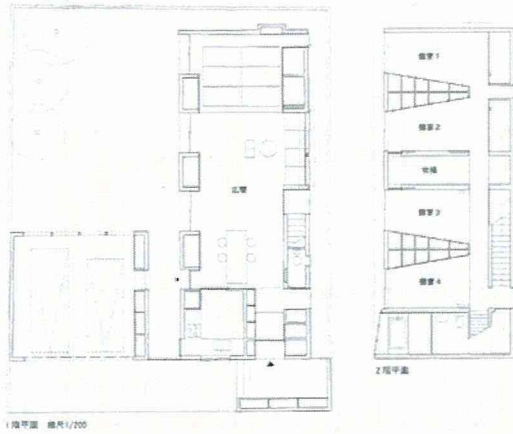
吉祥寺通りの住宅
奥山信一
jt9801

収納の形式

- a 片
- b 片,分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C(w,st)
- C(st)



24

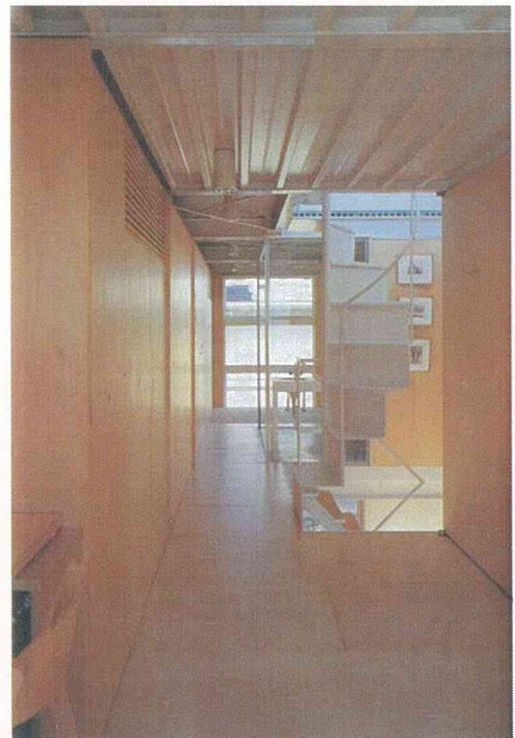
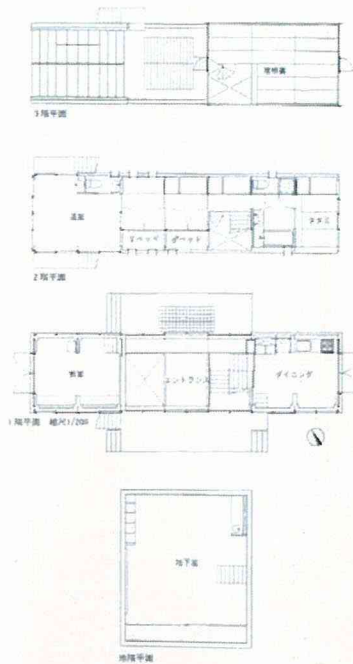
Lime House
北山恒
jt9803

収納の形式

- a 片
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C(k)
- C(bd)

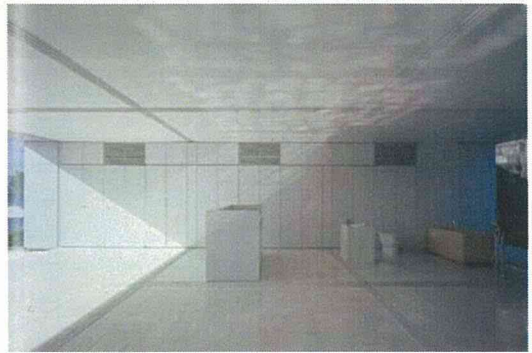
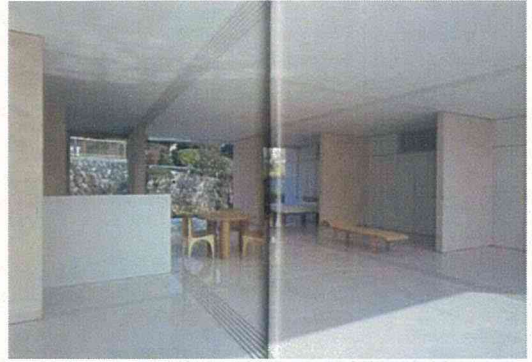
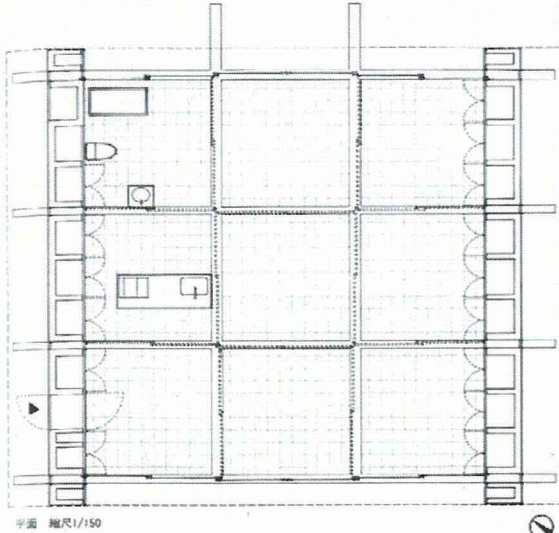


25

9スクエアグリッド
坂茂
jt9805

収納の形式
囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C

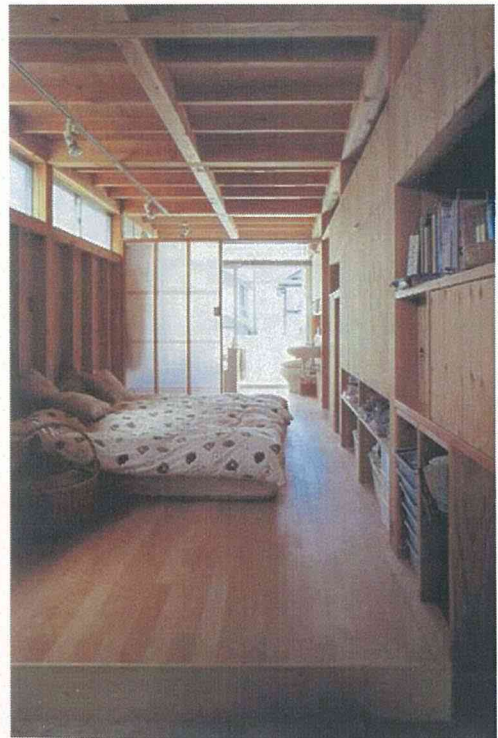
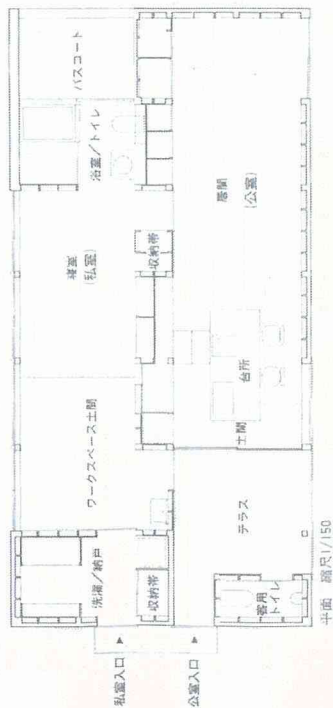


26

北神戸の住宅
阿久津友嗣
jt9806

収納の形式
分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
S, C



27

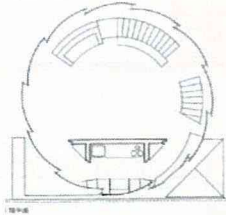
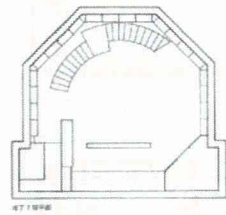
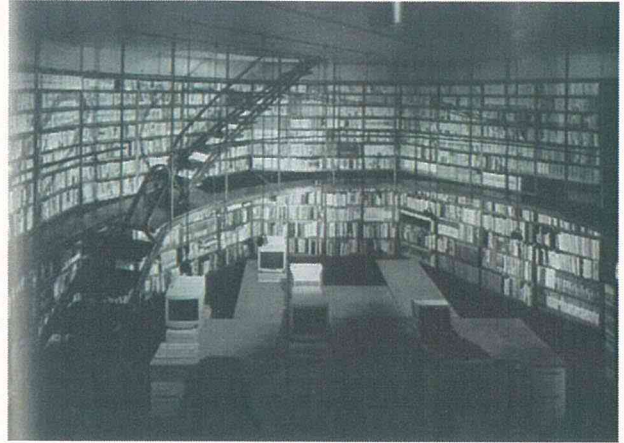
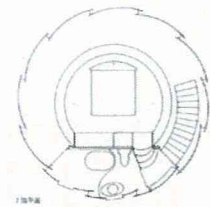
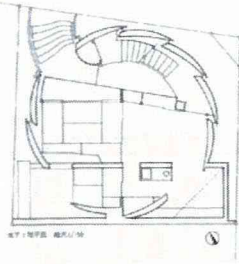
薺居
斉藤裕
jt9807

収納の形式

- a 囲
- b —
- c —
- d —

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

S



28

家具の家No3
坂茂
jt9809

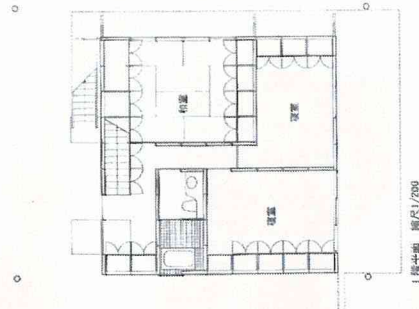
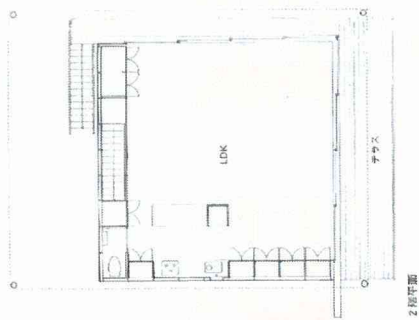
収納の形式

- a 片,分
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

C(st), R(w,bt)

C(k,st)



29

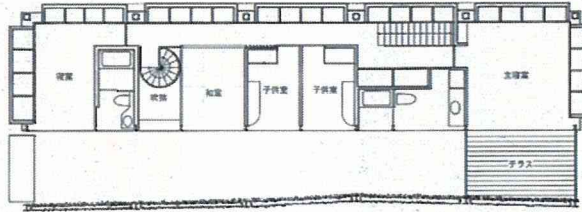
アイビーストラクチャーの家
坂茂
jt9809

収納の形式

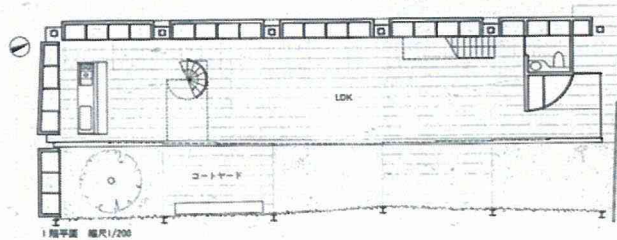
- a 片
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

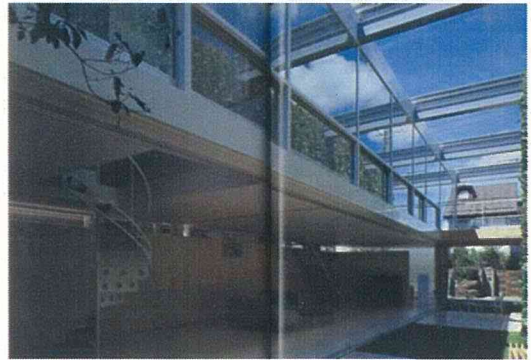
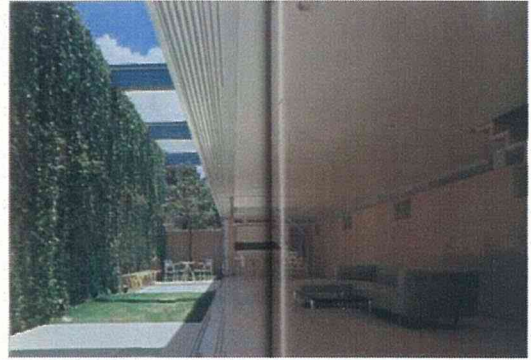
- C
- C



2階平面



1階平面 縮尺1/200



30

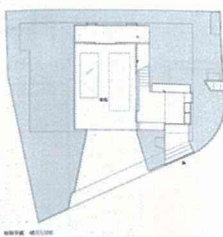
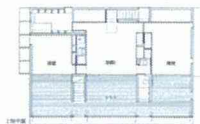
本郷台の住宅
奥山信一
jt9811

収納の形式

- a 片,分
- b 片,分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C (w,st)
- C (w,k,st)



31

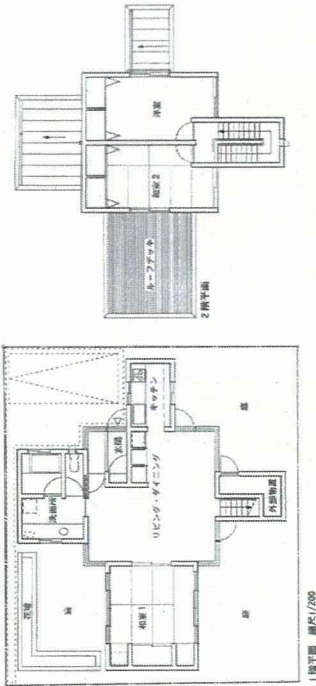
M-house
阿部仁史
jt9904

収納の形式

- a 付
- b 付

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C, R(w,bt,k,st)
- C, R(st)



32

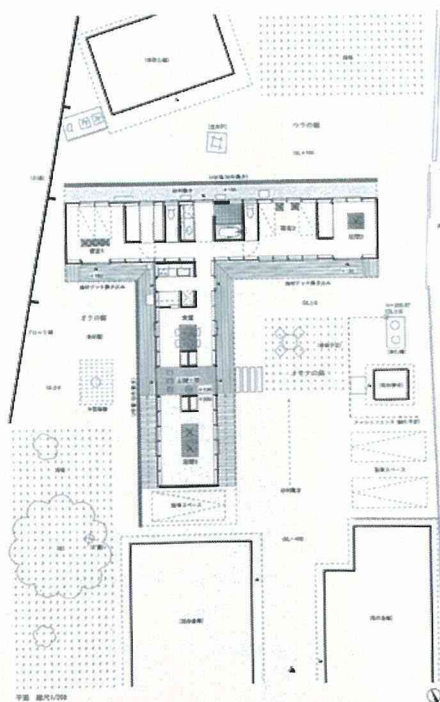
T平面の住宅
岩岡竜夫
jt9912

収納の形式

囲,分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

SC(w,k)



33

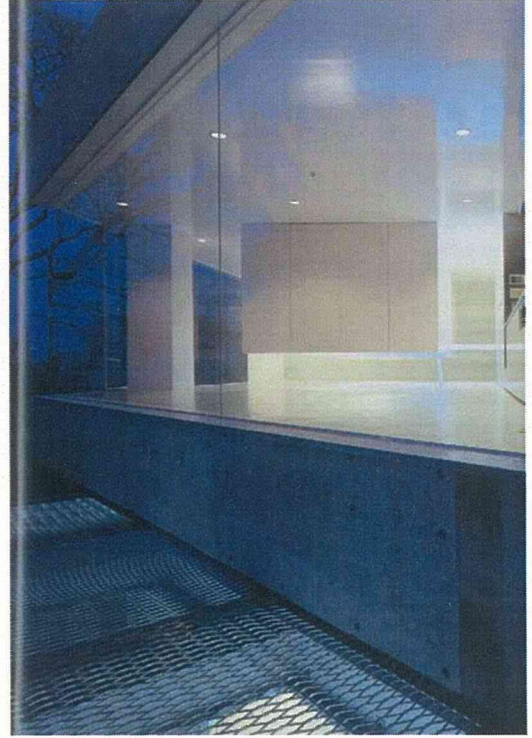
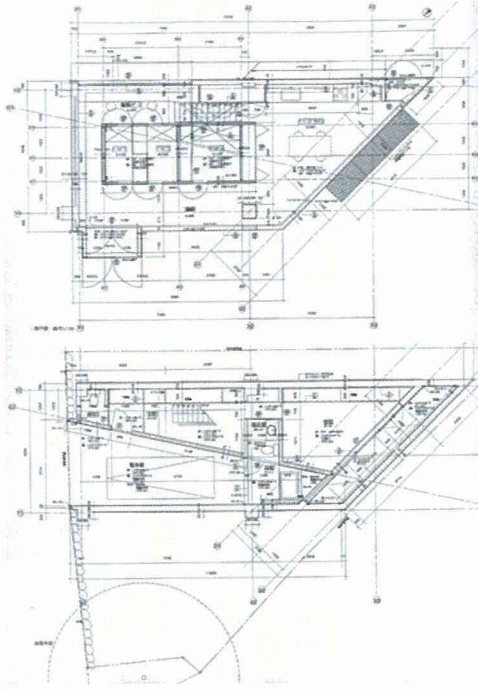
L
青木淳
jt0004

収納の形式

- a 片
- b 片,中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C
- C, R(bd)



34

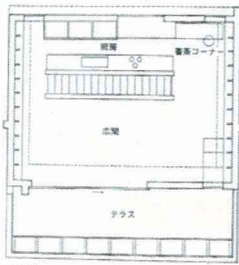
代沢の住宅
安田光一
jt0006

収納の形式

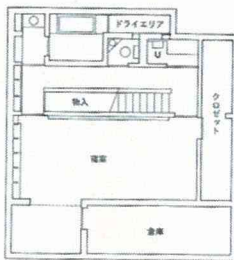
- a 囲
- b 囲
- c 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

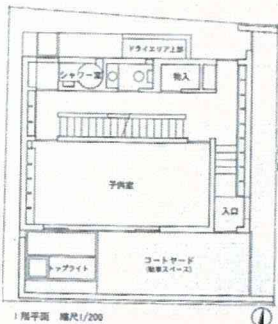
- S, R(w, bt)
- SR(w)
- S, C(k, f)



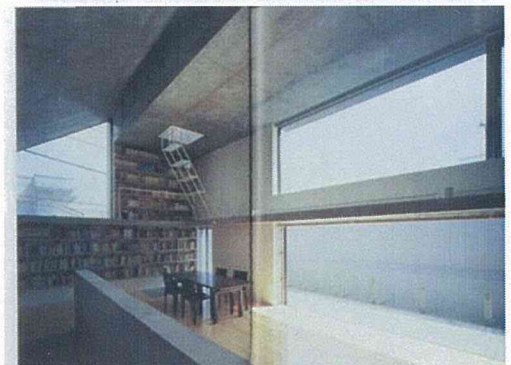
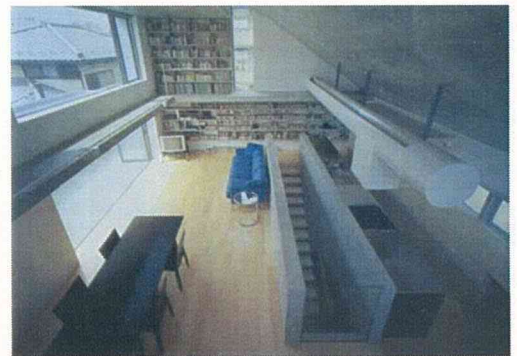
2階平面



地階平面



1階平面 縮尺1/200



35

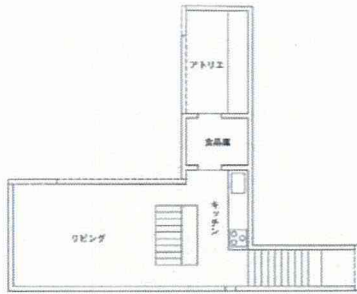
C
青木淳
jt0009

収納の形式

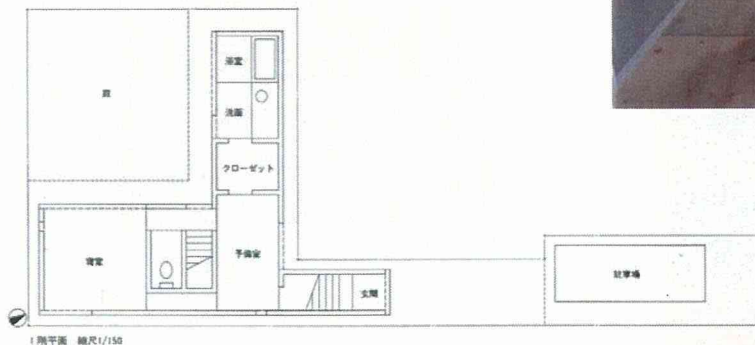
- a 分
- b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R
- R



2階平面



1階平面 縮尺1/150



36

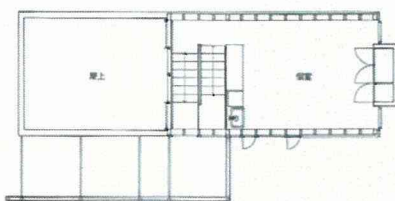
棚の家
前田光一
jt0011

収納の形式

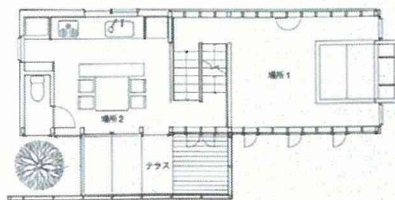
- a 囲
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

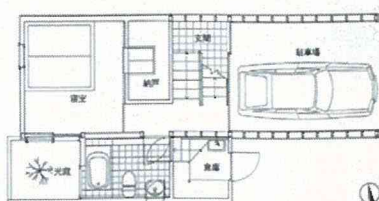
- S, C(k)
- S



3階平面



2階平面



1階平面 縮尺1/150

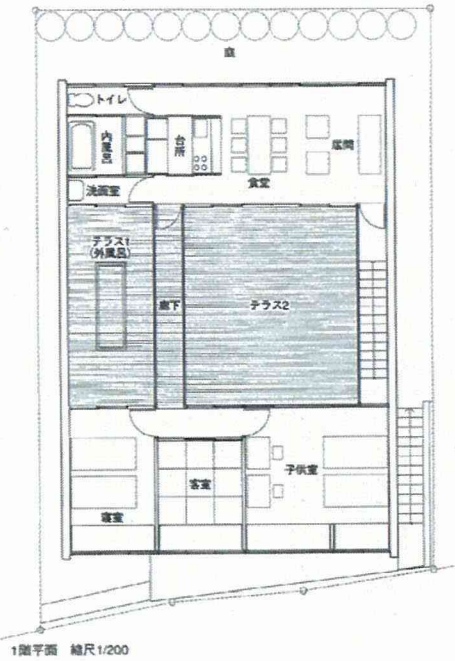


37

空をつかまえる家
手塚建築研究所
jt0011

収納の形式
囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C(k), R(w, bt)



1階平面 縮尺 1/200



38

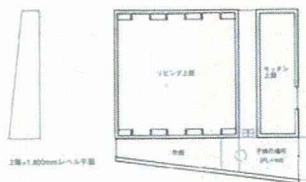
U&U HOUSE
塚田眞樹子
jt0011

収納の形式

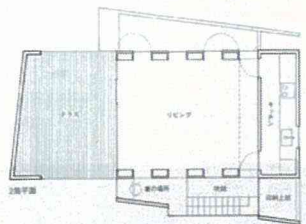
- a 片分
- b 片分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

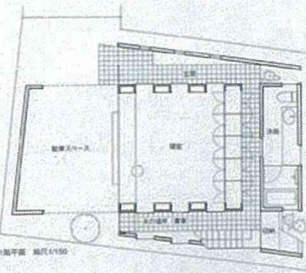
- C, R(w, bt)
- C, R(k)



1階×1,800mm×1,800mm平面



2階平面



3階平面 縮尺 1/100

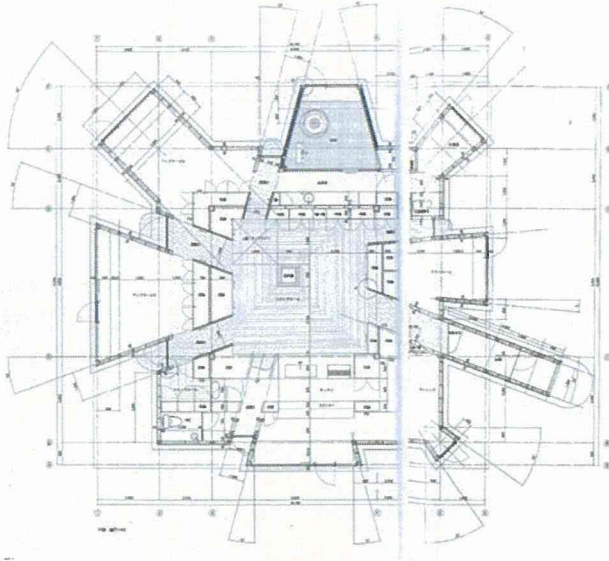


39

Pleats
FOBA
jt0101

収納の形式
分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C(k)



40

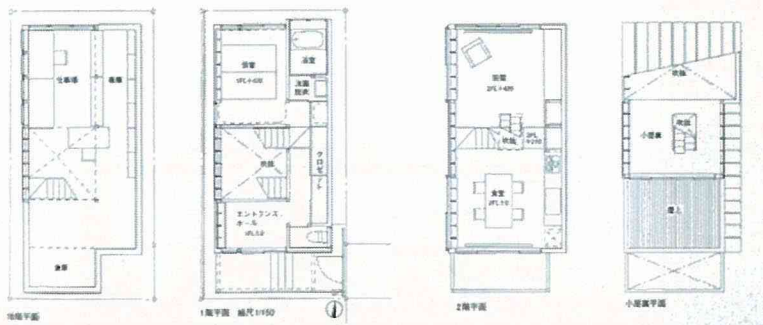
大和町の家
大塚聡
jt0102

収納の形式

- a 囲
- b 囲
- c 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S
- S, C
- S, C(k)



41

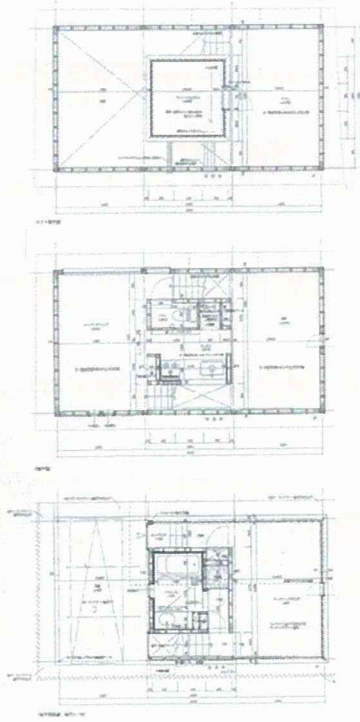
TN-HOUSE
北山恒
sk0102

収納の形式

- a 中
- b 中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(w,bt)
- R(w,k)



42

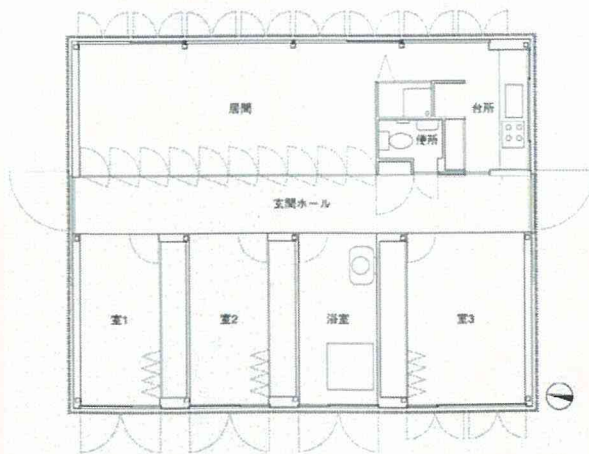
中山の住宅
山口誠
jt0103

収納の形式

- 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C



43

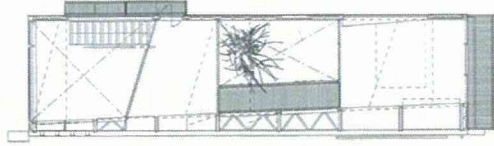
81.155.0032
河瀬行生
sk0104

収納の形式

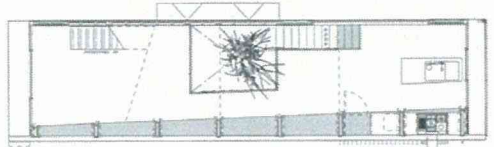
- a 片
- b 片
- c 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

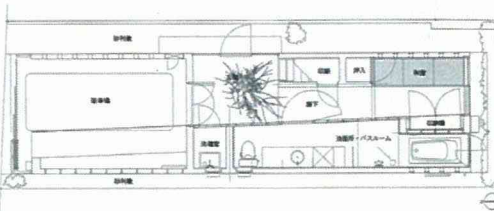
- R(w,bt)
- S(k)
- S



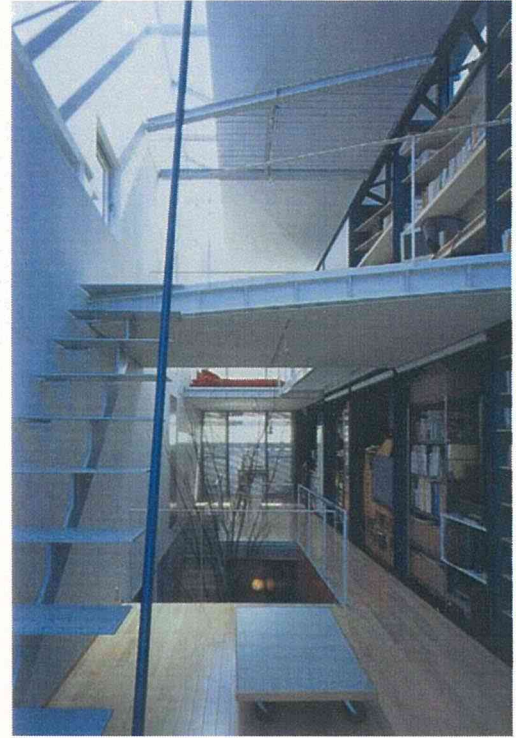
3階平面



2階平面



1階平面 縮尺 1/120



44

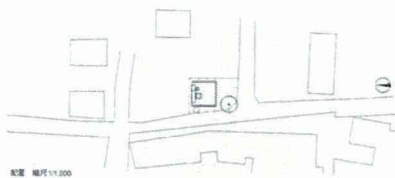
バルコニーの家
手塚建築研究所
jt0111

収納の形式

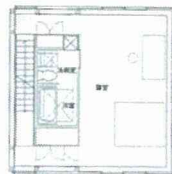
- a 中
- b 中
- c 中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

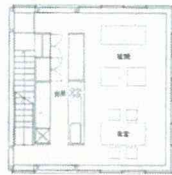
- R(k)
- R(k)
- R(w,bt)



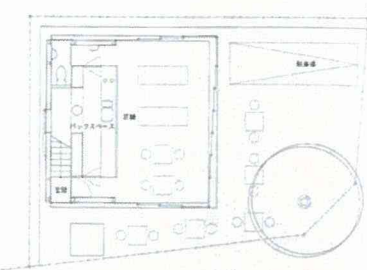
配置 縮尺 1/1,000



3階平面



2階平面



45

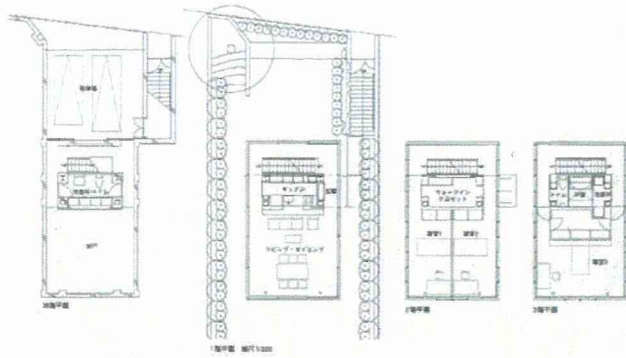
壁のない家
手塚建築研究所
jt0111

収納の形式

- a 中
- b 中
- c 中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(k)
- C, R
- R(w, bt)



46

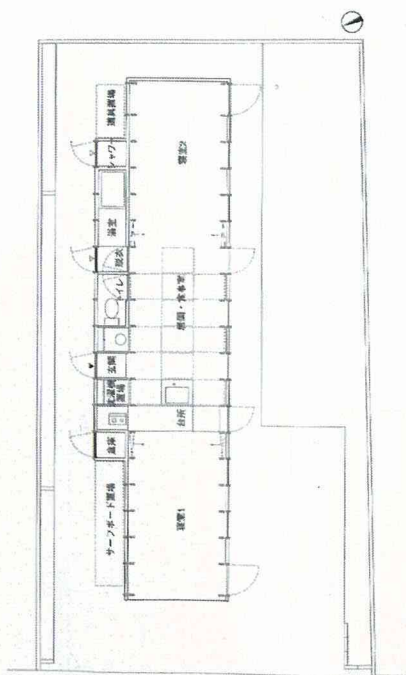
プライウッドキットハウス
八木敦司
jt0111

収納の形式

- 付

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C(w, bt)

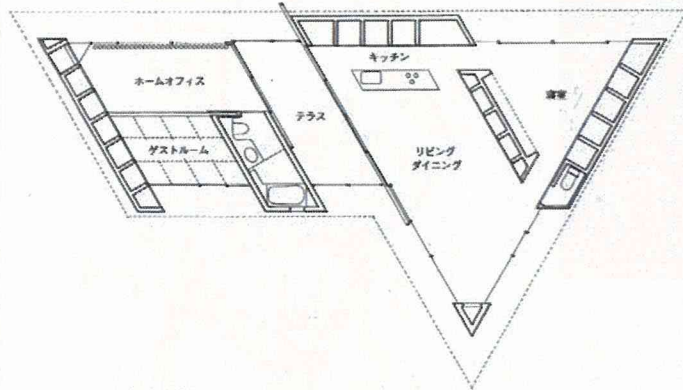


47

ベニヤ三角格子の家
坂茂
jt0201

収納の形式
囲,分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C, R(w,bt)



平面 縮尺 1/200



48

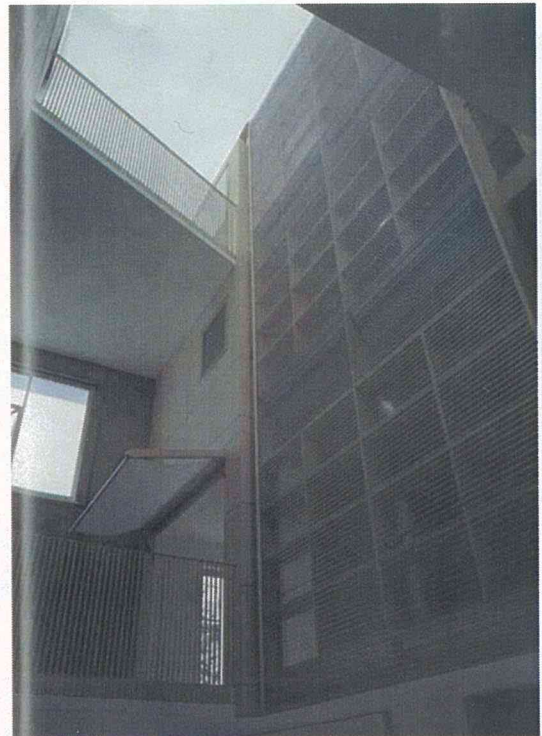
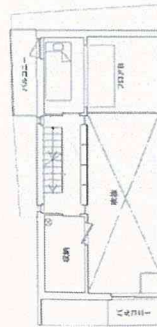
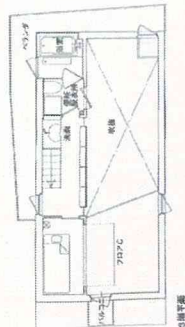
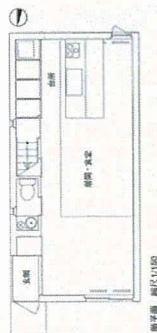
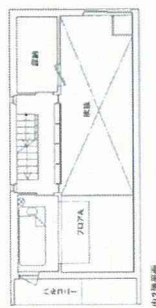
代沢M邸
CLIP
jt0201

収納の形式

- a 片
- b 片
- c 片
- d 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(w,st)
- R(st,bd)
- R(st,bd)
- R(w,bt,st,bd)

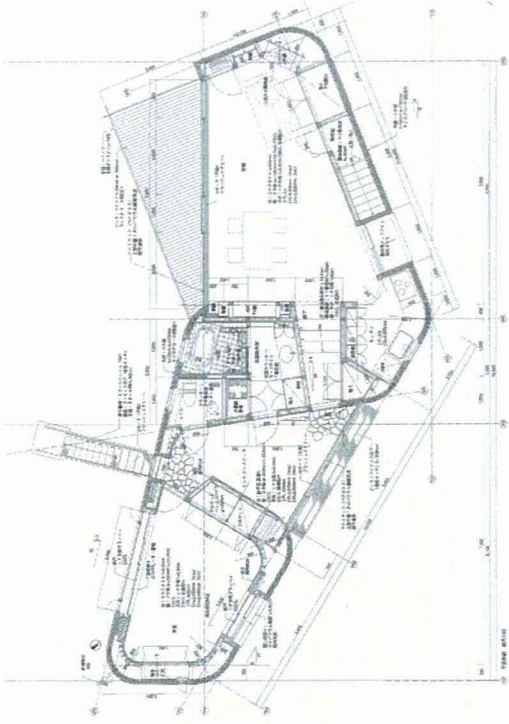


49

s house
ライフアンドシェルター社
jt0202

収納の形式
囲,分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C, R(w,k,bt,st)

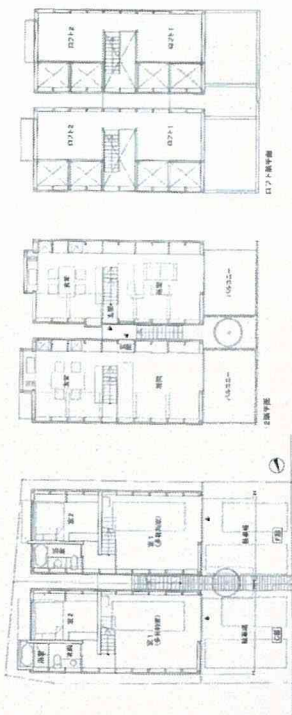


50

上目黒の住宅
藤岡新
jt0204

収納の形式
a 囲
b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
S, C
S, C(e)



51

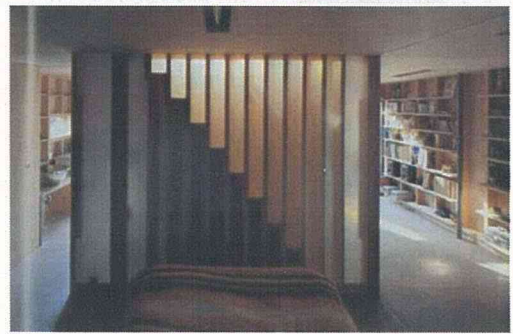
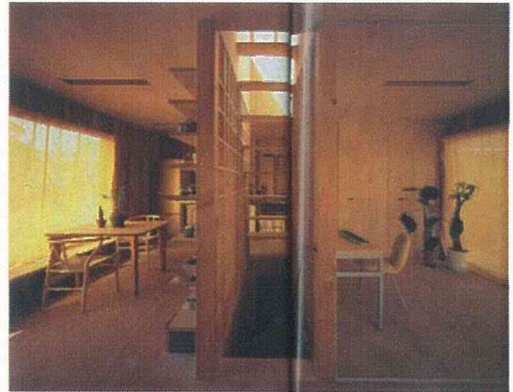
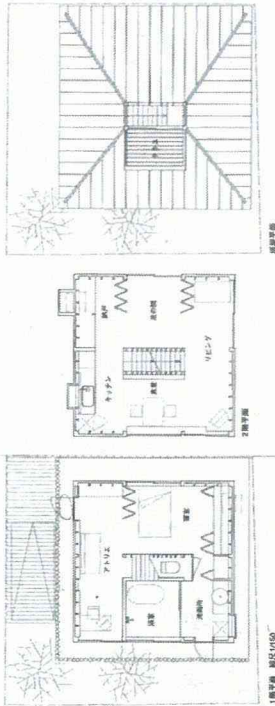
ダス・ハウス
アトリエ・ワン
jt0206

収納の形式

- a 囲,中
- b 囲,中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

S(w,st), C
S(k,st,f), C

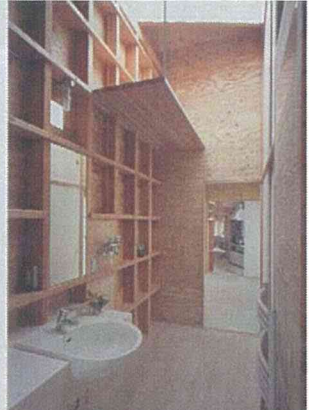
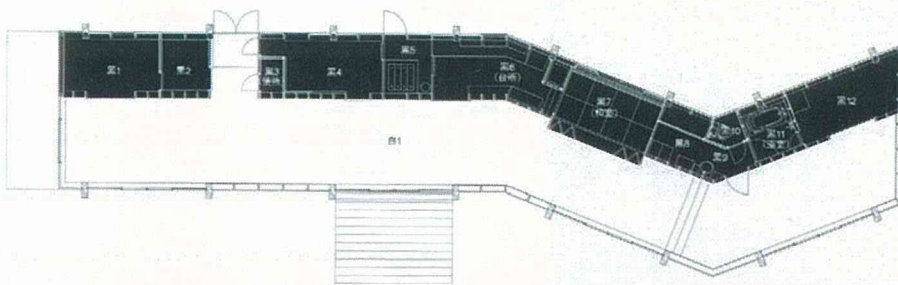


52

ヒムロハウス
小嶋一浩
jt0302

収納の形式
片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
R(w,bt,k,st,bd)

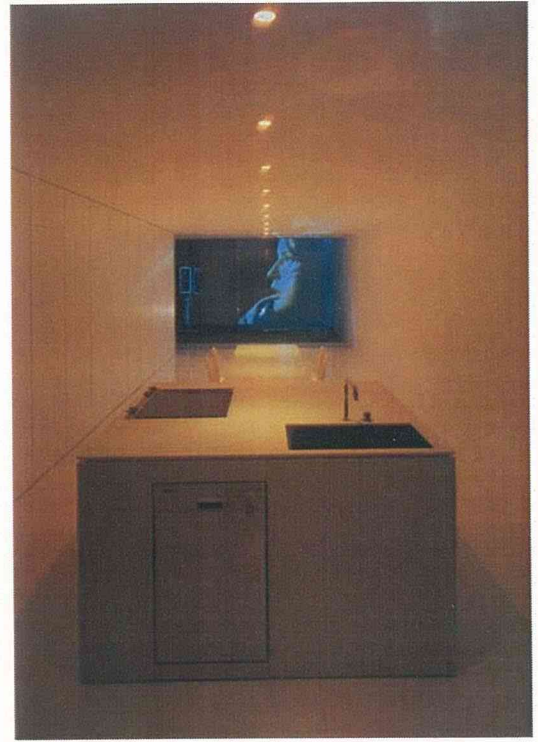
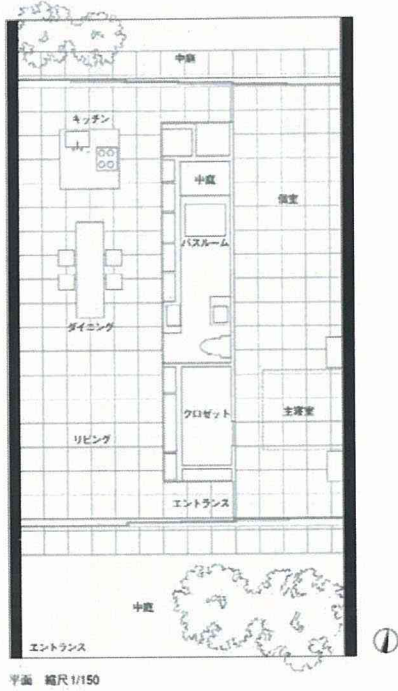


53

アブストラクトの家
小川晋一
jt0304

収納の形式
分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C, R(w,st)

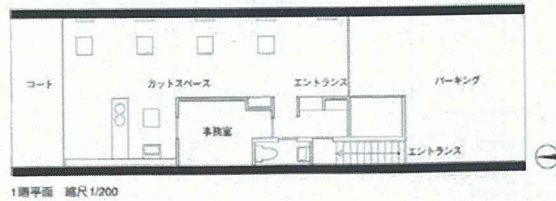
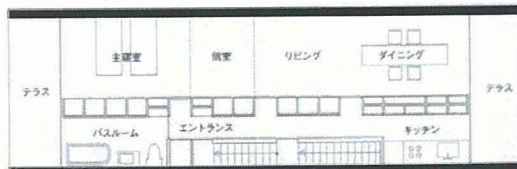
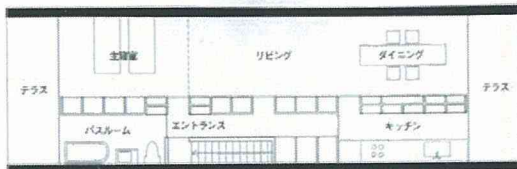


54

BARBUS
小川晋一
jt0304

収納の形式
a 分
b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C
C



55

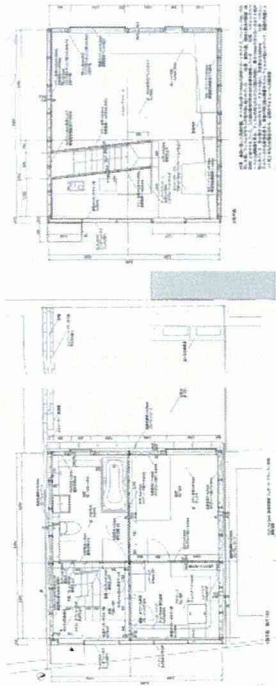
江東の住宅
佐藤光彦
jt0304

収納の形式

- a 分
- b ー

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R



56

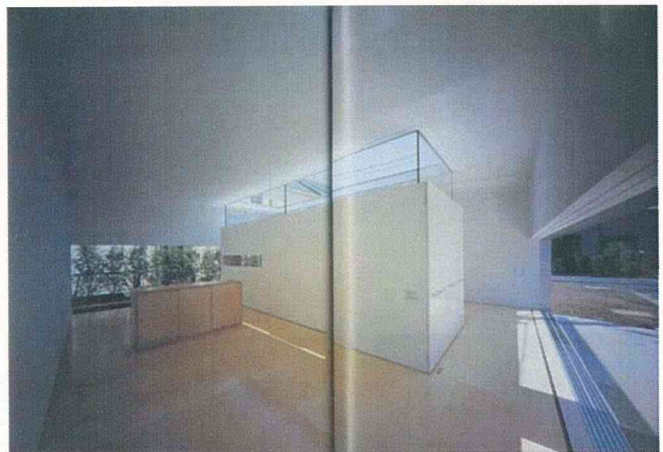
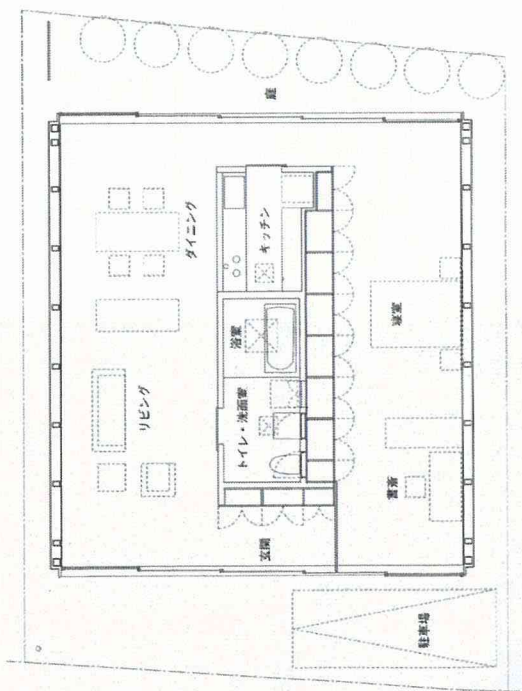
空をつかめる家Ⅲ
手塚建築研究所
jt0307

収納の形式

中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

C, R(w,k,bt)



57

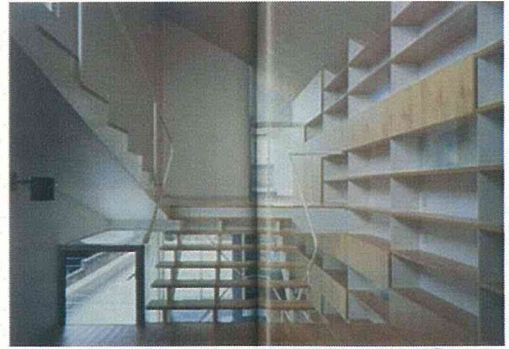
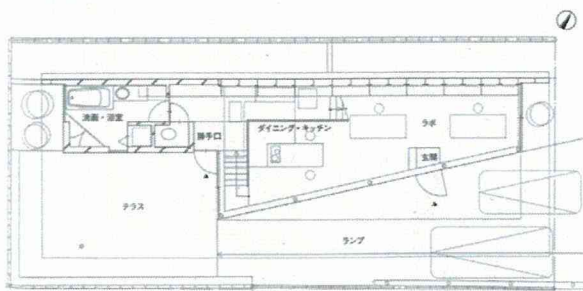
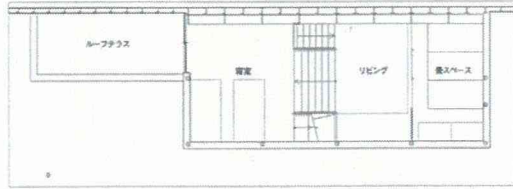
SoHo
宮本佳明
jt0309

収納の形式

- a 片
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S
- S



58

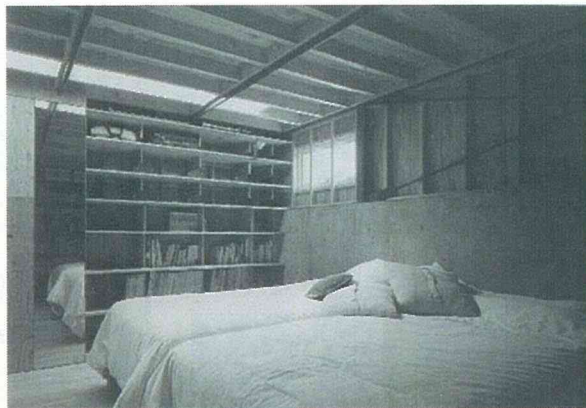
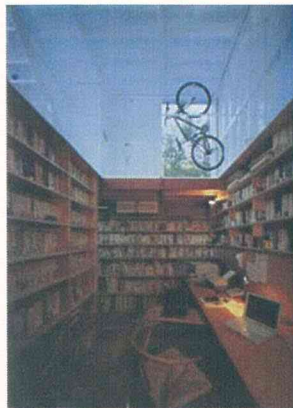
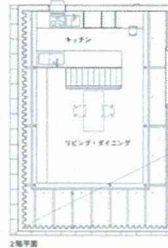
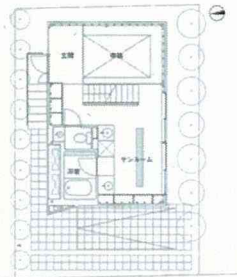
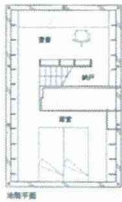
ガエ・ハウス
アトリエ・ワン
jt0310

収納の形式

- a 囲,分
- b —
- c —

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S(f), C



59

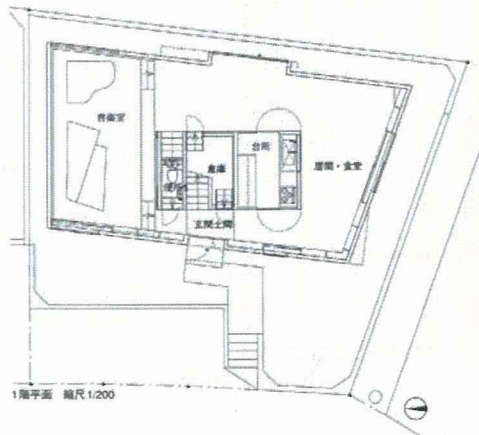
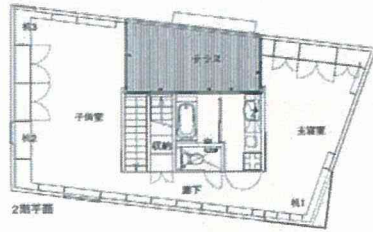
台形面の家
岩岡竜夫
jt0312

収納の形式

- a 囲,中
- b 囲,中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

S, R(w,k)
S, CR(w,bt)



60

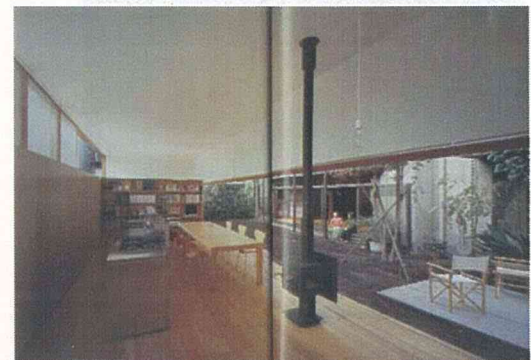
縁側の家
手塚建築研究所
jt0410

収納の形式

片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

C(e)



61

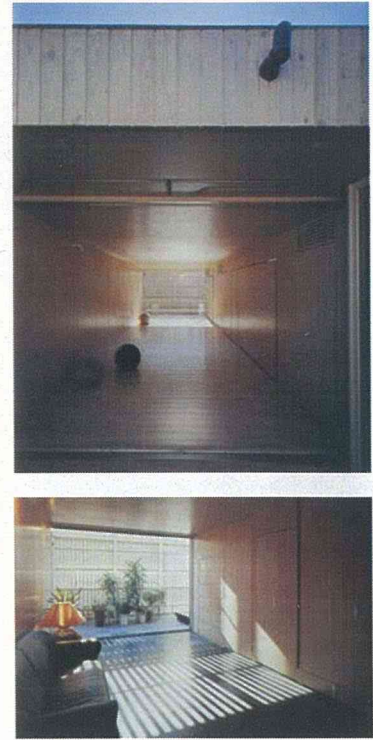
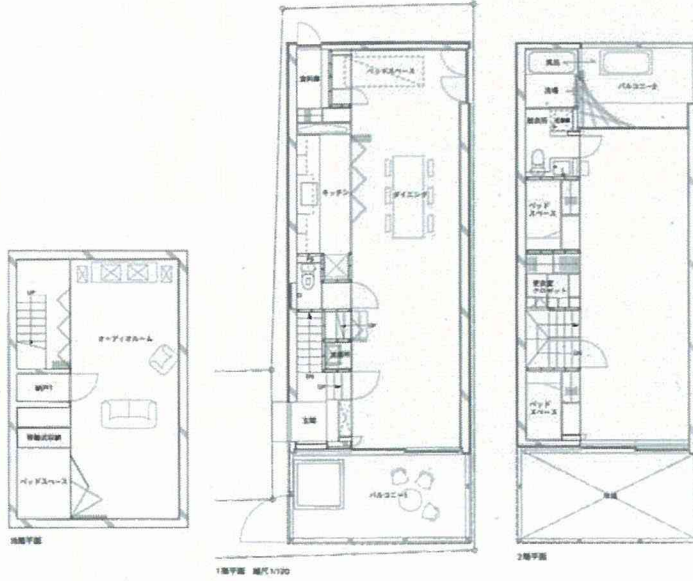
引き出しの家
nendo
jt0404

収納の形式

- a 片
- b 片
- c 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(st,bd)
- R(w,k,e,st)
- R(w,bt,st,bd)



62

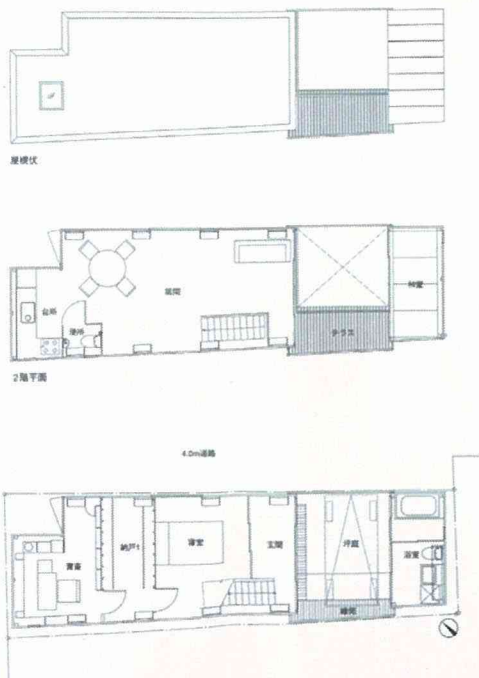
上原の住宅
みかんぐみ
jt0404

収納の形式

- a 囲,分
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S, R
- S, R



63

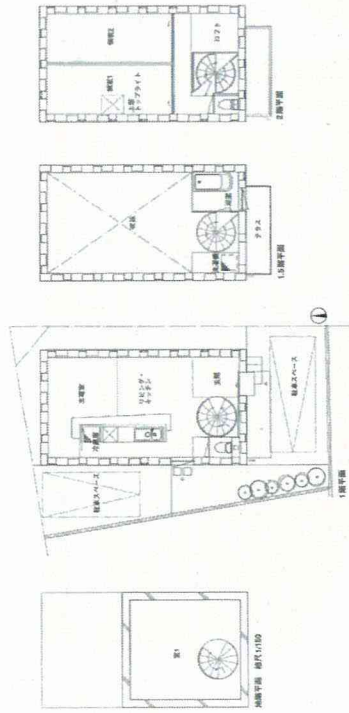
セルブリック
アトリエ天工人
jt0405

収納の形式

- a 囲
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S
- S



64

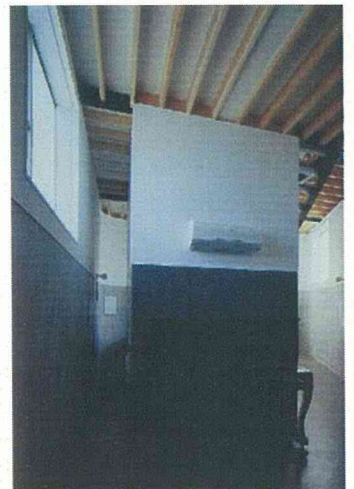
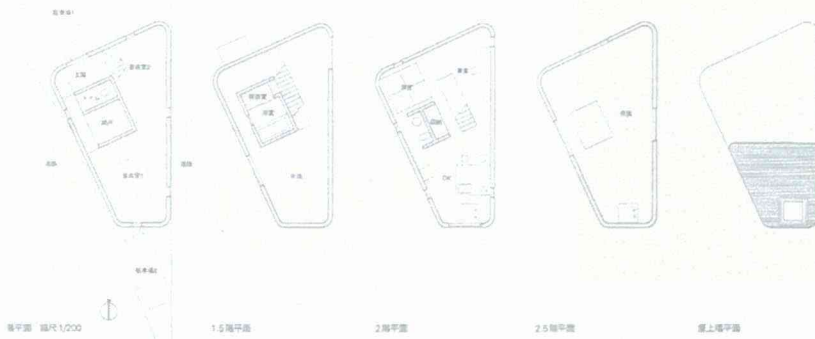
昭島のハウス
西沢大良
sk0411

収納の形式

- a 中
- b 中

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(w,bt)
- R(w)

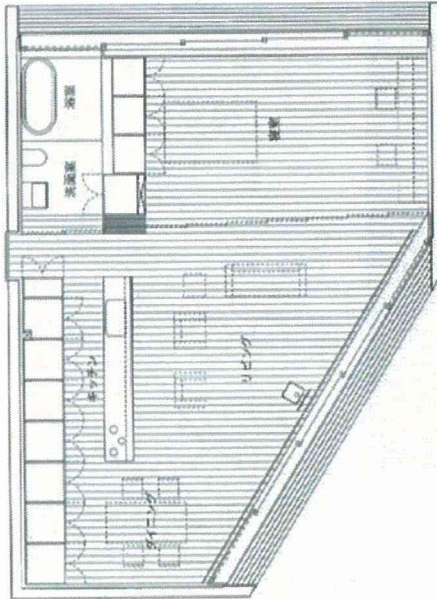


65

隅切りの家
手塚建築研究所
jt0501

収納の形式
片,分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C



66

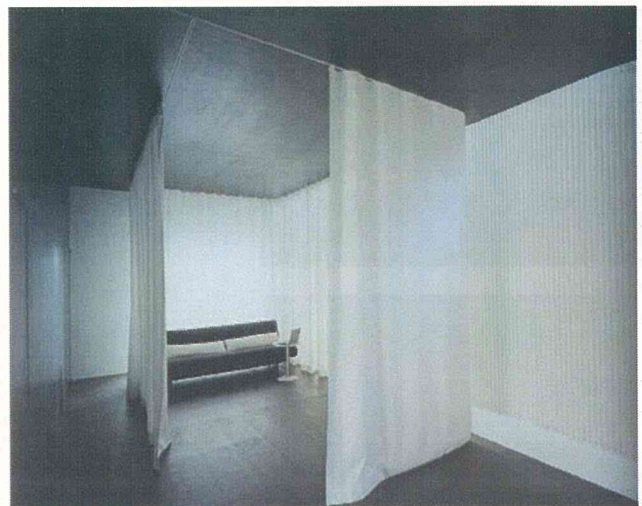
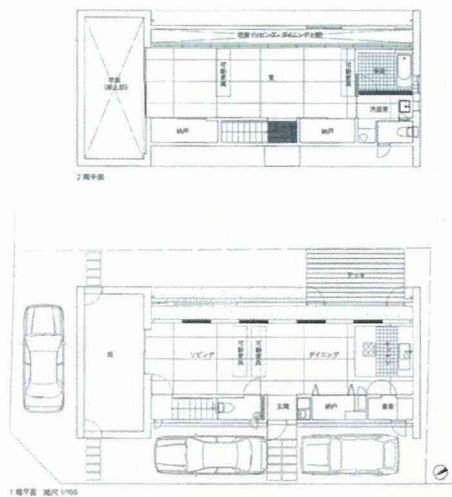
m/n house
studioKOZ
jt0504

収納の形式

- a 片
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- C(w)
- C(w)



67

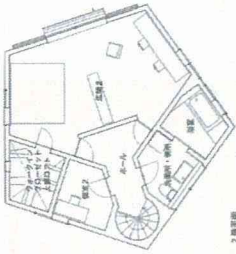
由比ヶ浜の家
堀部安嗣
jt0508

収納の形式

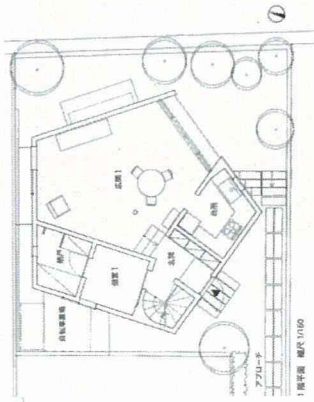
- a 片
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- R(k,e,st)
- R(w,bt,st)



2階平面



1階平面 縮尺 1/150



68

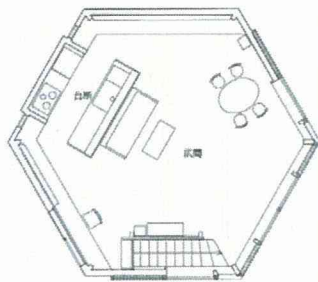
府中の家
堀部安嗣
jt0508

収納の形式

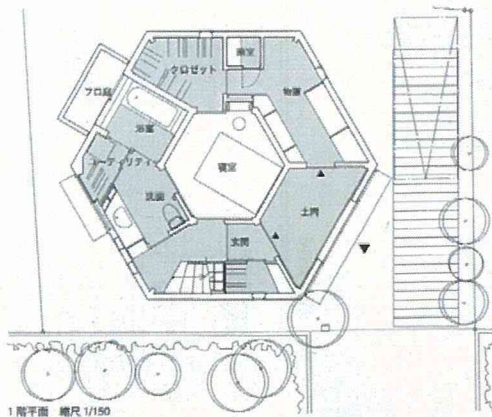
- a 囲
- b —

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

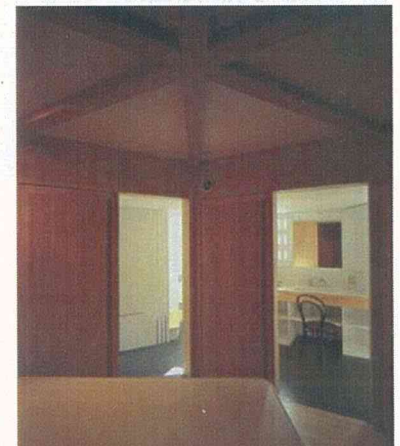
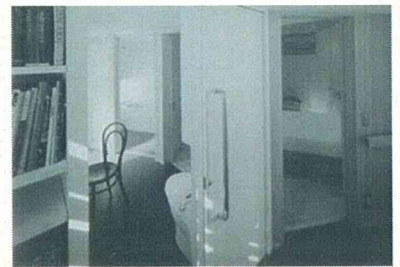
- R(w,bt,e,st)



2階平面



1階平面 縮尺 1/150

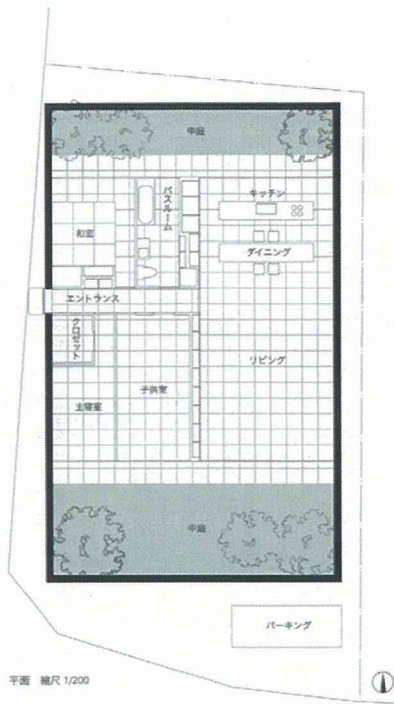


69

COURT HOUSE
小川晋一
jt0508

収納の形式
分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C

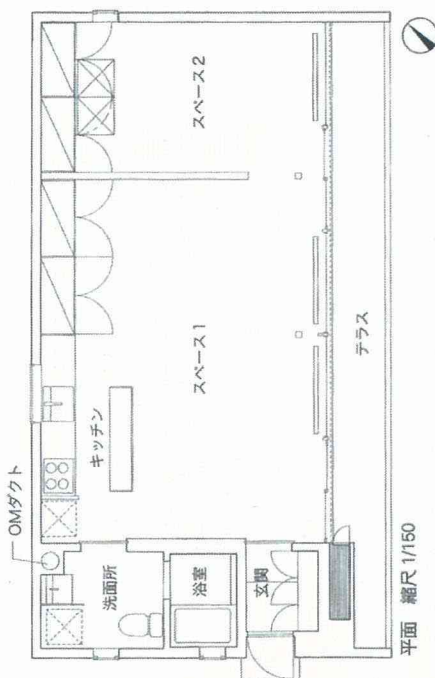


70

HAKKO
関本竜太
jt0509

収納の形式
片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C(k)



71

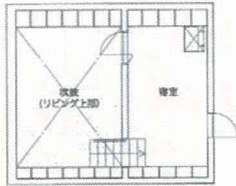
うなぎ001
千葉学
jt0509

収納の形式

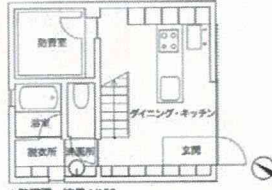
- a 囲
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

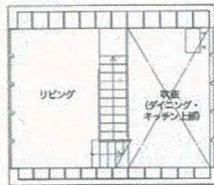
- S
- S



2b 階平面



1 階平面 縮尺 1/150



2a 階平面



72

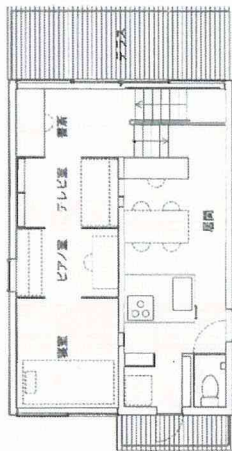
円山町のアトリエ付き住居
ワークショップ
jt0601

収納の形式

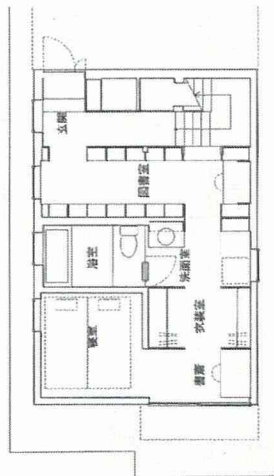
- a 片
- b 片
- c 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

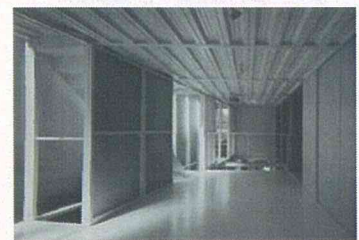
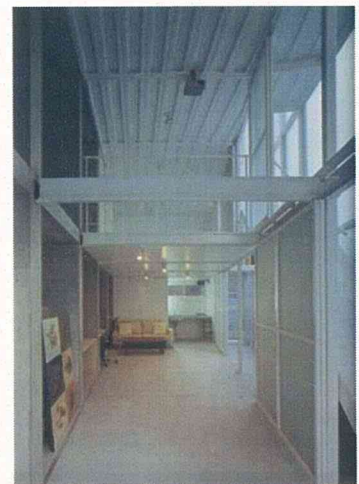
- S, C
- S, C
- S, C(w)



2 階平面



1 階平面 縮尺 1/150



73

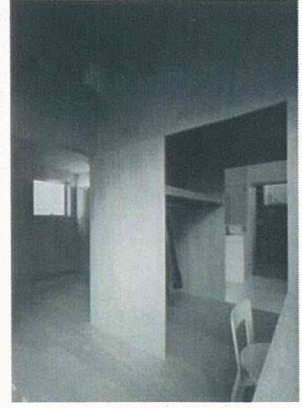
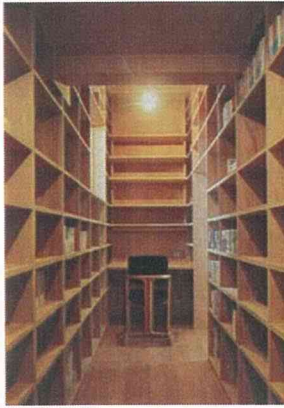
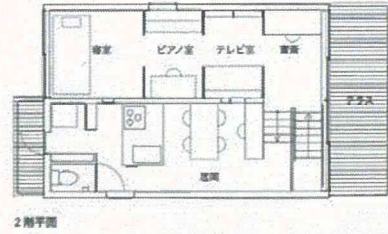
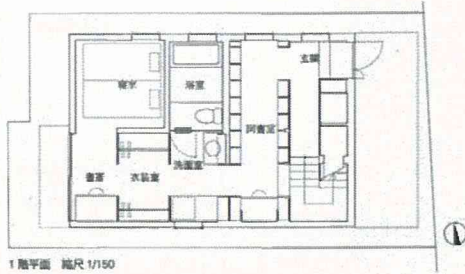
ガク・ハウス
アトリエ・ワン
jt0601

収納の形式

- a 分
- b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(w,f)
R



74

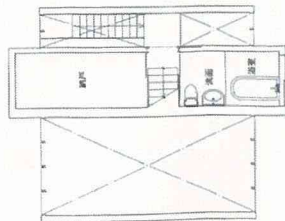
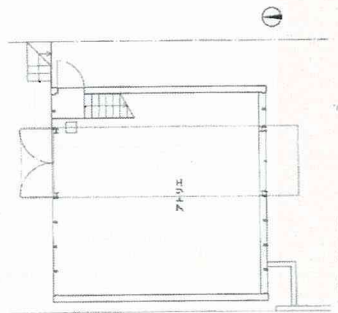
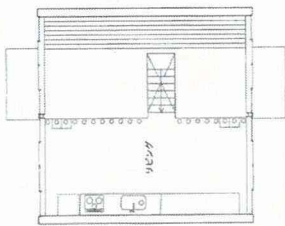
SET
渡辺康
jt0602

収納の形式

- a —
- b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(w,bt)



75

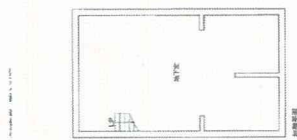
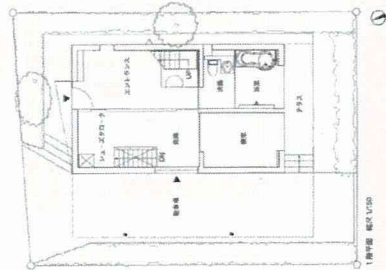
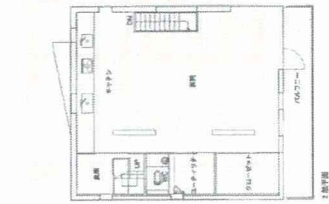
UNABO
古谷誠章
jt0603

収納の形式

- a ー
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(w,st)



76

uehiの家
nendo
jt0606

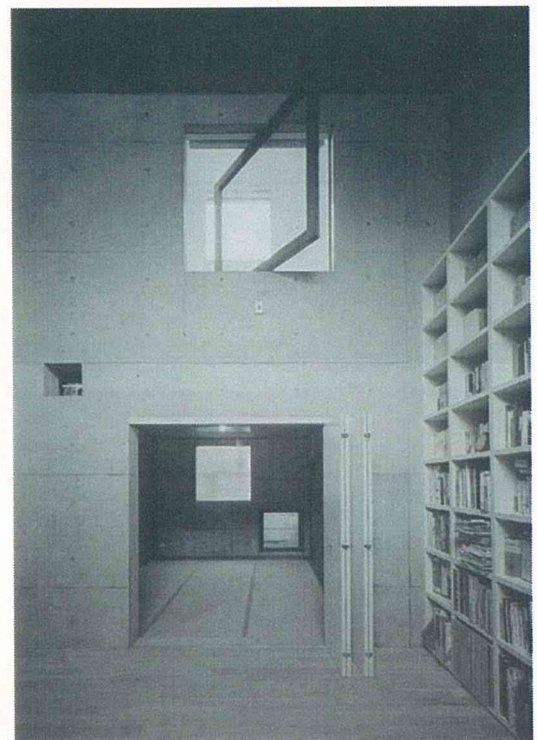
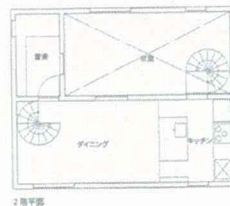
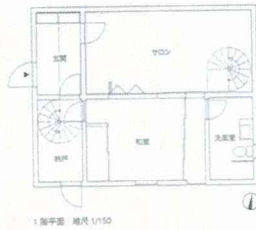
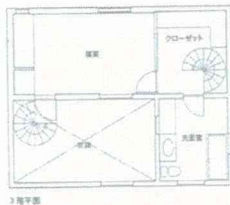
収納の形式

- a 分
- b ー
- c 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(st)

R(st)



77

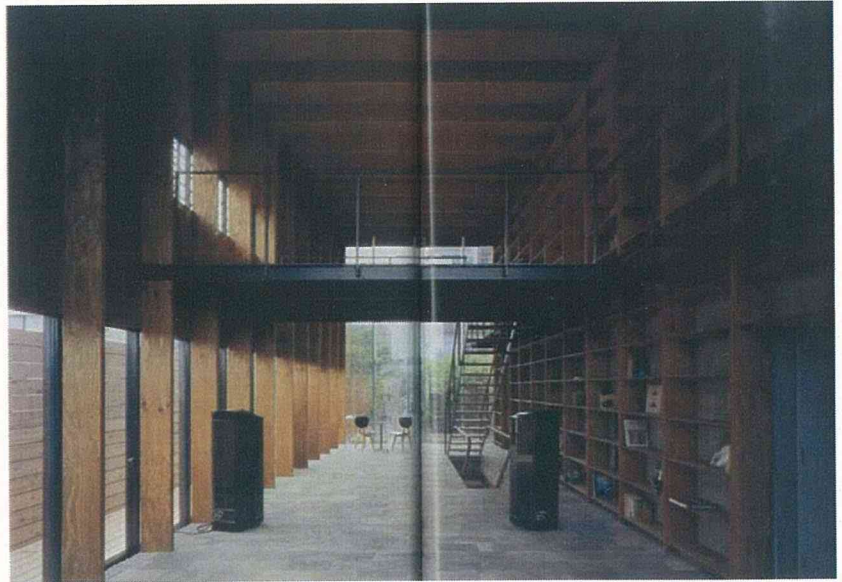
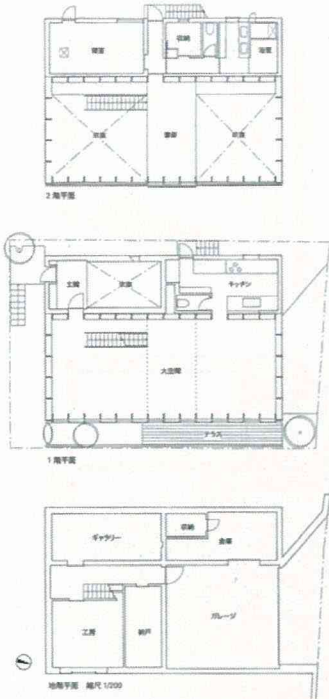
おおきな家
マウントフジ
jt0608

収納の形式

- a 分
- b 分

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

- S
- S

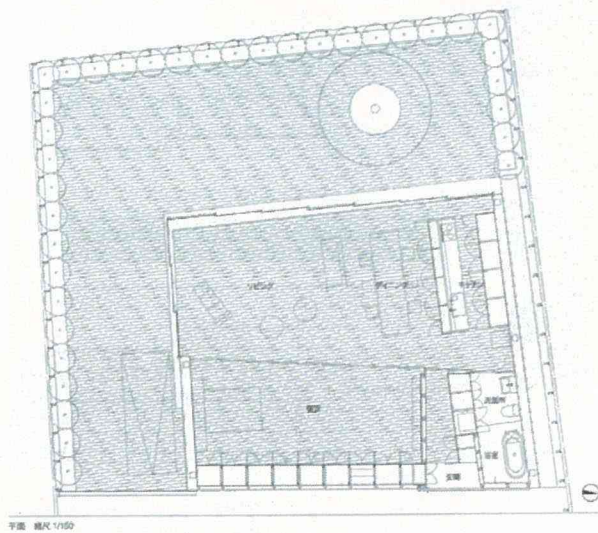


78

庇の家
手塚建築研究所
jt0610

収納の形式
片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)
C(e)



79

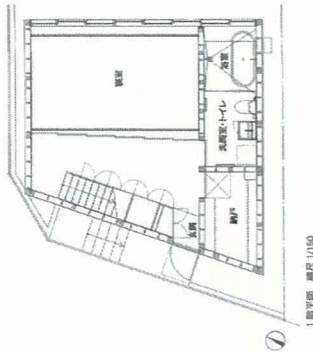
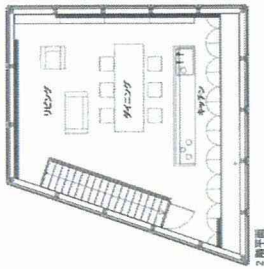
展望台の家
手塚建築研究所
jt0610

収納の形式

- a 片
- b 片

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(w,bt)
C



80

攻守の家
赤坂真一郎
jt0610

収納の形式

- a 囲
- b 囲

収納の種類 (収納に組込まれる要素)

R(w,bt,k)
R(bd)

